



KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

Vol. 62, 2023

Kobe City Hospital Organization

神戸市立病院紀要

令和5年 第62巻

神戸市立医療センター中央市民病院
神戸市立医療センター西市民病院
神戸市立西神戸医療センター
神戸市立神戸アイセンター病院

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

An Annual Review of
Medical Science and Practice

Kobe City Hospital Organization

EDITORIAL BOARD

Yutaka Takahashi, M.D., Chairman

Takayuki Ishikawa, M.D.

Syogo Shinohara, M.D.

Yutaka Furukawa, M.D.

Hiromi Tomioka, M.D.

Sanae Nakajima, M.D.

Kousaku Matsubara, M.D.

Ken Washio, M.D.

Yasuhiko Hiramami, M.D.

Keiko Ninomiya, Professor.

巻頭の辞

神戸市立病院紀要第 62 巻が刊行の運びとなりました。神戸アイセンター病院の栗本院長による緑内障における新しい疾患概念についての総説をはじめ、論文を投稿していただいた皆様に感謝いたします。また、令和 5 年度に神戸市民病院機構の各病院から発信された多くの学術研究発表がまとめられています。本紀要の刊行に携わっていただいた皆様のご努力に、敬意と感謝の念を表したいと存じます。

新型コロナウイルス感染症の流行期には学会発表の形態が大きく様変わりしました。学会場に足を運ばなくても、WEB 上で発表、視聴ができるようになりました。ある意味学会には参加しやすくなりましたが、十分な議論が尽くされているのかが疑問に思うことも多々ありました。最近では多くの学術集会对面で開催されるようになり、厳しく批判されることもあります。より自分の研究を客観的に捉えることが可能になったと思います。臨床で経験した知見、創意工夫を論文や学会発表を通して広く発信することは、医療者の責務と考えます。

神戸市民病院群の皆様には、この 3 年間の未曾有の新型コロナ災害を乗り越えて、臨床・研究においてさらに躍進できると確信しています。この紀要は、私たちの 1 年間の努力の賜物です。是非、神戸市立病院紀要に目を通して、神戸市民病院機構の立ち位置を確認し、さらなる高みを目指して欲しいと願っています。

神戸市立西神戸医療センター

院長 京 極 高 久

目 次

I. 総 説

- I. 1 原発閉塞隅角病 (PACD : Primary Angle Closure Disease)
.....神戸市立神戸アイセンター病院 院長 栗 本 康 夫..... 1

II. 原 著

- II. 1 ケースレポートからみえるA病院の看護の特徴
.....西市民病院 看護部 杉 原 陽 子 他..... 9

III. 実践報告

- III. 1 当院における終末期医療としての腹膜透析
.....中央市民病院 腎臓内科 高 田 風 他.....17

IV. CPC 報告

- IV. 1 CPC 報告 (2022 年 4 月 ~ 2023 年 3 月) (中央市民病院)25
IV. 2 CPC 報告 (2022 年 4 月 ~ 2023 年 3 月) (西市民病院)31
IV. 3 CPC 報告 (2022 年 4 月 ~ 2023 年 3 月) (西神戸医療センター)36

V. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(1) 笠原ガン治療研究事業

- V. 1 リツキシマブ・オビヌツズマブ投与歴のある血液疾患患者における BNT162b2、mRNA-1273
の 3 回目接種後の液性及び細胞性免疫反応に関する観察研究
.....中央市民病院 血液内科 西久保 雅 司.....45
V. 2 末梢血検体を用いた免疫表現型解析および血漿タンパク質/microRNA解析による免疫チェッ
クポイント阻害剤の有効性および副作用に関する biomarker 探索研究 (CIPHER 試験)
.....中央市民病院 腫瘍内科 永 井 宏 樹.....46
V. 3 蝶形骨洞原発悪性腫瘍 3 例の検討
.....中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 道 田 哲 彦.....51
V. 4 当院における耳下腺癌 42 例の臨床的検討
.....中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 道 田 哲 彦.....52
V. 5 術後気管皮膚瘻孔に対して局所陰圧療法を用いて封鎖した 1 例
.....中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 濱 本 文 美.....53
V. 6 甲状腺乳頭癌に対する放射線治療の 45 年後に腕頭動脈に壊死を来し治療に難渋した一例
.....中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 濱 本 文 美.....53
V. 7 舌白板症に対する切除生検 一病理診断と設定すべき安全域について一
(原著論文: 頭頸部癌第 47 巻 3 号 P. 311-315 に掲載)
.....中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 安 本 眞 美 他.....54
V. 8 一度治癒状態に持ち込めた甲状腺未分化癌患者 3 名の予後についての検討
.....中央市民病院 頭頸部外科 篠 原 尚 吾.....56

V. 9	甲状腺全摘術の基本的な手技	中央市民病院 頭頸部外科 篠原 尚吾	56
V. 10	局所進行鼻副鼻腔未分化癌に対して導入化学療法後に化学放射線療法を行い、Complete Metabolic Response (CMR) を得た2症例	中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 安本 眞美 他	57

(2) 松本アレルギー疾患研究事業

V. 11	全身性エリテマトーデスを中心としたリウマチ膠原病疾患の疾患活動性スコアの相関と治療介入・寛解達成の関連についての解析	中央市民病院 膠原病・リウマチ内科 住友 秀次	60
-------	--	-------------------------	----

(3) 片上臨床研究事業

V. 12	急速破壊型股関節症の関節破壊における Stat3 の関与の解明—抗 Stat3 薬剤の臨床応用に向けて	中央市民病院 整形外科 安田 義	62
V. 13	腹腔鏡手術中のデクスメトミジン先行投与による術後鎮痛効果に関する研究	中央市民病院 麻酔科 山下 博	65

(4) 医学振興事業

V. 14	経胸壁心エコー検査を用いた僧帽弁形成術後症例における心血管イベント予測指標の検討	中央市民病院 臨床検査技術部 鳥居 裕太	66
-------	--	----------------------	----

VI. 病院別診療科別論文発表及び学会報告数

VI. 1	中央市民病院	71
VI. 2	西市民病院	71
VI. 3	西神戸医療センター	72
VI. 4	神戸アイセンター病院	72

VII. 論文発表

VII. 1	中央市民病院	73
VII. 2	西市民病院	123
VII. 3	西神戸医療センター	126
VII. 4	神戸アイセンター病院	131

VIII. 学会報告

VIII. 1	中央市民病院	135
VIII. 2	西市民病院	210
VIII. 3	西神戸医療センター	219
VIII. 4	神戸アイセンター病院	233

I. 総

説

I. 総 説

原発閉塞隅角病 (PACD : Primary Angle Closure Disease)

栗本 康夫

神戸市立神戸アイセンター病院

要 旨

我が国における中途失明原因の第1位である緑内障は開放隅角緑内障と閉塞隅角緑内障に大別される。このうち原発性の開放隅角緑内障に対する根治的治療は存在せず治癒させることもできないので疾患管理が治療の基本となるが、原発閉塞隅角緑内障 (PACG) については早期に診断して適切に治療すれば事実上の治癒にもちこむことができる。一方で、PACGは適切な診療が行われなければ視機能の予後は悪く、失明リスクは開放隅角緑内障の3～5倍とされる。PACGは正しく診断して適切な治療を行うことが特に重要な病型であり、医療者の責務は重い。本稿のタイトルである原発閉塞隅角病 (PACD) はPACGの前駆病変を包含する新しい用語であるが、近年、国内外での緑内障の大規模疫学調査の知見や前眼部画像診断法の進歩によりPACDの病態への理解が進み疾患概念が大きく変更され、新たな用語の導入と共に分類や治療方針もアップデートされた。本稿では、今日におけるPACD診療のありかたについて概説する。

キーワード：失明、緑内障、原発閉塞隅角緑内障、原発閉塞隅角病、PACG、PACD

(神戸市立病院紀要 62 : 1 - 7, 2023)

Primary Angle Closure Disease

Yasuo Kurimoto, MD., PhD.

Kobe City Eye Hospital

Abstract

Glaucoma, the leading cause of blindness in Japan, is classified into open-angle and angle closure glaucoma. There is no curative treatment for primary open-angle glaucoma and, therefore, disease management is the basis of treatment. In contrast, if primary angle closure glaucoma (PACG) is not treated appropriately, the prognosis of visual function is poor, and the risk of blindness is three to five times higher than that of open-angle glaucoma. PACG is a particularly important subtype of glaucoma that must be diagnosed correctly and treated appropriately. Therefore, medical practitioners have a heavy responsibility in this disease. Primary angle closure disease (PACD) is a new term that encompasses the precursor lesions of PACG. Recently, findings from large-scale epidemiological studies of glaucoma in Japan and overseas as well as advances in anterior segment imaging have led to a better understanding of PACD pathogenesis and a significant change in the disease concept. Moreover, the classification and treatment strategies have been updated with the introduction of new terminology. This article outlines the current state of PACD treatment.

Key words : blindness, glaucoma, primary angle closure glaucoma (PACG), primary angle closure disease (PACD)

(Kobe City Hosp Bull 62 : 1-7, 2023)

はじめに

緑内障は我が国における中途失明原因の第1位であり、世界的にも白内障に次いで第2位となっている。一方で、緑内障は早期に診断して適切に治療すればほとんどの症例では治癒は得られずとも失明を防ぐことは出来る疾患でもある。特に緑内障のサブタイプである原発閉塞隅角緑内障は早期に診断して適切に治療すれば失明を防げるばかりでなく、根治すら得られる緑内障病型である。様々な診療科領域において緑内障禁忌薬が存在するが、そのほぼ全ては緑内障全体ではなく、閉塞隅角緑内障とその前駆病変が対象である。本病型の概要については、眼科医のみならず全ての医療従事者に広く理解していただきたい眼疾患と言える。

緑内障は眼房水の眼外への流出路の導入部が存在する前房隅角が開放しているか閉塞しているかで開放隅角緑内障と閉塞隅角緑内障に大別される。隅角が開放した状態で、他に眼圧上昇や視神経症の原因となる疾患や外傷など特段の要因なく緑内障を来す場合に原発開放隅角緑内障（POAG：Primary Open Angle Glaucoma）、また、二次的に隅角の閉塞を引き起こす他の疾患や外傷など特段の要因なく隅角閉塞が閉塞して緑内障に至るものを原発閉塞隅角緑内障（PACG：Primary Angle Closure Glaucoma）と呼ぶ。緑内障という用語は原則として網膜神経節細胞が変性する緑内障性視神経症（GON：Glaucomatous Optic Neuropathy）を伴う場合にのみ付与される用語である。本稿タイトルの原発閉塞隅角病（PACD：Primary Angle Closure Disease）とはPACGに加えて、隅角が閉塞しているあるいは閉塞するリスクが高いが、未だGONは発症していないPACGの前駆病変を含めた用語である。

古典的には緑内障は眼圧が異常に上昇する疾患と認知されていたが、近年、POAGでは眼圧は必ずしも高いわけではなく眼圧が正常な正常眼圧緑内障も多いと認識されるようになった。特に日本など東アジアではPOAGの大半が正常眼圧緑内障である^{1,2)}。したがって緑内障とは眼圧が高くなる眼の病気であると理解されていた古典的な概念は、今日では開放隅角緑内障においては通用しない。一方、閉塞緑内障は隅角の閉塞により眼圧が上昇するのが病気の発端であり、疾患の成り立ちから言って必ず眼圧の上昇を伴う。眼圧が異常に上昇する病気という古典的な緑内障の概念がストレートにあてはまる緑内障病型である。そして、閉塞隅角緑内障の病態においては隅角が閉塞しなければ眼圧は上昇しないので、緑内障の原因は明らかであり、それはすなわち隅角の閉塞である。したがって、PACDの診療においては隅角閉塞を正しく診断してこ

れを解消することが治療の第一義となる。

PACDは病初期に正しく診断して適切に治療すれば治癒させることが可能な緑内障病型である事を銘記されたい。

I. 疫学

20世紀後半に欧米で行われた複数のpopulation-basedの疫学調査では緑内障患者の約75%-95%がPOAGによるとされ、POAGの問題が浮き彫りとなった^{3,4,5,6)}。その一方、PACGはPOAGに比べて有病率が低く比較的稀な緑内障病型とされていた^{3,7,8)}。こうした疫学調査の結果、そしてレーザー周辺虹彩切開術（LPI:Laser Peripheraal Iridotomy）の普及もあって20世紀後半の一時期にはPACGは概ね解決済みの緑内障病型であるという考えが先進国では共有されていたように思う。

一方では、グリーンランドやカナダのエスキモーでは白人の疫学調査と比較してPOAGの有病率が少なくPACGの有病率が非常に高く失明の大きな原因となることが示されており^{9,10)}、このことから人種的にエスキモーと同じモンゴロイドが居住するアジア地域での疫学調査の必要性が提議されるようになった¹¹⁾。

そして20世紀末から21世紀初頭にかけてアジアの各地で疫学調査が行われた結果、アジアにおいてはPACGの有病率が高くPACGはPOAGに比べて失明率が高いハイリスクな緑内障病型であることが明らかとなった¹²⁻¹⁹⁾。PACGの失明リスクはPOAGのそれの3倍²⁰⁾から5倍¹⁸⁾ともされ、アジアにおける失明の最大の原因とみなされるようになった。

幾多の疫学調査の結果から、PACG発症のリスク因子として、全身的には、高齢、モンゴロイド、女性、低身長、眼球については、遠視、短眼軸、浅前房などが知られている²¹⁾。

II. 分類

PACGは発症や病状進行の速度に基づく分類（急性、慢性）や隅角閉塞機序に基づく分類（瞳孔ブロック緑内障、プラトー虹彩緑内障）など、何に着目するかでいくつかの分類の方法がある。近年は、疫学調査で用いるためにInternational Society of Geographical and Epidemiological Ophthalmology (ISGEO) が提唱したAIGS (WGA) 分類²¹⁾が一般的である。これはPACGとその前駆病変を、原発隅角閉塞による眼圧上昇がありGONを発症しているPACG、そして隅角閉塞による眼圧上昇をきたしてはいるが未だGONは発症していないPrimary Angle Closure (PAC)、機能的な隅角閉塞はあるが器質的隅角閉塞は認めず、眼圧上昇もきたしていないPrimary angle

Closure suspect (PACS) の三つに分類したものである。これは原発隅角閉塞の natural history に即した病期分類と言える。この分類から派生して、急激かつ高度な眼圧上昇を来す場合には Acute PAC (APAC) という用語も使われ、眼圧の上昇が軽度もしくは中等度で慢性的な経過をとる場合には Chronic PAC (CPAC) あるいは Chronic PACG (CPACG) という用語も用いられる。また、こうした原発性の閉塞隅角の各病態を含める包括的な用語として“PAC”という呼称が一般に頻用されていたが、ステージ分類としての PAC と紛らわしいために、最近では、PACG、PAC、PACS の全てを含め原発性の閉塞隅角の各病態を包括する用語として原発閉塞隅角病 (PACD: Primary Angle Closure Disease) という用語が提唱され、定着しつつある。表 1 に AIGS 分類と本邦での分類の対応をまとめた。わが国における AIGS 分類への用語の対応は逐次的に行われたので、過去の文献などを読む際にはどの時期の用語を用いているのかに留意する必要がある。

Ⅲ. 隅角閉塞のメカニズム

古典的には PACG において隅角閉塞をきたすメカニズムはほとんど瞳孔ブロックであると考えられていたが²²⁾、UBM (超音波生体顕微鏡) 等の画像診断の登場により、瞳孔ブロック以外のメカニズムが関与する症例も決して少なくないことが認知されるに至った^{23,24)}。

そして 2006 年に上梓された AIGS 分類では隅角閉塞のメカニズムを 4 つ (瞳孔ブロック、プラトー虹彩形状、水晶体因子、悪性緑内障因子) (図) に分けることが提唱されており、これがグローバルスタンダードとなっている。このうち第 4 のメカニズム、悪性緑内障因子については、かつては続発閉塞隅角とみなされていた隅角閉塞メカニズムであるが、特段の他の要因がない場合には primary mechanism と見なされるようになった。PACD における悪性緑内障メカニズムを引き起こす解剖学的要因として、毛様体ブロック、潜在的な脈絡膜剥離ないしは脈絡膜容積の増大などがあげられている^{21,25)}。

これらの 4 つのメカニズムは実際の症例においては混在している場合が多く、複数のメカニズムが同時に作用してマルチメカニズムとして隅角閉塞をきたしている症例が大半を占める²³⁾。特に瞳孔ブロックについては瞳孔ブロック力の駆動力として瞳孔部における水晶体による虹彩の前方への圧排が主である。したがって、瞳孔ブロックメカニズムにはそもそも水晶体因子が常に背景にあると言える。これは後述する治療において水晶体摘出術の効果を考える際に考慮すべき点である。

Ⅳ. 診断

本病型の診断の要諦は隅角の閉塞の有無、あるいは閉塞するリスクを正しく判定することにある。PACG は必ず眼圧の上昇を伴う緑内障病型ではあるが、眼圧の変動は大きく、常に眼圧が高いわけではないので、診断を眼圧に頼ることはあってはならない。隅角および隅角をめぐる前眼部構造の評価が診断の決め手となる。

診断の手順としては、まずスクリーニング検査として細隙灯顕微鏡にて van Herick 法を行う。van Herick 法で AC/CT (前房/角膜厚) 比が 1/4 もしくは 1/3 以下であれば隅角鏡検査を行い、隅角所見が PACS か PAC に相当するかどうかを判定する (表 1)。PACS もしくは PAC と判定されたら、さらに眼圧と眼底所見および視野を評価して上記の AIGS 分類 (表 1) に従って PACS/PAC/PACG のいずれであるかを判定して診断と病期を確定する。

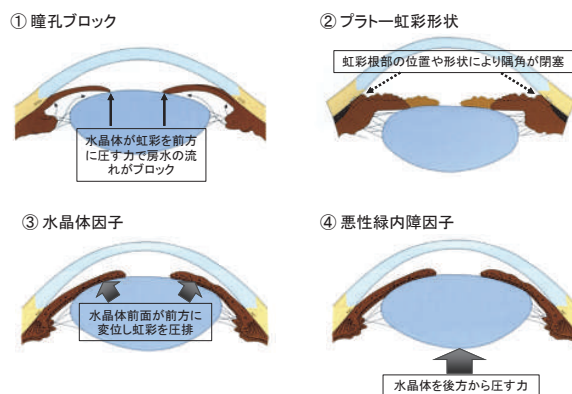
さらに治療方針を策定するにあたっては、個々の症例において隅角閉塞のメカニズム (図) を判定しておくことも重要である。診断に際しては、前眼部画像診断も行って隅角閉塞のメカニズムを判定しておくことが有用である。

表 1. 原発閉塞隅角症の分類: 国際分類 (AIGS 分類) と対応する本邦の分類の変遷

AIGS 分類 (Foster PJ, BJO 2002)	定義	緑内障診療ガイドライン・初版 (2003)	緑内障診療ガイドライン・第 2 版 (2006)	緑内障診療ガイドライン・第 3 版 (2012)	緑内障診療ガイドライン・第 4 版 (2017)	緑内障診療ガイドライン・第 5 版 (2022)	
Primary angle closure suspect (PACS)	隅角鏡検査にて、縦柱帯後部が 270° 以上にわたって見えな			原発閉塞隅角症疑い	原発閉塞隅角症疑い	原発閉塞隅角症疑い	原発閉塞隅角病 Primary angle closure disease (PACD)
Primary angle closure (PAC)	隅角鏡検査にて、狭隅角に起因する周辺虹彩癒着 (PAS)、高眼圧、および縦柱帯への著しい色素沈着等の所見を認める。GlaucomaTecken 等、急性発作の既往所見を認める。	原発閉塞隅角緑内障	原発閉塞隅角症	原発閉塞隅角症	原発閉塞隅角症	原発閉塞隅角症	
Primary angle closure glaucoma (PACG)	緑内障性視神経症を伴う PAC。	原発閉塞隅角緑内障	原発閉塞隅角緑内障	原発閉塞隅角緑内障	原発閉塞隅角緑内障	原発閉塞隅角緑内障	

*近年、180° 以上とするのが適切とする研究者や文献が増え、現在は 180° (2象限) 以上とするのが標準となっている。

図. 隅角閉塞のメカニズム



V. 治療適応

上述の PACS/PAC/PACG の分類は PACD の病期分類でもある。病期が異なれば治療適応も異なるので、症例の病期に応じて治療適応を検討することが必要である。

PACS は機能的隅角閉塞の存在が想定されるが、未だ明らかな眼圧上昇は認めていない状態である。GON やその原因となる眼圧上昇等の病変そのものは始まっていない。2003 年に発表された PACS に対して経過観察を行った南インドの報告²⁶⁾では 5 年間に PACS の 22% (11/50 眼) が PAC へ進行し、この間に APAC 発症と PACG への進行はゼロと報告され、PACS は経過観察し PAC に進行したら治療とするのが妥当とディスカッションされている。PACS は原則として注意深く経過観察を行い PAC に進行すれば治療を検討するのが妥当ということになるが、この報告では APAC への進行はゼロとされているものの、実際には PACS から APAC を発症する場合もあり、リアルワールドではまた全ての症例に対して適切な経過観察ができるわけではないので、PACS が PAC あるいは PACG に進行するのが見逃されるリスクもある。したがって PACS と診断されれば全ての症例に対して APAC や PAC への進行を予防するために外科的治療を行うべきという考え方も有り得る。これについては、近年、2 つの randomized controlled trial (RCT) の結果が報告された。中国から報告された ZAP trial では PACS 眼を対象に無作為に片眼を LPI 治療、僚眼を経過観察として 6 年間の経過観察をおこなったところ、PAC ないし APAC の発症率は経過観察眼で多い傾向を認めたが、APAC の発症には統計学的有意差を認めず。PAC への進行についても眼圧上昇の頻度には有意差がなく、有意差を認めたのは PAS (周辺虹彩癒着) 形成のみであった。また PAC への進展する率は 1000 眼あたり LPI 眼で 4.19、経過観察眼でも 7.97 と低かった²⁷⁾。少し遅れてシンガポールから報告された RCT²⁸⁾もほぼ同様の結果で、これらの結果からどちらの報告においても、全ての PACS に一律に治療介入を行う事は推奨しないとの結論となった。

一方、PACS の中でも APAC の発症リスクが高い症例に対しては予防的治療が望ましいと考えられるが、APAC の発症リスクを予め見積もることは必ずしも容易ではない。1962 年に Lowe は APAC の僚眼を無治療で経過観察すると 50% で APAC を発症し、その約 3 分の 1 は 1 年以内での発症であったと報告しており²⁹⁾、伝統的に APAC の僚眼は予防的治療の適応とされてきた。一方、近年の前眼部画像診断機器の進歩に

伴い、前眼部の形状から APAC のリスクを見積もるという試みもある。前眼部 OCT (光干渉断層計) を用いた APAC 眼と僚眼の前眼部形状の比較検討において、中心前房深度の浅さが最も APAC 発症への関与が強く、APAC 発症眼では 1.63mm、僚眼は 1.91mm であったとのシンガポールからの報告がある³⁰⁾。日本人の PACD 眼を対象とした前眼部 OCT の検討では、APAC 発症の形態的リスクとして中心前房深度 1.7mm 未満という値が感度 82.4%、特異度 91.7% (area under the curve 0.931) をもって報告されている³¹⁾。現状では、PACS は原則として経過観察し、APAC の僚眼や著しい浅前房眼など APAC 発症リスクが高い症例に対しては治療介入を行うべきと考えるのが妥当であるが、その適応については十分なエビデンスがそろっていないとは言えない。

PAC は既に隅角閉塞による眼圧上昇をきたしている状態である。南インドで 5 年間の PAC の自然経過 (治療拒否) にて 28.5% が PACG に進行したと報告されており、これは既に LPI を施行されている症例も含まれているのでそれを除けば、36.8% (7/19 眼) が PACG へ進行したことになる³²⁾。PAC は原則として治療介入を行うべきと言える。ただし、後述するように治療の第一選択がレーザーや観血手術等侵襲を伴う治療であることを鑑みると、PACS 所見に加えて狭い範囲に PAS を認めるものの眼圧上昇を認めない PAC 症例についても直ちに手術を行うべきかについては必ずしもコンセンサスがあるとは言えない。

PACG は治療が必要。PACG は緑内障のサブタイプの中でも失明リスクが高い病型なので徹底的な治療が必要である。

VI. 治療方法

PACD の治療の第一義は隅角閉塞の解除あるいは閉塞を起こすリスクの除去である。この目的を達するためには原則として外科的な治療が第一選択となる。

隅角閉塞は機能的閉塞と器質的閉塞の二態に分けられるが、PACD においては機能的閉塞が先行し器質的閉塞に至ると考えられている³³⁾。したがって、機能的閉塞の解除が治療の第一義であり、これを達成する治療が原則として第一選択となる。

機能的隅角閉塞を引き起こすメカニズムは上述のように、瞳孔ブロック、プラトー虹彩形状、水晶体因子、悪性緑内障因子の 4 つに分類されている。PACD の隅角閉塞メカニズムは症例によって異なるが、複数のメカニズムが複合的に関与している場合が多い。治療方法の選択にあたっては、症例毎に異なる隅角閉塞のメ

カニズムに有効な方法を選択する必要がある。例えば、長年にわたって PACD の第一選択をされてきた LPI は瞳孔ブロックに対しては強力な治療方法であるが、プラトー虹彩メカニズムには理論的に無効である。したがって、瞳孔ブロックを伴わないプラトー虹彩メカニズムによる隅角閉塞に対して LPI を選択する合理性はない。

機能的隅角閉塞を解除する治療の選択肢としては、レーザー周辺虹彩切開、レーザー隅角形成、レーザー虹彩形成、観血的周辺虹彩切除、水晶体摘出、等が挙げられる。これらの治療法とその適応となる隅角閉塞メカニズムの対応を表 2 にまとめた。

表 2. 隅角閉塞メカニズムと有効な治療方法

	瞳孔ブロック	プラトー虹彩形状	水晶体因子	悪性緑内障因子
レーザー虹彩切開術	◎	×	×	×
レーザー隅角形成術	×～○	○	×	×
水晶体摘出術	◎	○	◎	×～?

◎: 著効、○: 有効、×: 無効

機能的隅角閉塞には複数のメカニズムが関わっている症例も多い。全ての隅角閉塞メカニズムに対してオールマイティに有効と言える治療方法はないが、現有オプションの中では水晶体摘出が狭隅角の開大効果が強力で³⁴⁾、カバーするメカニズムが多い。現状では、最もオールマイティに近い治療方法と言えよう。長年にわたって PACD のゴールドスタンダード治療とされてきた LPI 後も続く高眼圧症例に対しても水晶体摘出術の有効性が報告されている³⁵⁾。そうした報告を受けて症候性白内障を有する PACD に対しては水晶体摘出術が第一選択治療であると概ね認知されるに至っていたが、透明水晶体眼の PACD に対して水晶体摘出術を適用することの是非は議論の的であった。

しかし、その後 APAC に対する透明水晶体摘出と LPI を比較する RCT において水晶体摘出術の優位性が示され³⁶⁾、さらに近年、PACG と高眼圧を伴う PAC を対象に透明水晶体眼に対する LPI と水晶体摘出術の多国籍大規模 RCT の結果も発表され水晶体摘出術の優位性が示された³⁷⁾。また、水晶体摘出術後 10 年間にわたる長期の有効性も示されている³⁸⁾。今日において、PACG や眼圧の高い PAC など治療適応が明らかな PACD 症例に対しては水晶体摘出が第一選択治療と考えるべきであろう。

機能的隅角閉塞に対して適切な治療を行って機能的隅角閉塞メカニズムを解消しても器質的隅角閉塞が広

範に存在すれば眼圧の下降が得られない場合が多い。必要に応じて器質的隅角閉塞を解除する手術を追加するか、予め器質的隅角閉塞が広範に存在していることがわかっている症例では、機能的隅角閉塞を解除する手術と同時に器質的隅角閉塞を解除する手術を同時に行っても良い。器質的隅角に対する直接的な治療方法は伝統的に隅角癒着解離術が適用されてきた。広範な PAS を有する PACD 症例において水晶体摘出術を行う場合には、隅角癒着解離術を併用するのが良いと思われる。

機能的隅角閉塞と器質的隅角閉塞の両方を解除しても高眼圧が継続する状態を残余緑内障と呼ぶ。残余緑内障を来すメカニズムとしては、長年にわたる虹彩の線維柱帯への癒着あるいは接触によって線維柱帯が劣化して房水排出能が低下していることが想定されている。こうした症例に対しては、開放隅角緑内障への治療に準じて、トラベクトミー、トラベクレクトミー、緑内障チューブ手術、などの開放隅角メカニズムに対応する手術、あるいは緑内障点眼治療を行う必要がある。

上述の如く、PACD の治療は、機能的隅角閉塞の解除→必要があれば器質的隅角閉塞の解除→必要があれば残余緑内障に対する眼圧下降治療という順に進めるのが合理的である。ただし、既に GON が進行していて早急の眼圧下降が必要な症例では、機能的隅角閉塞解除の手術と同時にトラベクレクトミーなどの治療を併用することも考慮すべきであろう。

PACD の治療においては、原則として前述のように外科的治療が第一選択であり、薬物治療は副次的な治療法である。APAC のように可及的に速やかに眼圧を下降すべき時や、ただちには外科的治療を行えない場合などには薬物治療を行うが、薬物治療だけに頼って外科的治療による隅角閉塞の解除を行わなければ、GON は進行すると考えるべきである。PACD は早期に適切な治療を行えば、事実上の治癒に持ち込める病型なので、病状が軽いからと言って安易に薬物治療のみに頼ることは厳に慎むべきである。

ただし、薬物治療で例外となるものはプラトー虹彩形状に対する低濃度ピロカルピンの投与である。これはピロカルピンによる古典的な房水排出を促進する薬理作用ではなく、隅角を拡大することを期待する治療である。プラトー虹彩による隅角閉塞に有効なレーザー治療や水晶体摘出術の実施が難しい場合には第一選択となり得る。あるいはそれらの外科的治療のみでは十分な効果が得られない場合に併用して用いることもある。

おわりに

PACG は失明リスクが高い緑内障病型であるが、一方では、PACD の早期に適切に診断して治療適応がある症例に対して適切な治療を施せば治癒に持ち込める緑内障病型でもある。隅角閉塞を見逃さないこと、適切な治療を選択することあるいは選択出来る専門家に繋ぐことがとても重要な疾患であることを全ての医療従事者に銘記されたい。

文 献

- 1) Iwase A, Suzuki Y, Araie M, et al : The prevalence of primary open-angle glaucoma in Japanese: the Tajimi Study. *Ophthalmology* 111 : 1641-1648, 2004
- 2) Cho HK, Kee C : Population-based glaucoma prevalence studies in Asians. *Surv Ophthalmol* 59 : 434-447, 2014
- 3) Graham P, Hollows F : Intra-ocular pressure, glaucoma and glaucoma suspects in a defined population. *Br J Ophthalmol* 50 : 570-586, 1966
- 4) Leibowitz HM, Kreuger DE, Maunder IR, et al : The Framingham Eye Study Monograph. *Surv Ophthalmol* 24 : 335-610, 1980
- 5) Viggosson G, Bjornsson G, Ingvason J G : The prevalence of open angle glaucoma in Iceland. *Acta Ophthalmol (Copenh)* 64 : 138-141, 1986
- 6) Tielsch JM, Sommer A, Katz J, et al : Racial variations in the prevalence of primary open angle glaucoma: the Baltimore Eye Survey. *JAMA* 266 : 369-374, 1991
- 7) Bankes JLK, Perkins ES, Tzolakis S, et al : Bedford glaucoma survey. *Br Med J* 30 : 791-796, 1968
- 8) Bengtsson B : The prevalence of glaucoma. *Br J Ophthalmol* 65 : 46-49, 1981.
- 9) Arkill SM, Lightman DA, Sommer A, et al : The prevalence of glaucoma among Eskimos of NW Alaska. *Arch Ophthalmol* 105 : 482-485, 1987
- 10) Alsbirk PH : Early detection of primary angle-closure glaucoma. Limbal and axial chamber depth screening in a high risk population (Greenland Eskimos) . *Acta Ophthalmol* 66 : 556-564, 1988
- 11) Congdon N, Wang F, Tielsch JM : Issues in the epidemiology and population-based screening of primary angle-closure glaucoma. *Surv Ophthalmol* 36 : 411-423, 1992
- 12) Foster PJ, Baasanhu J, Alsbirk PH, et al : Glaucoma in Mongolia. A population-based survey in Hovsgol province, northern Mongolia. *Arch Ophthalmol* 114 : 1235-1241, 1996
- 13) Bourne RR, Sukudom P, Foster PJ, et al : Prevalence of glaucoma in Thailand: a population based survey in Rom Klao District, Bangkok. *Br J Ophthalmol.* 87 : 1069-1074, 2003
- 14) Yamamoto T, Iwase A, Araie M, et al : The Tajimi Study report prevalence of primary angle closure and secondary glaucoma in a Japanese population. *Ophthalmology* 112 : 1661-1669, 2005
- 15) He M, Foster PJ, Ge J, et al : Prevalence and clinical characteristics of glaucoma in adult Chinese: a population-based study in Liwan District. *Guangzhou. Invest Ophthalmol Vis Sci* 47 : 2782-2788, 2006
- 16) Casson RJ, Newland HS, Muecke J, et al. Prevalence of glaucoma in rural Myanmar: the Meiktila Eye Study. *Br J Ophthalmol* 91 : 710-714, 2007
- 17) Wang YX, Xu L, Yang H, et al : Prevalence of glaucoma in North China: the Beijing Eye Study. *Am J Ophthalmol* 150 : 917-924, 2010
- 18) Sawaguchi S, Sakai H, Iwase A, et al : Prevalence of primary angle closure and primary angle-closure glaucoma in a southwestern rural population of Japan: the Kumejima Study. *Ophthalmology* 119 : 1134-1142, 2012
- 19) Kim YY, Lee JH, Ahn MD, et al : Angle closure in the Namil Study in Central South Korea. *Arch Ophthalmol* 130 : 1177-1183, 2012
- 20) Quigley HA, Broman AT : The number of people with glaucoma worldwide in 2010 and 2020. *Br J Ophthalmol* 90 : 262-267, 2006
- 21) Foster P, He M, Liebmann J : Epidemiology, classification and mechanism. In: Weinreb RN, Friedman DS (eds) . Angle closure and angle closure glaucoma. Netherlands: Kugler Publication, 1-20, 2006
- 22) Ritch R, Lowe RF : Angle closure glaucoma: Mechanisms and epidemiology. In: Ritch R, Shields MB, Krupin T (eds) . the Glaucoma. St Louis: CV Mosby, 801-819, 1996
- 23) Wang N, Wu H, Fan Z : Primary angle closure glaucoma in Chinese and Western populations. *Chin Med J* 115 : 1706-1715, 2002.
- 24) Kurokawa T, Miyahara T, Kurimoto Y, et al : Plateau iris configuration encourages the risk of pupillary-block glaucoma. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 43 1079, 2002

- 25) Quigley HA : Angle-closure glaucoma-simpler answers to complex mechanisms: LXVI Edward Jackson Memorial Lecture. *Am J Ophthalmol* 148 : 657-669, 2009
- 26) Thomas R, George R, Parikh R, et al : Five year risk of progression of primary angle closure suspects to primary angle closure: a population based study. *Br J Ophthalmol* 87 : 450-454, 2003
- 27) He M, Jiang Y, Huang S, et al : Laser peripheral iridotomy for the prevention of angle closure: a single-centre, randomized controlled trial. *Lancet* 393 : 1609-1618, 2019
- 28) Baskaran M, Kumar RS, Friedman DS, et al : The Singapore Asymptomatic Narrow Angles Laser Iridotomy Study: Five-year results of a randomized controlled trial. *Ophthalmology* 129 : 147-158, 2022
- 29) Lowe RF. Acute angle-closure glaucoma: the second eye: an analysis of 200 cases. *Br J Ophthalmol* 46 : 641-650, 1962
- 30) Sng CCA, Aquino MCD, Liao J, et al : Pretreatment anterior segment imaging during acute primary angle closure: insights into angle closure mechanisms in the acute phase. *Ophthalmology* 121 : 119-125, 2014
- 31) Yoshimizu S, Hirose F, Takagi S, Fujihara M, Kurimoto Y : Comparison of pretreatment measurements of anterior segment parameters in eyes with acute and chronic primary angle closure. *Jpn J Ophthalmol* 63 : 151-157, 2019
- 32) Thomas R, Parikh R, Muliyl J, Kumar RS : Five-year risk of progression of primary angle closure to primary angle closure glaucoma: a population-based study. *Acta Ophthalmol Scand* 81 : 480-485, 2003
- 33) Kunimatsu S, Tomidokoro A, Mishima K, et al : Prevalence of appositional angle closure determined by ultrasonic biomicroscopy in eyes with shallow anterior chambers. *Ophthalmology* 112 : 407-412, 2005
- 34) Kurimoto Y, Park M, Sakaue H, et al : Changes in the anterior chamber configuration after small-incision cataract surgery with posterior chamber intraocular lens implantation. *Am J Ophthalmol* 124 : 775-780, 1997
- 35) Nonaka A, Kondo T, Kikuchi M, et al : Angle widening and alteration of ciliary process configuration after cataract surgery for primary angle closure. *Ophthalmology* 113 : 437-441, 2006
- 36) Lam DS, Leung D, Tham C, et al : Randomized trial of early phacoemulsification versus peripheral iridotomy to prevent intraocular pressure rise after acute primary angle closure. *Ophthalmology* 115 : 1134-1140, 2008
- 37) Azuara-Blanco A, Burr J, Ramsay C, et al : Effectiveness of early lens extraction for the treatment of primary angle-closure glaucoma (EAGLE) : a randomised controlled trial. *Lancet* 388 : 1389-1397, 2016
- 38) Sakai D, Yamamoto S, Yoshimizu S, et al : Ten-year outcomes of cataract surgery for glaucoma management in patients with primary angle-closure disease. *Jpn J Ophthalmol* 67 : 129-137, 2023

II. 原

著

Ⅱ. 原 著

ケースレポートからみえる A 病院の看護の特徴

杉原陽子¹⁾、荒木敬雄¹⁾、新田和子²⁾、山本和代¹⁾、別府清香³⁾

¹⁾ 神戸市立医療センター西市民病院 看護部

²⁾ 大阪医科薬科大学 看護学部

³⁾ 神戸市看護大学 キャリア支援室

要 旨

本研究は、A 病院の看護師が著している看護を明らかにすることを目的にした。過去5年のケースレポートのうち13本を対象とし、質的に分析した。結果、看護師は【治療やケアへの拒否を患者の苦痛として捉え(る)】、【苦痛の少ない処置や方法を探求(する)】し、症状の軽減を図っていた。回復に時間を要する患者の場合は【患者の状況を目標達成過程であると肯定的に捉え(る)】、【セルフケアレベルを下げないことを重視する】ようにしていた。患者、家族の【素直な気持ちを受け止め(る)】、【患者のできることを見つけ続け(る)】ていた。そして、患者の特徴や背景に注目し【生活で大切にしていることと治療を継続することの折り合いを図(る)】り、個性のある看護を行っていた。これらの特徴は、A 病院の患者の特徴に合わせた看護として汎用性が高いことが示唆された。

キーワード：ケースレポート， 個性， 看護

(神戸市立病院紀要 62：9－16, 2023)

Characteristics of Nursing Practices at Hospital A: Insights from Case Reports

Yoko Sugihara¹⁾, Norio Araki¹⁾, Kazuko Nitta²⁾

Kazuyo Yamamoto¹⁾, Kiyoka Beppu³⁾

¹⁾ Nursing Department, Kobe City Medical Center West Hospital

²⁾ Faculty of Nursing, Osaka Medical and Pharmaceutical University

³⁾ Kobe City College of Nursing Career Development Support Office

Abstract

This study aimed to elucidate the practice of nurses at Hospital A. We qualitatively analyzed 13 case reports published over the past 5 years. The nurses perceived refusal of treatment and care as distressing. They actively sought treatment options and methods to minimize discomfort and attempted to alleviate symptoms. In cases where recovery was a prolonged process, they encouraged a mindset of viewing the patient's situation positively as a process of achieving goals, emphasizing not lowering the level of self-care. The nurses accepted the honest feelings and continued to find out what they could do for the patients and their families. Additionally, they focused on the patient's characteristics and background, (deciding between what is important in life and continuing treatment) and provided individualized nursing care. It was suggested that these characteristics are highly versatile, as nursing care is tailored to each patient's uniqueness in Hospital A.

Key word : case report, individuality, nursing

(Kobe City Hosp Bull 62 : 9-16, 2023)

はじめに

コロナ禍が叫ばれて3年が経過し、ストレス低減やワークライフバランスの観点で働き方改革が積極的に行われている。一方、看護スタッフ(以下、スタッフとする)の実感としてストレスが軽減された感覚は乏しく、離職という残念な経過をたどるケースも少なくない。背景として、ワークライフバランスの観点で、勤務時間内に効率よく仕事を終わらせることが重視され、自分のやりたい看護の優先順位が下がり、『看護の意味』が揺らいでいる可能性が考えられた。そのことで、自分たちの大切にしてきた看護が見失われ自信喪失している可能性が考えられた。実際、スタッフからも「思うような看護ができない」との発言や、患者に対し投げやりになる様子が散見している。そこで、A病院で行われている看護を可視化する必要があると考えた。

A病院では、3年目看護師が印象に残る患者に、どのような看護を行ったかをまとめてケースレポートを作成し保管している。ケースレポートの制作過程では、先輩看護師のアドバイスや指導がなされているため、3年目看護師のみならず先輩看護師が大切にしている看護も織り込まれていると考えられた。

本研究では、ケースレポートの内容から、A病院ではどのような看護が行われているのかを明確にする。また、本研究は、『A病院の看護』を再認識することで、自分たちの原点を想起し、スタッフの自信回復の一助になることや、スタッフが「看護を行う」目的の基での凝集性を高める一助になるのではないかと考える。副次的に、ケースレポートが『A病院看護』を伝承する仕組みとして捉え直し注力する意味づけにできればと考えている。

I. 研究目的

A病院の看護師が著している看護の特徴は、具体的にどのようなものかを明らかにする。

II. 研究方法

1. 研究デザイン

質的記述的研究

2. 調査対象

2017年から2021年までの5年間のケースレポートのうち、現在勤務しているスタッフの記述したもの81本から、研究に同意が得られたケースレポートが24本あった。その中からランダムに13本抽出した。

3. 分析方法

- (1) ケースレポート内容を読み、A病院の看護の特徴と思われる部分を抽出した。
- (2) A病院の特徴と思われる部分を繰り返し読み、見えてくる内容にテーマをつけた。
- (3) A病院が掲げる「教育目標」や「A病院看護部理念」、既存の看護理論と照らし合わせて分析した。
- (4) 厳密性を確保するために、メンバー全員でディスカッションを行い、途中段階で『A病院の看護』を知る方に見てもらい確認した。また、分析過程を通して質的研究に長けている研究者にスーパービジョンを受けた。

III. 倫理的配慮

A病院師長会で説明したうえで、倫理審査委員会の承認を得て、協力者のリクルートをした。該当者には研究計画書を読んでもらい、任意に同意を求め、誰が同意したかがわからないように「ナーシングスキル」内アンケートから回答してもらう方式を取った。同意を得る際に、データは匿名化されること、同意はいつでも撤回できること、データは厳重に保管されることを説明した。研究に関する質問を受けつけるための連絡先を明記した。所属施設看護部の倫理審査委員会の承認を得た。(承認番号22-01)なお、本研究に利益相反はない。

IV. 結果

1. 対象としたケースレポートの概要

対象としたレポートは13本、スタッフの所属部署は病棟部門10本、中央手術室・放射線科3本であった。ケース事例の年代は20歳代1例、50歳代1例、70歳代3例、80歳代7例、90歳代1例であった。

A病院の患者の年齢層別比率は、65歳以上が62%、そのうち6割を超える患者が75歳以上の後期高齢者であった(図1)。

2. 分析結果

(1) テーマ

データを分析した結果、15のテーマが生成された(表1)。以下にテーマごとに具体的な内容を説明する。テーマは【 】、生データは「 」で表した。「 」外の数字は事例ナンバーを示す。

3. A病院の看護師が著している看護

- (1) 治療やケアの拒否を患者の苦痛と捉える

治療やケアを拒否する反応が生じた時に、その言動を患者の苦痛として捉えて、その苦痛が何かを考えていた。

「A氏は酸素投与量 10Lのリザーバーマスク装着下で、動脈血酸素飽和度(以下SpO₂と記す)の目標値を辛うじて維持していた。しきりに上半身を起こそうとし、激しく寝返りを打ち、目はうつろで焦点は合わず、意識レベルはJapan Coma Scale(ジャパンコマスケール)でⅠ-3~Ⅱ-10であった。身の置き所のない体動をしながら、時折「うーあー」と唸っていた。呼吸困難感の有無について尋ねても返答はなく、かすかに頷くような仕草があるのみだった。呼吸回数も30回/分程度で、フェイススケール5~6の苦痛のある表情をしていた。…中略…入院当初までの、せん妄の状態とは明らかに異なる、興奮して多弁な様子や激しい体動、ケア等の強い拒否などは、認知症や入院による環境の変化から生じるせん妄とは別に、身体的なしんどさや呼吸困難感に根本的な原因があるのではないかと考えた。」^⑨

- (2) 拒否や非難の言葉にひるまず拒否する理由を探る
患者からの拒否や非難の言葉に対して、ひるむことなくそれを受け止めてその理由を探ろうとしていた。

(A氏と同時期に入院されていた夫の病状が悪化したことに対する、看護師の思いと対応が記載されたレポートである) A氏の入院中に夫の病状が悪化した。「私は面会を拒否された理由として、A氏は夫の病状について医師から説明がされておらず状態が悪化していることを知らないこと、自身も入院中で倦怠感もあるため自身の状態が落ちたら会おうとされているのではないかと考えた。…中略…私は夫の意識レベルが保たれている間に、A氏と夫が面会されることで、A氏に後悔が残らないよう支援したいと考え、A氏への病状説明を医師に依頼した。」^④

- (3) 患者の状況を目標達成過程であると肯定的に捉える

入院前のADLまで回復、あるいは理想的な療養生活までの目標達成には到達できていない患者の行動を「できない」と評価するのではなく目標達成過程と意味づけ、患者が向き合い続けられるような関わりを行っていた。

「食事に関して『頑張っている』『強制される』という言葉が本人から聞かれた。…中略…食事前は体位を調整し、また食べる前に口腔内をお茶で濡らすなど食事前の状態を整えるなどの介助を行うが、食事摂取量は増えなかった。それに対しては『毎日数口は食べていますね。十分頑張れていると思いますし、今のペースで続けていけるといいですね。』と現状を肯定しながら、食事が心理的負担になりすぎないように配慮して声かけを行い、少しずつ摂取を進めた」^⑩

- (4) セルフケアレベルを下げないことを重視する
入院中の無気力や倦怠感が出現する中、退院を見据えて患者のADLを維持できる介入方法を考え、患者自らの力でできる方法を模索していた。

『しんどいからする気になりません。何もしたくないんです。』と話された。…中略…ひとまず気が向いた時にしてもらったらいいことを伝えて退室し、ケア項目で日中に塗り絵を促して欲しいことを計画に挙げ、引き継いだ。…中略…翌日に訪ねた際に、カレンダーの曜日部分だけが塗られていたため、『曜日毎に分けて色を塗ったんですね。とても綺麗です。分かりやすくなりましたね。また、気が向いた時でいいので塗ってみてください。』と声をかけた。…中略…数日後、セッティングをすることで、自身で食事摂取ができた。翌日は、車椅子へ移乗して食事はほぼ全量摂取できていた。」^⑩

- (5) 素直な気持ちを受け止める
患者や家族の受け止め方や、行動変容が看護師の描いたものと異なっていたり、怒りや拒否という否定的な表現をしたとしても、そのときの患者、家族の気持ちとして見届けていた。

「A氏のしんどそうな様子をみて妻は『大丈夫。しんどいの。どこか痛いところがあるの。』など心配されていた。妻は、医師からA氏の予後は厳しいと説明されていた。看護師の前では涙を流しながら『元気になったら・・・』『長生きしてほしい。』などの言葉が聞かれ、…中略…望みを持っている様子であった。私は妻の感情表現を促すことや、妻の思いを読み取るためになるべく目を見て頷き傾聴する姿勢を示した。その後も指導日にはなるべく妻に声をかけるようにし『ストーマケアや排泄介助の手技はできるようになっ

ていますよ。』『疲れを出さないようにしてくださいね。』など妻を気遣い労った。妻は会う度に『こんな状態で大丈夫ですかね。』など不安な思いを表出される一方で『いつも聞いてくれてありがとう。』との発言も見られた。」⑤

(6) 解釈せず言葉通り受け止める

患者の言動から看護師自身の価値判断で捉えていたことに気づき、患者の言葉を評価することなく、患者の療養体験そのものとして捉えていた。

「A氏からは『頑張って食べたなら家に帰れるやろ。あと先生や妹がどんどん食べるっていうねん』との言葉が聞かれた。妹が来院されたときには、『無理せんでもええけど、食べれるんやったら少しでも食べよ。』とA氏に声を掛ける姿がみられた。…中略…A氏にとって食べることが、誤嚥性肺炎、更に窒息の危険性に繋がりがかねないため、看護師も医師も食事を積極的に勧めるような発言はしていなかった。A氏は時折、つじつまの合わない発言が見られていたため、私はA氏が単に勘違いをしたのかと思い、何故そのように思ったのかそれ以上聞き出さなかった。この時、A氏が『食べたい』という欲求ではなく、『食べないといけない』という義務感を抱きながら食事をしていたことを初めて知った。」①

(7) 決定のゆらぎにつきあう

患者、家族が今後のことで決めかねている場合、医療者として最善と思われる情報は提供するが、ご当人が迷う間可能な限り判断を待つ様である。

「インフォームドコンセントの後に、妻に考えを伺うと『この人のためを思うと、療養型の病院へ行った方がいいといった気もしてきました。今は看護師さんが吸引や清拭をしてくれるので安心しているのですが、家に帰るとそうはいきませんものね。』と葛藤されている気持ちを話された。私は、すぐに結論を出す必要はないこと、妻の考えや心配なことなど、いつでも聞くことができ、可能な限り相談に乗ることを伝えた。…中略…私は妻の希望を聞き、在宅で過ごすことを想定した場合、どのような点が不安であるのかについて妻とともに考えた。…中略…『特に気にかかるのはデイサービスに行ってお風呂に入っていたことで、送迎の際車椅子に乗せることができればよいのです

が、できなければこれらを諦めなくてははいけません。そうなると、家ですべてをお世話していくのは無理なので転院ということを考えなければいけないと思います。』と言われた。」⑥

(8) 現実を受け止めてもらうために実体験してもらう

ご当人たちが思考し考えて出した結論であっても、医療的に難しいと感じた場合、ご当人たちに実際にやってみてもらい困難さを体験してもらうことで納得いただく様である。

「A氏が病棟内をラウンドしている際や、シャワー浴の際は、一緒にパルスオキシメーターでモニタリングし、動作の確認を行った。するとシャワー浴の指導の中で、A氏が鼻カニューレを外したまま着替えたり、立位のまま休息を取り入れず洗体、洗髪をしていた際に、SPO2が低下していることが分かった。…中略…毎回実施後にA氏と振り返りを行い、改善点や上手く出来ている点を共有した。」②

(9) 生活を大切にしていることと治療を継続することの折り合いを図る

これから療養のために生活が変化すること、ADLを取り戻すための厳しい訓練などで、患者がやる気やQOLを損なわないよう、ご本人が大切にしていた楽しみや趣味を取り入れ、療養を続けられるようコーディネートする様である。

「手術や透析について否定的なA氏にとって、少しでも前向きな気持ちになればと考え、A氏の趣味である旅行について医師に相談し、資料を持参し説明を行った。透析導入後も、旅行先で透析を行いながら旅行することができること、そのためには事前準備が大切であることなどについて説明すると、A氏は何度も頷きながら話を聞かれ「丁寧に調べてくれたんやな。ありがとう。友達と旅行に行くのが楽しみや」と笑顔で話された。」③

(10) 苦痛の少ない処置や方法を探求する

治療や処置にとまらぬ苦痛を完全になくすことは難しくても、療養生活の変化による負担を少しでも減らすように努めていた。

「自分で動くとともにさらに呼吸困難が増してしまうため、看護師2人で介助することを提案した。A氏がなるべ

く力を使わないようにし、呼吸困難を軽減させるために、体位変換は看護師2人で行った。体位は横隔膜の可動性を広げ、換気スペースを増やすために、ファアラ一位へ整え、手の下や膝の下にクッションを置いた。」⑩

(11) 感情に流されず患者と対話しながら、身体を優先し、処置をする

患者の身の置き所がない症状を前に、冷静にフィジカルアセスメントを行い対応していた。

「このままでは痰で窒息してしまうと考え、A氏に喀痰吸引をさせて欲しいと訴えかけた。それでも、A氏は『絶対嫌。もう自然の流れに身を任せたらいいんです。しんどくないから大丈夫。』』と言われ、喀痰吸引には応じてくれなかった。本人は困っていないと言うが、A氏や家族は『家に帰りたい』という希望を持っており、痰で窒息してしまうことはA氏や家族の望むところではない。そのため、喀痰吸引をする時には、1人ないし2人の看護師がA氏の対応をしている間に、もう1人の看護師が喀痰吸引を実施するという方法で実施した。」⑦

(12) 患者の逃げ道を残す

療養を続けるよう諭すだけでは難しい時に、ご本人との信頼関係が壊れないよう、ご本人がやる気をなくさないよう、片目をつぶり経過を見守っていた。

「糖尿病内科受診時には、『今日も処置室に行かないとだめですか？いつも食事の話…。できたらもう帰りたい。』と消極的な発言がみられた。自己管理ノートは時々しか持参せず、血糖値はいつも同じような数値が並んでいた。…中略…しかし、指摘することでA氏の意欲が喪失して、信頼関係が崩れる可能性があると考えたため、強く指摘はせず、できるだけ測定していくよう促し、健診時に毎回血糖を確認し見守ることにした。」⑪

(13) 患者のできることを見つけ続ける

生活に療養を取り入れることに苦慮している患者に対し、理想的な療養を押しつせず、ご本人がどのようなことができるか見つけ提案をしていた。失敗しても見限ることなくトライ&エラーを繰り返していた。

「1日当たりの塩分量を実際に見てもらい、調味料の含有塩分量を説明し、減塩について指導した。次の診察時『教えてもらった献立作ってみて体重も減った。全然大変じゃなかった。これなら続けられそう。赤ちゃんのためですもんね。』と笑顔で話し、「写真を撮ってきた」と自ら食事の写真を見せてくれた。」⑫

(14) 医療的優先度ではなく患者の大切なことで優先順位を考える

患者の状況を把握して、治療や処置の優先度よりも、本人の意向を優先し対応していた。

「A氏は家族と出来るだけ一緒に時間を過ごしたいが、妻として母親としての責任感が強く、自分の過ごしたい生活よりも家族の事を最優先に考えて行動に移していることがうかがえた。…中略…他人や家族に迷惑をかけたくないというA氏の性格をふまえるとストーマの管理やボディーイメージの変化に対する説明が足りていないと思われた。私は今後の生活を考えるとA氏にとってストーマの管理が負担になるのではないかと考えていた。」⑬

(15) 「限りある資源」を有効に使う

時間や人に制限があるなかでも、今ある人や環境のなかでケアを生みだそうとしていた。

「理学療法士がいないことで上手く体位変換できるか私自身不安があった。しかし、私は以前A氏の内視鏡治療を1度担当しており、A氏の移動方法を他の看護師よりも把握していた。…中略…医師・看護師・放射線技師の協力を得て、移動介助をすることができた。…中略…「気になることや苦痛なところはないですか?」と言葉かけを行い、A氏ができるだけ安楽な体位で内視鏡治療に臨めるように体位を整えた。A氏から「大丈夫。」と返答があり、苦痛がないことを確認して内視鏡治療を開始した。」⑭

V. 考察

A病院の看護の特徴を考察し、特徴を見出す意義、実践への示唆を記述する。

1. A病院の看護師が著している看護の特徴

A病院のある区の高齢化率は33.6%、近隣3区で31.4% (2022年8月現在)と高く、コロナ禍以前は緊急入院が70%と重症化してからの入院が多いと

いう特徴があった。入院時の栄養状態はTP6.2g/dl、Alb2.6g/dlで、内科系の患者は栄養状態の悪化から褥瘡がある9割の患者に改善がみられず、半数は在宅退院できないケースであった。山口ら¹⁾は、急性期病院に入院している65歳以上の患者の43.9%はフレイルの状態にあり、低栄養、多数の服薬、高い確率で合併症が生じると述べている。また、一般的に、高齢者は、入院中に薬物の有害事象や薬剤に起因する老年症候群が起りやすいとされ、A病院の入院患者の多くは、フレイルや、老年症候群の状態にあり合併症に改善がみられないケースが多い。フレイルはストレスに対する脆弱性が亢進している状態であり、悪循環に陥らないよう回復に向けた支援が重要である。A病院の看護師は、このような患者に対して、【苦痛の少ない処置や方法を探求(する)】し、回復するまで時間を要する患者の場合は、【患者の状況を目録達成過程であると肯定的に捉える(る)】、【セルフケアレベルを下げないことを重視(する)】していた。ナイチンゲール²⁾は、看護は新鮮な空気、陽光、暖かさ、清潔さ、静かさなどを適切に整え、食事内容を適切に選択し適切に与えることで、患者の生命力の消耗を最小にするように整えることであるとしている。A病院では、身体機能が低下している患者に対し、治療の侵襲による苦痛を最小限にし、自然回復力を高め合併症を予防する看護が行われていたと考える。

また、A病院の患者の特徴は、低所得が多いことから医療にかかりにくい、生活歴から理解力に課題のある患者も多いことが推測される。漆畑³⁾は、個別性のある看護とは、対象の状態を望ましい方向へ移行するために、対象の置かれている状況及びその背景をもとに看護を組み合わせることであるとしている。A病院の看護師は、【素直な気持ちを受け止め(る)】、【解釈せずに言葉通り受け止め(る)】ながら【生活で大切にしていることと治療を継続することの折り合いを図(る)】っていた。一見独特にみえるような患者の生活に対して、病を患う人として患者の背景に注目し、患者が慣れ親しんだ方法を生活に取り入れていた。このように入院前の生活とのギャップを少なくすることにより、生活が変化しても生活の質を保つようにしていたと考える。漆畑³⁾は、個別性のある看護は、それぞれの臨床で行っている看護ケアをもとに、調節、変更、改善しながら創造されるものであるとしている。

今回、先輩看護師が大切にしている看護も織り込

まれたケースレポートから見出された看護は、先輩看護師から個別性のある看護として受け継がれたものであると考える。

2. 「A病院の看護の特徴」を見出す意義と実践への示唆

急性期医療の場合は、医療ニーズの高い患者が集中すると同時に、早期の在宅復帰を目指す患者が存在し、緊急・重症な状態の患者の生命を救うことと、回復期や慢性期に移行できる状態まで回復を図ることが大きな役割とされており、この時期の看護の内容が、患者の回復と生活の質の改善の程度に大きく影響する⁴⁾。A病院でも高度急性期化にともない、患者の状態や治療は日々変化しており、看護師は予測性のある判断や効率的なケアが求められる。看護師は患者の生活の質を保ちたいという気持ちがあっても、限られた時間、人員で多くの業務をこなさなければならず、余裕をなくしやすい状況にある。そのことで、「看護師が思い描く理想の看護ができない」と葛藤を抱えていることが考えられる。

A病院の看護師は、時間や人に制限があるなかでも【「限りある資源」を有効に使(う)】い、日々の治療がうまく遂行することにより身体的な症状を軽減できるようにし、患者の回復を支援していた。また、病を患う人として患者の背景に注目してメッセージやニーズを粘り強く捉えて【生活で大切にしていることと治療を継続することの折り合いを図(る)】ことでケアを創造しようとしていた。看護師の責務は「診療の補助」と「療養上の世話」にある。A病院の看護は、病状や治療に関する身体的なケアと、患者の病状に合わせた生活ができるように支援することであり、それらに力を注ぐことにより、診療の補助と療養上の世話との間でその人にとって最良のバランスを見極めていると推測される。上田ら⁵⁾は、病院に就業する看護師の卓越した看護として、効率よりもその人自身の習慣を尊重した方法による日常生活援助を優先する状況を示している。A病院では、慢性期に移行する患者も多く、急性期と慢性期というペースが異なる患者の支援が混在している状況にある。支援のペースや、看護師の思考を切り替える難しさが伴うなかでも、効率よりも、患者を生活者として捉えて粘り強くかかわろうとする姿勢が個別性のある看護を生み出していると考えられる。さらに、個別性のある看護を地域につなぐことができれば、シームレスな看護につながると考える。

今回、可視化できたA病院の臨床知は、A病院の特徴である回復に時間を要するケース、生活の再編に難しさをともなうケースに汎用性が高いと考える。また、看護の意味に揺らいだときの手がかりとなるのではないだろうか。

VI. 結論

本研究では、A病院の看護師が著している看護を明らかにするため、過去5年のケースレポートのうち13本を対象とし、質的に分析した結果、15のテーマが抽出された。A病院の看護の特徴は【治療やケアへの拒否を患者の苦痛として捉える】【苦痛の少ない処置や方法を探求する】【患者の状況を目標達成過程であると肯定的に捉える】【セルフケアレベルを下げないことを重視する】であった。また【素直な気持ちを受け止める】【できることを見つけ続ける】【生活で大切にしていることと治療を継続することの折り合いを図る】というA病院の患者の特徴に合わせた看護であった。

文 献

- 1) 山口晃樹, 平瀬達哉, 小泉徹児, 他: 急性期病院におけるフレイルを有する高齢入院患者の特徴. 日本老年医学会雑誌 55 (1) : 124-130, 2018
- 2) フローレンス・ナイチンゲール: 看護覚え書, 改訂第6版, 現代社, 東京, 2000
- 3) 漆畑里美: 「個別性のある看護」に関する概念分析. 日本看護技術学会誌 8 (3) : 74-83, 2009
- 4) 公益社団法人日本看護協会: 2025年に向けた看護の挑戦 看護の将来ビジョン いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護, 公益社団法人日本看護協会: 2015, <https://www.nurse.or.jp/home/about/vision/pdf/vision-4C.pdf>
- 5) 上田貴子, 亀岡智美, 舟島なをみ: 病院に就業する看護師が展開する卓越した看護に関する研究. 看護教育学研究 14 (1) : 37-50, 2005

(受付 2023年6月30日、採択 2024年1月17日)

図1 2017-2021年におけるA病院の年齢層別患者比率

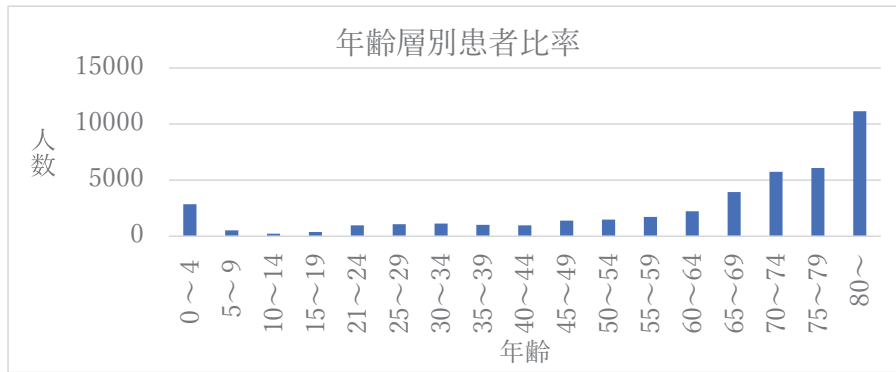


表1 A病院の看護師が著している看護

番号	テーマ
1	治療やケアの拒否を患者の苦痛と捉える
2	拒否や非難の言葉にひるまず拒否する理由をさぐる
3	患者の状況を目標達成過程であると肯定的に捉える
4	セルフケアレベルを下げないことを重視する
5	素直な気持ちを受け止める
6	解釈せずに言葉通り受け止める
7	決定のゆらぎにつきあう
8	現実を受け止めてもらうために実体験してもらう
9	生活を大切にしていることと治療を継続することの折り合いを図る
10	苦痛の少ない処置や方法を探求する
11	感情に流されず患者と対話しながら身体を優先し処置をする
12	患者の逃げ道を残す
13	患者のできることを見つけ続ける
14	医療的優先度ではなく患者にとって大切なことで優先順位を考える
15	「限りある資源」を有効に使う

Ⅲ. 実 践 報 告

Ⅲ. 実践報告

当院における終末期医療としての腹膜透析

高田 風¹⁾、桂 健介¹⁾、林田珠奈¹⁾、堀川聖之輔¹⁾、
三島奈都美¹⁾、伊藤誠二¹⁾、大崎啓介¹⁾、吉本明弘¹⁾
¹⁾ 神戸市立医療センター中央市民病院 腎臓内科

要 旨

【背景】我が国の透析導入年齢は高齢化の一途を辿り、終末期医療としての腹膜透析 (Last PD) の需要が高まりつつある。当院の2022年度のPD導入件数は14例であり、うちLast PDは5例だった。このうち、特に参考になった2症例について報告する。＜症例1＞肝硬変のある73歳男性。膵頭十二指腸切除術後、3～5 L/日の腹水排液が持続し、腎機能は増悪傾向となった。血液透析(HD)は頻回な血圧低下のため施行できなかったため、PDを導入した。腹水を含む排液量は1～2 L/日に安定し、自宅退院を達成した。＜症例2＞79歳男性。高次脳機能障害があり、妻と次男の介護を受け生活していた。末期腎不全に対し透析用カテーテルでHDを導入したが、透析中に安静が保てず、常時付き添いを要したため、家族がPDを希望した。PDカテーテルを自己抜去するリスクがあったため、左側腹部に出口部を作成してPD導入した。【考察】終末期の患者や日常生活行動(ADL)が低下した患者、HDが困難な患者にPDを導入することで、自宅退院を達成し得る可能性がある。

キーワード：腹膜透析、肝腎症候群、終末期医療、在宅医療

(神戸市立病院紀要 62：17－24, 2023)

Peritoneal Dialysis as End-of-Life Care at Our Hospital

Fu Takata¹⁾, Kensuke Katsura¹⁾, Marina Hayashida¹⁾,
Seinosuke Horikawa¹⁾, Natsumi Mishima¹⁾, Seiji Ito¹⁾,
Keisuke Osaki¹⁾, Akihiro Yoshimoto¹⁾

¹⁾ Department of Nephrology, Kobe City Medical Center General Hospital

Abstract

[Background] The age at which dialysis is initiated in Japan is increasing, and there is a growing demand for peritoneal dialysis, particularly as a form of terminal care (referred to as "Last Peritoneal Dialysis [PD]"). At our hospital, 14 cases of PD were initiated in 2022, including five cases of the Last PD. In this report, we discuss two of the five cases that we found particularly informative. Case 1 was a 73-year-old man with liver cirrhosis. After pancreatoduodenectomy, he had persistent ascites drainage (3–5 L/day), and his renal function worsened. We introduced PD because hemodialysis (HD) could not be performed due to frequent hypotension. The PD drainage volume, including the ascites, stabilized at 1–2 L/day, and the patient was discharged. Case 2 was a 79-year-old man presented with severe brain dysfunction. His wife and son took care of him. Due to end-stage renal failure, we placed a dialysis catheter and initiated HD. However, he could not maintain a lying down position during puncture and dialysis and required constant attendance by someone during dialysis. To avoid the self-extraction of the PD catheter, we created a PD catheter outlet in the left lateral abdomen and introduced a PD. [Conclusion] PD may help discharge patients who are terminally ill, have low Activities of Daily Living, or have difficulty with HD.

Key words : peritoneal dialysis, hepatorenal syndrome, terminal care, home medical care

(Kobe City Hosp Bull 62 : 17-24, 2023)

はじめに

わが国において腹膜透析 (PD: Peritoneal Dialysis) は、患者自身がPD手技を行えるような若年末期腎不全患者を中心に導入されており、腎代替療法においてPDが選択される割合は透析療法全体の5.9%と少ないが¹⁾、現代の超高齢社会に伴う透析導入患者の高齢化により、血液透析 (HD: Hemodialysis) の施行や頻回な通院が困難な症例や、在宅医療を希望する症例に、終末期医療として腹膜透析を行うLast PDや、家族などの介助者がPD手技を行う Assisted PDが提案される機会が増えている。

I. 当院では、直近の3年間で腎代替療法の導入数は全体として増加傾向にあるが、腎代替療法指導管理料が2020年度改定で新設され、2022年より腎代替療法選択外来を開始したことで、PD導入数はとくに増加し、2022年には104例の腎代替療法導入のうち、14例がPDだった (Figure 1)。14例のうち、自身でPD手技を行う一般的なPDが9例、Last PD/Assisted PDは5例だった。一般的なPD導入患者の平均年齢は62.4歳だったが、Last PD/Assisted PDは74.4歳と12歳高齢だった。APD (Automated Peritoneal Dialysis) /CAPD (Continuous Ambulatory Peritoneal Dialysis) の割合や原疾患には大差なかった (Figure 2)。今回、我々が経験したLast PD症例のうち、大量腹水により頻回な腹水穿刺を要し、自宅退院ができ

なかった肝硬変、末期腎不全患者にPDを導入した1例、高次脳機能障害がありHD中の安静が保てないためPDを導入した1例について報告する。

< 症例 1 >

1. 症例

患者：73歳男性

背景：製鉄会社を退職後、妻と二人暮らしで生活している。入院前は自立歩行、ADLはすべて自立していた。認知機能は良好である。

既往歴：アルコール性肝硬変、食道静脈瘤、肝細胞癌治療後、2型糖尿病。

現病歴：膵頭部癌に対し膵頭部十二指腸切除術目的で外科に入院となり、第2病日に膵頭十二指腸切除術 (II型再建) を施行した。術後、肝下面に留置したドレーンから3～5 L/日の腹水排出が持続した。術後大幅にADLは低下し、食事摂取量は1～2割に減少した。入院前の腎機能は正常 (血清Cre 0.88 mg/dL、BUN 18.4 mg/dL) だったが、術後に腎機能が増悪傾向となったために当科紹介となった。

身体所見：身長 169 cm、体重 62.5 kg。意識は清明。心音・呼吸音は異常ない。パーキンソン様歩行で手指振戦がある。クモ状血管腫を認める。手掌紅斑、腹壁静脈軽度怒張を認める。浮腫はない。

Case	Age	Sex	Primary-disease	Dialysis therapy	PD-operator	Complications	Duration	Reason for PD	Reason for discontinuing PD
1	73	M	Hepatorenal syndrome	CAPD	Wife	Type-2 diabetes Cirrhosis	4 months	Massive – ascites Hypotension	Death
2	79	M	Unknown	CAPD	Wife/son	Intracerebral hemorrhage Cirrhosis	6 months	HD is not possible due to inability to stay still	Death
3	84	F	Kidney cancer	APD	Daughter	Hepatitis C, Hypertention.	4 months+	Low ADL	
4	62	M	Nephrosclerosis	CAPD	Patient	Dilated-cardiomyopathy	13 months	Low heart function	Death
5	75	M	Unknown	APD→CAPD+HD	Wife	Quadriplegia	5 months	Low ADL	Nursing fatigue *

Table 1. Clinical and familial characteristics of 5 patients initiating Last Peritoneal Dialysis in 2022

Three patients have already died, while the other two are still on PD.

*His wife wanted to switch to HD due to caregiver fatigue. However, he continued on PD with less frequent CAPD because it was difficult for him to commute to the hospital where hemodialysis was performed.

ADL: Activities of Daily Living. HD: Hemodialysis. PD: Peritoneal Dialysis.

CAPD: Continuous Ambulatory Peritoneal Dialysis. APD: Automated Peritoneal Dialysis.

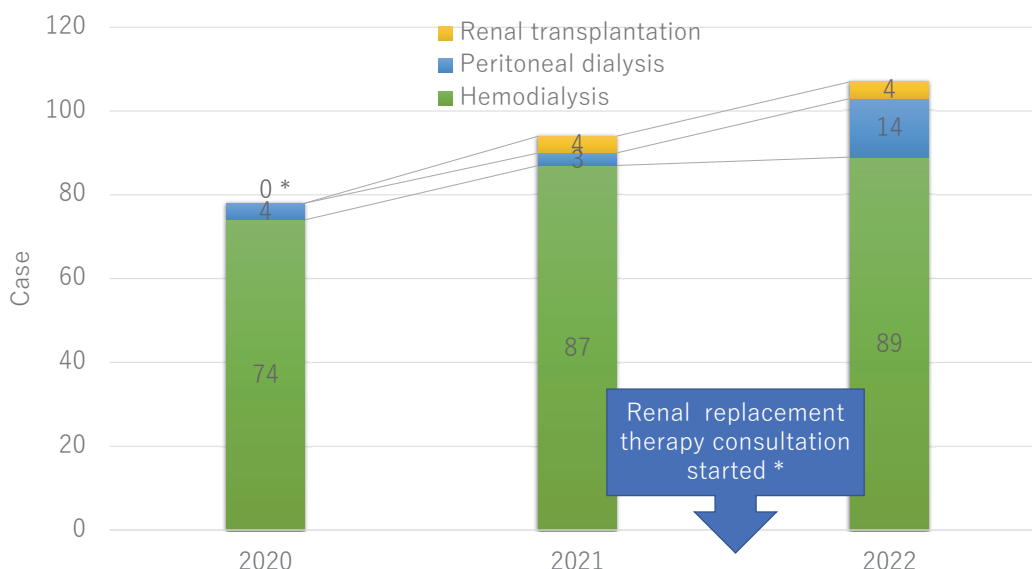


Figure1. Distribution of renal replacement therapy in our hospital

* No kidney transplants in 2020 due to COVID-19 pandemic.

* In 2022, the supervision and management fee of the renal replacement therapy was changed and we started specialty consultation for renal replacement therapy.

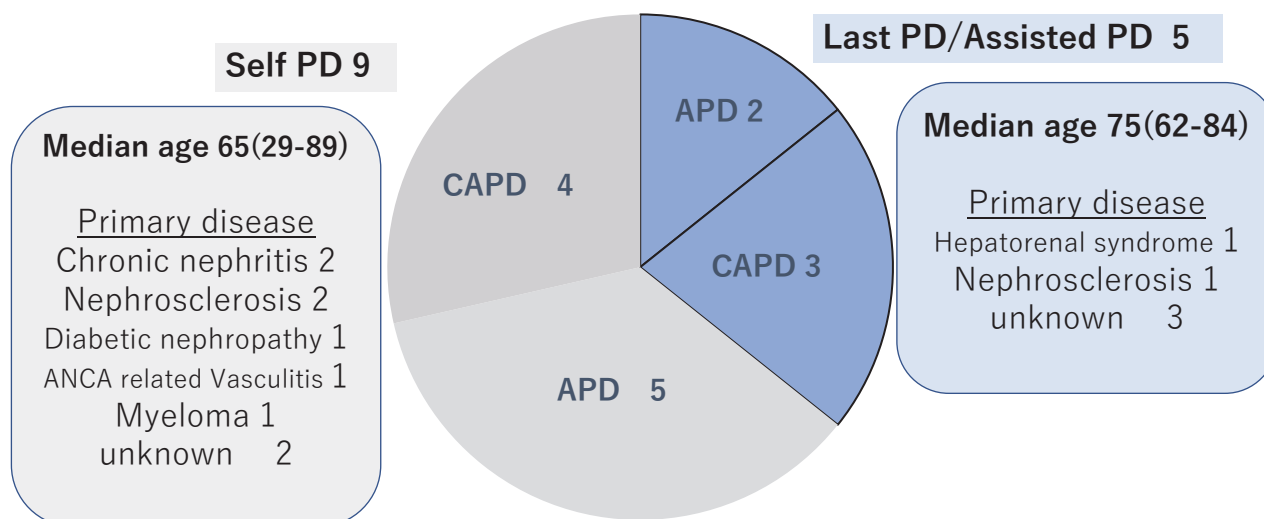


Figure 2. Distribution of peritoneal dialysis methods among patients starting PD in 2022

Self PD: The ordinary PD in which the patient performs the PD procedure themselves.

Last PD: PD selected as terminal care. Assisted PD: PD performed by the caregiver.

CAPD: Continuous Ambulatory Peritoneal Dialysis. APD: Automated Peritoneal Dialysis.

There was no significant difference in the APD/CAPD rates and primary diseases.

検査所見(術後4日目, 当科初診時): 尿所見; 蛋白(+), 潜血(2+), 蛋白 0.17 g/gCre, 赤血球 30~49/HPF, 血液所見; Hb 13.4 g/dL, 白血球 14600/ μ L, 血小板 12.6万/ μ L, 血液生化学所見; TP 3.7 g/dL, Alb 2.3 g/dL, 尿素窒素 45.2 mg/dL, Cre 4.43 mg/dL, eGFR 11 mL/min/1.73m², AST 67 U/L, ALT 7 U/L, Na 124 mEq/L, K 5.6 mEq/L, Ca 7.1 mg/dL, IP 7.4 mg/dL,

GA 14.0%, CRP 5.26 mg/dL, 胸腹部CT: 水腎症はなく、両側腎臓腎形態は正常である。

2. 臨床経過

術中、肉眼的に播種、肝転移は認めなかったが、腹水量は多く、腹水細胞診は陽性であり、術後診断は臍頭部癌Stage II A (T3N0M0) だった。術後、肝下面に留置したドレーンから3~5 L/日の腹水排出が持続

し、腎機能は増悪傾向となった。ADLは大幅に低下し、食事摂取量は1～2割に減少した。術後4日目に当科紹介となり、術後でありサードスペースへの体液移行が疑われることから、腎前性腎不全を疑い輸液を開始したところ、一時的に改善傾向となったが、再度腎機能は増悪傾向となった。全身状態不良であり、肝硬変に伴う腹水や血小板減少もみられたために腎生検は施行できず、臨床的に、2型糖尿病を背景とした肝腎症候群による腎不全と診断した。また、腹水については悪性腫瘍および末期腎不全、肝硬変によるものと考えた。術後54日目にBUN 133 mg/dLまで増悪し、代謝性アシドーシスも出現したため家族と本人に腎代替療法について説明し、相談の上で血液透析(HD)の方針とした。術後、血清Albが1.2 g/dL程度に低下していたこともあり血圧が低く、アルブミン製剤やノルアドレナリン、エチレフリンを使用しながらHDを施行したが、開始直後から収縮期血圧70 mmHg台までの低下が続き、間欠的なHDは不可能と判断した。膀胱としての予後は数か月から半年程度見込まれ、腎代替療法を行わなければ予後は2～4週間程度であると考えられることから、Last PDを検討した。本例でPDを導入する利点として、HDより循環動態に与える影響が少なく透析が可能であること、大量腹水のために肝下面に留置しているドレーンを抜去することができ、頻回な腹水穿刺による感染のリスクや疼痛の軽減が図れ

ることが挙げられた。PD導入に伴う懸念点としては、①腹水排出に伴うアルブミンの喪失、②PDカテーテル留置時の全身麻酔のリスク、③ADLが低下しており自身でのバッグ交換ができないことが挙げられた。①については経腸栄養の追加や経静脈的アルブミン製剤の投与で対応し、②・③については麻酔科診察にて全身麻酔の許可を得たうえで家族と本人に十分に情報提供を行い意思を確認したところ、家族・本人の自宅退院の希望が強く、家族はAssisted PDに対しても意欲的だったため、Assisted PDを導入して自宅退院を目指す方針とした。術前に可及的に腹水を排出してから臍頭十二指腸切除術後に留置されていた肝下面のドレーンを抜去し、臍頭十二指腸切除術後69日目にPDカテーテル留置術を施行した。術後は厳密に血圧を管理しながら、PDカテーテルから腹水排出を行い、リークを避けるため可及的に腹腔内を空に保った。カテーテル留置術後5日目に0.5 L/回から初回注液を開始し、リークはみられなかったため翌日から1 L/回、1日3回のCAPDを開始した。PD開始後、BUNはピークアウトし、血清pH、HCO₃⁻は正常化した(Figure 3)。腹水を含む排液量は1日1～2Lに安定した(Figure 4)。往診医、訪問看護ステーションに自宅退院後の診察を依頼し、PD導入後37日目に退院とした。その後PD腹膜炎や体液異常はみられず、PD導入後113日で逝去した。

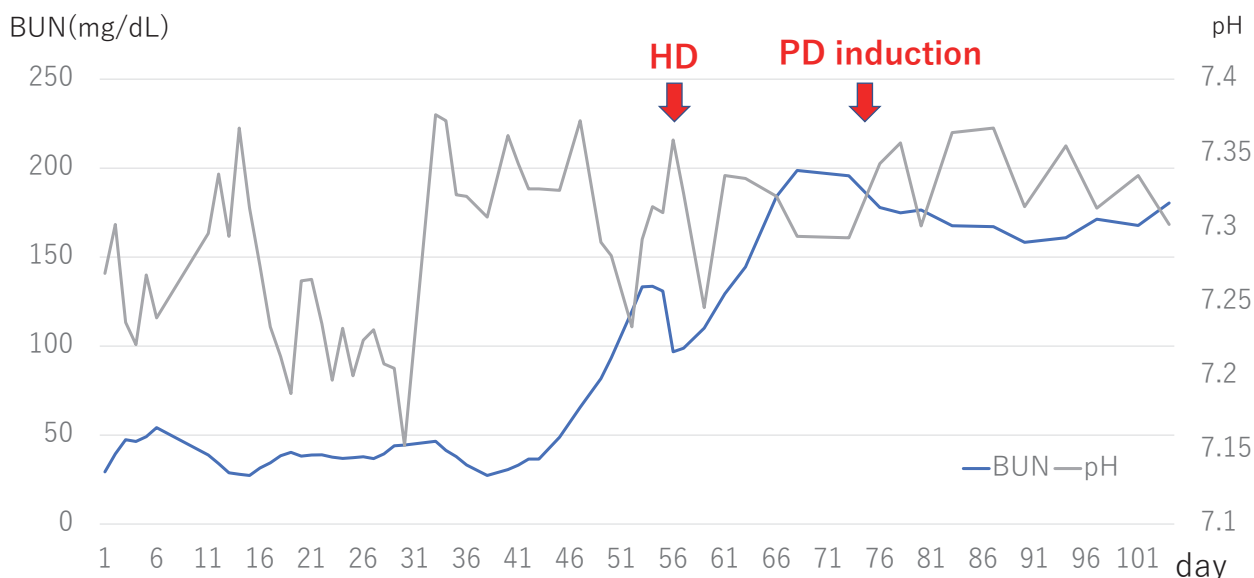


Figure 3. Renal function after introduction of peritoneal dialysis in Case 1

We started CAPD (1000 mL x 4 times /day) on the 78th day. However, hypotension persisted even after PD initiation. We skipped CAPD when systolic blood pressure was below 80 mmHg. Therefore, we could actually exchange 2-3 times a day. BUN peaked out but remained high. Serum pH is normalized.

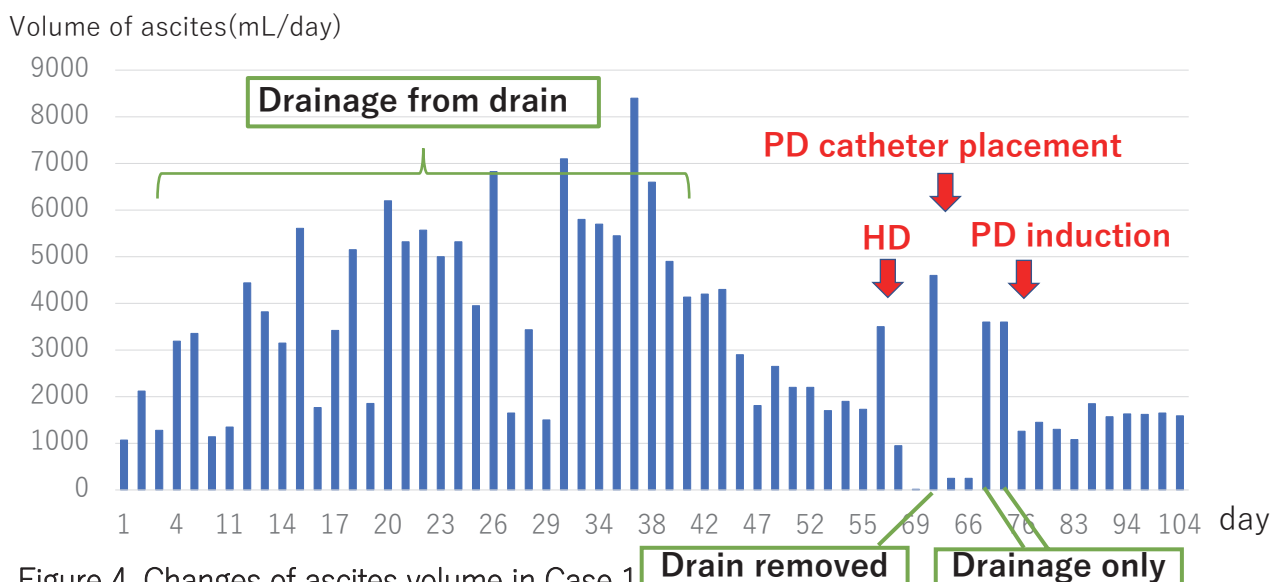


Figure 4. Changes of ascites volume in Case 1. Before PD catheter placement, we drained the ascites through a drain that had been placed after pancreatoduodenectomy, and removed the drain. After the catheter placement, we drained the ascites through the PD catheter, keeping the abdomen as empty as possible. On the fifth day after catheter placement, fluid infusion was started. The drainage volume, including ascites, stabilized at 1000-2000 mL/day.

3. 考察

PDは、HDに比し循環動態に及ぼす影響が少なく、肝硬変や難治性腹水を有する患者では、定期的な腹水穿刺の必要がなくなるといった利点があるが、感染症や過剰なアルブミン損失により、全体的な転帰悪化のリスクが高いため、安易に行うべきではないとされている²⁾。一方でVecciらは、PD患者の腹膜炎発症率、PD中断率、患者生存率について、肝硬変の有無による差はなかったと報告している³⁾。また、肝硬変・末期腎不全合併例について、HD/PD間での死亡率は同等もしくはPDで全死因死亡率が有意に低かったという報告や、腹水のある肝硬変患者のサブグループにおいて、PDはHDと比較して院内死亡率が有意に低かったという報告もあり、一定の効果が期待できる^{4,5)}。本例においてPD導入が予後を延長したかは不明であるが、PD導入によって腹水コントロールと腎代替療法を同時に施行でき、自宅退院を達成し得たことで、本人・家族の満足度は高かった。

<症例 2>

1. 症例

患者：79歳男性

背景：脳出血の既往があり高次脳機能障害がある。妻と次男が介護している。

既往歴：肝硬変、脳出血、慢性腎臓病。

現病歴：原因不明の慢性腎臓病で近医通院していたが、

血清Cre 9.67 mg/dLに増悪したため当科を紹介受診した。

身体所見：意識は清明。心音・呼吸音は異常ない。腹部は平坦、軟で圧痛はない。下腿浮腫や皮疹は認めない。

検査所見：尿所見；蛋白(2+)、潜血(2+)、蛋白1.9 g/gCre、赤血球5~9/HPF、血液所見；Hb 11.0 g/dL、白血球8100/ μ L、血小板9.2万/ μ L、血液生化学所見；TP 6.2 g/dL、Alb 3.4 g/dL、尿素窒素124.6 mg/dL、Cre 10.73 mg/dL、eGFR 4 mL/min/1.73 m²、AST 13 U/L、ALT 20 U/L、Na 135 mEq/L、K 5.0 mEq/L、Ca 8.4 mg/dL、IP 4.9 mg/dL、HbA1c 6.2%、CRP 0.29 mg/dL、胸腹部CT：肝硬変を認める。両側腎臓は萎縮している。

2. 臨床経過

腎機能低下の経過は慢性的であり、画像上すでに腎萎縮を認めることから慢性腎臓病の経時的増悪による末期腎不全と判断し第1病日に透析用カテーテルを留置してHDを開始した。しかし、既往の脳出血に伴う高次脳機能障害のため、透析中の安静を保つことができず、自己抜針のリスクがあったため、透析中は常時透析スタッフもしくは家族の付き添いを要した。家族に毎回付き添いでHD通院もしくはPDを提示したところ、PDを希望したため第26病日にPDカテーテル留置術を施行した。患者は右利きであり、患者がPDカテーテルを引っ張りやすく、介助者が清潔処置をしやすよう左側腹部に出口部を作製した(Figure 5)。また、本例では心機能が保たれていたため、HDでのレスパイト入院の可能性を考慮し、内シャント設

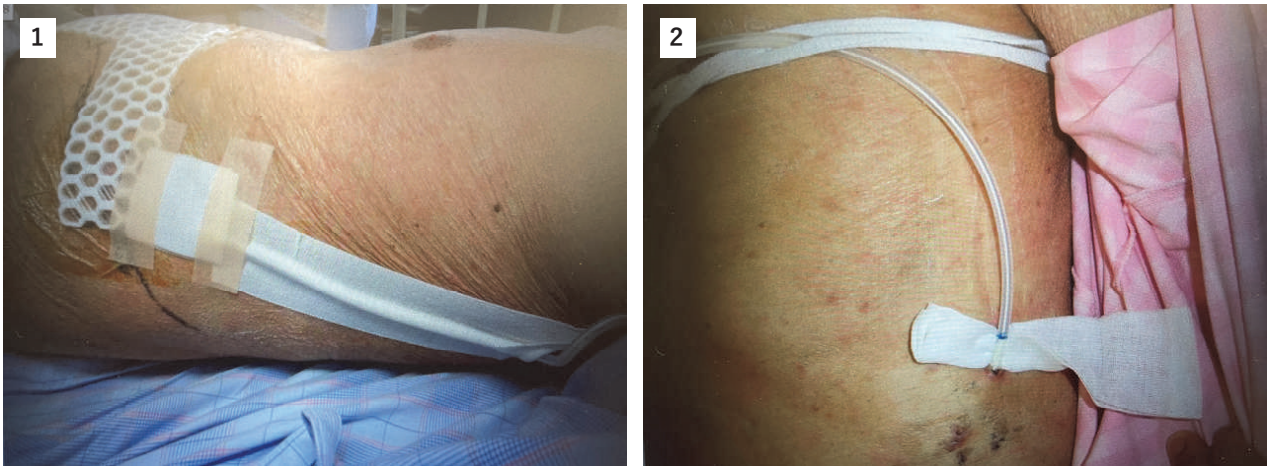


Figure 5. Photograph of the exit of the catheter in Case 2

Picture 1: taken from the left side of the patient.

Picture 2: taken from the upper left side of the patient.

The catheter outlet was placed on the left side of the abdomen, where it is difficult for the patient to pull the catheter and easy for the caregiver to clean the exit of the catheter.

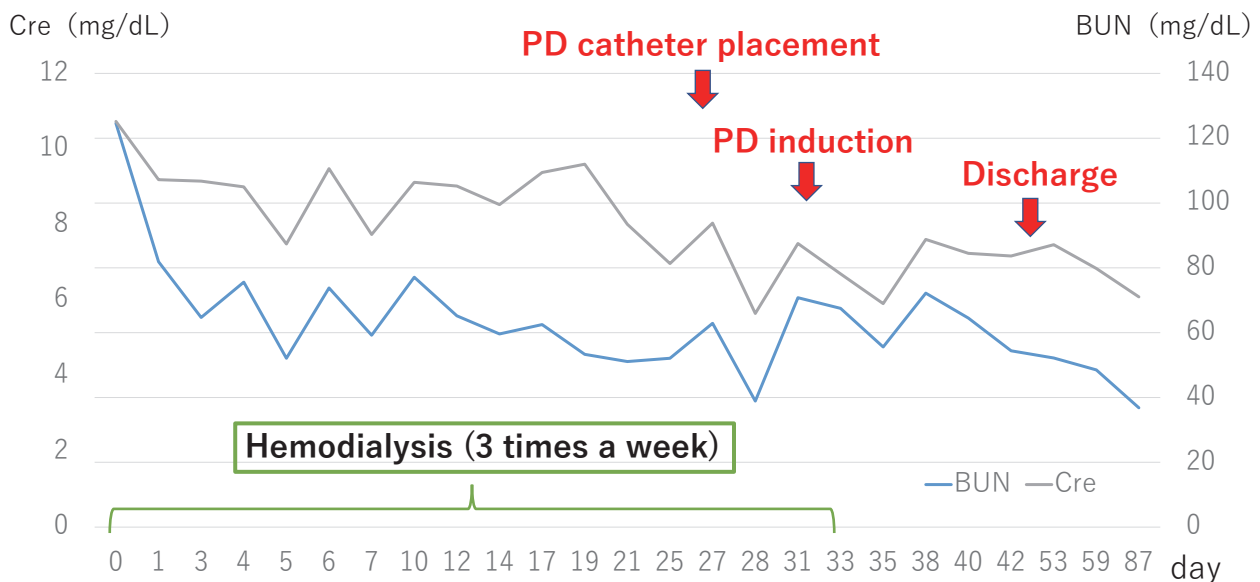


Figure 6. Changes of Renal function after hospitalization in Case 2

We started CAPD (1000 mL x 3 times /day) on the 32th day.

He was discharged on day 42. BUN stabilized at 40-50 mg/dL.

置術も施行した。第32病日にPDを開始し、BUNは40～50 mg/dLに改善し (Figure 6)、PD除水量は0.5～1 L/日で安定化した。第47病日に退院とし、PD導入後195日で逝去した。PD関連死は否定的だった。

3. 考察

わが国で行われた、Mini-Mental State Examination (MMSE) 24点以下を診断基準とした調査において、透析患者は非透析患者の2.57倍認知症リスクが高かつ

たと報告されている⁶⁾。2018年調査における透析患者全体の認知症合併割合は10.8% (65歳未満 1.8%、65～74歳 6.8%、75歳以上 22.7%)であり、65歳以上の認知症合併割合は増加傾向であり⁷⁾、認知症や高次脳機能障害によって安全にHDを継続できないためにLast PDが導入されるケースもいくつか報告されている⁸⁾。一般的にPDカテーテルの出口部は腹部前面に作成することが多いが、このような症例ではPDカ

テーテルの自己抜去が危惧されるため、PDカテーテル出口部作製において様々な試みがなされており、患者の手が届きにくい肩甲骨部や鎖骨下、胸部、腋窩などでの出口部作製が報告されている^{8,9,10}。これらの部位で出口部を作製する場合、チタニウムアダプターを用いたカテーテルの延長や、ウルトラロングカテーテルを要するが、本例では全長 650 mm のストレートカテーテル (JLS-1 (A) S3[®]、ハヤシデラ株式会社) を使用し、左側腹部に出口部を作製した。PD患者は、HD患者よりも認知症の累積発生率が低いと報告されており、その理由として短時間に電解質の濃度や体液量、血圧の変化が起こりやすいHDに比し、PDは緩徐に除質・除水を行うことができ、脳の急激な血流量変化が避けられることが想定されている¹¹。腎不全患者の認知症予防・認知症罹患後の安全な腎代替療法としてもPDは有用と言えるだろう。

II. 総合考察

これまで述べてきたように、Last PDはADLが低い患者や認知症のある患者でも自宅で比較的安全に透析療法が可能であるというメリットがある反面、介助者である家族の介護負担によるQOL低下、精神的負担が問題となる。PD患者の介護者の負担スコアは、移植患者の介護者と比較して有意に高く ($P<0.001$)、不安および抑うつ、睡眠の質の低下割合が有意に高い (それぞれ $P=0.039$ および $P=0.003$, $P=0.001$) という報告がある¹²。当院で2022年に導入したLast PD 5例のうち1例では、予後を規定するような併存疾患がなく、介護者が妻1人だったことから、妻への介護依存が高くなり、精神的に介護が負担となったためHDでのレスパイト入院を併用したり、APDからCAPDへ変更し、CAPDの交換回数を減らすなどの対応を要した (Table 1)。症例1は悪性腫瘍があり、ある程度の予後が見通せていたこと、症例2では介護者となる家族が2人いたことが、Last PDを良好に導入できた要因と考える。患者、家族が無理なくLast PD、Assisted PDを継続するにはレスパイト入院が可能な慢性期病院や、往診医、訪問看護ステーションとの連携が不可欠である。また、局所麻酔下にカテーテル留置術を行うことができる他の基幹施設との連携により、併存疾患を有したり、全身状態の悪い患者へのPD導入の閾値を下げることができる。今後はさらに地域連携を推進し、地域一丸となって多様化する患者のニーズに応じていきたい。

III. 結語

血圧低下や認知症などのためにHDが施行困難な場合や、頻回の腹水ドレナージを要したり、ADLの低下のために自宅退院が困難な腎不全患者に対して、Last PDやAssisted PDを検討することで終末期の患者に対する腎代替療法の選択肢を広げることが可能である。

文 献

- 1) 花房規男, 阿部雅紀, 常喜信彦, 他: わが国の慢性透析療法の現況 (2021年12月31日現在). 日本透析医学会雑誌 55(12): 665-723, 2022
- 2) Selgas R, Bajo MA, Del Peso G, et al: Peritoneal dialysis in the comprehensive management of end-stage renal disease patients with liver cirrhosis and ascites: practical aspects and review of the literature. *Perit Dial Int* 28(2): 118-122, 2008
- 3) De Vecchi AF, Colucci P, Salerno F, et al: Outcome of peritoneal dialysis in cirrhotic patients with chronic renal failure. *Am J Kidney Dis* 40(1): 161-168, 2002
- 4) Kim AJ, Lim HJ, Ro H, et al: Liver cirrhosis leads to poorer survival in patients with end-stage renal disease. *Korean J Intern Med* 31(4): 730-738, 2016
- 5) Nader MA, Aguilar R, Sharma P, et al: In-hospital mortality in cirrhotic patients with end-stage renal disease treated with hemodialysis versus peritoneal dialysis: a nationwide study. *Perit Dial Int* 37(4): 464-471, 2017
- 6) Watanabe Y, Kitamura K, Nakamura K, et al: Association between dialysis treatment and cognitive decline: A study from the Project in Sado for Total Health, Japan. *Geriatr Gerontol Int* 17: 1584-1587, 2017
- 7) 新田孝作, 政金生人, 花房規男, 他: わが国の慢性透析療法の現況 (2018年12月31日現在). 日本透析医学会雑誌 52(12): 679-754, 2019
- 8) 吉田 駿, 松永優里恵, 高桑章太郎, 他: 認知症のある高齢透析患者のバスキュラーアクセスの選択 - カフ型透析カテーテルの出口部を肩甲骨上に作製した2例 - . 日本透析医学会雑誌 54(8): 413-418, 2021
- 9) 窪田 実, 都筑優子, 田中希穂, 他: 背中の肩甲骨部にPDカテーテル出口 (Shoulder Blade Exit; SBE) を作製した. 腎と透析 65: 149-50, 2008

- 10) 深澤瑞也, 神家満学, 武田正之 : 透析アクセス(進歩と展望). 人工臓器 39 (1) : 59-62, 2010
- 11) Wolfgram DF, Szabo A, Murray AM, et al : Risk of dementia in peritoneal dialysis patients compared with hemodialysis patients. Perit Dial Int. 35(2) : 189-198, 2015
- 12) Avsar U, Avsar UZ, Cansever Z, et al : Psychological and emotional status, and caregiver burden in caregivers of patients with peritoneal dialysis compared with caregivers of patients with renal transplantation. Transplant Proc 45(3) : 883-886, 2013

(受付 2023年8月23日、採択 2024年1月18日)

IV. C P C 報 告

IV. CPC 報告

IV. 1 CPC 報告(2022年4月～2023年3月) (中央市民病院)

第1回中央市民病院CPC報告

1. 症 例 テ ー マ：常染色体優性多発嚢胞腎でフォロー中、くも膜下出血により死亡した一例

2. 診 療 科：脳神経外科

主治医・受持医：春原 匡

3. CPC 開催日：2022年4月20日

4. 発 表 者：臨床側(脳神経外科 春原 匡
初期研修医 春名孝太郎)
病理側(病理診断科 山下大祐
初期研修医 桂 健介)

5. 患 者：38歳、男性

6. 臨 床 診 断：常染色体優性多発嚢胞腎(ADPKD)

7. 剖 検 診 断：くも膜下出血、ADPKD

8. 臨 床 情 報：

1) 現病歴

時期は不明であるが、頭痛を1回/月の頻度で自覚していた。2年前にADPKDと診断。1年9ヶ月前のフォロー外来で施行された頭部単純MRI検査では明らかな脳動脈瘤なし。2日前から頭痛が出現、前日は普段通りの生活であり、就寝まで変わった様子なし。

入院当日早朝に就寝中に大きないびきがあり、妻が呼びかけても返答がなく救急要請。救急隊到着前に脈が消失し、その場で心肺蘇生開始。蘇生行為を行いつつ当院へ搬送された。

2) 既往歴・家族歴など

ADPKD、高血圧、慢性腎不全、睡眠時無呼吸症候群、高尿酸血症

3) 診療所見

身長191cm、体重98kg、BMI 26.9、BP 77/45mmHg、HR 128/min、RR 22/min、GCS E1V1M1、瞳孔 5/5mm (対光反射 -/-)、疼痛刺激で四肢に動作なし

4) 主な検査データ

・血算：WBC 9500/mL、Hb 13.4g/dL、Plt 23.6万/mL
・生化学：TP 6.3g/dL、Alb 3.4g/dL、T-Bil 0.4g/dL、AST 123U/L、ALT 186U/L、ALP 216U/L、 γ -GT 14U/L、BUN 26.1mg/dL、Cre 3.63mg/dL、Glu 474mg/dL、CRP 0.14mg/dL、LD 441U/L、CK 60U/L、トロポニン <0.010、NT-proBNP 80.4pg/

mL、Na 141mEq/L、K 4.2mEq/L、Ca 9.0mg/dL

5) 画像診断所見

・[頭部胸腹部単純CT検査]

くも膜下出血(SAH)、脳皮髄境界の消失、両側に多発する腎嚢胞、肝嚢胞、脾嚢胞

6) 経過・治療

画像上は全脳虚血、脳幹障害所見を認め、SAHに対する再破裂予防等の介入の意義は極めて低いと判断された。追加の検査や侵襲的処置を行わず、保存的に脳神経外科入院となった。新規のイベントはなく状態は徐々に悪化、入院10日目に徐脈となり永眠。

7) 手術所見

なし

8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

① SAHの原因

② ADPKDの進行度ならびに脳動脈瘤合併の有無

9. 剖 検 情 報：

1) 剖検診断と病理所見

[主病変]

1. くも膜下出血(脳底部～脳幹部の血管周囲にびまん性に血腫付着)

1-1. 脳底動脈紡錘状動脈瘤破裂

2. 常染色体優性多発性嚢胞腎(透析導入未)(左647g/右625g)

2) 担当病理医：原 重雄

10. 考 察：

ADPKDを背景とする紡錘形動脈瘤によるくも膜下出血により死亡した一例である。腎臓では残存糸球体は大型化しており、嚢胞形成に伴うネフロン荒廃により、残存ネフロンへの負担が増大していたことがうかがえる。ADPKDにみられる脳動脈瘤の大半は嚢状であり、紡錘形や解離性は稀である。Gietelingらが行った369例、462個のADPKDに合併した脳動脈瘤の文献レビューによると、発生部位は中大脳動脈かつ小さな動脈瘤の頻度が高く、ほとんどが嚢状動脈瘤で血管分岐部の紡錘状拡大(infundibular dilatation)が少数あったものの、解離性動脈瘤の合併は認めなかったとしている。

11. 参考文献：

- 1) Gieteling EW, Rinkel GJ : Characteristics of intracranial aneurysms and subarachnoid haemorrhage in patients with poly cystic kidney disease. J Neurol 250 : 418-423, 2003

第2回中央市民病院CPC報告

1. 症 例 テ ー マ : 肺扁平上皮癌と後腹膜腫瘍を併し死亡した一例
2. 診 療 科 : 呼吸器内科
主治医・受持医 : 永田一真
3. CPC 開催日 : 2022年6月15日
4. 発 表 者 : 臨床側 (脳神経外科 春原 匡
初期研修医 春名孝太郎)
病理側 (病理診断科 山下大祐
初期研修医 笹田剛史)
5. 患 者 : 78歳、男性
6. 臨 床 診 断 : 肺癌
7. 剖 検 診 断 : 肺扁平上皮癌
8. 臨 床 情 報 :

1) 現病歴

入院1ヶ月前より呼吸困難を徐々に自覚した。2週間前より呼吸困難が増強、1週間前より右鎖骨下に腫瘍を自覚した。他院を紹介され、右頸部から右鎖骨上窩、左頸部にかけてリンパ節転移疑い、右肺門部腫瘍陰影及びCEA13ng/mLを指摘された。肺癌が疑われ、精査目的で当院呼吸器内科紹介となる。

2) 既往歴・家族歴など

高血圧、心房細動、脂質異常症、胆石摘出術、肺炎 (5年前)

3) 診療所見

身長170cm、体重70.0kg、BMI 24.2、血圧 111/72mmHg、心拍数 94/分 (整)、SpO₂ 98% (室内気)、呼吸数 20/分、体温 36.9℃、GCS : E4V5M6、湿性咳嗽 (白色痰)、呼吸音 : 両肺
左上下肢麻痺、右共同偏視、手指に限局性の腫脹あり

4) 主な検査データ

・血算 : WBC 10900/μL、Hb 11.6g/dL、Plt 50.7万/μL
・生化学 : Alb 2.7g/dL、AST 22U/L、BUN 11.1mg/dL、Cre 0.97mg/dL、Glu 141mg/dL、CRP 10.17mg/dL、LD 484U/L、CK 27U/L、Na 135mEq/L、K 3.6mEq/L、Ca 8.3mg/dL、CEA 16.4ng/mL、CA19-9 13.9U/mL、SCC 51.5ng/mL、CYFRA 76.4ng/

mL、NSE 23.6ng/mL、ProGRP 67.2pg/mL、sIL-2R 1.665U/mL

5) 画像診断所見

- ・[胸部単純 X 線] 右肺門部腫瘍影、右上肺野中枢側に接する浸潤影、右葉間胸水
- ・[頸部胸腹部造影 CT 検査] 両側鎖骨上窩、右腋窩、右肺門～縦隔に結節・腫瘤、右肺上葉中枢側に辺縁不整の腫瘤様浸潤影、巨大な脂肪性骨盤内腫瘤、腸管膜低吸収結節、右肺優位の小結節影散在、右少量胸水、肝 S 8 に淡い LDA

6) 経過・治療

呼吸困難が増強し、安静時 wheeze が出現、浮腫が全身へ拡大した。生検で腺癌と判明し、緩和照射が開始されるも、呼吸状態は悪化した。徐々に意識レベルが低下し、入院 17 日目に永眠。

7) 手術所見

なし

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

- ① 原発性肺癌で良いか?
- ② 後腹膜巨大腫瘍は別腫瘍か?

9. 剖 検 情 報 :

1) 剖検診断と病理所見

1. 肺扁平上皮癌 (pT4N3M1b (LYM) , pStage IV A)
 - 1.1. 上大静脈症候群
 - 1.2. 腔水症 (右 : 800mL)
2. 後腹膜腫瘍 (15cm 大、高分化型脂肪肉腫)
 - 2.1. 横隔膜挙上 (右 : -15cm, 左 : -8cm)

2) 担当病理医 : 山下大祐

10. 考 察 :

右肺門部原発扁平上皮癌による閉塞性換気障害、右胸水貯留と後腹膜高分化型脂肪肉腫による拘束性換気障害により死亡したと考えられる一例である。

第3回中央市民病院CPC報告

1. 症 例 テ ー マ : 高度の腎盂腎炎から敗血症を併し死亡した一例
2. 診 療 科 : 泌尿器科
主治医・受持医 : 堤 尚史
3. CPC 開催日 : 2022年8月17日
4. 発 表 者 : 臨床側 (泌尿器科 堤 尚史
初期研修医 井尻健太)
病理側 (病理診断科 山下大祐
初期研修医 馬場晟弥)
5. 患 者 : 84歳、女性
6. 臨 床 診 断 : 腎盂腎炎

7. 剖 検 診 断：左腎膿瘍、腎盂結石

8. 臨 床 情 報：

1) 現病歴

老健施設入所中。入院3日前に発熱と皮疹あり、前医入院。胸部レントゲン検査で肺炎の疑いで抗生剤投与開始されたが発熱は持続、呼吸困難出現し、当院搬送。

2) 既往歴・家族歴など

慢性心不全、高血圧症、肺 MAC 症、骨粗鬆症、誤嚥性肺炎、胃食道逆流症、食道裂孔ヘルニア

3) 診療所見

身長 135cm、体重 36.8kg、BMI 20.2、血圧 83/57 mmHg、心拍数 106/分 (整)、SpO₂ 98 % (2L/min)、呼吸数 32/分、体温 38.8℃、GCS E4V2M3、末梢冷感あり、努力呼吸あり

4) 主な検査データ

・血算：WBC 22000/μL, Hb 10.1 g/dL, Plt 179000/μL
・生化学：TP 7.0 g/dL, Alb 2.2 g/dL, T-Bil 0.3 mg/dL, AST 28 U/L, ALT 11 U/L, CK 544 U/L, BUN 47.2 mg/dL, Cre 0.70 mg/dL, Na 137 mEq/L, K 3.8 mEq/L, Ca 8.1 mg/dL, CRP 31.3 mg/dL, LD 198 U/L

5) 画像診断所見

・[胸部単純 X 線検査]

明らかな気胸を認めず、心胸郭比 60.8%、右 CP angle やや鈍、右中下肺野に結節影、浸潤影あり

・[胸腹部造影 CT 検査]

肺野の慢性気道炎症・癒痕像は変化なし、両側腎臓腫大、左腎臓周囲脂肪織混濁あり
左腎盂結石、左腎盂・尿管軽度壁肥厚、左腎臓にやや不整な低吸収域あり、左腎門部軽度腫大リンパ節

6) 経過・治療

抗菌薬加療後、意識は GCS E4V4M6 に改善。血液検査所見は炎症反応を含め改善傾向。入院3日目、19:35の見回り時点では会話可能で食事摂取していた。21:25、見回りの際に呼びかけに反応なく橈骨動脈触知不良。21:35 心電図上 Asystole になった。心肺蘇生するも死亡確認。

7) 手術所見

なし

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

① 改善傾向にあった経過において、急激な経過で心停止をきたした主病態は何か？

② 腎盂腎炎/腎膿瘍の進行度について

③ 敗血症性ショックに伴う各臓器障害の程度

9. 剖 検 情 報：

1) 剖検診断と病理所見

1. 左腎膿瘍 (250g)

1.1. 左腎盂結石 (13mm 大)

1.2. 敗血症

2) 担当病理医：原 重雄

10. 考 察：

左腎盂結石に腎膿瘍を合併し、敗血症により死亡した一例である。両側腎に広範な炎症や膿瘍形成がみられた。臨床的には改善傾向にあったが、組織学的には高度の炎症であり、敗血症性ショックの責任病巣と考えられた。

第4回中央市民病院CPC報告

1. 症 例 テ ー マ：腹痛を契機に受診、急激な経過で死亡した一例

2. 診 療 科：腎臓内科

主治医・受持医：大崎啓介

3. C P C 開 催 日：2022年10月19日

4. 発 表 者：臨床側 (腎臓内科 大崎啓介
初期研修医 冨手生成)

病理側 (病理診断科 山下大祐
初期研修医 大森 碧)

5. 患 者：84歳、女性

6. 臨 床 診 断：腸閉塞疑い

7. 剖 検 診 断：非虚血性腸管壊死 (回腸～大腸全域)

8. 臨 床 情 報：

1) 現病歴

1回目受診当日朝は食事・飲水ともにできていた。午前買い物に出かけているときに腹痛とそれに続く黄褐色下痢が出現した。14時に腹痛が強いため当院 ER を受診した。

2) 既往歴・家族歴など

Ra 直腸癌 (8年前に低位前方切除術後)、虚血性大腸炎、関節リウマチ、高血圧

3) 診療所見

[1回目受診時]

身長 161cm、体重 45.6kg、BMI 17.6、血圧 139/76mmHg、心拍数 82/分 (整)、SpO₂ 98 % (RA)、呼吸数 16/分、体温 36.4℃、GCS E4V5M6、腹部平坦・軟 下腹部正中～左下腹部に圧痛あり

4) 主な検査データ

[1回目受診時]

- ・血算：WBC 900/ μ L, Hb 13.2 g/dL, PLT 20.7 万/ μ L
- ・生化学：ALB 4.3 g/dL, T-BIL 0.5 mg/dL, AST 35 U/L, ALT 27 U/L, CK 202 U/L, AMY 128 U/L, BUN 19.3 mg/dL, Cre 0.53 mg/dL, Na 137 mEq/L, K 3.7 mEq/L, Ca 9.5 mg/dL, GLU 193 mg/dL, CRP 0.05 mg/dL, LD 306 U/L

5) 画像診断所見

- ・[胸腹部造影CT検査：[1回目受診時]
大腸に多量の便塊著明。下行結腸周囲に脂肪織濃度上昇あり。左傍結腸溝や肝表・骨盤底の少量腹水貯留あり。

6) 経過・治療

CT所見から糞便性イレウスとしてグリセリン浣腸・摘便が施行され排便が得られた。帰宅後も腹痛は持続し、受診翌日、トイレに入って少量排便したあとすぐに意識消失。家族が救急要請、当院搬送となった。その後病棟内で心肺停止になり、DNARのため蘇生行為は行われず、死亡確認。

7) 手術所見

なし

8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

- ① 腹痛の原因は腸管虚血か?
- ② アシドーシスによるCPAが疑われるが病理学的に他の原因はあるか?

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

1. 非虚血性腸管壊死(回腸~大腸全域)

2) 担当病理医: 原 重雄

10. 考察:

NOMIによる腸管虚血ならびにショックにより死亡した一例であり、腹痛の原因はNOMIによる腸管虚血と考えられる。NOMIの病態は腸管血流の極端な低下や不均衡とされ、末梢血管攣縮も一因と考えられている。リスク因子は高齢、透析、心疾患、長期間の体外循環、薬剤、熱傷等があり、特に透析患者や開心術後のNOMIの報告は多い。NOMIの診断は難渋することが多く、本症例でも造影CTでは腸管虚血の所見は明らかではなかった。

11. 参考文献:

- 1) Yu H, et al. An update on acute mesenteric ischemia. Can Assoc Radiol J. 2023;74:160-171.

第5回中央市民病院CPC報告

1. 症例テーマ: 免疫チェックポイント阻害剤治療中に心筋炎、不整脈を合併し死亡した一例

2. 診療科: 腫瘍内科

主治医・受持医: 永井宏樹

3. CPC開催日: 2022年12月21日

4. 発表者: 臨床側(腎臓内科 永井宏樹

初期研修医 井上瑛介)

病理側(病理診断科 山下大祐

初期研修医 高折克至)

5. 患者: 69歳、男性

6. 臨床診断: 心筋炎疑い

7. 剖検診断: irAE心筋炎

8. 臨床情報:

1) 現病歴

2018年、右頸部腫脹で当院耳鼻咽喉科紹介受診し、中咽頭癌(p16+, cT4N2M0)と診断された。その後化学放射線療法を施行。2020年7月、健診で右下肺野の異常陰影を指摘され、多発肺転移、縦隔リンパ節転移を認めた。腫瘍内科へ紹介となり、緩和療法としての化学療法を開始されるも、細菌性肺炎を繰り返すため中止。2021年1月、Pembrolizumab単剤4コースでの治療を行ったがGrade 2の口腔粘膜炎/口唇炎(irAE)のため中止。2021年8月、CTで肺転移・リンパ節転移の増大を認めた。2nd-lineとしてPAC/Cetuximab計4コースによる加療を行うも胃瘻の瘻孔の増大のため中止。X年1月、2nd-lineとしてweekly PAC計2コースを継続するもGrade 2の末梢神経障害を認め中止。2022年5月3rd-lineとしてPembrolizumabによるre-challenge療法を開始され、来院1か月前に終了。来院2日前に38℃の発熱と倦怠感が出現し救急外来を受診。

2) 既往歴・家族歴など

中咽頭癌(2018年)、irAE(口唇炎/口腔粘膜炎)、末梢神経障害

3) 診療所見

[1回目受診時]

身長172cm、体重52.8kg、BMI17.8、体温36.9℃、血圧91/64mmHg、心拍数53/分(整)、呼吸数32/分、SpO₂98%(RA)、意識清明GCS E4V5M6、心音: 整過剰心音・心雑音ははっきりしない、肺音: 明らかなラ音なし

4) 主な検査データ

[1回目受診時]

- ・血算：WBC $10.5 \times 10^3/\mu\text{L}$, Hb 12.6 g/dL, Plt $19.8 \times 10^4/\mu\text{L}$
- ・生化学：TP 6.3 g/dL, Alb 2.8 g/dL, T-Bil 0.3 mg/dL, AST 172 U/L, ALT 63 U/L, ALP 253 U/L, γ -GT 46 U/L, アミラーゼ 31 U/L, BUN 36.0 mg/dL, Cre 1.06 mg/dL, CRP 10.04 mg/dL, CK 646 U/L, CK-MB 150.8 U/L, LD (IFCC) - 653 U/L, トロポニン 63.037 ng/mL, Na 133 mEq/L, K 4.5 mEq/L, Ca 8.8 mg/dL, Glu 132 mg/dL

5) 画像診断所見

- ・[経胸壁心エコー]
vEF 30% 前壁中隔領域を中心に高度な壁運動低下を認める
- ・[12誘導心電図]
完全右脚ブロック、V1-V6 ST上昇

6) 経過・治療

血圧低下と徐脈および心電図所見より貫壁性心筋梗塞が疑われた。緊急カテーテル検査では有意狭窄はなく、劇症型急性心筋炎やたこつぼ心筋症など他の鑑別が上がり、原因精査および心原性ショックの加療目的で循環器内科入院。入院後は血圧維持できていたが、翌日にかけて不整脈イベントが増加し、循環動態は増悪した。心筋炎への治療としてステロイド投与が検討されていたが、入院翌日の夜に心室細動を起し心肺停止。蘇生術に反応せず、死亡確認。

7) 手術所見

なし

8) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

- ① 心機能低下や伝導障害の原因は、PembrolizumabによるirAE心筋炎で良いか。
- ② irAE以外の機序の可能性を示唆する病理学的所見はあるか。
- ③ 中咽頭癌の進行程度。

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

1. 免疫チェックポイント阻害薬関連（irAE）心筋炎
2. 中咽頭癌（放射線治療後、原発巣再発無し）
右肺門部リンパ節転移/右中葉転移
3. 右肺中葉気管支肺炎

2) 担当病理医：原 重雄

10. 考察：

irAEによる急性心筋炎により死亡した一例である。免疫チェックポイント阻害剤によるirAEでは、大腸炎や間質性肺炎と比較し心筋炎の発生率は少ないものの致死率は高く、約50%との報告もある。発症時期は8-12週以内が多く、心電図異常とトロポニンの上昇の感度が高いため、早期発見ではこれらの検査によるスクリーニングが有用とされている。重篤な症状として心不全、不整脈（房室ブロック、VT/VF）をきたし、PVCやPQ延長などの前兆を伴うこともあるため、心電図モニターによる管理が必須である。治療はmPSL 1g/day × 3-5daysによるステロイドパルス療法が行われるが、今回は施行される前の急変および死亡のため、治療反応性の確認はできなかった。

11. 参考文献：

- 1) Darnell EP, Mooradian MJ, Baruch EN, Yilmaz M, Reynolds KL. Immune-Related Adverse Events (irAEs) : Diagnosis, Management, and Clinical Pearls. Curr Oncol Rep. 2020 22 : 39

第6回中央市民病院CPC報告

1. 症 例 テ ー マ：尿路感染、肺炎の経過中に多量の水様下痢を合併し死亡した一例
2. 診 療 科：総合内科
主治医・受持医：宮崎一鳳
3. CPC開催日：2023年2月15日
4. 発 表 者：臨床側（腫瘍内科 宮崎一鳳
初期研修医 岸 大智）
病理側（病理診断科 山下大祐
初期研修医 山田智彦）
5. 患 者：85歳、男性
6. 臨 床 診 断：偽膜性腸炎
7. 剖 検 診 断：偽膜性腸炎
8. 臨 床 情 報：
 - 1) 現病歴
入院7日前に自宅で転倒し、以降寝たきりの状態にあった。前日20時半頃に妻が最終無事確認。当日7時頃、布団がはだけた状態で右側臥位のまま目を見開いており発語がなく、救急要請となった。
 - 2) 既往歴・家族歴など
高血圧、QT延長症候群、多型性心室頻拍、慢性腎不全、緑内障、前立腺癌、認知症、てんかんの疑い
 - 3) 診療所見

身長 155cm, 体重 53kg, BMI 22.06, 体温 25.9℃, 心拍数 36/分(整), 血圧 151/102mmHg, 呼吸数 18/分, SpO₂ 測定不可, GCS E2V2M5, 末梢冷感著明, 項部硬直なし, 腹部軟, 右臀部および右膝に褥瘡あり

4) 主な検査データ

・血算: WBC 6500/μL, Hb 11.6g/dL, MCV 98fL, Plt 5.7万/μL

・生化学: TP 6.4g/dL, Alb 3.2g/dL, T-Bil 0.8mg/dL, AST 217U/L, ALT 108U/L, ALP 267U/L, γ-GT 9U/L, BUN 104.3mg/dL, Cre 1.88mg/dL, Na 149mEq/L, K 4.0mEq/L, Ca 9.1mg/dL, CRP 3.15mg/dL, Glu 123mg/dL, CK 4031U/L, CK-MB 164.4U/L, LDH 1039U/L

・培養検査(来院時採取)

尿: *Citrobacter koseri* 10⁵ CFU/mL

5) 画像診断所見

・[単純CT]

胸部: 右肺上葉に索状影あり

6) 経過・治療

入院後、低体温症に対して加温治療後意識は改善、尿培養の結果から抗生剤治療開始に伴い、全身状態は改善が見られたが、入院8日目に熱発あり。入院9日目に胸部レントゲンで左下肺野に浸潤影が新規に出現し、誤嚥性肺炎として抗生剤を変更した。入院10日目に腹痛、水様下痢(1日12回)が出現し、便中CD toxinが陽性であることから*C. difficile*感染症(CDI)の診断に至った。入院11日目に頻回嘔吐、血圧低下、乏尿を認め、劇症型CDIとしてバンコマイシンを2000mg/分4に増量し、メトロニダゾール静注を追加した。同日夕にショックバイタルとなり、入院12日目に永眠された。

7) 手術所見

なし

8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

- ① 劇症型CDIに伴う敗血症性ショックや腹水・浮腫などの血管外漏出により循環動態が破綻したと推測されるが、病理組織像に矛盾はないか。
- ② 外科的介入により救命しうる所見はなかったか。

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

1. 偽膜性腸炎 ショック状態

1-1. 血球貪食像

1-2. 感染脾

2. 腹水多量(800ml)

胸水(右400ml/左400ml)

3. 前立腺癌, GS3+3, pT2NXM0

2) 担当病理医: 原 重雄

10. 考察:

偽膜性大腸炎は抗菌薬関連腸炎の1つである。抗菌薬投与により正常腸内細菌叢が破壊され菌交代現象が起こり、腸内細菌の一種で多くの抗菌薬に耐性を有するCDが増殖し、本菌の産生するtoxinが腸管粘膜を傷害する。本症例は偽膜性腸炎に伴う敗血症性ショックにより死亡した一例である。病変の範囲や全身状態を考慮すると、外科的治療介入は困難と考えられた。

11. 参考文献:

- 1) Brown KA, Khanafer N, Daneman N, Fisman DN. Meta analysis of antibiotics and the risk of community associated *Clostridium difficile* infection. *Antimicrob Agents Chemother* 2013; 57: 2326-2332.

IV. C P C 報告

IV. 2 C P C 報告(2022年4月～2023年3月) (西市民病院)

第1回西市民病院C P C報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、星・高島
2. C P C 開催日：2022年4月26日
3. 発表者：臨床側（高島）
病理側（岡林）
4. 患者：80歳代、女性
5. 臨床診断：腸炎
6. 剖検診断：出血性腸炎
7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

- I. 出血性腸炎（小腸～大腸）
- II. 肺うっ血（左：280、右：230g）
- III. 大動脈粥状硬化症

1. 良性腎硬化症（左：90、右：90g）

IV. 腔水症

1. 胸水（左：100、右：50ml）

*空腸～大腸にかけて腸管は暗赤色に変色します。*組織所見では、粘膜上皮は変性によりほとんど認められません。炎症性細胞浸潤はほとんどみません。*小腸組織の細菌培養では、normal floraのみ認めました。*出血性腹水少量みしました。その細菌培養では、Escherichia coli, Pseudomonas putida, Xanthomonas maltophilia, Staphylococcus epidermidis, Enterococcus spp., Bacteroides fragilisをそれぞれ少数認めました。*心外観は著変ありません。組織でも著変は指摘できません。

2) 担当病理医：勝山

第2回西市民病院C P C報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、星・牛窪
2. C P C 開催日：2022年5月31日
3. 発表者：臨床側（牛窪）
病理側（勝山）
4. 患者：60歳代、男性
5. 臨床診断：膵癌
6. 剖検診断：膵癌
7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

- I. 膵癌（膵頭部癌、高分化型腺癌）
1. 同転移

- a. 肝（直径1cm以下多数の転移巣形成）

2. ERCPtube挿入術後状態

- a. 肝膿瘍形成

II. 腔水症

1. 腹水（3800ml）
2. 右胸水（200ml）
3. 心嚢水（20ml）

III. 肺うっ血水腫（左：720、右：770g）

IV. るいそう

- V. 良性腎硬化症（左：250、右：250g、左腎嚢胞を伴う）

*膵頭部に腫瘍をみます。組織では分化のよいadenocarcinomaの浸潤増生をみます。*肝には直径1cm以下多数の結節状病変を認めます。その組織所見では、膵頭部と同様の分化のよいadenocarcinomaをみます。*一部で壊死をみます。その内容物の細菌培養で、A.hydrophilia/caviae (1+), E.faecalis (2+) 認めました。*多量の腹水をみます。癌の播種はなく、低アルブミン血症によるものと思います。

2) 担当病理医：勝山

第3回西市民病院C P C報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、原・高田・杉村
2. C P C 開催日：2022年6月28日
3. 発表者：臨床側（杉村）
病理側（勝山）
4. 患者：80歳代、女性
5. 臨床診断：肝癌
6. 剖検診断：肝癌
7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

- I. 肝癌（肝細胞癌、高～中分化型、920g）

1. 同転移

- (1) 肺（左：380、右：400g、直径5mmほど多数）

2. 肝硬変（小結節性）

- (1) 門脈圧亢進症

- a. 脾腫（230g）

- b. 食道静脈瘤

- i. 同破裂（胃内に新鮮血充満）

ii. 止血術後状態

(2) 肝不全

a. 腹水 (2000ml、黄色透明)

II. 肺うっ血水腫

III. 良性腎硬化症 (左:150、右:150g)

*肝には小結節性肝硬変をみ、直径数mm以下多数の肝細胞癌をみます。*肺には直径5mmほどの小さな転移巣を多数みます。*胃内には新鮮血が充満します。*下部食道にゴムバンドによる食道静脈瘤止血術の処置跡をみます。*主気管支内には異物は認められません。*肺の組織所見では、腫瘍塞栓をまじえた肝細胞癌の転移を認めます。*多量の腹水をみますが、腹腔内は出血もなくきれいです。

2) 担当病理医: 勝山

第4回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医: 内科、星・坂口

2. CPC開催日: 2022年7月26日

3. 発表者: 臨床側(坂口)
病理側(勝山)

4. 患者: 70歳代、女性

5. 臨床診断: 大腸癌

6. 剖検診断: 大腸癌

7. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

I. 大腸癌 (S状結腸原発、低分化型腺癌、S状結腸ステント挿入術後状態)

1. 同転移

a. 腹膜播種 (腸管漿膜面に1mm大の白色小結節多数形成)

i. 癌性腹膜炎 (腹水細胞診陽性)

ii. 回盲部癒着

b. 肝(900g、直径2mmほどの白色結節形成)

c. 卵巣

d. 肺、脾、胃、腎 (顕微鏡的)

II. 肺うっ血水腫 (左:500、右:600g)

III. 子宮摘出術後状態

IV. 腔水症

1. 腹水 (2000ml)

2. 胸水 (左:500、右:600ml)

*S状結腸および回盲部は白色に変色し、硬化します。通過障害の原因と考えます。*その他腹膜面には1mmほどの白色小結節が多発し、播種と考えます。*肝にも2mmほどの白色小

結節が散在し、転移の所見です。*骨盤腔内にそれぞれ直径10cmほどの腹膜に覆われた転移性腫瘍を2個みしました。卵巣への転移と考えます。*肺、脾、胃、腎には脈管内に腫瘍塞栓をみます。*経口摂取が少なかった影響と思われますが、胃は小さくなっていました。

2) 担当病理医: 勝山

第5回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医: 内科、星・渡辺

2. CPC開催日: 2022年8月30日

3. 発表者: 臨床側(渡辺)
病理側(勝山)

4. 患者: 80歳代、男性

5. 臨床診断: アレルギー性気管支肺真菌症

6. 剖検診断: 敗血症

7. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

I. 敗血症 (血培にて、E.faecium, C.perfringens陽性)

1. 肺うっ血水腫および気管支肺炎 (左:680、右:700g)

a. 腔水症

i. 胸水 (左:800、右:2200ml、黄色透明)

ii. 腹水 (50ml、黄色透明)

iii. 心嚢水 (10ml、黄色透明)

II. 胆嚢炎

1. 経皮胆嚢内ドレーン挿入術後状態

III. 胃潰瘍

IV. 良性腎硬化症 (左:230、右:240g)

*両肺にうっ血水腫が目立ちました。その組織所見で気管支肺炎の所見が広がり、両上葉を中心に器質化が目立ちます。組織では真菌の増生は確認されません。*右肺からの細菌培養で、C.gleum, Xanthomonas maltophilia, C.albicans 少数を認めました。*両側に黄色透明な胸水が貯留します。右側胸水の細菌培養で、Xanthomonas maltophilia 少数認めました。*胃潰瘍部分の組織所見では悪性所見は認められません。*腎髄質に多発性小膿瘍をみ、一部では真菌増生をみます。敗血症に一致する所見と考えます。*肺うっ血水腫、多量胸水の原因としては、敗血症に伴う多臓器不全が考えられます。*胆嚢内ドレーン挿入術後状態でした。胆嚢壁には目だった肥厚はなく、また胆汁も膿性ではなく、明らかな炎症性所見は

もはや認められません。

2) 担当病理医：勝山

第6回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、原・佐藤

2. CPC開催日：2022年9月27日

3. 発表者：臨床側(佐藤)
病理側(勝山)

4. 患者：70歳代、男性

5. 臨床診断：肝癌

6. 剖検診断：肝細胞癌

7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 肝癌(肝細胞癌、Edmondson grade2、2380g(脾臓を含めて))

1. RFA治療後状態

a. 胆管十二指腸瘻形成

2. 血性腹水(4000ml)

II. 肝硬変

1. 門脈圧亢進症

a. 脾腫

III. 肺うっ血水腫(左：480, 右：480g)

IV. 良性腎硬化症(左：180, 右：180g)

*肝表面に瘻孔跡と思われる瘢痕様所見をみましました。*固定後の切り出しでは、十二指腸と肝門部において、高度の線維化、癒着をみましました。肝表面に直径2cmほどの嚢胞性病変をみまします。嚢胞壁は結合織です。内容は壊死に陥り腫瘍細胞は確認されません。*周囲肝には肝硬変とともに、径7cmを最大に多数の肝細胞癌をみまします。*肝門部で門脈内に腫瘍塞栓をみまします。*血性腹水多量にみましましたが、肝からの出血部位は確認されませんでした。*気管、主気管支内に異物はなく、また肺動脈血栓、塞栓はなく、酸素低下の原因は確認されません。*腹膜、消化管漿膜面には出血傾向はなく、きれいでした。

2) 担当病理医：勝山

第7回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、星・坂田・平田・高木

2. CPC開催日：2022年10月25日

3. 発表者：臨床側(高木)
病理側(勝山)

4. 患者：80歳代、男性

5. 臨床診断：肝癌

6. 剖検診断：転移性肝癌

7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 大腸癌術後状態(S状結腸癌、局所再発なし)

1. 人工肛門造設後状態

2. 同転移

a. 肝(3330g、直径19cm)

II. 肺うっ血水腫(左：380, 右：510g)

III. 腔水症

1. 胸水(左：800, 右：350ml)

2. 腹水(1600ml, 黄色やや濁)

IV. 心膠様変性(230g)

*肝には巨大な腫瘍をみまします。組織では、Adenocarcinomaの増生をみまします。HE所見はColon原発に矛盾しません。また特染にても、CK7(-), CK20(+), TTF-1(-)であり、Colon原発に一致します。*右肺には上葉にgranuloma形成をみまします。悪性所見はありません。下葉の腫瘍は指摘できません。*S状結腸の部分は癒着がありますが、局所再発はみましません。*黄色やや濁な腹水を多量にみましますが、癌の播種は認められません。

2) 担当病理医：勝山

第8回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、梅本・尾下
渡辺・森本

2. CPC開催日：2022年11月29日

3. 発表者：臨床側(森本)
病理側(勝山)

4. 患者：50歳代、男性

5. 臨床診断：骨髄異形成症候群

6. 剖検診断：骨髄異形成症候群

7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. MDS

II. 感染性心内膜炎(420g、手拳の1.2倍大、右心室内膜、心筋内に径1mmほどの真菌増生による小結節多数形成)

a. 真菌増生巣形成

1. 肺(左：830, 右：960g)

2. 腎(左：220, 右：220g)

3. 肝(1760g)

4. 大腸

III. 肺炎および肺うっ血水腫

*右心室内膜に多数の白色微小結節形成があり、三尖弁に vegetation をみます。心筋剖面にて左右心筋内に同様の微小結節を多数みます。組織では真菌増生の所見を認めます。感染性心内膜炎の所見です。

*細菌培養で、肺の検体から、Kle. pneumoniae (少数), S.epidermidis (少数), C.albicans (少数), M.gordonae, 心の検体から、Acinetobacter spp (少数), E.faecium (少数), C.albicans (少数)、肝臓の検体から、E.cloacae (少数), E.faecium (少数), Coryneform bacteria (少数), C.albicans (少数) 認めました。

2) 担当病理医：勝山

第9回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、藤井・桑取

2. CPC開催日：2023年1月31日

3. 発表者：臨床側(桑取)
病理側(勝山)

4. 患者：80歳代、男性

5. 臨床診断：悪性中皮腫の疑い

6. 剖検診断：器質化肺炎

7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 前立腺癌放射線治療後状態(再発なし)

II. 肺炎および器質化肺炎(左肺:400、右肺:830g)

1. 左胸膜プラーク

2. 両血性胸水(左:600、右:500ml)

III. 大腸憩室(多数)

IV. 肝褐色変性(1180g)

V. 良性腎硬化症および右腎嚢胞(左:180、右:280g)

*左壁側、臓側胸膜は白色に肥厚します。斑状にやや肥厚しますが、明らかな結節状、腫瘤状病変はみません。その組織では、fibrosisをみますが、中皮腫の所見はありません。*右肺上葉は硬化し萎縮します。その組織所見では、気腔内に浮腫状の granulation tissue 形成をみ、器質化肺炎の所見をみます。細菌培養では、E.cloacae (少数), Xanthomonas maltophilia (少数), C.Indrogenes (少数) 認めました。*その他の右肺の組織所見では、一部にはヒアリン膜形成をみ、DADの所見をみます。*大腸には多数の憩室形成があり、便が小結節状となり充満します。出血はありません。*前立腺の組

織所見では悪性所見は認められません。*その他腹腔は腹水、播種、出血傾向もみずきれいでした。

2) 担当病理医：勝山

第10回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、星・安達

2. CPC開催日：2023年2月28日

3. 発表者：臨床側(安達)
病理側(勝山)

4. 患者：80歳代、男性

5. 臨床診断：胆管癌

6. 剖検診断：胆管癌

7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 重複癌 胆管癌(中等度分化型腺癌)

1. 同転移

a. 肝臓(直径4cm以下複数)

b. 心外膜(直径3mm以下複数)

c. 癌性腹膜炎(腸管膜に直径2mm程度の無数の白色低隆起物散在)

d. 後腹膜

(i). 両側水腎症

(1) 左尿管カテーテル挿入術後状態

2. 総胆管ステント挿入術後状態 胃癌(再発なし)

II. 冠動脈硬化症(心重量:330g、手拳の1.1倍大、左前下行枝で約30%の狭窄)

III. 腔水症

1. 腹水(200ml、黄色透明)

2. 胸水(左:1200、右:1000ml、いずれも黄色透明)

3. 心嚢水(20ml、黄色透明)

*腸管膜、心外膜に小さな播種をみ、肝臓には大きな転移病変が認められました。*後腹膜は癌の浸潤により一塊となります。*気道内異物はありませんでした。*イレウスも認められません。*その他腹腔内は癒着もなくきれいでした。

2) 担当病理医：勝山

第11回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・受持医：内科、加藤・七條

2. CPC開催日：2023年3月28日

3. 発表者：臨床側(七條)
病理側(勝山)

4. 患 者：90歳代、女性
5. 臨 床 診 断：肝細胞癌
6. 剖 検 診 断：重複癌
7. 剖 検 情 報：

- 1) 剖検診断と病理所見

- I. 重複癌

1. 肝癌治療後状態（肝細胞癌、転移なし。890g）
 - a. 肝硬変
 - i. 食道静脈瘤
 2. 腹膜原発未分化悪性腫瘍（肉腫型悪性中皮腫の疑い。わずかに骨肉腫様所見をまじえる）
 - a. 癌性腹膜炎
 - b. 肺転移（左：510, 右：520g、最大3cmの転移巣形成）

- II. 良性腎硬化症（左：140, 右：140g）

- III. 腔水症

1. 腹水（2000ml、黄色透明）

*肝臓には肝硬変の所見をみました。肉眼的に腫瘍ははっきりしませんでした。組織で、肝細胞癌の所見をみました。肝細胞癌の転移はありません。*腹膜には、最大0.5cmの白色の小結節が無数にみられ、癌性腹膜炎の所見です。*小結節は直腸漿膜面、壁側腹膜下部に蜜でした。*その組織所見では、類円形からやや紡錘形、小型で異型性に乏しい核、少量の弱好酸性の胞体を有する腫瘍細胞の髄様の浸潤増生をみます。上皮性結合は明らかではなく、また腺管形成などの分化傾向はありませんが、肝でごく小さいですが、腫瘍細胞が類骨形成を示し、骨肉腫様所見をみます。*免疫染色では、以下の全ての抗体において陰性でした。

S-100,LCA,L26,CD3,SMA,Desmin,Vimentin,c-kit,ER,Calretinin,D2-40,CKAE1/AE3,EMA,EK5/6,p40,p53,p63,TTF-1,Synaptophysin, Chromogranin * 卵巣は腫大しません。その組織所見で悪性所見はみられません。*胃から直腸まで粘膜面を観察しましたが、腫瘍はみられません。腹膜原発の肉腫型の悪性中皮腫を疑います。*肺には最大3cmの転移巣をみます。

- 2) 担当病理医：勝山

IV. CPC報告

IV. 3 CPC報告(2022年4月～2023年3月)(西神戸医療センター)

第1回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：尿路感染・敗血症性ショックに伴うDIC・多臓器不全
2. 診療科、主治医・受持医：
泌尿器科 中保良太
初期研修医 林田珠奈、釜田菜那
3. CPC開催日：2022年12月19日
4. 発 表 者：臨床側(林田珠奈、釜田菜那)
病理側(高橋加奈、勝島浩紀)
5. 患 者：76歳、女性
6. 臨 床 診 断：尿路感染・敗血症性ショックに伴うDIC・多臓器不全
7. 剖 検 診 断：多臓器不全
8. 臨 床 情 報：

1) 現病歴

2022年1月X-21日に前医で大腿骨転子部骨折に対してγネイル手術が施行されていた。X日に腹痛・嘔吐が出現して外科へ転科したが、同日に尿路感染症による敗血症性ショックの診断で当院へ転院搬送された。尿路感染症による敗血症性ショックの診断で同日当院泌尿器科に緊急入院した。

2) 既往歴・家族歴など

既往歴：高血圧、糖尿病、脂質異常症、狭心症(PCI後)、大腿骨転子部骨折(γネイル術後)、関節リウマチ、子宮脱

内服歴：アムロジピン、スピロラクトン、フロセミド、トラゼンタ、アトルバスタチン、アテノロール、バイアスピリン、クロピドグレル、フェブリク、フォリアミン、プロチゾラム、プレドニゾロン、メトトレキサート、カルボシステイン、ランソプラゾール

3) 診療所見

GCS：E4V5M6、従命可能、BT：36.1℃、HR：140-150 bpm、BP：100/80 mmHg (DOA 3 ml/h)、SpO₂：100% (2L/min O₂) RR：20-30 bpm
末梢冷感あり、CRT > 3sec、網状皮斑(+)、瞳孔：右4mm、左4mm、対光反射正常、膀胱カテーテル内血尿流出

4) 主な検査データ

【血液検査】

WBC 29800 /μl, RBC 392万 /μl, Hb 13.9 g/dl, Ht 42.4%, Plt 14.3万 /μl, PT-INR 1.4, APPT-秒 46秒, 血糖 400 mg/dl, CRP 28 mg/dl, TP 6.5 g/dl, Alb 3.0 g/dl, T-Bil 1.5 mg/dl, AST 61 IU/l, ALT 62 IU/l, ALP 227 IU/l, LDH 373 IU/l, CK 17 IU/l, AMY 121 IU/l, BUN 91 mg/dl, Cr 2.79 mg/dl, eGFR 13.5 ml/分/1.73, Na 122 mEq/l, K 6.1 mEq/l, Cl 84 mEq/l, Ca 8.9 mg/dl

【尿検査】

比重 1.017, pH 6.0, 糖(4+), 蛋白(2+), 潜血(3+), ウロビリノーゲン(±), ビリルビン(-), ケトン体(-), 亜硝酸塩(-), 白血球(2+)

5) 画像診断所見

- ・【胸部X線検査】明らかな浸潤影、胸水なし、CRT：60.0%、心拡大あり
- ・【心電図】HR：122bpm、心房細動、aVR ST elevation、V5・V6 ST depression
- ・【胸部単純CT】腎梗塞・脾梗塞・腸管虚血あり、多発梗塞の指摘

6) 経過・治療

救急外来到着後に細胞外液を投与するも血圧を維持できず、すぐにノルアドレナリンとピトレスシンの持続投与を開始し、尿路感染症に対してMEPMによる抗菌薬治療を開始した。腎機能低下・尿様確保のためにFDLを挿入し、CHDFを開始した。また、ショックに対してステロイド治療を開始した。経時的に多臓器不全となり、来院後18時間後に心停止となった。

7) 手術所見

なし

8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

死因の検索と敗血症と多発梗塞の関連について

9. 剖 検 情 報：

1) 剖検診断と病理所見

[主病変]

1. 腹膜炎、膿性腹水(90mL)、糖衣脾(160g)
2. 敗血症
3. DIC(胃噴門側小弯点状出血、全身の多発する紫斑、小腸の領域性壊死性変化、近位尿細管壊死(rt 150g, lt 200g)、脾梗塞(160g))

[副病変]

陳旧性心筋梗塞 左側壁 (450g)、肺気腫 (rt 350g, lt 250g)、脂肪肝 (810g)、大動脈粥状硬化症 (高度)、冠動脈粥状硬化症 (高度)

2) 担当病理医：高橋加奈、勝嶋浩紀

3) 病理医からのコメント

感染の主体は膀胱で、炎症は腹膜へ波及し、腹膜炎を引き起こした。腎臓では感染を示唆する所見を認めなかったものの、糸球体の糸球壁内に fibrin 血栓を認め、DIC であった。腎機能悪化の原因は近位尿細管壊死と考える。DIC によると推察される脾梗塞もみられた。循環動態悪化により全身の諸臓器がうっ血し、重量増加を来している。明らかな細菌叢は確認できなかった。

10. 考察：本症例の病態生理と尿路感染症における死亡リスクについて

本患者は、糖尿病・免疫抑制剤使用中という背景をもつ高齢女性が尿路感染症を発症し、敗血症性ショックへ進行し、DIC、多臓器不全に陥ったことで、死亡に至ったと考えた。

本症例は糖尿病、免疫抑制剤の使用による易感染状態が背景にある複雑性尿路感染症であった¹⁾。また、尿路感染症の診断と SOFA スコア 7 点であり、敗血症の診断を満たし、昇圧剤を用いないと体内循環を保つことができない状態であったことから、本患者は敗血症性ショックの状態であった²⁾。

さらに、本患者は DIC の診断を満たしていた。DIC は、全身性・持続性の著しい凝固活性化を来し、細小血管内に微小血栓が多発する病態である。虚血性の多臓器障害が引き起こされるため、重篤とされている。敗血症における DIC 合併率は 22.4 ~ 40.7 %、死亡率は 40 ~ 46.2 % とされている³⁾。敗血症による DIC の治療については、基礎疾患の治療が最も重要であり、抗凝固療法、補充療法、抗線溶療法なども考慮されるが、有効性や安全性に関しては議論の余地がある⁴⁾。本症例でも抗生剤や輸液、CHDF などによる感染症に対する加療を行った上で、追加の治療法の導入を議論している最中に、DIC による多臓器不全が進行して死に至ったと考えられた。

本邦における尿路感染症での医療機関入院患者の中で、男性、高齢、入院病床 < 400 床の病院、非大学病院、冬季の入院、Charlson Comorbidity Index ≥ 4 、BMI < 18.5、入院時の意識障害、救急車の利用、DIC、敗血症、腎不全、心不全、脳血管障害、肺炎、

悪性腫瘍、抗糖尿病薬の使用、ステロイドの使用、免疫抑制剤の使用などで死亡率が上昇したとの報告があった⁴⁾。本症例でも、半数以上が当てはまるため、比較的予後不良リスクが高かったことが考えられた。

11. 参考文献：

- 1) Álvarez-Artero et al. : Urinary tract infection caused by Enterococcus spp. : Risk factors and mortality. An observational study. Revista Clínica Española (English Edition) 221 : 375-383, 2021
- 2) The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2020. (J-SSCG2020)
- 3) Bauer M, et al. Critical Care 24 (1) : 239, 2020
- 4) The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2020 (J-SSCG 2020) . J Intensive Care 9 (1) : 53, 2021. doi : 10.1186/s40560-021-00555-7.

第2回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：原因不明の急性呼吸窮迫症候群 (ARDS)をきたし死亡した1例
2. 診療科、主治医・受持医：
呼吸器内科 瀬瀬力也
初期研修医 杉本采加、花宮祥太
3. CPC 開催日：2023年1月23日
4. 発 表 者：臨床側 (杉本采加、花宮祥太)
病理側 (高橋加奈、勝嶋浩紀)
5. 患 者：78歳、男性
6. 臨 床 診 断：ARDS
7. 剖 検 診 断：びまん性肺胞障害、びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫
8. 臨 床 情 報：
 - 1) 現病歴
20XX年2月頃に全身の倦怠感と食欲低下、3月頃に体動時呼吸苦が出現した。4月30日に前医を受診し、汎血球減少を認めたため当院総合内科紹介受診予定であった。5月10日、紹介受診した際に、発熱と低酸素血症があり、同日当院呼吸器内科に緊急入院した。
 - 2) 既往歴・家族歴など
既往歴：緑内障
内服歴：津村十全大補湯 7.5g、タリオン 10mg 2錠 1日2回、

3) 診療所見

General appearance bad, 顔色不良, GCS: E3V4M6
BT: 38.5°C, HR: 113 bpm, BP: 87/45mmHg,
RR: 34回, SpO₂: 80% (room air)

眼瞼結膜貧血あり、下口唇に2カ所皮下出血あり、
左頸部リンパ節腫脹あり、圧痛なし、軟脾腫 ++

4) 主な検査データ

【血液検査】

WBC 1500 / μ l, RBC 219 万 / μ l, Hb 6.6 g/dl, Ht 21.7%, Plt 2.8 万 / μ l, MCV 99%, MCH 30.1%, MCHC 30.4%, NUET 68%, LYMPH 23.3%, MONO 8.7%, EOS 0.0%, BASO 0.0%, 網赤血球 77%, ATYLMPH 0.5%, BLAST 0%, PROMYELO 0%, MYELO 1.5%, METAMYELO 0.5%, EBL/100WBC 4%, PT-INR 1.2, APPT- 秒 44 秒, 血糖 149 mg/dl, CRP 8.9 mg/dl, TP 4.1 g/dl, Alb 2.2 g/dl, T-Bil 2.3 mg/dl, AST 73 IU/l, ALT 17 IU/l, ALP 62 IU/l, LDH 675 IU/l, CK 84 IU/l, AMY 45 IU/l, BUN 38 mg/dl, Cr 0.98 mg/dl, eGFR 56.8 ml/分/1.73, Na 141 mEq/l, K 3.9 mEq/l, Cl 109 mEq/l, Ca 7.2 mg/dl, PCT 0.92 ng/ml, IP 3.9 mg/dl, Mg 2.3 mg/dl, Fe 122 μ g/dl, UIBC 22 μ g/dl, 血清銅 176 μ g/dl, 亜鉛 33 μ g/dl, フェリチン 9580 ng/ml, β -D グルカン 10 pg/dl, KL-6 426 U/ml, sIL-2R 38700 U/ml, Fib 197 mg/dl, TG 333 U/ml, P-ANCA 141 mEq/l, C-ANCA 3.9 mEq/l, SP-D 109 mEq/l, IgG 0.92 ng/dl, IgA 3.9 mg/dl, IgM 2.3 mg/dl, C3 122 μ g/dl, C4 22 μ g/dl, DNA 抗体 10 pg/ml, 抗核抗体 7.2 mEq/l,

【血液培養】 2セット 陰性

【尿培養】 陰性

【痰培養】 Normal flora (3+)

5) 画像診断所見

・【胸部 X 線検査】 CP angle: dull、両側下肺野浸潤影あり、心拡大あり

・【胸骨盤造影 CT】 両側胸水貯留を認める。両側肺に結節状の浸潤影多発を認める。腹部では著明な脾腫を認める。脾臓に、一部低濃度領域を認めるが、脾動脈本幹に明かな血栓指摘できず。この低濃度領域は急激な脾腫の進行によるものを考える。腹部傍大動脈リンパ節腫脹を認める。両側腎臓の濃度が不均一であり、淡い低吸収域を認める。2年前との比較で、全体的に骨濃度上昇を認める。

6) 経過・治療

救急外来では、造血器腫瘍が背景にあり、腫瘍

浸潤による I 型呼吸不全と septic shock の可能性を考慮し AZM 500mg、VCM 1g、MEPM 3g の抗菌薬治療、ソルメドロール 500mg のステロイドパルスを開始した。呼吸不全に対しては NPPV を装着した。血球減少に関しては赤血球輸血、血小板輸血を開始した。5月14日からは、プレドニン 60mg へと変更した。ステロイドパルスにより5月16日には LDH 552 (U/I) まで低下を認め、再度撮影した造影 CT でも肺結節状の多発浸潤影は減少したが、びまん性肺胞障害によるものと思われる肺水腫が出現した。5月18日に骨髄穿刺、生検を施行したが、少数の大型異型細胞を認めるものの診断には至らなかった。その後、呼吸不全が進行し、5月21日に死亡を確認した。

7) 手術所見

なし

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

- ・進行性に ARDS が悪化し、死亡に至った原因の解明。
- ・背景にあると予想される造血器腫瘍の解明。
- ・直接死因として、感染症の合併や心血管疾患の関与はあるか。

9. 剖 検 情 報 :

1) 剖検診断と病理所見

[主病変]

1. リンパ腫、B 細胞性リンパ腫 (同浸潤; 肺、腎臓、肝臓、腹腔内リンパ節)
2. びまん性肺胞傷害 (rt; 780g, lt; 720g)

[副病変]

1. 諸臓器鬱血 (肝臓 (1300g)、脾臓 (440g)、腎臓 (rt; 170g, lt; 160g))
2. 大動脈粥状硬化症 (軽度)、冠動脈回旋枝粥状硬化症 (高度)
3. 心虚血性変化 (450g, 後壁及び中隔)
4. 出血傾向 (皮膚、食道、胃、小腸、結腸)
5. 腔水症 (胸水 rt; 800mL lt; 600mL、腹水 400mL、心嚢液 10mL いずれも血性)

2) 担当病理医: 高橋加奈、勝馬浩紀

3) 病理医からのコメント

肺内に中～大型の異型 B 細胞性異型リンパ球様細胞を認め、リンパ腫と考えられた。びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫が推定され、腎臓、肝臓にも認めた。腹部の腫大するリンパ節では CD30 陽性の大型異型リンパ球様細胞を認めた。肺は両側で滲出期～器質化期のびまん性肺胞傷害

(DAD) を認める。DAD は約3週間前から発生したものと推察される。DAD 像は広域に見られ、呼吸不全を呈して死に至ったと考える。また、諸臓器（肺・肝臓・脾臓・腎臓）重量増加、うっ血、体腔液貯留からは、右心不全状態も推察される。

10. 考察：ARDSと本症例の死因との関連について

ARDSは①急性発症の、②胸部画像上で両側性陰影を呈し、③左心不全のみで病態を説明できない、④低酸素血症であり、左記の4項目を含むベルリン定義で診断される¹⁾。病態としては、炎症細胞が肺胞腔内及び間質へ流入し、オキシダントや炎症メディエーターを放出することで肺胞上皮障害を生じる。その後硝子膜を形成し、肺胞が虚脱するため低酸素血症を呈する²⁾。原因は多岐にわたり、主要なものだと敗血症や感染性肺炎、膵炎、悪性腫瘍などが挙げられる。造血管腫瘍に関しては、リンパ腫そのものが原因でARDS発症する例も極めて稀であるが報告がある³⁾。治療は呼吸補助療法や、低容量副腎皮質ステロイド投与が推奨されている⁴⁾。

本症例は、ベルリン定義を満たすことからARDSを来していたと考える。ARDS発症の原因として、汎血球減少を認めていたことから易感染性に伴う感染症が第一に挙げられたが、各種培養陰性など感染の所見を認められなかった。初期の抗菌薬投与による影響も示唆されるが可能性としては低いと考えた。受診前からの汎血球減少、受診時にsIL-2R高値、脾腫、頸部および傍大動脈リンパ節腫脹を認めたことから背景にリンパ腫を発症していた可能性があり、ARDSのその他原因疾患は積極的には疑われない病歴からリンパ腫が原因と考えた。従って、本症例はリンパ腫によるARDSを発症し、呼吸不全となり死亡に至ったと考えた。

11. 参考文献：

- 1) ARDS Definition Task Force et al. JAMA 307 : 2526-33.2012
- 2) Dedong kang et al. Hum Pathol. 40 : 1618-1627.2009
- 3) Mitsumasa Kishimoto et al. Am J Med Sci. 328 : 354-6.2004
- 4) ARDS Clinical Practice Guideline 2021. J Jpn Soc Intensive Care Med. 29 : 295-332, 2022.

第3回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：原因不明の体重増加、貧血が遷延しうっ血性心不全で死亡した一例
2. 診療科、主治医・受持医：
呼吸器内科 上領 博
初期研修医 秋岡由莉、久保萌加
3. CPC 開催日：2023年1月30日
4. 発 表 者：臨床側（秋岡由莉、久保萌加）
病理側（勝冨浩紀）
5. 患 者：70歳、男性
6. 臨 床 診 断：うっ血性心不全
7. 剖 検 診 断：うっ血性心不全、悪性中皮腫再発なし
8. 臨 床 情 報：
 - 1) 現病歴
2020年9月に右胸壁腫瘍に対して手術切除され、病理検査にて肉腫型悪性胸膜中皮腫と診断された。術後化学療法（CDDP+PEM）を2コース施行した時点で以前から認められていた貧血の増悪、腎不全、全身浮腫が出現した。2021年X-6月より症状がさらに悪化し、同年X-4月に精査加療目的に入院した。原因は不明であったが、症状が軽快したため退院し外来フォローされていた。2021年X月Y日、著明な全身浮腫、体重増加、倦怠感を認めたため、当院呼吸器内科に緊急入院した。
 - 2) 既往歴・家族歴など
高血圧、心房細動、肉芽腫型悪性胸膜中皮腫（69歳 2020年9月診断）
 - 3) 診療所見
HR 120 /min, BP 122 / 73 mmHg, SpO₂ 95%, 体重 114.7 kg, 身長 180 cm, 労作時呼吸困難あり、全身浮腫、掻痒感伴う湿疹あり
 - 4) 主な検査データ
【血液検査】
Hb 7.5 g/dl, MCV 95 fl, Alb 2.2 g/dl, Cr 2.98 mg/dl, Fe 19 µg/dl, UIBC 1970 µg/dl, TSH 6.758 µIU/ml, FT4 0.87 ng/dl, フェリチン 1970 ng/ml, エリスロポエチン 58.5 pg/ml
【骨髄検査】
正形成骨髄、芽球1.0%、明らかな異形成なし
 - 5) 画像診断所見
・【胸部レントゲン】入院時心胸郭比82%、両側胸水貯留あり

・【胸部～骨盤部 CT】胸腹壁～両側大腿部、陰部などに皮下軟部組織の浮腫性変化あり。左胸水貯留、腹水貯留、心嚢液貯留を認める。

6) 経過・治療

初診時から Hb 11 と貧血傾向だったが手術化学療法を経て増悪し、これに従って体重も増加した。全身浮腫著明で倦怠感も強かったために、X-4 月精査加療目的で入院した。精査するも貧血の原因は明らかにならず、輸血・利尿剤投与により、体重減少、自覚症状が改善したために外来にてフォローとしていた。しかしながら全身浮腫と体動困難が有り、X 月 Y 日に緊急入院となり、貧血に対し対症療法的に輸血を行ったが改善に乏しかった。全身浮腫に対しては、今までの内服に追加しフロセミド錠追加、漸増して利尿を促進していたが効果なく体重増加は遷延した。入院後も倦怠感は増悪しており、小康状態が続いていた。Y+33 日目に、貧血や慢性炎症に対して R3PE 症候群等の免疫機序の関与を疑いステロイドを開始した。やや改善傾向と思われたが、左胸水貯留や右胸壁除去によるフレイルチェストのため呼吸機能低下しており、Y+34 日目に心肺停止。ROSC 後 ICU に入室し気管切開し呼吸管理を行っていたが Y+47 日目に死亡した。

7) 手術所見

なし

8) 症例の問題点 (剖検で解明したかった事項)

慢性炎症の原因として、悪性胸膜中皮腫の再発を含め、癌がないかどうか。全身浮腫や貧血の原因精査のため。

9. 剖 検 情 報：

1) 剖検診断と病理所見

[主病変]

1. 悪性中皮腫術後、残存再発なし
2. 心臓左室肥大、右房拡張、心筋変性 (600g)
3. 腔水症 (心嚢液貯留; 600mL, 腹水; 6750mL, 左胸水; 1000mL)
4. 諸臓器鬱血 (肝 (1650g)、脾 (280g)、腎 (右: 200g, 左: 200g)、肺 (左: 450g))

[副病変]

1. 気管支粘膜びらん、気切部周囲びらんあり
 2. 粥状硬化症 (大動脈: 高度、冠動脈: 軽度)
 3. 腺腫様甲状腺腫
- 2) 担当病理医: 高橋加奈、勝冨浩紀
- 3) 病理医からのコメント

肉眼的に、右肺は術後状態で胸膜との癒着を著明に認めた。心臓は著明に腫大し、左室壁肥厚や右房拡張がみられた。諸臓器は鬱血し重量増加が目立った。また、咽頭～気管支分岐部にかけて閉塞起点はなく、気切部周囲や左主気管支粘膜にびらんを認めた。胸腹水や心嚢液は貯留し、腔水症の状態であった。

組織学的には、観察範囲内では悪性胸膜中皮腫の再発を示唆する腫瘍性病変は認められなかった。アスベスト小体は見出せなかった。心筋には変性が見られるとともに、心筋周囲には線維化が見られたが、心筋梗塞を示唆する領域性の線維化は認められなかった。肺、肝、脾など諸臓器に鬱血の所見が認められた。特に肝鬱血が高度であった。

腔水症の所見も合わせて循環不全の状態であり、死因と考えられた。

10. 考 察：

①本症例の考察

本症例では、まず、何らかの慢性炎症を背景に、貧血や全身の浮腫、胸水・腹水の悪化をきたした。また、慢性心房細動による心機能低下がベースとして存在しており、貧血や慢性腎不全が契機となって、うっ血性心不全を引き起こした。最終的に、うっ血性心不全や、胸水・腹水による呼吸状態の悪化があるところに、フレイルチェストが重なり、換気不全となって死亡したと考えた。

②全身浮腫について

全身浮腫の原因は大きく 3 つある。1 つめは、低蛋白血症によるもの、2 つめが、血管内静水圧の上昇によるもの、3 つめが、間質液膠質浸透圧の上昇によるものである。今回の症例では、腎不全や心不全、貧血があり、循環血漿量増加や静脈還流障害を起こしたため、血管内静水圧が上昇し、全身浮腫の原因となったと考えた。

③腎不全について

腎不全に関しては、悪性胸膜中皮腫の治療のためシスプラチンを使用しており、それによって腎機能がさらに悪化したと考えた。

④貧血・心不全について

感染症、炎症、または悪性腫瘍の存在下では、炎症性サイトカインが産生され、鉄吸収低下や、エリスロポエチンの低下による赤血球産生能低下を引き起こし、貧血が起こる原因となることがある。今回の症例では、フェリチンが上昇しており、何らかの慢

性炎症を背景として貧血が増悪したと考えた。貧血は心負荷の原因となりやすく、高拍出性心不全の原因と考えられている。しかし、貧血はヘモグロビン5g/dL以上であれば、それ単体で心不全を引き起こすことは滅多になく、弁膜症や左室機能障害が背景にあることが多い。本症例では、ヘモグロビンは、6～9g/dLであり、慢性心房細動による心機能低下をきたしていたところに、貧血がさらに負荷をかけたと考えるのが妥当ではないかと考えた。

⑤フレイルチェストについて

本症例では、悪性胸膜中皮腫の手術の際に、右第2～6肋骨切除を行っており、フレイルチェストのような状態となっていたため、人工呼吸を行っても、肺の拡張が得られにくい状態が続き、低酸素血症が進行し、死亡したと考えた。

⑥慢性炎症について

今回、明らかな慢性炎症の原因は特定できなかったが、悪性腫瘍との合併をきたし、高齢者に強い浮腫を起こすとされるR3PE症候群様の疾患が背景にあるのではないかと考え、プレドニゾロンを投与した。結果、CRPや貧血の改善を認めたが、症状や予後から考えると、典型的ではないため、原因として特定はできなかった。

11. 参考文献：

- 1) Up to Date：mechanism for anemia of chronic disease/anemia of inflammation. Heart Fail Clin. 6 (3)：279-88, 2010
- 2) J Clin Invest. 24 (3)：332, 1945.
- 3) J Am Coll Cardiol. 39 (11)：1780, 2002
- 4) Clin J Am Soc Nephrol. 11 (7)：1173-1179, 2016

第4回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：DICを伴う敗血症性ショックで死亡した一例
2. 診療科、主治医・受持医：一般内科 小林拓哉
3. CPC開催日：2023年3月6日
4. 発 表 者：臨床側(阪上慎治郎、高田康平)
病理側(高橋加奈、勝島浩紀)
5. 患 者：87歳、男性
6. 臨 床 診 断：敗血症性ショック
7. 剖 検 診 断：敗血症
8. 臨 床 情 報：
 - 1) 現病歴
20XX年7月18日10時頃、悪寒戦慄、嘔吐が

出現し、腰背部痛も強いので救急外来を受診した。血液検査で炎症反応上昇を認めず、尿検査・胸部X線・躯幹部造影CTでも明らかな感染所見を認めず、腰背部痛の原因も指摘できなかった。ジクロフェナク挿肛・アセリオ投与で症状は改善したため、血液培養・尿培養を採取のうえ帰宅となった。帰宅直後から気分不良が続き、意識レベル低下を認めたため、23時頃救急要請された。

2) 既往歴・家族歴など

脂質異常症、高血圧、子宮筋腫

3) 診療所見

GCS E1V2M4, 血圧 68/46 mmHg, 心拍数 80/分, 体温 36.3℃, SpO₂ 95% (酸素 15L, リザーバマスク), 呼吸数 28/分

頸静脈怒張なし、心音整、心雑音なし、両肺野 coarse crackles 聴取、腹部平坦、軟、四肢圧痕性浮腫あり、末梢冷感あり、冷汗なし

4) 主な検査データ

【血液検査】：WBC 800 /μl, RBC 317 万 /μl, Hb 9.4 g/dl, Ht 31.3%, Plt 0.9 万 /μl, MCV 99 fl, MCH 29.7 pg, MCHC 30.0%, PT-INR 2.1, APPT-秒 >360.0 秒, D-ダイマー 205.68 μg/ml, 血糖 88 mg/dl, CRP 5.7 mg/dl, TP 6.6 g/dl, Alb 3.0 g/dl, T-Bil 0.6 mg/dl, ChE 195 IU/l, AST 149 IU/l, ALT 76 IU/l, ALP 75 IU/l, LDH 408 IU/l, CK 94 IU/l, AMY 88 IU/l, BUN 35 mg/dl, Cr 2.01 mg/dl, eGFR 18.5 ml/分/1.73, Na 143 mEq/l, K 3.0 mEq/l, Cl 110 mEq/l, Ca 9.2 mg/dl, トロポニン I 217.1 ng/ml, BNP 451.7 pg/ml

【血液培養】：Haemophilus influenzae

5) 画像診断所見

・【CT】：著明な心拡大や胸水貯留なし。両肺野血管影増強、すりガラス状の濃度上昇あり。うっ血性心不全の疑い。

6) 経過・治療

DICを伴う感染源不明の敗血症性ショックとしてノルアドレナリン0.1mg/mlを2ml/時で投与開始し、ハイドロコチソン100ml、メロベネム1gを投与した。しかし収縮期血圧は60-80mmHg程度で、呼吸状態もリザーバマスク15LでSpO₂70%まで徐々に低下し、下顎呼吸となった。挿管を行ったが直後に心肺停止に至った。蘇生開始したが心拍再開せず、家族に説明の上、蘇生中止し、死亡を確認した。

7) 手術所見

なし

- 8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)
感染源の検索、他の死因の検索

9. 剖 検 情 報 :

1) 剖検診断と病理所見

[主病変]

1. 敗血症状態 (肝臓細菌塊、心臓の好中球浸潤、両側副腎出血 (rt; 6.7g, lt; 9.5g)、出血傾向 (全身の紫斑、右下葉気管支の粘膜下出血、胃噴門部点状出血)

[副病変]

1. 両肺うっ血水腫 (rt; 740g, lt; 640g)
2. 腎臓近位尿細管傷害疑い (rt; 150g, lt; 110g)
3. 肝鬱血及び肝臓 zone3 の肝細胞壊死 (960g)
4. 両腎嚢胞 (rt; 150g, lt; 110g)
5. 結腸多発憩室
6. 胃平滑筋腫
7. 粥状硬化症 (大動脈: 軽度、冠状動脈: 中等度)

肉眼的に感染源となりうる臓器はみられず、出血傾向が推察されるが、DIC の原因や敗血症性ショックの原因となる感染源を認めなかった。組織学的には、腎臓では DIC を疑う糸球体壁内の血栓形成を認めなかった。肝組織で細菌集塊を認め、敗血症を支持する所見と考える。骨髄では造血充進が見られず、Cellularity は年齢相当で、感染に伴う造血の反応性に乏しかった。心臓では心筋間の血管内に好中球の集簇を散見した。両側副腎にびまん性出血を認め、敗血症の影響と推察する。腎臓の近位尿細管傷害 (疑い)、肺水腫、肝臓の類洞拡張や Zone 3 中心の肝細胞壊死などの変化が見られた。

2) 担当病理医: 高橋加奈、勝郷浩紀

3) 病理医からのコメント

敗血症を契機とする循環障害が死に直結したと考えられた。

10. 考 察: 本症例の病態生理と侵襲性インフルエンザ菌感染症について

本患者は高齢女性であり、無莢膜型インフルエンザ桿菌 (Non-typeable *Haemophilus influenzae*: NTHi) による敗血症性ショックを呈し、DIC、多臓器不全に陥ったことで、死亡に至ったと考えられる。また、剖検では両側副腎の出血性壊死を認め、Waterhouse-Friderichsen 症候群 (以下 WFS) が経過の急速な悪化に寄与した可能性も考えられる。

一度目の救急外来受診時には quick SOFA で、呼吸数 ≥ 22 回/分の 1 項目のみ該当する状態であ

ったが、再受診時には quick SOFA では 3 項目、SOFA スコアでは 2 点以上の上昇を認め、かつ敗血症性ショックの状態であった¹⁾。さらに、DIC の診断基準も満たし、剖検での副腎出血の所見をふまえると、WFS を引き起こしていた可能性も考えられる。

WFS は細菌感染症により起こる両側副腎出血を主徴とする症候群であるが、致死率の高い急性進行性の症候群である²⁾。本症例ではあきらかな感染源は指摘できず、急速な転帰をたどったが、WFS で同様の経過を認めたものが報告されている^{3,4)}。本症例では腰背部痛など副腎不全を示唆する症状も見られていたものの、CT では副腎出血を指摘しえず、ハイドロコートの投与後も状態の改善は見られなかった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症とは、血液など本来無菌的な部位からインフルエンザ桿菌が検出されたものを指す。本邦では、2008 年以降の Hib ワクチン普及にともない、無莢膜型のインフルエンザ桿菌が増加してきており、侵襲性インフルエンザ菌感染症は高齢者で特に致死率が高い (26.1%) といわれている⁵⁾。これは本症例に矛盾しない。

以上から、NTHi による侵襲性インフルエンザ菌感染症および敗血症性ショックで DIC をきたし副腎を含む多臓器不全により死亡に至ったと考えた。

11. 参 考 文 献:

- 1) The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2020.
- 2) Stephan DS, et al. Lancet. 369 : 2196-2210, 2007
- 3) Slater DN, et al. Br Med J. 283 : 583, 1981
- 4) McKinney WP, et al. South Med J. 82 : 1571-1573, 1989
- 5) Hachisu Y, et al. Infection. 51 (2) : 355-364, 2023

第 5 回西神戸医療センター C P C 報告

1. 症 例 テ ー マ: 人工血管グラフト感染に起因する上部消化管出血による出血性ショックで死亡した一例
2. 診療科、主治医・受持医: 循環器内科 斎藤克寛
3. C P C 開 催 日: 2023 年 3 月 20 日
4. 発 表 者: 臨床側 (内本 梓、吉山史子)
病理側 (高橋加奈、浅井沙月)
5. 患 者: 84 歳、女性
6. 臨 床 診 断: 人工血管グラフト感染、感染性

動脈瘤の疑い、上部消化管出血

7. 剖 検 診 断：縦隔血腫・膿瘍、食道穿破

8. 臨 床 情 報：

1) 現病歴

X-3日発熱を認め、前医にて尿路感染の診断でLVFX内服による加療開始した。X日二度の吐血および血圧低下、意識レベル低下を認め当院救急搬送され、精査加療目的に緊急入院した。

2) 既往歴・家族歴など

急性大動脈解離 Stanford A型 (X-8月 上行弓部人工血管置換術後、オープンステントグラフト留置術後)、脳梗塞、術後肺動脈血栓症、高血圧、左胸水貯留

3) 診療所見

GCS：E3V5M6 ややぼんやりしているが従命可能
BT：39.2℃ HR：119 bpm sBP：70 mmHg 台
SpO₂：100% (3L/min O₂) RR：27 bpm

4) 主な検査データ

【血液検査】：WBC 5300 / μ l (NEUT 91.3%, LY 5.6%, MONO 1.9%, Eo 0.8%, Baso 0.4%), RBC 243万 / μ l, Hb 7.7 g/dl, Ht 24.2%, PLT 15万 / μ l, MCV 100 fl, MCH 31.7 pg, PT-INR 2.3, APTT 秒 42.2 秒, TP 5.1 g/dl, Alb 2.1 g/dl, CK 26 U/l, AST 23 U/l, ALT 12 U/l, LD 145 U/l, ALP 95 U/l, T-Bil 0.4 mg/dl, D-Bil 0.1 mg/dl, ChE 171 U/l, 血糖 137 mg/dl, AMY 29 U/l, CRP 9.9 mg/dl, Fib 476 mg/dl, D-dimer 3.84 μ g/ml, BUN 23 mg/dl, Cre 0.59 mg/dl, eGFR 71.6 ml/分 /1.73, Na 137 mEq/l, K 4.5 mEq/l, Cl 106 mEq/l, Mg 1.9 mg/dl, Ca 7.9 mg/dl, トロポニン I 6.4 pg/ml, BNP 152.5 pg/ml, 乳酸 3.14 mmol/l

【尿検査】：糖 (3+) , 亜硝酸塩 (-) , 赤血球 10-29/H, 白血球 10-29/H, 細菌 (+) , 封入体 (+)

【血液培養検査】：Prevotella melanogeniticia (1セット) (1+) , Staphyrococcus epidermidis (1セット) (1+) , Streptococcus anginosys (Viridans grp.) (1セット) (1+)

【尿培養検査】：Coagulase negative staphylococcus (CNS) (1+) , Streptococcus a haemolytic (1+)

5) 画像診断所見

X+日、緊急上部内視鏡検査で明らかな出血源は指摘できなかった。造影CT検査で上行大動脈ステントグラフト感染・周囲膿瘍の所見を認めた。X+3日、上部内視鏡再検査で食道裂孔を認めた。X+7日、下肢エコーで中枢性DVTを認めた。

X+20日フォロー目的の造影CT検査で、大動

脈置換術後部位周囲の膿瘍腔の縮小を認めた。また評価困難であったが、大動脈弁レベルで瘤状の突出を認め、感染性動脈瘤の可能性もしくは感染に伴う吻合部破壊による再開通の可能性を認めた。

6) 経過・治療

人工血管グラフト感染・敗血症性ショックに対し、X日、リクシアナを中止し、抗菌薬点滴、昇圧剤持続静注による加療を開始した。X+3日、十分な血圧上昇を認め、昇圧剤終了した。以降経過良好であり、X+20日に大動脈置換術後部位周囲の膿瘍腔の縮小を認め、中枢性DVTに対しX+22日リクシアナ 15mgを再開した。しかしながら、X+35日、炎症反応の増悪、腎機能および肝機能悪化を認め、X+36日より血圧低値となり、X+37日吐血後に死亡を確認した。

7) 手術所見

なし

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

人工血管グラフトの感染状態の評価、感染性動脈瘤の評価、上部消化管出血の原因の解明

9. 剖 検 情 報：

1) 剖検診断と病理所見

[主病変]

1. 人工血管置換術およびステント内挿術のハイブリット手術後

1-1. 縦隔血腫 (人工血管周囲～食道潰瘍表面)
血腫による食道潰瘍及び消化管出血 (食道入口部から9cm、大きさ2x1cm、胃や小腸内に300gの凝血塊)

1-2. 循環不全状態

・肝細胞壊死 (中心静脈周囲、900g)

・近位尿細管壊死 (rt：105.2g, lt：146g)

1-3. 血腫内膿瘍形成

[副病変]

・陳旧性心筋梗塞 (後壁～心尖部にかけて、重量不明)

・粥状硬化症 (大動脈：中等度、冠動脈前下行枝：中等度)

・急性脾炎 (49g)

・胸水貯留 (rt：黄色透明 250mL, lt：黄色透明 200mL)

・肺水腫 (rt：450g)

・Gastrointestinal stromal tumor (胃穹隆部、8x5mm)

・ナボット嚢胞 傍卵管嚢胞

2) 担当病理医：高橋加奈、浅井沙月

3) 病理医からのコメント

人工血管とステント留置部の縫合部の人工血管寄り、血腫を認めた。食道入口部から9cm以遠では潰瘍が形成されており、両者には連続性があると判断した。胃や小腸には凝血塊を認め、食道からの出血があったものと考えた。肝臓や腎臓では虚血の像を呈しており、出血性ショックによる変化として矛盾しない。以上からは、食道潰瘍による出血性ショックを死因と考えたい。感染については、人工血管周囲の血腫内に部分的に膿瘍を認めたが、その他に明らかな膿瘍は認めなかった。感染性動脈瘤については固定後の観察では不明瞭で診断に至らなかった。

今回検索していない頭蓋内の病変の可能性は残る。

10. 考 察：

本症例は、尿路感染症から菌血症となり、人工血管グラフトに感染を起こしたものと考えられる。人工血管グラフト感染の合併症として、大動脈食道瘻による上部消化管出血が起り、また同時に、炎症による組織の脆弱化により吻合部破壊もしくは感染性動脈瘤が生じ、それらによる出血性ショックにより死亡したと考えられる。また、入院経過中に一度改善していた炎症反応が再度上昇し、まもなく死亡したことから、感染の再燃による敗血症も死亡にかかわっていたのではないかと考えられる。

①人工血管グラフト感染について

人工血管グラフト感染（VGI）は血管手術のまれな、しかし重大な合併症であり、血管再建の増加に伴い、VGIの発生率も増加している。高い死亡率、高い患肢切断率、再感染の可能性を伴う。グラフトは腹部や胸部の腔内グラフトと、鼠径部の腔外グラフトの2つに分類され、本症例は胸腔内グラフトに該当する。腔内グラフトでは、VGIの発生率は0.2～5%と低いが、死亡率は24～75%と非常に高い。VGIは、術後4か月以内に発症するものと術後4か月以降に発症するものに分類される。本症例は後者にあたり、新たな菌血症による二次的な人工血管の汚染によるものが多い。人工血管は、仮性内膜がまだ十分に発達していない限り、移植後1年までは感染しやすいとされ、本症例は術後8か月での発症だった。胸腔内VGIの原因微生物は、黄色ブドウ球菌やコアグラゼ陰性ブドウ球菌が多いが、本症例では血液培養採取前から抗生剤治療が始まっており、起因菌の同定には至っていない。人工血管に感

染がおこると、在来血管に炎症が波及し、感染性心内膜炎に類似した症状が出現する。炎症による組織の脆弱化により、吻合部の破壊や浸食がおこり、大量出血や感染性動脈瘤を形成することがある。また、組織の脆弱化により大動脈消化管瘻を形成し、消化管出血を引き起こすことがある。VGIの標準治療は、外科的治療とダプトマイシン・リファンピシンを用いた4～6週間の非経口抗菌薬投与である。外科的治療にはグラフト切除、in situ再建を用いることが多い。しかし、多くの合併症をもつ患者の中には、外科的介入は高リスクとされ、適応外となり、抗生剤のみによる保存的加療を選択される場合があり、その場合の死亡率は高くなる。

②大動脈食道瘻

大動脈食道瘻は、非常にまれな疾患で、本症例のように胸部動脈感染症が原因となることは少ない。敗血症、血行動態の破綻、吐血を呈する非常に重篤な疾患である。画像検査にはCTAが有用であり、通常瘻孔は確認できないが、食道壁の肥厚や食道周囲のガス気泡を認める。本症例でも同様の所見が認められたため、消化管出血の原因として、大動脈食道瘻が考えられた。

③胸腔内感染性動脈瘤

胸腔内VGIの合併症のひとつであり、発熱、胸痛、肩甲骨間の疼痛など、IE、人工弁心内膜炎、胸部大動脈の感染症の患者によくみられる所見を呈する。少なくとも50～70%の患者に破裂が起こる非常に重篤な疾患で、3～5%の症例で食道、縦隔、心膜に穿破する。診断にはCTAが有用であり、小葉の輪郭が不規則な囊状動脈瘤を認め、血管壁の石灰化を認めないことも多い。また、大動脈周囲の軟部組織の剥離、液貯留、同心円状の炎症反応を認めることが多い。まれではあるが、大動脈周囲ガスの存在は感染性動脈瘤の診断を確定させる。本症例においても、感染性動脈瘤を疑う所見がCTで認められた。

11. 参 考 文 献：

- 1) Amal Gharamti Infect et al. : Vascular Graft Infections An update. Dis Clin N Am 32 : 789-809, 2018
- 2) Walter R. Wilson et al. : Vascular Graft Infections, Mycotic Aneurysms, and Endovascular Infections : A Scientific Statement From the American Heart Association. Circulation 134 : e412-e460, 2016

V. 医学振興事業等研究費 補助による業績報告

V. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(1) 笠原ガン治療研究事業

V. 1 リツキシマブ・オビヌツズマブ投与歴のある血液疾患患者におけるBNT162b2、mRNA-1273の3回目接種後の液性及び細胞性免疫反応に関する観察研究

中央市民病院 血液内科 西久保雅司

【問題】

抗CD20モノクローナル抗体リツキシマブ投与歴のある患者は、COVID-19罹患の重症化リスクが高いにもかかわらず、新型コロナウイルスワクチンの効果が不十分である可能性が指摘されている。

【研究目的】

本研究は、抗CD20モノクローナル抗体製剤投与歴のある血液疾患患者における、BNT162b2、mRNA-1273 3回目接種完了後のSARS-CoV-2 IgG抗体価の陽性率ならびに細胞性免疫の獲得率を評価することを目的とする。

【研究期間】

令和4年1月～現在に至る。

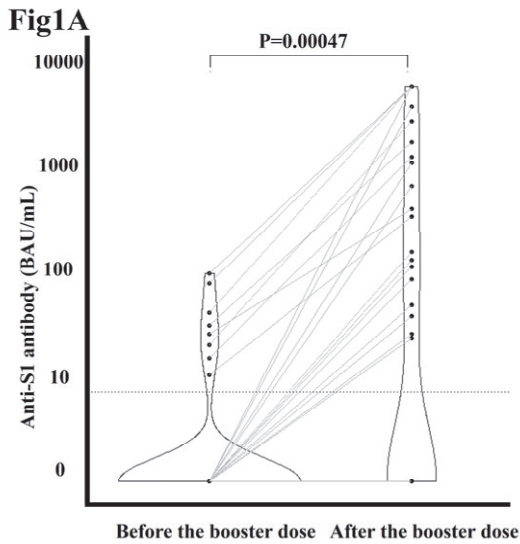
【研究方法】

研究倫理審査委員会承認日以降に神戸市立医療センター中央市民病院血液内科外来受診患者100名を対象とする観察研究である。本邦における新型コロナワクチンの接種が進んだ6-8月より約12ヶ月前の2020年6月-2020年8月にリツキシマブまたはオビヌツズマブ投与歴が確認でき、新型コロナワクチン接種後の抗体反応が陰性である可能性が高い患者を対象に研究計画を説明する。新型コロナワクチンの接種歴を確認して、最終投与より12ヶ月以内のリツキシマブ・オビヌツズマブ投与歴が確認され、研究への参加同意が得られた患者において、日本政府ならびに地方自治体が主導する3回目のワクチン接種を受ける予定日を聴取し、3回目のワクチンを接種する前、ならびに接種を完了して2週間以上経過してから、3ヶ月を超えるまでに、原疾患の治療を目的として外来を受診した際に、通常診療に必要な採血に加えて研究用検体約21mLを採取する。研究用検体を用い、同センター検査室で化学発光免疫測定法(CLIA法)を用い

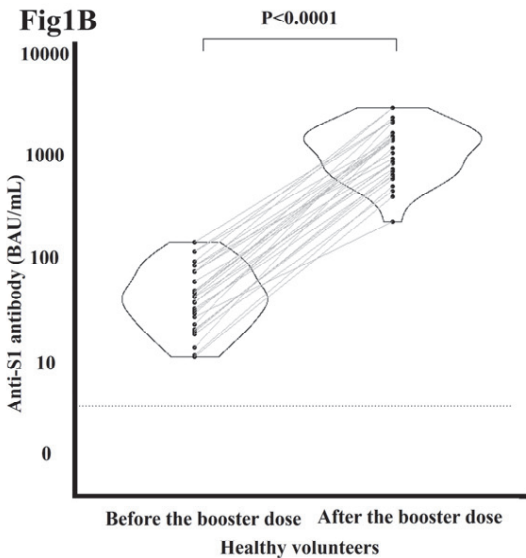
たARCHITECT SARS-CoV-2 IgG II Quant (アボット社提供)で新型コロナウイルスに対する特異的IgG及びELISpotアッセイを用いたT-SPOT COVID-19 Discovery (H.U.フロンティア株式会社に委託)で新型コロナウイルスに対するT細胞性反応を評価する。また、患者の細胞性免疫、液性免疫状態を評価するために、リンパ球サブセット検査及び、IgG、IgA、IgM値を測定する。患者カルテを参照し、年齢、性別、病名、病期、原疾患に対する治療経過に関する情報を収集する。

【研究結果及び考察】

Patients with hematologic diseases recently treated with anti-CD20 antibodies have impaired antibody responses to the primary series of mRNA coronavirus disease 2019 (COVID-19) vaccines. Evidence of whether booster vaccination can induce a humoral response in this population is still limited. Moreover, the T cell response against severe acute respiratory syndrome coronavirus-2 (SARS-CoV-2) after the primary vaccine series remains poorly investigated. Here, we evaluated the effectiveness of the booster dose of BNT162b2 or mRNA-1273 in these patients in terms of both humoral and cellular responses in 53 patients and humoral response in 30 healthy controls before and after booster vaccination. Positive antibody responses before booster vaccination were evident in 8 (15%) patients and 30 (100%) healthy controls. After booster vaccination, humoral responses were observed in 22 (42%) and 30 (100%) patients and healthy controls, respectively. T cell response before and after booster vaccination was observed in 16 (30%) and 27 (51%) patients, respectively. In total, humoral or cellular responses before booster vaccination were observed in 22 (42%) patients, and booster vaccination induced them in 36 (72%) patients. A booster dose of mRNA COVID-19 vaccine induces humoral and cellular responses in patients recently treated with anti-CD20 antibodies.



Patients (n=53)	Patients	
	Before	After
Seropositive, n (%)	8 (15%)	22 (44%)
Anti-S1 IgG titers, median (IQR), BAU/mL	0 (0-0)	0 (0-126)



Volunteers (n=30)	Healthy volunteers	
	Before	After
Seropositive, n (%)	30 (100%)	30 (100%)
Anti-S1 IgG titers, median (IQR), BAU/mL	82 (47-143)	2504 (1376-3121)

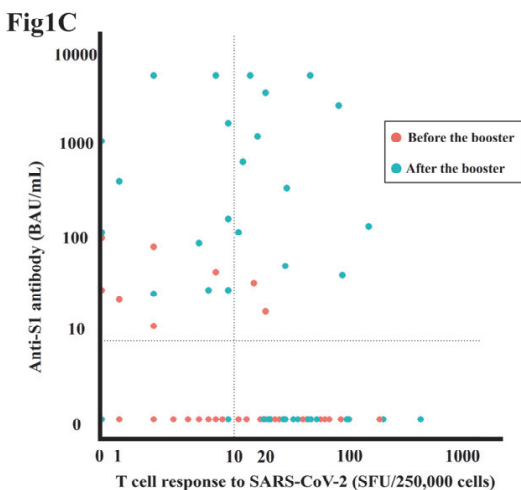


Figure 1. Anti-S1 antibody titers before and after booster vaccination. Booster vaccination in (A) patients and (B) healthy volunteers. P indicates probability value. P-value was calculated via Wilcoxon signed-rank test. (C) Dot plot showing the humoral and cellular responses before and after booster vaccination in patients. Orange and blue dots indicate patients before and after the booster vaccination, respectively. Horizontal dot lines indicate 7.1 BAU/mL, and vertical dot lines indicate 10 SFUs per 250 000 cells, cutoff values of serological and cellular responses, respectively.

【今後の展望】

本研究で得られた成果については、査読付き英文雑誌であるBlood Cancer Journal (Impact Factor 11.04) に採択された。(PMID:36690628)

V. 2 末梢血検体を用いた免疫表現型解析および血漿タンパク質/microRNA解析による免疫チェックポイント阻害剤の有効性および副作用に関する biomarker 探索研究 (CIPHER 試験)

中央市民病院 腫瘍内科 永井宏樹

【Background】

Cancer is one of the leading causes of death worldwide, and a variety of anticancer drugs have been developed for the treatment of cancer and has contributed to prolonging survival. Recently, immune checkpoint inhibitors (ICIs), which selectively bind and take off the brakes from anticancer immune cells in order to reinvigorate the anti-tumor immune response, have been established as one of the standard therapies in advanced cancer so that even metastatic cancer patients can achieve long survival through the treatment with ICI in some cases. However, there still remain many challenges; biomarkers for efficacy and immune-related adverse events (irAEs), the difference of T lymphocyte profiles in several types of cancer, and the change of T lymphocyte profiles after starting cancer immunotherapy. By figuring out these challenges and immunological mechanism, we can establish better treatment strategy in cancer

treatment.

In the clinical field of cancer treatment, liquid biopsy, which is the sampling and analysis of blood for testing molecular biomarkers, has become mainstream, because liquid biopsy is non-invasive for patients. Immunophenotyping analysis of immune cells, cytokine/chemokine profiles and miRNA levels can be evaluated by using peripheral blood samples, and we believe these analyses will help us resolve the above challenges. So, we established this immunology research scheme herewith.

【Hypothesis and Aims of our research】

We hypothesized that T cell phenotypes, cytokine/chemokine profile and miRNA analysis are biomarkers for efficacy and severe irAEs in the treatment with cancer immunotherapy including ICI.

The aims of our research are

- (1) Analyzing and detecting T lymphocyte subtypes, cytokine/chemokine profiles, miRNA as biomarkers for the efficacy and irAE in the treatment of immune checkpoint inhibitor.
- (2) Investigating the change of T lymphocyte profile, cytokine/chemokine profile and miRNA levels after starting cancer immunotherapy including immune checkpoint inhibitor.

【The scheme of our research】

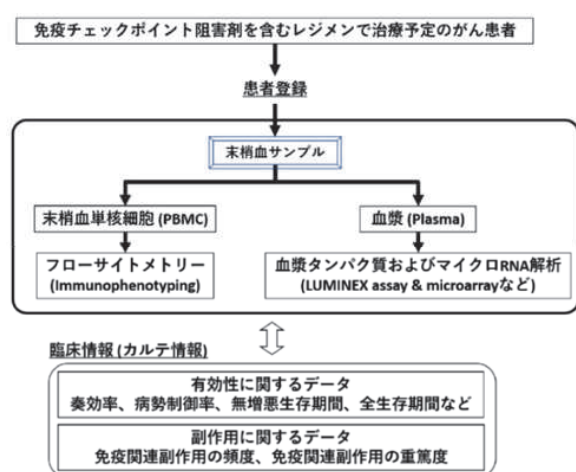


Figure.1 The scheme of our research

【Methods】

a) Eligibility criteria

- Cancer patients who are supposed to receive the treatment with immune checkpoint inhibitor.
- Patients must be 20 years of age or older.
- Patients who had histological evidence of metastatic or locally advanced cancer
- Patients who consented to this research
- Patients who have at least a evaluable lesion

b) Schedule of collecting blood samples

We collect a total of 20cc peripheral blood sample several times from enrolled patients: before treatment, a 6-week follow up, a 24-week follow up and at the point of disease progression (Fig.2) .

採血時期	治療開始前	6週間後	24週間後	病勢増悪時
採血量	20mL	20mL	20mL	20mL

Figure.2 The schedule of collecting blood samples

c) Workflow

The scheme of our research is shown in Fig.1. We isolate PBMC and plasma from peripheral blood samples of the enrolled patients in our research. Plasma samples are stored in -80°C freezer.

For all freshly collected PBMC, we perform and monitor immunophenotyping with flow cytometry (BD FACSLyric™) for evaluating T lymphocyte profiles by using PBMC samples in all enrolled patients. In addition, we perform the screening of cytokine/chemokine and miRNA with LUMINEX assay and Agilent Microarray Scanner assay. We detect the candidates of T lymphocyte subgroup, cytokine/chemokine and miRNA as biomarkers for the efficacy and irAEs with reference to clinical information in the medical chart (discovery cohort) .

In the verification stage, we plan to verify the above candidates of biomarkers by using another patient cohort samples (verification cohort) .

d) Flow cytometry and antibodies

FITC-labeled anti-CD45RA (#304106; BioLegend) , phycoerythrin (PE) -labeled anti-CD127 (#351304; BioLegend) , anti-CD27 (#302808; BioLegend) , PerCP-Cy5.5-labeled anti-CD3 (#300328; BioLegend) , PE-Cy7-labeled anti-CD45RO (#304230; BioLegend) , APC-labeled anti-CCR7 (#353214; BioLegend) , anti-CD62L (#304810; BioLegend) , APC-

Cy7-labeled anti-CD4 (#300518; BioLegend) , APC-R700-labeled anti-CD25 (#565106; BD Biosciences) , anti-CD28 (#565181; BD Biosciences) , BV421-labeled anti-Granzyme B (#396414; BioLegend) , anti-CD73 (#344008; BioLegend) , BV510-labeled anti-CD8 (#344732; BioLegend) , BV605-labeled anti-ICOS (CD278) (#313538; BioLegend) , anti-CD39 (#328236; BioLegend) .

PBMC samples were washed, incubated with anti-CD45RA, CD27, CD3, CD45RO, CCR7, CD4, CD28, Granzyme B, CD8, and ICOS (CD278) in panel 1 or CD45RA, CD127, CD3, CD45RO, CD62L, CD4, CD25, CD73, CD8 and CD39 in panel 2, washed again, and were resuspended with flow stain buffer. Cells were analyzed using BD FACSLyric™ flow cytometer and BD FlowJo™ software.

[Results]

a) Patient enrollment

From April 2021 to January 2023, we have enrolled 140 patients in cumulative total, who were supposed to have the treatment with ICI (Table 1) . Of 140 patients, there are 61 NSCLC patients, 33 gastric cancer patients, 13 esophageal cancer, 10 HNSCC patients, and 10 SCLC patients. Other than NSCLC, gastric cancer, esophageal cancer, HNSCC, and SCLC, enrollment number is less than 4 patients. The immunotherapy regimen and the efficacy in each type of cancer are shown in Figure 1. In total, 51 patients were treated with PD-1 or PD-L1 inhibitor monotherapy, and 85 patients were treated with combination immunotherapy (Chemo+PD-1/PD-L1 inhibitor; 63 patients, PD-1 inhibitor+CTLA-4 inhibitor; 12 patients, Chemo+PD-1 inhibitor+CTLA-4 inhibitor; 9 patients, PD-1 inhibitor+Targeted therapy; 1 patient) .

Type of Cancer	2021												Total
	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	
NSCLC				4	2	4	3	1	2	3	2	2	23
SCLC				0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
Gastric Cancer				1	2	0	2	0	0	2	2	4	13
Head & Neck Squamous carcinoma				2	1	0	0	0	0	0	1	0	4
Esophageal cancer				0	0	0	1	1	0	0	1	0	3
Cororectal cancer				0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
Renal cell carcinoma				0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
Malignant methothelioma				0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
Endometrial cancer				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Cancer with unknown primary				0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
Total				7	6	6	7	2	3	6	7	6	50
Type of Cancer	2022												Total
	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	
NSCLC	2	3	2	4	4	3	3	3	1	3	4	3	35
SCLC	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	6
Gastric Cancer	0	3	1	3	1	1	2	4	1	1	1	1	19
Head & Neck Squamous carcinoma	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	6
Esophageal cancer	0	0	0	1	1	0	2	1	1	1	2	1	10
Cororectal cancer	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
Renal cell carcinoma	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Malignant methothelioma	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	3
Endometrial cancer	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
Cancer with unknown primary	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	3
Total	3	8	3	8	7	7	8	9	5	9	11	7	85
Type of Cancer	2023												Total
	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	
NSCLC	3												3
SCLC	1												1
Gastric Cancer	1												1
Head & Neck Squamous carcinoma	0												0
Esophageal cancer	0												0
Cororectal cancer	0												0
Renal cell carcinoma	0												0
Malignant methothelioma	0												0
Endometrial cancer	0												0
Cancer with unknown primary	0												0
Total	5												5

Table.1 Patient enrollment

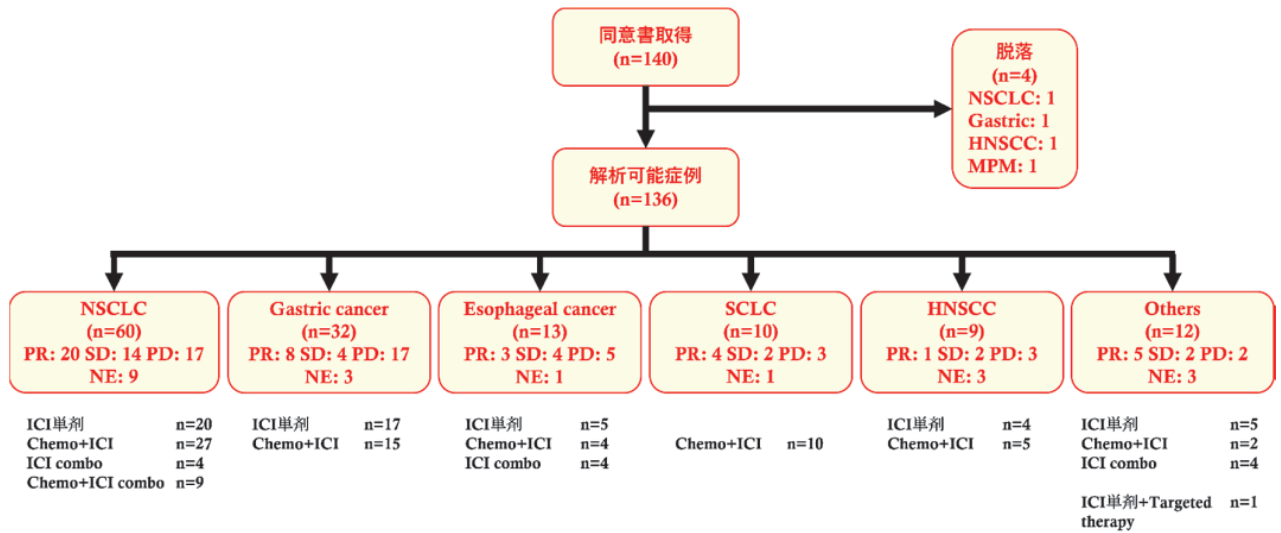


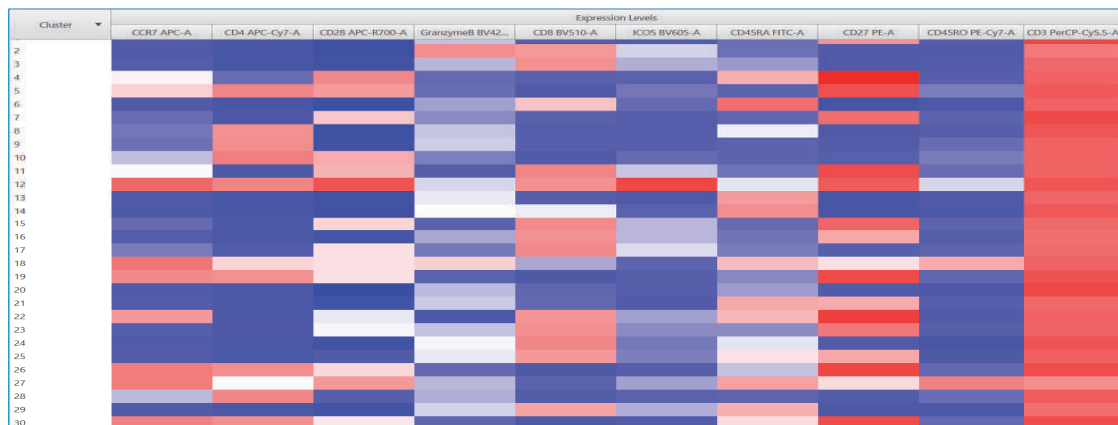
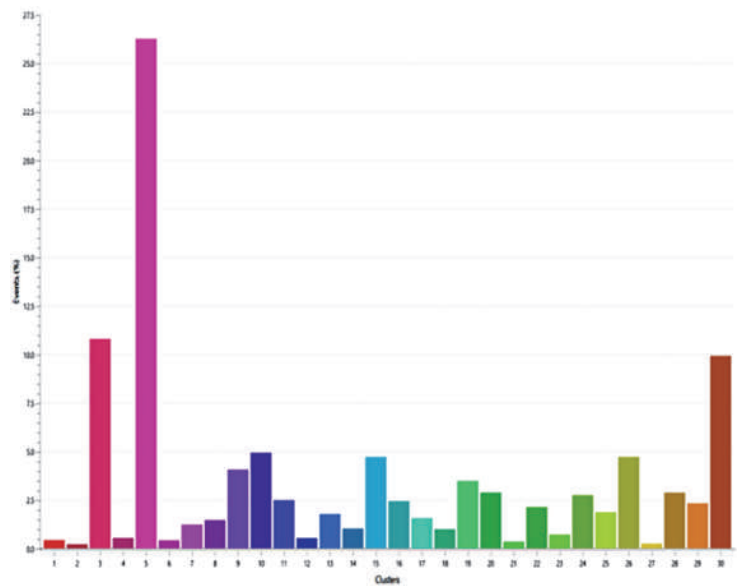
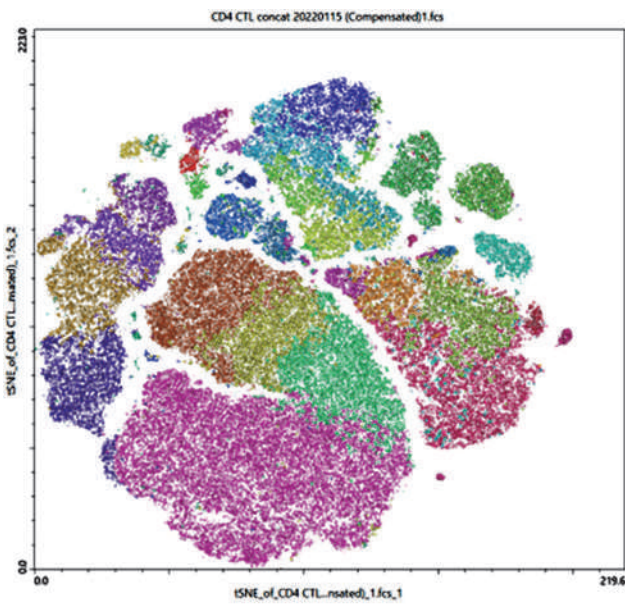
Figure.3 Consort diagram

b) Immunophenotyping (T-SNE analysis/T lymphocyte clustering)

We made 2 kinds of panels. Panel 1 is consisted of anti-CD45RA, CD27, CD3, CD45RO, CCR7, CD4, CD28, Granzyme B, CD8, and ICOS (CD278) . Pan-

el 2 is consisted of CD45RA, CD127, CD3, CD45RO, CD62L, CD4, CD25, CD73, CD8 and CD39. We performed T-SNE analysis and T lymphocyte clustering by using 27 PBMC samples before receiving cancer immunotherapy with PD-1 inhibitor (Fig. 2) .

(a)



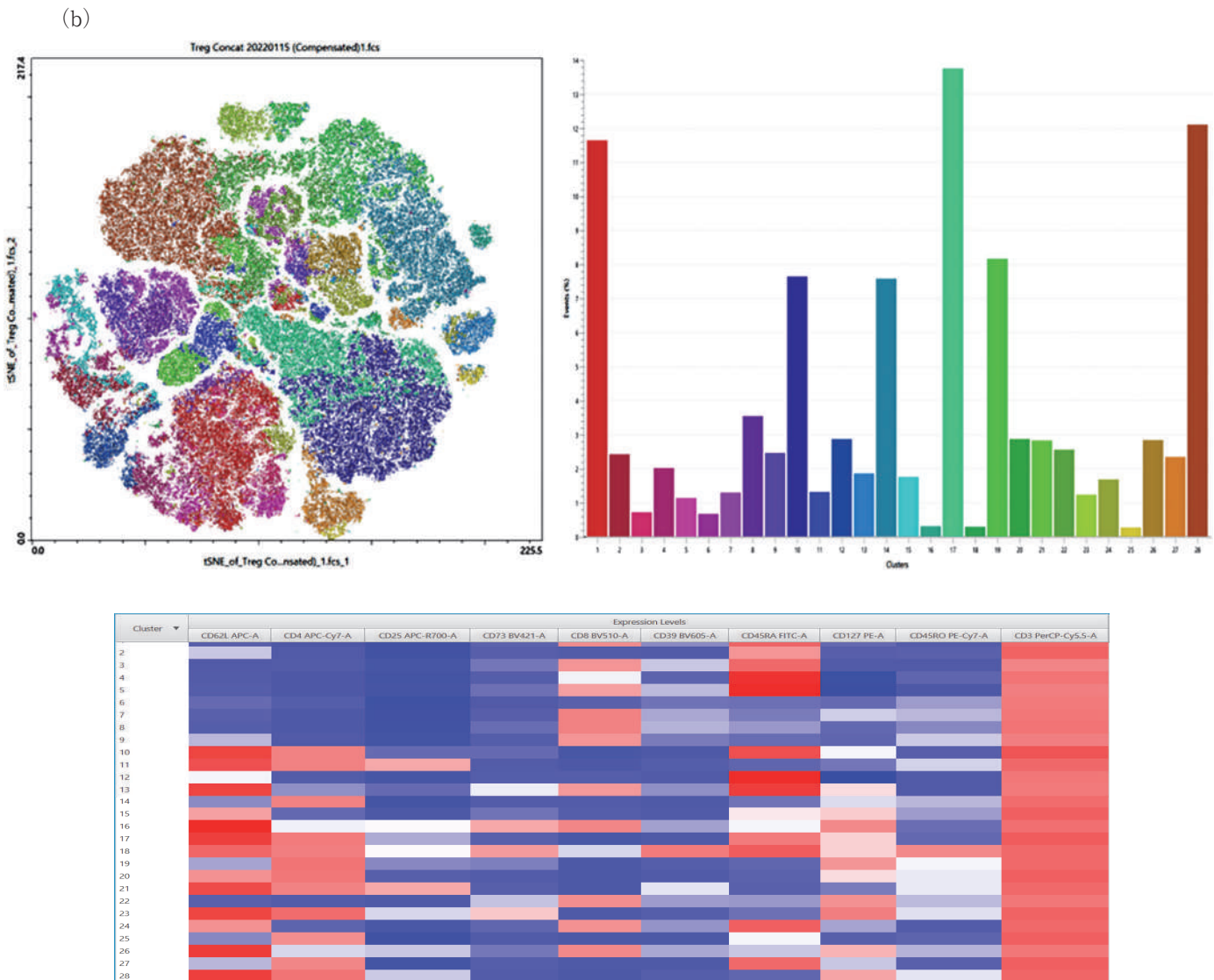


Figure.4 T-SNE analysis and T lymphocyte clustering (a) panel 1, (b) panel 2

[Results]

· Patient enrollment

We started the enrollment of patients who had the treatment with cancer immunotherapy including ICI from Apr 2021. At the point of Jan 2023, we have enrolled 140 patients in all types of cancer. We improved patient enrollment in 2022. However, we need to enroll more patients in each type of cancer cohort because we should analyze the data based on the type of cancer and immunotherapy regimens.

[Resolution Plan]

In 2023, we will continue to enroll patients who will be treated by immunotherapy at the department of Medical Oncology, Respiratory medicine, Gastroenterology and Otolaryngology in Kobe City Medical Center General Hospital.

[Future Plan for Next Step]

a) T lymphocyte immunophenotyping

We will analyze the immunophenotyping data from T-SNE analysis and T lymphocyte clustering with reference to clinical information including the efficacy and irAE of PD-1 inhibitor. Furthermore, we will monitor each T lymphocyte cluster and try to catch up the changes of each cluster between before and after cancer immunotherapy. We will find the candidates of T lymphocyte subgroup as biomarkers for efficacy and irAE in the discovery cohort, and then we will make sure whether the candidate of biomarker still work in the verification cohort.

b) Cytokine/Chemokine and miRNA analysis

When we can enroll enough patients for analysis,

we will start the screening of cytokine and chemokine related to the efficacy and irAE of immunotherapy by using LUMINEX and Agilent Microarray Scanner assay.

V. 3 蝶形骨洞原発悪性腫瘍 3 例の検討

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 道田哲彦

【業績の報告学会】

第84回耳鼻咽喉科臨床学会学術講演会・2022/7/8-9・広島県 ポスター発表

【演者】

道田哲彦, 篠原尚吾, 濱口清海, 池永直, 戸部陽太, 安本真美, 濱本文美, 上田啓史, 山元智子
神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

【緒言】

鼻副鼻腔悪性腫瘍の発生頻度は10万人あたり0.5人から1人といわれており、蝶形骨洞の悪性腫瘍は鼻副鼻腔悪性腫瘍の1-2%に過ぎないと報告されている。報告数が少なく、TNM分類も定まっておらず確立した治療法がないため、症例数の蓄積が必要である。

【対象と方法】

1997年から2021年までの25年間に当院で診断、治療を行った蝶形骨洞原発悪性腫瘍(病変の首座が蝶形骨洞にあると判断したもの)を対象とし、外来・入院診療記録から症状経過や腫瘍の進展範囲、治療内容、予後について後方視的に検討した。

【結果】

対象症例は3例であった。症例1は62歳女性。主訴は鼻閉。組織型は低分化型扁平上皮癌。蝶形骨洞から上咽頭へと腫瘍が連続していたが、周囲の明らかな骨破壊は無く、転移病変も無かった。CBCDA併用の過分割照射66Gyを施行し、20年経過した時点で再発していない。症例2は62歳男性。主訴は視覚障害。組織型は嗅神経芽細胞腫。蝶形骨洞に4cm大の腫瘍を認め、前方は上鼻道へと進展。後方は海綿静脈洞、及びトルコ鞍から右眼窩尖端にかけて浸潤していたが、転移病変無くKadish分類Cと診断した。ifosfamide, CDDP, etoposide併用の化学療法及び通常分割照射60Gyを施行し、一時完全奏効となったが、後に

局所再発を来し、4年3か月時に原病死した。症例3は60歳男性。主訴は右眼・耳の奥の痛み、血痰。組織型はp16陽性扁平上皮癌。斜台に骨融解がみられたが転移病変は認めなかった。S-1併用の陽子線治療70.4Gyを施行し、治療後1年時点で再発していない。

【蝶形骨洞悪性腫瘍の特徴】

組織型：扁平上皮癌、腺癌、悪性リンパ腫(成熟B細胞リンパ腫)の順に多い

発症年齢：平均年齢は60歳。50代が最も多い

性差：男性に多い

臨床所見：初発症状は頭痛が多い

進展様式：局所浸潤例が多く、悪性リンパ腫を除き遠隔転移はあまりみられない

治療内容：集学的治療が行われる。初診時進行癌であることが多く、放射線治療が選択されることが多い

予後：<5年疾患特異的生存率> 扁平上皮癌：30.6%、嗅神経芽細胞腫：41-47% (副鼻腔外進展例)、20% (Hyams分類でⅢ～Ⅳ症例)

<予後予測因子> 海綿静脈洞や斜台、トルコ鞍、頭蓋底への進展のほか、神経症状があるもの

近年p16陽性扁平上皮癌の報告がみられ、中咽頭癌と同様に予後が良好の可能性がある。放射線治療の晩期合併症として放射線性頭蓋底骨壊死が報告されており、10年を超えての経過観察が推奨されている。

【考察】

臨床像に関して、概ね過去の報告を支持する結果であった。いずれも治療は放射線治療が主体となり、扁平上皮癌2例のうち1例は長期生存が得られた。頭蓋底方面への浸潤がなかったことが功を奏したと想定される。副鼻腔周囲進展例2例のうち1例は原病死され、周囲進展があれば予後不良の可能性もあるが、p16陽性扁平上皮癌に関しては予後良好な可能性もあり、今後の経過を見守る必要がある。

【まとめ】

非常に稀な蝶形骨洞の悪性腫瘍を経験した。周囲浸潤を伴う場合は再発のリスクがあり留意が必要。長期にわたって経過観察を行う必要がある。

V. 4 当院における耳下腺癌 42 例の臨床的検討

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 道田哲彦

【業績の論文】

耳鼻咽喉科臨床 第115巻9号 令和4年(採択・発表)

【著者】

道田哲彦, 篠原尚吾, 濱本文美, 安本眞美, 戸部陽太, 池永直, 水野敬介, 齊田浩二, 濱口清海, 竹林慎治, 山崎博司, 藤原敬三, 内藤泰
神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

【緒言】

唾液腺腫瘍は、頭頸部腫瘍の約2.5-6%を占める比較的稀な疾患でありその約80%は耳下腺腫瘍に発生する。耳下腺腫瘍の約20%が悪性腫瘍であり、その病理組織型は極めて多彩で、予後は進展度だけでなく組織型および組織学的亜型(悪性度)によって異なる。耳下腺癌は手術が根治的治療法であり、化学療法、放射線治療は補助的な治療手段といえる。耳下腺癌の切除術式は耳下腺部分切除、耳下腺葉切除術(浅葉・深葉)、耳下腺全摘術、耳下腺拡大全摘術に分類される。2018年度版頭頸部癌診療ガイドラインによると、顔面神経は麻痺がなければ原則として保存的に扱うが、高悪性度群や周囲組織への浸潤を認める症例では、拡大切除を考慮する。予防的頸部郭清については、一般に扁平上皮癌、粘表皮癌(高悪性度)、腺癌などの高悪性度群では施行することが望ましい。頸部転移陽性であれば全頸部郭清を行う。顔面神経を切除した場合は、可能であれば即時再建を行う。とされている。また、耳下腺腫瘍は術前の組織診断が難しいことも特徴であり、術前に適切な手術計画を行うことが課題となる。当院で手術を行った耳下腺癌例の臨床像、治療成績、予後規定因子に関して検討したので報告する。

【対象と方法】

当院で1999年から2019年までに初回手術を行った耳下腺癌42例を対象とした。年齢は21歳～93歳(平均56.4歳)、性別は男性27例、女性15例であった。観察期間は1か月～15年10か月(平均4年5か月)であった。上記42例の術前の穿刺吸引細胞診検査(以下、FNAC)の感度・正診率、術中迅速病理組織診断の感度・正診率と臨床像(術前の疼痛の有無と腫瘍増大傾向の有無、顔面神経麻痺の有無、cTNM分類、Stage

分類、病理組織分類と悪性度、再発の有無や治療内容)を評価するとともに、5年以上の経過観察を行った(5年未満に死亡した例を含む)27例につき、治療成績を検討した。年齢、性別、術前の疼痛の有無、腫瘍の増大傾向の有無、cT分類、cN分類、臨床病期(cStage)、術前顔面神経麻痺の有無、悪性度、術後放射線治療の有無について、予後規定因子となりうるか統計学的に検討した。また、5年生存率、10年生存率をそれぞれKaplan-Meier法により算出し、有意差をLog-rank検定で判定した。p値5%以下を有意と判定した。TNM分類は2017年UICC分類、病理組織分類は2005年WHO分類を使用し、組織学的悪性度は頭頸部癌診療ガイドライン2018年版に基づいて行った。

【結果】

術前FNACの感度は40.6%で、正診率は14.3%であった。術中迅速病理組織検査の感度は91.7%、正診率は39.5%であった。術前に疼痛を伴っていた例は21例(50%)でみられ、術前に腫瘍の増大傾向を自覚もしくは医師の判断があった例は27例(62%)であった。全42例の病理組織型は10種類と多彩で腺様嚢胞癌が最多(10例)であった。cTNM分類、cStage分類ではcT3以上が20例(47%)、cStageⅢ以上の進行癌が21例(50%)であった。5年以上の経過観察を行った27例については病理組織型は8種類で、腺様嚢胞癌が最多(7例)であった。cTNM分類、cStage分類ではcT3以上が16例(59%)、cStageⅢ以上の進行癌が16例(59%)であった。cT1,cT2症例ではリンパ節転移は認めず、cT4症例では9例中5例(56%)でリンパ節転移を認めた。27症例における5年疾患特異的生存率は61.4%、10年疾患特異的生存率は45.5%であった。生存期間中央値は108か月であった。予後因子を検討すると、単変量解析で、顔面神経麻痺の有無、術前の疼痛の有無、悪性度、cT分類、cStage分類で有意差を認めた。

再発に関しては局所再発から死亡までの期間は平均20か月(4か月～42か月)で、遠隔再発から死亡までの期間は平均6.4か月(0.5か月～59か月)であった。遠隔再発例に関しては高悪性度例で9例(64%)、cStageⅢ以上の進行癌で12例(86%)にみられ、部位では肺転移が12例(86%)であった。

【まとめ】

術前・術中の組織正診率は低いため、周囲への浸潤の有無や疼痛の有無、腫瘍増大の有無も参考にして手

術計画を立てる必要がある。術前の疼痛の有無、術前顔面神経麻痺の有無、悪性度、cT分類、cStageで疾患特異的生存率に有意差がみられ、再発が判明してからの予後は厳しい。高悪性度例、StageⅢ以上の進行癌では遠隔再発例（特に肺）が多く、定期的な胸部CTでの観察が重要である。

V. 5 術後気管皮膚瘻孔に対して局所陰圧療法を用いて封鎖した1例

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 濱本文美

【症例】

71歳女性、甲状腺乳頭癌に対して甲状腺全摘術後、頸部および縦隔リンパ節再発に対して手術加療をおこなった。呼吸器外科により胸腔鏡下縦隔リンパ節摘出、当科により上縦隔リンパ節を頸部アプローチにより摘出した。元来片側声帯麻痺があり、術後呼吸不全が予想されたために気管切開術も行い終了した。術後に広範な皮下気腫を認め、感染を伴う気管孔閉鎖不全を生じたため抗菌薬投与を行い、脂肪組織を有茎のまま移植し閉鎖を試みたが、創傷治癒遷延を認めた。形成外科と連携し、気管孔尾側の死腔に対して局所陰圧閉鎖療法を行ったところ、肉芽組織の形成を認めた。その後皮膚潰瘍部をデブリドマン後に腹部より植皮し閉鎖に至った。本症例は創傷治癒遷延の原因となり得る要素が多数あった。頸部、特に気道周囲に局所陰圧閉鎖療法を行った例は報告が少なく、皮弁再建術を選択しにくい症例に対して局所陰圧療法は一つの選択肢となり得ると考えた。

【臨床的意義】

頭頸部外科領域、その中でも特に気道周囲に対して組織充填する場合には皮弁再建術が一般的であるが、皮弁再建が選択しにくい症例では局所陰圧閉鎖療法が今後選択され得る可能性がある。気道周囲の陽圧の問題についてもシリコンシートを用いて解決できたため本症例の試みは報告に値すると考える。

【研究発表】

第123回日本耳鼻咽喉科学会頭頸部外科学会総会・学術講演会で一般演題で発表し、新たな知見を得た。特にシリコンシートについては頭頸部領域では目新しいものであり、議論も活発に行った。

V. 6 甲状腺乳頭癌に対する放射線治療の45年後に腕頭動脈に壊死を来し治療に難渋した一例

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 濱本文美

【症例】

放射線治療は頭頸部癌に対して有効な治療法であるが、致命的な晩発障害は数十年経過しても起こりうる。症例は68歳女性。X-1年前より徐々に呼吸困難となり、X年両側声帯麻痺を指摘されるも本人の意思で無治療。上気道閉塞で当院救急搬送となり、緊急気管切開術を行った。その後気管切開孔周辺から尾側に壊死が進展し、右腕頭動脈破裂を来した。複数科の協力の元、血管内バルーン留置にて一時的な止血を得たのち、胸骨・鎖骨骨頭を除去して血管を吻合、大胸筋皮弁再建術をおこなった。しかし母床の壊死は進行し再度気管切開孔より大量出血を来した。画像上も広く壊死像を認め外科的処置はこれ以上困難であると考え、以降緩和的治療へ移行、入院から55日目に死亡退院となった。腕頭動脈破裂に対し救命はできなかったが、患者および患者家族の病状受け入れを行う時間を設けることができた。

【臨床的意義】

放射線治療の晩期障害として照射範囲の壊死は稀ではあるが創傷治癒遷延となるような患者因子が見当たらない症例でも晩期に生じることがある。本症例では気管切開術を契機として壊死進行を認めた。頭頸部癌に対して放射線治療は有効であるものの、広範囲に壊死を来し不幸な転帰をたどり得るということについて啓蒙されるべきであろう。

【研究発表】

第84回耳鼻咽喉科臨床科学会総会・学術講演会で一般演題で発表し、新たな知見を得た。症例は非常に複雑な経過をたどっているものの、演題発表では質疑応答を活発に行い様々な施設での治療経験について意見を交換することができた。甲状腺乳頭癌は一般的に予後がいいといわれているもののその治療方法によっては致命的な副作用を生じるため、過去に治療歴のある患者に対しては詳細な問診及び病診連携が重要と考える。

V. 7 舌白板症に対する切除生検 - 病理診断と設定すべき安全域について -

(原著論文：頭頸部癌第47巻3号P.311-315に掲載)

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
安本眞美、篠原尚吾、竹林慎治、濱口清海、
道田哲彦、池永直、戸部陽太、濱本文美

【はじめに】

口腔白板症はoral potentially malignant disordersのなかで最も代表的な病変である。病理組織学的には上皮の過角化から上皮異形成を伴うもの、さらには上皮内癌、浸潤癌も含まれる¹⁾。口腔白板症の癌化率は、人種や生活習慣、治療、観察期間などにより異なるが、海外では0.13～17.5%^{2,3)}、本邦では3.1～16.3%⁴⁻⁶⁾と報告されており、観察期間が長期になるほど癌化率は高くなる⁶⁾。癌化のメカニズムとしては上皮異形成を経由するdysplasia-carcinoma sequenceが一般的と考えられており⁷⁾、上皮異形成の有無は、白板症の悪性化潜在能を病理組織学的に判断するための指標とされている⁸⁾。また上皮異形成が高いほど癌化までの期間が短い⁹⁾とされており、病理組織学的所見を評価することは癌化を予測する上で非常に重要である。

前述したdysplasia-carcinoma sequenceの考えによると、口腔白板症の一部には異形成部分と癌の部分が混在するものがあることが予測されるが、我々は実臨床において、一部の口腔白板症は病理学的に過形成や異形成、癌が混在した病変であることを示してきた。また、切開生検による病理診断のunder diagnosisが36%に認められ、切開生検では必ずしも正確に病状を反映しないことを報告した¹⁰⁾。このため当科では、切除により極端な機能障害が生じない口腔白板症に対しては、切開生検せずに切除生検を施行している。本研究では舌白板症に対する切除生検は妥当な方法であったか、また切除時の安全域について、過去11年間の症例を基に検討した。

【目的】

- ・舌白板症で切除生検した症例を評価
- ・切除生検の妥当性と安全域について検討

【対象】

- ・2008年5月から2019年1月の過去11年間
- ・当科において舌白板症と診断し、切除生検を施行した47例

※初診時、明らかに癌と診断できたものは除外

【方法】

- ・後方視的研究

【結果】

- ①臨床的特徴・局在・症状

年齢	30～81歳(中央値:64歳)
性別	男性35名、女性12名
局在	舌縁(右21例、左15例、両側2例) 舌腹側(右5例、左4例)
痛み、焼灼感	あり26例、なし16例、不明5例
観察期間	230～4122日(中央値:4.9年)

- ②切除した病理組織学的診断

病理組織	例数	悪性か否か	切除対象か否か
浸潤型扁平上皮癌	27例	34例	41例 87%
上皮内癌	7例	72%	
異形成	6例	13例 28%	6例 13%
症状過形成(OVH)	1例		
異形のない過角化	3例		
線維化を伴う感染	1例		
真菌感染によるアカントーシス	1例		
潰瘍	1例		

- ③悪性疾患34例の詳細

項目	例数	割合
全身麻酔	33	97%
局所麻酔	1	3%
ルゴール散布		
あり	28	82%
なし	6	18%
水平切除安全域		
2mm	3	9%
3mm	1	3%
4mm	1	3%
5mm	23	67%
10mm	6	18%
術中迅速検査		
あり	33	97%
なし	1	3%
初回迅速病理評価		
全方向陰性	29	88%
水平方向陽性	3	9%
垂直方向陽性	1	3%
最終病理評価		
全方向陰性	32	94%
水平方向陽性	1	3%
水平方向異形成残存	1	3%

- ④悪性疾患34例の生命予後

- ・再発：3例(9%)
- ・重複癌：異時性上部消化管重複癌が6例(16%)、14か所で発生
- ・生命予後:5年全生存率は100%(観察期間中央値4.9年)

二次癌発生部位	部位数
梨状陥凹	3
軟口蓋	3
下歯肉	2
舌縁(対側)	2
食道	2
口腔底	1
舌根	1

⑤再発した3例の詳細

症例	病理	部位	腫瘍径	初回安全域	ルゴール使用	術中迅速検査	術中追加切除	再発までの期間
57 F	扁平上皮癌	左舌下面	5×10mm	2mm	有	全方向陰性 口腔底断端陽性 →上皮内癌	追加切除なし	2年7ヶ月
42 M	上皮内癌	右舌縁部	7×16mm	2mm	有	舌背断端陽性 →上皮異形成 後方断端陽性 →上皮内癌	口腔底側5mm追加切除	2年1ヶ月
71 M	扁平上皮癌	左舌縁部	長径30mm 短径記録なし	5mm	有	舌背断端陽性 →上皮異形成 後方断端陽性 →上皮内癌	舌背側・後方それぞれ2mm追加切除	1年2ヶ月

→いずれも再手術の後再発を認めなかった

【考察】

本研究にて舌白板症に対して切開生検せずに切除生検を施行したところ、72%に悪性所見を認め、87%の症例で外科的切除の妥当性があると考えられた。舌白板症は、上皮異形成を認める割合が多いことや、扁平上皮癌には白板症が併存または続発する症例が多いこと、また白板症の中でも舌病変は悪性化率が高いことが知られており、切除生検により舌癌の早期発見・治療につながる可能性が示唆される。岡部ら¹¹⁾は、全切除した舌白板症80例のうち9割以上の症例に異型細胞の出現を認め、扁平上皮癌と上皮内癌が46.3%を占めていたと報告しており、舌白板症に対する切除生検の妥当性を支持するものであった。

白板症は再発率が高いことから、切除生検を行っても癌化率は変わらないとの意見があるが、その理由として、(1)びまん性で境界不明瞭な白板症の取り残しの可能性、(2)白板症の周囲粘膜は白板症の発症の素地を有していること、(3)白板症の病的因子が必ずしも除去されていないことが挙げられている¹²⁾。本研究において我々は、術中迅速検査の併用とルゴール使用による安全域の設定により術後再発率を9%に抑えることができた。術中迅速検査やルゴールを用いた切除生検により、異形成部分の悪性化による再発リスクを低下させることが可能かもしれない。安全域について Kuribayashi ら¹³⁾は、ルゴール不染部位から3mm以上の安全域を設定し、深さ3mm以上を確保して切除を行えば有意に癌化率が低かったと報告している。津島ら¹⁴⁾も、Kuribayashi らの切除基準に沿って切除を行ったところ、再発率は12.2%で外科的治療を行った症例が経過観察を行った症例に比べ有意に癌化率が低く、病変切除が有効であったと報告している。今回の我々の検討では、安全域を2mmに設定した症例では3例中2例(66%)で再発しており、2mmの安全域では不十分と考える。安全域を5mmに設定した23例では、3例で迅

速病理にて、1例で永久病理にて追加切除を余儀なくされたが(4例17%)、最終的には1例(4%)しか再発していない。このことより、現時点では迅速病理活用下で5mmの安全域の基本方針は妥当と考えられ、この方針を継続し、さらに症例数を増やして検討していきたい。5mmの安全域は過去の報告(3mm)^{13,14)}と比べると広いが、舌癌の一般的な切除安全域(10mm~15mm程度)と比べると狭く、術後の機能温存にも有用と考えられる。

【結語】

舌白板症に対する切除生検に関する妥当性、また切除時の安全域について、過去11年間の症例を基に後ろ向きに検討した。切除生検を施行した87%の症例が外科的切除の適応であり、妥当性が示された。初回切除時安全域を5mmに設定した場合、病理所見にて追加切除を要する率は17%あったものの、再発率は4%であった。このことから舌白板症の安全域はルゴール不染部位から5mmに設定し、術中迅速検査の結果を基に適宜追加切除を行うことが妥当と考察した。

【文献】

- 1) Waldron CA, Shafer WG : Leukoplakia revisited. A clinicopathologic study 3256 oral leukoplakias. Cancer 36 (4) : 1386-1392, 1975
- 2) Silverman S, Bhargava K, Smith LW, et al : Malignant transformation and natural history of oral leukoplakia in 57,518 industrial workers of Gujarat, India. Cancer 38 (4) : 1790-1795, 1976
- 3) Silverman S Jr, Gorsky M, F Lozada : Oral leukoplakia and malignant transformation. A follow-up study of 257 patients. Cancer 53 (3) : 563-568, 1984
- 4) 鷺津邦雄, 小野 勇, 海老原 敏他 : 口腔の前がん状態の臨床 癌の臨床 27 : 942-947, 1981
- 5) 黒川英雄, 山崎健太郎, 山下善弘他 : 口腔白板症の臨床病理学的検討 口科誌 47 (1) : 61-67, 1998
- 6) Kuribayashi Y, Tsushima F, Morita K, et al : Long-term outcome of non-surgical treatment in patients with oral leukoplakia. Oral Oncol 51 (11) : 1020-1025, 2015
- 7) 森 一将 : 口腔領域の腫瘍および上皮性異形成に関する研究-FasおよびFas Ligandの発現について- 日口外誌 47 (5) : 277-268, 2001
- 8) 山本一彦, 桐田忠昭, 杉村正仁 : 口腔白板症-特

に悪性化潜在能についての最近の研究- 日口粘
膜誌 2(1) : 1- 21, 1996

- 9) Bánóczy J, Csiba A : Occurrence of epithelial dysplasia in oral leukoplakia. Analysis and follow-up study of 12 cases. Oral Surg Oral Med Oral Pathol 42(6) : 766-774, 1976
- 10) 栗原理紗, 篠原尚吾, 菊池正弘他 : 舌白板症の全病変切除生検による病理組織学的診断の検討 頭頸部癌 37(1) : 7-11, 2011
- 11) 岡部貞夫, 柳下寿郎, 荳司洋文 : 舌白板症に対する粘膜切除は舌癌の早期診断・早期治療に有用か? 日本癌治療学会ワークショップ81, 2016
- 12) Schepman KP, Van der Meij EH, Smeele LE, et al : Malignant transformation of oral leukoplakia: a follow-up study of a hospital-based population of 166 patients with oral leukoplakia from The Netherlands. Oral Oncol 34(4) : 270-275, 1998
- 13) Kuribayashi Y, Tsushima F, Sato M, et al : Recurrence patterns of oral leukoplakia after curative surgical resection: important factors that predict the risk of recurrence and malignancy. J Oral Pathol Med 41(9) : 682-688, 2012
- 14) 津島文彦, 桜井仁亨, 佐藤 昌他 : 口腔白板症の癌化に関する臨床的検討 日口外誌 59(11) : 691-698, 2013

V. 8 一度治癒状態に持ち込めた甲状腺未分化癌患者 3名の予後についての検討

中央市民病院 頭頸部外科 篠原尚吾

【業績の報告学会・論文】

第46回日本頭頸部癌学会・2022年6月17日～18日・奈良

【著者・演者】

○篠原尚吾、濱口清海、道田哲彦、池永直、戸部陽太、濱本文美、安本眞美、上田啓史、山元智子

【はじめに】

甲状腺未分化癌は非常に生命予後の悪い疾患であるが、集学的治療を行い得た患者の中に少数ながら長期生存を得られる症例があることが報告されている。当院で加療してきた甲状腺未分化癌の患者の中で一度治癒状態に持ち込むことができた3症例について、その長期予後について知見を得たので報告する。

【対象】

2006年から2016年までの間に当院で加療し、一度治癒状態に至ったと判断した甲状腺未分化癌症例3例

【症例】

①53歳女性cT4aN0M0。頸部痛を主訴に来院。杉谷のPrognostic Index (PI) = 1。導入化学療法 (CDDP/ADM/VP-16/PEP)、放射線治療の後、咽喉食摘+ D3c 郭清施行するも病理学的完全緩解であった。

②66歳女性pT1bN1b (乳頭癌) 乳頭癌から転化。前頸部腫瘍を主訴に来院。PI = 0。甲状腺全摘+ D2a 郭清の後、放射性ヨード治療 (100 mCi)、化学療法 (①と同じ)、術後照射施行。術後5年までPET - CTにて異常所見なし。

③65歳女性 pT4bpN1b (乳頭癌) 乳頭癌から未分化転化。咽喉頭違和感から発見。PI=0。甲状腺全摘+ D2a 郭清の後、化学療法 (①と同じ)、放射性ヨード治療 (100 mCi)。術後2年までPET - CTにて異常所見なし。

【予後】

①術後1年8か月の時点で脳の神経膠芽腫が発覚。摘出術、放射線治療、化学療法を行うも初回手術後3年9か月にて脳腫瘍で死亡。

②術後6年目にして分化癌の多発肺転移発覚。放射性ヨードの集積無いので、TSH抑制療法のみ施行。術後9年目に肺転移の一つが未分化転化して死亡。

③術後3年目に頸部気管に分化癌の再発。切除再建したが術後5年目に多発肺転移、気管断端再発。現在担瘤生存でレンパチニブ投与中。

【考察】

今回経験した3例は、他癌、分化癌の再未分化転化、分化癌の多発再発で無病生存が得られた症例はなかった。未分化癌長期生存例の経過を見た報告は少ないので、今後の症例集積に期待したい。

V. 9 甲状腺全摘術の基本的な手技

中央市民病院 頭頸部外科 篠原尚吾

【業績の報告学会】

第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会 2022年5月25日～28日 神戸

【業績の論文】

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 125: 1542-1546, 2022

【著者・演者】

○篠原尚吾

【研究内容】

当報告は日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会からの依頼を受け、手術手技セミナーとして当科で施行している甲状腺全摘術のコツやピットフォールについて主に手術ビデオを使って紹介したものである。

甲状腺全摘術は、甲状腺癌、バセドウ病や両葉に腫瘍がある良性甲状腺腫瘍などに対して施行される基本的な術式である。耳鼻咽喉科・頭頸部外科の専門医を取得するまでにマスターするべき手技として、我々の施設では専門研修の比較的初期の段階で執刀の指導を行う。皮膚切開や皮弁の挙上、血管の処理や神経の温存、副甲状腺の温存やBerry靱帯の処理、ドレイン留置や整容的な皮膚縫合など、頭頸部外科手技のエッセンスが全て含まれており、臨床的教材としての価値も高いと考えている。

当院では甲状腺癌の基本術式として甲状腺全摘術およびD1郭清術(傍気管部の郭清術)を行うが、他施設と違って術後の放射線ヨード治療をほぼルーチンに施行しているため、術野に甲状腺の正常組織を残さないことに多くの努力を割いている。このことにより、術後血清サイログロブリン値を測定することによる再発チェックや、放射線ヨードシンチのための保管全摘が不要など大きなメリットがある。

今回は我々が普段行っている基本手技について示すとともに、どのように専攻医の先生を指導しているかについても紹介した。

本報告の要旨は、日本耳鼻咽喉科学頭頸部外科学会の依頼を受け、総説として論文化され学会誌に刊行された。

V. 10 局所進行鼻副鼻腔未分化癌に対して導入化学療法後に化学放射線療法を行い、Complete Metabolic Response (CMR) を得た2症例

安本真美¹⁾ 篠原尚吾¹⁾ 濱本文美¹⁾
濱口清海¹⁾ 道田哲彦¹⁾ 池永直¹⁾
戸部陽太¹⁾ 上田啓史¹⁾ 山元智子¹⁾
永井宏樹²⁾ 出水祐介³⁾ 藤島佳未⁴⁾

中央市民病院 頭頸部外科¹⁾ 腫瘍内科²⁾
神戸陽子線センター³⁾
神戸低侵襲がん医療センター⁴⁾

【はじめに】

鼻副鼻腔未分化癌(SNUC: sinonasal undifferentiated carcinoma)は1986年にFriersonらが初めて報告した希少がんである。眼窩、頭蓋底、脳など周囲重要臓器への早期浸潤(40~50%)や遠隔転移(20~30%)を生じるリスクが高く、予後不良な疾患として知られている。治療としては集学的治療(手術、化学療法、放射線療法)が支持されてきたが、標準的治療は確立されていない。その中で2019年Amitら¹⁾が導入化学療法(IC)を用いた治療フローチャートを提唱した。IC ResponderであればCRTが有用である可能性が高いが、Non-responderでは外科的切除も考慮すべきとのことで、ICが治療方針の指針となるという報告であった。上記報告を参考に、局所進行SNUCに対して治療を行い、Complete Metabolic Response (CMR)を得た2例を報告する。

症例1: 58歳男性

【主訴】

左鼻出血、左視力低下

【現病歴】

当科受診2ヶ月前より時折左鼻出血あり。1ヶ月前より左視力低下が出現し、A総合病院を受診したところ、CT/MRIにて左眼窩内進展を伴う鼻副鼻腔腫瘍を認め、精査加療目的で当科紹介受診された。

【既往歴】

脂肪肝、高尿酸血症

【生活歴】

喫煙: 20本×30年(12年前より禁煙中)、飲酒: 毎日(ウイスキー水割り200ml/day)

【身体所見】

左視力は指数弁、眼瞼腫脹軽度、頬部腫脹なし

【ファイバー所見】

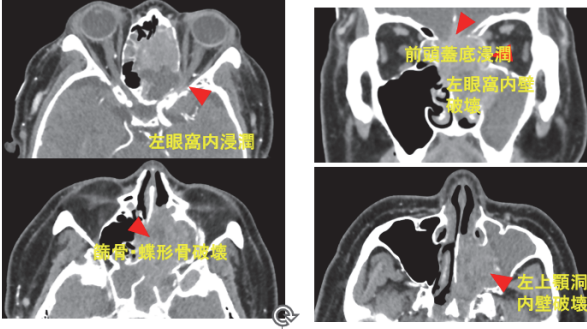
左総鼻道を占拠する腫瘍
腫瘍表面はやや壊死状、出血痕あり

【病理検査】

特定の分化傾向を示さず、未分化癌の診断

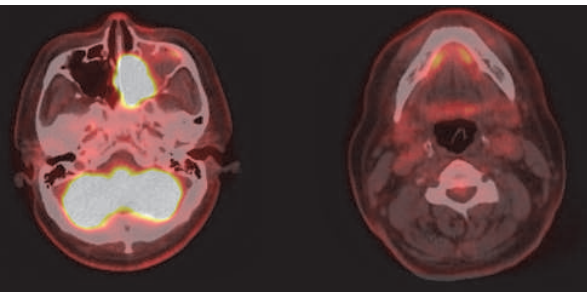
【検査所見】

造影CT：左鼻腔～左篩骨洞を中心とした腫瘍
篩骨、蝶形骨、鼻中隔、左上顎洞内壁、左眼窩内壁を破壊し、左眼窩内へ浸潤



PET-CT：CTと一致した病変部位にFDG集積亢進を認める

明らかな頸部リンパ節転移や遠隔転移はなし



【治療方針】

- 治療開始 導入化学療法：シスプラチン (70mg/m²)/5-FU(700mg/m²) 1コース
→ PR(部分奏功)の判定、聖母者(Grade 2)
- 1ヶ月 同時化学放射線療法：陽子線治療(70.4Gy/32Fr)+カルボプラチン/エトポシド
・カルボプラチン/エトポシド① (AUC5, 100mg/m²)
→ 貧血(Grade 2; RBC輸血 2単位×2回)、血小板低下(Grade 2)、好中球低下(Grade 4)
- 3ヶ月 同時化学放射線療法：陽子線治療(70.4Gy/32Fr)+カルボプラチン/エトポシド② (AUC5, 80mg/m²)
→ 貧血(Grade 3; RBC輸血 2単位×1回)、好中球低下(Grade 4)
- 6ヶ月 PET-CT:CMR(Complete Metabolic Response)
- 10ヶ月 右下顎歯肉に腫瘍性病変出現
・転移巣に対して追加照射(66Gy/33Fr)⇒病変の消失
- 16ヶ月 PET-CT:CMR
- 現在 21ヶ月 無再発生存中

症例2：72歳男性

【主訴】

左鼻閉感

【現病歴】

当科受診4ヶ月前より左鼻閉感を自覚。1ヶ月前にB総合病院を受診したところ、CT/MRIにて左上顎洞

から周囲に浸潤する腫瘍を認め、生検にてSNUCの診断。加療目的で当科紹介受診された。

【既往歴】

高血圧症

【生活歴】

喫煙：40本×21年、飲酒：週に2, 3回

【身体所見】

左鼻腔内に腫瘍性病変あり、眼瞼突出や頬部腫脹なし

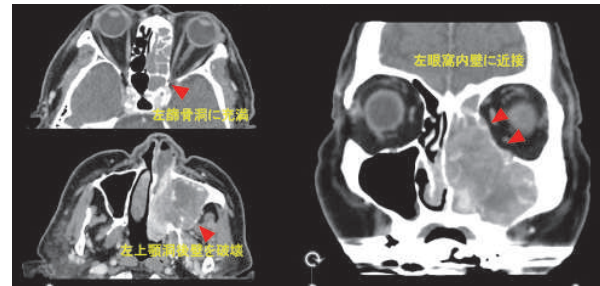
【ファイバー所見】

左鼻腔に充満する腫瘍性病変を認める

【検査所見】

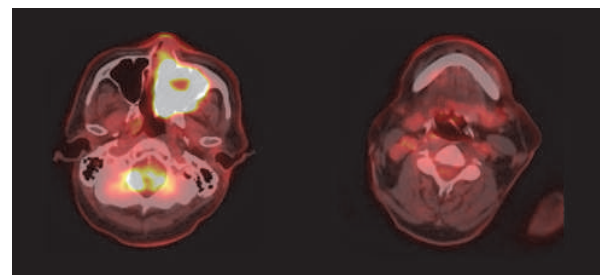
造影CT：左上顎洞～左篩骨洞に充満する腫瘍を認め、左上顎洞後壁を破壊

左眼窩内壁に近接しているが、眼窩内浸潤はなし



PET-CT：CTと一致した病変部位にFDG集積亢進を認める

明らかな頸部リンパ節転移や遠隔転移はなし



【治療方針】

- 治療開始 導入化学療法：シスプラチン(80mg/m²)/エトポシド(100mg/m²) 1コース
→ PR(部分奏功)の判定、好中球低下(Grade 3)
- 1ヶ月 同時化学放射線療法：IMRT(70Gy/35Fr)+シスプラチン/エトポシド
・シスプラチン/エトポシド① (80mg/m², 100mg/m²)
→ 好中球低下(Grade 3)
- 3ヶ月 同時化学放射線療法：IMRT(70Gy/35Fr)+シスプラチン/エトポシド② (80mg/m², 100mg/m²)
→ 好中球低下(Grade 4)
- 5ヶ月 左上顎洞生検：病理学的に遺残がないことを確認
- 6ヶ月 PET-CT:CMR
- 10ヶ月 PET-CT:CMR
- 現在 13ヶ月 無再発生存中

【考察】

症例1：左SNUC cT4bN0M0

眼窩内浸潤による視力低下あり、治療を急いだ

→IC：頭頸部癌に頻用しているFP療法を選択
扱(当科、腫瘍内科で相談)

その後、Amitらの報告を参考に治療方針を
修正

IC Responder⇒CRT⇒CMR

症例2：左SNUC cT3N0M0

Amitらの報告に則って治療開始

IC Responder⇒CRT⇒CMR

【有害事象】

症例1：好中球減少(Grade4)、貧血(Grade3)、腎障
害(Grade2)

症例2：好中球減少(Grade3/4)

→血液毒性が目立つ

いずれの症例でもAmitらの報告をベースに治療
を行った。2例ともIC ResponderでCRTに移行し、良好
な治療成績が得られた。有害事象としてはいずれの症
例でもGrade 3以上の好中球減少を認め、血液毒性が
目立った。EP療法における有害事象について、欧米人
を対象としたAmitら¹⁾の報告では、Grade 3以上の好
中球減少は20%だったのに対して、本邦では、Nodaら
²⁾は92%、Fujiwaraら³⁾は85%といずれも高い発症率を
報告していた。またFujiwaraらは発熱性好中球減少症
の発症率に民族差がある可能性を述べていた。

本邦でも戸島ら⁴⁾がAmitらの報告を参考にStage IV
bの進行SNUC 2症例に対してICを行い、いずれもIC
ResponderとしてCRTを行い、CRを得たことを報告し
ているが、2症例ともGrade 4の好中球減少を認めてい
た。本研究でもGrade 3以上の好中球減少を認めたこと
から、Amitらの治療フローチャートは日本人にも有効
な可能性が高いが、EP療法による血液毒性に注意すべ
きと考えた。症例を積み重ねることによって、日本人に
対する有効性・安全性の検討が必要である。

【結語】

・Amitらの報告を参考に、局所進行SNUC2症例に対
して、IC + CRTを行い、Complete Metabolic Re-
sponse (CMR)を得た。

・標準化された治療法がないSNUCにおいて、Amit
らの治療フローチャートは有用かもしれないが、本

邦においてもさらに症例を積み重ねることによっ
て、日本人に対する有効性・安全性の検討が必要で
ある。

【文献】

- 1) Amit M, Abdelmeguid AS, Watcherporn T, et al.
Induction chemotherapy response as a guide for
treatment optimization in sinonasal undifferentiat-
ed carcinoma. J Clin Oncol. 37 (6) :504-512, 2019
- 2) Kazumasa Noda, Yutaka Nishiwaki, et al : Irinote-
can plus Cisplatin Compared with Etoposide plus
Cisplatin for Extensive Small-Cell Lung Cancer
N Engl J Med 346:85-91,2002
- 3) Takumi Fujiwara, Hirotsugu Kenmotsu, et al : .
The incidence and risk factors of febrile neutrope-
nia in chemotherapy-naïve lung cancer patients
receiving etoposide plus platinum. Cancer Chemo-
ther Pharmacol. 79 (6) :1229-1237,2017
- 4) 戸嶋 一郎, 村尾 拓哉, 他 : .頭蓋内進展した鼻副鼻
腔未分化癌に対するシスプラチン・エトポシドを
用いた導入化学療法と根治的放射線療法の経
験. 頭頸部外科 30, 359-366, 2020

V. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(2) 松本アレルギー疾患研究事業

V. 11 全身性エリテマトーデスを中心としたリウマチ膠原病疾患の疾患活動性スコアの相関と治療介入・寛解達成の関連についての解析

中央市民病院 膠原病・リウマチ内科 住友秀次

【研究成果について】

- 1) 令和2～4年度にかけて、神戸市立医療センター中央市民病院 膠原病・リウマチ内科／総合内科に通院中のリウマチ膠原病患者のデータベースを構築した。
- 2) 全身性エリテマトーデス患者の疾患活動性をSLE-DAI-2K、SLE-DAS、PGAを中心にとることができるよう、紙ベースでのVisitシートとOCR取り込みシステムを構築した。
本データベースでは、電子カルテ上の処方薬、採血結果を定期的に反映させており、治療の経過、採血データと疾患活動性の推移を詳細に把握することが可能となった。
- 3) 通院中のSLE患者123名のステロイド漸減中止と再燃に関する解析を行った。治療強化を要する状況を再燃と定義し、臨床的な再燃を1回以上認めた17名を再燃群、再燃のない106名を非再燃群と

して比較したところ、再燃群では男性の割合が高く、ループス腎炎の合併例が多くみられた。ハイドロキシクロロキンの使用率が再燃群で有意に低く、また寛解導入時のエンドキサンバルスの使用率が高いことが示された。

再燃に関与する要因についてロジスティック回帰分析を行ったところ、ループス腎炎のオッズ比は特に高く、再燃との強い関連が示唆された。一方で、ハイドロキシクロロキン、維持療法としてのミコフェノール酸モフェチルの使用は、再燃にprotectiveに働くことが示された。

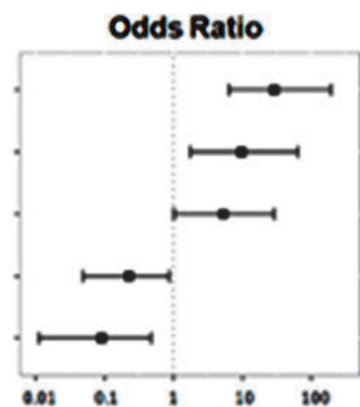
本解析結果は、2022年4月27日に第66回日本リウマチ学会学術集会で口頭発表を行った。現在論文作成中である。

- 4) 寛解導入もしくは再寛解導入療法を行ったSLE患者14名の末梢血サンプルを採取し、そのうち3名は治療前と治療2週・4週・8週後のサンプルを採取した。フローサイトメトリーによる細胞分画評価、ELISAによる血漿サイトカイン評価(IL-6、IL-21、sPD-1、IFN- α 、IFN- γ 、IFN- λ 1.3)、全血のRNAシーケンスを行い経時的な変化を評価した。

再燃に関与する要因

	係数 (S.E.)	OR	95%CI	P 値
ループス腎炎	3.373 (0.85)	29.20	5.5-154.4	<0.000
IVCY (寛解)	2.281 (0.90)	9.78	1.7-56.7	0.001
男性	1.676 (0.82)	5.35	1.1-26.8	0.004
HCQ	-1.475 (0.71)	0.23	0.06-0.92	0.003
MMF (維持)	-2.386 (0.94)	0.09	0.01-0.58	0.001

Logistic 回帰分析

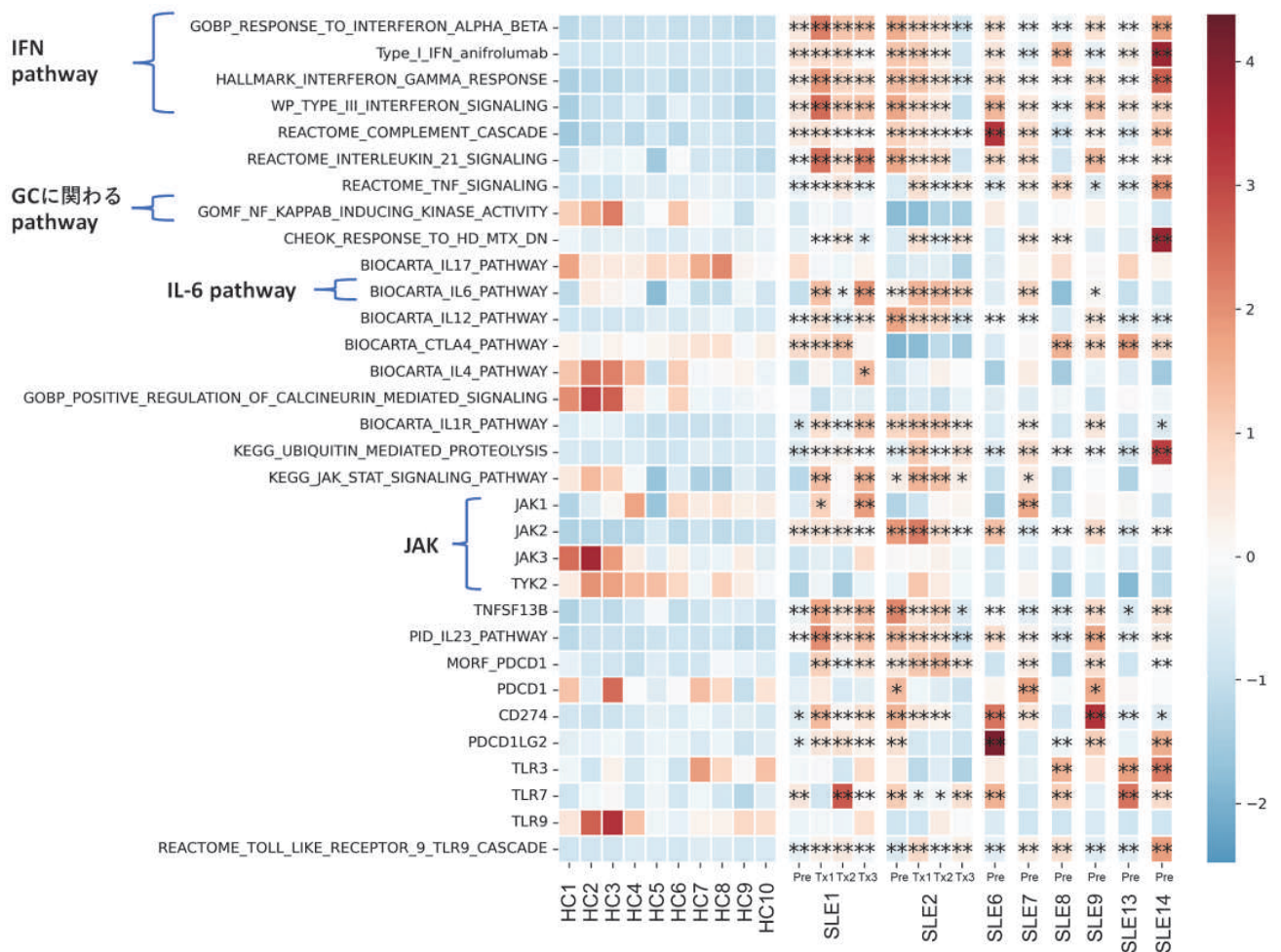


SLEではplasmablastの割合は増加し、治療に従い正常化した。約半数のSLE患者でTphは増加しており、血漿IL-21が上昇していた。RNAシーケンスでは、SLEでIFN経路が亢進し治療後type

I IFN pathwayが正常化するが、一部の患者では活性化の維持と、IL-6 pathwayの活性化を認めた。SLEの経時的な解析により、治療抵抗性と関連する因子を抽出できる可能性が示唆された。

本解析結果は、2022年11月18日第9回日本リウマチ学会ベーシックリサーチカンファレンスで、一般演題ポスター発表を行った。現在、症例数を

増やしたRNAシーケンス解析を行い、臨床データと関連解析と、パスウェイ解析を行っている。



HC・SLE末梢血のPathway関連遺伝子の発現 (Pathway関連遺伝子発現の平均、健康人との差をWilcoxonの順位和検定). ほぼすべてのSLE患者でIFN- α , β , γ , λ pathwayが活性化し、治療に伴い緩徐に正常化するが、一部の患者で活性化が維持されており(くすぶり型). IL-6 pathwayはくすぶり型や治療抵抗例で活性化が持続している. JAK2がすべてのSLEで活性化していた.

5) データシェアリングサービス(グラクソスミスクライン社の臨床データを共有するシステム“Clinical Study Data Request”)より、ベリムマブを用いた全身性エリテマトーデスの大規模臨床試験(BLISS-52試験、BLISS-76試験、BLISS-NEA試験)の匿名化された患者データを共有する。このデータには、BILAG、C3、抗dsDNA値、ステロイド投与量などの複合的な臨床データが含まれている。これらのデータを用いて、既存の臨床指標よりも、より正確に薬剤有効性評価を可能にする、新たなSLE治療薬反応性指標を確立する

ことが可能かどうか検討する予定であるが、こちらはまだ解析途中の段階である。

【補足】

本研究を論文化するにあたり、Endnote 20 Upgrade downloadを行った。パスウェイ解析のためのソフトウェア(IPA)の使用を予定している。当初購入を予定していたGraphpad Prismは予算的に購入が困難であるため、購入を見送った。

V. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(3) 片上臨床研究事業

V. 12 急速破壊型股関節症の関節破壊における Stat3 の関与の解明—抗 Stat3 薬剤の臨床応用に向けて

中央市民病院 整形外科 安田義

【業績の報告学会】

Tadashi Yasuda, Shigeo Hara, Shinnosuke Yamashita, Sadaki Mitsuzawa, Yoshihiro Tsukamoto, Hisataka Takeuchi, Satoshi Ota, and Eijiro Onishi: Activation of STAT3 (signal transducer and activator of transcription 3) in synovial tissues from the hip joint in the early stage of rapidly destructive coxopathy. *Biomedical Research (Tokyo)* 43 (5) 173-180, 2022

Background:

Rapidly destructive coxopathy (RDC) is an unusual subset of hip osteoarthritis (OA). RDC with femoral head destruction within 12 months after the onset is associated with increased serum levels of matrix metalloproteinase-3 (MMP-3). Interleukin-6 (IL-6) signaling activates signal transducer and activator of transcription 3 (STAT3), resulting in MMP-3 production in OA synovial fibroblasts in culture. The IL-6/gp130-associated Janus kinases/STAT3 axis plays a critical role in mediating inflammatory signals. No information is currently available on STAT3 activation in the synovial tissues in the early stage of RDC. Recently, CP690,550 (tofacitinib) has been shown to inhibit STAT3 activation.

Objectives:

This study aimed to investigate suppression of phosphorylated STAT3 in the synovial tissues from the hip joint with RDC after incubation with the potential STAT3 inhibitors.

Methods:

Synovial tissues near the acetabular notch of the hip joint were obtained from four RDC patients with femoral head destruction at the time of total hip replacement (Figure 1). Whereas the initial radio-

graph showed no typical feature of OA such as joint space narrowing, formation of osteophytes or bone cysts, each patient developed chondrolysis with bone destruction. Duration between the disease onset and operation were 5-7 months. The serum concentration of MMP-3 was determined within two weeks before operation. The tissue samples were incubated for 1 hour with or without CP690,550.

Immunohistochemical examination was performed using anti-human CD3 antibody, anti-human CD68 antibody and anti-human phospho-STAT3 antibody. The number of phospho-STAT3-positive cells was counted in the three different areas of the synovium at a magnification of X 400. A mean percentage was calculated as phospho-STAT3-positive cells in all cell counts out of the three high-power fields in each of the four patients.

Results:

The serum concentration of MMP-3 in each RDC patient were above the reference intervals. Baseline characteristics of the four patients with RDC are shown in Table 1. RDC synovial tissues demonstrated the synovial lining hyperplasia with an increase of CD68-positive macrophages and CD3-positive T lymphocytes (Figure 2). STAT3 activation was found in the synovial tissues by immunohistochemistry (Figure 2). The majority of phospho-STAT3-positive cells were the synovial lining cells and showed negative expression of CD68 or CD3 (Figure 2). Treatment with CP690,550 resulted in a decrease in phospho-STAT3-positive cells (Figure 3). Immunohistochemical intensity of phospho-STAT3 staining in the nucleus were further classified as high or low, and phospho-STAT3-positive cell numbers were counted separately as high and low intensities (Figure 3). CP690,550 decreased the percentage of phospho-STAT3-positive cells with high intensity with no alteration in the percentage of low intensity (Table 2).

Conclusion:

This study is the first report to show that Janus kinase inhibitor tofacitinib (CP690,550) can suppress STAT3 activation in the synovial tissues in the hip joint with RDC, mainly in synovial fibroblasts. STAT3 may be a potential therapeutic target for prevention of joint structural damage in RDC. Currently, no non-operative treatment modality is

available for RDC. Based on the present results, tofacitinib may be an effective intervention before the occurrence of significant joint destruction by RDC.

Acknowledgements:

This study was supported by Katakami Foundation for Clinical Research.

Table 1. Baseline characteristics of patients with rapidly destructive coxopathy

Case	Sex	Side	Age (years)	BMI (kg/m ²)	Duration between on- set and operation (months)	MMP-3 (ng/mL)
1	Female	Right	83	19.1	7	139.5
2	Female	Left	83	26.2	6	94.1
3	Female	Left	82	24.3	5	167.5
4	Male	Left	66	22.8	7	130.5

BMI, body mass index; MMP-3, matrix metalloproteinase-3. [Biomedical Research (Tokyo) 43 (5) 173-180, 2022]

Table 2. Comparison of the percentages of phospho-STAT3-positive cells between CP690,550-treated and non-treated synovial tissues

	Vehicle (n=4)	CP690,550 (n=4)	<i>P</i> value
Positive cells with phospho- STAT3	61.5 (3.8)	36.0 (4.6)	<0.001
Positive cells with high intensity	34.6 (4.7)	7.7 (4.0)	<0.001
Positive cells with low intensity	26.9 (4.1)	28.2 (0.6)	0.539

Data are expressed as mean percentage in all cell counts (standard deviation). Phospho-STAT3-positive cells were differentiated as high and low intensities based on the reference images as shown in Fig. 3. STAT3, signal transducer and activator of transcription 3. [Biomedical Research (Tokyo) 43 (5) 173-180, 2022]

Figure 1

X rays of right hip with rapidly destructive coxopathy showing chondrolysis at the pace of 2 mm/year with femoral head destruction during 6 months after the disease onset. Computed tomography (CT) at 6 months after the disease onset demonstrated destruction of the anterior portion in the femoral head and the acetabulum, indicated by white arrows. [Biomedical Research (Tokyo) 43 (5) 173–180, 2022]

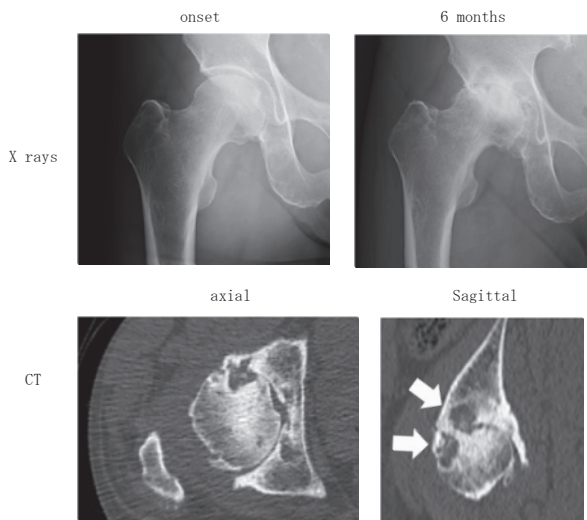


Figure 2

Immunohistochemistry of the synovial tissues from the hip joint with rapidly destructive coxopathy. Tissue sections of the synovial tissues were subjected to immunohistochemical staining using anti-phospho-signal transducer and activator of transcription 3 (STAT3), anti-CD68, and anti-CD3 antibodies. White triangles indicate the boundary between the synovial lining and sublining layers. Original magnification, X 200. [Biomedical Research (Tokyo) 43 (5) 173–180, 2022]

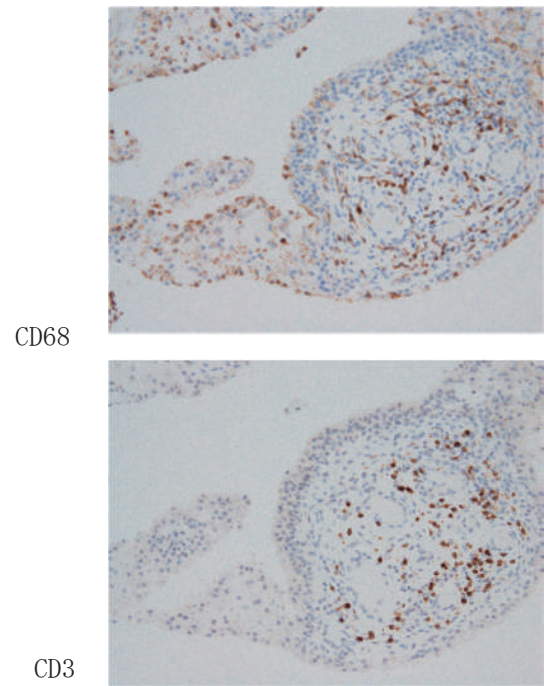
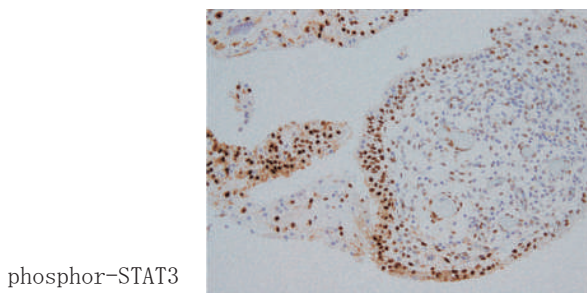
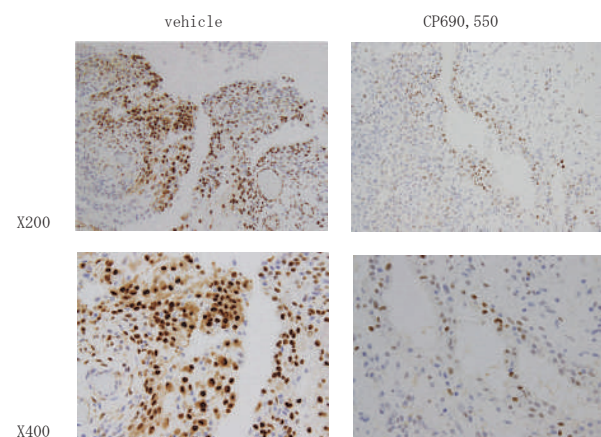


Figure 3

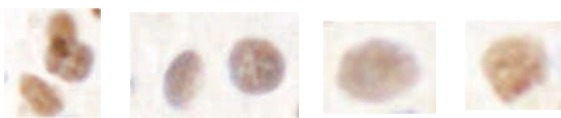
Immunohistochemical comparison of phospho-STAT3 with and without treatment with CP690,550. The reference images of phospho-STAT3-positive cells with high or low intensity are shown (original magnification, X 400). Based on the reference images, immunohistochemical intensity of phospho-STAT3 staining in the nucleus were classified as high or low in the high-power field (X 400). [Biomedical Research (Tokyo) 43 (5) 173–180, 2022]



High intensity



Low intensity



V. 13 腹腔鏡手術中のデクスメトミジン先行投与による術後鎮痛効果に関する研究

中央市民病院 麻酔科 山下博

【背景】

当院では腹腔鏡下手術の急性期の術後鎮痛は、IV-PCA（フェンタニルによる経静脈的患者自己調節鎮痛法）に加えて、ペンタゾシン、アセトアミノフェン、フルルビプロフェンの経静脈的投与が行われる。一般に腹腔鏡下手術は低侵襲で術後創痛が少ないと言われるが、術後鎮痛に難渋するケースが見られる。デクスメトミジン（以下DEX）には、鎮静作用に加えて鎮痛作用があることが知られており、手術中にDEXを先行投与することによって、術後鎮痛が改善するのではないかと考えた。

【方法】

認定臨床研究審査委員会の認定（認定番号CRB5190001）、UMINへの登録（登録番号000039944）、jRCTへの登録（登録番号000039944）後、2020年11月～2021年9月、全身麻酔で腹腔鏡下結腸直腸の待機的手術を受けた患者60名に、二群間単盲検ランダム化群間比較試験を実施した。パイロット研究を参考に2群間のNRS差1.5点、標準偏差2点とした場合、対応のないt検定により1群30例で有意水準両側5%、検出力80%で差を検出でき、サンプルサイズを60例とした。

介入群のみにDEXを0.5 μ g/kg/hで術中に投与し、術翌朝に患者訪問してNRS疼痛スコアと回復の質スコアによる評価を行った。主要評価項目は、帰室後4時間以内の安静時NRS疼痛スコアの最大値とした。副次評価項目は、術翌朝の安静時NRS疼痛スコア、帰室後から術翌朝までに投与された鎮痛薬・制吐薬の量、回復の質（QoR）スコア、術中の循環動態（平均心拍数、平均MAP）、術後の呼吸抑制の有無とした。

【結果】

帰室後4時間以内の安静時NRS疼痛スコアの最大値はDEX群2.4 \pm 2.0、対照群4.2 \pm 1.7であり、術翌

朝の安静時NRS疼痛スコアはDEX群1.9 \pm 1.4、対照群3.1 \pm 1.6であり、共に2群間に有意差を認めた。術後に投与されたペンタゾシンとフルルビプロフェンは、DEX群で少ない傾向にあった。IV-PCAのフェンタニルのボラス投与とアセトアミノフェン投与は、DEX群で有意に少なかった。術後の嘔気・嘔吐、制吐薬の使用は、2群間で有意差はなかった。回復の質スコア（20項目100点満点）は、DEX群86点、対照群80点であり、DEX群で全体として回復の質が良好な傾向にあった。

【結論】

DEXの術中先行投与は、帰室4時間以内の安静時疼痛を有意に改善した。また予防的鎮痛として比較的長時間にわたって鎮痛効果を持続して、術翌朝の安静時疼痛スコアも有意に改善した。

【報告】

雑誌Journal of Clinical Anesthesiology.に”Intraoperative Administration of Dexmedetomidine Improved Moderately Postoperative Analgesia of Laparoscopic Colorectal Surgery: A Prospective, Randomized, Controlled Trial.”として2022年2月28日に掲載された。日本麻酔科学会第69回学術集會にて、2022年6月16～18日にポスター発表並びに口演の発表を行った。

V. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(4) 医学振興事業

V. 14 経胸壁心エコー検査を用いた僧帽弁形成術後症例における心血管イベント予測指標の検討 中央市民病院 臨床検査技術部 鳥居裕太

【背景】

僧帽弁形成術後症例において、弁機能不全はもちろん重要であるが、心不全評価は対象疾患患者の予後予測に極めて重要である。また、僧帽弁術後例では再手術に至る例も少なくない。このため、術後症例においては、弁機能評価に加えて心不全評価が予後予測において非常に重要と考える。

実臨床における心不全評価は、経胸壁心エコー検査による左室拡張機能評価が中心的役割を担っているが、2016年アメリカ心エコー図学会から提唱された左室拡張機能評価ガイドラインにおいて僧帽弁術後症例は左室拡張機能指標との相関関係が低いことから除外対象例となっている。そのため、実臨床では、僧帽弁術後症例における心不全評価は未だに不十分と言わざるを得ない。具体的には、パルスドプラ法による僧帽弁口通過血流速度波形や、組織ドプラ法による僧帽弁輪部移動速度、Bモード法による左房容積指数、肺静脈血流速度波形がアーチファクトにより記録困難など、左室拡張能評価に必要とされる指標を用いることができない問題点が挙げられる。

スペクトルトラッキング法は、Bモードのエコー画像上の小斑点 (speckle) を追跡する手法であり、ストレイ解析に用いられる。組織ドプラの角度依存性の弱点を克服し、心筋局所の機能だけでなく、壁運動の協調・同期不全・虚血や、心室全体としての機能を評価できる。このストレイ解析は様々な弁膜症や心筋症で有用であることが報告されているが、近年では、左室駆出率の保たれた心不全 (HFpEF) や全身性疾患であるサルコイドーシス、脳卒中疾患においても、その有用性が示されている¹⁻³⁾。しかしながら、僧帽弁形成術後症例におけるその有用性については不明確である。

- 1) Malagoli A, et al. J Am Soc Echocardiogr 2019; 32: 248-256.
- 2) Kusunose K, et al. Eur Heart J Cardiovasc Imaging 2020; 21: 796-804.
- 3) Kagiya N, et al. JACC Cardiovasc Imaging 2020; 13: 535-546.

【目的】

経胸壁心エコー検査を用いた僧帽弁形成術後症例における心血管イベントの予測指標を検討することである。

【方法】

単一後向き観察研究として、僧帽弁形成術後症例を対象とした。いずれの患者も僧帽弁閉鎖不全症で手術された患者を対象とし、2次性僧帽弁閉鎖不全症は除外した。また、僧帽弁以外の大動脈弁・三尖弁に介入されている症例は除外した。僧帽弁形成術施行時に左房縫縮術や左心耳閉鎖術を施行されている症例も除外した。さらに、心房細動症例も心エコー検査指標が一定とならないため本検討からは除外した。

通常診療で行う患者背景、採血データ、心エコー検査データを電子カルテより抽出する。

・心エコー検査指標：左房径、左室径、左室駆出率、左房容積、僧帽弁口血流速度、左室駆出血流速度、肺動脈血流速度、三尖弁逆流速度、下大静脈径などを含めたガイドラインにて推奨されている心機能評価項目に加えて、左房・左室・右室についてスペクトルトラッキング法を用いてストレイ解析した数値を用いる。

なお、ストレイ解析については以前より機種間差が報告されており、その影響を考慮して本研究では外部ストレイ解析 (EchoInsight[®]) を用いて検討を行った。EchoInsight[®] はDICOMデータから機種間に影響を受けず、各種ストレイ指標を計測することが可能である。

- ・患者背景・病歴
- ・年齢、性別、体重、合併症の有無
- ・NYHAクラス分類 (WHO 機能分類)
- ・臨床検査 血液学検査 (CRP, NT-pro BNP)

主要エンドポイントは「心血管死および心不全再入院」と定義した。

【結果】

対象は僧帽弁形成術後症例かつ当院で定期フォローアップされており、経胸壁心エコー図検査が実施されている患者249例である。男性159例 (64%)、女性90例 (36%)、平均年齢61 ± 14歳であった。平均観

察期間は144±98か月、心血管イベントあり群32例(13%)、心血管イベントなし群217例(87%)であった。性別・入院期間に両群間で有意差はなく、年齢はイベントあり群で高かった。また、NYHA分類、NT-pro BNPもイベントあり群で高かった。経胸壁心エコー図検査指標では、イベントあり群で左室心筋重量指数・左室拡張末期容積・収縮末期容積が大きく、左室GLS・左房リザーバーストレイン・右室ストレインが小さかった。図1に心血管イベントあり群となし群における左房リザーバーストレインの代表例を示す。イベントあり群なし群ともに左房容積指数・左房駆出率は同程度であるが、イベントあり群では左房リザーバーストレインが小さく、イベントなし群では左房リザーバーストレインが大きい。

対象症例において心血管イベントに最も関連する指標を検討するため、ROC曲線を用いて評価を行った。臨床所見としてNYHA、血液データとしてNT-pro BNP、心エコー図検査指標として左室GLSと左

房リザーバーストレインを用いて検討した結果、左房リザーバーストレインがAUC：0.832(左房リザーバーストレイン ≥23% 感度：87.9%、特異度67.7%)であった(図2)。左房リザーバーストレイン ≥23%を用いて Kaplan-Meier 曲線を用いて検討した結果、対象症例において心血管イベントと有意に関連した結果であった(図3) (Log-rank p < 0.001, Chi-square : 29.73)。さらに、左室拡張能指標の1項目である左房容積指数 34mL/m²および左房リザーバーストレイン ≥23%を用いて、4群間(左房容積指数・左房リザーバーストレインともに大きい、左房容積指数のみ大きい、左房リザーバーストレインのみ大きい、左房容積指数・左房リザーバーストレインともに小さい)で比較検討した結果、左房容積指数の大小に関わらず、左房リザーバーストレインの大小が対象症例における心血管イベントと有意に関連した(図4) (Log-rank p < 0.001, Chi-square : 31.03)。

表1. 患者背景

	全体 n = 249	イベントあり n = 32	イベントなし n = 217	p 値
年齢 (歳)	61±14	66±11	60±14	0.01
男性 n, (%)	159 (64%)	23 (72%)	136 (63%)	0.15
心拍数(回/分)	71±11	68±11	71±11	0.07
収縮期血圧(mmHg)	125±15	132±19	122±11	0.22
NYHA 分類	1.2±0.4	1.5±0.6	1.1±0.3	<0.001
入院期間(日)	21±12	24±16	21±11	0.13
CRP(mg/dL)	0.23±0.07	0.30±0.07	0.22±0.07	0.32
NT-pro BNP(pg/mL)	249±170	499±237	195±140	0.02
心エコー指標				
左室駆出率(%)	60±7	58±10	60±6	0.17
左室拡張末期容積(mL)	81±23	90±25	80±20	0.02
左室収縮末期容積(mL)	33±14	39±18	32±13	0.03
左室心筋重量指数(g/m ²)	82±20	92±23	80±19	0.004
僧帽弁位平均圧較差(mmHg)	3.3±1.7	3.4±2.3	3.3±1.6	0.42
僧帽弁閉鎖不全症 重症度	0.4±0.2	0.7±0.3	0.3±0.2	0.02
平均 E/e'	17.6±6.9	18.9±7.9	17.4±6.7	0.18
左房容積指数(mL/m ²)	39±14	45±14	38±14	0.01
左房駆出率(%)	32±10	27±8	33±10	<0.001
左室 GLS(%)	20.3±2.5	18.4±2.7	20.7±2.3	<0.001
左房リザーバーストレイン(%)	25.8±6.4	19.5±3.9	26.8±6.2	<0.001
右室ストレイン(%)	20.2±2.4	19.2±2.4	20.3±2.4	<0.01
推定収縮期右室圧(mmHg)	26±8	30±13	25±6	0.04

図1. 左房ストレイン代表例

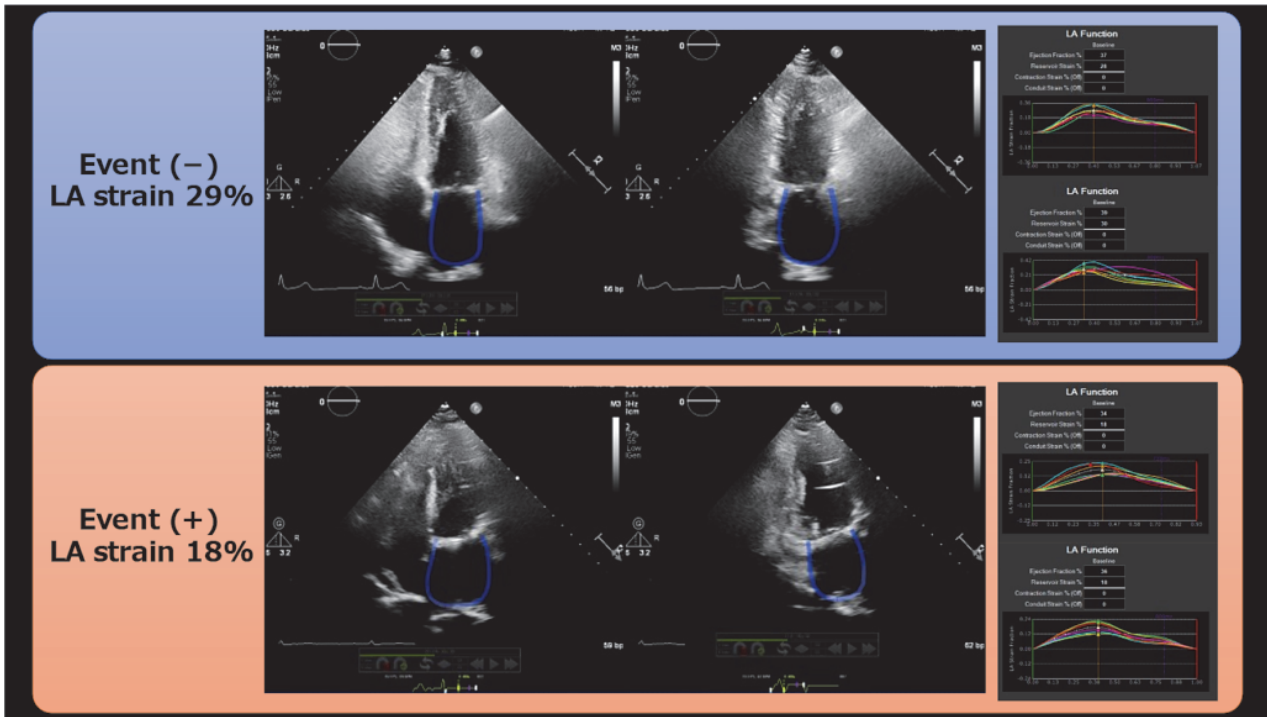


図2. 僧帽弁形成術後症例における心血管イベントとの関連

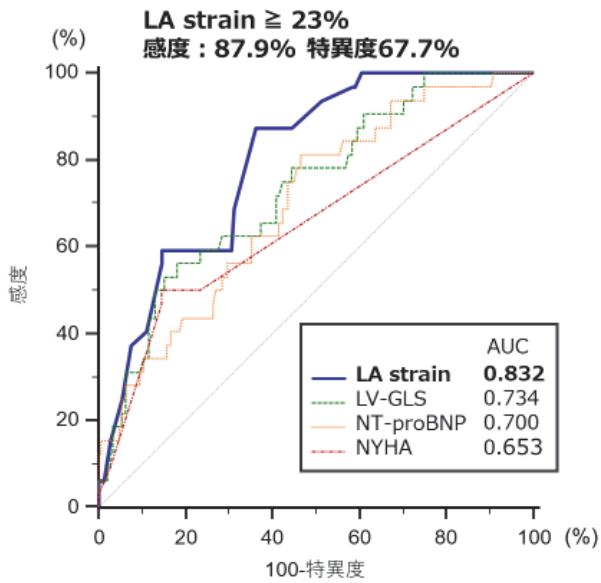


図3. 左房リザーバーストレインにおける心血管イベントとの関連

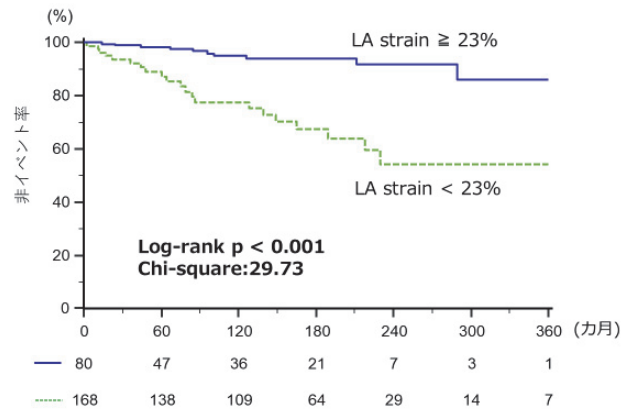
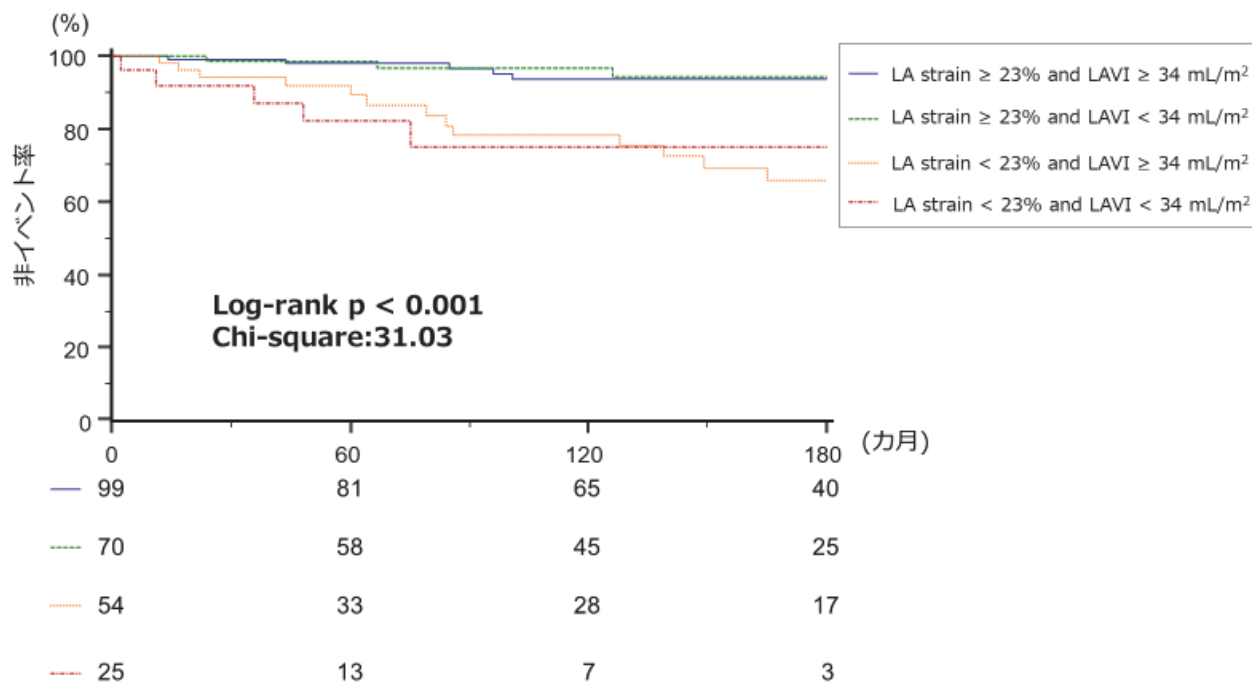


図4・左房容積指数・左房リザーバーストレインにおける心血管イベントの関連



【考察】

本研究では、経胸壁心エコー検査を用いた僧帽弁形成術後症例における心血管イベントに関連する指標を検討した。結果として、左房リザーバーストレインが僧帽弁形成術後症例における心血管イベントの強い関連因子であることが示された。先述のように、左室拡張機能評価ガイドラインにおいて僧帽弁術後症例は左室拡張機能指標との相関関係が低いことから除外対象例となっているため、心血管イベントと関連する指標を明確にすることは臨床上極めて重要である。

左房リザーバーストレインが左室GLSよりも強い関連性を認めた理由として、本研究対象症例は全例において僧帽弁閉鎖不全症で手術を施行しており、左房のコンプライアンスが大きく関与していたこと、つまり術後の経時的な変化に伴い左房コンプライアンスが低下した症例は左房リザーバーストレインが低下していたと考えられる。また、左房リザーバーストレインは左室拡張機能評価においてE/e'や左房容積指数よりも鋭敏な指標であることが昨今報告されており、これらにより今回の結果に繋がったと考える。今回のわれわれの検討でも、左房容積指数に関係なく、左房リザーバーストレインが低値であれば、心血管イベントが増加しており、反対に左房リザーバーストレインが高値であれば、左房容積指数が大きくても心血管イベントはほとんど認めなかった。つまり、左房容積指数よりも左室拡張機能評価において有用である可能性が示唆された。

【本研究の限界】

まず、本研究は単一後向き観察研究である。また、僧帽弁形成術の際に用いるリングサイズ、リングの形態、形成術時の人工腱索など外科的手技の影響については検討できていない。さらに、心血管イベントや血液生化学検査・患者背景の情報は電子カルテのみであり、データ収集には限界がある。最後に本研究において画像不良症例や他の弁に介入されている症例、心房細動症例は除外しているため、それらの症例における左房リザーバーストレインの有用性については不明確である。今後は、僧帽弁単独のみならず、三尖弁輪縫縮術後症例や心房細動症例においても左房リザーバーストレインが有用であるか検討したいと考える。

【結語】

左室GLSやNT-pro BNPと比較して左房リザーバーストレインは僧帽弁形成術後症例において心血管イベントと強く関連していた。また、左房容積指数に関係なく、左房リザーバーストレインが低下した症例では心血管イベントが多かった。左房ストレイン \leq 23%は僧帽弁形成術症例における心血管イベントの鑑別に有用である。

【本研究に関する成果報告】

本研究には外部機器によるストレイン解析アプリの不具合により若干の遅れが生じたが、症例数は予定よ

りも多く、また観察期間についても十分な期間を得ることができた。今後、本研究データを纏め、学会発表および論文執筆する予定である。

【謝辞】

本研究遂行に際し、研究助成のご支援を賜りました公益信託臨床検査医学研究振興基金に深く感謝申し上げます。

VI. 病 院 別 診 療 科 別 論文発表及び学会報告数

VI. 病院別診療科別論文発表及び学会報告数

	中央市民病院	論文発表	学会報告
1	循環器内科	54	138
2	糖尿病・内分泌内科	4	47
3	腎臓内科	-	20
4	脳神経内科	33	59
5	消化器内科	11	60
6	呼吸器内科	36	35
7	血液内科	47	70
8	腫瘍内科	19	17
9	膠原病・リウマチ内科	30	8
10	緩和ケア内科	4	6
11	精神・神経科	8	7
12	小児科・新生児科	7	21
13	皮膚科	6	19
14	外科・移植外科	17	26
15	乳腺外科	3	2
16	心臓血管外科	6	12
17	呼吸器外科	3	17
18	脳神経外科	31	94
19	整形外科	15	50
20	形成外科	1	7
21	産婦人科	3	20
22	泌尿器科	11	48
23	耳鼻咽喉科	28	46
24	頭頸部外科	6	27
25	麻酔科	5	27
26	歯科口腔外科	5	11
27	病理診断科	23	49
28	放射線診断科	12	27
29	放射線治療科	9	20
30	救急科	12	34
31	感染症科	31	52
32	総合内科	33	73
33	看護部	14	27
34	薬剤部	34	102
35	臨床検査技術部	8	54
36	放射線技術部	4	14
37	リハビリテーション技術部	25	59
38	臨床工学技術部	-	4
39	栄養管理部	-	9
40	臨床研究推進センター 研究部門 再生医療研究部	3	3
41	分子イメージング研究部	5	5
42	脳血管治療研究部	35	24
43	管理支援部門 管理支援室	-	3
	合計数	641	1,453

	西市民病院	論文発表	学会報告
	消化器内科	-	2
	呼吸器内科	15	43
	血液内科	-	-
	リウマチ・膠原病内科	-	4
	循環器内科	-	1
	腎臓内科	-	2
	糖尿病・内分泌内科	-	13
	脳神経内科	-	1
	総合内科	3	2
	小児科	-	6
	外科(消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科・血管外科)	7	20
	整形外科	2	9
	リハビリテーション科	-	-
	脳神経外科	2	2
	皮膚科	-	-
	泌尿器科	-	7
	産婦人科	4	3
	眼科	-	-
	耳鼻咽喉科	-	-
	歯科口腔外科	1	5
	病理診断科	1	-
	放射線科	-	1
	麻酔科	-	-
	臨床腫瘍科	-	-
	救急総合診療部	-	-
	認知症疾患医療部	-	1
	看護部	2	11
	薬剤部	1	5
	臨床検査技術部	1	6
	放射線技術部	-	-
	リハビリテーション技術部	5	8
	臨床工学室	-	1
	栄養管理室	-	6
	合計数	44	159

※神戸市立病院紀要第62巻(令和5年)に掲載した論文発表及び学会報告から集計した数。

西神戸医療センター		論文発表	学会報告
1	総合内科	2	5
2	脳神経内科	1	3
3	糖尿病・内分泌内科	1	5
4	腎臓内科	-	4
5	免疫血液内科	2	1
6	循環器内科	1	2
7	消化器内科	1	18
8	呼吸器内科	1	5
9	緩和ケア内科	-	2
10	精神・神経科	-	1
11	小児科	7	17
12	外科・消化器外科	1	22
13	乳腺外科	2	7
14	整形外科	-	4
15	脳神経外科	5	8
16	呼吸器外科	3	15
17	皮膚科	6	13
18	泌尿器科	3	8
19	産婦人科	-	7
20	眼科	2	5
21	耳鼻いんこう科	1	5
22	リハビリテーション科	-	-
23	形成外科	1	10
24	放射線診断科	5	9
25	放射線治療科	-	-
26	麻酔科	-	-
27	病理診断科	4	-
28	歯科口腔外科	2	13
29	看護部	5	14
30	薬剤部	1	7
31	臨床検査技術部	-	13
32	放射線技術部	-	9
33	栄養管理室	-	-
34	リハビリテーション技術部	5	8
35	臨床工学室	-	1
36	感染防止対策室	5	15
37	医事課	-	1
合計数		67	257

神戸アイセンター病院		論文発表	学会報告
診療部		35	115
看護部		-	4
薬剤部		6	5
視能訓練士室		-	-
栄養管理室		-	-
事務局		-	-
合計数		41	124

		論文発表	学会報告
中央市民病院		641	1,453
西市民病院		44	159
西神戸医療センター		67	257
神戸アイセンター病院		41	124
合計		793	1,993

※神戸市立病院紀要第62巻(令和5年)に掲載した論文発表及び学会報告から集計した数。

VII. 論 文 発 表

Ⅶ. 論文発表

Ⅶ. 1 中央市民病院

Ⅶ. 1. 1 循環器内科

1. 古川 裕：【新人さんの理解力アップ！先輩がまとめた これだけ！ 循環器の解剖・疾患ノート】【はじめに 循環器の解剖 ～まずは正常な状態を知ろう！～】～ 正常の大動脈の走行とおもな分枝/大動脈壁の構造/正常の冠動脈の構造とその働き/心臓の4つの腔と4つの弁膜/心筋と心膜/心拍の調整(刺激伝導系). *ハートナーシング* 35 (4) : 306-316, 2022
2. 木下 慎：【新人さんの理解力アップ！先輩がまとめた これだけ！ 循環器の解剖・疾患ノート】【特集3 大動脈疾患】大動脈とは/大動脈瘤/大動脈解離. *ハートナーシング* 35 (4) : 345-352, 2022
3. 江原夏彦：【新人さんの理解力アップ！先輩がまとめた これだけ！ 循環器の解剖・疾患ノート】【特集2 弁膜疾患】大動脈弁狭窄症/大動脈弁逆流/僧帽弁狭窄症/僧帽弁逆流症. *ハートナーシング* 35 (4) : 327-344, 2022
4. 谷口智彦：【新人さんの理解力アップ！先輩がまとめた これだけ！ 循環器の解剖・疾患ノート】【特集1 冠動脈疾患】労作性狭心症/冠攣縮性狭心症/急性冠症候群. *ハートナーシング* 35 (4) : 317-326, 2022
5. 豊田俊彬：【新人さんの理解力アップ！先輩がまとめた これだけ！ 循環器の解剖・疾患ノート】【特集4 心筋症】心筋症とは/肥大型心筋症/拡張型心筋症/拘束型心筋症. *ハートナーシング* 35 (4) : 353-364, 2022
6. 鳥居裕太, 香原美咲, 岡田大司, 菅沼直生子, 山本 剛, 宮川祥治, 大畑淳子, 則政文子, 山本 駿, 中原千裕, 長野真弥, 井川彩加, 松岡京子, 森元加奈, 古川 裕: 右室ストレインが有用であったCOVID-19罹患後の2例. *超音波検査技術* 47 (3) : 260-267, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.11272/jss.350>)
7. 谷口智彦：【図でわかる！ケアに役立つ！循環器のくすり 作用&要チェックポイント】【特集8 Ca拮抗薬、 α 遮断薬】. *ハートナーシング* 35 (8) : 751-756, 2022
8. 二木大輝, 吉田一史, 中村 健, 木下 慎, 小山忠明：右側大動脈弓および左鎖骨下動脈孤立症を伴う広範囲胸部大動脈瘤に対する二期的手術の1例. *胸部外科* 76 (2) : 132-135, 2023, (DOI:https://doi.org/10.15106/j_kyobu76_132)
9. 古川 裕：急性心膜炎【私の治療】. *週刊日本医事新報* 5161 : 42-43, 2023
10. Sasaki Y, Kobori A, Ishikura M, Murai R, Okada T, Toyota T, Taniguchi T, Kim K, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y : Effectiveness of a manual dragging laser irradiation technique using the first-generation endoscopic laser balloon ablation system for pulmonary vein isolation. *J Arrhythm.* 38 (3) : 327-335, 2022, (DOI:[10.1002/joa3.12711](https://doi.org/10.1002/joa3.12711))
11. Masumoto A, Kitai T, Matsumoto S, Kuroda S, Kohsaka S, Tachikawa R, Seo R, Doi A, Tomii K, Yonetsu T, Torii S, Komuro I, Hirata KI, Node K, Matsue Y, Furukawa Y : Impact of serum lactate dehydrogenase on the short-term prognosis of COVID-19 with pre-existing cardiovascular diseases. *J Cardiol.* 79 (4) : 501-508, 2022, (DOI:[10.1016/j.jjcc.2021.12.014](https://doi.org/10.1016/j.jjcc.2021.12.014))
12. Watanabe H, Morimoto T, Natsuaki M, Yamamoto K, Obayashi Y, Ogita M, Suwa S, Isawa T, Domei T, Yamaji K, Tatsushima S, Watanabe H, Ohya M, Tokuyama H, Tada T, Sakamoto H, Mori H, Suzuki H, Nishikura T, Wakabayashi K, Hibi K, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Morino Y, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T : STOPDAPT-2 ACS Investigators : Comparison of Clopidogrel Monotherapy After 1 to 2 Months of Dual Antiplatelet Therapy With 12 Months of Dual Antiplatelet Therapy in Patients With Acute Coronary Syndrome: The STOPDAPT-2 ACS Randomized Clinical Trial. *JAMA Cardiol.* 7(4) : 407-417, 2022, (DOI:[10.1001/jamacardio.2021.5244](https://doi.org/10.1001/jamacardio.2021.5244))
13. Natsuaki M, Morimoto T, Shiomi H, Yamamoto K, Yamaji K, Watanabe H, Uegaito T, Matsuda M, Tamura T, Taniguchi R, Inoko M, Mabuchi H, Takeda T, Domei T, Shirohani M, Ehara N, Eizawa H, Ishii K, Tanaka M, Inada T, Onodera T, Nawada R, Shinoda E, Yamada M, Yamamoto T, Sakai H, Toyofuku M, Tamura T, Takahashi M, Tada T, Sakamoto H, Tada T, Kaneda K, Miki S, Aoyama T, Suwa S, Sato Y, Ando K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-Investigators : Bleeding Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention in the Past Two Decades in Japan - From the CREDO-Kyoto Registry Cohort-2 and Cohort-3. *Circ J.* 86 (5) : 748-759, 2022, (DOI:[10.1253/circj.CJ-21-0526](https://doi.org/10.1253/circj.CJ-21-0526))

14. Takahara M, Iida O, Tazaki J, Nishikawa R, Nanto K, Chiba Y, Sakamoto K, Kinoshita M, Takahashi N, Kamihira S, Yamaoka T, Higami H, Nakane T, Ohmine T, Guntani A : Clinical features and prognosis of patients with and without diabetes mellitus undergoing endovascular aortic aneurysm repair. *BMC Endocr Endocrine Disord Disorders*. 22 (1) : 92, 2022
15. Fujimoto H, Doi N, Okayama S, Naito M, Kobori A, Kaitani K, Inoue K, Kurotobi T, Morishima I, Yamaji H, Matsui Y, Nakazawa Y, Kusano K, Hirai K, Nakai T, Suzuki M, Yano H, Sakai S, Kimura T, Shizuta S, Saito Y, KPAF investigators : Long-term prognosis of patients undergoing radiofrequency catheter ablation for atrial fibrillation: comparison between heart failure subtypes based on left ventricular ejection fraction, *Europace*. 24 (4) : 576–586, 2022, (DOI:10.1093/europace/euab201)
16. Yamaji K, Shiomi H, Morimoto T, Matsumura-Nakano Y, Ehara N, Sakamoto H, Takeji Y, Yoshikawa Y, Yamamoto K, Kato ET, Imada K, Tada T, Taniguchi R, Nishikawa R, Tada T, Uegaito T, Ogawa T, Yamada M, Takeda T, Eizawa H, Tamura N, Tambara K, Suwa S, Shirotani M, Tamura T, Inoko M, Nishizawa J, Natsuaki M, Sakai H, Yamamoto T, Kanemitsu N, Ohno N, Ishii K, Marui A, Tsuneyoshi H, Terai Y, Nakayama S, Yamazaki K, Takahashi M, Tamura T, Esaki J, Miki S, Onodera T, Mabuchi H, Furukawa Y, Tanaka M, Komiya T, Soga Y, Hanyu M, Domei T, Ando K, Kadota K, Minatoya K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Investigators : Modifiers of the Risk of Diabetes for Long-Term Outcomes After Coronary Revascularization: CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry. *JACC Asia*. 2 (3) : 294–308, 2022, (DOI:10.1016/j.jacasi.2021.12.012)
17. Yamamoto E, Kato T, Yaku H, Morimoto T, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Yoshikawa Y, Kitai T, Taniguchi R, Iguchi M, Kato M, Takahashi M, Jinnai T, Ikeda T, Nagao K, Kawai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Kawato M, Seko Y, Shiba M, Toyofuku M, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Shizuta S, Ono K, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T : Appetite loss at discharge from acute decompensated heart failure : Observation from KCHF registry. *PLoS One*. 17 (5) : e0267327, 2022, (DOI:10.1371/journal.pone.0267327)
18. Nishimoto Y, Kato T, Morimoto T, Taniguchi R, Yaku H, Inuzuka Y, Tamaki Y, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Iguchi M, Kato M, Takahashi M, Jinnai T, Ikeda T, Nagao K, Kawai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Su K, Kawato M, Seko Y, Inoko M, Toyofuku M, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Shizuta S, Ono K, Kuwahara K, Ozasa N, Sato Y, Kimura T : Public assistance in patients with acute heart failure: a report from the KCHF registry. *ESC Heart Fail*. 9 (3) : 1920–1930, 2022, (DOI:10.1002/ehf2.13898)
19. Miyamoto K, Kanaoka K, Yoh M, Takahashi H, Kishihara J, Ishikura M, Sasaki Y, Fukunaga H, Nagase T, Asano S, Mizuno S, Yamagami S, Yazaki Y, Kusume T, Takada Y, Yodogawa K, Shimizu W, Shigeta T, Sagawa Y, Inoue Y, Nagase S, Aiba T, Takagi M, Fukaya H, Kobori A, Nitta J, Murakami M, Nishiuchi S, Satomi K, Kataoka N, Iwasaki YK, Ashikaga K, Yamauchi Y, Kusano K : Cryoballoon Ablation versus Radiofrequency Ablation in Patients with Persistent Atrial Fibrillation (CRRF-PeAF) : Protocol for a Prospective, Multicenter, Randomized, Controlled Study. *Int J Cardiol Heart Vasc*. 41 : 101074, 2022, (DOI:10.1016/j.ijcha.2022.101074)
20. Natsuaki M, Morimoto T, Iimuro S, Fujita R, Iwata H, Miyauchi K, Inoue T, Nakagawa Y, Nishihata Y, Daida H, Ozaki Y, Suwa S, Sakuma I, Furukawa Y, Shiomi H, Watanabe H, Yamaji K, Saito N, Matsuzaki M, Nagai R, Kimura T; REAL-CAD Investigators : Thrombotic Risk Stratification and Intensive Statin Therapy for Secondary Prevention of Coronary Artery Disease – Insights From the REAL-CAD Study. *Circ J*. 86 (9) : 1416–1427, 2022, (DOI:10.1253/circj.CJ-22-0315)
21. Obayashi Y, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Natsuaki M, Domei T, Yamaji K, Suwa S, Isawa T, Watanabe H, Yoshida R, Sakamoto H, Akao M, Hata Y, Morishima I, Tokuyama H, Yagi M, Suzuki H, Wakabayashi K, Suematsu N, Inada T, Tamura T, Okayama H, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Morino Y, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T; STOPDAPT-2 and STOPDAPT-2 ACS Investigators : Clopidogrel Monotherapy After 1-Month Dual Antiplatelet Therapy in Percutaneous Coronary Intervention : From the STOPDAPT-2 Total Cohort. *Circ Cardiovasc Interv*. 15 (8) : e012004, 2022, (DOI: 10.1161/CIRCINTERVENTIONS.122.012004)

22. Seko Y, Kato T, Morimoto T, Yaku H, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Shiba M, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Yamashita Y, Kitai T, Taniguchi R, Iguchi M, Nagao K, Kawai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Toyofuku M, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T; KCHF Study Investigators : Starting Neurohormonal Antagonists in Patients With Acute Heart Failure With Mid-Range and Preserved Ejection Fraction. *Circ J.* 86 (10) : 1547-1558, 2022, (DOI:10.1253/circj.CJ-21-0977)
23. Watanabe H, Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T, Kato E, Matsumura Y, Nakatsuma K, Takeji Y, Yaku H, Yamamoto E, Yamashita Y, Yoshikawa Y, Fuki M, Yamaji K, Ehara N, Sakamoto H, Imada K, Tada T, Taniguchi R, Nishikawa R, Tada T, Uegaito T, Ogawa T, Yamada M, Takeda T, Eizawa H, Tamura N, Tambara K, Suwa S, Shirotani M, Tamura T, Inoko M, Nishizawa J, Natsuaki M, Sakai H, Yamamoto T, Kanemitsu N, Ohno N, Ishii K, Marui A, Tsuneyoshi H, Terai Y, Nakayama S, Yamazaki K, Takahashi M, Tamura T, Esaki J, Miki S, Onodera T, Mabuchi H, Furukawa Y, Tanaka M, Komiya T, Soga Y, Hanyu M, Ando K, Kadota K, Minatoya K, Nakagawa Y, Kimura T; On behalf the CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators : Percutaneous coronary intervention using new-generation drug-eluting stents versus coronary arterial bypass grafting in stable patients with multi-vessel coronary artery disease: From the CREDO-Kyoto PCI/CABG registry Cohort-3. *PLoS One.* 17 (9) : :e0267906, 2022, (DOI:10.1371/journal.pone.0267906)
24. Kimura M, Kobori A, Nitta J, Hirao K, Shizuta S, Kurita T, Okishige K, Kumagai K, Koyama J, Hiroshima K, Inaba O, Goya M, Yamauchi Y, Kueffer FJ, Becker D, Okumura K : Cryoballoon ablation for paroxysmal atrial fibrillation in Japan: 2-year safety and efficacy results from the Cryo AF Global Registry. *J Interv Card Electrophysiol.* 64 (3) : 695-703, 2022, (DOI:10.1007/s10840-022-01132-0)
25. Pak M, Kitai T, Kobori A, Sasaki Y, Okada T, Murai R, Toyota T, Kim K, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y : Diagnostic Accuracy of the 2016 Guideline-Based Echocardiographic Algorithm to Estimate Invasively-Measured Left Atrial Pressure by Direct Atrial Cannulation. *JACC Cardiovasc Imaging.* 15 (10) : 1683-1691, 2022, (DOI:10.1016/j.jcmg.2022.03.022)
26. Yoshida S, Yoshida K, Oka S, Kinoshita M, Koyama T:Thoracic endovascular aortic repair for traction-induced aortic avulsion injury in neurofibromatosis type 1. *J Vasc Surg Cases Innov Tech.* 8(4) : 726-728, 2022, (DOI:10.1016/j.jvscit.2022.10.006)
27. Takeji Y, Taniguchi T, Morimoto T, Shirai S, Kitai T, Tabata H, Kitano K, Ono N, Murai R, Osakada K, Murata K, Nakai M, Tsuneyoshi H, Tada T, Amano M, Shiomi H, Watanabe H, Yoshikawa Y, Yamamoto K, Toyofuku M, Tatsushima S, Kanamori N, Miyake M, Nakayama H, Nagao K, Izuhara M, Nakatsuma K, Inoko M, Fujita T, Kimura M, Ishii M, Usami S, Sawada K, Nakazeki F, Okabayashi M, Shirotani M, Inuzuka Y, Komiya T, Minatoya K, Kimura T; CURRENT AS Registry-2 Investigators : Rationale, Design, and Baseline Characteristics of the CURRENT AS Registry-2. *Circ J.* 86 (11) : 1769-1776, 2022, (DOI:10.1253/circj.CJ-21-1062)
28. Miyake M, Takegami M, Obayashi Y, Amano M, Kitai T, Fujita T, Koyama T, Tanaka H, Ando K, Komiya T, Izumo M, Kawai H, Eishi K, Yoshida K, Kimura T, Nawada R, Sakamoto T, Shibata Y, Fukui T, Minatoya K, Tsujita K, Sakata Y, Kimura T, Sugio K, Takita A, Iwakura A, Tamura T, Nishimura K, Furukawa Y, Izumi C; BPV-AF Registry Group : Comparison of Direct Oral Anticoagulants and Warfarin in Patients With Atrial Fibrillation and an Aortic Bioprosthetic Valve. *Circ J.* 86 (11) : 1699-1707, 2022, (DOI:10.1253/circj.CJ-22-0226)
29. Obayashi Y, Shiomi H, Morimoto T, Tamaki Y, Inoko M, Nishikawa R, Kaneda K, Yamamoto K, Takeji Y, Komasa A, Yamaji K, Shizuta S, Tada T, Nagao K, Suwa S, Tamura T, Sakamoto H, Inada T, Matsuda M, Sato Y, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators : Stroke Risk Stratification With the CHADS2 Score in Patients Without Atrial Fibrillation Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention. *Am J Cardiol.* 181 : 9-17, 2022, (DOI:10.1016/j.amjcard.2022.06.057)
30. Sezai A, Shimokawa T, Kanaoka K, Fukuma N, Sekino H, Shiraishi H, Sumita Y, Nakai M, Iwanaga Y, Furukawa Y, Miura SI, Oya Y, Yasu T, Makita S : Efficacy of Early Cardiac Rehabilitation After Cardiac Surgery - Verification Using Japanese Diagnosis Procedure Combination Data. *Circ Rep.* 4(11) : 505-516, 2022, (DOI:10.1253/circrep.CR-22-0088)

31. Seko Y, Yamamoto E, Kato T, Morimoto T, Yaku H, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Shiba M, Yoshikawa Y, Yamashita Y, Kitai T, Taniguchi R, Iguchi M, Nagao K, Kawai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Toyofuku M, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T; KCHF Study Investigators : Insomnia in patients with acute heart failure : from the KCHF registry. *ESC Heart Fail.* 9 (5) : 2988–2996, 2022, (DOI:10.1002/ehf2.14025)
32. Kitai T, Nabeta T, Naruse Y, Taniguchi T, Yoshioka K, Miyakoshi C, Kurashima S, Miyoshi Y, Tanaka H, Okumura T, Baba Y, Furukawa Y, Matsue Y, Izumi C : Comparisons between biopsy-proven versus clinically diagnosed cardiac sarcoidosis. *Heart.* 108 (23) : 1887–1894, 2022, (DOI:10.1136/heartjnl-2022-320932)
33. Murata K, Takahashi Y, Inaba O, Nitta J, Kobori A, Sakamoto Y, Nagata Y, Tanimoto K, Matsuo S, Yamane T, Morita N, Satomi K, Sato H, Hanazawa R, Hirakawa A, Goya M, Sasano T : Efficacy of left atrial posterior wall isolation guided by lesion size prediction module for non-paroxysmal atrial fibrillation. *Europace.* 24 (11) : 1769–1776, 2022, (DOI:10.1093/europace/euac079)
34. Miyawaki N, Okada T, Koyama T, Furukawa Y : Right-sided Infective Endocarditis with Ventricular Free Wall Vegetation Caused by *Abiotrophia defectiva* in a Patient with Unrepaired Ventricular Septal Defect. *Intern Med.* 61 (22) : 3373–3376, 2022, (DOI:10.2169/internalmedicine.9374-22)
35. Yamashita Y, Morimoto T, Kadota K, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Inoko M, Tada T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Nishimoto Y, Sakamoto J, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Kato T, Ono K, Kimura T; COMMAND VTE Registry Investigators : Causes of long-term mortality in patients with venous thromboembolism in the real world : From the COMMAND VTE registry. *Thromb Res.* 219 : 30–39, 2022, (DOI:10.1016/j.thromres.2022.09.002)
36. Makita S, Yasu T, Akashi YJ, Adachi H, Izawa H, Ishihara S, Iso Y, Ohuchi H, Omiya K, Ohya Y, Okita K, Kimura Y, Koike A, KohzuKim M, Koba S, Sata M, Shimada K, Shimokawa T, Shiraishi H, Sumitomo N, Takahashi T, Takura T, Tsutsui H, Nagayama M, Hasegawa E, Fukumoto Y, Furukawa Y, Miura SI, Yasuda S, Yamada S, Yamada Y, Yumino D, Yoshida T, Adachi T, Ikegame T, Izawa KP, Ishida T, Ozasa N, Osada N, Obata H, Kakutani N, Kasahara Y, Kato M, Kamiya K, Kinugawa S, Kono Y, Kobayashi Y, Koyama T, Sase K, Sato S, Shibata T, Suzuki N, Tamaki D, Yamaoka-Tojo M, Nakanishi M, Nakane E, Nishizaki M, Higo T, Fujimi K, Honda T, Matsumoto Y, Matsumoto N, Miyawaki I, Murata M, Yagi S, Yanase M, Yamada M, Yokoyama M, Watanabe N, Ito H, Kimura T, Kyo S, Goto Y, Nohara R, Hirata KI; Japanese Circulation Society/ the Japanese Association of Cardiac Rehabilitation Joint Working Group : JCS/JACR 2021 Guideline on Rehabilitation in Patients With Cardiovascular Disease. *Circ J.* 87 (1) : 155–235, 2022, (DOI:10.1253/circj.CJ-22-0234)
37. Yamashita Y, Morimoto T, Kadota K, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Inoko M, Tada T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Nishimoto Y, Sakamoto J, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Kato T, Ono K, Kimura T : Clinical characteristics, management strategies and outcomes of patients with recurrent venous thromboembolism in the real world. *Sci Rep.* 12 (1) : 22437, 2022, (DOI:10.1038/s41598-022-26947-9)
38. Toyota T, Morimoto T, Iimuro S, Fujita R, Iwata H, Miyauchi K, Inoue T, Nakagawa Y, Nishihata Y, Daida H, Ozaki Y, Suwa S, Sakuma I, Furukawa Y, Shiomi H, Watanabe H, Yamaji K, Saito N, Natsuaki M, Ohashi Y, Matsuzaki M, Nagai R, Kimura T : Low-Density Lipoprotein Cholesterol Levels on Statins and Cardiovascular Event Risk in Stable Coronary Artery Disease – An Observation From the REAL-CAD Study. *Circ J.* 87 (2) : 360–367, 2023, (DOI:10.1253/circj.CJ-22-0168)
39. Nishiura N, Kitai T, Okada T, Sano M, Miyawaki N, Kim K, Murai R, Toyota T, Sasaki Y, Ehara N, Kobori A, Kinoshita M, Koyama T, Furukawa Y : Long-Term Clinical Outcomes in Patients With Severe Tricuspid Regurgitation. *J Am Heart Assoc.* 12 (1) : e025751, 2023, (DOI:10.1161/JAHA.122.025751)
40. Takeji Y, Morimoto T, Shiomi H, Kato ET, Imada K, Yoshikawa Y, Matsumura-Nakano Y, Yamamoto K, Yamaji K, Toyota T, Tada T, Tazaki J, Yamamoto E, Nakatsuma K, Suwa S, Ehara N, Taniguchi R, Tamura T, Watanabe H, Toyofuku M, Yamamoto T, Shinoda E, Mabuchi H, Inoko M, Onodera T, Sakamoto H, Inada T, Ando K, Furukawa Y, Sato Y, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T : Sex Differences in Clinical Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J.* 87 (2) : 277–286, 2023, (DOI:https://doi.org/10.1253/circj.CJ-22-0517)

41. Yamashita Y, Morimoto T, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Nishimoto Y, Sakamoto J, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Kato T, Ono K, Kimura T; COMMAND VTE Registry Investigators : Impact of Heart Rate at Diagnosis on Clinical Outcomes in Patients With Acute Pulmonary Embolism. *Am J Cardiol.* 187 : 38–47, 2023, (DOI:10.1016/j.amjcard.2022.10.042)
42. Yamamoto K, Watanabe H, Morimoto T, Obayashi Y, Natsuaki M, Domei T, Yamaji K, Suwa S, Isawa T, Watanabe H, Yoshida R, Sakamoto H, Akao M, Hata Y, Morishima I, Tokuyama H, Yagi M, Suzuki H, Wakabayashi K, Suematsu N, Inada T, Tamura T, Okayama H, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Morino Y, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T; STOPDAPT-2 and STOPDAPT-2 ACS Investigators : Clopidogrel Monotherapy After 1-Month DAPT in Patients With High Bleeding Risk or Complex PCI. *JACC Asia.* 3 (1) : 31–46, 2023, (DOI:10.1016/j.jacasi.2022.09.011)
43. Washida K, Kato T, Ozasa N, Morimoto T, Yaku H, Inuzuka Y, Tamaki Y, Seko Y, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Shiba M, Kitai T, Yamashita Y, Taniguchi R, Iguchi M, Nagao K, Kawase Y, Nishimoto Y, Kuragaichi T, Hotta K, Morinaga T, Toyofuku M, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T : A comparison between hospital follow-up and collaborative follow-up in patients with acute heart failure. *ESC Heart Fail.* 10 (1) : 353–365, 2023, (DOI:10.1002/ehf2.14200)
44. Morishima I, Kanzaki Y, Morita Y, Inoue K, Kobori A, Kaitani K, Kurotobi T, Yamaji H, Matsui Y, Nakazawa Y, Kusano K, Tomomatsu T, Ikai Y, Furui K, Yamauchi R, Miyazawa H, Tanaka N, Morimoto T, Kimura T, Shizuta S; KPAF Registry investigators : Catheter Ablation for Paroxysmal Atrial Fibrillation With Sick Sinus Syndrome: Insights From the Kansai Plus Atrial Fibrillation Registry. *Heart Lung Circ.* 32 (2) : 205–214, 2023, (DOI:10.1016/j.hlc.2022.09.007)
45. Tanaka N, Inoue K, Kobori A, Kaitani K, Morimoto T, Kurotobi T, Morishima I, Yamaji H, Matsui Y, Nakazawa Y, Kusano K, Tanaka K, Hirao Y, Okada M, Koyama Y, Okamura A, Iwakura K, Fujii K, Kimura T, Shizuta S; KPAF investigators : Atrial Fibrillation Ablation Outcomes and Heart Failure (from the Kansai Plus Atrial Fibrillation Registry). *Am J Cardiol.* 189 : 108–118, 2023, (DOI:10.1016/j.amjcard.2022.11.038)
46. Matsuda S, Kato T, Morimoto T, Taniguchi T, Minamino-Muta E, Matsuda M, Shiomi H, Ando K, Shirai S, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Izumi C, Miyake M, Mitsuoka H, Kato M, Hirano Y, Nagao K, Inada T, Mabuchi H, Takeuchi Y, Yamane K, Toyofuku M, Ishii M, Inoko M, Ikeda T, Komasa A, Ishii K, Hotta K, Higashitani N, Jinnai T, Kato Y, Inuzuka Y, Morikami Y, Saito N, Minatoya K, Kimura T : Atrial fibrillation in patients with severe aortic stenosis. *J Cardiol.* 81 (2) : 144–153, 2023, (DOI:10.1016/j.jcc.2022.08.006)
47. Seki T, Murata M, Takabayashi K, Yanagisawa T, Ogihara M, Kurimoto R, Kida K, Tamita K, Song X, Ozasa N, Taniguchi R, Nishitani-Yokoyama M, Koba S, Murai R, Furukawa Y, HamasaKi M, Kondo H, Hayashi H, Ootakara-Katsume A, Tateishi K, Matoba S, Adachi H, Shiraishi H; START Investigators : Cardiac Rehabilitation for Patients With Stable Ischemic Heart Disease Without Revascularization – Rationale and Design of a Single-Arm Pilot Study. *Circ Rep.* 5 (3) : 90–94, 2023, (DOI:10.1253/circrep.CR-22-0131)
48. Kobayashi H, Kim K, Furukawa Y : Impact of the Concurrent Acute Illness on the Short-Term Prognosis in Patients with Hemodynamically Stable Acute Pulmonary Embolism. *Ann Vasc Dis.* 16 (1) : 24–30, 2023, (DOI: 10.3400/avd.oa.22-00007)
49. Kurashima S, Kitai T, Matsue Y, Nogi K, Kagiya N, Oishi S, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Kida K, Okumura T, Nogi M, Ishihara S, Ueda T, Kawakami R, Furukawa Y, Saito Y, Izumi C : Trajectory of serum chloride levels during decongestive therapy in acute heart failure. *Int J Cardiol.* 375 : 36–43, 2023, (DOI:10.1016/j.ijcard.2022.12.041)
50. Masumoto A, Azumi Y, Kaji S, Miyoshi Y, Kim K, Kitai T, Furukawa Y : Impact of antithrombotic therapy on clinical outcomes in patients with type B acute aortic syndrome. *JTCVS Open.* 14:36–45, 2023, (DOI:10.1016/j.xjon.2023.02.017)
51. Sano M, Murai R, Kim K, Furukawa Y : Cardiac magnetic resonance findings in acute myocarditis after mRNA COVID-19 vaccination. *J Cardiol Cases.* 26 (1) : 17–20, 2022, (DOI:10.1016/j.jccase.2022.01.015)
52. Miyawaki N, Kinoshita M, Furukawa Y : Successful treatment of ascending aortic thrombosis associated with coronavirus disease 2019: Case report. *J Cardiol Cases.* 26 (4) : 305–307, 2022, (DOI:10.1016/j.jccase.2022.06.003)

53. Shigeno R, Okada T, Koyama T, Furukawa Y : Surgical resection and epicardial lead implantation for primary cardiac lymphoma with a complete atrioventricular block: a case report. *Eur Heart J Case Rep.* 7 (2) : yta035, 2023, (DOI:10.1093/ehjcr/yta035)
54. Ikawa A, Okada T, Yamashita D, Furukawa Y : Progression of IgG4-related coronary aneurysm without corticosteroid treatment after surgical resection: A case report. *J Cardiol Cases.* 27 (6) :275-278, 2023, (DOI:10.1016/j.jccase.2023.02.012)

VII. 1.2 糖尿病・内分泌内科

1. 岩倉敏夫：特集 内分泌代謝緊急症 低血糖症. 月刊 糖尿病・内分泌代謝科 (内分泌・糖尿病・代謝内科) 54 (5) : 530-540, 2022
2. 岩倉敏夫：第9章 代謝・栄養疾患 3. 低血糖症. わかりやすい内科学, 井村裕夫, 足立壯一, 稲垣暢也, 尾野 亘, 木下彩栄, 妹尾 浩, 長尾美紀, 平井豊博, 藤井康友, 森信暁雄, 柳田素子編, 第5版, 文光堂, 東京, 744-747, 2023
3. Okubo M, Hataya Y, Fujimoto K, Iwakura T, Matsuoka N : Recovery from insulin dependence in immune checkpoint inhibitor-associated diabetes mellitus: A case report. *Journal of Diabetes Investigation.* 14 (1) : 147-150, 2023
4. Hataya Y, Okubo M, Hakata T, Fujimoto K, Iwakura T, Matsuoka N : Clinical characteristics of patients with unexplainable hypothalamic disorder diagnosed by the corticotropin-releasing hormone challenge test: a retrospective study. *BMC Endocrine Disorders.* 22 (1) : 312, 2022

VII. 1.3 脳神経内科

1. 尾原信行：動脈硬化性病変を基盤とする急性虚血性脳卒中. *RadFan12月臨時増刊号 脳血管内治療 BOOK2022 メディカルアイ* 20 (15), 2022
2. 幸原伸夫：第II編 末梢神経障害の臨床① 診断と治療総論 第3章 末梢神経障害の診断ステップ 5 電気生理学的検査. 末梢神経障害 解剖生理から診断, 治療, リハビリテーションまで, 神田 隆編, 医学書院, 東京, 62-74, 2022
3. 川本未知：第III編 末梢神経障害の臨床② 疾患各論 第22章 感染症に伴うニューロパチー 13 COVID-19に関連するニューロパチー. 末梢神経障害 解剖生理から診断, 治療, リハビリテーションまで, 神田 隆編, 医学書院, 東京, 393-398, 2022
4. 川本未知, 幸原伸夫:III Neuro-COVID (COVID-19に伴う神経合併症) 3.COVID-19重症例の神経学的特徴. COVID-19神経ハンドブック 急性期, 後遺症からワクチン副反応まで, 下畑享良編, 中外医学社, 東京, 92-98, 2022
5. Ishikawa S, Ando K, Katakami T, Kawamoto M : Cervical cord lesions in Wernicke' s encephalopathy. *RADIOLOGY CASE REPORTS* 17 (7) : 2424-2427, 2022
6. Mizu D, Matsuoka Y, Huh J, Kamitani Y, Fujiwara S, Ariyoshi K : The necessity of lumbar puncture in adult emergency patients with fever-associated seizures. *American Journal of Emergency Medicine* 58 : 120-125, 2022
7. Hiya S, Fujiwara S, Tanaka F, Kohara N, Kawamoto M : High-dose immunoglobulin-dependent chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy successfully managed with subcutaneous immunoglobulin using pharmacokinetic analysis. *eNeurologicalSci* 27 : 100404, 2022
8. Koizumi N, Takasugi J, Ohara N, Kawamoto M : FDG-PET/CT of Giant Cell Arteritis with Normal Inflammatory Markers. *Annals of Neurology* 92 (2) : 337-339, 2022
9. Yoshimura H, Tanaka T, Fukuma K, Matsubara S, Motoyama R, Mizobuchi M, Matsuki T, Manabe Y, Suzuki J, Kobayashi K, Shimotake A, Nishimura K, Onozuka D, Kawamoto M, Koga M, Toyoda K, Murayama S, Matsumoto R, Takahashi R, Ikeda A, Ihara M, PROPOSE Study Investigators : Impact of Seizure Recurrence on 1-Year Functional Outcome and Mortality in Patients With Poststroke Epilepsy. *Neurology.* 99 (4) : e376-e384, 2022
10. Hara A, Chihara N, Akatani R, Nishigori R, Tsuji A, Yoshimura H, Kawamoto M, Otsuka Y, Kageyama Y, Kondo T, Leypoldt F, Wandinger KP, Matsumoto R : Circulating plasmablasts and follicular helper T-cell subsets are associated with antibodypositive autoimmune epilepsy. *Frontiers in Immunology* 13 : 1048428, 2022

11. Abe S, Tanaka T, Fukuma K, Matsubara S, Motoyama R, Mizobuchi M, Yoshimura H, Matsuki T, Manabe Y, Suzuki J, Ishiyama H, Tojima M, Kobayashi K, Shimotake A, Nishimura K, Koga M, Toyoda K, Murayama S, Matsumoto R, Takahashi R, Ikeda A, Ihara M, PROPOSE Study Investigators : Interictal epileptiform discharges as a predictive biomarker for recurrence of poststroke epilepsy. *Brain Communications*. 4 (6) : fcac312, 2022
12. 吉村 元 : 特集「救急医療と神経生理」神経救急疾患における臨床神経生理. *臨床神経生理学* 50 (3) : 89-93, 2022
13. 吉村 元 : 特集 めまい—治療と研究の最前線 脳卒中後てんかん患者の機能予後と生命予後 : PROPOSE 研究の結果から. *医学のあゆみ* 282 (3) : 224-225, 2022
14. 吉村 元 : シンポジウム 20 : 新規抗てんかん薬の使い方—update 2021 急性症候性発作・てんかん重積状態時のプロトコール. *神経治療学* 39 (4) : 646-649, 2022
15. Nguyen TN, Qureshi MM, Klein P, Yamagami H, Abdalkader M, Mikulik R, Sathya A, Mansour OY, Czlonkowska A, Lo H, Field TS, Charidimou A, Banerjee S, Yaghi S, Siegler JE, Sedova P, Kwan J, de Sousa DA, Demeestere J, Inoa V, Omran SS, Zhang L, Michel P, Strambo D, Marto JP, Nogueira RG; SVIN COVID-19 Global COVID Stroke Registry; Kristoffersen ES, Tsivgoulis G, Lereis VP, Ma A, Enzinger C, Gattringer T, Rahman A, Bonnet T, Ligot N, De Raedt S, Lemmens R, Vanacker P, Vandervorst F, Conforto AB, Hidalgo RCT, Mora Cuervo DL, de Oliveira Neves L, Lameirinhas da Silva I, Martins RT, Rebello LC, Santiago IB, Sakelarova T, Kalpachki R, Alexiev F, Cora EA, Kelly ME, Peeling L, Pikula A, Chen HS, Chen Y, Yang S, Roje Bedekovic M, Čabal M, Tenora D, Fibrich P, Dušek P, Hlavačová H, Hrabanovska E, Jurák L, Kadlčíková J, Karpowicz I, Klečka L, Kovář M, Neumann J, Paloušková H, Reiser M, Rohan V, Šimůnek L, Skoda O, Škorňa M, Šrámek M, Drenck N, Sobh K, Lesaine E, Candice Sabben C, Reiner P, Rouanet F, Strbian D, Boskamp S, Mbroh J, Nagel S, Rosenkranz M, Poli S, Thomalla G, Karapanayiotides T, Koutroulou I, Karagiotis O, Palaiodimou L, Barrientos Guerra JD, Huded V, Nagendra S, Prajapati C, Sylaja PN, Sani AF, Ghoreishi A, Farhoudi M, Hokmabadi ES, Hashemilar M, Sabetay SI, Rahal F, Acampa M, Adami A, Longoni M, Omello R, Renieri L, Romoli M, Sacco S, Salmaggi A, Sangalli D, Zini A, Sakai K, Fukuda H, Fujita K, Imamura H, Kosuke M, Sakaguchi M, Sonoda K, Matsumura Y, Ohara N, Shindo S, Takenobu Y, Yoshimoto T, Toyoda K, Uwatoko T, Sakai N, Yamamoto N, Yamamoto R, Yazawa Y, Sugiura Y, Baek Jang-Hyun, Lee SB, Seo Kwon-Du k, Sohn Sung-II, Lee JS, Arsovska AA, Chieh CY, Wan Zaidi WA, Nafisah Wan Yahya WN, Gongora-Rivera F, Martinez-Marino M, Infante-Valenzuela A, Dippel D, van Dam-Nolen DHK, Wu TY, Punter M, Adebayo TT, Bello AH, Sunmonu TA, Wahab KW, Sundseth A, Al Hashmi AM, Ahmad S, Rashid U, Rodriguea-Kadota L, Vences MA, Yalung PM, Hao Dy JS, Brola W, Debiec A, Dorobek M, Karlinski MA, Labuz-Roszak BM, Lasek-Bal A, Sienkiewicz-Jarosz H, Staszewski J, Sobolewski P, Wiacek M, Zielinska-Turek J, Araujo AP, Rocha M, Castro P, Ferreira P, Nunes AP, Fonseca L, E melo TP, Rodrigues M, Silva ML, Ciopleias B, Dimitriade A, Falup-Pecurariu C, Hamid MA, Venketasubramanian N, Krastev G, Haring J, Ayo-Martin O, Hernandez-Fernandez F, Blasco J, Rodríguez-Vazquez A, Cruz-Culebras A, Moniche F, Montaner J, Perez-Sanchez S, García Sánchez MJ, Rodríguez MG, Bernava G, Bolognese M, Carrera E, Churojana A, Aykac O, Özdemir AO, Bajrami A, Senadim S, Hussain S, John S, Krishnan K, Lenthall R, Asif KS, Below K, Biller J, Chen M, Chebi A, Colasurdo M, Czap A, de Havenon AH, Dharmadhikari S, Eskey C, Farooqui M, Feske SK, Goyal N, Grimmett KB, Guzik AK, Haussen DC, Hovingh M, Jillela D, Kan PT, Khatri R, Khoury NN, Kiley NL, Kolikonda M, Lara S, Li G, Linfante I, Loochtan AI, Lopez CD, Lycan S, Male SS, Nahab F, Maali L, Masoud HE, Min J, Orgeta-Gutierrez S, Mohamed GA, Mohammaden M, Nalleballe K, Radaideh Y, Ramakrishnan P, Rayo-Taranto B, Rojas-Soto DM, Ruland S, Simpkins AN, Sheth SA, Starosciak AK, Tarlov NE, Taylor RA, Voetsch B, Zhang L, Duong HQ, Dao VP, Le HV, Pham TN, Ton MD, Tran AD, Zaidat OO, Machi P, Dirren E, Fernández CR, López JE, Fernández Ferro JC, Mohammadzadeh N, Suryadevara NC, de la Cruz Fernández B, Bessa F, Jancar N, Brady M, Scozzari D : Global Impact of the COVID-19 Pandemic on Cerebral Venous Thrombosis and Mortality. *J Stroke*. 24 (2) : 256-265, 2022
16. Fujiwara S, Sakai N, Imamura H, Ohara N, Tanaka K, Yamagami H, Matsumoto Y, Takeuchi M, Uchida K, Yoshimura S, Morimoto T; RESCUE-Japan Registry 2 Investigators : Impact of prior antiplatelet therapy on outcomes of endovascular therapy for acute ischemic stroke with large vessel occlusion: Sub-analysis of the RESCUE-Japan Registry 2. *J Neurol Sci*. 438 : 120278, 2022

17. Kimura M, Ohara N, Fukuda T, Imamura H, Sakai N, Kawamoto M : Parent Artery Embolization to Treat Bow Hunter's Syndrome. *J Vasc Interv Radiol.* 33 (5) : 609–611, 2022
18. Inui R, Fujiwara S, Kuroda T, Ohara N, Imamura H, Kohara N, Ariyoshi K, Kawamoto M, Sakai N : Convulsive-like symptoms as initial indications of basilar artery occlusion: A case series study. *eNeurologicalSci.* 28 : 100410, 2022
19. Nguyen TN, Qureshi MM, Klein P, Yamagami H, Mikulik R, Etminan N, Abdalkader M, Mansour OY, Czlonkowska A, Lo H, Sathya A, Demeestere J, Tsvigoulis G, Sakai N, Sedova P, Kristoffersen ES, Mohammaden M, Lereis VP, Scollo SD, Ma A, Rahman A, Bonnet T, Cortier J, Raedt SD, Lemmens R, Ligot N, T Hidalgo RC, Mora Cuervo DL, de Oliveira Neves L, Salles Rezende MT, Santiago IB, Sirakov A, Sirakov S, Cora EA, Kelly ME, Lavoie P, Peeling L, Pikula A, Rivera R, Hui-Sheng Chen, Chen Y, Fang H, Bedekovic MR, Budincevic H, Čabal M, Hrabanovska E, Jurak L, Kadlckova J, Karpowicz I, Klečka L, Kovař M, Neumann J, Palouškova H, Reiser M, Reková P, Škorňa M, Šramek M, Vitkova E, Žakova L, Sobh K, Alpay K, Rautio R, Strbian D, Jean-Christophe Gentric, Magro E, Naggara O, Reiner P, Abdulazim A, Bohmann FO, Boskamp S, Gerber JC, Daniel P O kaiser, Roxane-Isabelle Kestner, Mbroh J, Neyazi M, Rosenkranz M, Poli S, Thomalla G, Karapanayiotides T, Kargiotis O, Koutroulou I, Palaiodimou L, Barrientos Guerra JD, Huded V, Nagendra S, Prajapati C, Krishna A, Sani AF, Ghoreishi A, Bahrami R, Iikhchi RB, Jalili J, Sabetay SI, Raya TA, Acampa M, Longoni M, Bigliani CR, Castellan L, Ornello R, Renieri L, Romoli M, Sacco S, Sangalli D, Vigano M, Zini A, Tokimura H, Sonoda K, Todo K, Fukuda H, Fujita K, Sakaguchi M, Uno M, Kan I, Kosuke M, Kono R, Kimura N, Yamamoto N, Yamamoto R, Doijiri R, Shindo S, Ohara N, Imamura H, Ogawa T, Uwatoko T, Kanamaru T, Fujinaka T, Takenobu Y, Toyoda K, Matsumaru Y, Yazawa Y, Sugiura Y, Jang-Hyun Baek, Kwon YS, Lee YH, Kwon-Duk Seo, Sung-II Sohn, Chan YC, Wan Zaidi WA, Barrientos-Prieto J, Gongora-Rivera F, Martinez-Marino M, Calderon-Vallejo A, Groppa S, Pavel L, Coutinho JM, Dippel D, Rinkel L, Dianne H K van Dam-Nolen, Nwazor EO, Sunmonu TA, Kristoffersen ES, Amal M AI Hsahimi, Ahmad S, Rashid U, Rodriguez-Kadota L, Vences MA, Yalung PM, Jon Stewart Hao Dy, Brola W, Debiec A, Dorobek M, Karlinski MA, Labuz-Roszak BM, Lasek-Bal A, Sienkiewicz-Jarosz H, Staszewski J, Sobolewski P, Wiacek M, Zielinska-Turek J, Araujo AP, Fonseca L, Silva ML, Castro P, Rocha M, Falup-Pecurariu C, Venketasubramanian N, Krastev G, Mako M, Ayo-Martin O, Blasco J, Cruz-Culebras A, Hernandez-Fernandez F, Fernandez CR, Lopez JE, Rodriguez AR, Bolognese M, Krawacki GM, Keller E, Machi P, Bernava G, Boonyakarnkul S, Churojana A, Hammami N, Bajrami A, Senadim S, Hussain S, John S, Dow G, Krishnan K, Lenthall R, Wong K, Zhang L, Aitschul D, Asif KS, Aziz-Sultan MA, Bach I, Bahiru Z, Below K, Biller J, Chaudhry SA, Chebl A, Chen M, Colasurdo M, Czap A, Dasenbrock H, Adam H de Havenon, Dharmadhikari S, Dmytriw AA, Eskey CJ, Etherton M, Ezepue C, Eink L, Gasimova U, Goyal N, Girmmett KB, Hakemi M, Hester T, Inoa V, Kan PT, Kasper EM, Khandelwal P, khatri R, Khawaja AM, Khoury NN, Kim BS, Kolikonda M, Kuhn AL, Linares G, Linfante I, Loochtan AI, Lukovits TG, Male SS, Maali L, Masoud HE, Ortega-Gutierrez S, Puri AS, Radaideh Y, Rahangdale RH, Ramakrishana P, Reddy AB, Ruland S, Omran SS, Sheth SA, Siegler JE, Starosciak AK, Tarlov NE, Taylor RA, Tsai J, Wang MJ, Ka-HO Wong, Zaidat OO, Le HV, Pham TN, Phan HT, Ton MD, Tran AD, Sirakova K, Möhleenbruch MA, Nagel S, Raymond J, Nogueira RG; SVIN COVID-19 Global SAH Registry : Global impact of the COVID-19 pandemic on subarachnoid haemorrhage hospitalisations, aneurysm treatment and in-hospital mortality: 1-year follow-up. *J Neurol Neurosurg Psychiatry.* 28 : 329200, 2022
20. Fujiwara S, Kuroda T, Matsuoka Y, Ohara N, Imamura H, Yamamoto Y, Ariyoshi K, Kohara N, Kawamoto M, Sakai N : Prehospital stroke notification and endovascular therapy for large vessel occlusion: a retrospective cohort study. *Sci Rep.* 12 (1) : 10107, 2022
21. Maekawa K, Ohara N, Takasugi J, Fujiwara S, Okada T, Miyakoshi C, Imamura H, Kawamoto M, Sakai N : Low left atrial volume is an independent predictor of persistent hypotension after carotid artery stenting. *J Neurointerv Surg.* 019094, 2022
22. Yoshimoto T, Yamagami H, Sakai N, Toyoda K, Hashimoto Y, Hirano T, Iwama T, Goto R, Kimura K, Kuroda S, Matsumaru Y, Miyamoto S, Ogasawara K, Okada Y, Shiokawa Y, Takagi Y, Tominaga T, Uno M, Yoshimura S, Ohara N, Imamura H, Sakai C : Impact of COVID-19 on the Volume of Acute Stroke Admissions: A Nationwide Survey in Japan. *Neurol Med Chir (Tokyo).* 62 (8) : 369–376, 2022

23. Ishiyama H, Ishii J, Yoshimura H, Ohara N, Kohara N, Kawamoto M : Authors Response: Adherence to Clear-cut Definitions Is Mandatory When Assessing Short- and Long-term Neurological Complications of COVID-19. *Intern Med.* 61 (15) : 2401, 2022
24. Fujiwara S, Sakai N, Imamura H, Ohara N, Tanaka K, Yamagami H, Matsumoto Y, Takeuchi M, Uchida K, Yoshimura S, Morimoto T; RESCUE-Japan Registry 2 Investigators : Association between anemic status on admission and clinical outcomes of acute large vessel occlusion. *J Neurol Sci.* 440 : 120343, 2022
25. Kamogawa N, Tanaka K, Yamagami H, Yoshimoto T, Uchida K, Morimoto T, Imamura H, Sakai N, Ohara N, Matsumoto Y, Takeuchi M, Shigeta K, Toyoda K, Yoshimura S : Outcomes of Symptomatic Anterior Large Vessel Occlusion by Initial Imaging Assessment Using Diffusion - Weighted Imaging Versus Noncontrast Computed Tomography. *Stroke: Vascular and Interventional Neurology* 2 : e000170, 2022
26. Nguyen TN, Qureshi MM, Klein P, Yamagami H, Mikulik R, Czlonkowska A, Abdalkader M, Sedova P, Sathya A, Lo HC, Mansour OY, Vanguru HR, Lesaine E, Tsvigoulis G, Loochtan AI, Demeestere J, Uchino K, Inoa V, Goyal N, Charidimou A, Siegler JE, Yaghi S, Aguiar de Sousa D, Mohammaden M, Haussen DC, Kristoffersen ES, Lereis VP, Scollo SD, Campbell BCV, Ma A, Thomas JO, Parsons MW, Singhal S, Slater LA, Martins RT, Enzinger C, Gattringer T, Rahman A, Bonnet T, Ligot N, De Raedt S, Lemmens R, Vanacker P, Vandervorst F, Conforto AB, Hidalgo RCT, de Oliveira Neves L, Martins RT, Mora Cuervo DL, Rebello LC, Santiago IB, Lameirinhas da Silva I, Sakelaraova T, Kalpachki R, Alexiev F, Catanese L, Cora EA, Goyal M, Hill MD, Kelly ME, Khosravani H, Lavoie P, Peeling L, Pikula A, Rivera R, Chen HS, Chen Y, Huo X, Miao Z, Yang S, Bedekovic MR, Bralic M, Budincevic H, Corredor-Quintero AB, Lara-Sarabia OE, Cabal M, Tenora D, Fibrich P, Herzig R, Hlavačova H, Hrabanovska E, Hlinovsky D, ProfileLubomir Jurak VO, Kadlcikova J, Karpowicz I, Klecka L, Kovar M, Lauer D, Neumann J, Palouskova H, Martin R, ProfilePetra Rekova VO, Rohan V, Skoda O, View ORCID ProfileMiroslav Škorňa, Lenka S, Sramek M, Zakova L, Christensen Hanne, Nicolas Drenck, Helle Klingenberg Iversen, View ORCID ProfileThomas Clement Truelsen, ProfileTroels Wienecke VO, Sobh K, Ylikotila P, Alpay K, ProfileDaniel Strbian VO, Bernady P, Casenave P, Dan M, Jean-Marc Fauchoux, Jean-Christophe Gentric, Magro E, Sabben C, Reiner P, Rouanet F, View ORCID ProfileFerdinand O.Bohmann, Boskamp S, ProfileJoshua Mbroh VO, Nagel S, View ORCID ProfileChristian H. Nolte, Peter A. Ringleb, Rosenkranz M, Poli S, Thomalla G, ProfileTheodoros Karapanayiotides VO, ProfileIoanna Koutroulou VO, Kargiotis O, Palaiodimou L, Barrientos Guerra JD, Huded V, Menon B, Nagendra S, Prajapati C, P.N. Sylaja, View ORCID ProfileNyoman Angga Krishna Pramana, View ORCID ProfileAchmad Firdaus Sani, Ghoreishi A, Farhoudi M, View ORCID ProfileElyar Sadeghi Hokmabadi, View ORCID ProfileTariq Abu Raya, Kalmanovich SA, Ronen L, View ORCID ProfileSergiu Ionut Sabetay, View ORCID ProfileMaurizio Acampa,Adami A, Lucio C,Longoni M, View ORCID ProfileRaffaele Ornello, Renieri L, Bigliani CR, View ORCID ProfileMichele Romoli, View ORCID ProfileSimona Sacco, Salmaggi A, View ORCID ProfileDavide Sangalli, Zini A, Dojjiri R, View ORCID ProfileHiroki Fukuda, Fujinaka T, ProfileKyohei Fujita VO, Imamura H, View ORCID ProfileNobuyuki Sakai, View ORCID ProfileTakuya Kanamaru, Kimura N, Kono R, View ORCID ProfileKosuke Miyake, Sakaguchi M, Sakai K, Sonoda K, Todo K, Miyashita F, View ORCID ProfileNaoki Tokuda, Matsumaru Y, Matsumoto S, View ORCID ProfileNobuyuki Ohara, Shindo S, Takenobu Y, View ORCID ProfileTakeshi Yoshimoto, View ORCID ProfileKazunori Toyoda, Uwatoko T, Yagita Y, View ORCID ProfileTakehiro Yamada, View ORCID ProfileNobuaki Yamamoto, Yamamoto R, Yazawa Y, Sugiura Y, View ORCID ProfilePeter Kuria Waweru, Jang-Hyun Baek, View ORCID ProfileSi Baek Lee, View ORCID ProfileKwon-Duk Seo, View ORCID ProfileSung-Il Sohn, View ORCID ProfileAnita Ante Arsovska, Chan YC, View ORCID ProfileWan Asyraf Wan Zaidi, Jaafar AS, Gongora-Rivera F, Martinez-Marino M, Infante-Valenzuela A, Groppa S, View ORCID ProfilePavel Leahu, View ORCID ProfileJonathan M, Coutinho, Leon A. Rinkel, View ORCID ProfileDiederik W.J. Dippel, View ORCID ProfileDianne H.K. van Dam-Nolen, View ORCID ProfileAnnemarei Ranta, Teddy Y. Wu, Adebayo TT, Abiodun H. Bello, Nwazor EO, Sunmonu TA, Wahab KW, Ronning OM, Sandset EC, Amal M. Al Hashmi, Ahmad S, Rashid U, Rodriguez-Kadota L, View ORCID ProfileMiguel Ángel Vences, Yalung PM, Hao Dy JS, Pineda-Franks MC, Co CO, Broła W, Debiec A, Dorobek M, View ORCID ProfileMichał Adam Karlinski, View ORCID ProfileBeata M. Labuz-Roszak, Lasek-Bal A, Sienkiewicz-Jarosz H, Staszewski J, Sobolewski P, View ORCID

- ProfileMarcin Wiacek, Zielinska-Turek J, Araujo AP, Rocha M, Castro P, View ORCID ProfileVitor Tedim Cruz, View ORCID ProfilePaulo Venancio Ferreira, Ferreira P, View ORCID ProfileAna Paiva Nunes, View ORCID ProfileLuisa Fonseca, View ORCID ProfileJoão Pedro Marto, Teresa Pinho e Melo, Rodrigues M, M. Luis Silva, Dimitriade A, Falup-Pecurariu C, Hamid MA, Venketasubramanian N, View ORCID ProfileGeorgi Krastev, View ORCID ProfileMiroslav Mako, Ayo-Martin O, Hernández-Fernández F, Blasco J, View ORCID ProfileAlejandro Rodríguez-Vázquez, Cruz-Culebras A, View ORCID ProfileFrancisco Moniche, Montaner J, Perez-Sanchez S, García Sánchez MJ, View ORCID ProfileMarta Guillán Rodríguez, Jood K, Nordanstig A, Michael V. Mazya, View ORCID ProfileTiago T.P. Moreira, Bernava G, Beyeler M, Bolognese M, Carrera E, Dobrocky T, View ORCID ProfileGrzegorz Marek Karwacki, Keller E, Hsieh CY, Boonyakarnkul S, Churojana A, Aykac O, Atilla A-zcan Ozdemir, Bajrami A, Senadim S, View ORCID ProfileSyed Irteza Hussain, View ORCID ProfileSeby John, Banerjee SView ORCID ProfileJoseph Kwan, View ORCID ProfileKailash Krishnan, Lenthall R, Matthews A, Wong K, Zhang L, View ORCID ProfileDorothea Altschul, Kaiz S. Asif, Bahiru Z, View ORCID ProfileKristine Below, Biller J, Ruland S, Saqib A. Chaudry, Chen M, Chebl A, Cibulka J, Cistrunk L, Clark J, View ORCID ProfileMarco Colasurdo, Czap A, View ORCID ProfileAdam de Havenon, Salvatore D'Amato, Dharmadhikari S, Kasey B. Grimmett, Adam A. Dmytriw, Mark R. Etherton, Ezepue C, View ORCID ProfileMudassir Farooqui, Steven K. Feske, Fink L, Gasimova U, View ORCID ProfileAmy K. Guzik, Hakemi Maryam, Hovingh M, Khan M, View ORCID ProfileDinesh Jillela, Peter T. Kan, Khatri R, Ayaz M. Khawaja, Naim N. Khoury, Nicole L. Kiley, Benny S. Kim, Murali K. Kolikonda, Kuhn AL, Lara S, Linares G, Linfante I, Timothy G. Lukovits, Lycan S, View ORCID ProfileShailesh S. Male, Maali L, Mancin J, View ORCID ProfileHesham Masoud, Ghada A. Mohamed, Monteiro A, Nahab F, View ORCID ProfileKrishna Nalleballe, Santiago Ortega-Gutierrez, Ajit S. Puri, Radaideh Y, Rahul H. Rahangdale, Rai A, Ramakrishnan P, Aravind B. Reddy, Diana M. Rojas-Soto, View ORCID ProfileJose Rafael Romero, Natalia S. Rost, View ORCID ProfileAaron Rothstein, Omran SS, Sunil A. Sheth, Adnan H. Siddiqui, View ORCID ProfileAmy K. Starosciak, Nicholas E. Tarlov, Robert A. Taylor, Michael J. Wang, Wolfe J, Ka-Ho Wong, Le HV, Nguyen QV, Pham TN, Nguyen TT, Phan HT, Ton MD, Fischer U, Michel P, Strambo D, Sheila O. Martins, Osama O. Zaidat, Raul G. Nogueira, and the SVIN COVID-19 Global Stroke Registry : Global Impact of the COVID-19 Pandemic on Stroke Volumes and Cerebrovascular Events: One-Year Follow-up. *Neurology* 100 (4) : E408-E421, 2022
27. Ohara M, Yoshimoto T, Okazaki S, Gon Y, Todo K, Sasaki T, Takasugi J, Ohara N, Ihara M, Mochizuki H : RNF213 p.R4810K Variant Carriers with Intracranial Arterial Stenosis Have a Low Atherosclerotic Burden. *J Atheroscler Thromb.* 29 (11) : 1655-1662, 2022
 28. Shimasaki N, Ishii J, Kuwahara T, Nishijima H : A Brief Questionnaire on Healthcare Workers' Awareness Toward the COVID-19 Vaccine and Antibody Tests. *Journal of Disaster Research* 18 (1) : 21-26, 2023
 29. Tsunogae M, Yoshimura H, Matsuzaki M, Yokota S, Kawamoto M : Localised chiasmal optic neuritis in neuromyelitis optica spectrum disorder. *Practical Neurology* 22 (2) : 154-155, 2022
 30. Oki R, Izumi Y, Fujita K, Miyamoto R, Nodera H, Sato Y, Sakaguchi S, Nokihara H, Kanai K, Tsunemi T, Hattori N, Hatanaka Y, Sonoo M, Atsuta N, Sobue G, Shimizu T, Shibuya K, Ikeda K, Kano O, Nishinaka K, Kojima Y, Oda M, Komai K, Kikuchi H, Kohara N, Urushitani M, Nakayama Y, Ito H, Nagai M, Nishiyama K, Kuzume D, Shimohama S, Shimohata T, Abe K, Ishihara T, Onodera O, Iose S, Araki N, Morita M, Noda K, Toda T, Maruyama H, Furuya H, Teramukai S, Kagimura T, Noma K, Yanagawa H, Kuwabara S, Kaji R; Japan Early-Stage Trial of Ultrahigh-Dose Methylcobalamin for ALS (JETALS) Collaborators : Efficacy and Safety of Ultrahigh-Dose Methylcobalamin in Early-Stage Amyotrophic Lateral Sclerosis: A Randomized Clinical Trial. *JAMA Neurol* 79 (6) : 575-583, 2022
 31. Sekiya H, Tsuji A, Hashimoto Y, Takata M, Koga S, Nishida K, Futamura N, Kawamoto M, Kohara N, Dickson DW, Kowa H, Toda T : Discrepancy between distribution of alpha-synuclein oligomers and Lewy-related pathology in Parkinson's disease. *Acta Neuropathol Commun.* 10 : 133, 2022
 32. Yamasaki H, Futamura N, Funakawa I, Kohara N, Yoshimura S, Motomura M : Two Lambert-Eaton Myasthenic Syndrome Patients with Ameliorated Activities of Daily Living Due to Cholinesterase Inhibitors. *Intern Med.* 61 (7) : 1063-1065, 2022

33. Tani Y, Saito T, Taniguchi S, Ishihara M, Paku M, Adachi T, Ando M, Kohara N, Kimura J : Threshold-based Monitoring of Compound Muscle Action Potentials for Percutaneous Pedicle Screw Placement in the Lumbosacral Spine: Can We Rely on Stimulation of the Uninsulated Screw to Provide a Valid Safety Warning? *Spine (Phila Pa 1976)*. 47 (14) : 1003-1010, 2022

Ⅶ. 1.4 消化器内科

1. 細谷和也, 森田周子 : 増刊号 図説「胃と腸」画像診断用語集 2022 食道皮脂腺. *胃と腸* 57 (5) : 588, 2022
2. 森田周子, 山下大祐 : 増刊号 図説「胃と腸」画像診断用語集 2022 食道噴門腺. *胃と腸* 57 (5) : 593, 2022
3. Yabuuchi Y, Hosotani K, Morita S, Imai K, Hotta K, Inokuma T : Effective Endoscopic Delineation With Acetic Acid Spray and Narrow Band Imaging in Underwater Endoscopic Mucosal Resection for Sessile Serrated Lesion. *The American Journal of Gastroenterology* 117 (6) : 840, 2022, (DOI:10.14309/ajg.0000000000001694)
4. Aoyama N, Inokuma T, Nakanishi Y, Fukuda A : Olmesartan-associated sprue-like enteropathy. *BMJ* 15 (12) : e254189, 2022, (DOI:10.1136/bcr-2022-254189)
5. Tanaka K, Yabuuchi Y, Yamashita D, Hosotani K, Morita S, Inokuma T : Endoscopic submucosal dissection for a superficial esophageal squamous cell carcinoma located in a Rokitansky diverticulum. *Endoscopy* 54 (Suppl 2) : E986-E987, 2022, (DOI:10.1055/a-1884-9509)
6. Hosotani K, Yabuuchi Y, Yamashita D, Hara S, Inokuma T : Endoscopic submucosal dissection for complete removal of a residual colorectal tumor involving a diverticulum. *Endoscopy*. 54 (suppl 2) : E908-E909, 2022, (DOI:10.1055/a-1864-9146)
7. Yabuuchi Y, Hosotani K, Morita S, Kondo M, Inokuma T : A novel technique to improve endoscopic accessibility in laparoscopic endoscopic cooperative surgery for a duodenal lesion. *Endosc Int Open*. 10 (12) : E1597-E1598, 2022, (DOI:10.1055/a-1961-2625)
8. Hosotani K, Yabuuchi Y, Yamashita D, Inokuma T : Detecting remnant sessile serrated lesion after piecemeal cold snare polypectomy using acetic acid with narrow-band imaging. *Endosc Int Open*. 10 (12) : E1595-E1596, 2022, (DOI:10.1055/a-1959-6346)
9. Odagiri H, Hatta W, Tsuji Y, Yoshio T, Yabuuchi Y, Kikuchi D, Tsuji S, Nagami Y, Hikichi T, Kobayashi M, Morita Y, Sumiyoshi T, Iguchi M, Tomida H, Inoue T, Mikami T, Hasatani K, Nishikawa J, Matsumura T, Nebiki H, Nakamatsu D, Ohnita K, Suzuki H, Ueyama H, Hayashi Y, Sugimoto M, Yamaguchi S, Michida T, Yada T, Asahina Y, Narasaka T, Kuribayashi S, Kiyotoki S, Mabe K, Fujishiro M, Masamune A, Hoteya S : Bleeding following Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Cancer in Surgically Altered Stomach. *Digestion*. 103 (6) : 428-437, 2022, (DOI:10.1016/j.gie.2022.06.030)
10. Takada K, Hotta K, Imai K, Ito S, Kishida Y, Minamide T, Yamamoto Y, Yabuuchi Y, Yoshida M, Maeda Y, Kawata N, Takizawa K, Ishiwatari H, Matsubayashi H, Kawabata T, Ono H : Tip-in EMR as an alternative to endoscopic submucosal dissection for 20- to 30-mm nonpedunculated colorectal neoplasms. *Gastrointest Endosc*. 96 (5) : 849-856, 2022, (DOI:10.1016/j.gie.2022.06.030)
11. Aoyama N, Inokuma T, Nakanishi Y, Fukuda A : Pancreatic metastasis from lung adenocarcinoma. *Journal of General and Family Medicine*. 24 (3) : 192-193, 2023, (DOI:https://doi.org/10.1002/jgf2.612)

Ⅶ. 1.5 呼吸器内科

1. 永田一真, 富井啓介 : 気管支喘息の急性増悪の治療. 第1土曜特集 喘息の発症メカニズムと治療・管理医学のあゆみ 281 (1) : 102-106, 2022
2. 立川 良 : 1. 非薬物治療 (3) 在宅酸素・換気補助療法. COPD と気管支喘息, その周辺疾患 - 病態・診断・治療の最新動向 - 日本臨牀 80 : 348-355, 2022
3. 立川 良 : 生活習慣病と CPAP 治療. 特集 睡眠時無呼吸症候群 (SAS) の診療ガイドライン 2020 と診療の現況 呼吸器内科 41 (4) : 350-357, 2022
4. 富井啓介 : I. 疾患編 第1章 呼吸器疾患 12. 呼吸不全 I 急性呼吸不全. わかりやすい内科学, 井村裕夫, 足立壯一, 稲垣暢也, 尾野 亘, 木下彩栄, 妹尾 浩, 長尾美紀, 平井豊博, 藤井康友, 森信暁雄, 柳田素子編, 第5版, 文光堂, 東京, 97-100, 2023

5. Ohno Y, Aoyagi K, Arakita K, Doi Y, Kondo M, Banno S, Kasahara K, Ogawa T, Kato H, Hase R, Kashizaki F, Nishi K, Kamio T, Mitamura K, Ikeda N, Nakagawa A, Fujisawa Y, Taniguchi A, Ikeda H, Hattori H, Murayama K, Toyama H : Newly developed artificial intelligence algorithm for COVID-19 pneumonia: utility of quantitative CT texture analysis for prediction of favipiravir treatment effect. *Japanese Journal of Radiology* 40 (8) : 800-813, 2022, (DOI:10.1007/s11604-022-01270-5)
6. Tanaka-Yagi Y, Yamaguchi T, Matsuda Y, Mori M, Ikari T, Miwa S, Suzuki K, Tachikawa R, Nakata K, Kanatani M : Morphine may contribute to improving respiratory failure in severe COVID-19: A Case Report. *Indian J Palliat Care* 28 (2) : 221-223, 2022, (DOI:10.25259/IJPC_132_2021)
7. 富井啓介 : 特集 呼吸器疾患の緩和ケアを考える 緩和ケアとしての呼吸管理. *呼吸器内科* 42 (2) : 146-151, 2022
8. Ito J, Kawakami D, Seo R, Iwata K, Ouchi K, Nonami S, Miyoshi Y, Tatebe M, Tsuchida T, Asaka Y, Takeda C, Nishihara H, Mima H, Doi A, Tomii K, Ariyoshi K : Patient-centered outcomes at hospital discharge in mechanically ventilated COVID-19 patients in Kobe, Japan: A single-center retrospective cohort study. *Respiratory Investigation* 60 (5) : 694-703, 2022, (DOI:10.1016/j.resinv.2022.06.010)
9. Anan K, Kataoka Y, Ichikado K, Kawamura K, Johkoh T, Fujimoto K, Tobino K, Tachikawa R, Ito H, Nakamura T, Kishaba T, Inomata M, Kamitani T, Yamazaki H, Ogawa Y, Yamamoto Y : Early corticosteroid dose tapering in patients with acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis. *Respir Res* 23 (1) : 291, 2022, (DOI:10.1186/s12931-022-02195-3)
10. Akiyama N, Fujisawa T, Morita T, Koyachi T, Matsuda Y, Mori M, Miyashita M, Tachikawa R, Tomii K, Tomioka H, Hagimoto S, Kondoh Y, Inoue Y, Suda T : End-of-life care for idiopathic pulmonary fibrosis patients with acute exacerbation. *Respir Res* 23 (1) : 294, 2022, (DOI:10.1186/s12931-022-02204-5)
11. Tobe Y, Yamazaki H, Shirakawa C, Shinohara C, Fujiwara K, Naito Y : Management of Already Inserted Ventilation Tubes During Pediatric Cochlear Implantation : To Remove or Leave the Tube ? *Otology & Neurology* 44 (3) : e140-e145, 2023, (DOI:10.1097/MAO.00000000000003797)
12. Nomura N, Matsumoto H, Yokoyama A, Nishimura Y, Asano K, Niimi A, Tohda Y, Harada N, Nagase H, Nagata M, Inoue H, Kondo M, Horiguchi T, Miyahara N, Hizawa N, Hojo M, Hattori N, Hashimoto N, Yamasaki A, Kadowaki T, Kimura T, Miki M, Taniguchi H, Toyoshima M, Kawamura T, Matsuno O, Sato Y, Sunadome H, Nagasaki T, Oguma T, Hirai T; BEXAS study : Nationwide survey of refractory asthma with bronchiectasis by inflammatory subtypes. *Respir Res* 23 (1) : 365, 2022, (DOI:10.1186/s12931-022-02289-y)
13. Sugimoto T, Fujimoto D, Sato Y, Tamiya M, Yokoi T, Taniguchi Y, Hino A, Hata A, Uchida J, Fukuda Y, Hara S, Kanazu M, Matsumoto H, Kokubo M, Yamamoto N : Prospective multicenter cohort study of durvalumab for patients with unresectable stage III non-small cell lung cancer and grade 1 radiation pneumonitis. *Lung Cancer* 171 : 3-8, 2022, (DOI:10.1016/j.lungcan.2022.07.005)
14. Terai H, Soejima K, Shimokawa A, Horinouchi H, Shimizu J, Hase T, Kanemaru R, Watanabe K, Ninomiya K, Aragane N, Yanagitani N, Sakata Y, Seike M, Fujimoto D, Kasajima M, Kubo A, Kusumoto S, Oyamada Y, Fujiwara K, Mori M, Hashimoto M, Shingyoji M, Kodani M, Sakamoto J, Agatsuma T, Kashiwabara K, Inomata M, Tachihara M, Tanaka K, Hayashihara K, Koyama N, Matsui K, Minato K, Jingu D, Sakashita H, Hara S, Naito T, Okada A, Tanahashi M, Sato Y, Asano K, Takeda T, Nakazawa K, Harada T, Shibata K, Kato T, Miyaoka E, Yoshino I, Gemma A, Mitsudomi T : Real-World Data Analysis of Pembrolizumab Monotherapy for NSCLC Using Japanese Postmarketing All-Case Surveillance Data. *JTO Clin Res Rep* 3 (11) : 100404, 2022, (DOI:10.1016/j.jtocrr.2022.100404)
15. Katakami N, Yokoyama T, Morita S, Okamoto T, Urata Y, Hattori Y, Iwamoto Y, Sato Y, Ikeda N, Takahashi T, Daga H, Oguri T, Fujisaka Y, Nishino K, Sugawara S, Kozuki T, Oki M, Yamamoto N, Nakagawa K : Overall survival analysis of patients enrolled in a randomized phase III trial comparing gefitinib and erlotinib for previously treated advanced lung adenocarcinoma (WJOG5108LFS). *Int J Clin Oncol* 28 (1) : 79-88, 2023, (DOI:10.1007/s10147-022-02266-x)
16. Imaji M, Fujimoto D, Sato Y, Sakata Y, Oya Y, Tamiya M, Suzuki H, Ikeda H, Kijima T, Matsumoto H, Kanazu M, Hino A, Inaba M, Tsukita Y, Arai D, Maruyama H, Hara S, Tsumura S, Kobe H, Sumikawa H, Sakata S, Yamamoto N : Safety and efficacy of osimertinib rechallenge or continuation after pneumonitis: A multicentre retrospective cohort study. *Eur J Cancer* 179 : 15-24, 2023, (DOI:10.1016/j.ejca.2022.10.029)

17. Shima Y, Sato Y, Morimoto T, Hara S, Hirabayashi R, Nagata K, Nakagawa A, Tachikawa A, Hamakawa H, Takahashi Y, Tomii K : Predictive performance of PD-L1 tumor proportion score for nivolumab response evaluated using archived specimens in patients with non-small cell lung cancer experiencing a postoperative recurrence. *Invest New Drugs*. 41 (1) : 35–43, 2022, (DOI:10.1007/s10637-022-01309-4)
18. Sato Y, Saito G, Fujimoto D : Histologic transformation in lung cancer: when one door shuts, another opens. *Ther Adv Med Oncol* 14 : 17588359221130503, 2022, (DOI:10.1177/17588359221130503)
19. John T, Sakai H, Ikeda S, Cheng Y, Kasahara K, Sato Y, Nakahara Y, Takeda M, Kaneda H, Zhang H, Maemondo M, Minato K, Hisada T, Misumi Y, Satouchi M, Hotta K, Li A, Oukessou A, Lu S : First-line nivolumab plus ipilimumab combined with two cycles of chemotherapy in advanced non-small cell lung cancer: a subanalysis of Asian patients in CheckMate 9LA. *Int J Clin Oncol*. 27 (4) : 695–706, 2022, (DOI:10.1007/s10147-022-02120-0)
20. Sato Y, Sumikawa H, Shibaki R, Morimoto T, Sakata Y, Oya Y, Tamiya M, Suzuki H, Matsumoto H, Yokoi T, Hashimoto K, Kobe H, Hin A, Inaba M, Tsukita Y, Ikeda H, Arai D, Maruyama H, Hara S, Tsumura S, Sakata S, Fujimoto D : Drug-related pneumonitis induced by osimertinib as First-Line Treatment for Epidermal Growth Factor Receptor Mutation-Positive Non-Small Cell Lung Cancer: A Real-World Setting. *Chest* 162 (5) : 1188–1198, 2022, (DOI:10.1016/j.chest.2022.05.035)
21. Akamatsu H, Teraoka S, Takamori S, Miura S, Hayashi H, Hata A, Toi Y, Shiraishi Y, Mamesaya N, Sato Y, Furuya N, Oyanagi J, Koh Y, Misumi T, Yamamoto N, Nakagawa K : Nivolumab retreatment in Non-Small Cell Lung Cancer Patients Who Responded to Prior Immune-Checkpoint Inhibitors and Had ICI-Free Intervals (WJOG9616L). *Clin Cancer Res* 28 (15) : 3207–3213, 2022, (DOI:https://doi.org/10.1158/1078-0432.CCR-22-0602)
22. Ikeda S, Kato T, Kenmotsu H, Ogura T, Sato Y, Hino A, Harada T, Kubota K, Tokito T, Okamoto I, Furuya N, Yokoyama T, Hosokawa S, Iwasawa T, Kasajima R, Miyagi Y, Misumi T, Okamoto H : Atezolizumab for Pretreated Non-Small Cell Lung Cancer with Idiopathic Interstitial Pneumonia: Final Analysis of Phase II AMBITIOUS Study. *Oncologist* 27 (9) : 720–e702, 2022, (DOI:10.1093/oncolo/oyac118)
23. Fujimoto D, Akamatsu H, Morimoto T, Wakuda K, Sato Y, Kawa Y, Yokoyama T, Tamiya M, Hiraoka R, Shingu N, Ikeda H, Tamiya A, Kanazu M, Miyauchi E, Miura S, Yanai M, Yomota M, Morinaga R, Yokoi T, Hata A, Suzuki H, Matsumoto H, Sakata S, Furuya N, Harutani Y, Nakachi I, Otsuki A, Uematsu S, Hara S, Yokoo K, Sugimoto T, Yamamoto N : Histologic transformation of epidermal growth factor receptor-mutated lung cancer. *Eur J Cancer* 166 : 41–50, 2022, (DOI:10.1016/j.ejca.2022.02.006)
24. Popa S, Hsia TC, Hung JY, Jung HA, Shih JY, Park CK, Lee SH, Okamoto T, Ahn HK, Lee YC, Sato Y, Lee SS, Mascaux C, Daoud H, Marten A, Miura S : Tyrosine Kinase Inhibitor Activity in Patients with NSCLC Harboring Uncommon EGFR Mutations: A Retrospective International Cohort Study (UpSwinG). *Oncologist* 27(4) : 255–265, 2022, (DOI:10.1093/oncolo/oyac022)
25. Nagata K, Horie T, Chohnabayashi N, Jinta T, Tsugitomi R, Shiraki A, Tokioka F, Kadowaki T, Watanabe A, Fukui M, Kitajima T, Sato S, Tsuda T, Kishimoto N, Kita H, Mori Y, Nakayama M, Takahashi K, Tsuboi T, Yoshida M, Hataji O, Fuke S, Kagajo M, Nishine H, Kobayashi H, Nakamura H, Okuda M, Tachibana S, Takata S, Osoreda H, Minami K, Nishimura T, Ishida T, Terada J, Takeuchi N, Kohashi Y, Inoue H, Nakagawa Y, Kikuchi T, Tomii K : Home High-Flow Nasal Cannula Oxygen Therapy for Stable Hypercapnic COPD: A Randomized Clinical Trial. *Am J Respir Crit Care Med* 206 (11) : 1326–1335, 2022, (DOI:10.1164/rccm.202201-0199OC)
26. Oda M, Yamaura K, Ishii H, Kitamura N, Tazawa R, Abe M, Tatsumi K, Eda R, Kondoh S, Morimoto K, Tanaka T, Yamaguchi E, Takahashi A, Izumi S, Sugiyama H, Nakagawa A, Tomii K, Suzuki M, Konno S, Ohkouchi S, Tode N, Handa T, Hirai T, Inoue Y, Arai T, Asakawa K, Tanaka T, Takada T, Nonaka H, Nakata K : Quantitative Evaluation of Changes in Three-Dimensional CT Density Distributions in Pulmonary Alveolar Proteinosis after GM-CSF Inhalation. *Respiration* 102 (2) : 101–109, 2023, (DOI:10.1159/000528038)
27. Komatsu M, Yamamoto H, Matsui S, Terasaki Y, Hebisawa A, Iwasawa T, Johkoh T, Baba T, Miyamoto A, Handa T, Tomii K, Waseda Y, Bando M, Ishii H, Miyazaki Y, Yoshizawa A, Takemura T, Kawabata Y, Hanaoka M, Ogura T, the Tokyo Diffuse Lung Disease Study Group : Respiratory lesions in IgG4-related disease: classification using 2019 American College of Rheumatology/European League Against Rheumatism criteria. *ERJ Open Res*. 8 (3) : 00120–2022, 2022, (DOI:10.1183/23120541.00120-2022)

28. Kohyama M, Suzuki T, Nakai W, Ono C, Matsuoka S, Iwatani K, Liu Y, Sakai Y, Nakagawa A, Tomii K, Ohmura K, Okada M, Matsuura Y, Ohshima S, Maeda Y, Okamoto T, Arase H : SARS-CoV-2 ORF8 is a viral cytokine regulating immune response. *Intern Immunol* 35 (1) : 43-52, 2023, (DOI:10.1093/intimm/dxac044)
29. Chen H, Nakagawa A, Takamori M, Abe S, Ueno D, Horita N, Kato S, Seki N : Diagnostic accuracy of the interferon-gamma release assay in acquired immunodeficiency syndrome patients with suspected tuberculosis infection: a meta-analysis. *Infection* 50 (3) : 597-606, 2022, (DOI:10.1007/s15010-022-01789-9)
30. 富井啓介:非がん性呼吸器疾患の緩和ケア呼吸困難を訴える患者に出会ったら? *臨床雑誌 内科* 131(3) : 492-499, 2023, (DOI:https://doi.org/10.15106/j_naika131_492)
31. Kawabata T, Ikeda M, Matsuzoe H, Oka S, Ohama H, Kabuto T, Takahashi Y, Shimada Y, Nakagawa A, Kataoka K : Acute Pleural Empyema Secondary to COVID-19 Treated with Negative-Pressure Wound Therapy, Resulting in Good Lung Expansion and Early Wound Closure. *International Journal of Surgical Wound Care* 4 (1) 22-28, 2023, (DOI:https://doi.org/10.36748/ijswc.4.1_22)
32. Kabuto T, Seo R, Miyakoshi C, Shimizu Y, Shima Y, Yamashita D, Hara S, Hirabayashi R, Tomii K, Takayama M, Tetsumoto K, Saito M, Hamakawa H, Suki B, Takahashi Y : Time dependency and unique etiology of barotrauma in COVID-19: A retrospective cohort study with landmark analysis and pathological approach. *PLOS ONE* 18 (3) : e0282868, 2023, (DOI:10.1371/journal.pone.0282868)
33. Hasegawa K, Doi A, Kuroda H, Hasuie T, Ogura A, Nasu S, Nishioka H, Tomii K : A pseudo-outbreak of COVID-19 associated pulmonary aspergillosis: a microbiological investigation of both the patients and the environment. *J Infect Prevent* 24 (2) : 83-88, 2023, (DOI:10.1177/17571774231152721)
34. Fujimoto D, Miura S, Tomii K, Sumikawa H, Yoshimura K, Wakuda K, Oya Y, Yokoyama T, Kijima T, Asao T, Tamiya M, Nakamura A, Yoshioka H, Tokito T, Murakami S, Tamiya A, Yokouchi H, Watanabe S, Yamaguchi O, Morinaga R, Jodai T, Ito K, Shiraiishi Y, Kogure Y, Shibaki R, Yamamoto N : Pneumonitis associated with pembrolizumab plus chemotherapy for non-squamous non-small cell lung cancer. *Scientific Reports* 13 (1) : 3698, 2023, (DOI:10.1038/s41598-023-30676-y)
35. Fujisawa T, Akiyama N, Morita T, Koyauchi T, Matsuda Y, Mori M, Miyashita M, Tachikawa R, Tomii K, Tomioka H, Hagimoto S, Kondoh Y, Inoue Y, Suda T : Palliative care for interstitial lung disease: A nationwide survey of pulmonary specialists. *Respirology*. 28 (7) : 659-668, 2023, (DOI:https://doi.org/10.1111/resp.14493)
36. Tohi M, Irie K, Mizuno T, Okuyoshi H, Hirabatake M, Ikesue H, Muroi N, Eto M, Fukushima S, Tomii K, Hashida T : Population Pharmacokinetics of Nivolumab in Japanese Patients with Nonsmall Cell Lung Cancer. *Ther Drug Monit* 45 (1) : 110-116, 2023, (DOI:10.1097/FTD.0000000000000996)

VII. 1.6 血液内科

1. Iwasaki M, Kanda J, Arai Y, Kondo T, Ishikawa T, Ueda Y, Imada K, Akasaka T, Yonezawa A, Yago K, Nohgawa M, Anzai N, Moriguchi T, Kitano T, Itoh M, Arima N, Takeoka T, Watanabe M, Hirata H, Asagoe K, Miyatsuka I, An LM, Miyanishi M, Takaori-Kondo A : Establishment of a Predictive Model for GvHD-free, Relapse-free Survival after Allogeneic HSCT using Ensemble Learning. *Blood Adv.* 26 (8) : 2618-2627, 2022, (DOI:10.1182/bloodadvances.2021005800)
2. Shimomura Y, Sobue T, Hirabayashi S, Kondo T, Mizuno S, Kanda J, Fujino T, Kataoka K, Uchida N, Eto T, Miyakoshi S, Tanaka M, Kawakita T, Yokoyama H, Doki N, Harada K, Wake A, Ota S, Takada S, Takahashi S, Kimura T, Onizuka M, Fukuda T, Atsuta Y, Yanada M : Comparing cord blood transplantation and matched related donor transplantation in non-remission acute myeloid leukemia. *Leukemia* 36 (4) : 1132-1138, 2022, (DOI:10.1038/s41375-021-01474-0)
3. Shimizu H, Yamamoto H, Hiramoto N, Nishioka H : Case Report: Pulmonary Tuberculosis Accompanied by Pure Red Cell Aplasia and Autoimmune Hemolytic Anemia. *Am J Trop Med Hyg.* 106(6) : 1624-1626, 2022, (DOI:10.4269/ajtmh.21-0986)
4. Noguchi M, Chen-Yoshikawa TF, Arai Y, Kondo T, Ohsumi A, Nakajima D, Hamaji M, Takita J, Takaori-Kondo A, Date H : Expanded indications for lung transplantation for pulmonary complications after hematopoietic stem cell transplantation. *J Thorac Cardiovasc Surg.* 163 (4) : 1549-1557, 2022, (DOI:10.1016/j.jtcvs.2020.10.065)

5. Irie K, Hiramoto N, Ishikawa T, Fukushima S : Use of liquid chromatography–tandem mass spectrometry for foscarnet quantification in human serum and cerebrospinal fluid. *Rapid Commun Mass Spectrom* 36 (7) : e9255, 2022, (DOI:10.1002/rcm.9255)
6. Konuma T, Mizuno S, Kondo T, Arai Y, Uchida N, Takahashi S, Tanaka M, Kuriyama T, Miyakoshi S, Onizuka M, Ota S, Sugio Y, Kouzai Y, Kawakita T, Kobayashi H, Ozawa Y, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M, for the Adult Acute Myeloid Leukemia Working Group of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy; Adult Acute Myeloid Leukemia Working Group of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy : Improved trends in survival and engraftment after single cord blood transplantation for adult acute myeloid leukemia. *Blood Cancer J.* 12 : 81, 2022, (DOI:10.1038/s41408-022-00678-6)
7. Fujita J, Taniguchi M, Hashizume C, Ueda Y, Sakai S, Kondo T, Hashimoto–Nishimura M, Hanada K, Kosaka T, Okazaki T : Nuclear Ceramide Is Associated with Ataxia Telangiectasia Mutated Activation in the Neocarzinostatin–Induced Apoptosis of Lymphoblastoid Cells. *Mol Pharmacol.* 101 (5) : 322–333, 2022, (DOI:10.1124/molpharm.121.000379)
8. Morimoto S, Kondo T, Taya T, Matsuo H, Teramoto Y, Mizumoto C, Kanda J, Yamashita K, Takaori–Kondo A : Successful allogeneic bone marrow transplantation in a case of variant acute promyelocytic leukemia with ZBTB16–RARA. *Ann Hematol.* 101 (5) : 1129–1132, 2022, (DOI:10.1007/s00277-022-04825-8)
9. Hamada R, Kondo T, Harada K, Murao M, Miyasaka J, Yoshida M, Yonezawa H, Nankaku M, Arai Y, Kanda J, Takaori–Kondo A, Ikeguchi R, Matsuda S : Evaluation of indices for predicting recovery of exercise tolerance in patients surviving allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Support Care Cancer.* 30 (5) : 4027–4034, 2022, (DOI:10.1007/s00520-022-06822-z)
10. Iemura T, Arai Y, Kitawaki T, Kanda J, Kondo T, Ueda Y, Mori T, Imada K, Yonezawa A, Yago K, Anzai N, Kotani S, Nohgawa M, Kitano T, Itoh M, Arima N, Moriguchi T, Watanabe M, Tsuji M, Yamashita K, Takaori–Kondo A; Kyoto Stem Cell Transplantation Group (KSCTG) : Coexistence of HLA and KIR ligand mismatches as a risk factor for viral infection early after cord blood transplantation. *Bone Marrow Transplant.* 57(5) : 781–789, 2022, (DOI:10.1038/s41409-022-01621-w)
11. Mizuno S, Takami A, Takamatsu H, Hanamura I, Shimazu Y, Hangaishi A, Tsukada N, Kako S, Kikuchi T, Ota S, Shimizu H, Iida S, Yoshioka S, Sawa M, Fukuda T, Kanda Y, Atsuta Y, Kawamura K : Autologous hematopoietic cell transplantation for myeloma patients with hepatitis B virus or hepatitis C virus in the era of novel agents. *Bone Marrow Transplant.* 57 (5) : 846–848, 2022, (DOI:10.1038/s41409-022-01640-7)
12. Wada F, Shimomura Y, Kamijo K, Yamashita D, Ohno A, Himeno M, Maruoka H, Hara S, Ishikawa T : Prognostic impact of CD38 expression in relapsed or refractory diffuse large B–cell lymphoma and follicular lymphoma transformation. *Leuk Lymphoma* 63 (6) : 1484–1487, 2022, (DOI:10.1080/10428194.2021.2024820)
13. Sekiguchi N, Rai S, Munakata W, Suzuki K, Handa H, Shibayama H, Endo T, Terui Y, Iwaki N, Fukuhara N, Tatetsu H, Iida S, Ishikawa T, Iguchi D, Izutsu K : Two–year outcomes of tirabrutinib monotherapy in Waldenström's macroglobulinemia. *Cancer Sci.* 113 (6) : 2085–2096, 2022, (DOI:10.1111/cas.15344)
14. Kurosawa S, Shimomura Y, Itonaga H, Najima Y, Kobayashi T, Ozawa Y, Kanda Y, Kako S, Kawakita T, Matsuoka KI, Maruyama Y, Ota S, Nakazawa H, Imada K, Kimura T, Kanda J, Fukuda T, Atsuta Y, Ishiyama K : Myeloablative versus reduced–intensity conditioning with fludarabine/busulfan for myelodysplastic syndrome: A propensity score–matched analysis. *Transplant Cell Ther.* 28(6) : 323.e1–323.e9, 2022, (DOI:10.1016/j.jtct.2022.03.011)
15. Ishizawa K, Yokoyama M, Kato H, Yamamoto K, Makita M, Ando K, Ueda Y, Tachikawa Y, Suehiro Y, Kurosawa M, Kameoka Y, Nagai H, Uoshima N, Hidaka M, Ito Y, Utsunomiya A, Fukushima K, Ogura M : A phase I/II study of 10–min dosing of bendamustine hydrochloride (rapid infusion formulation) in patients with previously untreated indolent B–cell non–Hodgkin lymphoma, mantle cell lymphoma, or relapsed/refractory diffuse large B–cell lymphoma in Japan. *Cancer Chemother Pharmacol.* 90 (1) : 83–95, 2022, (DOI:10.1007/s00280-022-04442-2)
16. Shirota S, Katoh D, Shimomura Y, Imai Y, Ishikawa T : Extramedullary relapse of acute myeloid leukemia in brachial plexus after allogeneic stem cell transplantation: a case report. *BMC Neurol.* 22(1) :241, 2022, (DOI:10.1186/s12883-022-02768-1)

17. Nishikubo M, Hiramoto N, Yamashita D, Imoto H, Sato Y, Okuno Y, Haga H, Nannya Y, Ogawa S, Kimura H, Ishikawa T : Elderly-onset systemic Epstein-Barr virus-positive T-cell lymphoma of childhood. *Pathol Int.* 72 (7) : 376-378, 2022, (DOI:10.1111/pin.13231)
18. Wada F, Kondo T, Yamamoto R, Yamagiwa T, Arai Y, Mizumoto C, Kanda J, Kitawaki T, Yamashita K, Takaori-Kondo A : Addition and drug monitoring of mycophenolate mofetil for GVHD prophylaxis in unrelated bone marrow transplantation. *Bone Marrow Transplant.* 57 (7) : 1198-1200, 2022, (DOI:10.1038/s41409-022-01692-9)
19. Yokoyama H, Kanaya M, Iemura T, Hirayama M, Yamasaki S, Kondo T, Uchida N, Takahashi S, Tanaka M, Onizuka M, Ozawa Y, Kozai Y, Eto T, Sugio Y, Hamamura A, Kawakita T, Aotsuka N, Takada S, Wake A, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M, Morishima S : Improved outcomes of single-unit cord blood transplantation for acute myeloid leukemia by killer immunoglobulin-like receptor 2DL1-ligand mismatch. *Bone Marrow Transplant.* 57 (7) : 1171-1179, 2022, (DOI:10.1038/s41409-022-01700-y)
20. Jo T, Yoshihara S, Hada A, Arai Y, Kitawaki T, Ikemoto J, Onomoto H, Sugiyama H, Yoshihara K, Obi N, Matsui K, Niwa N, Nakagawa Y, Kanda J, Kondo T, Saida S, Kato I, Hiramatsu H, Adachi S, Takita J, Takaori-Kondo A, Nagao M : A Clinically Applicable Prediction Model to Improve T Cell Collection in Chimeric Antigen Receptor T Cell Therapy. *Transplant Cell Ther.* 28 (7) : 365.e1-365.e7, 2022, (DOI:10.1016/j.jtct.2022.04.013)
21. Bernard E, Tuechler H, Greenberg PL, Hasserjian RP, Arango Ossa JE, Nannya Y, Devlin SM, Creignou M, Pinel P, Monnier L, Gundem G, Medina-Martinez JS, Domenico D, Jildersten M, Germing U, Sanz G, van de Loosdrecht AA, Kosmider O, Follo MY, Thol F, Zamora L, Pinheiro RF, Pellagatti A, Elias HK, Haase D, Ganster C, Ades L, Tobiasson M, Palomo L, Della Porta MG, Takaori-Kondo A, Ishikawa T, Chiba S, Kasahara S, Miyazaki Y, Viale A, Huberman K, Fenaux P, Belickova M, Savona MR, Klimek VM, Santos FPS, Boulwood J, Kotsianidis I, Francesc Sol] SV, Platzbecker U, Heuser M, Valent P, Ohyashiki K, Finelli C, Voso MT, Shih LY, Fontenay M, Jansen JH, Cervera J, Gattermann N, Ebert BL, Bejar R, Malcovati L, Cazzola M, Ogawa S, Hellström-Lindberg E, Papaemmanuil E : Molecular International Prognostic Scoring System for Myelodysplastic Syndromes. *NEJM evid.* 1 (7), 2022, (DOI:https://doi.org/10.1056/EVIDoa2200008)
22. Kubo T, Hino A, Fukushima K, Shimomura Y, Kurashige M, Kusakabe S, Nagate Y, Fujita J, Yokota T, Kato H, Shibayama H, Tanemura A, Hosen N : Nivolumab-induced systemic lymphadenopathy occurring during treatment of malignant melanoma: a case report. *Int J Hematol.* 116 (2) : 302-306, 2022, (DOI:10.1007/s12185-022-03312-0)
23. Shimomura Y, Sobue T, Zha L, Kitamura T, Iwasaki M, Inoue M, Yamaji T, Tsugane S, Sawada N : Association between Meat, Fish, and Fatty Acid Intake and non-Hodgkin Lymphoma Incidence: the Japan Public Health Center-Based Prospective Study. *J Nutr.* 152 (8) : 1895-1906, 2022, (DOI:10.1093/jn/nxac122)
24. Imoto H, Yoshioka S, Nakagawa D, Hasegawa K, Kuroda H, Hasuike T, Doi A, Kusumoto T, Ishikawa T : Cold agglutinin anti-I antibodies in two patients with COVID-19. *J Clin Lab Anal.* 36 (9) : e24629, 2022, (DOI:10.1002/jcla.24629)
25. Takeda J, Yoshida K, Nakagawa MM, Nannya Y, Yoda A, Saiki R, Ochi Y, Zhao L, Okuda R, Qi X, Mori T, Kon A, Chiba K, Tanaka H, Shiraishi Y, Kuo MC, Kerr CM, Nagata Y, Morishita D, Hiramoto N, Hangaishi A, Nakazawa H, Ishiyama K, Miyano S, Chiba S, Miyazaki Y, Kitano T, Usuki K, Sezaki N, Tsurumi H, Miyawaki S, Maciejewski JP, Ishikawa T, Ohyashiki K, Ganser A, Heuser M, Thol F, Shih LY, Takaori-Kondo A, Makishima H, Ogawa S : Amplified EPOR/JAK2 Genes Define a Unique Subtype of Acute Erythroid Leukemia. *Blood Cancer Discov.* 3 (5) : 410-427, 2022, (DOI:10.1158/2643-3230.BCD-21-0192)
26. Hamada R, Asano T, Murao M, Miyasaka J, Matsushita M, Kajimoto T, Otagaki A, Nankaku M, Arai Y, Kanda J, Kondo T, Takaori-Kondo A, Ikeguchi R, Matsuda S : Intramuscular Adipose Tissue Content Predicts Patient Outcomes after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation. *Transplant Cell Ther.* 28 (9) : 602.e1-602.e7, 2022, (DOI:10.1016/j.jtct.2022.06.011)
27. Tashiro Y, Kanda J, Iemura T, Kondo T, Yamashita K, Sunada M, Horie A, Takaori-Kondo A : Feasibility of ovarian stimulation for fertility preservation during and after blinatumomab treatment for Ph-negative B-cell acute lymphoblastic leukemia. *Int J Hematol.* 116 (3) : 453-458, 2022, (DOI:10.1007/s12185-022-03323-x)

28. Kurosawa S, Yamaguchi T, Mori A, Matsuura T, Mori T, Tanaka M, Kondo T, Umemoto Y, Goto H, Yoshioka S, Machida S, Sato T, Katayama Y, Kato S, Shono K, Mizuno I, Fujiwara SI, Kohno A, Takahashi M, Fukuda T: Resignation and return to work in patients receiving allogeneic hematopoietic cell transplantation close up. *J Cancer Surviv.* 16 (5) : 1004–1015, 2022, (DOI:10.1007/s11764-021-01092-w)
29. Jo T, Arai Y, Kondo T, Mizuno S, Hirabayashi S, Inamoto Y, Doki N, Fukuda T, Ozawa Y, Katayama Y, Kanda Y, Fukushima K, Matsuoka KI, Takada S, Sawa M, Ashida T, Onizuka M, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda J, Yanada M: Advantages of peripheral blood stem cells from unrelated donors versus bone marrow transplants in outcomes of adult acute myeloid leukemia patients. *Cytotherapy.* 24 (10) : 1013–1025, 2022, (DOI:10.1016/j.jcyt.2022.05.009)
30. Itonaga H, Kida M, Hamamura A, Uchida N, Ozawa Y, Fukuda T, Ueda Y, Kataoka K, Katayama Y, Ota S, Matsuoka KI, Kondo T, Eto T, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Miyazaki Y, Ishiyama K : Outcome of therapy-related myelodysplastic syndrome and oligoblastic acute myeloid leukemia after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: A propensity score matched analysis. *Hematol Oncol.* 40 (4) : 752–762, 2022, (DOI:10.1002/hon.2991)
31. Mizuno S, Takami A, Kawamura K, Shimomura Y, Arai Y, Konuma T, Ozawa Y, Sawa M, Ota S, Takahashi S, Anzai N, Hiramoto N, Onizuka M, Nakamae H, Tanaka M, Murata M, Kimura T, Kanda J, Fukuda T, Atsuta Y, Yanada M : Favorable Outcome with Conditioning Regimen of Flu/Bu4/Mel in Acute Myeloid Leukemia Patients in Remission Undergoing Cord Blood Transplantation. *Transplant Cell Ther.* 28 (11) : 775.e1–775.e9, 2022, (DOI:10.1016/j.jct.2022.07.026)
32. Inamoto Y, Takeda W, Hirakawa T, Sakaguchi H, Nakano N, Uchida N, Doki N, Ikegame K, Katayama Y, Sawa M, Kuriyama T, Hiramoto N, Ota S, Ozawa Y, Kataoka K, Kanda Y, Hino M, Kimura T, Atsuta Y, Fukuda T, Nagafuji K : Adenovirus disease after hematopoietic cell transplantation: A Japanese transplant registry analysis. *Am J Hematol.* 97 (12) : 1568–1579, 2022, (DOI:10.1002/ajh.26723)
33. Muranushi H, Kanda J, Kobayashi M, Maeda T, Kitano T, Tsuji M, Ueda Y, Ishikawa T, Nohgawa M, Watanabe M, Imada K, Moriguchi T, Itoh M, Ohno H, Yonezawa A, Hirata H, Arima N, Asagoe K, Anzai N, Nagata K, Yasuno S, Kuwabara Y, Kitao H, Kim I, Kawagishi K, Ueshima K, Tominari S, Nakayama T, Yamashita K, Takaori-Kondo A : Bortezomib–cyclophosphamide–dexamethasone induction/consolidation and bortezomib maintenance for transplant-eligible newly diagnosed multiple myeloma: phase 2 multicenter trial. *Hematology.* 27 (1) : 239–248, 2022, (DOI:10.1080/16078454.2022.2032915)
34. Konuma T, Shimomura Y, Ishiyama K, Ara T, Nakamae H, Hiramoto N, Eto T, Maruyama Y, Nagafuji K, Ishikawa J, Uchida N, Tanaka M, Onizuka M, Ueda Y, Anzai N, Kimura T, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y : Haploidentical transplantation with post-transplant cyclophosphamide versus single cord blood transplantation for myelodysplastic syndrome: A retrospective study from the Adult Myelodysplastic Syndrome Working Group of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy (JSTCT) . *Am J Hematol.* 97 (12) : E447–E450, 2022, (DOI:10.1002/ajh.26722)
35. Sugimoto N, Kanda J, Nakamura S, Kitano T, Hishizawa M, Kondo T, Shimizu S, Shigemasa A, Hirai H, Arai Y, Minami M, Tada H, Momose D, Koh KR, Nogawa M, Watanabe N, Okamoto S, Handa M, Sawaguchi A, Matsuyama N, Tanaka M, Hayashi T, Fuchizaki A, Tani Y, Takaori-Kondo A, Eto K : iPSC-derived platelets as a phase 1 autologous transfusion study. *Blood* 140 (22) : 2398–2402, 2022, (DOI:10.1182/blood.2022017296)
36. Morita-Fujita M, Arai Y, Kondo T, Harada K, Uchida N, Toya T, Ozawa Y, Fukuda T, Ota S, Onizuka M, Kanda Y, Maruyama Y, Takada S, Kawakita T, Ara T, Ichinohe T, Kimura T, Atsuta Y, Kako S : Adult patients with Ph+ ALL benefit from conditioning regimen of medium-dose VP16 plus CY/TBI. *Hematol Oncol.* 40(5) : 1041–1055, 2022, (DOI:10.1002/hon.3046)
37. Konuma T, Harada K, Kondo T, Masuko M, Uchida N, Yano S, Kawakita T, Onizuka M, Ota S, Sakaida E, Miyakoshi S, Ozawa Y, Imamura Y, Kimura T, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Yanada M; Adult Acute Myeloid Leukemia Working Group of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy : Salvage single-unit unrelated cord blood transplantation for graft failure following initial allogeneic transplantation in adult acute myeloid leukemia: trends in outcomes over the past 20 years. *Bone Marrow Transplant.* 57 (12) : 1848–1850, 2022, (DOI:10.1038/s41409-022-01840-1)

38. Sakatoku K, Kim SW, Okamura H, Kanaya M, Kato K, Yamasaki S, Uchida N, Kobayashi H, Fukuda T, Takayama N, Ishikawa J, Nakazawa H, Sakurai M, Ikeda T, Kondo T, Yoshioka S, Miyamoto T, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Kondo E : Improved survival after single-unit cord blood transplantation using fludarabine and melphalan-based reduced-intensity conditioning for malignant lymphoma: impact of melphalan dose and graft-versus-host disease prophylaxis with mycophenolate mofetil. *Ann Hematol.* 101 (12) : 2743-2757, 2022, (DOI:10.1007/s00277-022-04990-w)
39. 石川隆之:特集1 ページでわかる内科疾患の診療ノート—“あたりまえ”のなかにある大事な視点 第3章:血液 骨髄異形成症候群. *内科 臨床雑誌内科* 129 (4) : 670-673, 2022
40. Hamada R, Sato S, Miyasaka J, Murao M, Matsushita M, Kajimoto T, Otagaki A, Asano T, Nankaku M, Kondo T, Arai Y, Kanda J, Takaori-Kondo A, Ikeguchi R, Matsuda S : Belt Electrode-Skeletal Muscle Electrical Stimulation During Early Hematopoietic Post-Transplantation To Prevent Skeletal Muscle Atrophy and Weakness. *Transplant Cell Ther.* 29 (1) : 51.e1-51.e7, 2023, (DOI:10.1016/j.jtct.2022.09.030)
41. Nakamura N, Wada F, Kondo T, Aoki K, Arai Y, Mizumoto C, Kanda J, Kitawaki T, Yamashita K, Takaori-Kondo A : Significance of Omitting Day 11 Mini-Dose Methotrexate for GVHD Prophylaxis After Unrelated Bone Marrow Transplantation. *Transplant Cell Ther.* 29 (2) : 119.e1-119.e7, 2023, (DOI:10.1016/j.jtct.2022.11.006)
42. Makishima H, Saiki R, Nannya Y, Korotev S, Gurnari C, Takeda J, Momozawa Y, Best S, Krishnamurthy P, Yoshizato T, Atsuta Y, Shiozawa Y, Iijima-Yamashita Y, Yoshida K, Shiraishi Y, Nagata Y, Kakiuchi N, Onizuka M, Chiba K, Tanaka H, Kon A, Ochi Y, Nakagawa MM, Okuda R, Mori T, Yoda A, Itonaga H, Miyazaki Y, Sanada M, Ishikawa T, Chiba S, Tsurumi H, Kasahara S, Müller-Tidow C, Takaori-Kondo A, Ohyashiki K, Kiguchi T, Matsuda F, Jansen JH, Polprasert C, Blombery P, Kamatani Y, Miyano S, Malcovati L, Haferlach T, Kubo M, Cazzola M, Kulasekararaj AG, Godley LA, Maciejewski JP, Ogawa S : Germ line DDX41 mutations define a unique subtype of myeloid neoplasms. *Blood* 141 (5) : 534-549, 2023, (DOI:10.1182/blood.2022018221)
43. Shimomura Y, Komukai S, Kitamura T, Sobue T, Kurosawa S, Doki N, Katayama Y, Ozawa Y, Matsuoka KI, Tanaka T, Kako S, Sawa M, Kanda Y, Nakamae H, Nakazawa H, Ueda Y, Kanda J, Fukuda T, Atsuta Y, Ishiyama K : Identifying the optimal conditioning intensity for stem cell transplantation in patients with myelodysplastic syndrome: a machine learning analysis. *Bone Marrow Transplant.* 58 (2) : 186-194, 2023, (DOI:10.1038/s41409-022-01871-8)
44. Nishikubo M, Shimomura Y, Maruoka H, Nasu S, Nishioka T, Sakizono K, Mitsuyuki S, Kubo T, Okada N, Nakagawa D, Kamijo K, Imoto H, Yamamoto R, Nagai Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Miyakoshi C, Doi A, Ishikawa T : Humoral response and safety of the BNT162b2 and mRNA-1273 COVID-19 vaccines in allogeneic hematopoietic stem cell transplant recipients: An observational study. *J Infect Chemother.* 29 (3) : 274-280, 2023, (DOI:10.1016/j.jiac.2022.11.010)
45. Yanagisawa R, Hirakawa T, Doki N, Ikegame K, Matsuoka KI, Fukuda T, Nakamae H, Ota S, Hiramoto N, Ishikawa J, Ara T, Tanaka M, Koga Y, Kawakita T, Maruyama Y, Kanda Y, Hino M, Atsuta Y, Yabe H, Tsukada N : Severe short-term adverse events in related bone marrow or peripheral blood stem cell donors. *Int J Hematol.* 117 (3) : 421-427, 2023, (DOI:10.1007/s12185-022-03489-4)
46. Nakae M, Kainuma S, Toda K, Yoshioka D, Kawamura T, Kawamura A, Kashiyama N, Komukai S, Kitamura T, Hirayama A, Shimomura Y, Taniguchi K, Miyagawa S, Osaka Cardiovascular Surgery Research Group : Ventricular Arrhythmias Following Coronary Artery Bypass Grafting for Ischemic Cardiomyopathy: When to insert an implanted cardiac defibrillator? *JTCVS Open.* 13 : 163-175, 2023, (DOI:10.1016/J.XJON.2022.10.012)
47. 石川隆之 : 二次性貧血. 今日の治療指針 2023年度 私はこう治療している, 福井次矢, 高木 誠, 小室一成編, 第65巻, 医学書院, 東京, 653-654, 2023

VII. 1.7 腫瘍内科

1. Matsumoto T, Yamamura S, Nagai H, Satake H, Yasui H : Is modified FOLFIRINOX a standard regimen for 2nd line chemotherapy for pancreatic cancer after gemcitabine plus nabpaclitaxel failure? Insights from the MPACA-3 trial. *Dig Med Res.* 5 : 40, 2022, (DOI:10.21037/dmr-22-27)

2. Matsumoto T, Yamamura S, Ikoma T, Kurioka Y, Keitaro Doi K, Boku S, Shibata N, Nagai H, Shimada T, Tsuduki T, Tsumura T, Takatani M, Yasui H, Satake H : Real-World Data of Trastuzumab Deruxtecan for Advanced Gastric Cancer: A Multi-Institutional Retrospective Study. *J Clin Med.* 11 (8) : 2247, 2022, (DOI:10.3390/jcm11082247)
3. Bando H, Nakamura Y, Taniguchi H, Shiozawa M, Yasui H, Esaki T, Kagawa Y, Denda T, Satoh T, Yamazaki K, Sunakawa Y, Kato T, Goto M, Yuki S, Nishina T, Oki E, Shinozaki E, Matsuhashi N, Takahashi N, Tsuji A, Ohtsubo K, Wakabayashi M, Ikeno T, Hata M, Odegaard JI, Yoshino T : Effects of Metastatic Sites on Circulating Tumor DNA in Patients With Metastatic Colorectal Cancer. *JCO Precis Oncol.* 6 : e2100535, 2022, (DOI:10.1200/PO.21.00535)
4. Nakasya A, Hagiwara Y, Ikoma T, Kurioka Y, Matsumoto T, Yamamoto Y, Tsuduki T, Kajiwara T, Moriwaki T, Nishina T, Yamashita N, Hyodo I : Nanoparticle albumin-bound paclitaxel and ramucirumab versus paclitaxel and ramucirumab as second-line chemotherapy for unresectable advanced or recurrent gastric cancer: a multicenter, propensity score-matched analysis (CROSS SELL study). *Int J Clin Oncol.* 27 (4) :684-694, 2022, (DOI:10.1007/s10147-022-02114-y)
5. Yasui H, Takeno A, Hara H, Imamura H, Akamatsu H, Fujitani K, Nakane M, Kondoh CN, Yukisawa S, Nasu J, Miyata Y, Makiyama A, Ishida H, Yoshida N, Matsumura E, Ishigami M, Sugihara M, Ochiai A, Doi T : Prospective analysis of the expression status of FGFR2 and HER2 in colorectal and gastric cancer populations: DS-Screen Study. *Int J Colorectal Dis.* 37 (6) : 1393-1402, 2022, (DOI:10.1007/s00384-022-04162-2)
6. Sakai D, Omori T, Fumita S, Fujita J, Kawabata R, Matsuyama J, Yasui H, Hirao M, Kawase T, Kishi K, Taniguchi Y, Miyazaki Y, Kawada J, Satake H, Miura T, Miyake A, Kurokawa Y, Yamasaki M, Yamada T, Satoh T, Eguchi H, Doki Y : Real-world effectiveness of third- or later-line treatment in Japanese patients with HER2-positive, unresectable, recurrent or metastatic gastric cancer: a retrospective observational study. *Int J Clin Oncol.* 27 (7) : 1154-1163, 2022, (DOI:10.1007/s10147-022-02162-4)
7. Ito T, Takashima A, Yamazaki K, Yukami H, Uetake H, Tsuda M, Suto T, Moriwaki T, Sugimoto N, Ojima H, Takii Y, Yasui H, Esaki T, Tsuji A, Goto M, Saruta M, Otsu S, Shinozaki K, Fujiwara T, Tamura T, Baba E, Shiozawa M, Denda T, Ueno H, Nagashima K, Shimada Y : Primary tumor location as a predictor of survival in patients with RASwild-type colorectal cancer who receive molecularly targeted drugs as first-line therapy: a multicenter real-world observational study by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum. *Int J Clin Oncol.* 27 (9) : 1450-1458, 2022, (DOI:10.1007/s10147-022-02208-7)
8. Yamaguchi K, Minashi K, Sakai D, Nishina T, Omuro Y, Tsuda M, Iwagami S, Kawakami H, Esaki T, Sugimoto N, Oshima T, Kato K, Amagai K, Hosaka H, Komine K, Yasui H, Negoro Y, Ishido K, Tsushima T, Han S, Shiratori S, Takami T, Shitara K : Phase IIb study of pembrolizumab combined with S - 1+ oxaliplatin or S-1 + cisplatin as first-line chemotherapy for gastric cancer. *Cancer Sci.* 113 (8) : 2814-2827, 2022, (DOI:10.1111/cas.15462)
9. Sakai A, Aoshima M, Sawada K, Horasawa S, Yoshikawa A, Fujisawa T, Kadowaki S, Denda T, Matsuhashi N, Yasui H, Goto M, Yamazaki K, Komatsu Y, Nakanishi R, Nakamura Y, Bando H, Hamaya Y, Kageyama SI, Yoshino T, Tsuchihara K, Yamashita R : Fecal microbiota in patients with a stoma decreases anaerobic bacteria and alters taxonomic and functional diversities. *Front Cell Infect Microbiol.* 12 : 925444, 2022, (DOI:10.3389/fcimb.2022.925444)
10. Terashima T, Morizane C, Ushiyama M, Shiba S, Takahashi H, Ikeda M, Mizuno N, Tsuji K, Yasui K, Azemoto N, Satake H, Nomura S, Yachida S, Sugano K, Furuse J : Germline variants in cancer-predisposing genes in pancreatic cancer patients with a family history of cancer. *Jpn J Clin Oncol.* 52 (10) : 1105-1114, 2022, (DOI:10.1093/jjco/hyac110)
11. Ikoma T, Matsumoto T, Kurioka Y, Takatani M, Nagai H, Matsumoto Y, Satake H, Yasui H : Improvement of Body Weight and Nutritional Status in Gastric Cancer Patients Enhances the Benefit of Nivolumab Therapy. *J Clin Med.* 11 (20) : 6100, 2022, (DOI:10.3390/jcm11206100)
12. Kojima T, Hara H, Tsuji A, Yasui H, Muro K, Satoh T, Ogata T, Ishihara R, Goto M, Baba H, Nishina T, Han S, Sakata T, Yatsuzuka N, Doi T, Kato K : First-line pembrolizumab + chemotherapy in Japanese patients with advanced/metastatic esophageal cancer from KEYNOTE-590. *Esophagus.* 19 (4) :683-692, 2022, (DOI:10.1007/s10388-022-00920-x)

13. Matsumoto T, Yamamura S, Ikoma T, Kurioka Y, Doi K, Yasuda T, Boku S, Kawai T, Shibata N, Nagai H, Tsuduki T, Shimada T, Matsumoto Y, Tsumura T, Takatani M, Yasui H, Satake H : Real-World Data of Trifluridine/Tipiracil for Patients With Advanced Gastric Cancer: A Multi-Institutional Retrospective Study. *Clin Med Insights Oncol.* 16 : 11795549221137135, 2022, (DOI:10.1177/11795549221137135)
14. Hagiwara Y, Nakasya A, Matsumoto T, Ikoma T, Yamamoto Y, Kurioka Y, Tsuduki T, Kajiwara T, Nishina T, Yamashita N, Moriwaki T, Hyodo I : Risk factors and efficacy outcomes of early-onset severe neutropenia due to paclitaxel or nanoparticle albumin-bound paclitaxel combined with ramucirumab in advanced gastric cancer: a multicenter retrospective cohort study. *J Gastrointest Oncol.* 13 (6) : 2769-2778, 2022, (DOI:10.21037/jgo-22-499)
15. Satake H, Lee KW, Chung HC, Lee J, Yamaguchi K, Chen JS, Yoshikawa T, Amagai K, Yeh KH, Goto M, Chao Y, Lam KO, Han SR, Shiratori S, Shah S, Shitara K : Pembrolizumab or pembrolizumab plus chemotherapy versus standard of care chemotherapy in patients with advanced gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma: Asian subgroup analysis of KEYNOTE-062. *Jpn J Clin Oncol* 53 (3) : 221-229, 2023, (DOI:10.1093/jjco/hyac188)
16. Matsumoto T, Ikoma T, Yamamura S, Miura K, Tsuduki T, Watanabe T, Nagai H, Takatani M, Yasui H : Regorafenib is suitable for advanced colorectal cancer patients who have previously received trifluridine/tipiracil plus bevacizumab. *Sci Rep.* 13 (1) : 2433, 2023, (DOI:10.1038/s41598-023-29706-6)
17. Ikoma T, Shimokawa M, Matsumoto T, Boku S, Yasuda T, Shibata N, Kurioka Y, Takatani M, Nobuhisa T, Namikawa T, Kitagawa H, Hanazaki K, Doi K, Shimada T, Tsumura T, Marusawa H, Kanaya S, Morita S, Inokuma T, Nagai H, Yasui H, Satake H : Inflammatory prognostic factors in advanced or recurrent esophageal squamous cell carcinoma treated with nivolumab. *Cancer Immunol Immunother.* 72 (2) : 427-435, 2023, (DOI:10.1007/s00262-022-03265-7)
18. Kumanishi R, Kadowaki S, Mitani S, Matsushima T, Ogata T, Narita Y, Masuishi T, Bando H, Tajika M, Yasui H, Hara H, Muro K : Nivolumab versus irinotecan as third- or later-line treatment for advanced gastric cancer: a multicenter retrospective study. *Int J Clin Oncol.* 28 (6) : 756-763, 2023, (DOI:10.1007/s10147-023-02330-0)
19. Nakamura Y, Yamashita R, Okamoto W, Komatsu Y, Yuki S, Ueno M, Kato K, Taniguchi H, Kagawa Y, Denda T, Hara H, Esaki T, Moriwaki T, Sunakawa Y, Oki E, Nagashima F, Nishina T, Satoh T, Kawakami H, Yamaguchi K, Ohtsubo K, Kato T, Horita Y, Tsuji A, Yasui H, Goto M, Hamamoto Y, Wakabayashi M, Ikeno T, Shitara K, Bando H, Tsuchihara K, Miki I, Ichiki H, Ohtsu A, Yoshino T : Efficacy of Targeted Trials and Signaling Pathway Landscape in Advanced Gastrointestinal Cancers From SCRUM-Japan GI-SCREEN: A Nationwide Genomic Profiling Program. *JCO Precis Onco.* 7 : e2200653, 2023, (DOI:10.1007/s10147-023-02330-0)

VII. 1.8 膠原病・リウマチ内科

1. Fukui A, Nakayama Y, Yoshida T, Murakami K, Kadoba K, Onizawa H, Akizuki S, Nakashima R, Yoshifuji H, Ohmura K, Sugimoto A, Yamamoto S, Morinobu A : A case of intestinal amoebiasis mimicking intestinal Behçet's disease. *Mod Rheumatol Case Rep.* 6 (2) : 270-272, 2022
2. Shinkawa Y, Imami K, Fuseya Y, Sasaki K, Ohmura K, Ishihama Y, Morinobu A, Iwai K : ABIN1 is a signal-induced autophagy receptor that attenuates NF- κ B activation by recognizing linear ubiquitin chains. *FEBS Lett.* 596 (9) : 1147-1164, 2022
3. Nakayama Y, Watanabe R, Murakami K, Murata K, Tanaka M, Ito H, Yamamoto W, Ebina K, Hata K, Hiramatsu Y, Katayama M, Son Y, Amuro H, Akashi K, Onishi A, Hara R, Yamamoto K, Ohmura K, Matsuda S, Morinobu A, Hashimoto M : Differential efficacy of TNF inhibitors with or without the immunoglobulin fragment crystallizable (Fc) portion in rheumatoid arthritis: the ANSWER cohort study. *Rheumatol Int.* 42 (7) : 1227-1234, 2022
4. Tanaka Y, Nakayamada S, Yamaoka K, Ohmura K, Yasuda S : Rituximab in the Real-World Treatment of Lupus Nephritis: A Retrospective Cohort Study in Japan. *Mod Rheumatol.* 33 (1) : 145-153, 2023
5. Law SM, Akizuki S, Morinobu A, Ohmura K : A case of refractory systemic lupus erythematosus with monocytosis exhibiting somatic KRAS mutation. *Inflamm Regen.* 42 (1) : 10, 2022
6. Nakajima T, Yoshifuji H, Yamano Y, Yurugi K, Miura Y, Maekawa T, Yoshida T, Handa H, Ohmura K,

- Mimori T, Terao C : Co-occurrence of relapsing polychondritis and autoimmune thyroid diseases. *Orphanet J Rare Dis.* 17 (1) : 101, 2022
7. Yin X, Kim K, Suetsugu H, Bang SY, Wen L, Koido M, Ha E, Liu L, Sakamoto Y, Jo S, Leng RX, Otomo N, Kwon YC, Sheng Y, Sugano N, Hwang MY, Li W, Mukai M, Yoon K, Cai M, Ishigaki K, Chung WT, Huang H, Takahashi D, Lee SS, Wang M, Karino K, Shim SC, Zheng X, Miyamura T, Kang YM, Ye D, Nakamura J, Suh CH, Tang Y, Motomura G, Park YB, Ding H, Kuroda T, Choe JY, Li C, Niirō H, Park Y, Shen C, Miyamoto T, Ahn GY, Fei W, Takeuchi T, Shin JM, Li K, Kawaguchi Y, Lee YK, Wang YF, Amano K, Park DJ, Yang W, Tada Y, Lau YL, Yamaji K, Zhu Z, Shimizu M, Atsumi T, Suzuki A, Sumida T, Okada Y, Matsuda K, Matsuo K, Kochi Y; Japanese Research Committee on Idiopathic Osteonecrosis of the Femoral Head, Yamamoto K, Ohmura K, Kim TH, Yang S, Yamamoto T, Kim BJ, Shen N, Ikegawa S, Lee HS, Zhang X, Terao C, Cui Y, Bae SC : Biological insights into systemic lupus erythematosus through an immune cell-specific transcriptome-wide association study. *Ann Rheum Dis* 81 (9) : 1273-1280, 2022
 8. Yoshida T, Yoshifuji H, Shirakashi M, Nakakura A, Murakami K, Kitagori K, Akizuki S, Nakashima R, Ohmura K, Morinobu A : Risk factors for the recurrence of relapsing polychondritis. *Arthritis Res Ther.* 24 (1) : 127, 2022
 9. Oka H, Sumitomo S, Shimizu H, Kanamori M, Yamashita D, Nishioka H, Ohmura K : A case of Aortoduodenal Fistula caused by IgG4-related Periaortitis. *Mod Rheumatol Case Rep.* 7 (1) : 188-191, 2023
 10. Iwasaki T, Watanabe R, Ito H, Fujii T, Okuma K, Oku T, Hirayama Y, Ohmura K, Murata K, Murakami K, Yoshitomi H, Tanaka M, Matsuda S, Matsuda F, Morinobu A, Hashimoto M : Dynamics of Type I and Type II Interferon Signature Determines Responsiveness to Anti-TNF Therapy in Rheumatoid Arthritis. *Front Immunol.* 13 : 901437, 2022
 11. Umemoto D, Sumitomo S, Fujita S, Shimizu H, Oka H, Kanamori M, Nishioka H, Ohmura K : Four Cases of Dermatomyositis with Abnormally High Anti-MDA-5 Antibody Titers and not High Levels of Serum Ferritin. *Mod Rheumatol Case Rep.* 7 (1) : 96-101, 2023
 12. Kohyama M, Suzuki T, Nakai W, Ono C, Matsuoka S, Iwatani K, Liu Y, Sakai Y, Nakagawa A, Tomii K, Ohmura K, Okada M, Matsuura Y, Ohshima S, Maeda Y, Okamoto T, Arase H : SARS-CoV-2 ORF8 is a viral cytokine regulating immune responses. *Int Immunol.* 35 (1) : 43-52, 2023
 13. Kawabe A, Yamagata K, Kato S, Nakano K, Sakata K, Tsukada YI, Ohmura K, Nakayamada S, Tanaka Y : Role of DNA dioxygenase Ten-Eleven translocation 3 (TET3) in rheumatoid arthritis progression. *Arthritis Res Ther.* 24 (1) : 222, 2022
 14. Ishigaki K, Sakaue S, Terao C, Luo Y, Sonehara K, Yamaguchi K, Amariuta T, Too CL, Laufer VA, Scott IC, Viatte S, Takahashi M, Ohmura K, Murasawa A, Hashimoto M, Ito H, Hammoudeh M, Emadi SA, Masri BK, Halabi H, Badsha H, Uthman IW, Wu X, Lin L, Li T, Plant D, Barton A, Orozco G, Verstappen SMM, Bowes J, MacGregor AJ, Honda S, Koido M, Tomizuka K, Kamatani Y, Tanaka H, Tanaka E, Suzuki A, Maeda Y, Yamamoto K, Miyawaki S, Xie G, Zhang J, Amos CI, Keystone E, Wolbink G, van der Horst-Bruinsma I, Cui J, Liao KP, Carroll RJ, Lee HS, Bang SY, Siminovitch KA, de Vries N, Alfredsson L, Rantapää-Dahlqvist S, Karlson EW, Bae SC, Kimberly RP, Edberg JC, Mariette X, Huizinga T, Dieudé P, Schneider M, Kerick M, Denny JC; BioBank Japan Project; Matsuda K, Matsuo K, Mimori T, Matsuda F, Fujio K, Tanaka Y, Kumanogoh A, Traylor M, Lewis CM, Eyre S, Xu H, Saxena R, Arayssi T, Kochi Y, Ikari K, Harigai M, Gregersen PK, Yamamoto K, Louis Bridges S Jr, Padyukov L, Martin J, Klareskog L, Okada Y, Raychaudhuri S : Multi-ancestry genome-wide association analyses identify novel genetic mechanisms in rheumatoid arthritis. *Nat Genet.* 54 (11) : 1640-1651, 2022
 15. Iwasaki T, Kamatani Y, Sonomura K, Kawaguchi S, Kawaguchi T, Takahashi M, Ohmura K, Sato TA, Matsuda F : Genetic influences on human blood metabolites in the Japanese population. *iScience.* 26 (1) : 105738, 2022
 16. Zhang S, Tsuji H, Jin H, Kitagori K, Akizuki S, Nakashima R, Yoshifuji H, Tanaka M, Arase H, Ohmura K, Morinobu A : Rheumatoid Factor Recognizes Specific Domains of the IgG Heavy Chain Complexed with HLA Class II Molecules. *Rheumatology (Oxford)*, kead024, 2023, (DOI:10.1093/rheumatology/kead024)
 17. Nakajima T, Doi H, Watanabe R, Murata K, Takase Y, Inaba R, Itaya T, Iwasaki T, Shirakashi M, Tsuji H, Kitagori K, Akizuki S, Nakashima R, Onishi A, Yoshifuji H, Tanaka M, Ito H, Hashimoto M, Ohmura K, Morinobu A : Factors associated with osteoporosis and fractures in patients with systemic lupus erythematosus: Kyoto

- Lupus Cohort. *Mod Rheumatol.* road014, 2023, (DOI:10.1093/mr/road014)
18. Oka H, Sumitomo S, Shimizu H, Kanamori M, Murata S, Yamashita D, Okada T, Nishioka H, Ohmura K : A case of anti-synthetase syndrome who relapsed with pulmonary arterial hypertension and malignancy. *Intern Med*, 2023, (DOI:10.2169/internalmedicine.1275-22)
 19. Taguchi H, Fujita S, Yamashita D, Shimizu Y, Ohmura K, Nishioka H : Giant cell arteritis diagnosed by a temporal artery biopsy without abnormal imaging and physical findings in an elderly patient presenting with fever. *Nihon Ronen Igakkai Zasshi.* 59 (2) : 233-236, 2022
 20. Takeshima Y, Iwasaki Y, Nakano M, Narushima Y, Ota M, Nagafuchi Y, Sumitomo S, Okamura T, Elkon K, Ishigaki K, Suzuki A, Kochi Y, Yamamoto K, Fujio K : Immune cell multiomics analysis reveals contribution of oxidative phosphorylation to B-cell functions and organ damage of lupus. *Ann Rheum Dis.* 81 (6) : 845-853, 2022
 21. Okubo M, Sumitomo S, Tsuchida Y, Nagafuchi Y, Takeshima Y, Yanaoka H, Shirai H, Kobayashi S, Sugimori Y, Maeda J, Hatano H, Iwasaki Y, Shoda H, Okamura T, Yamamoto K, Ota M, Fujio K : Transcriptome analysis of immune cells from Behçet's syndrome patients: the importance of IL-17-producing cells and antigen-presenting cells in the pathogenesis of Behçet's syndrome. *Arthritis Res Ther.* 24 (1) : 186, 2022, (DOI:10.1186/s13075-022-02867-x)
 22. Yamaguchi K, Ishigaki K, Suzuki A, Tsuchida Y, Tsuchiya H, Sumitomo S, Nagafuchi Y, Miya F, Tsunoda T, Shoda H, Fujio K, Yamamoto K, Kochi Y : Splicing QTL analysis focusing on coding sequences reveals mechanisms for disease susceptibility loci. *Nat Commun.* 13 (1) : 4659, 2022, (DOI:10.1038/s41467-022-32358-1)
 23. Sugimori Y, Iwasaki Y, Takeshima Y, Okubo M, Kobayashi S, Hatano H, Yamada S, Nakano M, Yoshida R, Ota M, Tsuchida Y, Nagafuchi Y, Shimane K, Yoshida K, Kurosaka D, Sumitomo S, Shoda H, Yamamoto K, Okamura T, Fujio K : Transcriptome Profiling of Immune Cell Types in Peripheral Blood Reveals Common and Specific Pathways Involved in the Pathogenesis of Myositis-Specific Antibody-Positive Inflammatory Myopathies. *ACR Open Rheumatol.* 5 (2) : 93-102, 2023, (DOI:10.1002/acr2.11521)
 24. 岡 秀樹, 住友秀次, 志水隼人, 金森真紀, 原 重雄, 西岡弘晶, 大村浩一郎 : 治療抵抗性成人発症 IgA 血管炎の消化器症状に血漿交換が有効であった 1 例. *臨床リウマチ* 34 (4) : 290-297, 2022
 25. 志水隼人, 大村浩一郎 : 特集 全身性エリテマトーデス - 診断・治療の最新動向 - III. SLE の治療に用いられる薬剤 ベリムマブの適応. *日本臨床* 80 (5) : 885-891, 2022
 26. 住友秀次, 大村浩一郎 : 特集 混合性結合組織病 (MCTD) 診療の update MCTD の経過と予後. *リウマチ科* 67 (6) : 696-700, 2022
 27. 大村浩一郎 : 特集 SLE 診療の進歩 SLE の活動性評価の種類 - どれを使用するのがよいか? *リウマチ科* 69 (2) : 136-147, 2023
 28. 大村浩一郎 : 特集 混合性結合組織病 (MCTD) - 診断と治療の最近の考え方 - III. 臨床 MCTD における皮膚筋炎 / 多発性筋炎所見の特徴と治療. *日本臨床* 81 (3) : 405-408, 2023
 29. 住友秀次:特集 ここが変わった! 関節リウマチの治療 診療 GL・治療薬をアップデート! リウマチ患者さんの「困った!」「大丈夫?」に対処する (9) 痛みやこわばりを軽減する方法は? *薬局* 74 (3) : 94-97, 2023
 30. Shirakashi M, Maruya M, Hirota K, Tsuruyama T, Matsuo T, Watanabe R, Murata K, Tanaka M, Ito H, Yoshifuji H, Ohmura K, Elewaut D, Sakaguchi S, Fagarasan S, Mimori T, Hashimoto M : Effect of Impaired T Cell Receptor Signaling on the Gut Microbiota in a Mouse Model of Systemic Autoimmunity. *Arthritis Rheumatol* 74 (4) : 641-653, 2022, (DOI:410.1002/art.42016)

VII. 1.9 緩和ケア内科

1. 浅香葉子, 伊藤次郎, 伊原崇晃, 大内謙二郎, 大西理史, 神谷侑画, 木下裕規, 栗林真悠, 坂谷朋子, 佐竹悠良, 嶋田博樹, 朱 祐珍, 白川和宏, 瀬尾龍太郎, 土田高裕, 寺本昇生, 西田晴香, 野浪 豪, 林 卓郎, 許 智栄, 松岡由典, 水 大介, 宮本将太, 三好祐輔, 柳井真知:【10 章】ICU で知っておくべきこと 9. 予防 (バンドル), 神戸中央市民 ER・ICU メソッド—診療 PDF マニュアル付き, 有吉孝一, 瀬尾龍太郎, 許 智栄, 水 大介編, 第 1 版, メディカ出版, 大阪, 405-409, 2023
2. Minatojima ICU Goodfellas, 建部将夫, 伊藤次郎, 土田高裕, 三好祐輔, 野浪 豪, 大内謙二郎 : DAY 5

縊頸による心肺停止蘇生後の患者〈三好祐輔〉 Dr. 三好の学習ポイント. ICU思考のつくりかた, 川上大裕編, 第1版, 中外医学社, 東京, 139-168, 2023

3. 三好祐輔: 30 精巣救急. もう困らない救急・当直〈新装改訂版〉, 林 寛之編, 新装改訂第1版, 日本医事新報社, 東京, 266-273, 2023
4. 三好祐輔: 33 ER での crisis communication. もう困らない救急・当直〈新装改訂版〉, 林 寛之編, 新装改訂第1版, 日本医事新報社, 東京, 292-302, 2023

VII. 1. 10 精神・神経科

1. 大谷恭平, 三浦敦美, 宮井宏之, 福島春子, 松石邦隆: COVID-19 とせん妄: COVID 脳症に合併するせん妄を中心に -Characteristics of COVID-19 delirium including COVID encephalopathy. 精神科治療学 / 「精神科治療学」編集委員会編 37 (9) : 1015-1022, 2022
2. Otani K, Mogi K, Miura A, Miyai H, Fukushima H, Matsuishi K: Medical comorbidities leading to hypernatremia during COVID-19 pandemic in patients with mood disorders on long-term lithium therapy. Bipolar Disord. 24 (7) : 770-773, 2022, (DOI:10.1111/bdi.13195)
3. Otani K, Miura A, Miyai H, Fukushima H, Matsuishi K: Characteristics of COVID-19 delirium intervened by a psychiatric liaison team in the first 2 years of the COVID-19 pandemic in Japan. Psychiatry Clin Neurosci. 76 (11) : 599-600, 2022, (DOI:10.1111/pcn.13456)
4. Otani K, Miura A, Miyai H, Fukushima H, Matsuishi K: A healthcare worker's wedding during the COVID-19 pandemic: Mental healthcare in the aftermath of an outbreak. PCN Reports. 1 (3) : e44, 2022, (DOI:https://doi.org/10.1002/pcn5.44)
5. Fukushima H, Imai H, Miyakoshi C, Miyai H, Otani K, Aoyama S, Matsuishi K: Psychological impact of the COVID-19 pandemic on hospital workers in Kobe: A cross-sectional survey. PCN Reports. 1 (2) : e8, 2022, (DOI:https://doi.org/10.1002/pcn5.8)
6. Ohnishi A, Akamatsu G, Ikari Y, Nishida H, Shimizu K, Matsumoto K, Aita K, Sasaki M, Yamamoto Y, Yamane T, Senda M: Dosimetry and efficacy of a tau PET tracer [18F]MK-6240 in Japanese healthy elderly and patients with Alzheimer's disease. Ann Nucl Med. 37 (2) : 108-120, 2023, (DOI:10.1007/s12149-022-01808-7)
7. Tanifuji T, Mouri K, Yamamoto Y, Aoyama S: Psychological Distress among University Staff before and during the COVID-19 Pandemic. Int J Environ Res Public Health. 20 (3) : 2208, 2023, (DOI:10.3390/ijerph20032208)
8. 大谷恭平: Part II 精神科の薬の概略を掴む 抗うつ薬ってどんな薬? レジデント必読 病棟でのせん妄・不眠・うつ病・もの忘れに対処する精神科の薬もわかる! 小川朝生編, 第1版, メジカルビュー社, 東京, 114-123, 2022

VII. 1. 11 小児科・新生児科

1. Yamamoto A, Motokura K, Iwanaga K, Niwa F, Takita J, Kawai M: Glucocorticoid receptor expression pattern in very low-birth weight infants changes drastically within the first week of life. Horm Res Paediatr 96 (3) : 289-297, 2022, (DOI:10.1159/000526915)
2. Nezu M, Shiima Y, Kurosawa H, Miyakoshi C: Outcomes of Pediatric Patients in Secondary Transport to Tertiary Hospital: A Retrospective Observational Study. Pediatr Emerg Care 38 (6) : 283-289, 2022
3. Nishikubo M, Shimomura Y, Maruoka H, Nasu S, Nishioka T, Sakizono K, Mitsuyuki S, Kubo T, Okada N, Nakagawa D, Kamijo K, Imoto H, Yamamoto R, Nagai Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Miyakoshi C, Doi A, Ishikawa T: Humoral response and safety of the BNT162b2 and mRNA-1273 COVID-19 vaccines in patients with haematological diseases treated with anti-CD20 antibodies: An observational study. Br J Haematol 197 (6) : 709-713, 2022
4. Maekawa K, Ohara N, Takasugi J, Fujiwara S, Okada T, Miyakoshi C, Imamura H, Kawamoto M, Sakai N: Low left atrial volume is an independent predictor of persistent hypotension after carotid artery stenting. J Neurointerv Surg, 2022
5. 中尾聡宏, 磯目賢一, 池町真実, 竹川啓史, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 堀 雅之, 岩田あや, 山口善道, 平海良美, 松原康策: 市中型 ESBL 産生大腸菌尿路感染症での抗菌薬選択と治療反応性: 地域中核病院における 20 年間の検討. 兵庫県小児科医会報 77 : 24-34, 2022
6. Watanabe M, Ashida R, Miyakoshi C, Arizono S, Suga T, Kanao S, Kitamura K, Ogawa T, Ishikura R:

Prognostic analysis of curatively resected pancreatic cancer using harmonized positron emission tomography radiomic features. *European Journal of Hybrid Imaging*. 7 (1) : 5, 2023

7. Fukushima H, Imai H, Miyakoshi C, Miyai H, Otani K, Aoyama S, Matsuishi K : Psychological impact of the COVID-19 pandemic on hospital workers in Kobe: A cross-sectional survey. *Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports (preprint)*. 1 (2) : e8, 2022

VII. 1. 12 皮膚科

1. 長野 徹 : 透析患者さんに多い皮膚病変とその対処法. *兵庫県透析医会誌* 34 : 4-7, 2022
2. 望月亮佐, 田中彰浩, 柴田慶子, 中村 彩, 谷川絢乃, 小坂博志, 長野 徹 : 特集 手足の皮膚病 肢端紅痛症が初発症状であった本態性血小板血症. *皮膚病診療* 44 (7) : 586-589, 2022
3. 中村 彩, 田中彰浩, 古岡慶子, 小坂博志, 長野 徹 : 特集 肉芽腫症 前腕皮下腫瘍が診断の契機となった筋サルコイドーシスの1例. *皮膚科の臨床* 64 (10) : 1616-1617, 2022
4. 塩入桃子, 長尾 愛, 望月亮佐, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹 : レナリドミドによる血管性浮腫の1例. *皮膚の科学* 21 (4) : 295-299, 2022
5. 長尾 愛, 小倉香奈子, 塩入桃子, 望月亮佐, 田井志正, 長野 徹 : 特集 紅皮症の考え方と捉え方 アパルタミドによるDIHS/DRESSに対して、血漿交換療法が有効であった例. *皮膚病診療* 45 (2) : 170-174, 2023
6. 望月亮佐, 那須 愛, 中村 彩, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹 : オラパリブの関与が疑われた結節性紅斑様皮疹の1例. *臨床皮膚科* 77 (3) : 201-205, 2023

VII. 1. 13 外科・移植外科

1. Kita R, Kobayashi H, Nakao K, Iwaki K, Kondo M, Kaihara S : Three Cases of Boerhaave's Syndrome Treated via Laparoscopic Transhiatal Esophageal Repair. *Case Rep Gastroenterol*. 16 (2) : 406-412, 2022, (DOI:10.1159/000525011)
2. Iwaki K, Kaihara S, Kita R, Kitamura K, Hashida H, Uryuhara K : Indocyanine green plasma clearance rate and 99mTc-galactosyl human serum albumin single-photon emission computed tomography evaluated preoperative remnant liver. *World J Clin Cases*. 10 (25) : 8844-8853, 2022, (DOI:10.12998/wjcc.v10.i25.8844)
3. Hashida H, Mizuno R, Iwaki K, Hanabata Y, Kita R, Oshima N, Kitamura K, Kondo M, Kobayashi H, Uryuhara K, Kaihara S : Intracorporeal reinforcing sutures reduce anastomotic leakage in double-stapling anastomosis for laparoscopic rectal surgery. *Wideochir Inne Tech Maloinwazyjne*. 17 (3) : 491-497, 2022, (DOI:10.5114/wiitm.2022.115168)
4. Cai K, Yang Y, Guo ZJ, Cai RL, Hashida H, Li HX : Amentoflavone inhibits colorectal cancer epithelial-mesenchymal transition via the miR-16-5p/HMGA2/ β -catenin pathway. *Ann Transl Med*. 10(18) : 1009, 2022, (DOI:10.21037/atm-22-3035)
5. Kinoshita H, Kawada K, Itatani Y, Okamura R, Oshima N, Okada T, Hida K, Obama K : Timing of real-time indocyanine green fluorescence visualization for lymph node dissection during laparoscopic colon cancer surgery. *Langenbeck's Archives of Surgery*. 408 (1) : 38, 2023, (DOI:10.1007/s00423-023-02808-5)
6. Iwaki K, Kaihara S, Koyama T, Nakao K, Matsuda S, Toriguchi K, Kitamura K, Oshima N, Kondo M, Hashida H, Kobayashi H, Uryuhara K : The Impact of KRAS Status on the Required Surgical Margin Width for Colorectal Liver Metastasis Resection. *J Clin Med*. 12 (6) : 2313, 2023, (DOI:10.3390/jcm12062313)
7. Yao S, Kita R, Ishikawa K, Kumode T, Tanino K, Mizuno R, Matsui Y, Honma S, Murakami T, Kan T, Nakajima S, Kaihara S, Harada T : Is Palliative Gastrojejunostomy for Malignant Gastric Outlet Obstruction an Optimal Choice for Very Elderly Patients? A Report from a Long-Lived Country. *Ann Surg Oncol*. 30 (1) : 313-321, 2023, (DOI:10.1245/s10434-022-12599-6)
8. 波多野悦朗 (監修), 貝原 聡 (編集), 内田洋一朗, 伊藤孝司, 岩崎純治, 畑 俊行, 北村好史, 成田匡大, 福光 剣, 奥田雄紀浩, 細川慎一, 石井隆道, 穴澤貴行, 長井和之, 北口和彦 : 外科レジデントのための肝胆膵のベーシック手術, 貝原 聡編, 第1版, 医事新報社, 東京, 1-176, 2023
9. 北村好史 : 1章 肝臓 5 肝左葉左葉切除術. 外科レジデントのための肝胆膵のベーシック手術, 貝原 聡編, 初版, 医事新報社, 東京, 50-63, 2023

10. Kaibori M, Yoshii K, Umeda Y, Yagi T, Okabayashi T, Sui K, Mori A, Hamaguchi Y, Kajiyama K, Hokuto D, Monden K, Yoshizumi T, Nomura Y, Toriguchi K, Kim JM, Choi GH, Ryu JH, Koh Y, Kang KJ, You YK, Chun KS, Han YS, Cho CW, Choi YI, Kim DS, Yang JD, Mori K, Hiraoka A, Yamaue H, Nakamura M, Yamamoto M, Endo I : Surgical Outcomes of Laparoscopic versus Open Hepatectomy for Left Hepatocellular Carcinoma: Propensity Score Analyses Using Retrospective Japanese and Korean Individual Patient Data. *Liver Cancer*. 12 (1) : 32-43, 2022, (DOI:10.1159/000527294)
11. Antonia RJ, Karelehto E, Toriguchi K, Matli M, Warren RS, Pfeffer LM, Donner DB : STAT3 regulates inflammatory cytokine production downstream of TNFR1 by inducing expression of TNFAIP3/A20. *J Cell Mol Med*. 26 (16) : 4591-4601, 2022, (DOI:10.1111/jcmm.17489)
12. Toriguchi K, Miyashita S, Kawabata Y, Kurimoto A, Okuno M, Iwama H, Iida K, Okamoto T, Sueoka H, Tada M, Nakamura I, Fujimoto Y, Nishimura T, Iijima H, Hatano E : Liver stiffness measured by virtual touch quantification predicts the occurrence of posthepatectomy refractory ascites in patients with hepatocellular carcinoma. *Surg Today*. 52 (5) : 822-831, 2022, (DOI:10.1007/s00595-021-02392-5)
13. 近藤正人 : 特集 十二指腸疾患への外科アプローチ II. 各論 6. 外傷性十二指腸破裂に対する外科治療. *外科* 84 (11) : 1157-1161, 2022
14. Yabuuchi Y, Hosotani K, Morita S, Kondo M, Inokuma T : A novel technique to improve endoscopic accessibility in laparoscopic endoscopic cooperative surgery for a duodenal lesion. *Endoscopy international open*. 10 (12) : E1597-E1598, 2022, (DOI:10.1055/a-1961-2625)
15. Shimoike N, Nishigori T, Yamashita Y, Kondo M, Manaka D, Kadokawa Y, Itami A, Kanaya S, Hosogi H, Satoh S, Hata H, Kan T, Kawada H, Yamamoto M, Tanaka E, Tsunoda S, Hisamori S, Hida K, Ueno K, Tanaka S, Obama K; Kyoto Esophageal and Gastric Surgery Study Group : Safety assessment of robotic gastrectomy and analysis of surgical learning process: a multicenter cohort study. *Gastric cancer*. 25 (4) : 817-826, 2022, (DOI:10.1007/s10120-022-01289-7)
16. 藤田悠介, 錦織達人, 下池典広, 村上克宏, 門川佳央, 伊丹 淳, 近藤正人, 金谷誠一郎, 川田洋憲, 畑 啓昭, 山本道宏, 金城洋介, 田中英治, 間中 大, 佐藤誠二, 岡部 寛, 山下好人, 姜 貴嗣, 後藤禎人, 中山健夫, 川上浩司, 田中司朗, 久森重夫, 角田 茂, 肥田侯矢, 小濱和貴 : 多機関共同後向き研究における研究デザインと人材育成 : 京都食道胃手術勉強会での取り組み. *日外会誌* 123 (3) : 286-293, 2022
17. Aoyama R, Tsunoda S, Okamura R, Yamashita Y, Hata H, Kinjo Y, Miki A, Kanaya S, Yamamoto M, Matsuo K, Manaka D, Tanaka E, HKawada H, Kondo M, Itami A, Kan T, Kadokawa Y, Ito T, Hirai K, Hosogi H, Nishigori T, Hisamori S, Hoshino N, Hida K MD, Goto Y MD, Nakayama T, Obama K, *Annals of Surgical Oncology*, 2023

VII. 1. 14 乳腺外科

1. Taji T, Odan N, Kataoka Y, Ikeda M, Yamaguchi A, Suzuki E, Suwa H : Promoters of BRCA testing under insurance coverage for non-metastatic breast cancer patients in Japan: a retrospective cohort study. *Breast Cancer*. 30 (2) : 309-314, 2023, (DOI:10.1007/s12282-022-01424-3)
2. Takada M, Yoshimura M, Kotake T, Kawaguchi K, Uozumi R, Kataoka M, Kato H, Yoshibayashi H, Suwa H, Tsuji W, Yamashiro H, Suzuki E, Torii M, Yamada Y, Kataoka T, Ishiguro H, Morita S, Toi M : Phase Ib/II study of nivolumab combined with palliative radiation therapy for bone metastasis in patients with HER2-negative metastatic breast cancer. *Sci Rep*. 12 (1) : 22397, 2022, (DOI:10.1038/s41598-022-27048-3)
3. Mitsuyoshi T, Ono Y, Ashida R, Yamashita M, Tanabe H, Takebe S, Tokiwa M, Suzuki E, Imagumbai T, Yoshimura M, Yamauchi C, Mizowaki T, Kokubo M : Multi-institutional phase II study of ultra-hypofractionated whole-breast irradiation after breast-conserving surgery for breast cancer in Japan: Kyoto Radiation Oncology Study Group (UPBEAT study). *Japanese Journal of Clinical Oncology*. 53 (2) : 174-178, 2023, (DOI:10.1093/jjco/hyac174)

VII. 1. 15 心臓血管外科

1. Wakami T, Koizumi S, Koyama T : Impact of postoperative patient-prosthesis mismatch as a risk factor for early structural valve deterioration after aortic valve replacement with Trifecta bioprosthesis. *Journal of Cardiothoracic Surgery*. 17 (1) : 174, 2022

2. Matsuda Y, Koyama T, Yoshida K, Koizumi S, Nakamura K, Ishigami M, Tsubota H, Sakaguchi G : Effects of Low-Dose Tolvaptan for Fluid Management After Cardiovascular Surgery. *Circulation Reports*. 4 (12) : 563-570, 2022
3. Yoshida S, Yoshida K, Oka S, Kinoshita M, Koyama T : Thoracic endovascular aortic repair for traction-induced aortic avulsion injury in neurofibromatosis type 1. *Journal of Vascular Surgery Case Innovations and Techniques*. 8(4) : 726-728, 2022
4. 二木大輝, 吉田一史, 中村 健, 木下 慎, 小山忠明 : 右側大動脈弓および左鎖骨下動脈孤立症を伴う広範囲胸部大動脈瘤に対する二期的手術の1例. *胸部外科* 76 (2) : 132-135, 2023
5. 松田靖弘 : 肺塞栓症を合併した血栓性膝窩静脈瘤に対して静脈瘤切除+パッチ形成術を施行した1例. *静脈学* 34 (1) : 1-5, 2023
6. 若見達人, 吉田一史, 小山忠明 : 妊娠 30 週の Loeyls-dietz 症候群患者に発症した Stanford A 型急性大動脈解離の1例. *日本心臓血管外科学会雑誌* 51 (5) : 304-307, 2022

VII. 1. 16 呼吸器外科

1. Kawabata T, Ikeda M, Matsuzoe H, Oka S, Ohama H, Kabuto T, Takahashi Y, Shimada Y, Nakagawa A, Kataoka K : Acute Pleural Empyema Secondary to COVID-19 Treated with Negative-Pressure Wound Therapy, Resulting in Good Lung Expansion and Early Wound Closure. *International Journal of Surgical Wound Care* 4 (1) : 22-28, 2023
2. Kabuto T, Seo R, Miyakoshi C, Shimizu Y, Shima Y, Yamashita D, Hara S, Hirabayashi R, Tomii K, Takayama M, Tetsumoto K, Saito M, Hamakawa H, Suki B, Takahashi Y : Time dependency and unique etiology of barotrauma in COVID-19: A retrospective cohort study with landmark analysis and pathological approach. *PLOS ONE* 18 (3) : e0282868, 2023
3. Shima Y, Sato Y, Morimoto T, Hara S, Hirabayashi R, Nagata K, Nakagawa A, Tachikawa R, Hamakawa H, Takahashi Y, Tomii K : Predictive performance of PD-L1 tumor proportion score for nivolumab response evaluated using archived specimens in patients with non-small cell lung cancer experiencing a postoperative recurrence. *Investig New Drugs*. 41 (1) : 35-43, 2023

VII. 1. 17 脳神経外科

1. Kappelhof M, Ospel J, Kashani N, Cimflova P, Singh N, Almekhlafi MA, Menon BK, Fiehler J, Chen M, Sakai N, Goyal M : Influence of intravenous alteplase on endovascular treatment decision-making in acute ischemic stroke due to primary medium-vessel occlusion:a case-based survey study. *J Neurointerv Surg*. 14 (5) : 439-443, 2022, (DOI:10.1136/neurintsurg-2021-017471)
2. 福光 龍, 今村博敏, 後藤正憲, 春原 匡, 松本 調, 福井伸行, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 呉 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 榛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 坂井千秋, 坂井信幸 : 脳底動脈本幹部および椎骨動脈の大型動脈瘤に対する血管内治療の治療成績. *脳卒中の外科* 50 (4) : 274-279, 2022, (DOI:https://doi.org/10.2335/scs.50.274)
3. Hashikata H, Maki Y, Ishibashi R, Goto M, Toda H : Infratentorial developmental venous anomaly concurrent with a cavernoma and dural arteriovenous fistula. *J Stroke Cerebrovasc Dis*. 31 (9) : 2022, (DOI:10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2022.106608)
4. Takano Y, Ishikawa T, Funatsu T, Eguchi S, Sumi M, Yaamaguchi K, Kawamata T : Urgent Carotid Artery Stenting with Intracranial and Carotid Stent for Symptomatic Bilateral Consecutive Internal Carotid Artery Dissection:A Case Report. *NMC Case Report Journal*. 9 : 371-376, 2022, (DOI:https://doi.org/10.2176/jns-nmc.2022-0173)
5. Kitamura T, Koyanagi M, Ogura T, Chihara H, Miyata T, Hatano T : Impact of the position of the aspiration catheter to the first pass effect during the combined technique. *Clin Neurol Neurosurg*. 217 : 107257, 2022, (DOI:10.1016/j.clineuro.2022.107257)
6. Miyata T, Kataoka H, Shimizu K, Okada A, Yagi T, Imamura H, Koyanagi M, Ishibashi R, Goto M, Sakai N, Hatano T, Chin M, Iwasaki K, Miyamoto S, : Predicting the growth of middle cerebral artery bifurcation aneurysms using differences in the bifurcation angle and inflow coefficient. *J Neurosurg*. 138 (5) : 1357-1365, 2022, (DOI:10.3171/2022.8.JNS22597)

7. Morimoto T, Kitagawa M, Koyanagi M, Kato K, Tsuzuki S, Yamamoto T, Yamada K : Incidental Sacral Meningocele in an Elderly Patient Diagnosed After Epidermal Inclusion Cyst Removal:A Case Report. *Cureus*. 14 (7) : e27385, 2022, (DOI:10.7759/cureus.27385)
8. Koyanagi M, Hatano T, Uchida K, Ogura T, Yamagami H, Shibata M, Enomoto Y, Fukawa N, Matsumoto Y, Sakai N, Takeuchi M, Nonaka T, Shimizu F, Ezura M, Ota T, Ohta H, Morimoto M, Morimoto T, Yoshimura S;ALVO investigators : Safety of Apixaban Monotherapy for Non-Valvular Atrial Fibrillation-Related Acute Stroke with Intra-/Extracranial Artery Stenosis. *Cerebrovasc Dis*. 52 (3) : 255-265, 2022, (DOI:10.1159/000526896)
9. Shimizu K, Kataoka H, Imai H, Miyata T, Okada A, Sakai N, Chin M, Iwasaki K, Hatano T, Imamura H, Ishibashi R, Goto M, Koyanagi M, Aoki T, Miyamoto S : The bifurcation angle is associated with the progression of saccular aneurysms. *Sci Rep*. 12 (1) : 7409, 2022, (DOI:10.1038/s41598-022-11160-5)
10. Kawada K, Kubo T, Ishida T, Jobu K, Morisawa S, Hamada T, Baba Y, Kawai K, Nakaoka Y, Yabe T, Furuno T, Yamada E, Fukuda H, Ohta T, Hayashi T, Kitaoka H, Miyamura M : Assisted Living and Medication Adherence in Super-aged Patients With Heart Failure in the Japanese Population. *J Cardiovasc Pharmacol*. 79 (4) : 467-471, 2022, (DOI:10.1097/FJC.0000000000001212)
11. Koge J, Tanaka K, Yoshimoto T, Shiozawa M, Kushi Y, Ohta T, Satow T, Kataoka H, Ihara M, Koga M, Isobe N, Toyoda K : Internal Carotid Artery Tortuosity: Impact on Mechanical Thrombectomy. *Stroke*. 53 (8) : 2458-2467, 2022, (DOI:10.1161/STROKEAHA.121.037904)
12. Kawada K, Ishida T, Jobu K, Ohta T, Fukuda H, Morisawa S, Kawazoe T, Tamura N, Miyamura M : Association of Aggression and Antiepileptic Drugs: Analysis Using the Japanese Adverse Drug Event Report (JADER) Database. *Biol Pharm Bull*. 45 (6) : 720-723, 2022, (DOI:https://doi.org/10.1248/bpb.b21-00954)
13. Yoshimoto T, Tanaka K, Koge J, Saito S, Yamagami H, Nakaoka Y, Ogata S, Nishimura K, Yamaguchi E, Chiba T, Kawakami D, Shiozawa M, Kamogawa N, Ohta T, Satow T, Inoue M, Hattori Y, Washida K, Kataoka H, Chung JW, Bang OY, Toyoda K, Koga M, Maruyama H, Ihara M : Impact of the RNF213 p.R4810K Variant on Endovascular Therapy for Large - Vessel Occlusion Stroke. *Stroke:Vascular and Interventional Neurology*. 2 (6) : e000396, 2022, (DOI:10.1161/SVIN.122.000396)
14. Ohta T, Satow T, Inoue M, Tanaka K, Koge J, Yoshimoto T, Hamano E, Ikedo T, Sumi M, Shimonaga K, Kushi Y, Mori H, Iihara K, Ihara M, Koga M, Toyoda K, Kataoka H : Impact on Clinical Outcomes of Changes in the Practice of Mechanical Thrombectomy due to the COVID-19 Pandemic. *Journal of Neuroendovascular Therapy*. 16 : 498-502, 2022, (DOI:https://doi.org/10.5797/jnet.0a.2022-0018)
15. Yamasaki D, Fukuda H, Hamada F, Kida N, Fukui N, Okada K, Masahira N, Ohta T, Imamura H, Sakai N, Ueba T : Flow alteration therapy for impending rupture of intracranial giant aneurysm after flow diverter placement. *Surgical Neurology International*. 13 : 323, 2022, (DOI:10.25259/SNI_437_2022)
16. Hara T, Satow T, Hamano E, Hashimura N, Sumi M, Ikedo T, Ohta T, Takahashi JC, Kataoka H : Aspect Ratio Is Associated with Recanalization after Coiling of Unruptured Intracranial Aneurysms. *Neurol Med Chir(Tokyo)*. 62 (8) : 377-383, 2022, (DOI:https://doi.org/10.2176/jns-nmc.2022-0052)
17. Ohta T, Tanaka K, Koge J, Yoshimoto T, Kushi Y, Shiozawa M, Inoue M, Satow T, Iihara K, Ihara M, Koga M, Toyoda K, Kataoka H : Stent Retriever or Aspiration Catheter Alone vs Their Combination as the First-Line Thrombectomy in Acute Stroke. *Neurosurgery*. 92 (1) : 159-166, 2022, (DOI:10.1227/neu.0000000000002167)
18. Yokobatake K, Ohta T, Kitaoka H, Nishimura S, Kashima K, Yasuoka M, Nishi K, Shigeshima K : Safety of Early Rehabilitation in Patients with Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage : A Retrospective Cohort Study. *J Stroke Cerebrovasc Dis*. 31 (11) : 106751, 2022, (DOI:10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2022.106751)
19. Watanabe S, Matsumoto S, Nakahara I, Morioka J, Hasebe A, Tanabe J, Suyama K, Ishihara T, Ohta T, Hatano T, Nagata I, Hirose Y : The impact of the approval of prothrombin complex concentrates for vitamin K antagonist-related intracerebral hemorrhage:A retrospective study. *J Stroke Cerebrovasc Dis*. 31 (12) : 106861, 2022, (DOI:10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2022.106861)
20. 坂井信幸, 太田剛史 : 特集 頸動脈病変の臨床 - その診断と治療に必要な知識 頸動脈病変の基礎から臨床まで 頸動脈病変への外科治療 - 頸動脈ステント留置術 -. *月刊カレントセラピー* 40 (7) : 691-696, 2022

21. 太田剛史:脳神経外科領域における緊急症例での脳血管内治療の役割と限界. 日本血管内治療学会誌 23(1): 16-23, 2022
22. 吉村紳一 (監修), 太田剛史 (編集), 田中寛大, 内田和孝, 陶山謙一郎, 松本省二, 鈴木健太郎, 井上 学, 吉本武史, 青木淳哉, 高下純平, 田上秀一, 安陪等思, 廣畑 優, 山本直樹, 黒木英郁, 福田真紀, 壽美田一貴, 藤井照子, 藤田恭平, 太田貴裕, 福田真紀, 塩崎絵理, 諸藤陽一, 堀江信貴, 萩野達也, 郭 樟吾, 早川幹人, 森本将史, 田中優子, 福田 仁, 今村博敏, 松下展久, 榎本由貴子, 長谷川仁, 猪奥徹也, 今井啓輔, 三宅浩介, 竹内昌孝, 渡辺大介, 木村尚人, 矢澤由加子, 大島共貴, 宮田 悠, 藤田智昭, 合志桂太郎, 山本経尚, 北田達矢, 竹本光一郎, 前川秀継, 千原英夫, 政平訓貴, 田中悠二郎:脳神経外科速報 2022 年増刊 血栓回収療法リニューアル 適応・画像診断・デバイスの新常識, 太田剛史編, メディカ出版, 大阪, 1-256, 2022
23. Imamura H, Tani S, Adachi H, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Omura Y, Sasaki N, Akiyama T, Fukuda T, Kajiura S, Shigeyasu M, Asakura K, Horii R, Sakai N: Comparison of Symptomatic Vasospasm after Surgical Clipping and Endovascular Coiling. *Neurol Med Chir (Tokyo)*. 62 (5) : 223-230, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.2176/jns-nmc.2021-0126>)
24. Yoshimoto T, Yamagami H, Sakai N, Toyoda K, Hoshimoto Y, Hirano T, Iwama T, Goto R, Kimura K, Kuroda S, Matsumaru Y, Miyamoto S, Ogasawara K, Okada Y, Shiokawa Y, Takagi Y, Tominaga T, Uno M, Yoshimura S, Ohara N, Imamura H, Sakai C: Impact of COVID-19 on the Volume of Acute Stroke Admissions:A Nationwide Survey in Japan. *Neurol Med Chir*. 62 (8) : 369-376, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.2176/jns-nmc.2022-0099>)
25. Akiyama T, Imamura H, Shigeyasu M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Matsumoto S, Fukui N, Omura Y, Fukuda T, Go K, Kajiura S, Asakura K, Horii R, Naramoto Y, Nishii R, Yamamoto Y, Sakai C, Sakai N: PulseRider-assisted coil embolization for an unruptured internal carotid artery-persistent primitive trigeminal artery aneurysm. *J Stroke Cerebrovasc Dis*. 32 (2) : 106876, 2023, (DOI:[10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2022.106876](https://doi.org/10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2022.106876))
26. Ogura, T MD, Hatano T MD, Koyanagi M MD, Kitamura T MD, Yamada D MD: Ruptured aneurysms at the distal superior cerebellar artery successfully treated by combining occipital artery-superior cerebellar artery anastomosis and endovascular therapy:illustrative case. *J Neurosurg Case Lessons*. 5 (7):1-3, 2023, (DOI:<https://doi.org/10.3171/CASE22246>)
27. Nishiwaki T, Ikedo T, Hashimura N, Tanaka K, Ikeda Y, Hatakeyama K, Ohta-Ogo K, Kushi Y, Shimonaga K, Hamano E, Ohta T, Imamura H, Mori H, Iihara K, Kataoka H: A case of rheumatoid meningitis with symptomatic middle cerebral artery stenosis. *J Neuropathol Exp Neurol*. 82 (2) : 180-182, 2023, (DOI:[10.1093/jnen/nlac099](https://doi.org/10.1093/jnen/nlac099))
28. 角田 亘, 大木宏一, 中島 誠, 小山哲男, 大山直紀, 古賀政利, 早瀬 睦, 太田剛史, 大森智裕, 松本浩一, 井口保之, 藤本 茂, 小笠原邦昭:“本邦の一次脳卒中センターにおける脳卒中急性期リハビリテーションの現状”に関する多施設アンケート調査結果. *脳卒中* 45 (2) : 111-119, 2023, (DOI:<https://doi.org/10.3995/jstroke.11058>)
29. Sakai C, Sakai N, Takayanagi A, Imamura H, Ohta T, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Matsumoto S, Akiyama T, Takano Y, Haruyama H, Go K, Kajiura S, Shigeyasu M, Asakura K, Horii R, Naramoto Y, Nishii R, Yamamoto Y, Teranishi K, Kawade S, Imahori T, Kaneko N, Tateshima S: First-in-human trial of Stabilizer device in neuroendovascular therapy. *Heliyon* 9 (3) : e14360, 2023, (DOI:[10.1016/j.heliyon.2023.e14360](https://doi.org/10.1016/j.heliyon.2023.e14360))
30. Sakai N, Kawabata S, Funatsu T, Okuda T, Akiyama R, Beppu M, Matsui Y, Adachi H, Horiuchi K, Imamura H, Sakai C, Tani S, Adachi H, Sasaki N, Tokunaga S, Fukumitsu R, Shigematsu T: Four-Year Follow-Up on the First-in-Human Experience With Nautilus Intracascular System Assisted Coiling for Unruptured Intracranial Aneurysms. *Stroke:Vascular and Interventional Neurology*. 3 (3):e000770, 2023, (DOI:[org/10.1161/SVIN.122.000770](https://doi.org/10.1161/SVIN.122.000770))
31. Yoshimura S, Sakai N, Yamagami H, Uchida K, Beppu M, Toyoda K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Kimura K, Takeuchi M, Yazawa Y, Kimura N, Shigeta K, Imamura H, Suzuki I, Enomoto Y, Tokunaga S, Morita K, Sakakibara F, Kinjo N, Saito T, Ishikura R, Inoue M, Morimoto T: Endovascular Therapy for Acute Stroke with a Large Ischemic Region. *N Engl J Med*. 386 (14) : 1303-1313, 2022, (DOI:[10.1056/NEJMoa2118191](https://doi.org/10.1056/NEJMoa2118191))

VII. 1. 18 整形外科

1. Onishi E, Hashimura T, Ota S, Fujita S, Tsukamoto Y, Matsunaga K, Yasuda T : The efficacy and complications of preoperative embolization of metastatic spinal tumors: risk of paralysis after embolization. *Spine Surgery and Related Research*. 6 (3) : 288-293, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.22603/ssr.2021-0171>)
2. Yasuda T, Ota S, Yamashita S, Tsukamoto Y, Onishi E : Association of preoperative variables of ipsilateral hip abductor muscles with gait function after total hip arthroplasty: a retrospective study. *Arthroplasty*. 4 (1) : 23, 2022, (DOI:[10.1186/s42836-022-00126-7](https://doi.org/10.1186/s42836-022-00126-7))
3. Honda S, Fujibayashi S, Shimizu T, Tsubouchi N, Kanba Y, Sono T, Kimura H, Odate S, Onishi E, Tamaki Y, Tomizawa T, Tsutsumi R, Yasura K, Murata K, Otsuki B, Matsuda S : Neurological severity evaluation using magnetic resonance imaging in acute spontaneous spinal epidural haematomas. *Int Orthop*. 46 (10) : 2347-2355, 2022, (DOI:[10.1007/s00264-022-05513-y](https://doi.org/10.1007/s00264-022-05513-y))
4. Yasuda T, Hara S, Yamashita S, Mitsuzawa S, Tsukamoto Y, Takeuchi H, Ota S, Onishi E : Activation of STAT3 (signal transducer and activator of transcription 3) in synovial tissues from the hip joint in the early stage of rapidly destructive coxopathy. *Biomedical Research (Tokyo)*. 43 (5) : 173-180, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.2220/biomedres.43.173>)
5. Mitsuzawa S, Kusakabe K, Nakao S, Matsuoka T, Yasuda T, Matsuda S : Minimally invasive transiliac anatomical locking plate for posterior pelvic ring injury: a retrospective analysis of clinical outcomes and radiographic parameters for the gull wing plate. *BMC Musculoskeletal Disorders*. 23 (1) : 880, 2022, (DOI:[10.1186/s12891-022-05829-1](https://doi.org/10.1186/s12891-022-05829-1))
6. Mitsuzawa S, Kusakabe K, Matsuda S : Minimally invasive transiliac anatomical locking plate for posterior pelvic ring injury: A technical trick of the gull wing plate. *J Clin Orthop Trauma*. 33 : 101991, 2022, (DOI:[10.1016/j.jcot.2022.101991](https://doi.org/10.1016/j.jcot.2022.101991))
7. Odate S, Fujibayashi S, Otsuki B, Shikata J, Tsubouchi N, Tsutsumi R, Ota M, Yusuke K, Kimura H, Onishi E, Tanida S, Ito H, Ishibe T, Matsuda S : Reoperation for misplaced pedicle screws: a multicenter retrospective study. *Spine (Phila Pa 1976)*. 47 (21) : 1525-1531, 2022, (DOI:[10.1097/BRS.0000000000004398](https://doi.org/10.1097/BRS.0000000000004398))
8. Yasuda T, Honda S, Matsunaga K, Hashimura T, Tsukamoto Y, Ota S, Fujita S, Onishi E : Association of preoperative muscle composition of the lower extremity with gait function after total knee arthroplasty. *J Orthop Sci*. 28 (1) : 188-194, 2023, (DOI:[10.1016/j.jos.2021.10.001](https://doi.org/10.1016/j.jos.2021.10.001))
9. Hashimura T, Onishi E, Ota S, Tsukamoto Y, Yamashita S, Yasuda T : Correction loss following short-segment posterior fixation for traumatic thoracolumbar burst fractures related to endplate and intervertebral disc destruction. *BMC Musculoskeletal Disorders*. 24 (1) : 174, 2023, (DOI:[10.1186/s12891-023-06288-y](https://doi.org/10.1186/s12891-023-06288-y))
10. 梶月幹太, 岩田健太郎, 鈴木謙太郎, 高村大祐, 矢嶋優磨, 本田明広, 幸原伸夫, 安田 義 : 人工膝関節全置換術前の握力と術後3ヶ月の歩行能力との関連. *日本人工関節学会誌* 52 : 331-332, 2022
11. 鈴木謙太郎, 岩田健太郎, 梶月幹太, 高村大祐, 矢嶋優磨, 本田明広, 幸原伸夫, 安田 義 : 人工膝関節全置換術前の四肢筋量体重比が術後3ヶ月の運動機能に及ぼす影響. *日本人工関節学会誌* 52 : 335-336, 2022
12. 山下伸之輔, 鈴木 卓, 中山雄平, 石井桂輔, 黒住健人, 渡部欣忍 : 両柱骨折における後壁様後柱骨片の頻度と臨床的特徴. *骨折* 44 (1) : 48-52, 2022
13. 原田崇史, 藤田俊史, 塚本義博, 藤田 暁, 安田 義 : e-poster 12 肘関節周囲 上腕骨顆上骨折の術後に生じた亜急性尺骨神経障害に対して神経剥離術を行った1例. *中部日本整形外科災外科学会雑誌* 65 (2) : 271-272, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.11359/chubu.2022.271>)
14. 太田悟司, 山下伸之輔, 塚本義博, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義 : 骨・関節感染症の治療戦略 V. 治療各論 4. 骨折関連感染 : Gustilo 分類 type IIIB 下腿開放骨折の感染低減化に向けた取り組み. *別冊整形外科* 41 (81) : 180-184, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.11359/chubu.2022.271>)
15. 山下伸之輔, 光澤定己, 塚本義博, 竹内久貴, 太田悟司, 安田 義 : 脛骨骨幹部らせん骨折に合併する後果骨折の頻度と臨床的特徴. *骨折* 45 (2) : 512-515, 2023

VII. 1. 19 形成外科

1. Kawabata T, Ikeda M, Matsuzoe H, Oka S, Ohama H, Kabuto T, Takahashi Y, Shimada Y, Nakagawa A, Kataoka K : Acute Pleural Empyema Secondary to COVID-19 Treated with Negative-Pressure Wound Therapy, Resulting in Good Lung Expansion and Early Wound Closure. *International Journal of Surgical Wound Care*. 4 (1) : 22-28, 2023

VII. 1. 20 産婦人科

1. Yoshioka S, Nishino S, Shimizu Y, Yamashita D, Komatsu M, Matsumoto T, Nakamura M, Kohashi K, Hirose T, Hara S : Primary alveolar rhabdomyosarcoma of the uterine corpus expressing MUC4 and OLIG2: A case report with combined morphological and molecular analysis. *Human Pathology Reports*. 28 : 300637, 2022
2. 前田振一郎, 林 信孝, 中村充宏, 山添紗恵子, 崎山明香, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 青木卓哉, 吉岡信也 : 特集 いま大きく変わりつつある子宮頸がんの診療 臨床経験 当院における MSI 検査の現況と MSI-High 固形がんに対するペムプロリズマブの投与経験. *産婦人科の実験* 71 (6) : 657-665, 2022
3. 小池彩美, 前田振一郎, 奥立みなみ, 中村充宏, 川田悦子, 林 信孝, 田邊更衣子, 青木卓哉, 吉岡信也 : 成熟嚢胞性奇形腫における腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術の術中破綻が与える影響. *日本産科婦人科内視鏡学会雑誌* 38 (1) : 14-18, 2022

VII. 1. 21 泌尿器科

1. 川喜田睦司 : 特集 トラブルゼロを目指した泌尿器縫合術—今さら聞けない！開放手術テクニック ■各開放手術における縫合術 腎臓の縫合. *臨床泌尿器科* 76 (7) : 456-459, 2022
2. 川喜田睦司 : 手術をいかに習得し伝えるか. *日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会雑誌* 14 : 47-51, 2022
3. Mine Y, Yamasaki T, Kambe T, Hagimoto H, Kokubun H, Hattori Y, Abe Y, Kubota M, Tsutsumi N, Kawakita M : Robot-assisted transperitoneal reconstruction of a retrocaval ureter: A report of two cases. *Asian J Endosc Surg*. 16 (1) : 101-104, 2023, (DOI:10.1111/ases.13107)
4. Kobayashi K, Matsuyama H, Kawai T, Ikeda A, Miyake M, Nishimoto K, Matsushita Y, Komura K, Abe T, Kume H, Nishiyama H, Fujimoto K, Oyama M, Miyake H, Inoue K, Mitsui T, Kawakita M, Ohyama C, Mizokami A, Kuroiwa H : Bladder cancer prospective cohort study on high-risk non-muscle invasive bladder cancer after photodynamic diagnosis-assisted transurethral resection of the bladder tumor (BRIGHT study). *Int J Urol*. 29 (7) : 632-638, 2022, (DOI:10.1111/iju.14854)
5. Kubota M, Matsuoka T, Mine Y, Hagimoto H, Kokubun H, Murata S, Makita N, Hattori Y, Suzuki I, Abe Y, Tohi Y, Tsutsumi N, Yamasaki T, Inoue K, Kawakita M : Effect of continued perioperative antithrombotic therapy on bleeding outcomes following laparoscopic nephrectomy and nephroureterectomy. *Asian J Endosc Surg*. 16 (1) : 7-13, 2023, (DOI:10.1111/ases.13106)
6. Kubota M, Yamasaki T, Murata S, Abe Y, Tohi Y, Mine Y, Hagimoto H, Kokubun H, Suzuki I, Tsutsumi N, Inoue K, Kawakita M : Surgical and functional outcomes of robot-assisted versus laparoscopic partial nephrectomy with cortical renorrhaphy omission. *Sci Rep*. 12 (1) : 13000, 2022, (DOI:10.1038/s41598-022-17496-2)
7. 国分英利, 久保田聖史, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 山口立樹, 村田詩織, 牧田哲幸, 服部悠斗, 阿部陽平, 堤 尚史, 山崎俊成, 井上幸治, 川喜田睦司 : ホルモン療法により骨盤内リンパ節転移が消失した m0CRPC に対し Salvage RARP が有用であった 1 例. *泌尿器科紀要* 69 (2) : 59-62, 2023
8. Sakaguchi S, Okamoto R, Inoue C, Akao M, Kamemura K, Kurihara I, Takeda Y, Ohno Y, Inagaki N, Rakugi H, Katabami T, Tsuike M, Tanabe A, Tamura K, Fujita S, Yano Y, Dohi K, Naruse M : Associated factors and effects of comorbid atrial fibrillation in hypertensive patients due to primary aldosteronism. *J Hum Hypertens*. 24 (10), 2022, (DOI:https://doi.org/10.1038/s41371-022-00753)
9. 鈴木良輔, 後藤崇之, 吉野喬之, 澤田篤郎, 赤松秀輔, 齊藤亮一, 小林 恭, 山崎俊成, 井上貴博, 神波大己, 小川 修 : 腎細胞癌に対するリンパ節郭清の後ろ向き検討. *泌尿器科紀要* 68 (6) : 165-170, 2022
10. Takeda M, Kashima S, Fuchigami Y, Yoshino T, Kataoka T, Yamasaki T, Kagamu H, Kobayashi T, Akamatsu S : Case Report: A Case of Renal Cell Carcinoma Unclassified With Medullary Phenotype Exhibiting a Favorable Response to Combined Immune Checkpoint Blockade. *Front Immunol*. 13:934991, 2022, (DOI:10.3389/fimmu.2022.934991)
11. Takeda M, Sakamoto H, Shibasaki N, Fukui T, Magaribuchi T, Sumiyoshi T, Utsunomiya N, Sawada A, Goto T, Kobayashi T, Ueda K, Yamasaki T, Ogawa O, Akamatsu S : Extracellular vesicles secreted from bone metastatic renal cell carcinoma promote angiogenesis and endothelial gap formation in bone marrow in a time-dependent manner in a preclinical mouse model. *Front Oncol*. 13 : 1139049, 2023, (DOI:10.3389/fonc.2023.1139049)

VII. 1. 22 耳鼻咽喉科

1. Iwasa Y, Nishio S, Sugaya A, Yoshimura H, Kataoka Y, Maeda Y, Kanda Y, Nagai K, Naito Y, Yamazaki H, Ikezono T, Matsuda H, Nakai M, Tona R, Sakurai Y, Motegi R, Takeda H, Kobayashi M, Kihara C, Ishino T, Morita S, Iwasaki S, Takahashi M, Furutate S, Ola S, Kubota T, Arai Y, Kobayashi Y, Kikuchi D, Shintani T, Ogasawara N, Honkura Y, Izumi S, Hyogo M, Ninoyu Y, Suematsu M, Nakayama J, Tsuchihashi N, Okami M, Sakata H, Yoshihashi H Kobayashi T, Kumakawa K, Yoshida T, Usami SI : Detailed clinical features and genotype-phenotype correlation in an OTOF related hearing loss cohort in Japan. *Human Genetics*. 141 (3-4) :865-875, 2022, (DOI:10.1007/s00439-021-02351-7)
2. Nishio S, Moteki H, Miyagawa M, Yamasoba T, Kashio A, Iwasaki S, Takahashi M, Naito Y, Fujiwara K, Sugaya A, Takahashi H, Kitaoka K, Usami SI : Etiology of hearing loss affects auditory skill development and vocabulary development in pediatric cochlear implantation cases. *ACTA OTO-LARYNGOLOGICA*. 142 (3-4) : 308-315, 2022, (DOI:10.1080/00016489.2022.2065027)
3. 内藤 泰 : 1 章 急性期のめまい 救急外来での危険なめまいの鑑別診断. めまい診療ハンドブック 最新の検査・鑑別診断と治療 プラクティス耳鼻咽喉科の臨床, 大森孝一, 武田憲昭編, 初版, 中山書店, 東京, 14-20, 2022
4. 内藤 泰 : きこえと脳の働き きこえの公開講座 人工内耳医療～補聴器でもききとりにくい方へ～. 朝日新聞, 2022
5. 藤井直子 : 成人の人工内耳 ～きこえとリハビリテーション～ きこえの公開講座 人工内耳医療～補聴器でもききとりにくい方へ～. 朝日新聞, 2022
6. 内藤 泰 : 追跡眼球運動検査・視運動性眼振検査. 第 51 回平衡機能検査技術講習会, 27-33, 2022
7. 内藤 泰 : 超“難聴”時代に備えよ：“聞こえる”人生のための 2 つの鉄則. NHK テキスト「きょうの健康」2022 年 8 月号 : 10-13, 2022
8. 内藤 泰 : 超“難聴”時代に備えよ：これが難聴対策のニューノーマル！ NHK テキスト「きょうの健康」2022 年 8 月号 : 14-17, 2022
9. 内藤 泰 : 超“難聴”時代に備えよ：続々登場！難聴補助アイテム. NHK テキスト「きょうの健康」2022 年 8 月号 : 18-21, 2022
10. 前川圭子 : 職業歌手の音声障害に対する音声治療. *音声言語医学* 63 (4) : 241-247, 2022
11. 諸頭三郎 : VI 聴覚障害 3. 臨床実践 2) 人工聴覚器 (3) 人工内耳のプログラミング (マッピング). 図解 言語聴覚療法技術ガイド, 深浦順一, 内山千鶴子, 城間将江, 城本 修, 立石雅子, 長谷川賢一編, 第 2 版, 文光堂, 東京, 659-662, 2022
12. 前川圭子 : IV 発声・発語障害 3. 臨床実践 4) 直接訓練 (2) 包括的音声訓練. 図解 言語聴覚療法技術ガイド, 深浦順一, 内山千鶴子, 城間将江, 城本 修, 立石雅子, 長谷川賢一編, 第 2 版, 文光堂, 東京, 420 - 424, 2022
13. Furuta I, Ogita H, Iguchi F, Okano T, Yamahara K, Namatsu T, Kawata S, Omori K, Yamamoto N : Efficient Bone Conduction Hearing Device With a Novel Piezoelectric Transducer Using Skin as an Electrode. *IEEE Trans Biomed Eng.* 69 (11) : 3326-3333, 2022, (DOI:10.1109/TBME.2022.3168229)
14. 安本眞美, 山崎博司, 藤原敬三, 濱口清海, 道田哲彦, 戸部陽太, 上田啓史, 内藤 泰 : 後期高齢難聴者における人工内耳の長期的有用性と問題点. *Otol Jpn.* 32 (3) : 328-332, 2022
15. 山本典生 : 特集 耳科手術のコツと pitfall 解説 耳科手術の画像検査. *耳鼻咽喉科* 2 (6) : 821-830, 2022
16. 山本典生 : 耳硬化症. 今日の治療指針 2023 年版, 福井次矢, 高木 誠, 小室一成 編, 医学書院, 東京, 1566-1567, 2023
17. Matsunaga M, Yamamoto R, Kita T, Ohnishi H, Yamamoto N, Okano T, Omori K, Nakagawa T : Stepwise fate conversion of supporting cells to sensory hair cells in the chick auditory epithelium. *iScience*. 26 (2) : 106046, 2023, (DOI:10.1016/j.isci.2023.106046)
18. 岸本逸平, 大西弘恵, 山原康平, 中川隆之, 山下 勝, 大森孝一, 山本典生 : 気管培養モデルを用いたインスリン様成長因子 1 (IGF1) の上皮伸展促進効果の検討. *日耳鼻* 126 (1) : 69-70, 2023, (DOI:https://doi.org/10.3950/jibiinkotokeibu.126.1_69)
19. 内藤 泰 : 超“難聴”時代に備えよ：“聞こえる”人生のための 2 つの鉄則. NHK テキスト「きょうの健康」2023 年 2 月号 : 50-51, 2023

20. 内藤 泰：超“難聴”時代に備えよ：これが難聴対策のニューノーマル！NHK テキスト「きょうの健康」2023年2月号：52-53, 2023
21. 内藤 泰：超“難聴”時代に備えよ：続々登場！難聴補助アイテム. NHK テキスト「きょうの健康」2023年2月号：54-55, 2023
22. 山本典生：3月は「耳鼻咽喉科月間」耳が不調…すぐ受診を. 神戸新聞 2月26日朝刊 18, 2023
23. 玉谷輪子, 山崎博司, 山崎朋子, 藤井直子, 諸頭三郎, 藤原敬三, 内藤 泰：Custom Sound® Pro を使用した人工内耳の患者在宅マッピング. *Audiology Japan* 66 (1) : 40-48, 2023
24. Tobe Y, Yamazaki H, Shirakawa C, Shinohara S, Fujiwara K, Naito Y : Management of Already Inserted Ventilation Tubes During Pediatric Cochlear Implantation: To Remove or Leave the Tube? *Otol Neurotol.* 44 (3) : e140-e145, 2023, (DOI:10.1097/MAO.0000000000003797)
25. 内藤 泰：1 まえがき－新生児聴覚スクリーニング検査の意義. 赤ちゃんの聞こえで要精査と言われたら－新生児聴覚スクリーニング後の精密検査と医療・教育－：2-4, 2023
26. 内藤 泰：6 人工内耳による医療. 赤ちゃんの聞こえで要精査と言われたら－新生児聴覚スクリーニング後の精密検査と医療・教育－：15-17, 2023
27. 諸頭三郎：7 難聴児療育について (1) 難聴児の療育とは？ 赤ちゃんの聞こえで要精査と言われたら－新生児聴覚スクリーニング後の精密検査と医療・教育－：18-19, 2023
28. 山崎朋子：7 難聴児療育について (2) 難聴児療育の実際について. 赤ちゃんの聞こえで要精査と言われたら－新生児聴覚スクリーニング後の精密検査と医療・教育－：25-26, 2023

VII. 1. 23 頭頸部外科

1. 戸部陽太, 篠原尚吾, 瀧口清海, 竹林慎治, 道田哲彦, 池永 直, 濱本文美, 安本眞美：下咽頭癌化学療法後に骨髄異形成症候群を合併し頸部巻線治療に難渋した2例. *耳鼻臨床* 115 (4) : 307-314, 2022
2. 池永 直, 篠原尚吾, 竹林慎治, 瀧口清海, 道田哲彦, 戸部陽太, 濱本文美, 安本眞美：口蓋小唾液腺腫瘍16例の検討. *耳鼻臨床* 115 (8) : 679-684, 2022
3. 道田哲彦, 篠原尚吾, 濱本文美, 安本眞美, 戸部陽太, 池永 直, 水野敬介, 齋田浩二, 瀧口清海, 竹林慎治, 山崎博司, 藤原敬三, 内藤 泰：手術を施行した耳下腺癌42例の検討. *耳鼻臨床* 115 (9) : 771-778, 2022
4. 篠原尚吾：「第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会手術手技セミナー」甲状腺全摘の基本術式. *日耳鼻* 125 : 1542-1546, 2022
5. 篠原尚吾：からだ がん免疫療法 県内でも拡大. *神戸新聞* : 17, 2022
6. 山元智子, 篠原尚吾, 上田啓史, 安本眞美, 濱本文美, 戸部陽太, 池永 直, 道田哲彦, 瀧口清海, 藤原敬三, 内藤 泰, 瀬尾龍太郎, 柳井真知, 浅香葉子：当院で気管切開を施行したCOVID-19症例41例の検討－特に第4波の影響について－. *日気食* 73 (6) : 363-368, 2022

VII. 1. 24 麻酔科

1. Yamada A, Miyawaki I, Mima H : Anesthetic management of primary cardiac tumor in the coronary sinus and right atrium. *Saudi J Anaesth.* 16 (4) : 488-490, 2022, (DOI:10.4103/sja.sja_130_22)
2. Ito J, Kawakami D, Seo R, Iwata K, Ouchi K, Nonami S, Miyoshi Y, Tatebe M, Tsuchida T, Asaka Y, Takeda C, Nishihara H, Mima H, Doi A, Tomii K, Ariyoshi K : Patient-centered outcomes at hospital discharge in mechanically ventilated COVID-19 patients in Kobe, Japan: A single-center retrospective cohort study. *Respir Investig.* 60 (5) : 694-703, 2022
3. Hasushita Y, Nagao M, Miyazawa Y, Yunoki K, Mima H : Cardiac Arrest Following Remimazolam-Induced Anaphylaxis: A Case Report. *A A Pract.* 16 (9) : e01616, 2022
4. 梶野超生, 宮脇郁子, 東別府直紀, 美馬裕之：成人先天性心疾患非専門施設で行うフォンタン手術後の肝切除術. *麻酔* 71 (7) : 788-791, 2022
5. 河本 怜, 東別府直紀, 美馬裕之：人工心肺使用手術におけるアンチトロンビン補充前の適切なヘパリン投与量の検討. *麻酔* 71 (4) : 375-378, 2022

VII. 1. 25 歯科口腔外科

1. Yamamoto S, Okamura Y, Kimoto Y, Takenobu T : Accuracy and application range of a splint integrated with a reference array and registration fiducial markers for mandibular navigation surgery in artificial skulls. *J Oral Maxillofac Surg Med Pathol.* 34 (6) : 724-733, 2022
2. Maeda K, Kakudo M, Tanaka J, Takenobu T, Kashiwagi K : Comparative study of dysphagia occurring after acute respiratory distress syndrome in COVID-19 versus non-COVID-19 patients. *J Osaka Dent Univ.* 56 (2) : 209-214, 2022
3. 梨 正典, 谷池直樹, 前田圭吾, 山本信祐, 宇佐美悠, 竹信俊彦 : 奇形歯に伴う歯原性嚢胞の1例. *日本口腔外科学会雑誌* 69 (2) : 38-42, 2023
4. Hoshi K, Ikebe T, Ota Y, Kishimoto H, Kurata T, Kurita H, Sakamaki K, Takenobu T, Harada S, Ogasawara T, Tei K, Kirita T : Guide for Surgical Procedures in Oral And Maxillofacial Areas during Coronavirus Disease 2019 Pandemic. *Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology.* 34 (3) : 294-314, 2022, (DOI:10.1016/j-ajoms.2021.10.007)
5. Maeda K, Yamashita D, Takenobu T : Ulcers on the bilateral palate mucosa following mRNA-based vaccination for coronavirus disease 2019 (COVID-19) : A case report. *Journal of Stomatology oral and Maxillofacial Surgery.* 123 (3) : 283-286, 2022, (DOI:https://doi.org/10.1016/j.jormas.2022.01.013)

VII. 1. 26 病理診断科

1. 多山 葵, 三瀬昌宏, 松井優悟, 藤倉航平, 山下大祐 : エリブリン・パゾパニブで30ヵ月病勢制御した乳腺悪性葉状腫瘍肺肝転移の1例. *日本臨床外科学会雑誌* 83 (4) : 649-653, 2022, (DOI:https://doi.org/10.3919/jjsa.83.649)
2. Nagano C, Hara S, Yoshikawa N, Takeda A, Gotoh Y, Hamada R, Matsuoka K, Yamamoto M, Fujinaga S, Sakuraya K, Kamei K, Hamasaki Y, Oguchi H, Araki Y, Ogawa Y, Okamoto T, Ito S, Tanaka S, Kaito H, Aoto Y, Ishiko S, Rossanti R, Sakakibara N, Horinouchi T, Yamamura T, Nagase H, Iijima K, Nozu K : Clinical, Pathological, and Genetic Characteristics in Patients with Focal Segmental Glomerulosclerosis. *Kidney360.* 3 (8) : 1384-1393, 2022, (DOI:10.34067/KID.0000812022)
3. 森田周子, 山下大祐 : 【増刊号 図説「胃と腸」画像診断用語集2022】疾患 食道 食道噴門腺. *胃と腸* 57(5) : 593, 2022
4. Wakabayashi K, Yamamoto S, Hara S, Okawara M, Teramoto K, Ikeda N, Kusunoki Y, Takeji M : Nivolumab-induced membranous nephropathy in a patient with stage IV lung adenocarcinoma. *CEN Case Rep.*11 (2) : 171-176, 2022, (DOI:10.1007/s13730-021-00645-3)
5. Soyama H, Nishio M, Otani J, Sakuma T, Takao S, Hara S, Masuda T, Mimori K, Toyokuni S, Lydon JP, Nakao K, Nishina H, Fukumoto T, Maehama T, Suzuki A : Hippo-TAZ signaling is the master regulator of the onset of triple-negative basal-like breast cancers. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 119 (29) : e2123134119, 2022, (DOI:10.1073/pnas.2123134119)
6. Tatsumi S, Takeuchi M, Fujii T, Sugimoto A, Sekita-Hatakeyama Y, Nishikawa T, Uchiyama T, Morita K, Itami H, Takeda M, Yamazaki M, Ohbayashi C : Evaluation of DNA/RNA quality from cell block of malignant mesothelioma and lung adenocarcinoma. *Diagn Cytopathol.* 50 (6) : 273-283, 2022, (DOI:https://doi.org/10.1002/dc.24960)
7. Nishikubo M, Hiramoto N, Yamashita D, Imoto H, Sato Y, Okuno Y, Haga H, Nannya Y, Ogawa S, Kimura H, Ishikawa T : Elderly-onset systemic Epstein-Barrvirus-positive T-cell lymphoma of childhood. *Pathol Int.* 72 (7) : 376-378, 2022, (DOI:10.1111/pin.13231)
8. Iwai T, Imagumbai T, Okabayashi S, Ashida R, Mitsuyoshi T, Tai Y, Matsumoto T, Yamashita D, Nagano T, Kokubo M : Perianal Bowen's disease treated with radiotherapy preserving anal function with a unique skin reaction considered as 'tumoritis'. *Int Cancer Conf J.* 12 (1) : 41-45, 2022, (DOI:10.1007/s13691-022-00574-7)
9. Tanaka K, Yabuuchi Y, Yamashita D, Hosotani K, Morita S, Inokuma T : Endoscopic submucosal dissection for a superficial esophageal squamous cell carcinoma located in a Rokitsansky diverticulum. *Endoscopy.* 54 (Suppl 02) : E986-E987, 2022, (DOI:10.1055/a-1884-9509)

10. Ninomaru T, Hata A, Hara S, Komatsu M : Heterogeneity or transformation? A whack-a-mole case of EGFR-mutant lung adenocarcinoma and small cell carcinoma: A case report. *Thorac Cancer*. 13 (16) : 2394-2397, 2022, (DOI:10.1111/1759-7714.14563)
11. Fujii T, Takeda M, Uchiyama T, Nitta Y, Maebou K, Terada C, Okada F, Matsuoka M, Sugimoto S, Sasaki S, Morita K, Itami H, Miyake M, Takeda M, Sawabata N, Fujimoto K, Ohbayashi C : Identification of fusion transcripts in sarcoma from archival formalin-fixed paraffin-embedded tissues: A next-generation sequencing approach. *Pathol Int*. 72 (9) : 444-456, 2022, (DOI:10.1111/pin.13265)
12. Yasuda T, Hara S, Yamashita S, Mitsuzawa S, Tsukamoto Y, Takeuchi H, Ota S, Onishi E : Activation of STAT3 (signal transducer and activator of transcription 3) in synovial tissues from the hip joint in the early stage of rapidly destructive coxopathy. *Biomed Res*. 43 (5) : 173-180, 2022, (DOI:10.2220/biomedres.43.173)
13. Terada CI, Onoue K, Fujii T, Itami H, Morita K, Uchiyama T, Takeda M, Nakagawa H, Nakano T, Baba Y, Amemiya K, Saito Y, Hatakeyama K, Ohbayashi C : Histopathological and epigenetic changes in myocardium associated with cancer therapy-related cardiac dysfunction. *ESC Heart Fail*. 9 (5) : 3031-3043, 2022, (DOI:10.1002/ehf2.14034)
14. 原 重雄:特集 リンパ腫と関連疾患のトピックスⅡ - T細胞リンパ腫とリンパ腫関連疾患- 【今月の話題】微小変化型ネフローゼ症候群にみられる 'IgG dusting' 蛍光免疫染色のピットフォール. *病理と臨床* 40 (11) : 1157-1159, 2022
15. Hosotani K, Yabuuchi Y, Yamashita D, Hara S, Inokuma T : Endoscopic submucosal dissection for complete removal of a residual colorectal tumor involving a diverticulum. *Endoscopy*. 54 (S 02) : E908-E909, 2022, (DOI:10.1055/a-1864-9146)
16. Hosotani K, Yabuuchi Y, Yamashita D, Inokuma T : Detecting remnant sessile serrated lesion after piecemeal cold snare polypectomy using acetic acid with narrow-band imaging. *Endosc Int Open*. 10 (12) : E1595-E1596, 2022, (DOI:10.1055/a-1959-6346)
17. 原 重雄 : 尿管と腎線維化【腎線維化を理解するための基礎】間質線維化の病理. *腎と透析* 93 (6) : 839-844, 2022, (DOI:https://doi.org/10.24479/kd.0000000546)
18. Oka H, Sumitomo S, Shimizu H, Kanamori M, Murata S, Yamashita D, Okada T, Nishioka H, Ohmura K : A Case of Anti-synthetase Syndrome that Relapsed with Pulmonary Arterial Hypertension and Malignancy. *Intern Med*, 62 (18) : 2747-2751, 2023, (DOI:10.2169/internalmedicine.1275-22)
19. Oka H, Sumitomo S, Shimizu H, Kanamori M, Yamashita D, Nishioka H, Ohmura K : A case of aortoduodenal fistula caused by IgG4-related periaortitis. *Mod Rheumatol Case Rep*. 7 (1) : 188-191, 2023, (DOI:10.1093/mrcr/rxac051)
20. Nasu M, Nakagawa N, Hara S, Yano J, Kurokawa Y, Nakamura N, Yokoyama H, Shimizu A, Sugiyama H, Sato H, Fukami K : A nationwide cross-sectional analysis of biopsy-proven Fabry nephropathy: the Japan Renal Biopsy Registry. *Clin Exp Nephrol*. 27 (2) : 141-150, 2023, (DOI:10.1007/s10157-022-02287-w)
21. Shima Y, Sato Y, Morimoto T, Hara S, Hirabayashi R, Nagata K, Nakagawa A, Tachikawa R, Hamakawa H, Takahashi Y, Tomii K : Predictive performance of PD-L1 tumor proportion score for nivolumab response evaluated using archived specimens in patients with non-small cell lung cancer experiencing a postoperative recurrence. *Invest New Drugs*. 41 (1) : 35-43, 2023, (DOI:10.1007/s10637-022-01309-4)
22. Kabuto T, Seo R, Miyakoshi C, Shimizu Y, Shima Y, Yamashita D, Hara S, Hirabayashi R, Tomii K, Takayama M, Tetsumoto K, Saito M, Hamakawa H, Suki B, Takahashi Y : Time dependency and unique etiology of barotrauma in COVID-19: A retrospective cohort study with landmark analysis and pathological approach. *PLoS One*. 18 (3) : e0282868, 2023, (DOI:10.1371/journal.pone.0282868)
23. Iwamura R, Iwamura R, Komatsu K, Kusano M, Kubo C, Inaba Y, Shiba E, Nawata A, Tajiri R, Matsuyama A, Matoba H, Koga K, Takeda M, Itami H, Hisaoka M : PDGFRB and NOTCH3 Mutations are Detectable in a Wider Range of Pericytic Tumors. *Mod Pathol*. 36 (3) : 100070, 2023, (DOI:https://doi.org/10.1016/j.modpat.2022.100070)

VII. 1. 27 放射線診断科

1. Yoshimura S, Sakai N, Yamagami H, Uchida K, Beppu M, Toyoda K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Kimura K, Takeuchi M, Yazawa Y, Kimura N, Shigeta K, Imamura H, Suzuki I, Enomoto Y, Tokunaga S, Morita K, Sakakibara F, Kinjo N, Saito T, Ishikura R, Inoue M, Morimoto T : Endovascular Therapy for Acute Stroke with a Large Ischemic Region. *N Engl J Med.* 386 (14) : 1303-1313, 2022, (DOI:10.1056/NEJMoa2118191)
2. Ishikawa S, Ando K, Katakami T, Kawamoto M : Cervical cord lesions in Wernicke's encephalopathy. *Radiol Case Rep.* 17 (7) : 2424-2427, 2022, (DOI:10.1016/j.radcr.2022.04.004)
3. Abe K, Ando K, Kato M, Saitsu M, Nakashima M, Aoki S, Kimura T : A New Case With Cortical Malformation Caused by Biallelic Variants in LAMC3. *Neurol Genet.* 8 (3) : e680, 2022, (DOI:10.1212/NXG.0000000000000680)
4. 金尾昌太郎 : 特集 1 地力が伸ばせる乳房 MRI 診断 乳房 MRI 造影以外のシーケンスの活用法. *臨床画像* 38 (10) : 1150-1165, 2022, (DOI:https://doi.org/10.18885/CI.0000001035)
5. Uchida K, Shindo S, Yoshimura S, Toyoda K, Sakai N, Yamagami H, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Kimura K, Ishikura R, Yoshida A, Inoue M, Beppu M, Sakakibara F, Shirakawa M, Morimoto T : Association Between Alberta Stroke Program Early Computed Tomography Score and Efficacy and Safety Outcomes With Endovascular Therapy in Patients With Stroke From Large-Vessel Occlusion: A Secondary Analysis of the Recovery by Endovascular Salvage for Cerebral Ultra-acute Embolism-Japan Large Ischemic Core Trial (RESCUE-Japan LIMIT). *JAMA Neurol.* 79 (12) : 1260-1266, 2022, (DOI:10.1001/jamaneurol.2022.3285)
6. Onishi Y, Shimizu H, Oka S, Taniguchi T, Kawahara S, Ishisaka Y, Isoda H, Nakamoto Y, : Transcatheter arterial embolization for subcapsular hematoma of the liver. *Abdominal Radiology.* 48 (2) : 765-772, 2023, (DOI:10.1007/s00261-022-03732-w)
7. Watanabe M, Ashida R, Miyakoshi C, Arizono S, Suga T, Kanao S, Kitamura K, Ogawa T, Ishikura R : Prognostic analysis of curatively resected pancreatic cancer using harmonized positron emission tomography radiomic features. *Eur J Hybrid Imaging.* 7 (1) : 5, 2023, (DOI:10.1186/s41824-023-00163-8)
8. 岡祥次郎 : 第 7 回日本穿刺ドレナージ研究会参加見聞記. *Rad Fan* 20 (10) : 75-76, 2022
9. Oka S, Yoshida S, Yoshida K, Oka S, Kinoshita M, Koyama T : Thoracic endovascular aortic repair for traction-induced aortic avulsion injury in neurofibromatosis type 1. *J Vasc Surg Cases Innov Tech.* 8 (4) : 726-728, 2022, (DOI:10.1016/j.jvscit.2022.10.006)
10. Oka S : 分枝塞栓、preloading Coil in Plug Technique にてステアリングマイクロカテーテルが活躍した右内腸骨動脈瘤の 1 例. *Leonis Mova Case report* 23, 2022
11. Someya Y, Iima M, Imai H, Yoshizawa A, Kataoka M, Isoda H, Le Bihan Denis, Nakamoto Y : Investigation of breast cancer microstructure and microvasculature from time-dependent DWI and CEST in correlation with histological biomarkers. *Sci Rep.* 12 (1) : 6523, 2022, (DOI:10.1038/s41598-022-10081-7)
12. 染矢祐子, 磯田裕義, 中本裕士 : 4 章 腹部 (2) 胆嚢 : 限局性壁肥厚. 画像でみかける偶発的所見のマネジメント 2022 -あなたならどう書く? 画像診断 2022 年増刊号 42 (11) : A106-107, 2022

VII. 1. 28 放射線治療科

1. Matsuo Y, Hiraoka M, Karasawa K, Kokubo M, Sakamoto T, Mukumoto N, Nakamura M, Morita S, Mizowaki T : Multi-institutional phase II study on the safety and efficacy of dynamic tumor tracking-stereotactic body radiotherapy for lung tumors. *Radiother Oncol.* 172 : 18-22, 2022, (DOI:10.1016/j.radonc.2022.04.028)
2. Harada H, Omori S, Mori K, Konno M, Murakami H, Imagumbai T, Fukuda H, Nakamatsu K, Kimura T, Tanabe T, Fujita T, Tatebe H, Fujitaka K, Nishimura Y : Multi-institution feasibility study of intensity-modulated radiotherapy with chemotherapy for locally advanced non-small cell lung cancer. *International Journal of Clinical Oncology.* 27 (6) : 1025-1033, 2022, (DOI:10.1007/s10147-022-02151-7)
3. Sugimoto T, Fujimoto D, Sato Y, Tamiya M, Yokoi T, Taniguchi A, Hino A, Hata A, Uchida J, Fukuda Y, Hara S, Kanazu M, Matsumoto H, Kokubo M, Yamamoto N : Prospective multicenter cohort study of durvalumab for patients with unresectable stage III non-small cell lung cancer and Grade 1 radiation pneumonitis. *Lung Cancer.* 171 : 3-8, 2022, (DOI:10.1016/j.lungcan.2022.07.005)

4. Iwai T, Imagumbai T, Okabayashi S, Ashida R, Mitsuyoshi T, Tai Y, Matsumoto T, Yamashita D, Nagano T, Kokubo M : Perianal Bowen's disease treated with radiotherapy preserving anal function with a unique skin reaction considered as 'tumoritis': A case report. *Int Cancer Conference J.* 12 (1) : 86, 2022, (DOI:10.1007/s13691-022-00574-7)
5. Kishi N, Matsuo Y, Shintani T, Ogura M, Mitsuyoshi T, Araki N, Fujii K, Okumura S, Nakamatsu K, Kishi T, Atsuta T, Sakamoto T, Ohtsu S, Katagiri T, Narabayashi M, Fujishiro S, Iizuka Y, Ozasa H, Hirai T, Mizowaki T, Kyoto Radiation Oncology Study Group (KROSG) : Recurrence patterns and progression-free survival after chemoradiotherapy with or without consolidation durvalumab for stage III non-small cell lung cancer. *Journal of Radiation Research.* 64 (1) : 142-153, 2023, (DOI:https://doi.org/10.1093/jrr/trac057)
6. Kawamura H, Nakamura K, Yoshioka Y, Itasaka S, Tomita N, Onishi M, Iwata H, Aizawa T, Kikuchi K, Nagata K, Nakamura K, Nishioka K, Ishiyama H, Ueno S, Kokubo M, Yamazaki H, Watanabe K, Toyoda T, Akimoto T;JROSG Working Subgroup of Urologic Oncology : Radiotherapy for ductal carcinoma of the prostate: an analysis based on the Japanese Radiation Oncology Study Group survey. *Jap J Clin Oncol.* 53 (2) : 146-152, 2023, (DOI:10.1093/jjco/hyac180)
7. Mitsuyoshi T, Ono Y, Ashida R, Yamashita M, Tanabe H, Takebe S, Tokiwa M, Suzuki E, Imagumbai T, Yoshimura M, Yamauchi C, Mizowaki T, Kokubo M : Multi-institutional phase II study of ultra-hypofractionated whole-breast irradiation after breast-conserving surgery for breast cancer in Japan: Kyoto Radiation Oncology Study Group (UPBEAT study). *Jap J Clin Oncol.* 53 (2) : 174-178, 2023, (DOI:10.1093/jjco/hyac174)
8. Iizuka Y, Hiraoka M, Kokubo M, Sakamoto T, Karasawa K, Murofushi K, Nakamura M, Matsuo Y, Morita S, Inokuchi H, Mizowaki T : Dynamic tumor-tracking stereotactic body radiotherapy with real-time monitoring of liver tumors using a gimbal-mounted linac: A multi-institutional phase II study. *Clinical and Translational Radiation Oncology* 39 : 100591, 2023, (DOI:10.1016/j.ctro.2023.100591)
9. Watanabe M, Ashida R, Miyakoshi C, Arizono S, Suga T, Kanao S, Kitamura K, Ogawa T, Ishikura R : Prognostic analysis of curatively resected pancreatic cancer using harmonized positron emission tomography radiomic features. *European Journal of Hybrid Imaging.* 7 (1) : 5, 2023, (DOI:10.1186/s41824-023-00163-8)

VII. 1. 29 救急科

1. 許 智栄 : <連載> ● Dr 許 (ホ) の 5M アプローチで学ぶ高齢者救急キホンのキ 高齢患者の Medication. *Emer-Log (エマログ)* 2022 年 3 号 35 (3) : 112-118 (416-421), 2022
2. Mizu D, Matsuoka Y, Huh JY, Kamitani Y, Fujiwara S, Ariyoshi K : The necessity of lumbar puncture in adult emergency patients with fever-associated seizures. *The American Journal of Emergency Medicine.* 58 : 120-125, 2022
3. 栗田聖也, 松岡由典, 木下裕規, 有吉孝一 : 眼周囲外傷に対する救急診療の現状報告 : 記述研究. *日本救急医学会雑誌* 33 : 282, 2022
4. 許 智栄 : 【連載】 ● Dr 許の 5M アプローチで学ぶ 高齢者救急キホンのキ 高齢患者の Mind. *Emer-Log (エマログ)* 2022 年 4 号 35 (4) : 122-127 (570-575), 2022
5. 許 智栄 : 【連載】 ● Dr. 許の 5M アプローチで学ぶ 高齢者救急キホンのキ 高齢者の Multimorbidity. *Emer-Log (エマログ)* 2022 年 5 号 35 (5) : 101-106 (701-706), 2022
6. 許 智栄 : 【連載】 ● Dr. 許の 5M アプローチで学ぶ 高齢者救急キホンのキ FINAL 高齢者の Matters Most-最も大切にしたいこと. *Emer-Log (エマログ)* 2022 年 6 号 35 (6) : 107-114 (843-849), 2022
7. Namikata Y, Matsuoka Y, Ito J, Seo R, Hijikata Y, Itaya T, Ouchi K, Nishida H, Yamamoto Y, Ariyoshi K : Association between ICU admission during of-hours and in-hospital mortality: a multicenter registry in Japan. *Journal of Intensive Care.* 10 (1) : 41, 2022, (DOI:10.1186/s40560-022-00634-3)
8. 神谷侑画, 松岡由典, 水 大介, 浅香葉子, 有吉孝一 : 救急外来における小児魚骨異物症例の臨床的特徴. *日本救急医学会誌* 33 : 1033-1038, 2022
9. Tanaka A, Huh JY, Yamamoto T, Washio K, Ariyoshi K : Bowel obstruction secondary to internal hernia in a hereditary angioedema patient: a case report *International. Journal of Emergency Medicine.* 15 (1) : 69, 2022, (DOI:10.1186/s12245-022-00475-9)

10. 許 智栄, 有吉孝一: 急性中毒温故知新: 過去の中毒事案を振り返る (第 13 回) 連続青酸保険金殺人事件, 中毒研究 35 (4): 329-333, 2022
11. 浅香葉子, 伊藤次郎, 伊原崇晃, 大内謙二郎, 大西理史, 神谷侑画, 木下裕規, 栗林真悠, 坂谷朋子, 佐竹悠良, 嶋田博樹, 朱 祐珍, 白川和宏, 瀬尾龍太郎, 土田高裕, 寺本昇生, 西田晴香, 野浪 豪, 林 卓郎, 許 智栄, 松岡由典, 水 大介, 宮本将太, 三好祐輔, 柳井真知: 神戸中央市民 ER・ICU メソッド一診療 PDF マニュアル付き, 有吉孝一, 瀬尾龍太郎, 許 智栄, 水 大介編, 第一版, メディカ出版, 大阪, 2-405, 2023
12. 有吉孝一: 2 章 -D: 産業用品 -4. メタノール. jmed 84 ジェネラリストはここを押さえる! 日常生活に潜む急性中毒 24 の対処法, 日本医事新報社, 東京, 115-119, 2023

VII. 1. 30 感染症科

1. Kuroda H, Nishioka H: Talaromyces marneffei Detected in the Peripheral Blood Smear of an Immunocompetent Individual. *Am J Trop Med Hyg.* 106 (6): 1577-1578, 2022, (DOI:10.4269/ajtmh.21-1278)
2. Shimizu H, Yamamoto H, Hiramoto N, Nishioka H: Pulmonary Tuberculosis Accompanied by Pure Red Cell Aplasia and Autoimmune Hemolytic Anemia. *Am J Trop Med Hyg.* 106 (6): 1624-1626, 2022, (DOI:10.4269/ajtmh.21-0986)
3. 田口宏和, 藤田将平, 山下大祐, 清水祐里, 大村浩一郎, 西岡弘晶: 特集 高齢者の内分泌疾患 ホルモンの病気を見逃さないために 症例報告 画像検査や身体所見で異常を認めず側頭動脈生検で巨細胞性動脈炎と診断できた高齢者不明熱の 1 例. *日本老年医学会雑誌* 59 (2): 233-236, 2022, (DOI:https://doi.org/10.3143/geriatrics.59.233)
4. Oka H, Sumitomo S, Shimizu H, Kanamori M, Yamashita D, Nishioka H, Ohmura K: A case of Aortoduodenal Fistula caused by IgG4-related Periaortitis. *Mod Rheumatol Case Rep.* 7 (1): 188-191, 2023, (DOI:10.1093/mrcr/rxac051)
5. Shimizu H, Hashimura T, Nishioka H: Dactylitis from Mycobacterium intracellulare infection. *Cleve Clin J Med.* 89 (7): 360-362, 2022, (DOI:10.3949/ccjm.89a.21067)
6. Umemoto D, Sumitomo S, Fujita S, Shimizu H, Oka H, Kanamori M, Nishioka H, Ohmura K: Four Cases of Dermatomyositis with Abnormally High Anti-MDA-5 Antibody Titers and not High Levels of Serum Ferritin. *Mod Rheumatol Case Rep.* 7 (1): 96-101, 2023, (DOI:10.1093/mrcr/rxac053)
7. Minamii T, Shimizu H, Irie K, Nishioka H: Encephalopathy induced by high levels of ceftriaxone in the blood and cerebrospinal fluid. *IDCases.* 29: e01581, 2022, (DOI:10.1016/j.idcr.2022.e01581)
8. Doi A, Iwata K, Nakamura T, Oh K, Isome K, Hasegawa K, Kuroda H, Hasuike T, Seo R, Kosai H, Nakanishi N, Nomoto R, Fujiyama R, Kusunoki N, Iwamoto T, Nishioka H, Tomii K, Kihara Y: Clinical outcomes of COVID-19 caused by the Alpha variant compared with one by wild type in Kobe, Japan. A multi-center nested case-control study. *J Infect Chemother.* 29 (3): 289-293, 2022, (DOI:10.1016/j.jiac.2022.11.014)
9. Maegawa K, Nishioka H: COVID-19-associated parotitis and sublingual gland sialadenitis. *BMJ Case Rep.* 15 (12): e251730, 2022, (DOI:10.1136/bcr-2022-251730)
10. Oka H, Sumitomo S, Shimizu H, Kanamori M, Murata S, Yamashita D, Okada T, Nishioka H, Ohmura K: A case of anti-synthetase syndrome who relapsed with pulmonary arterial hypertension and malignancy. *Internal Medicine*, 2023, (DOI:10.2169/internalmedicine.1275-22)
11. Hasegawa K, Doi A, Kuroda H, Hasuike T, Ogura A, Nasu S, Nishioka H, Tomii K: A Pseudo-outbreak of COVID-19 Associated Pulmonary aspergillosis 2 A Microbiological Investigation of Both the Patients and the Environment. *Journal of Infection Prevention.* 24 (2): 83-88, 2023, (DOI:10.1177/17571774231152721)
12. Sakata N, Nishioka H: Strawberry tongue in Yersinia pseudotuberculosis infection. *QJM.* 116 (6): 447-448, 2023, (DOI:10.1093/qjmed/hcad009)
13. Haruna K, Shiota S, Nishioka H: Polymyalgia Rheumatica (PMR) Lacking Shoulder Pain Following COVID-19 Vaccination. *Cureus.* 15 (2): e34714, 2023, (DOI:10.7759/cureus.34714)
14. Nishioka H, Fujii M: Granulocyte Colony-stimulating Factor-associated Aortitis. *Intern Med*, 2023, (DOI:https://doi.org/10.2169/internalmedicine.1357-22)
15. 西岡弘晶: 第 5 章 病態栄養と栄養療法 3. 呼吸器疾患 ②誤嚥性肺炎. 病態栄養専門管理士のための病態栄養ガイドブック, 日本病態栄養学会編, 改訂第 7 版, 南江堂, 東京, 223-227, 2022

16. 山本 大, 土井朝子: 特集【どうする!? 突然の感染症対応 外来患者も入院患者も】【症状から考える感染症マネジメント】尿路症状と感染症. 内科 130 (6): 1051-1054, 2022
17. 黒田浩一: 特集 抗菌薬、その理由 もう疑義照会・処方提案で失敗しない! 推論に挑め 抗菌薬、その理由. 処方を読み解くために 総論 治療プロセス. 薬局 73 (5): 1598-1605, 2022
18. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第 18 回グラム陽性桿菌編 (3). J-IDEO 6 (4): 601-607, 2022
19. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第 19 回グラム陽性桿菌編 (4). J-IDEO 6 (5): 794-800, 2022
20. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第 20 回グラム陽性桿菌編 (5). J-IDEO 7 (1): 30-37, 2023
21. 西原悠二, 池垣俊吉, 大川直紀, 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions—調べたことは共有して、みんなで賢くなる— (9) Lactobacillus の薬剤感受性について、周術期抗菌薬を延長投与すべき術式はどのようなものがあるか? 血液培養で連鎖球菌が検出された場合にフォローアップ血液培養は必要か? J-IDEO 6 (3): 475-483, 2022
22. 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions—調べたことは共有して、みんなで賢くなる— (10) 人工呼吸器関連肺炎の経験的治療の決定において気管内吸引痰のグラム染色は有用か? J-IDEO6 (4): 611-613, 2022
23. 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions—調べたことは共有して、みんなで賢くなる— (11) 敗血症患者に対して 1 時間以内に抗菌薬を投与すべきか? J-IDEO 6 (5): 820-823, 2022
24. 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions—調べたことは共有して、みんなで賢くなる— (12) 重度の腎機能障害のある COVID-19 患者に対してレムデシビルは使用可能か? 投与量は? J-IDEO 6 (6): 1010-1013, 2022
25. 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions—調べたことは共有して、みんなで賢くなる— (13) 人工呼吸器関連肺炎の治療期間が 7 日を超えて必要なのはどのような状況か? J-IDEO7 (1): 99-101, 2023
26. 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions—調べたことは共有して、みんなで賢くなる— (14) HIV 感染者以外の免疫不全者におけるニューモシスチス肺炎に、高用量の ST 合剤は必要か? J-IDEO7 (2): 256-259, 2023
27. 黒田浩一: 成人の軽症・中等症 COVID-19 に対する薬物治療. KANSEN JOURNAL 93, 2022
28. 黒田浩一: 特集 COVID-19 パンデミック 振り返りと将来への備え 【COVID-19 診療・対策振り返り編—新型コロナウイルスが教えてくれたこと】—臨床①感染症専門医—COVID-19 流行が浮き彫りにした臨床現場の 3 つの問題. 総合診療 33 (1): 24-29, 2023, (DOI: <https://doi.org/10.11477/mf.1429204107>)
29. 進藤達哉, 黒田浩一: 特集: 高齢者が「風邪を引いた」と言ってきたら—コロナ禍におけるかぜ診療—. 週刊日本医事新報 5144: 18, 2022
30. 氏家無限, 大曲貴夫, 忽那賢志, 黒田浩一, 櫻井亜樹, 佐村 優, 高園貴弘, 谷口俊文, 土井洋平, 西 圭史, 早川佳代子, 藤田崇宏, 松元一明: COVID-19 に対する薬物治療の考え方 第 15.1 版. 一般社団法人日本感染症学会 COVID-19 治療薬タスクフォース, 2023
31. Masumoto A, Kitai T, Matsumoto S, Kuroda S, Kohsaka S, Tachikawa R, Seo R, Doi A, Tomii K, Yonetsu T, ShoTorii S, Komuro I, Hirata K, Node K, Matsue Y, Furukawa Y: Impact of serum lactate dehydrogenase on the short-term prognosis of COVID-19 with pre-existing cardiovascular diseases. Journal of Cardiology. 79 (4): 501-508, 2022

VII. 1. 31 総合内科

1. Kuroda H, Nishioka H: Talaromyces marneffei Detected in the Peripheral Blood Smear of an Immunocompetent Individual. Am J Trop Med Hyg. 106 (6): 1577-1578, 2022, (DOI:10.4269/ajtmh.21-1278)
2. Shimizu H, Yamamoto H, Hiramoto N, Nishioka H: Pulmonary Tuberculosis Accompanied by Pure Red Cell Aplasia and Autoimmune Hemolytic Anemia. Am J Trop Med Hyg. 106 (6): 1624-1626, 2022, (DOI:10.4269/ajtmh.21-0986)

3. 田口宏和, 藤田将平, 山下大祐, 清水祐里, 大村浩一郎, 西岡弘晶 : 特集 高齢者の内分泌疾患 ホルモンの病気を見逃さないために 症例報告 画像検査や身体所見で異常を認めず側頭動脈生検で巨細胞性動脈炎と診断できた高齢者不明熱の1例. 日本老年医学会雑誌 59 (2) : 233-236, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.3143/geriatrics.59.233>)
4. Oka H, Sumitomo S, Shimizu H, Kanamori M, Yamashita D, Nishioka H, Ohmura K : A case of Aortoduodenal Fistula caused by IgG4-related Periaortitis. *Mod Rheumatol Case Rep.* 7 (1) : 188-191, 2023, (DOI:[10.1093/mrcr/rxac051](https://doi.org/10.1093/mrcr/rxac051))
5. Shimizu H, Hashimura T, Nishioka H : Dactylitis from Mycobacterium intracellulare infection. *Cleve Clin J Med.* 89 (7) : 360-362, 2022, (DOI:[10.3949/ccjm.89a.21067](https://doi.org/10.3949/ccjm.89a.21067))
6. Shirota H, Katoh D, Shimomura Y, Imai Y, Ishikawa T : Extramedullary relapse of acute myeloid leukemia in brachial plexus after allogeneic stem cell transplantation: a case report. *BMC Neurology.* 22 (1) : 241, 2022, (DOI:[10.1186/s12883-022-02768-1](https://doi.org/10.1186/s12883-022-02768-1))
7. Umemoto D, Sumitomo S, Fujita S, Shimizu H, Oka H, Kanamori M, Nishioka H, Ohmura K : Four Cases of Dermatomyositis with Abnormally High Anti-MDA-5 Antibody Titers and not High Levels of Serum Ferritin. *Mod Rheumatol Case Rep.* 7 (1) : 96-101, 2023, (DOI:[10.1093/mrcr/rxac053](https://doi.org/10.1093/mrcr/rxac053))
8. Minamii T, Shimizu H, Irie K, Nishioka H : Encephalopathy induced by high levels of ceftriaxone in the blood and cerebrospinal fluid. *IDCases.* 29 : e01581, 2022, (DOI:[10.1016/j.idcr.2022.e01581](https://doi.org/10.1016/j.idcr.2022.e01581))
9. Doi A, Iwata K, Nakamura T, Oh K, Isome K, Hasegawa K, Kuroda H, Hasuike T, Seo R, Kosai H, Nakanishi N, Nomoto R, Fujiyama R, Kusunoki N, Iwamoto T, Nishioka H, Tomii K, Kihara Y : Clinical outcomes of COVID-19 caused by the Alpha variant compared with one by wild type in Kobe, Japan. A multi-center nested case-control study. *J Infect Chemother.* 29 (3) : 289-293, 2022, (DOI:[10.1016/j.jiac.2022.11.014](https://doi.org/10.1016/j.jiac.2022.11.014))
10. Maegawa K, Nishioka H : COVID-19-associated parotitis and sublingual gland sialadenitis. *BMJ Case Rep.* 15 (12) : e251730, 2022, (DOI: [10.1136/bcr-2022-251730](https://doi.org/10.1136/bcr-2022-251730))
11. Oka H, Sumitomo S, Shimizu H, Kanamori M, Murata S, Yamashita D, Okada T, Nishioka H, Ohmura K : A case of anti-synthetase syndrome who relapsed with pulmonary arterial hypertension and malignancy. *Internal Medicine,* 2023, (DOI:[10.2169/internalmedicine.1275-22](https://doi.org/10.2169/internalmedicine.1275-22))
12. Hasegawa K, Doi A, Kuroda H, Hasuike T, Ogura A, Nasu S, Nishioka H, Tomii K : A Pseudo-outbreak of COVID-19 Associated Pulmonary aspergillosis 2 A Microbiological Investigation of Both the Patients and the Environment. *Journal of Infection Prevention.* 24 (2) : 83-88, 2023, (DOI:[10.1177/17571774231152721](https://doi.org/10.1177/17571774231152721))
13. Sakata N, Nishioka H : Strawberry tongue in Yersinia pseudotuberculosis infection. *QJM.* 116 (6) : 447-448, 2023, (DOI:[10.1093/qjmed/hcad009](https://doi.org/10.1093/qjmed/hcad009))
14. Haruna K, Shirota S, Nishioka H : Polymyalgia Rheumatica (PMR) Lacking Shoulder Pain Following COVID-19 Vaccination. *Cureus.* 15 (2) : e34714, 2023, (DOI:[10.7759/cureus.34714](https://doi.org/10.7759/cureus.34714))
15. Nishioka H, Fujii M : Granulocyte Colony-stimulating Factor-associated Aortitis. *Intern Med,* 2023, (DOI:<https://doi.org/10.2169/internalmedicine.1357-22>)
16. 西岡弘晶 : 第5章 病態栄養と栄養療法 3. 呼吸器疾患 ②誤嚥性肺炎. 病態栄養専門管理士のための病態栄養ガイドブック, 日本病態栄養学会編, 改訂第7版, 南江堂, 東京, 223-227, 2022
17. 志水隼人, 大村浩一郎 : 特集 全身性エリテマトーデスー診断・治療の最新動向ー III.SLE の治療に用いられる薬剤 5. ベリムマブの適応. *日本臨床* 80 (5) : 885-891, 2022
18. 山本 大, 土井朝子 : 特集【どうする! ? 突然の感染症対応 外来患者も入院患者も】【症状から考える感染症マネジメント】 尿路症状と感染症. *内科* 130 (6) : 1051-1054, 2022
19. 黒田浩一 : 特集 抗菌薬、その理由 もう疑義照会・処方提案で失敗しない! 推論に挑め 抗菌薬、その理由. 処方を読み解くために 総論 治療プロセス. *薬局* 73 (5) : 1598-1605, 2022
20. 黒田浩一 : 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第18回グラム陽性桿菌編 (3). *J-IDEO* 6 (4) : 601-607, 2022
21. 黒田浩一 : 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第19回グラム陽性桿菌編 (4). *J-IDEO* 6 (5) : 794-800, 2022
22. 黒田浩一 : 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第20回グラム陽性桿菌編 (5). *J-IDEO* 7 (1) : 30-37, 2023

23. 西原悠二, 池垣俊吉, 大川直紀, 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions—調べたことは共有して, みんなで賢くなるろう— (9) Lactobacillus の薬剤感受性について, 週術期抗菌薬を延長投与すべき術式はどのようなものがあるか? 血液培養で連鎖球菌が検出された場合にフォローアップ血液培養は必要か? J-IDEO 6 (3): 475-483, 2022
24. 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions—調べたことは共有して, みんなで賢くなるろう— (10) 人工呼吸器関連肺炎の経験的治療の決定において気管内吸引痰のグラム染色は有用か? J-IDEO6 (4): 611-613, 2022
25. 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions—調べたことは共有して, みんなで賢くなるろう— (11) 敗血症患者に対して1時間以内に抗菌薬を投与すべきか? J-IDEO 6 (5): 820-823, 2022
26. 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions—調べたことは共有して, みんなで賢くなるろう— (12) 重度の腎機能障害のある COVID-19 患者に対してレムデシビルは使用可能か? 投与量は? J-IDEO 6 (6): 1010-1013, 2022
27. 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions—調べたことは共有して, みんなで賢くなるろう— (13) 人工呼吸器関連肺炎の治療期間が7日を超えて必要なのはどのような状況か? J-IDEO7 (1): 99-101, 2023
28. 黒田浩一: 駆け出し感染症内科医の Clinical Questions—調べたことは共有して, みんなで賢くなるろう— (14) HIV 感染者以外の免疫不全者におけるニューモシスチス肺炎に, 高用量の ST 合剤は必要か? J-IDEO7 (2): 256-259, 2023
29. 黒田浩一: 成人の軽症・中等症 COVID-19 に対する薬物治療. KANSEN JOURNAL 93, 2022
30. 黒田浩一: 特集 COVID-19 パンデミック 振り返りと将来への備え 【COVID-19 診療・対策振り返り編】新型コロナウイルスが教えてくれたこと】臨床感染専門医【COVID-19 流行が浮き彫りにした臨床現場の3つの問題. 総合診療 33 (1): 24-29, 2023, (DOI: <https://doi.org/10.11477/mf.1429204107>)
31. 進藤達哉, 黒田浩一: 特集: 高齢者が「風邪を引いた」と言ってきたら—コロナ禍におけるかぜ診療—. 週刊日本医事新報 5144: 18, 2022
32. 氏家無限, 大曲貴夫, 忽那賢志, 黒田浩一, 櫻井亜樹, 佐村 優, 高園貴弘, 谷口俊文, 土井洋平, 西 圭史, 早川佳代子, 藤田崇宏, 松元一明: COVID-19 に対する薬物治療の考え方 第15.1版. 一般社団法人日本感染症学会 COVID-19 治療薬タスクフォース, 2023
33. Masumoto A, Kitai T, Matsumoto S, Kuroda S, Kohsaka S, Tachikawa R, Seo R, Doi A, Tomii K, Yonetsu T, ShoTorii S, Komuro I, Hirata K, Node K, Matsue Y, Furukawa Y: Impact of serum lactate dehydrogenase on the short-term prognosis of COVID-19 with pre-existing cardiovascular diseases. Journal of Cardiology. 79 (4): 501-508, 2022

VIII. 1. 32 看護部

1. 若林侑起:【特集】【1】実習・臨床で出会っても困らない せん妄 イメージできる! ケアがわかる! (解説). Nursing Canvas 10 (6): 18-71, 2022
2. 藤田冬子, 鶴屋邦江, 花房由美子: 侵襲的治療を受ける認知症高齢者の気持ちを安定に導くために老人看護専門看護師が用いる能力 (原著論文). 日本 CNS 看護学会誌 9: 17-24, 2022
3. 小倉明子: 特集 感染対策成功のための皮膚の清潔・健康管理 感染対策成功のための皮膚の清潔・健康管理 ■医療従事者の手指の清潔・健康管理 (3) 手指衛生遵守率向上の観点からの手指消毒剤選択 (解説). 感染対策 ICT ジャーナル 17 (4): 318-323, 2022
4. 若林侑起: PICS 大全「ICU 退室後」までを見据えたケア 重症呼吸不全患者の看護のコツ 3. 睡眠障害 ICU サバイバーに残る睡眠障害のホントのところ (解説). ICNR 9 (3): 24-29, 2022
5. 若林侑起: 特集1 クリティカル領域における緩和ケア—身体・精神症状からメンタルヘルスまで— ● Part 5 事例で学ぶ クリティカル領域における「緩和ケア」 (1) ICU 入室後に「せん妄」を発症した患者への緩和ケア (解説). 看護技術 68 (9): 867-870, 2022
6. 若林侑起: 特集輸液の "なぜ?" がよくわかる! ナースのための「水・電解質」水・電解質を調節する主役 "腎臓" (解説). 月刊ナーシング 42 (13): 24-29, 2022
7. Ishihara I, Ishihara I, Inagaki S, Osawa A, Umeda S, Hanafusa Y, Morita S, Maruyama H: Effects of an ethics education program on nurses' moral efficacy in an acute health care facility (original paper). Journal of Nursing Management. 30 (7): 2207-2215, 2022

8. 若林侑起：特集輸液の "なぜ?" がよくわかる！ナースのための「水・電解質」身体の中にある "水" (解説). 月刊ナーシング 42 (13) : 30-43, 2022
9. 若林侑起：特集輸液の "なぜ?" がよくわかる！ナースのための「水・電解質」輸液療法 (解説). 月刊ナーシング 42 (13) : 44-53, 2022
10. 若林侑起：特集輸液の "なぜ?" がよくわかる！ナースのための「水・電解質」電解質異常 (解説). 月刊ナーシング 42 (13) : 54-74, 2022
11. 橋本涼加, 山本陽子, 畑由紀子, 古賀将平, 丸山浩枝, 清水千香, 二宮啓子：アドレナリン自己注射 (エビペン[®]) を使用する際の判断に関連する幼児後期の子どもをもつ親の思い (研究報告)：神戸市看護大学紀要 26 : 37-45, 2022
12. 新改法子, 大西香代子, 矢野久子：国内発生初期に感染症病棟で新型コロナウイルス感染症に院内感染し職場復帰できた看護師の思い-感染する前から感染判明後しばらくの間に抱いた思いに焦点をあてて (原著論文). 日本看護科学学会誌 42 (1) : 72-80, 2022
13. 若林侑起, 江川幸二：集中治療室に緊急入院した患者が回復意欲を実感していくプロセス (原著論文). 日本看護科学学会誌 42 (1) : 717-725, 2022
14. 若林侑起：【特集】血液ガスって何だっけ?! Nursing2023 年春号 43 (4) : 12-93, 2023

VII. 1. 33 薬剤部

1. Hirabatake M, Mizuno T, Kato K, Hashida T : Everolimus pharmacokinetics and exposure-response relationship in Japanese patients with advanced breast cancer. *Front Pharmacol.* 13 : 984002, 2022, (DOI:10.3389/fphar.2022.984002)
2. Hirabatake M, Ikesue H, Iwama Y, Irie K, Yoshino S, Yamasaki T, Hashida T, Kawakita M, Muroi N : Pharmacist-urologist collaborative management improves clinical outcomes in patients with castration-resistant prostate cancer receiving enzalutamide. *Front Pharmacol.* 13 : 901099, 2022, (DOI:10.3389/fphar.2022.901099)
3. Takase T, Tsugawa N, Sugiyama T, Ikesue H, Eto M, Hashida T, Tomii K, Muroi N : Association between 25-hydroxyvitamin D levels and COVID-19 severity in Japanese patients. *Clinical Nutrition ESPEN.* 49 : 256-263, 2022, (DOI:10.1016/j.clnesp.2022.04.003)
4. Takase T, Masumoto N, Shibatani N, Matsuoka Y, Tanaka F, Hirabatake M, Kashiwagi H, Nishioka I, Ikesue H, Hashida T, Koide N, Muroi N : Evaluating the safety and efficiency of robotic dispensing systems. *J Pharm Health Care Sci.* 8 : 24, 2022, (DOI:10.1186/s40780-022-00255-w)
5. Yamaoka K, Fujiwara M, Uchida M, Uesawa Y, Muroi N, Shimizu T : Comprehensive analysis of ixazomib-induced adverse events using the Japanese pharmacovigilance database. *Oncology.* 100 (7) : 413-418, 2022, (DOI:10.1159/000524806)
6. Yamaoka K, Fujiwara M, Uchida M, Uesawa Y, Muroi N, Shimizu T : Comprehensive analysis of adverse events induced by PARP inhibitors using JADER and time to onset. *Life.* 12 (9) : 1355, 2022, (DOI:10.3390/life12091355)
7. Hiya S, Fujiwara S, Tanaka F, Kohara N, Kawamoto M : High-dose immunoglobulin-dependent chronic demyelinating inflammatory polyneuropathy successfully managed with subcutaneous immunoglobulin using pharmacokinetic analysis. *eNeurologicalSci.* 27 : 100404, 2022, (DOI:10.1016/j.ensci.2022.100404)
8. Hasegawa S, Ikesue H, Satake R, Inoue M, Yoshida Y, Tanaka M, Matsumoto K, Wakabayashi W, Oura K, Muroi N, Hashida T, Iguchi K, Nakamura M : Osteonecrosis of the jaw caused by denosumab in treatment-naïve and pre-treatment with zoledronic acid groups: a time-to-onset study using the Japanese Adverse Drug Event Report (JADER) database. *Drugs - Real World Outcomes.* 9 (4) : 659-665, 2022, (DOI:10.1007/s40801-022-00324-4)
9. Irie K, Hiramoto N, Ishikawa T, Fukushima S : Use of liquid chromatography-tandem mass spectrometry for foscarnet quantification in human serum and cerebrospinal fluid. *Rapid Commun Mass Spectrom.* 36 (7) : e9255, 2022, (DOI:10.1002/rcm.9255)
10. Maeda A, Ando H, Irie K, Hashimoto N, Morishige JI, Fukushima S, Okada A, Ebi H, Matsuzaki M, Iwata H, Sawaki M : Effects of ABCB1 and ABCG2 polymorphisms on the pharmacokinetics of abemaciclib. *Eur J Clin Pharmacol.* 78 (8) : 1239-1247, 2022, (DOI:10.1007/s00228-022-03331-0)

11. Minamii T, Shimizu H, Irie K, Nishioka H : Encephalopathy induced by high levels of ceftriaxone in the blood and cerebrospinal fluid. *IDCases*. 29 : e01581, 2022, (DOI:10.1016/j.idcr.2022.e01581)
12. Tohi M, Irie K, Mizuno T, Okuyoshi H, Hirabatake M, Ikesue H, Muroi N, Eto M, Fukushima S, Tomii K, Hashida T : Population pharmacokinetics of nivolumab in Japanese real-world patients with non-small cell lung cancer. *Ther Drug Monitor*. 45 (1) : 110-116, 2023, (DOI:10.1097/FTD.0000000000000996)
13. Maeda A, Ando H, Irie K, Hashimoto N, Morishige JI, Fukushima S, Okada A, Ebi H, Matsuzaki M, Iwata H, Sawaki M : Effects of ABCB1 and ABCG2 polymorphisms on the pharmacokinetics of abemaciclib metabolites (M2, M20, M18). *Anticancer Res*. 43 (3) : 1283-1289, 2023, (DOI:10.21873/anticancer.16275)
14. Yamaoka K, Fujiwara M, Uchida M, Uesawa Y, Shimizu T : The influence of the rapid increase in the number of adverse event reports for COVID-19 vaccine on the disproportionality analysis using JADER. *In Vivo*. 37 (1) : 345-356, 2023, (DOI:10.21873/invivo.13085)
15. Fujiwara M, Uchida M, Endo M, Goto M, Shimizu T : Cardiac adverse events associated with multiple myeloma patients treated with proteasome inhibitors. *Oncology*. 101 (5) : 343-348, 2023, (DOI:10.1159/000529341)
16. 辻本 勉, 波多江崇, 奥貞 智, 富田里佳, 六車龍介, 黒田泰司, 恒吉慶子, 佐竹正子, 増本憲生 : 病院薬剤師および薬局薬剤師を対象としたインスリン皮下硬結の理解度と指導実態に関する調査. *くすりと糖尿病* 11 (2) : 61-71, 2022
17. 高瀬友貴, 津川尚子, 杉山峰是, 池末裕明, 江藤正明, 橋田 亨, 富井啓介, 室井延之 : 5. 疾患・予防・薬理作用 2- II -7. 血中 25-ヒドロキシビタミン D 濃度と COVID-19 重症化の関連. *ビタミン* 96 (12) : 187, 2022
18. 田村 亮, 吉廣尚大 : 徹底ガイド 急性血液浄化療法 - 研修医からの質問 276-IV. 急性血液浄化療法施行中の患者管理 29 IV. 急性血液浄化療法施行中の患者管理 血液浄化療法施行時の薬物投与. *救急・集中治療* 34 (4) : 1560-1567, 2023
19. 田村 亮 : 特集 1 緊急呼び出しで焦らないために ABCD から考える緊急・急変時の薬の使い方 ■ ABCD アプローチで見極める薬の使い方 ●心肺停止. *月刊薬事* 64 (15) : 55-62, 2022
20. 田村 亮 : ●特集 Generalist & Specialist を目指そう! 薬剤師業務の強化メソッド 連載 ●ジャーナルクラブの広場●【集中治療】重症低酸素血症を伴う成人 COVID-19 患者の生命維持装置非使用下における生存期間への効果 (デキサメタゾン 12 mg vs. 6 mg の比較). *月刊薬事* 64 (11) : 199-200, 2022
21. 橋田 亨, 木原康樹 : 特集 選定療養・評価療養制度のこれから ■高度医療をどのように医療制度の中で評価するのか 国家戦略特区の経験から考える最先端医療の費用負担の在り方. *病院* 81 (7) : 584-587, 2022, (DOI:https://doi.org/10.11477/mf.1541211718)
22. 池村 舞, 橋田 亨 : 総説 医療現場で活躍する薬剤師になるための研究活動のすすめ. *薬学教育* 6 : 2022-022, 2022, (DOI:10.24489/jjph.2022-022)
23. 池末裕明, 室井延之 : 特集 乳癌診療の最新の知識 薬剤師との協働によるがん薬物療法の安全性確保. *臨牀と研究* 99 (8) : 1011-1015, 2022
24. 入江 慶 : 誌上シンポジウム COVID-19 患者における抗ウイルス薬の薬物動態研究. *薬学雑誌 (YAKUGAKU ZASSHI)* 143 (3) : 239-241, 2023, (DOI:https://doi.org/10.1248/yakushi.22-00169-1)
25. 高瀬友貴, 室井延之 : 特集 職員・患者サービスの充実 ◎事例 3 自律搬送ロボット HOSPi の導入 - 積極的な活用で医療の発展向上につなげる. *医事業務* 29 (628) : 14-16, 2022
26. 高瀬友貴 : 第 2 章 絶対外せない 3 つの薬 3 入院患者の栄養療法. *月刊薬事臨時増刊号, 月刊薬事* 64(14) : 62-72, 2022
27. 増本憲生 : 【内分泌・代謝疾患】 13-1 2 型糖尿病. *薬剤師のための薬物療法問題集*, 安藝敬生, 浦上宗治, 齊藤順平, 辻 敏和, 鈴木貴明, 藤堂真紀, 野崎 歩, 馬場寛子, 濱口良彦, 古久保拓, 宮本康敬, 山田孝明, 若杉和美, 渡邊裕之編, じほう, 東京, 100-105, 2022
28. 入江 慶 : 抗がん薬 ホルモン療法薬 「①医薬品の特徴 (基本知識)」 (共通) 抗アンドロゲン薬. *臨床腫瘍薬学*, 日本臨床腫瘍薬学会編, 第 2 版, じほう, 東京, 251-254, 2022
29. 池末裕明 : 支持療法 その他 免疫関連有害事象 (irAE). *臨床腫瘍薬学*, 日本臨床腫瘍薬学会編, 第 2 版, じほう, 東京, 769-776, 2022
30. 池末裕明, 橋田 亨 : 抗悪性腫瘍薬・薬剤リスト編. *治療薬ハンドブック 2023 薬剤選択と処方のポイント*, 堀 正二, 菅野健太郎, 門脇 孝, 乾 賢一, 林 昌洋編, じほう, 東京, 1046-1173, 2023

31. 池末裕明：第2章 3 処方箋に基づく医薬品の調製 (4) ケミカルハザード. 薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2023年版, 一般社団法人薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 (監修), 日本病院薬剤師会近畿ブロック/日本薬剤師会大阪・近畿ブロック編, じほう, 東京, 98-199, 2023
32. 池末裕明：第2章 肺がん. がん化学療法レジメン管理マニュアル, 青山 剛, 池末裕明, 内田まやこ, 佐藤淳也, 高田慎也, 土屋雅美編, 第4版, 医学書院, 東京, 183, 2023
33. 池末裕明：第8章 頭頸部がん. がん化学療法レジメン管理マニュアル, 青山 剛, 池末裕明, 内田まやこ, 佐藤淳也, 高田慎也, 土屋雅美編, 第4版, 医学書院, 東京, 733, 2023
34. 吉野新太郎：第2章 II. 非小細胞肺癌 肺がん 29 ゲフィチニブ (イレッサ[®]) 30 エルロチニブ (タルセバ[®]) 31 アファチニブ (ジオトリフ[®]) 32 オシメルチニブ (タグリッソ[®]). がん化学療法レジメン管理マニュアル, 青山 剛, 池末裕明, 内田まやこ, 佐藤淳也, 高田慎也, 土屋雅美編, 第4版, 医学書院, 東京, 222-236, 2023

VII. 1. 34 臨床検査技術部

1. 吉田昌弘：特集 腸管感染症と食中毒 Up to date 話題—NEWS&TOPICS この先どうなる? どう変わる? 未来の治療 “CAR-T 細胞療法” とそのシステム管理. メディカルテクノロジー (MTJ) 50 (8) : 814-817, 2022
2. 鳥居裕太, 香原美咲, 岡田大司, 菅沼直生子, 山本 剛, 宮川祥治, 大畑淳子, 則政文子, 山本 駿, 中原千裕, 長野真弥, 井川彩加, 松岡京子, 森元加奈, 古川 裕 : 右室ストレインが有用であった COVID-19 罹患後の2例. 超音波検査技術 47 (3) 260-267, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.11272/jss.350>)
3. Wada F, Shimomura Y, Kamijo K, Yamashita D, Ohno A, Himeno M, Maruoka H, Hara S, Ishikawa T : Prognostic impact of CD38 expression in relapsed or refractory diffuse large B-cell lymphoma and follicular lymphoma transformation. *Leuk Lymphoma*. 63 (6) : 1484-1487, 2022
4. Nishikubo M, Shimomura Y, Maruoka H, Nasu S, Nishioka T, Sakizono K, Mitsuyuki S, Kubo T, Okada N, Nakagawa D, Kamijo K, Imoto H, Yamamoto R, Nagai Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Miyakoshi C, Doi A, Ishikawa T : Humoral response and safety of the BNT162b2 and mRNA-1273 COVID-19 vaccines in patients with haematological diseases treated with anti-CD20 antibodies: An observational study. *Br J Haematol*. 197 (6) : 709-713, 2022
5. Nishikubo M, Shimomura Y, Maruoka H, Nasu S, Nishioka T, Sakizono K, Mitsuyuki S, Kubo T, Okada N, Nakagawa D, Kamijo K, Imoto H, Yamamoto R, Nagai Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Miyakoshi C, Doi A, Ishikawa T : Humoral response and safety of the BNT162b2 and mRNA-1273 COVID-19 vaccines in allogeneic hematopoietic stem cell transplant recipients: An observational study. *J Infect Chemother*. 29 (3) : 274-280, 2023
6. Hasegawa K, Doi A, Kuroda H, Hasuike T, Ogura A, Nasu S, Nishioka H, Tomii K : A pseudo-outbreak of COVID-19 associated pulmonary aspergillosis a microbiological investigation of both the patients and the environment. *Journal of Infection Prevention*. 24 (2) : 83-88, 2023
7. Nishikubo M, Shimomura Y, Yamamoto R, Yoshioka S, Maruoka H, Nasu S, Nishioka T, Sakizono K, Mitsuyuki S, Kubo T, Okada N, Nakagawa D, Kamijo K, Imoto H, Nagai Y, Hiramoto N, Yonetani N, Kondo T, Miyakoshi C, Doi A, Ishikawa T : Humoral and cellular responses after COVID-19 booster vaccination in patients recently treated with anti-CD20 antibodies. *Journal of Infection and Chemotherapy*, 2022
8. Nishikubo M, Shimomura Y, Yamamoto R, Yoshioka S, Maruoka H, Nasu S, Nishioka T, Sakizono K, Mitsuyuki S, Kubo T, Okada N, Nakagawa D, Kamijo K, Imoto H, Nagai Y, Hiramoto N, Yonetani N, Kondo T, Miyakoshi C, Doi A, Ishikawa T : Humoral and cellular responses after COVID-19 booster vaccination in patients recently treated with anti-CD20 antibodies. *Blood Cancer Journal*. 13 (1) : 17, 2023

VII. 1. 35 放射線技術部

1. Tachibana H, Watanabe Y, Kurokawa S, Maeyama T, Hiroki T, Ikoma H, Hirashima H, Kojima H, Shiinoki T, Tanimoto Y, Shimizu H, Shishido H, Oka Y, Hirose T, Kinjo M, Morozumi T, Kurooka M, Suzuki H, Saito T, Fujita K, Shirata R, Inada R, Yada R, Yamashita M, Kondo K, Hanada T, Takenaka T, Usui K, Okamoto H, Asakura H, Notake R, Kojima T, Kumazaki Y, Hatanaka S, Kikumura R, Nakajima M, Nakada R, Suzuki R, Mizuno H, Kawamura S, Nakamura M, Akimoto T : Multi-Institutional Study of End-to-End Dose Delivery Quality Assurance Testing for Image-Guided Brachytherapy Using a Gel Dosimeter. *Brachytherapy*. 21 (6) : 956-967, 2022, (DOI:<https://doi.org/10.1016/j.brachy.2022.06.006>)

2. Mitsuyoshi T, Ono Y, Ashida R, Yamashita M, Tanabe H, Takebe S, Tokiwa M, Suzuki E, Imagumbai T, Yoshimura M, Yamauchi C, Mizowaki T, Kokubo M : Multi-institutional phaseII study of ultra-hypofractionated whole-breast irradiation after breast-conserving surgery for breast cancerin Japan : Kyoto Radiation Oncology Study Group (UPBEATstudy). *Japanese Journal of Clinical Oncology*. 53 (2) : 174-178, 2023, (DOI:https://doi.org/10.1093/jjco/hyac174)
3. Ohnishi A, Akamatsu G, Ikari Y, Nishida H, Shimizu K, Matsumoto K, Aita K, Sasaki M, Yamane T, Senda M: Dosimetry and efficacy of a tau PET tracer [18F]MK-6240 in Japanese healthy elderly and patients with Alzheimer's disease. *Ann Nucl Med*. 37 (2) : 108-120, 2023
4. 名定良祐, 平光由侑 : 特集 医療 AI の有効活用に向けて 社会実装から次のステップへ, 医療 AI をどう使いこなすか III AI 医療機器の臨床応用最前線 1. AI を用いた画像再構成技術の臨床応用 1) “AIR Recon DL” の有用性と今後の展望. *月刊 INNERVISION (インナービジョン)* 37 (7) : 39-42, 2022

VII. 1. 36 リハビリテーション技術部

1. Yamada K, Iwata K, Yoshimura Y, Ota H, Oki Y, Mitani Y, Oki Y, Yamada Y, Yamamoto A, Ono K, Honda A, Kitai T, Tachikawa R, Kohara N, Tomii K, Ishikawa A : Predicting the Readmission and Mortality in Older Patients Hospitalized with Pneumonia with Preadmission Frailty. *J Frailty Aging*. 12 (3) : 208-213, 2023, (DOI:10.14283/jfa.2022.36)
2. Yamada K : Letter to Hitomi Tomohara-Ichishima et al. *Respir Med Res*. 82 : 100917, 2022, (DOI:10.1016/j.resmer.2022.100917)
3. Yamada Y, Mitani Y, Yamamoto A, Miura K, Yamada K, Oki Y, Oki Y, Maejima Y, Kurumatani Y, Ishikawa A : Metabolic and ventilatory changes during postural change from the supine position to the reclining position in bedridden older patients. *Medicine (Baltimore)*. 102 (10) : e33250, 2023, (DOI:10.1097/MD.00000000000033250)
4. 山田莞爾 : IV 章 トピックス 集中治療室におけるリハビリテーション. 集中治療医学レビュー 2022-'23-最新主要文献と解説-, 大塚将秀, 佐藤直樹, 松田直之編, 総合医学社, 東京, 2022
5. Harada J, Nagata K, Morimoto T, Iwata K, Matsunashi A, Sato Y, Tachikawa R, Ishikawa A, Tomii K : Reply. *Respirology*. 27 (4) : 318-319, 2022, (DOI:10.1111/resp.14221)
6. Kanejima Y, Shimogai T, Kitamura M, Ishihara K, Izawa KP : Impact of health literacy in patients with cardiovascular diseases: A systematic review and meta-analysis. *Patient Educ Couns*. 105 (7) : 1793-1800, 2022, (DOI:10.1016/j.pec.2021.11.021)
7. Kanejima Y, Izawa KP, Kitamura M, Ishihara K, Ogura A, Kubo I, Nagashima H, Tawa H, Matsumoto D, Shimizu I : Health Literacy Is Associated with Activities of Daily Living of Patients Participating in Cardiac Rehabilitation: A Multicenter Clinical Study. *Int J Environ Res Public Health*. 19 (24) : 16550, 2022, (DOI:10.3390/ijerph192416550)
8. Ikezawa N, Yoshihara R, Kitamura M, Osumi A, Kanejima Y, Ishihara K, Izawa KP : Web-Based Exercise Interventions for Children with Neurodevelopmental Disorders. *Pediatr Rep*. 15 (1) : 119-128, 2023, (DOI:10.3390/pediatric15010010)
9. Ogawa M, Yoshida N, Nakai M, Kanaoka K, Sumita Y, Kanejima Y, Emoto T, Saito Y, Yamamoto H, Sakai Y, Hirota Y, Ogawa W, Iwanaga Y, Miyamoto Y, Yamashita T, Izawa KP, Hirata KI : Hospital-associated disability and hospitalization costs for acute heart failure stratified by body mass index- insight from the JROAD/JROAD-DPC database. *Int J Cardiol*. 367 : 38-44, 2022, (DOI:10.1016/j.ijcard.2022.08.044)
10. Ishihara K, Izawa KP, Kitamura M, Ogawa M, Shimogai T, Kanejima Y, Morisawa T, Shimizu I : Impact of mild cognitive impairment on unplanned readmission in patients with coronary artery disease. *Eur J Cardiovasc Nurs*. 21 (4) : 348-355, (DOI:10.1093/eurjcn/zvab091)
11. 朝日雅也, 金川善衛, 星明聡志, 下出 優 : 第 3 章 疾患・障害別の就労支援 (概要と事例) 15 内部障害. ゼロから始める就労支援ガイドブック, 芳賀大輔, 金川善衛, 稲富宏之編, 第 1 版, メディカルビュー社, 東京, 241-246, 2022
12. Misu S, Asai T, Sakai H, Nishiguchi S, Fuse K : Usefulness of gait parameters obtained from inertial sensors attached to the lower trunk and foot for assessment of gait performance in the early postoperative period after total knee arthroplasty. *Knee*. 37 : 143-152, 2022

13. 山口卓巳, 沖侑大郎, 山本暁生, 酒井英樹, 三栖翔吾, 岩田優助, 金子正博, 澤田 格, 小野くみ子, 石川朗 : 呼吸器疾患特異的ADL評価. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 31 (1) : 105-109, 2022
14. Morisawa T, Saitoh M, Otsuka S, Takamura G, Tahara M, Ochi Y, Takahashi Y, Iwata K, Oura K, Sakurada K, Takahashi T : Association between hospital-acquired functional decline and 2-year readmission or mortality after cardiac surgery in older patients: a multicenter, prospective cohort study. *Aging Clin Exp Res.* 35 (3) : 649-657, 2023, (DOI:10.1007/s40520-022-02335-1)
15. Kida K, Nishitani-Yokoyama M, Shimada K, Daida H, Ushijima A, Kono Y, Miura M, Itoh H, Sakata Y, Nagayama M, Furukawa Y, Fukuma N, Izawa H, Ohya Y, Saku K, Miura SI, Goto Y, Itoh H, Makita S; Japanese Association of Cardiac Rehabilitation (JACR) Registration Committee : Study Design of the Japanese Association of Cardiac Rehabilitation Registry (J-CARRY) – Protocol for a Prospective, Multicenter, Open Registry-. *Circ Rep.* 4 (11) : 550-554, 2022, (DOI:10.1253/circrep.CR-22-0071)
16. Ito J, Kawakami D, Seo R, Iwata K, Ouchi K, Nonami S, Miyoshi Y, Tatebe M, Tsuchida T, Asaka Y, Takeda C, Nishihara H, Mima H, Doi A, Tomii K, Ariyoshi K : Patient-centered outcomes at hospital discharge in mechanically ventilated COVID-19 patients in Kobe, Japan: A single-center retrospective cohort study. *Respir Investig.* 60 (5) : 694-703, 2022, (DOI:10.1016/j.resinv.2022.06.010)
17. Saito H, Matsue Y, Kamiya K, Kagiya N, Maeda D, Endo Y, Ueno H, Yoshioka K, Mizukami A, Saito K, Ogasahara Y, Maekawa E, Konishi M, Kitai T, Iwata K, Jujo K, Wada H, Hiki M, Dotare T, Sunayama T, Kasai T, Nagamatsu H, Ozawa T, Izawa K, Yamamoto S, Aizawa N, Wakaume K, Oka K, Momomura SI, Minamino T : Sarcopenic obesity is associated with impaired physical function and mortality in older patients with heart failure: insight from FRAGILE-HF. *BMC Geriatr.* 22 (1) : 556, 2022, (DOI:10.1186/s12877-022-03168-3)
18. Yamamoto S, Yamasaki S, Higuchi S, Kamiya K, Saito H, Saito K, Ogasahara Y, Maekawa E, Konishi M, Kitai T, Iwata K, Jujo K, Wada H, Kasai T, Nagamatsu H, Ozawa T, Izawa K, Aizawa N, Makino A, Oka K, Momomura SI, Kagiya N, Matsue Y : Prevalence and prognostic impact of cognitive frailty in elderly patients with heart failure: sub-analysis of FRAGILE-HF. *ESC Heart Fail.* 9 (3) : 1574-1583, 2022, (DOI:10.1002/ehf2.13844)
19. Maeda D, Matsue Y, Kagiya N, Jujo K, Saito K, Kamiya K, Saito H, Ogasahara Y, Maekawa E, Konishi M, Kitai T, Iwata K, Wada H, Hiki M, Dotare T, Sunayama T, Kasai T, Nagamatsu H, Ozawa T, Izawa K, Yamamoto S, Aizawa N, Yonezawa R, Oka K, Momomura SI, Minamino T : Inaccurate recognition of own comorbidities is associated with poor prognosis in elderly patients with heart failure. *ESC Heart Fail.* 9 (2) : 1351-1359, 2022, (DOI:10.1002/ehf2.13824)
20. 岩田健太郎 : III 頭部外傷の障害と理学療法 1 頭部外傷の理学療法. 標準神経理学療法学 第3版, 森岡周, 阿部浩明編, 第3版, 医学書院, 東京, 381-390, 2022
21. 岩田健太郎 : 理学療法士 集中治療テキスト, 日本集中治療医学会 集中治療 PT・OT・ST 委員会編, 真興交易 (株) 医書出版部, 東京, 408-423, 2023
22. 西原浩真 : 特集 子どもの成長・発達を支える理学療法 ●画像評価—何を読み取る? どう活かす? 10 慢性心不全 軽症~中等症. 理学療法ジャーナル 2022年10月号 56 (10) : 1123-1208, 2022
23. 西原浩真, 岩田健太郎 : 特集 回復期リハビリテーション病棟 これからの役割と戦略 ●画像評価—何を読み取る? どう活かす? 11 急性心不全. 理学療法ジャーナル 2022年11月号 : 56 (11) : 1255-1341, 2022
24. 西原浩真, 岩田健太郎 : 特集 脊椎圧迫骨折に対する理学療法の工夫 ●画像評価—何を読み取る? どう活かす? 最終回 集中治療室でのモニタリング. 理学療法ジャーナル 2022年12月号 : 56 (12) : 1379-1468, 2022
25. 前川健一郎, 下雅意崇亨, 金岡 啓, 徳久誠禎, 山下知映, 岩田健太郎, 井澤和夫, 間瀬教史 : 回復期リハビリテーション病棟における心臓リハビリテーション実施の現状と課題 ~兵庫県下におけるアンケート調査~. 理学療法兵庫 (28) : 26-32, 2022

VII. 1. 37 臨床研究推進センター 研究部門 再生医療研究部

1. Morizane A : Cell therapy for Parkinson's disease with induced pluripotent stem cells. *Inflammation and Regeneration.* 43 (1) : 16, 2023, (DOI:https://doi.org/10.1186/s41232-023-00269-3)
2. Adachi H, Morizane A, Torikoshi S, Raudzus F, Taniguchi Y, Miyamoto S, Sekiguchi K, Takahashi J : Pretreatment with Perlecan-Conjugated Laminin-E8 Fragment Enhances Maturation of Grafted Dopaminergic Progenitors in Parkinson's Disease Model. *Stem Cells Transl Med.* 11 (7) : 767-777, 2022, (DOI:10.1093/stcltm/szac033)

3. 森実飛鳥：特集 再生医療とリハビリテーション医学 4 パーキンソン病に対する再生医療. *The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine* 59 (10) : 1008-1013, 2022

VII. 1. 38 臨床研究推進センター 分子イメージング研究部

1. 赤松 剛, 井狩彌彦：教育講座—放射線技術学におけるファントムスタディ— 核医学編 2. 核医学用脳ファントムの活用法. *日本放射線技術学会雑誌* 78 (4) : 383-388, 2022, (DOI:https://doi.org/10.6009/jjrt.2022-2005)
2. Yamane T, Matsusaka Y, Fukushima K, Seto A, Matsunari I, Kuji I : Atlas of non-pathological solitary or asymmetrical skeletal muscle uptake in [18F]FDG-PET. *Jpn J Radiol.* 40 (8) : 755-767, 2022, (DOI:10.1007/s11604-022-01264-3)
3. Ohnishi A, Akamatsu G, Ikari Y, Nishida H, Shimizu K, Matsumoto K, Aita K, Sasaki M, Yamane T, Senda M : Dosimetry and efficacy of a tau PET tracer [18F]MK-6240 in Japanese healthy elderly and patients with Alzheimer's disease. *Ann Nucl Med.* 37 (2) : 108-120, 2023, (DOI:10.1007/s12149-022-01808-7)
4. Yamane T, Matsusaka Y, Fukushima K, Seto A, Matsunari I, Kuji I : Quantification of bone metabolic activity in the natural course of fractural lesions measured by quantitative SPECT/CT. *Asia Ocean J Nucl Med Biol.* 11 (1) : 30-36, 2023, (DOI:10.22038/AOJNMB.2022.63484.1446)
5. Akamatsu G, Tsutsui Y, Daisaki H, Mitsumoto K, Baba S, Sasaki M : A review of harmonization strategies for quantitative PET. *Ann Nucl Med.* 37 (2) : 71-88, 2023, (DOI:10.1007/s12149-022-01820-x)

VII. 1. 39 臨床研究推進センター 脳血管治療研究部

1. 今村博敏, 坂井信幸：特集 感染症—脳神経外科医のためのエッセンス III 脳神経外科と感染症—特殊な病態とトピックス 脳神経外科救急と新型コロナウイルス感染症. *脳神経外科* 50 (5) : 1061-1070, 2022
2. 坂井信幸, 太田剛史：特集 頸動脈病変の臨床—その診断と治療に必要な知識— 頸動脈病変の基礎から臨床まで 頸動脈病変への外科治療—頸動脈ステント留置術—カレントセラピー 2022年7月号 40 (7) : 691-696, 2022
3. 福光 龍, 今村博敏, 後藤正憲, 春原 匡, 松本 調, 福井伸行, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 呉 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 榛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 坂井千秋, 坂井信幸：脳底動脈本幹部および椎骨動脈の大型動脈瘤に対する血管内治療の治療成績. *脳卒中の外科* 50 (4) : 274-279, 2022
4. Akiyama T, Imamura H, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Matsumoto S, Fukui N, Omura Y, Fukuda T, Go K, Kajiura S, Shigeyasu M, Asakura K, Horii R, Naramoto Y, Nishii R, Yamamoto Y, Sakai C, Sakai NPipeline flow diversion with adjunctive coil embolization for internal carotid artery aneurysms following an intradural component: results in 46 consecutive aneurysms from a Japanese single-center experience. *Neurosurg Rev.* 45 (3) : 2221-2230, 2022
5. Cimflova P, Kappelhof M, Singh N, Kashani N, Ospel JM, McDonough R, Demchuk AM, Menon BK, Sakai N, Chen M, Fiehler J, Goyal M : Factors influencing thrombectomy decision making for primary medium vessel occlusion stroke. *J Neurointerv Surg.* 14 (4) : 350-355, 2022
6. Fujiwara S, Sakai N, Imamura H, Ohara N, Tanaka K, Yamagami H, Matsumoto Y, Takeuchi M, Uchida K, Yoshimura S, Morimoto T; RESCUE-Japan Registry 2 Investigators : Impact of prior antiplatelet therapy on outcomes of endovascular therapy for acute ischemic stroke with large vessel occlusion: Sub-analysis of the RESCUE-Japan Registry 2. *J Neuro Sci.* 438 : 120278, 2022
7. Fujiwara S, Sakai N, Imamura H, Ohara N, Tanaka K, Yamagami H, Matsumoto Y, Takeuchi M, Uchida K, Yoshimura S, Morimoto T, RESCUE-Japan Registry 2 Investigators : Association between anemic status on admission and clinical outcomes of acute large vessel occlusion. *J Neurol Sci.* 440 : 120343, 2022
8. Fujiwara S, Kuroda T, Matsuoka Y, Ohara N, Imamura H, Yamamoto Y, Ariyoshi K, Kohara N, Kawamoto M, Sakai N : Prehospital stroke notification and endovascular therapy for large vessel occlusion: a retrospective cohort study. *Sci Rep.* 12 (1) : 10107, 2022
9. Fukuda S, Shimogonya Y, Yonemoto N, Fukuda M, Watanabe A, Fujiwara K, Enomoto R, Hasegawa K, Yasoda A, Tsukahara T; NHO Carotid CFD Study Group : Hemodynamic Risk Factors for the Development of Carotid Stenosis in Patients with Unilateral Carotid Stenosis. *World Neurosurg.* 160 : e353-e371, 2022

10. Imamura H, Tani S, Adachi H, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Omura Y, Sasaki N, Akiyama T, Fukuda T, Kajiura S, Shigeyasu M, Asakura K, Horii R, Sakai N : Comparison of Symptomatic Vasospasm after Surgical Clipping and Endovascular Coiling. *Neurol Med Chir (Tokyo)*. 62 (5) : 223–230, 2022
11. Inui R, Fujiwara S, Kuroda T, Ohara N, Imamura H, Kohara N, Ariyoshi K, Kawamoto M, Sakai N : Convulsive-like symptoms as initial indications of basilar artery occlusion: A case series study. *eNeurologicalSci*. 28 : 100410, 2022
12. Itani M, Shimizu K, Imamura H, Tani S, Fujimoto M, Ogata H, Hirata Y, Sakai N, Akiyama Y : Intramural Hematoma in Vertebrobasilar Dolichoectasia-Related Stroke: A Retrospective Analysis of Six Consecutive Patients. *World Neurosurg*. 165 : e588–e596, 2022
13. Kamogawa N, Tanaka K, Yamagami H, Yoshimoto T, Uchida K, Morimoto T, Imamura H, Sakai N, Ohara N, Matsumoto Y, Takeuchi M, Shigeta K, Toyoda K, Yoshimura S : Outcomes of Symptomatic Anterior Large Vessel Occlusion by Initial Imaging Assessment Using Diffusion-Weighted Imaging Versus Noncontrast Computed Tomography. *Stroke Vasc Interv Neurol*. 2 (5) : e000170, 2022, (DOI:10.1161/SVIN.121.000170)
14. Kappelhof M, Ospel JM, Cimflova P, Kashani N, Singh N, McDonough RM, Sehgal A, Almekhjaifi MA, Fiehler J, Chen M, Sakai N, Majoie CB, Goyal M : Worldwide anaesthesia use during endovascular treatment for medium vessel occlusion stroke. *Interv Neuroradiol*. 28 (4) : 449–475, 2022
15. Kashani N, Cimflova P, Ospel JM, Kappelhof M, Singh N, McDonough RV, Almekhlafi MA, Chen M, Sakai N, Fiehler J, Ahmed U, Peeling L, Killely M, Goyal M : Desired Qualities of Endovascular Tools and Barriers to Treating Medium Vessel Occlusion MeVO: Insights from the MeVO-FRONTIERS International Survey. *Clin Neuroradio*. 2023, (DOI:10.1007/s00062-022-01196-5)
16. Koyanagi M, Hatano T, Uchida K, Ogura T, Yamagami H, Shibata M, Enomoto Y, Fukawa N, Matsumoto Y, Sakai N, Takeuchi M, Nonaka T, Shimizu F, Ezura M, Ota T, Ohta H, Morimoto M, Morimoto T, Yoshimura S; ALVO investigators : Safety of Apixaban Monotherapy for Non-Valvular Atrial Fibrillation-Related Acute Stroke with Intra-/Extracranial Artery Stenosis. *Cerebrovasc Dis*. 52 (3) : 255–265, 2023, (DOI:10.1159/000526896)
17. Matsubara H, Enomoto Y, Egashira Y, Uchida K, Yamagami H, Sakai N, Yoshimura S : The safety and efficacy of periprocedural intravenous anticoagulants for acute ischemic stroke patients who underwent endovascular treatment: Sub-analysis of the RESCUE-Japan Registry 2. *J Neurol Sci*. 442 : 120390, 2022
18. Miyata T, Kataoka H, Shimizu K, Okada A, Yagi T, Imamura H, Koyanagi M, Ishibashi R, Goto M, Sakai N, Hatano T, Chin M, Iwasaki K, Miyamoto S : Predicting the growth of middle cerebral artery bifurcation aneurysms using differences in the bifurcation angle and inflow coefficient. *J Neurosurg*. 138 (5) : 1357–1365, 2022
19. Nguyen TN, Qureshi MM, Klein P, Yamagami H, Abdalkader M, Mikulik R, Sathya A, Mansour OY, Czlonkowska A, Lo H, Field TS, Charidimou A, Banerjee S, Yaghi S, Siegler JE, Sedova P, Kwan J, de Sousa D, Demeestere J, Inoa V, Omran SS, Zhang L, Michel P, Strambo D, Marto JP, Nogueira RG; SVIN COVID-19 Global COVID Stroke Registry, Kristoffersen ES, Tsvigoulis G, Lereis VP, Ma A, Enzinger C, Gattringer T, Rahman A, Bonnet T, Ligot N, Raedt SD, Lemmens R, Vanacker P, Vandervorst F, Conforto AB, Hidalgo RCT, Mora Cuervo DL, de Oliveira Neves L, Lameirinhas da Silva I, Martins RT, Rebello LC, Santiago IB, Sakelarova T, Kalpachki R, Alexiev F, Cora EA, Kelly ME, Peeling L, Pikula A, Chen HS, Chen Y, Yang S, Roje Bedekovic M, Čabal M, Tenora D, Fibrich P, Dušek P, Hlaváčová H, Hrabanovska E, Jurák L, Kadlčíková J, Karpowicz I, Klečka L, Kovář M, Neumann J, Paloušková H, Reiser M, Rohan V, Šimůnek L, Skoda O, Škorňa M, Šrámek M, Drenck N, Sobh K, Lesaine E, Sabben C, Reiner P, Rouanet F, Strbian D, Boskamp S, Mbroh J, Nagel S, Rosenkranz M, Poli S, Thomalla G, Karapanayiotides T, Koutroulou I, Kargiotis O, Palaiodimou L, Barrientos Guerra JD, Huded V, Nagendra S, Prajapati C, Sylaja PN, Sani AF, Ghoreishi A, Farhoudi M, Hokmabadi ES, Hashemilar M, Sabetay SI, Rahal F, Acampa M, Adami A, Longoni M, Ornello R, Renieri L, Romoli M, Sacco S, Salmaggi A, Sangalli D, Zini A, Sakai K, Fukuda H, Fujita K, Imamura H, Kosuke M, Sakaguchi M, Sonoda K, Matsumaru Y, Ohara N, Shindo S, Takenobu Y, Yoshimoto T, Toyoda K, Uwatoko T, Sakai N, Yamamoto N, Yamamoto R, Yazawa Y, Sugiura Y, Baek JH, Lee SB, Seo KD, Sohn SI, Lee JS, Arsovska AA, Chieh CY, Wan Zaidi WA, Wan Yahya WNN, Gongora-Rivera F, Martinez-Marino M, Infante-Valenzuela A, Dippel D, van Dam-Nolen DHK, Wu TY, Punter

- M, Adebayo TT, Bello AH, Sunmonu TA, Wahab KW, Sundseth A, Al Hashmi AM, Ahmad S, Rashid U, Rodriguez-Kadota L, Vences MÁ, Yalung PM, Dy JSH, Broła W, Dłbiec A, Dorobek M, Karlinski MA, Labuz-Roszak BM, Lasek-Bal A, Sienkiewicz-Jarosz H, Staszewski J, Sobolewski P, Wiącek M, Zielinska-Turek J, Araújo AP, Rocha M, Castro P, Ferreira P, Nunes AP, Fonseca L, Pinho E Melo T, Rodrigues M, Silva ML, Ciopleias B, Dimitriade A, Falup-Pecurariu C, Hamid MA, Venketasubramanian N, Krastev G, Haring J, Ayo-Martin O, Hernandez-Fernandez F, Blasco J, Rodríguez-Vázquez A, Cruz-Culebras A, Moniche F, Montaner J, Perez-Sanchez S, García Sánchez MJ, Guillán Rodríguez M, Bernava G, Bolognese M, Carrera E, Churojana A, Aykac O, Özdemir AÖ, Bajrami A, Senadim S, Hussain SI, John S, Krishnan K, Lenthall R, Asif KS, Below K, Biller J, Chen M, Chebl A, Colasurdo M, Czap A, de Havenon AH, Dharmadhikari S, Eskey CJ, Farooqui M, Feske SK, Goyal N, Grimmatt KB, Guzik AK, Haussen DC, Hovingh M, Jillela D, Kan PT, Khatri R, Khoury NN, Kiley NL, Kolikonda MK, Lara S, Li G, Linfante I, Loochtan AI, Lopez CD, Lycan S, Male SS, Nahab F, Maali L, Masoud HE, Min J, Orgeta-Gutierrez S, Mohamed GA, Mohammaden M, Nalleballe K, Radaideh Y, Ramakrishnan P, Rayo-Taranto B, Rojas-Soto DM, Ruland S, Simpkins AN, Sheth SA, Starosciak AK, Tarlov NE, Taylor RA, Voetsch B, Zhang L, Duong HQ, Dao VP, Le HV, Pham TN, Ton MD, Tran AD, Zaidat OO, Machi P, Dirren E, Fernández CR, López JE, Fernández Ferro JC, Mohammadzadeh N, Suryadevara NC, de la Cruz Fernández B, Bessa F, Jancar N, Brady M, Scozzari D: Global Impact of the COVID-19 Pandemic on Cerebral Venous Thrombosis and Mortality. *J Stroke*. 24 (2) : 256-265, 2022
20. Shimizu K, Aoki T, Etminan N, Hackenberg KAM, Tani S, Imamura H, Kataoka H, Sakai N : Associations Between Drug Treatments and the Risk of Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage: a Systematic Review and Meta-analysis. *Transl Stroke Res*, 2022, (DOI:10.1007/s12975-022-01097-2)
 21. Siegler JE, Qureshi MM, Nogueira RG, Tanaka K, Nagel S, Michel P, Vigilante N, Ribo M, Yamagami H, Yoshimura S, Abdalkader M, Haussen DC, Mohammaden MH, Nannoni S, Möhlenbruch M, Henon H, Sheth SA, Gutierrez SO, Olive-Gadea M, Caparros F, Şeker F, Zaidi S, Castonguay AC, Uchida K, Sakai N, Puri AS, Farooqui M, Toyoda K, Salazar-Marioni S, Takeuchi M, Farzin B, Masoud HE, Kuhn AL, Rana A, Morimoto M, Shibata M, Nonaka T, Klein P, Sathya A, Kiley NL, Cordonnier C, Strambo D, Demeestere J, Ringleb PA, Roy D, Zaidat OO, Jovin TG, Kaesmacher J, Fischer U, Raymond J, Nguyen TN : Endovascular vs Medical Management for Late Anterior Large Vessel Occlusion With Prestroke Disability: Analysis of CLEAR and RESCUE-Japan. *Neurology*, 100 (7) : e751-e763, 2023, (DOI:https://doi.org/10.1212/WNL.000000000201543)
 22. SVIN Covid-19 Global SAH Registry : Global impact of the COVID-19 pandemic on subarachnoid haemorrhage hospitalisations, aneurysm treatment and in-hospital mortality: 1- year follow-up. *J Neurol Neurosurg Psychiatry*, 2022, (DOI : 10.1136/jnnp-2022-329200)
 23. Suda S, Nito C, Ihara M, Iguchi Y, Urabe T, Matsumaru Y, Sakai N, Kimura K; J- REPAIR trial group : Randomised placebo-controlled multicentre trial to evaluate the efficacy and safety of JTR-161, allogeneic human dental pulp stem cells, in patients with Acute Ischaemic stroke (J-REPAIR). *BMJ Open*. 12 (5) : e054269, 2022
 24. Uchida K, Shindo S, Yoshimura S, Toyoda K, Sakai N, Yamagami H, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Kimura K, Ishikura R, Yoshida A, Inue M, Beppu M, Sakakibara F, Shirakawan M, Morimoto T, RESCUE-Japan LIMIT Investigators : Association Between Alberta Stroke Program Early Computed Tomography Score and Efficacy and Safety Outcomes With Endovascular Therapy in Patients With Stroke From Large-Vessel Occlusion : A Secondary Analysis of the Recovery by Endovascular Salvage for Cerebral Ultra-acute Embolism—Japan Large Ischemic Core Trial (RESCUE-Japan LIMIT). *JAMA Neurol*. 79 (12) : 1260-1266, (DOI:10.1001/jamaneurol.2022.3285)
 25. Yamasaki D, Fukuda H, Hamada F, Kida N, Fukui N, Okada K, Masahira N, Ohta T, Imamura H, Sakai N, Ueba T : Flow alteration therapy for impending rupture of intracranial giant aneurysm after flow diverter placement. *Surg Neurol Int*. 13 : 323, 2022
 26. Yoshimoto T, Yamagami H, Sakai N, Toyoda K, Hoshimoto Y, Hirano T, Iwama T, Got R, Kimura K, Kuroda S, Matsumaru Y, Miyamoto S, Ogasawara K, Okada Y, Shiokawa Y, Takagi Y, Tominaga T, Uno M, Yoshimura S, Ohara N, Imamura H, Sakai C : Impact of COVID-19 on the Volume of Acute Stroke Admissions: A Nationwide Survey in Japan. *Neurol Med Chir (Tokyo)*. 62 (8) : 369-376, 2022

27. Yoshimura S, Sakai N, Yamagami H, Uchida K, Beppu M, Toyoda K, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Kimura K, Takeuchi M, Yazawa Y, Kimura N, Shigeta K, Imamura H, Suzuki I, Enomoto Y, Tokunaga S, Morita K, Sakakibara F, Kinjo N, Saito T, Ishikura R, Inoue M, Morimoto T : Endovascular Therapy for Acute Stroke with a Large Ischemic Region. *N Engl J Med.* 386 (14) : 1303-1313, 2022
28. 坂井信幸 : 第 1 章 未破裂脳動脈瘤 6 未破裂脳動脈瘤の治療のチップスとピットフォール 4) フローダイバーター. *エビデンスとガイドラインに基づく脳動脈瘤とくも膜下出血*, 井川房夫, 片岡大治, 堀江信貴編, 医学書院, 東京, 92-105, 2023
29. 坂井信幸 : 8 DOAC やワルファリン内服者の血栓回収療法はどうすべきか? 脳卒中治療 Controversy. 木村和美編中外医学社, 東京, 35-38, 2023
30. Akiyama T, Imamura H, Shigeyasu M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Matsumoto S, Fukui N, Omura Y, Fukuda T, Go K, Kajiura S, Asakura K, Horii R, Naramoto Y, Nishii R, Yamamoto Y, Sakai C, Sakai N : PulseRider-assisted coil embolization for an unruptured internal carotid artery-persistent primitive trigeminal artery aneurysm. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 32 (2) : 106876, 2023, (DOI:10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2022.106876)
31. Nguyen TN, Qureshi MM, Klein P, Yamagami H, Mikulik R, Czlonkowska A, Abdalkader M, Sedova P, Sathya A, Lo HC, Mansour OY, Vanguru HR, Lesaine E, Tsvigoulis G, Loochtan AI, Demeestere J, Uchino K, Inoa V, Goyal N, Charidimou A, Siegler JE, Yaghi S, Aguiar de Sousa D, Mohammaden M, Haussen DC, Kristoffersen ES, Lereis VP, Scollo SD, Campbell BCV, Ma A, Thomas JO, Parsons MW, Singhal S, Slater LA, Martins RT, Enzinger C, Gattringer T, Rahman A, Bonnet T, Ligot N, De Raedt S, Lemmens R, Vanacker P, Vandervorst F, Conforto AB, Hidalgo RCT, de Oliveira Neves L, Martins RT, Mora Cuervo DL, Rebello LC, Santiago IB, Lameirinhas da Silva I, Sakelarova T, Kalpachki R, Alexiev F, Catanese L, Cora EA, Goyal M, Hill MD, Kelly ME, Khosravani H, Lavoie P, Peeling L, Pikula A, Rivera R, Chen HS, Chen Y, Huo X, Miao Z, Yang S, Bedekovic MR, Bralic M, Budincevic H, Corredor-Quintero AB, Lara-Sarabia OE, Cabal M, Tenora D, Fibrich P, Herzig R, Hlaváčová H, Hrabanovska E, Hlinovsky D, Jurak L, Kadlcikova J, Karpowicz I, Klecka L, Kovar M, Lauer D, Neumann J, Palouskova H, Reiser M, Reková P, Rohan V, Skoda O, Škorňa M, Sobotková L, Sramek M, Zakova L, Christensen H, Drenck N, Iversen HK, Truelsen TC, Wienecke T, Sobh K, Ylikotila P, Alpay K, Strbian D, Bernady P, Casenave P, Dan M, Faucheux JM, Gentric JC, Magro E, Sabben C, Reiner P, Rouanet F, Bohmann FO, Boskamp S, Mbroh J, Nagel S, Nolte CH, Ringleb PA, Rosenkranz M, Poli S, Thomalla G, Karapanayiotides T, Koutroulou I, Kargiotis O, Palaiodimou L, Barrientos Guerra JD, Huded V, Menon B, Nagendra S, Prajapati C, Sylaja PN, Krishna Pramana NA, Sani AF, Ghoreishi A, Farhoudi M, Hokmabadi ES, Raya TA, Kalmanovich SA, Ronen L, Sabetay SI, Acampa M, Adami A, Castellan L, Longoni M, Ornello R, Renieri L, Bigliani CR, Romoli M, Sacco S, Salmaggi A, Sangalli D, Zini A, Doijiri R, Fukuda H, Fujinaka T, Fujita K, Imamura H, Sakai N, Kanamaru T, Kimura N, Kono R, Miyake K, Sakaguchi M, Sakai K, Sonoda K, Todo K, Miyashita F, Tokuda N, Matsumaru Y, Matsumoto S, Ohara N, Shindo S, Takenobu Y, Yoshimoto T, Toyoda K, Uwatoko T, Yagita Y, Yamada T, Yamamoto N, Yamamoto R, Yazawa Y, Sugiura Y, Waweru PK, Baek JH, Lee SB, Seo KD, Sohn SI, Arsovska AA, Chan YC, Wan Zaidi WA, Jaafar AS, Gongora-Rivera F, Martinez-Marino M, Infante-Valenzuela A, Groppa S, Leahu P, Coutinho JM, Rinkel LA, Dippel DWJ, van Dam-Nolen DHK, Ranta A, Wu TY, Adebayo TT, Bello AH, Nwazor EO, Sunmonu TA, Wahab KW, Ronning OM, Sandset EC, Al Hashimi AM, Ahmad S, Rashid U, Rodriguez-Kadota L, Vences MÁ, Yalung PM, Hao Dy JS, Pineda-Franks MC, Co CO, Brola W, Debiec A, Dorobek M, Karlinski MA, Labuz-Roszak BM, Lasek-Bal A, Sienkiewicz-Jarosz H, Staszewski J, Sobolewski P, Wiacek M, Zielinska-Turek J, Araujo AP, Rocha M, Castro P, Cruz VT, Ferreira PV, Ferreira P, Nunes AP, Fonseca L, Marto JP, Pinho E Melo T, Rodrigues M, Silva ML, Dimitriade A, Falup-Pecurariu C, Hamid MA, Venketasubramanian N, Krastev G, Mako M, Ayo-Martin O, Hernández-Fernández F, Blasco J, Rodríguez-Vázquez A, Cruz-Culebras A, Moniche F, Montaner J, Perez-Sanchez S, García Sánchez MJ, Rodríguez MG, Jood KNordanstig A, Mazya MV, Moreira TTP, Bernava G, Beyeler M, Bolognese M, Carrera E, Dobrocky T, Karwacki GM, Keller E, Hsieh CY, Boonyakarnkul S, Churojana A, Aykac O, Ozdemir A, Bajrami A, Senadim S, Hussain SI, John S, Banerjee S, Kwan J, Krishnan K, Lenthall R, Matthews A, Wong K, Zhang L, Altschul D, Asif KS, Bahiru Z, Below K, Biller J, Ruland S, Chaudry SA, Chen M, Chebl A, Cibulka J, Cistrunk L, Clark J, Colasurdo M, Czap A, de Havenon A,

- D'Amato S, Dharmadhikari S, Grimmett KB, Dmytriw AA, Etherton MR, Ezepeue C, Farooqui M, Feske SK, Fink L, Gasimova U, Guzik AK, Hakemi M, Hovingh M, Khan M, Jillela D, Kan PT, Khatri R, Khawaja AM, Khoury NN, Kiley NL, Kim BS, Kolikonda MK, Kuhn AL, Lara S, Linares G, Linfante I, Lukovits TG, Lycan S, Male SS, Maali L, Mancin J, Masoud H, Mohamed GA, Monteiro A, Nahab F, Nalleballe K, Ortega-Gutierrez S, Puri AS, Radaideh Y, Rahangdale RH, Rai A, Ramakrishnan P, Reddy AB, Rojas-Soto DM, Romero JR, Rost NS, Rothstein A, Omran SS, Sheth SA, Siddiqui AH, Starosciak AK, Tarlov NE, Taylor RA, Wang MJ, Wolfe J, Wong KH, Le HV, Nguyen QV, Pham TN, Nguyen TT, Phan HT, Ton MD, Fischer U, Michel P, Strambo D, Martins SO, Zaidat OO, Nogueira RG; and the SVIN COVID-19 Global Registry : Global Impact of the COVID-19 Pandemic on Stroke Volumes and Cerebrovascular Events: A 1 Year Follow-up. *Neurology*. 100 (4) : e408–e421, 2023
32. Nishiyama Y, Kimura K, Otsuka T, Toyoda K, Uchiyama S, Hoshino H, Sakai N, Okada Y, Origasa H, Naritomi H, Houkin K, Yamaguchi K, Minematsu K, Matsumoto M, Tominaga T, Tomimoto H, Terayama Y, Yasuda S, Yamaguchi T; CSPS.com Trial Investigators : Dual Antiplatelet Therapy With Cilostazol for Secondary Prevention in Lacunar Stroke: Subanalysis of the CSPS.com Trial. *Stroke*. 54 (3) :697–705, 2023, (DOI:10.1161/STROKEAHA.122.039900)
33. Sakai C, Sakai N, Takayanagi A, Imamura H, Ohta T, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Matsumoto S, Akiyama T, Takano Y, Haruyama H, Go K, Kajiura S, Shigeyasu M, Asakura K, Horii R, Naramoto Y, Nishii R, Yamamoto Y, Teranishi K, Kawade S, Imahori T, Kaneko N, Tateshima S : First-in-human trial of Stabilizer device in neuroendovascular therapy. *Heliyon*. 9 (3) : e14360, 2023
34. Sakai N, Kawabata S, Funatsu T, Okuda T, Akiyama R, Beppu M, Matsui Y, Adachi H, Horiuchi K, Imamura H, Sakai C, Tani S, Adachi H, Sasaki N, Tokunaga S, Fukumitsu R, Shigematsu T : Four-Year Follow-Up on the First-in-Human Experience With Nautilus Intracranial System Assisted Coiling for Unruptured Intracranial Aneurysms. *Stroke Vasc Interv Neurol*. 3 (3) :e000770, 2023, (DOI:10.1161/SVIN.122.000770)
35. Toyoda K, Yoshimura S, Fukuda-Doi M, Qureshi AI, Inoue M, Miwa K, Koga M; the ATACH Trial Investigators; the SAMURAI Investigators : Intravenous nicardipine for Japanese patients with acute intracerebral hemorrhage: an individual participant data analysis. *Hypertens Res*. 46 : 75–83, 2023

Ⅶ. 2 西市民病院

Ⅶ. 2.1 呼吸器内科

1. 富岡洋海：V. 薬剤性肺障害に伴う間質性肺疾患 特集 間質性肺疾患：実地臨床における診療のポイント. 日本内科学会雑誌 111 (6)：1106-1113, 2022
2. 富岡洋海：過敏性肺炎をめぐる最近の話題：治療について. 日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会誌 42 (1_2)：56-58, 2022
3. 富岡洋海, 井上義一, 長井苑子, 澤幡美千瑠, 山口悦郎, 寺崎文生, 丸山和一, 濱田邦夫, 黒田 宙：「患者支援プログラム：サルコイドーシス勉強会」開催報告. 日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会誌 42 (1_2)：67-68, 2022
4. 宮崎泰成, 富岡洋海：過敏性肺炎—国際診断ガイドラインとわが国の診療指針. 医学のあゆみ 283 (1)：67-75, 2022
5. 富岡洋海, 李 正道：特発性間質性肺炎 3 器質化肺炎 (OP). 間質性肺炎のみかた, 考えかた, 喜舎場朝雄編, 第1版, 中外医学社, 東京, 101-113, 2022
6. Akiyama N, Fujisawa T, Morita T, Koyachi T, Matsuda Y, Mori M, Miyashita M, Tachikawa R, Tomii K, Tomioka H, Hagimoto S, Kondoh Y, Inoue Y, Suda T：End-of-life care for idiopathic pulmonary fibrosis patients with acute exacerbation. *Respir Res.* 23 (1)：294, 2022
7. Fujikawa T, Kondo S, Saito T, Inoue T, Otake K, Misu S, Sakai H, Ono R, Tomioka H：Impact of sarcopenia defined by carina-level skeletal muscle mass on the long-term prognosis of patients with idiopathic pulmonary fibrosis. *Respir Med Res* 82：100965, 2022
8. 富岡洋海：肺サルコイドーシス [私の治療]. 週刊日本医事新報 5151：38, 2023
9. 富岡洋海：I. 疾患編 第1章 呼吸器疾患 7. 薬剤、化学物質による肺障害 ①薬剤性肺障害 ②ガス吸入による肺疾患. わかりやすい内科学, 井村裕夫, 足立壯一, 稲垣暢也, 尾野 亘, 木下彩栄, 妹尾 浩, 長尾美紀, 平井豊博, 藤井康友, 森信暁雄, 柳田素子編, 第5版, 文光堂, 東京, 69-72, 2023
10. 富岡洋海, 壺井和幸：膠原病に伴う間質性肺疾患 2) 全身性強皮症. 呼吸器内科 42 (6)：601-608, 2022
11. 富岡洋海：結核治療薬. *Pocket Drugs 2023*, 小松康宏, 渡邊裕司編, 医学書院, 東京, 777-784, 2023
12. Okuda R, Ogura T, Hisata S, Baba T, Kondoh Y, Suda T, Johkoh T, Iwasawa T, Tomioka H, Bando M, Azuma A, Inoue Y, Arai T, Nakamura Y, Miyamoto A, Miyazaki Y, Chiba H, Ishii H, Hamada N, Terasaki Y, Kuwahira I, Sato S, Kato S, Suzuki T, Sakamoto S, Nishioka Y, Hattori N, Hashimoto N, Morita S, Ichihara N, Miyata H, Hagiwara K, Nukiwa T, Kobayashi K：Design and rationale of the Japanese Idiopathic Interstitial Pneumonias (JIPS) Registry. *Respir Investig.* 61 (1)：95-102, 2023
13. 瀧口純司, 李 正道, 岩林正明, 横田 真, 橋本梨花, 網本久敬, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海, 藤山理世, 楠 信也, 有川健太郎, 岩本朋忠：当院における外国生まれ結核患者の検討. 神戸市立病院紀要 61：13-17, 2023
14. Kuwana M, Bando M, Kawahito Y, Sato S, Suda T, Kondoh Y：CTD-ILD Delphi Collaborators：Identification and management of connective tissue disease-associated interstitial lung disease: evidence-based Japanese consensus statements. *Expert Rev Respir Med.* 17 (1)：71-80, 2023
15. 富岡洋海 (編集委員長), 宮崎泰成 (編集委員長)：過敏性肺炎診療指針 2022, 日本呼吸器学会 過敏性肺炎診療指針 2022 作成委員会編, 第1版, 一般社団法人日本呼吸学会, 東京, 2022

Ⅶ. 2.2 総合内科

1. Hamazaki K, Umamoto D, Asada T, Iwatani M, Tsuboi K, Oh K, Konishi H：A Flare of Hepatitis C Virus-Associated Cryoglobulinemic Vasculitis After COVID-19. *Cureus.* 14 (6)：e26278, 2022, (DOI:10.7759/cureus.26278)
2. Doi A, Iwata K, Nakamura T, Oh K, Isome K, Hasegawa K, Kuroda H, Hasuike T, Seo R, Kosai H, Nakanishi N, Nomoto R, Fujiyama R, Kusunoki N, Iwamoto T, Nishioka H, Tomii K, Kihara Y：Clinical outcomes of COVID-19 caused by the Alpha variant compared with one by wild type in Kobe, Japan. A multi-center nested case-control study. *Journal of Infection and Chemotherapy.* 29 (11)：289-293, 2023, (DOI:10.1016/j.jiac.2022.11.014)

3. Matsui Y, Yao S, Kumode T, Tanino K, Mizuno R, Ogoshi Y, Honma S, Murakami T, Kan T, Nakajima S, Harada T, Oh K, Nakamura T, Konishi H, Arie S : Surgeons' involvement in COVID-19 treatment: a practice by a regional core hospital in Japan to avoid physician burnout. *BMC Health Serv Res.* 23 (1) : 28, 2023, (DOI:10.1186/s12913-023-09042-1)

Ⅶ. 2.3 外科 (消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科・血管外科)

1. 姚 思遠, 石川佳奈, 口分田堯, 谷野敬輔, 水野良祐, 松井優悟, 本間周作, 村上哲平, 姜 貴嗣, 中嶋早苗, 原田武尚 : 特別企画 (3) 「男女を問わず外科医が輝き続けるために」 5. 男性外科医の育児休暇が持つ無限の可能性—男女の価値観を共有できる理想の職場環境作りへの提言—. *日本外科学会雑誌* 123 (5) : 498-500, 2022
2. Yao S, Iwashita A, Yagi S, Watanabe H, Nishio T, Koyama Y, Nagai K, Kamo N, Taura K, Hatano E : Acute coronary syndrome after liver transplantation in a young primary biliary cholangitis recipient with dyslipidemia: a case report. *Surg Case Rep.* 8 (1) : 113, 2022, (DOI:10.1186/s40792-022-01470-1)
3. Yao S, Kita R, Ishikawa K, Kumode T, Tanino K, Mizuno R, Matsui Y, Honma S, Murakami T, Kan T, Nakajima S, Kaihara S, Harada T : Is Palliative Gastrojejunostomy for Malignant Gastric Outlet Obstruction an Optimal Choice for Very Elderly Patients? A Report from a Long-Lived Country. *Ann Surg Oncol.* 30 (1) : 313-321, 2023, (DOI:10.1245/s10434-022-12599-6)
4. Yao S, Kita R : ASO Author Reflections:Palliative Surgery for Very Elderly Cancer Patients Does Not Guarantee Surgical Safety. *Ann Surg Oncol.* 30 (1) : 322, 2023, (DOI:10.1245/s10434-022-12604-y)
5. Matsui Y, Yao S, Kumode T, Tanino K, Mizuno R, Ogoshi Y, Honma S, Murakami T, Kan T, Nakajima S, Harada T, Oh K, Nakamura T, Konishi H, Arie S : Surgeons' involvement in COVID-19 treatment: a practice by a regional core hospital in Japan to avoid physician burnout. *BMC Health Services Research.* 23 (1) : 28, 2023
6. Murakami T, Matsui Y : Laparoscopic duodenojejunostomy for malignant stenosis as a part of multimodal therapy: A case report. *World J Clin Cases.* 10 (16) : 5324-5330, 2022, (DOI:10.12998/wjcc.v10.i16.5324)
7. 多山 葵, 三瀬昌宏, 松井優悟, 藤倉航平, 山下大祐 : エリブリン・パゾパニブで30カ月病勢制御した乳腺悪性葉状腫瘍肺肝転移の1例 A CASE OF METASTATIC MALIGNANT PHYLLODES BREAST TUMOR SHOWING LONG-TERM DISEASE CONTROL BY ERIBULIN AND PAZOPANIB. *日本臨床外科学会雑誌* 83 (4) : 649-653, 2022

Ⅶ. 2.4 整形外科

1. 西口 滋, 藤原弘之, 山根逸郎, 藤田 暁, 相江直哉, 布施謙三 : ナビゲーションTKAでのトラッカーピンのゆるみ. *日本人工関節学会誌* 52 : 691-692, 2022
2. Hashimura T, Onishi E, Ota S, Tsukamoto Y, Yamashita S, Yasuda T : Correction loss following short-segment posterior fixation for traumatic thoracolumbar burst fractures related to endplate and intervertebral disc destruction. *BMC Musculoskeletal Disorders,* 24 (1) : 174, 2023

Ⅶ. 2.5 脳神経外科

1. Imamura H, Tani S, Adachi H, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Omura Y, Sasaki N, Akiyama T, Fukuda T, Kajiura S, Shigeyasu M, Asakura K, Horii R, Sakai N : Comparison of Symptomatic Vasospasm after Surgical Clipping and Endovascular Coiling. *Neurol Med Chir (Tokyo).* 62 (5) : 223-230, 2022, (DOI:10.2176/jns-nmc.2021-0126)
2. Sakai N, Kawabata S, Funatsu T, Okuda T, Akiyama R, Beppu M, Matsui Y, Adachi H, Horiuchi K, Imamura H, Sakai C, Tani S, Adachi H, Sasaki N, Tokunaga S, Fukumitsu R, Shigematsu T : Four-Year Follow-Up on the First-in-Human Experience With Nautilus Intracranial System Assisted Coiling for Unruptured Intracranial Aneurysms. *Stroke Vasc Interv Neurol.* 3 : e000770, 2023, (DOI:10.1161/SVIN.122.000770)

Ⅶ. 2.6 産婦人科

1. 田邊昌平, 杉野祥代, 市田耕太郎, 新谷 潔, 森島秀司 : 進行した膵臓癌が右卵巣に転移して茎捻転を起こし、1年後に左卵巣に再発した1例. *産婦人科の実際* 71 (11) : 1385-1388, 2022

2. Tanabe S, Sugino S, Ichida K, Niiya K, Morishima S : A Case of Postpartum Pulmonary Edema With Preserved Ejection Fraction and Diastolic Capacity. *Cureus*. 14 (11) : e31179, 2022
3. Tanabe S, Sugino S, Ichida K, Niiya K, Morishima S : A case of endometriotic cyst enlargement during pregnancy owing to desmoplasia and rupture at 36 weeks of gestation. *Radiology Case Report*. 18 (2) : 472-475, 2022
4. Tanabe S, Sugino S, Ichida K, Niiya K, Morishima S : Zinc Deficiency-Associated Dysgeusia Preventing the Improvement of Severe Hyperemesis Gravidarum. *Case reports in Obstetrics and Gynecology*, 2022 : 7486501, 2022

Ⅶ. 2.7 歯科口腔外科

1. 向仲佑美香, 河合峰雄 : 抜歯を契機に病的骨折に至った薬剤関連顎骨壊死の1例. *日本口腔感染症学会雑誌* 29 (1) : 21-27, 2022

Ⅶ. 2.8 病理診断科

1. 弘田大智, 村井志織, 井上友佳里, 中 彩乃, 岡村俊佑, 吉田澄子, 山下展弘, 勝山栄治 : 若年に発症した肺原発 clear cell tumor の1例. *神戸市立病院紀要* 61 : 19-23, 2023

Ⅶ. 2.9 看護部

1. 武井尚子 : 特集1 ストーマ合併症のアセスメント&ケア講座 患者説明もらくらく!そのまま渡せるダウンロードシートつき ■晚期合併症 4 ストーマ静脈瘤. *消化器ナーシング* 28 (2) : 179-183, 2023
2. 武井尚子 : 特集1 ストーマ合併症のアセスメント&ケア講座 患者説明もらくらく!そのまま渡せるダウンロードシートつき ■晚期合併症 5 ストーマ周囲肉芽腫. *消化器ナーシング* 28 (2) : 184-187, 2023

Ⅶ. 2.10 薬剤部

1. 森 良江, 前万紀子, 堀 勇太, 中浴伸二, 森本茂文 : フォーミュラリ浸透のための段階的なアプローチの実施と医療従事者の意識変化. *日本病院薬剤師会雑誌* 59 (2) : 144-151, 2023

Ⅶ. 2.11 臨床検査技術部

1. 弘田大智, 村井志織, 井上友佳里, 中 彩乃, 岡村俊佑, 吉田澄子, 山下展弘, 勝山栄治 : 若年に発症した肺原発 clear cell tumor の1例. *神戸市立病院紀要* 61 : 19-23, 2023

Ⅶ. 2.12 リハビリテーション技術部

1. Fujikawa T, Kondo S, Saito T, Inoue T, Otake K, Misu S, Sakai H, Ono R, Tomioka K : Impact of sarcopenia defined by carina-level skeletal muscle mass on the long-term prognosis of patients with idiopathic pulmonary fibrosis (original article). *Respiratory Medicine and Research*. 82 : 100965, 2022, (DOI:10.1016/j.resmer.2022.100965)
2. Misu S, Asai T, Sakai H, Nishiguchi S, Fuse K : Usefulness of gait parameters obtained from inertial sensors attached to the lower trunk and foot for assessment of gait performance in the early postoperative period after total knee arthroplasty. *Knee* 37 : 143-152, 2022, (DOI:10.1016/j.knee.2022.06.005)
3. Otake K, Misu S, Fujikawa T, Sakai H, Tomioka H : Exertional Desaturation is More Severe in Idiopathic Pulmonary Fibrosis than in Other Interstitial Lung Disease. *Physical Therapy Research*. 26 (1) : 32-37, 2023, (DOI:10.1298/ptr.E10218)
4. 山口卓巳, 沖侑太郎, 山本暁生, 酒井英樹, 三栖翔吾, 岩田優助, 金子正博, 澤田 格, 小野くみ子, 石川朗 : 呼吸器疾患特異的 ADL 評価. *日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌* 31 (1) : 105-109, 2022
5. 東山鈴佳, 三栖翔吾, 酒井英樹, 藤川 孝, 大竹康平, 金子正博 : 入院時に低栄養である慢性閉塞性肺疾患患者はリハビリテーションによる機能改善を認めるか. *理学療法兵庫* 28 : 47-48, 2022

Ⅶ. 3 西神戸医療センター

Ⅶ. 3.1 総合内科

1. Taylor S, Isobe S, Cao A, Contrepolis K, Benayoun BA, Jiang L, Wang L, Melemenidis S, Ozen MO, Otsuki S, Shinohara T, Sweatt AJ, Kaplan J, Moonen JR, Marciano DP, Gu M, Miyagawa K, Hayes B, Sierra RG, Kupitz CJ, Del Rosario PA, Hsi A, Thompson AAR, Ariza ME, Demirci U, Zamanian RT, Haddad F, Nicolls MR, Snyder MP, Rabinovitch M : Endogenous Retroviral Elements Generate Pathologic Neutrophils in Pulmonary Arterial Hypertension. *Am J Respir Crit Care Med.* 206 (8) : 1019-1034, 2022
2. Sugi Y, Mori K, Kobayashi T, Arai N, Okano M, Muramae N, Oshita T, Otsui K, Sakaguchi K : Panhypopituitarism Mimicking Acute Coronary Syndrome. *Intern Med.* 62 (4) : 559-564, 2023

Ⅶ. 3.2 脳神経内科

1. Yanagihara C, Hayasaka Y, Kageyama Y : Pregnancy during enzyme replacement therapy with alglucosidase alfa over a 14-year period in late-onset Pompe disease. *Neurol Clin Neurosci.* 11 (1) : 1-3, 2023, (DOI:<https://doi.org/10.1111/ncn3.12695>)

Ⅶ. 3.3 糖尿病・内分泌内科

1. Nomura H, Son C, Aotani D, Shimizu Y, Katsuura G, Noguchi M, Kusakabe T, Tanaka T, Miyazawa T, Hosoda K, Nakao K : Impaired leptin responsiveness in the nucleus accumbens of leptin-overexpressing transgenic mice with dysregulated sucrose and lipid preference independent of obesity. *Neurosci Res.* 177:94-102, 2022, (DOI:10.1016/j.neures.2021.12.007)

Ⅶ. 3.4 免疫血液内科

1. Imoto H, Yoshioka S, Nakagawa D, Hasegawa K, Kuroda H, Hasuike T, Doi A, Kusumoto A, Ishikawa T : Cold agglutinin anti-I antibodies in two patients with COVID-19. *J Clin Lab Anal.* 36 : e24629, 2022
2. Marumo A, Wakita S, Morita K, Oh I, Kato S, Toya T, Najima Y, Doki N, Kanda J, Kuroda J, Mori S, Satake A, Usuki K, Ueki T, Uoshima N, Kobayashi Y, Kawata E, Tajika K, Nagao Y, Shono K, Shibusawa M, Tadokoro J, Kayamori K, Hagihara M, Uchiyama H, Kubota Y, Kimura S, Nagoshi H, Kurosawa S, Motomura S, Hashimoto A, Muto H, Sato E, Ogata M, Mitsuhashi K, Ando J, Omori I, Fujisawa Y, Terada K, Yui S, Arai K, Kitano T, Miyata M, Kurosawa A, Mizoguchi A, Komatsu N, Fukuda T, Ohashi K, Kanda Y, Yamaguchi H : NPM1-mutation-based measurable residual disease assessment after completion of two courses of post-remission therapy is a valuable clinincal predictor of the prognosis of acute myeloid leukemia. *Int J Hematol.* 116 (2) : 199-244, 2022

Ⅶ. 3.5 循環器内科

1. Suzuki M, Hashimura H, Ejiri J, Eizawa H : A Gerbode defect complicated by pulmonary embolism: a rare case evaluated by cardiac computed tomography. *Eur Heart J Case Reports.* 7 (1) : ytad001, 2023, (DOI:10.1093/ehjcr/ytad001)

Ⅶ. 3.6 消化器内科

1. Iketani M, Takada Y, Itani T : Collagenous colitis following SARS-Cov2 mRNA vaccination. *JGH open.* 7 (4) : 321-322, 2023

Ⅶ. 3.7 呼吸器内科

1. 濱崎直子, 山崎菜々美, 松岡 佑, 益田隆広, 三輪菜々子, 木田陽子, 瀬瀬力也, 上領 博, 桜井稔泰, 多田公英 : 軟口蓋穿孔を認めた咽頭結核の1例. *結核* 98 (2) : 69-72, 2023

Ⅶ. 3.8 小児科

1. Shibata M, Matsubara K, Matsunami K, Miyairi I, Kasai M, Kai M, Katayama Y, Maruyama T, Kirsty LD : Epidemiology of group B streptococcal disease in infants younger than 1 year in Japan; a nationwide surveillance study 2016–2020. *Eur J Clin Microbiol Infect Dis.* 41 (4) : 559–571, 2022
2. 中尾聡宏, 磯目賢一, 池町真実, 竹川啓史, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 堀 雅之, 岩田あや, 山口善道, 平海良美, 松原康策 : 市中型 ESBL 産生大腸菌尿路感染症での抗菌薬選択と治療反応性 : 地域中核病院における 20 年間の検討. *兵庫県小児科医会報* 77 : 24–34, 2022
3. 夏木 茜, 堀 雅之, 松原康策, 太田悠介, 齋藤良一, 磯目賢一, 岩田あや, 池町真実, 竹川啓史, 山本 剛, 大楠美佐子, 石和田稔彦 : 基礎疾患のない 3 歳児に発症した *Moraxella catarrhalis* 菌血症. *感染症学雑誌* 96 (6) : 240–244, 2022
4. 松原康策, 芝田明和 : 小児期 B 群レンサ球菌感染症の現状と残された課題. *小児感染免疫 (総説)* 34 (3) : 219–235, 2022
5. 中尾聡宏, 岩田あや, 飯尾享平, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 山口善道, 平海良美, 松原康策 : 川崎病に対する RAISE 研究方式治療と 1 年間の心合併症. *日本小児科学会雑誌* 126 (12) : 1601–1608, 2022
6. Iio K, Kawasaki Y, Iwata A, Yamaguchi Y, Hiraumi Y, Matsubara K : Posterior reversible encephalopathy syndrome associated with cyclic vomiting syndrome. *Pediatr Int.* 65 (1) : e15436, 2022
7. Doi A, Iwata K, Nakamura T, Oh K, Isome K, Hasegawa K, Kuroda H, Hasuike T, Seo R, Kosai H, Nakanishi N, Nomoto R, Fujiyama R, Kusunoki N, Iwamoto T, Nishioka H, Tomii K, Kihara Y : Clinical outcomes of COVID-19 caused by the Alpha variant compared with one by wild type in Kobe, Japan. A multi-center nested case-control study. *J Infect Chemother.* 29 (3) : 289–293, 2023

Ⅷ. 3.9 外科・消化器外科

1. Shiota T, Murata T, Kishimoto M, Yao T, Nuora S, Morita S, Akiyoshi T, Okamura S, Imasato M, Furuhata T, Suto T, Takemasa I, Shingai T, Ueda M, Mizuno H, Hisamatsu Y, Takeda T, Fujii M, Kagawa Y, Sugihara K, Study Group of Appendiceal Neoplasms from the Japan Society of Colorectal Cancer Research Group : Clinicopathological features of appendiceal goblet cell adenocarcinoma in Japan: a multicenter retrospective study. *Surgery Today.* 53 (2) : 174–181, 2023

Ⅶ. 3.10 乳腺外科

1. 御勢文子, 奥野敏隆 : 乳がん検診精検報告書作成マニュアルに基づく精密検査の現状. *乳癌の臨床* 37 (6) : 479–485, 2022
2. 奥野敏隆 : 第 11 章 イメージング・画像診断 4. 乳房超音波診断のコツ. *乳癌診療 state of the art 科学に基づく最新診療*, 戸井雅和編, 医歯薬出版, 東京, 220–224, 2022

Ⅶ. 3.11 脳神経外科

1. Mizowaki T, Hosoda K, Inoue S, Kuroda R, Kurihara E : Pseudo-continuous arterial spin labeling with short post-labeling delay time sensitively reflects the hemodynamics of symptomatic patients with permanent large vessel occlusion before and after revascularization. *The Neuroradiology Journal*, 35 (6) : 706–712, 2022, (DOI:10.1177/19714009221096826)
2. Hosoda K, Imahori T, Tanaka K, Uno T, Nakai T, Kohta M, Fujita A, Sasayama T : Contribution of Endoplasmic Reticulum Stress to the Clinical Instability of Carotid Plaques in Human Carotid Stenosis. *Transl Stroke Res.* 13 (3) : 420–431, 2022, (DOI:10.1007/s12975-021-00968-4)
3. Ikeuchi Y, Ashida N, Nishihara M, Hosoda K : Successful Thrombectomy for Endocarditis-Related Stroke in a Very Young Patient: Illustrative Case. *Journal of Neuroendovascular Therapy.* 16 (8) : 402–408, 2022
4. Yamashita S, Kohta M, Hosoda K, Tanaka J, Matsuo K, Kimura H, Tanaka K, Fujita A, Sasayama T : Absence of the Anterior Communicating Artery on Selective MRA is Associated with New Ischemic Lesions on MRI after Carotid Revascularization. *American Journal of Neuroradiology.* 43 (8) : 1124–1130, 2022

- Ikeuchi Y, Nishihara M, Ashida N, Hosoda K : Von Hippel-Lindau disease with intracranial hemorrhage due to arteriovenous anastomosis via multiple spinal hemangioblastomas: illustrative case. *Journal of Neurosurgery Case Lessons*. 4 (26) : CASE22375, 2022

VII. 3. 12 呼吸器外科

- Kabuto T, Omasa M, Nagata S, Tokushige K, Adachi T, Nakanishi T, Motoyama H : The effect of polyglycolic acid sheet in preventing postoperative recurrent pneumothorax: a prospective cohort study. *Journal of Cardiothoracic Surgery*. 18 (1) : 13, 2023, (DOI:10.1186/s13019-023-02111-w)
- 大政 貢:肺癌診療ガイドラインー悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む 2022年版, 日本肺癌学会編, 金原出版, 東京, 2022
- 大政 貢, 日本呼吸器外科学会: 膿胸治療ガイドライン, 2023

VII. 3. 13 皮膚科

- 福満祥子, 新川衣里子, 鷺尾 健, 明石健吾, 岡野隆一, 千藤 莊, 森信暁雄, 小野竜輔, 永井 宏, 錦織千佳子: 抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎の3例における褥瘡所見. *西日本皮膚科* 84 (2) : 121-125, 2022, (DOI:https://doi.org/10.2336/nishinonhifu.84.121)
- 熊谷 淳, 中村文香, 小川 聡, 鷺尾 健, 田中康博, 大西 輝, 新里偉咲, 池町真美, 瀨瀬力也, 浅井沙月, 橋本公夫, 石原美佐: 皮膚非結核性抗酸菌症の2例. *皮膚科の臨床* 64 (6) : 1120-1124, 2022, (DOI:https://doi.org/10.18888/hi.0000003349)
- 飯田裕里佳, 熊谷 淳, 小川 聡, 橋本公夫, 石原美佐, 鷺尾 健: lichen planus pemphigoides. *皮膚病診療* 44 (10) : 886-889, 2022, (DOI:https://doi.org/10.24733/pd.0000003043)
- Fukunaga A, Oda Y, Imamura S, Mizuno M, Fukumoto T, Washio K : Cholinergic Urticaria: Subtype Classification and Clinical Approach. *Am J Clin Dermatol*. 24 (1) : 41-54, 2023, (DOI:10.1007/s40257-022-00728-6)
- Mizuno M, Oda Y, Imamura S, Washio K, Fukumoto T, Fukunaga A : IgE receptor responsiveness of basophils in chronic inducible urticaria. *Front Immunol*. 13 : 995596, 2022, (DOI:10.3389/fimmu.2022.995596)
- Kitao R, Oda Y, Washio K, Tai Y, Ono R, Nishigori C, Fukunaga A : Lower efficacy of omalizumab in older adults with chronic spontaneous urticaria. *J Dermatol*. 49 (7) : 729-731, 2022, (DOI:10.1111/1346-8138.16370)

VII. 3. 14 泌尿器科

- 大城碩輝, 清水洋祐, 中保良太, 山口立樹, 請田翔子, 宇都宮紀明, 浅井沙月, 勝嶋浩紀, 石原美佐, 橋本公夫, 金丸聰淳: 陰茎に多発した神経鞘腫の1例. *泌尿器科紀要* 68 (10) : 327-331, 2022, (DOI:10.14989/ActaUrolJap_68_10_327)
- Oshiro H, Shimizu Y, Nakayasu R, Utsunomiya N, Asai S, Ishihara M, Hashimoto K, Katsushima H, Kanamaru S: Myopericytoma in the corpus cavernosum of the penis: A case report of a rare disease. *IJU Case Rep*. 6 (3) : 181-184, 2023, (DOI:10.1002/iju5.12583)
- 山口立樹, 清水洋祐, 中保良太, 宇都宮紀明, 金丸聰淳, 石原美佐, 橋本公夫: 多発性骨髄腫の治療中に診断された膀胱形質細胞腫の1例. *泌尿器科紀要* 68 (5) : 149-153, 2022, (DOI:10.14989/ActaUrolJap_68_5_149)

VII. 3. 15 眼科

- 山本昭成, 吉田章子, 永井遼司, 三河章子: 特集 第75回日本臨床眼科学会講演集 [4] ステロイドパルス療法を施行した強膜炎の2例. *臨床眼科* 76 (6) : 851 - 856, 2022
- Nagai R, Yamamoto A, Yoshida A, Mikawa A : Outcome of Nivolumab-Induced Vogt-Koyanagi-Harada Disease-Like Uveitis in a Patient Managed without Intravenous Methylprednisolone Therapy. *Case Reports in Ophthalmological Medicine*. 2023 : 9565205, 2023

VII. 3. 16 耳鼻いんこう科

- 清水昭一郎, 栗倉秀幸, 山本一宏: 当科で経験した副耳下腺腫瘍の3例. *耳鼻咽喉科・頭頸部外* 95 (2) : 182-187, 2023, (DOI:https://doi.org/10.11477/mf.1411203255)

Ⅶ. 3. 17 形成外科

1. 土屋篤司, 平位恵梨, 近藤千紗, 小熊 孝: 結核の再燃により大腿結核性筋炎を生じて膿瘍切除を要した1例. 日形会誌 43 (1): 18-23, 2023

Ⅷ. 3. 18 放射線診断科

1. Nishio M, Kobayashi D, Nishioka E, Matsuo H, Urase Y, Onoue K, Ishikura R, Kitamura Y, Sakai E, Tomita M, Hamanaka A, Murakami T: Deep learning model for the automatic classification of COVID-19 pneumonia, non-COVID-19 pneumonia, and the healthy: a multi-center retrospective study. *Sci Rep.* 12 (1): 8214, 2022, (DOI:10.1038/s41598-022-11990-3)
2. Gobara A, Katsube T, Asou H, Yoshida R, Yoshizako T, Kitagaki H: T2 hypointense signal discovered incidentally at the posterior edge of the adenohypophysis on MRI: its prevalence and morphology and their relationship to age. *Neuroradiology.* 64 (9): 1755-1761, 2022, (DOI:10.1007/s00234-022-02935-8)
3. Okamura K, Yoshida R, Yoshizako T, Kitagaki H: Pseudohemothorax induced by residual contrast medium mimicking aortic dissection rupture. *Acta Radiologica Open.* 11 (4): 20584601221097468, 2022, (DOI:10.1177/20584601221097468)
4. Tanaka S, Yoshida R, Yoshizako T, Kitagaki H: Clinicoradiological Characteristics of Gastric Metastases: A Single Center Retrospective Study. *Cureus.* 14 (10): e30825, 2022, (DOI:10.7759/cureus.30825)
5. Maruyama M, Yoshizako T, Yoshida R, Nakamura M, Tajima Y, Kitagaki H: Increased future liver function after modified associating liver partition and portal vein ligation/embolization for staged hepatectomy. *Acta Radiologica Open.* 11 (10): 20584601221134951, 2022, (DOI:10.1177/20584601221134951)

Ⅶ. 3. 19 病理診断科

1. 熊谷 淳, 中村文香, 小川 聡, 鷺尾 健, 田中康博, 大西 輝, 新里偉咲, 池町真美, 瀧瀬力也, 浅井沙月, 橋本公夫, 石原美佐: 皮膚非結核性抗酸菌症の2例. *皮膚科の臨床* 64 (6): 1120-1124, 2022, (DOI:https://doi.org/10.18888/hi.0000003349)
2. 山口立樹, 清水洋祐, 中保良太, 宇都宮紀明, 石原美佐, 橋本公夫, 金丸聰淳: 多発性骨髄腫の治療中に診断された膀胱形質細胞腫の1例. *泌尿器科紀要* 68 (5): 149-153, 2022, (DOI:10.14989/ActaUrolJap_68_5_149)
3. 大城硯輝, 清水洋祐, 中保良太, 山口立樹, 請田翔子, 宇都宮紀明, 浅井沙月, 勝冨浩紀, 石原美佐, 橋本公夫, 金丸聰淳: 陰茎に多発した神経鞘腫の1例. *泌尿器科紀要* 68 (10): 327-331, 2022, (DOI:10.14989/ActaUrolJap_68_10_327)
4. 飯田裕里佳, 熊谷 淳, 小川 聡, 橋本公夫, 石原美佐, 鷺尾 健: lichen planus pemphigoides. *皮膚病診療* 44 (10): 886-889, 2022, (DOI:https://doi.org/10.24733/pd.0000003043)

Ⅶ. 3. 20 歯科口腔外科

1. Maeda K, Hirai Y, Nashi M, Yamamoto S, Taniike N, Takenobu T: Clinical features and antimicrobial susceptibility of oral bacteria isolated from the blood cultures of patients with infective endocarditis. *Journal of dental sciences.* 17 (2): 870-875, 2022, (DOI:10.1016/j.jds.2021.09.023)
2. Watanabe K, Mitchell B, Sakamaki T, Hirai Y, Kim DG, Deguchi T, Suzuki M, Ueda K, Tanaka E: Mechanical stability of orthodontic miniscrew depends on a thread shape. *Journal of dental sciences.* 17 (3): 1244-1252, 2022, (DOI:10.1016/j.jds.2021.11.010)

Ⅶ. 3. 21 看護部

1. 宮井輝海: 気になる科の先輩に聞く! 臨床ナースのお仕事レポート集中治療室. *プチナース* 2022年9月号 31 (10): 6-8, 2022
2. 瀧澤紘輝: e-log ターニングポイントな1日 患者を生活者と捉え救急から患者を支えるために. *Emer-Log* 35 (4): 449, 2022
3. 瀧澤紘輝: 臨床推論に基づく看護過程事例 30 アナフィラキシー反応. 急性期判断のための気づきとアセスメント急性期看護, 道又元裕編, 中央法規出版, 東京, 324-329, 2022

4. 新井まゆ子：【タスクごとだからわかりやすい！ with コロナ時代に役立つ ICT 活動の進め方マニュアル】第 5 章 サーベイランス 4 SSI サーベイランス. インфекションコントロール 2022 夏増刊：239-247, 2022
5. 新井まゆ子：「自宅」という暮らしの場での感染対策の考え方とポイント. 訪問看護と介護 28 (1)：16-23, 2023

VII. 3. 22 薬剤部

1. 森 良江, 前万紀子, 堀 勇太, 中浴伸二, 森本茂文：フォーミュラー浸透のための段階的なアプローチの実施と医療従事者の意識変化. 日本病院薬剤師会雑誌 59 (2)：144-151, 2023

VII. 3. 23 リハビリテーション技術部

1. Kobayashi H, Inoue T, Ogawa M, Abe T, Tanaka T, Kakiuchi M：Malnutrition diagnosed by the Global Leadership Initiative on Malnutrition criteria as a predictor of gait ability in patients with hip fracture. *Injury*. 53(10)：3394-3400, (DOI:10.1016/j.injury.2022.08.004)
2. 垣内優芳, 笥 哲也, 田中利明, 海老名葵, 桜井稔泰：高齢肺炎患者の咳嗽時最大呼気流量に影響を及ぼす要因. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 30 (2)：223-227, 2022, (DOI:https://doi.org/10.15032/jsr.30.2_223)
3. 垣内優芳, 片岡紳一郎, 笥 哲也, 田中利明, 西原賢在：結核に対する理学療法の紹介. 理学療法ジャーナル 57 (1)：113-114, 2023, (DOI:https://doi.org/10.11477/mf.1551202928)
4. 垣内優芳, 井上達朗：高齢肺炎入院患者の自己排痰可否を判断する咳嗽力のカットオフ値の算出. 呼吸理学療法学 2 (1)：11-19, 2023, (DOI:https://doi.org/10.51116/kokyurigakuryohogaku.2.1_11)
5. 井上慎一, 内田智子, 西尾優也, 西原賢在：増刊号 こんなときどうする？ 運動器の作業療法ナビ 第 5 章 合併症としての運動器の問題 4 頭部外傷. OT ジャーナル 56 (8)：905-910, 2022

VII. 3. 24 感染防止対策室

1. Doi A, Iwata K, Nakamura T, Oh K, Isome K, Hasegawa K, Kuroda H, Hasuike T, Seo R, Kosai H, Nakanishi N, Nomoto R, Fujiyama R, Kusunoki N, Iwamoto T, Nishioka H, Tomii K, Kihara Y：Clinical outcomes of COVID-19 caused by the Alpha variant compared with one by wild type in Kobe, Japan. A multi-center nested case-control study. *J Infect Chemother*. 29 (3)：289-293, 2023, (DOI:10.1016/j.jiac.2022.11.014)
2. 中尾聡宏, 磯目賢一, 池町真実, 竹川啓史, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 堀 雅之, 岩田あや, 山口善道, 平海良美, 松原康策：市中型 ESBL 産生大腸菌尿路感染症での抗菌薬選択と治療反応性：地域中核病院における 20 年間の検討. 兵庫県小児科医会報 77：24-34, 2022
3. 夏木 茜, 堀 雅之, 松原康策, 太田悠介, 齋藤良一, 磯目賢一, 岩田あや, 池町真実, 竹川啓史, 山本 剛, 大楠美佐子, 石和田稔彦：基礎疾患のない3歳児に発症した *Moraxella catarrhalis* 菌血症. 感染症学雑誌 96(6)：240-244, 2022, (DOI:https://doi.org/10.11150/kansenshogakuzasshi.96.240)
4. 新井まゆ子：特集 暮らしを支えるケアと感染対策：実践！コロナの自宅療養者への訪問 「自宅」という暮らしの場での感染対策の考え方とそのポイント. 訪問看護と介護 28 (1)：16-23, 2023
5. 新井まゆ子：特集 With コロナにおける 管理職とスタッフのメンタルヘルス支援；コロナ禍での感染対策と倫理 コロナ禍で継続可能な倫理的な感染対策の在り方. 看護展望 48 (3)：227-230, 2023

VII. 4 神戸アイセンター病院

VII. 4.1 診療部

1. Maeda T, Mandai M, Sugita S, Kime C, Takahashi M : Strategies of pluripotent stem cell-based therapy for retinal degeneration: update and challenges. *Trends Mol Med.* 28 (5) : 388-404, 2022, (DOI:10.1016/j.molmed.2022.03.001)
2. Sakai D, Fujihara M, Yokota S, Nakamura M, Kurimoto Y : One-year outcomes and predictable factors for microhook ab interno trabeculotomy. *Int J Ophthalmol.* 15 (4) : 598-603, 2022, (DOI:10.18240/ijo.2022.04.12)
3. 吉水 聡 : 眼圧負荷試験. 新篇眼科プラクティス1 スッキリわかる緑内障の検査と診断, 稲谷 大編, 第1版, 文光堂, 東京, 70-71, 2022
4. 栗本康夫 : 隅角鏡検査・隅角所見分類. 新篇眼科プラクティス1 スッキリわかる緑内障の検査と診断, 稲谷 大編, 第1版, 文光堂, 東京, 92-93, 2022
5. Sakai D, Demoto S, Iwai Y, Hirami Y, Nakamura M, Kurimoto Y : Comparison of the Accuracy of Intraoperative Aberrometry in Intraocular Lens Implantation Between Myopic Eyes with Emmetropia and Myopia Targets. *Clin Ophthalmol.* 16 : 1165-1171, 2022, (DOI:10.2147/OPHTH.S363228)
6. Yamamoto T, Sato Y, Yasuda S, Shikamura M, Tamura T, Takenaka C, Takasu N, Nomura M, Dohi H, Takahashi M, Mandai M, Kanemura Y, Nakamura M, Okano H, Kawamata S : Correlation Between Genetic Abnormalities in Induced Pluripotent Stem Cell-Derivatives and Abnormal Tissue Formation in Tumorigenicity Tests. *Stem Cells Transl Med.* 11 (5) : 527-538, 2022, (DOI:10.1093/stcltm/szac014)
7. Sakai D, Takagi S, Totani K, Yamamoto M, Matsuzaki M, Yamanari M, Sugiyama S, Yokota S, Maeda A, Hirami Y, Mandai M, Takahashi M, Nakamura M, Kurimoto Y : Retinal pigment epithelium melanin imaging using polarization-sensitive optical coherence tomography for patients with retinitis pigmentosa. *Sci Rep.* 12 (1) : 7115, 2022, (DOI:10.1038/s41598-022-11192-x)
8. Shah SH, Schiapparelli LM, Yokota S, Ma Y, Xia X, Shankar S, Saturday S, Nahmou M, Sun C, Yates JR 3rd, Cline HT, Goldberg JL : Quantitative BONCAT Allows Identification of Newly Synthesized Proteins after Optic Nerve Injury. *J Neurosci.* 42 (19) : 4042-4052, 2022, (DOI:10.1523/JNEUROSCI.3100-20.2022)
9. 栗本康夫 : iPSC細胞を用いた網膜の再生医療. 兵庫県眼科医会 創立70周年記念誌 : 7, 2022
10. 栗本康夫 : 手術 : 網膜色素上皮移植術. <眼科臨床エキスパート> 黄斑疾患診療 A to Z, 岸 章治, 吉村長久編, 第2版, 東京, 医学書院, 271-274, 2022
11. 伊藤晋一郎 : 知っておきたい眼科疾患の病態と薬物治療 感染性角結膜炎. 調剤と情報 2022年9月号 28(12) : 42-47, 2022
12. 宇山紘史 : 知っておきたい眼科疾患の病態と薬物治療 糖尿病網膜症. 調剤と情報 2022年9月号 28(12) : 36-41, 2022
13. 栗本康夫 : 超音波生体顕微鏡 Ultrasound biomicroscope: UBM. 今日の眼疾患治療指針, 大路正人, 後藤 浩, 山田昌和, 根岸一乃, 石川 均, 相原 一編, 第4版, 医学書院, 東京, 67-69, 2022
14. 栗本康夫 : 閉塞隅角緑内障への手術 Surgery for angle closure glaucoma. 今日の眼疾患治療指針, 大路正人, 後藤 浩, 山田昌和, 根岸一乃, 石川 均, 相原 一編, 第4版, 医学書院, 東京, 292-296, 2022
15. 栗本康夫 : 急性原発閉塞隅角緑内障 Acute primary angle closure glaucoma: APACG. 今日の眼疾患治療指針, 大路正人, 後藤 浩, 山田昌和, 根岸一乃, 石川 均, 相原 一編, 第4版, 医学書院, 東京, 782-785, 2022
16. 栗本康夫 : 慢性原発閉塞隅角緑内障 Chronic primary angle closure glaucoma: CPACG. 今日の眼疾患治療指針, 大路正人, 後藤 浩, 山田昌和, 根岸一乃, 石川 均, 相原 一編, 第4版, 医学書院, 東京, 785-787, 2022
17. 吉水 聡, 栗本康夫 : 目で見えるシリーズ 画像でみる緑内障の病態 第19回緑内障診療ガイドライン改訂を踏まえた原発閉塞隅角病の治療方針, 前眼部画像評価. *Frontiers in Glaucoma* 64 : 1-5, 2022
18. Akiba R, Takahashi M, Baba T, Mandai M : Progress of iPSC cell-based transplantation therapy for retinal diseases. *Jpn J Ophthalmol.* 67 (2) : 119-128, 2023, (DOI:10.1007/s10384-022-00974-5)
19. Noro T, Shah SH, Yin Y, Kawaguchi R, Yokota S, Chang KC, Madaan A, Sun C, Coppola G, Geschwind D, Benowitz LI, Goldberg JL : Elk-1 regulates retinal ganglion cell axon regeneration after injury. *Sci Rep.* 12 (1) : 17446, 2022, (DOI:10.1038/s41598-022-21767-3)

20. 酒井大輝, 前田忠郎, 高橋政代: 加齢黄斑変性治療における iPSC 細胞移植実用化への課題. *Prog Med* 42 (11): 1045-1049, 2022
21. Uyama H, Tu H-Y, Sugita S, Yamasaki S, Kurimoto Y, Matsuyama T, Shiina T, Watanabe T, Takahashi M, Mandai M: Competency of iPSC-derived retinas in MHC-mismatched transplantation in nonhuman primates. *Stem Cell Reports*. 17 (11): 2392-2408, 2022, (DOI:10.1016/j.stemcr.2022.09.014)
22. Sakai D, Tomita H, Maeda A: Optogenetic Therapy for Visual Restoration. *Int.J.Mol.Sci.* 23: 15041, 2022, (DOI:10.3390/ijms232315041)
23. 横田 聡, 仲泊 聡: 身体障害者診断・意見書の書き方 (視覚障害者用). *あたらしい眼科* 39 (499): 52-55, 2022
24. Georges A, Lavergne A, Mandai M, Lepiemme F, Karim L, Demeulenaere L, Aguilar D, Schyns M, Nguyen L, Rakic JM, Takahashi M, Georges M, Takeda H: Comparing the transcriptome of developing native and iPSC-derived mouse retinæ by single cell RNA sequencing. *Sci Rep.* 13: 1223, 2023, (DOI:10.1038/s41598-023-28429-y)
25. Watari K, Yamasaki S, Tu HY, Shikamura M, Kamei T, Adachi H, Tochitani T, Kita Y, Nakamura A, Ueyama K, Ono K, Morinaga C, Matsuyama T, Sho J, Nakamura M, Fujiwara M, Hori Y, Tanabe A, Hirai R, Terai O, Ohno O, Ohara H, Hayama T, Ikeda A, Nukaya D, Matsushita K, Takahashi M, Kishino A, Kimura T, Kawamata S, Mandai M, Kuwahara A: Self-organization, quality control, and preclinical studies of human iPSC-derived retinal sheets for tissue-transplantation therapy. *Commun Biol.* 6 (1): 164, 2023, (DOI:10.1038/s42003-023-04543-5)
26. 栗本康夫: 神戸アイセンターの5年間. *日本の眼科* 93 (12): 1684-1686, 2022
27. 横田 聡: 網膜色素変性. *あたらしい眼科* 39 (12): 17-19, 2022
28. 栗本康夫: 再生医療学. <視能学エキスパート> 視能訓練学, 若山暁美, 長谷部佳世子, 松本富美子, 保沢こずえ, 梅田千賀子編, 第2版, 医学書院, 東京, 417-422, 2023
29. 宮崎稚子, 藤原雅史, 山本庄吾, 吉水 聡, 横田 聡, 宇山紘史, 松崎光博, 酒井大輝, 広瀬文隆, 栗本康夫: マイクロフック線維柱帯切開術眼内法術後のゴニオスコープ GS-1 により観察された隅角所見と眼圧の検討. *あたらしい眼科* 40 (2): 248-251, 2023
30. Sakai D, Takagi S, Hirami Y, Nakamura M, Kurimoto Y: Use of ellipsoid zone width for predicting visual prognosis after cataract surgery in patients with retinitis pigmentosa. *Eye (Lond).* 37(1): 42-47, 2023, (DOI:10.1038/s41433-021-01878-3)
31. Sakai D, Yamamoto S, Yoshimizu S, Hirose F, Fujihara M, Nakamura M, Kurimoto Y: Ten-year outcomes of cataract surgery for glaucoma management in patients with primary angle-closure disease. *Jpn J Ophthalmol.* 67(2): 129-137, 2023, (DOI:10.1007/s10384-022-00971-8)
32. Sakai D, Hiraoka M, Matsuzaki M, Yokota S, Hirami Y, Onishi A, Nakamura M, Takahashi M, Kurimoto Y, Maeda A: Genotype and phenotype characteristics of RHO-associated retinitis pigmentosa in the Japanese population. *Jpn J Ophthalmol.* 67 (2): 138-148, 2023, (DOI:10.1007/s10384-023-00975-y)
33. 吉水 聡, 栗本康夫: 原発閉塞隅角症疑い(PACS)に治療介入は必要か? *メディカル・ビューポイント(MVP)* 44 (3): 12, 2023
34. Yokota S, Shah SH, Huie EL, Wen RR, Luo Z, Goldberg JL: Kif5a Regulates Mitochondrial Transport in Developing Retinal Ganglion Cells In Vitro. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 64 (3): 4, 2023, (DOI:10.1167/iovs.64.3.4)
35. 宮崎稚子, 藤原雅史: 目で見るシリーズ 画像でみる緑内障の病態 第20回 マイクロフック線維柱帯切開術眼内法術後のゴニオスコープ GS-1® により観察された隅角所見と眼圧の検討. *Frontiers in Glaucoma* 5: 1-6, 2023

VII. 4.2 薬剤部

1. 室井延之: 眼科疾患における薬物治療の進歩と薬剤師連携. *調剤と情報* 2022年9月号 28 (12): 8-11, 2022
2. 林 実穂: 点眼剤の製剤的特性. *調剤と情報* 2022年9月号 28 (12): 12-17, 2022
3. 平野達也: 知っておきたい眼科疾患の病態と薬物治療 緑内障. *調剤と情報* 2022年9月号 28 (12): 18-27, 2022

4. 奥吉博之：知っておきたい眼科疾患の病態と薬物治療 加齢黄斑変性. 調剤と情報 2022年9月号 28(12) : 28-35, 2022
5. 宮坂萌菜：患者からよく聞かれる質問 Q & A. 調剤と情報 2022年9月号 28(12) : 53-60, 2022
6. 柴谷直樹：ロービジョン患者への服薬支援. 調剤と情報 2022年9月号 28(12) : 60-66, 2022

VIII. 学 会 報 告

Ⅷ. 学 会 報 告

Ⅷ. 1 中央市民病院

Ⅷ. 1. 1 循環器内科

1. 小堀敦志：持続性心房細動に対する Cryoballoon Ablation- 当院における治療経験から -. Cryo web Conference, Zoom 配信, 2022.4.1
2. 滋野 稔, 岡田大司, 村井亮介, 谷 知子, 古川 裕：完全房室ブロックを呈した心臓原発悪性リンパ腫に対して腫瘍摘出術と心外膜ペースメーカー留置を行った一例. 日本心エコー図学会第 33 回学術集会, 米子, ハイブリッド開催, 2022.4.8-10
3. 一柳知宏, 岡田大司, 中村葉奈, 滋野 稔, 村井亮介, 金 基泰, 古川 裕, 小山忠明, 谷 知子：経食道心エコー図検査で無冠尖の消失を確認しえた亜急性大動脈弁閉鎖不全症の一例. 日本心エコー図学会第 33 回学術集会, 米子, ハイブリッド開催, 2022.4.8-10
4. 中村葉奈, 岡田大司, 香原美咲, 一柳知宏, 滋野 稔, 村井亮介, 金 基泰, 谷 知子, 古川 裕：経胸壁心エコー図検査が治療方針決定に有用であったびまん性大細胞性B細胞性リンパ腫心臓浸潤の 1 例. 日本心エコー図学会第 33 回学術集会, 米子, ハイブリッド開催, 2022.4.8-10
5. 江原夏彦：生体弁SVDに対するTAVIでの Valve in Valve / ビデオライブ『AVRにおける各種弁輪拡大の詳細』, 近畿心血管治療ジョイントライブ (KCJL) 2022, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
6. 小堀敦志：持続性心房細動に対する Cryoballoon Ablation- 当院における治療経験から -. Cryo Ablation for Persistent (CAP), WEB 配信, 2022.4.20
7. 江原夏彦：ガイドラインに基づく弁膜症診療および SGLT2 阻害薬の使い方. Structural Heart Disease Conference, Zoom 配信, 2022.4.27
8. 谷口智彦：実際の症例から見えてきた AS 診療で役立つ 4 つのポイント. Structural Heart Disease Conference, Zoom 配信, 2022.4.27
9. 滋野 稔, 豊田俊彬, 日笠幸一郎, 中邨智之, 古川 裕：MYH7 遺伝子の同一コドン内に隣接する二つのミスセンス変異を認めた肥大型心筋症合併妊娠の一例. 第 8 回日本心筋症研究会, 高知, 2022.5.14
10. 畑秀治, 中村 聡, 越村之貴, 高橋哲哉, 板持貴久, 坂地一朗, 金 基泰：遠隔モニタリングシステムのアラート送信設定を工夫しリード追加を回避できた 1 症例. 第 32 回日本臨床工学会及び令和 4 年度公益社団法人日本臨床工学技士会総会, つくば, ハイブリッド開催, 2022.5.14
11. 谷口智彦：PCI 関連の最新トピックス～適応, short DAPT, 進化する PCI テクニック～. 神戸循環器疾患治療 Web セミナー, Zoom 開催, 2022.5.18
12. 谷口智彦：TAVI 導入で劇的に変化した大動脈弁狭窄症診療をアップグレードする～どの患者が危ない? どうなったら紹介? ほっといてよい?～. 神戸循環器疾患連携 Seminar, 和歌山, ハイブリッド開催, 2022.5.18
13. 谷口智彦：EvolutPRO+ でなんとか TAVI を行った症例 with 抗血栓療法. KTAVI, Zoom 配信, 2022.5.20
14. 小堀敦志：Cryo を用いた持続性心房細動の治療戦略. Cryo Ablation Web Conference, WEB 配信, 2022.5.20
15. 岡田大司, 小堀敦志, 香原美咲, 長野真弥, 鳥居裕太, 松岡京子, 宮川祥治, 菅沼直生子, 谷 知子, 古川 裕：CHADS2 score 低値の心房細動患者における左心耳血流と HFA-PEFF score の関連. 日本超音波医学会第 95 回学術集会, 名古屋, 2022.5.21
16. 江原夏彦：ガイドラインに基づく弁膜症診療および SGLT2 阻害薬の使い方. Structural Heart Disease Conference, Zoom 配信, 2022.5.21
17. 金 基泰：日常診療に潜む大動脈弁狭窄症の診断のポイントと最新の治療. Structural Heart Disease Conference, Zoom 配信, 2022.5.21
18. 宮川祥治, 岡田大司, 宮脇規壽, 菅沼直生子, 松岡京子, 鳥居裕太, 香原美咲, 長野真弥, 谷 知子, 古川 裕：感染性心内膜炎により右室自由壁に疣腫を認めた心室中隔欠損症の 1 例. 日本超音波医学会第 95 回学術集会, 名古屋, 2022.5.22
19. 古川 裕：依存症・出血リスクを重視した PCI 後の抗血栓治療. 循環器診療フォーラム in 長崎～健康寿命の延伸を目指して～, WEB 配信, 2022.5.23

20. Sasaki Y, Takahashi Y, Kobori A, Nitta J, Sakamoto Y, Nagata Y, Tanimoto K, Matsuo S, Yamane T, Morita N, Satomi K, Inaba O, Goya M, Sasano T : Efficacy and Safety of Catheter Ablation Therapy for Atrial Fibrillation in Heart Failure Patients: A Subanalysis from ALCOHOL-AF Study. 第 68 回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2022.6.8
21. Ishikura M, Kobori A, Sasaki Y, Furukawa Y : Comparison of a Novel Motor-Driven Endoscopic-Guide Laser Balloon Ablation System and Conventional System in Japanese Clinical Practice. 第 68 回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2022.6.9
22. 佐々木康博：無症候性心房細動をアブレーション目的で紹介するべきか Cons の立場から. 第 68 回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2022.6.9
23. 島田和典, 横山美帆, 代田浩之, 福間長知, 大屋祐輔, 三浦伸一郎, 牛島明子, 木田圭亮, 坂田泰彦, 長山雅俊, 古川 裕, 三浦正暢, 伊東秀崇, 後藤葉一, 牧田 茂:心臓リハビリテーション学会レジストリー (The Japanese Association of Cardiac Rehabilitation Registry: J-CARRY study) の現状と今後の展望. 第 28 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 宜野湾, ハイブリッド開催, 2022.6.11-12
24. 横山美帆, 島田和典, 代田浩之, 福間長知, 大屋祐輔, 三浦伸一郎, 牛島明子, 木田圭亮, 坂田泰彦, 長山雅俊, 古川 裕, 三浦正暢, 伊東秀崇, 後藤葉一, 牧田 茂:心臓リハビリテーション学会レジストリー研究 (The Japanese Association of Cardiac Rehabilitation Registry: J-CARRY study) の進捗状況および今後の展望について. 第 28 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 宜野湾, ハイブリッド開催, 2022.6.11-12
25. 谷口智彦：当院での二尖弁 Strategy 弁の選択と留置方法. 第 14 回ストラクチャークラブ・ジャパン近畿・中四国支部会, WEB 開催, 2022.6.11
26. 岡田大司：治療方針決定に難渋した呼吸不全の一例. 第 4 回神戸港島肺高血圧セミナー, Zoom 配信, 2022.6.17
27. 谷口智彦：大動脈弁狭窄症の診断と治療：CURRENT AS Registry を踏まえて 第 59 回近畿支部循環器専門医のための教育セッション. 第 133 回日本循環器学会近畿地方会, WEB 開催, 2022.6.18
28. 佐野野香, 江原夏彦, 石村亮治, 石倉正大, 村井亮介, 岡田大司, 豊田俊彬, 佐々木康博, 谷口智彦, 金 基泰, 小堀敦志, 木下 慎, 古川 裕：心不全治療中に発症した SGLT2 阻害薬による正常血糖ケトアシドーシスの 2 症例. 第 133 回日本循環器学会近畿地方会, WEB 開催, 2022.6.18
29. 滋野 稜, 小堀敦志, 古川 裕：心房細動による機能性僧帽弁逆流症に対してカテーテルアブレーションが有用であった一例. 第 133 回日本循環器学会近畿地方会, WEB 開催, 2022.6.18
30. 中村葉奈, 岡田大司, 西野彰悟, 村井亮介, 石倉正大, 豊田俊彬, 佐々木康博, 谷口智彦, 金 基泰, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 原 重雄, 古川 裕：Multimodality imaging が早期診断および治療に有用であった滑膜肉腫の一例. 第 133 回日本循環器学会近畿地方会, WEB 開催, 2022.6.18
31. 江原夏彦：出血リスクを意識した抗血栓薬の使い方～漫然と続けていませんか？～かかりつけ医の抗血小板療法を考える, Zoom 配信, 2022.6.22
32. 古川 裕：超高齢者会で求められる心不全治療～地域連携、心房細動の管理から新規治療薬まで～. 地域連携の会～Cardio Renal Management を考える～, WEB 配信, 2022.6.23
33. 古川 裕：超高齢者会における心不全診療の二つの柱～地域連携と薬物治療～. ペリキューボ錠 Web conference, Zoom 配信, 2022.6.24
34. 金 基泰：PCI 後の抗血栓療法. The Heart -For the future of Hyogo-, WEB 配信, 2022.6.30
35. 小堀敦志：持続性心房細動の治療戦略について. Atria Fibrillation Summit, WEB 配信, 2022.7.1
36. 古川 裕：今日の心不全治療～薬物治療・非薬物治療・地域連携～. かかりつけ医のための診断と治療～高血圧診療 Up to Date ～, Zoom 配信, 2022.7.7
37. 岡田大司：プライマリケア医のための心不全 Update. Non-Communicable Diseases Conference, Zoom 配信, 2022.7.14
38. 小堀敦志：レーザーバルーンの実力. 南九州 X3 フォーラム, Zoom 配信, 2022.7.14
39. 滋野 稜, 岡田大司, 江原夏彦, 木下 慎, 金 基泰, 谷口智彦, 豊田俊彬, 村井亮介, 石倉正大, 古川 裕：経カテーテル大動脈弁置換術後の高度心房性僧帽弁逆流症に対する早期の MitraClip が有効であった一例. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (CVIT 2022), 横浜, ハイブリッド開催, 2022.7.21-23

40. 江原夏彦：生体弁機能不全に対する自己拡張型経カテーテル大動脈弁留置時にフレームの折り畳み現象を認めた一例. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (CVIT 2022), 横浜, ハイブリッド開催, 2022.7.22
41. 小堀敦志：持続性心房細動の治療戦略について. Catheter Ablation Summit, WEB 配信, 2022.7.22
42. 小堀敦志：Cryo を用いた持続性心房細動の治療戦略. Cryo Ablation Web Conference, WEB 配信, 2022.8.3
43. 小堀敦志：Cryo を用いた持続性心房細動の治療戦略. Cryo Ablation Summit, WEB 配信, 2022.8.5
44. Sano M, Toyota T, Morimoto T, Okada T, Sasaki Y, Taniguchi T, Kim K, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Doi A, Tomii K, Kihara Y, Furukawa Y, Kobe City Medical Center General Hospital COVID-19 team : Prediction of clinical outcomes in patients with coronavirus disease 2019 using high-sensitive troponin I and N-terminal pro-B-type natriuretic peptide. European Society of Cardiology (ESC Congress 2022), Barcelona, Spain, Hybrid, 2022.8.26-29
45. 小堀敦志：持続性心房細動に対する Cryoablation ～当院における治療経験から～. Cryo Balloon Web Symposium, Zoom 配信, 2022.8.31
46. 山田莞爾, 岩田健太郎, 鄭 浩柄, 横山璃奈, 本田明広, 古川 裕, 幸原伸夫：肝臓リハビリテーションにより運動耐容能の改善が得られた多発肝細胞癌の 1 例. 第 41 回日本臨床運動療法学会学術集会, 東京, 2022.9.4
47. 滋野 稜, 江原夏彦, 豊田俊彬, 谷口智彦, 岡田大司, 中村 健, 小山忠明：経上行大動脈経カテーテル大動脈弁置換術中に上行大動脈解離を発生した一例. ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション 2022, 岡山, 2022.9.9
48. 岡田大司：Low-gradient AS の治療適応：ジョイントセッション「若手心エコーフェローの会 presents ～ Young SHD heart team で議論する、SHD 治療における Clinical Question ～」. ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション 2022, 岡山, 2022.9.10
49. 小堀敦志：Cryo バルーンの治療戦略について. CRYO Start Up, Zoom 配信, 2022.9.16
50. 小堀敦志：腎不全患者における心房細動マネジメント～新たなる左心耳血栓治療デバイス～. 第 5 回神戸腎臓病診療を考える会, 2022.9.22
51. 小堀敦志：Cryo を用いた持続性心房細動の治療戦略. Cryo Web Discussion, WEB 配信, 2022.10.5
52. 谷口智彦：重症 AS 透析患者の治療の現状 CURRENT AS Registry からの知見. 第 75 回日本胸部外科学会定期学術集会, 横浜, 2022.10.5-8
53. 長谷川雄平, 村井亮介, 石倉正大, 岡田大司, 豊田俊彬, 佐々木康博, 谷口智彦, 金 基泰, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕：左冠動脈主幹部にステント留置を行った広範囲特発性冠動脈解離の一例. 第 39 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 豊中, ハイブリッド開催, 2022.10.8
54. 谷口智彦：インターベンション医が困るシチュエーション別に考える TAVI 治療戦略. 第 39 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 豊中, ハイブリッド開催, 2022.10.8
55. 岸中日幸, 鳥居裕太, 井川彩加, 中原千裕, 宮川祥治, 菅沼直生子, 岡田大司, 原 重雄, 谷 知子, 古川裕：心嚢内悪性リンパ腫の一例. 日本超音波医学会第 49 回関西地方学術集会, 大阪, 2022.10.8
56. 香原美咲, 鳥居裕太, 岡田大司, 宮川祥治, 菅沼直生子, 川井順一, 谷 知子, 古川 裕：心筋梗塞後に繰り返す心膜炎を心臓超音波検査にて経過観察し得た一例. 日本超音波医学会第 49 回関西地方学術集会, 大阪, 2022.10.8
57. 鳥居裕太, 岡田大司, 滋野 稜, 岡崎徳良, 長野真弥, 香原美咲, 宮川祥治, 菅沼直生子, 谷 知子, 古川裕：心拍変動に伴う僧帽弁逆流の変化を確認できたたこつぼ症候群の一例. 日本超音波医学会第 49 回関西地方学術集会, 大阪, 2022.10.8
58. 濱野 葵, 中村菜奈, 鳥居裕太, 大畑淳子, 菅沼直生子, 宮川祥治, 岡田大司, 原 重雄, 谷 知子, 古川裕：心膜滑膜肉腫の一例. 日本超音波医学会第 49 回関西地方学術集会, 大阪, 2022.10.8
59. 小堀敦志：持続性心房細動の治療戦略について. CRYO ABLATION WEB CONFERENCE, WEB 配信, 2022.10.12
60. 小堀敦志：Cryo を用いた持続性心房細動の治療戦略. Cryo Balloon Ablation Summit, WEB 配信, 2022.10.14
61. 古川 裕：高血圧を意識した心肺運動負荷試験 (CPX) と運動処方. 第 44 回日本高血圧学会総会, 京都, 2022.10.15

62. 小堀敦志：Cryo を用いた持続性心房細動の治療戦略。Freeze Summit #2, WEB 配信, 2022.10.18
63. 小堀敦志：持続性心房細動に対する Cryoablation- 当院における治療経験から。Cryo Web education, WEB 配信, 2022.10.19
64. 石倉正大：持続性心房細動へのストラテジー～当院の治療成績から～。Medtronic WEB 講演会 SPICY LINKS, WEB 配信, 2022.10.20
65. Murai R, Ishikura M, Okada T, Sasaki Y, Toyota T, Taniguchi T, Kim K, Ehara N, Kobori A, Kinoshita M, Furukawa Y：Current clinical usage of SGLT2 inhibitors and association to urinary findings in acute heart failure patient. 第 26 回日本心不全学会学術集会, 奈良, ハイブリッド開催, 2022.10.21-23
66. 江原夏彦：TAVI の至適紹介タイミングについて～ AS 患者様のお悩み、疑問を紐解きます～。Improving AS Patient Pathway in 神戸, 神戸, 2022.10.23
67. 石倉正大：持続性心房細動へのストラテジー～当院の治療成績から～。New Generation Web Conference, WEB 配信, 2022.10.24
68. 江原夏彦：ガイドラインに基づく弁膜症診療および SGLT2 阻害薬の使い方。Structural Heart Disease Conference, Zoom 配信, 2022.10.26
69. 豊田俊彬：大動脈弁狭窄症の治療最前線。Structural Heart Disease Conference, Zoom 配信, 2022.10.26
70. Toyota T：Prediction of interference among the multiple devices and heart structure: Insights from a multi-fenestrated atrial septal defect case. CSI ASIA-PACIFIC 2022, Bangkok, Thailand, 2022.10.28-30
71. 佐々木康博：ポストクライオのトリセツ。第 2 回日本不整脈心電学会近畿支部地方会, 大阪, 2022.10.29
72. 前川嵩太, 尾原信行, 高杉純司, 藤原 悟, 岡田大司, 今村博敏, 川本未知, 太田剛史, 坂井信幸：心臓左房容積係数は頸動脈ステント留置術後低血圧を予測し得る。第 38 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.10
73. 江原夏彦：LMT-AMI の症例、重症 3 枝 AMI に対する PCI Case 16 重症 3 枝 ACS に対して外科、内科で治療方針が分かれた 1 例。第 8 回 Pan-Pacific Primary Angioplasty Conference2022 PACS22, WEB 開催, 2022.11.11
74. 江原夏彦：大動脈弁膜症に対する低侵襲カテーテル (TAVI) 治療の今後の展望。神戸循環器 Web Seminar, WEB 開催, 2022.11.14
75. 佐々木康博：持続性心房細動に対する治療戦略。Medtronic Web 講演会, Zoom 配信, 2022.11.17
76. 小堀敦志：クライオバルーンの有効活用について。CRYO EDUCATION, Zoom 配信, 2022.11.18
77. 谷口智彦：臨床医が困るシチュエーション別に考える弁膜症治療戦略。虚血性心疾患の地域連携を考える会, Zoom 配信, 2022.11.24
78. 江原夏彦：出血リスクを意識した抗血栓薬の使い方～なんとなく 2 剤続けていませんか？虚血性心疾患の地域連携を考える会, Zoom 配信, 2022.11.24
79. 石倉正大, 小堀敦志, 佐々木康博, 古川 裕：肺動脈から観察される肺動脈電位の臨床的意義についての検討。日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋季大会 2022, 新潟, 2022.11.24-26
80. 佐々木康博, 小堀敦志, 古川 裕：80 歳以上の高齢者への心房細動カテーテルアブレーションの再発予測因子の検討。日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋季大会 2022, 新潟, 2022.11.24-26
81. 古川 裕：高齢患者における心不全診療とリハビリ連携。第 17 回心臓血管リハビリテーションカンファレンス, 奈良, 2022.11.26
82. 小堀敦志：持続性心房細動に対する Cryoablation ～当院における治療経験から～。Cryo Web Conference, WEB 配信, 2022.11.29
83. 小堀敦志：Cryo を用いた持続性心房細動の治療戦略。Cryo Web Meeting, WEB 配信, 2022.12.2
84. 岡田大司：SHD 治療における心エコー図検査の役割。Cardiovascular Expert Web Seminar from Kobe, Zoom 配信, 2022.12.5
85. 江原夏彦：TAVI の至適紹介タイミングについて～ AS 患者様のお悩み、疑問を紐解きます～。Enhance AS Patient Pathway in 神戸, 神戸, 2022.12.8
86. 小堀敦志：持続性心房細動に対するクライオアブレーション。Cryo Web 講演会, WEB 配信, 2022.12.9
87. 岡田大司：呼吸困難症例 症例から学ぶ循環器診療の思考のプロセス。第 134 回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2022.12.10

88. 村井亮介：心サルコイドーシスを深掘りする 診断に困る症例. 第 134 回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2022.12.10
89. 松井佑太, 谷口智彦, 岡田大司, 江原夏彦, 木下 慎, 小堀敦志, 金 基泰, 佐々木康博, 豊田俊彬, 村井亮介, 石倉正大, 野口 祐, 滋野 稜, 上田晃平, 島袋誠地, 長谷川雄平, 古川 裕：Severe MR を併発した Paradoxical Low Flow Low Gradient Severe AS を精査し、TF-TAVI が著効した一例. 第 134 回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2022.12.10
90. 島袋誠地, 岡田大司, 坪田秀樹, 鎌田賢昇, 村井亮介, 豊田俊彬, 谷口智彦, 金 基泰, 小山忠明, 古川 裕：重症僧帽弁狭窄をきたした P.acnes による人工弁感染性心内膜炎の一例. 第 134 回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2022.12.10
91. 上田晃平, 谷口智彦, 島袋誠地, 松井佑太, 野口 祐, 滋野 稜, 村井亮介, 石倉正大, 岡田大司, 豊田俊彬, 佐々木康博, 金 基泰, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕：急性心筋梗塞治療後のフォローアップ中に Dressler 症候群を疑う心膜炎を発症した一例. 第 134 回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2022.12.10
92. 谷口智彦：TAVI 治療～これまでと、これから～. 天神京循環器内科セミナー 2022, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.12.10
93. 佐野円香：TAVI 中に生じた左冠動脈主幹部閉塞の一例. 天神京循環器内科セミナー 2022, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.12.10
94. 小堀敦志：持続性心房細動に対する Cryoablation ～当院における治療経験から～. Medtronic Web Conference, WEB 配信, 2022.12.13
95. 佐野円香：A combined approach using High-sensitive Troponin I and N-terminal pro-B-Type Natriuretic Peptide for risk stratification in Patients with Coronavirus disease 2019. 第 14 回 KCGH Forum, WEB 配信, 2022.12.17
96. 小堀敦志：Cryo を用いた持続性心房細動の治療戦略. Cryo Web Discussion, Zoom 配信, 2022.12.19
97. 松井佑太, 谷口智彦, 木下 慎, 長谷川雄平, 上田晃平, 島袋誠地, 滋野 稜, 野口 祐, 石倉正大, 村井亮介, 豊田俊彬, 岡田大司, 佐々木康博, 金 基泰, 江原夏彦, 小堀敦志, 古川 裕：右下腿コンパートメント症候群を合併した有痛性青股腫に対して下腿筋膜切開とカテーテル血栓吸引術にて救肢できた症例. 第 21 回京都心血管疾患フォーラム, 京都, ハイブリッド開催, 2023.1.7
98. 谷口智彦：急増する大動脈弁狭窄症の TAVI 治療戦略. 灘区医師会生涯教育学術講演会, WEB 配信, 2023.1.17
99. 江原夏彦：Life Time Management ～EvolutTM の使い方～. 第 40 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 豊中, ハイブリッド開催, 2023.2.11
100. 松井佑太, 谷口智彦, 岡田大司, 江原夏彦, 木下 慎, 小堀敦志, 金 基泰, 佐々木康博, 豊田俊彬, 村井亮介, 石倉正大, 滋野 稜, 野口 祐, 上田晃平, 島袋誠地, 長谷川雄平, 古川 裕：右下腿コンパートメント症候群を合併した有痛性青股腫に対して下腿筋膜切開とカテーテル血栓吸引術にて救肢できた症例. 第 40 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 豊中, ハイブリッド開催, 2023.2.11
101. 野口 祐, 谷口智彦, 小柳正臣, 長谷川雄平, 上田晃平, 島袋誠地, 星 祐介, 佐野円香, 滋野 稜, 石倉正大, 村井亮介, 岡田大司, 豊田俊彬, 佐々木康博, 金 基泰, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 太田剛史, 古川 裕：大動脈弁無冠尖に可動性構造物を伴う重症大動脈弁狭窄症に対して、脳血管保護デバイス使用下で TF-TAVI を施行した 1 例. 第 40 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 豊中, ハイブリッド開催, 2023.2.11
102. 佐野円香, 江原夏彦, 長谷川雄平, 上田晃平, 島袋誠地, 星 祐介, 滋野 稜, 野口 祐, 村井亮介, 岡田大司, 豊田俊彬, 谷口智彦, 金 基泰, 木下 慎, 古川 裕：非石灰化 Freestyle 生体弁機能不全による高度大動脈弁逆流症に対して経カテーテル的大動脈弁植え込み術を施行した一例. 第 40 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 豊中, ハイブリッド開催, 2023.2.11
103. 村井亮介, 岩田健太郎, 古川 裕：当院における腫瘍循環器診療と腫瘍循環器リハビリテーションへの取り組み. 第 8 回日本心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会, 神戸, 2023.2.11
104. 大塚脩斗, 前川健一郎, 崎本史生, 岩田健太郎, 古川 裕, 谷 知子, 東門美代：右心不全を発症後、回復期リハビリテーション病棟での介入にて ADL 能力が改善した第 3 群肺高血圧症の一例. 第 8 回日本心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会, 神戸, 2023.2.11
105. 滝本龍矢, 岩田健太郎, 金島侑司, 大橋啓太, 松林和矢, 秋 在龍, 平松真衣子, 野崎惇貴, 村井亮介, 古川 裕：早期の退院支援介入が入院関連機能障害を生じた急性心不全患者の転帰に及ぼす影響. 第 8 回日本心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会, 神戸, 2023.2.11

106. 津村可奈子, 平松真衣子, 村井亮介, 岩田健太郎, 石井雅世, 古川 裕: クラスタージェロの入院・外来心リハ継続について. 第8回日本心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会, 神戸, 2023.2.11
107. 登 佳寿子, 土肥麻貴子, 木下 恵, 町田 遥, 新免紗也, 藤原秀敏, 山本晴菜, 村井亮介, 古川 裕, 室井延之: 心不全患者のアドヒアランス確保に向けた病院と保険薬局における薬剤師連携の構築. 第8回日本心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会, 神戸, 2023.2.11
108. 石倉正大: 持続性心房細動へのストラテジー～当院の治療成績から～. Medtronic CRYO ABLATION SUMMIT, WEB 配信, 2023.2.16
109. 佐野田香: 高感度トロポニンIとNT-proBNPによるCOVID-19患者の予後予測. 第8回B2B Conference, Zoom 開催, 2023.2.18
110. Okada T, Kobori A, Murai R, Taniguchi T, Kim K, Ehara N, Kinoshita M, Toyota T, Furukawa Y: Association of the preprocedural h2fpf score with clinical outcomes in patients after catheter ablation for atrial fibrillation. ACC.23 Annual Scientific Session & Expo Together with WCC, New Orleans, USA, 2023.3.4-6
111. Sano M, Toyota T, Morimoto T, Murai R, Okada T, Taniguchi T, Kim K, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Doi A, Tomii K, Kihara Y, Furukawa Y: A combined approach using high-sensitive troponin I and n-terminal pro-b-type natriuretic peptide for risk stratification in patients with coronavirus disease 2019. ACC.23 Annual Scientific Session & Expo Together with WCC, New Orleans, USA, 2023.3.4-6
112. Kim K, Toyota T, Okada T, Taniguchi T, Ehara N, Kobori A, Kinoshita M, Furukawa Y: Incidence and outcomes of worsening tricuspid regurgitation after transvenous cardiac implantable electronic device implantation. ACC.23 Annual Scientific Session & Expo Together with WCC, New Orleans, USA, 2023.3.4-6
113. Torii Y, Tani T, Okada T, Furukawa Y: Association of mitral annular disjunction and cardiovascular events in barlow's disease. ACC.23 Annual Scientific Session & Expo Together with WCC, New Orleans, USA, 2023.3.4-6
114. Kurashima S, Kitai T, Matsue Y, Nogi K, Kagiya N, Oishi S, Akiyama E, Suzuki S, Kida K, Yamamoto M, Okumura T, Nogi M, Ueda T, Kawakami R, Furukawa Y, Saito Y, Izumi C: Trajectory of serum chloride levels during decongestion therapy in patients with acute decompensated heart failure. ACC.23 Annual Scientific Session & Expo Together with WCC, New Orleans, USA, 2023.3.4-6
115. 江原夏彦: ガイドラインに基づく弁膜症診療およびSGLT2阻害薬の使い方. Structural Heart Disease Conference, Zoom 配信, 2023.3.8
116. 谷口智彦: 実際の症例から見えてきたAS診療で役立つ4つのポイント. Structural Heart Disease Conference, Zoom 配信, 2023.3.8
117. 小堀敦志: Cryoを用いた持続性心房細動の治療戦略. Cryo Balloon Ablation Young Experts' Seminar 3rd, WEB 配信, 2023.3.9
118. 石倉正大, 小堀敦志, 佐々木康博, 村井亮介, 豊田俊彬, 岡田大司, 谷口智彦, 金 基泰, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕: A Novel Map-guide Approach for Wide Circumferential Pulmonary Vein Isolation. 第87回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.10
119. 坂本二郎, 茶谷龍己, 金田和久, 西本裕二, 池田長生, 小林洋平, 池田聡司, 金 基泰, 高瀬 徹, 辻 修平, 大井磨紀, 高田卓磨, 乙井一典, 荻原義人, 田村俊寛, 山下侑吾: Clinical Characteristics and Outcomes in Patients with Cancer-Associated Venous Thromboembolism According to Cancer Sites: From the COMMAND VTE Registry-2. 第87回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.10
120. 岩田健太郎, 北井 豪, 村井亮介, 立川 良, 尾原信行, 谷 知子, 小林成美, 井澤和大, 山根光量, 富井啓介, 古川 裕, 細谷 亮, 幸原伸夫: コロナ禍の中で進める新たな地域連携～CURE-KOBEでの理学療法士の立場から. 第87回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.10
121. 鳥居裕太, 岡田大司, 田谷真佑子, 宮川祥治, 菅沼直生子, 佐々木一朗, 簗輪和士, 谷 知子, 古川 裕: 腓腹筋径を用いた担がん患者における深部静脈血栓退縮効果の検討. 第87回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.10
122. 高岡循子, 小堀敦志, 佐々木康博, 石倉正大, 吉田一貴, 中村悟士, 山田恭二, 伊藤龍人, 坂地一朗, 畑 秀治, 古川 裕: COHERENT mapとLocal Activation Time mapによる肺静脈隔離における生理的ブロックラインの描出能検討. 第87回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.10

123. 野口 祐, 岡田大司, 長谷川雄平, 上田晃平, 島袋誠地, 滋野 稜, 松井佑太, 石倉正大, 佐々木康博, 豊田俊彬, 谷口智彦, 金 基泰, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕 : Diastolic Dysfunction as a Possible Prognostic Predictor in Chronic Aortic Regurgitation. 第 87 回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.11
124. 馬淵 博, 木村昌弘, 武田輝規, 茶谷龍己, 金田和久, 西本裕二, 池田長生, 小林洋平, 池田聡司, 金 基泰, 高瀬 徹, 辻 修平, 大井磨紀, 高田卓磨, 乙井一典, 坂本二郎, 荻原義人, 山下侑吾 : The Association between Statin Use and Recurrent Venous Thromboembolism: From the COMMAND VTE Registry-2. 第 87 回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.11
125. 大井磨紀, 貝谷和昭, 茶谷龍己, 金田和久, 西本裕二, 池田長生, 小林洋平, 池田聡司, 金 基泰, 高瀬 徹, 辻 修平, 高田卓磨, 乙井一典, 坂本二郎, 荻原義人, 山下侑吾 : Clinical Characteristics and Outcomes of Venous Thromboembolism Comparing Patients with and without Initial Intensive High-dose Anticoagulation by Rivaroxaban and Apixaban. 第 87 回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.11
126. 佐野円香, 豊田俊彬, 森本 剛, 滋野 稜, 野口 祐, 石倉正大, 村井亮介, 岡田大司, 佐々木康博, 谷口智彦, 金 基泰, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 土井朝子, 富井啓介, 木原康樹, 古川 裕 : Risk Stratification in Coronavirus Disease 2019 Patients Using Combinations of Troponin I and N-terminal Pro-B-Type Natriuretic Peptide or Creatine Kinase-MB. 第 87 回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.12
127. 石倉正大, 小堀敦志, 佐々木康博, 村井亮介, 豊田俊彬, 岡田大司, 谷口智彦, 金 基泰, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕 : Direct Comparison of Ultrahigh-Resolution Mapping Using Three Types of Multi-spine Catheters. 第 87 回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.12
128. 岡田大司, 小堀敦志, 石倉正大, 佐々木康博, 村井亮介, 豊田俊彬, 谷口智彦, 金 基泰, 江原夏彦, 木下 慎, 古川 裕 : Association of Pre-procedural HFA-PEFF Score with Outcomes in Patients with Atrial Fibrillation Undergoing Catheter Ablation. 第 87 回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.12
129. 坂元裕一郎, 高橋良英, 新田順一, 小堀敦志, 永田恭敏, 谷本耕司郎, 松尾征一郎, 山根禎一, 森田典成, 里見和浩, 稲葉 理, 村田和也, 佐々木康博, 吉本大祐, 金子雅一, 谷本陽子, 磯谷亮太, 山下省吾, 合屋雅彦, 笹野哲郎 : The Relationship between Alcohol Consumption and the Efficacy of beyond PVI in Patients with Persistent or Longstanding Persistent Atrial Fibrillation. 第 87 回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.12
130. 高瀬 徹, 船内陽平, 山下侑吾, 金田和久, 西川隆介, 茶谷龍己, 西本裕二, 池田長生, 小林洋平, 池田聡司, 金 基泰, 辻 修平, 大井磨紀, 高田卓磨, 乙井一典, 坂本二郎, 荻原義人, 中澤 学 : Current Use of Inferior Vena Cava Filters in Japan in the Era of DOACs from the COMMAND VTE Registry-2. 第 87 回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.12
131. 末田大輔, 金田和久, 西川隆介, 茶谷龍己, 西本裕二, 池田長生, 小林洋平, 池田聡司, 金 基泰, 高瀬 徹, 辻 修平, 大井磨紀, 高田卓磨, 乙井一典, 坂本二郎, 荻原義人, 辻田賢一, 山下侑吾 : Patient Characteristics and Clinical Outcomes among Direct Oral Anticoagulants for Cancer-Associated Venous Thromboembolism: From the COMMAND VTE Registry-2. 第 87 回日本循環器学会学術集会 JSC2023 FUKUOKA, 福岡, 2023.3.12
132. 江原夏彦 : 座長 大動脈弁狭窄症治療の最前線～ TAVI (経カテーテル的大動脈弁植え込み術) の至適紹介タイミングについて～ AS (大動脈弁狭窄症) 患者さんのお悩み、疑問を紐解きます～. Enhance AS Patient Pathway in 神戸, 神戸, 2023.3.18
133. 小堀敦志 : クライオバルーンの有効活用について. Cryo Conference, Zoom 配信, 2023.3.19
134. 小堀敦志 : Advance CRYO. Medtronic Web 講演会, Zoom 配信, 2023.3.22
135. 小堀敦志 : CBA1400update + α DTA. CBA1400update, Zoom 配信, 2023.3.24
136. 佐々木康博 : Advance CBA1400update. CBA1400update, Zoom 配信, 2023.3.24
137. 石倉正大 : 当院における CBA1400update. CBA1400update, Zoom 配信, 2023.3.24
138. 小堀敦志 : Advance CRYO. Medtronic Web 講演会 心房細動 NEXT, Zoom 配信, 2023.3.31

VIII. 1.2 糖尿病・内分泌内科

1. 岩倉敏夫 : 備えあれば憂いなし ～重症低血糖を防ぐためにすべきこと～. 重症低血糖対策 UPDATE ～予防と備え～, 北九州, WEB 開催, 2022.4.5

2. 藤島雄幸, 籀谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹: 当院で経験した SGLT2 阻害薬内服中に発症した正常血糖糖尿病ケトアシドーシスの検討. 第 119 回日本内科学会総会・講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.16
3. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ~重症低血糖を防ぐためにすべきこと~. 患者さんに寄り添う糖尿病治療 ~重症低血糖を知る~, 木更津, WEB 開催, 2022.4.22
4. 岩倉敏夫: GLP-1 製剤を活かしたコロナ禍での在宅血糖管理. Incretin Expert Meeting Trulicity, 2022.4.23
5. 岩倉敏夫: GLP-1 製剤を活かしたコロナ禍での糖尿病治療ストラテジー. Trulicity Web Conference, 横浜, 2022.4.27
6. 岩倉敏夫: GLP-1 製剤を活かしたコロナ禍での糖尿病治療ストラテジー. Incretin Online Seminar, 東大坂, WEB 開催, 2022.4.28
7. 岩倉敏夫: 今、求められる低血糖に対するリスクマネジメント. 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.5.13
8. 藤島雄幸, 籀谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹: SGLT2 阻害薬内服中に生じた正常血糖および高血糖糖尿病ケトアシドーシスの臨床的特徴について. 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会, 神戸, 2022.5.13
9. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし~重症低血糖と関連する 2 つの低血糖~. 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.5.14
10. 岩倉敏夫: 今そこにある危機~重症低血糖を回避するためにすべきこと~. 時々、救急車で運ばれてくる低血糖や病棟で見かける低血糖を真剣に考えてみる会, 郡山, 2022.5.18
11. 岩倉敏夫: 今そこにある危機~重症低血糖を回避するためにすべきこと~. 低血糖の備えについて考える会, 豊岡, 2022.5.24
12. 岩倉敏夫: GLP-1 製剤を活用したコロナ禍での在宅血糖管理. Meet the Expert - GLP-1RA を再考する -, 山形, 2022.5.25
13. 岩倉敏夫: GLP-1 製剤を活かしたコロナ禍での在宅血糖管理. Incretin Expert Meeting Trulicity, 神戸, 2022.5.28
14. 岩倉敏夫: GLP-1 製剤を活用したコロナ禍での血糖管理. North Japan Trulicity Online Insight Meeting 2022, 北海道, 2022.5.31
15. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし~重症低血糖対策ですべきこと~. 香川県の予期せぬ低血糖を考える会, 高松, 2022.6.1
16. 山本 茜, 籀谷雄二, 藤島雄幸, 大久保万里江, 藤本寛太, 松岡直樹: 自然妊娠で分娩に至った 45,X/47,XXX モザイク型ターナー症候群の一例. 第 95 回日本内分泌学会学術総会, 別府, ハイブリッド開催, 2022.6.3
17. 大久保万理江, 籀谷雄二, 藤島雄幸, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹: 免疫チェックポイント阻害薬中止によりインスリン離脱できた ICI 関連糖尿病の 1 例. 第 95 回日本内分泌学会学術総会, 別府, ハイブリッド開催, 2022.6.3
18. 藤島雄幸, 籀谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹: 本態性血小板血症の関与が疑われた両側副腎梗塞の 1 例. 第 95 回日本内分泌学会学術総会, 別府, ハイブリッド開催, 2022.6.4
19. 岩倉敏夫: GLP-1 受容体作動薬を活かすコロナ禍での在宅血糖管理. Weekly GLP-1RA Online Seminar, 大阪, 2022.6.9
20. 岩倉敏夫: GLP-1 製剤を活かしたコロナ禍での在宅血糖管理. ジレンマに向き合う糖尿病診療セミナー in 東京, 東京, 2022.6.14
21. 岩倉敏夫: 備えあれば憂いなし ~重症低血糖と関連する 2 つの低血糖~. 点鼻グルカゴン Web ストリートミング講演会, WEB 開催, 2022.6.22
22. 岩倉敏夫: GLP-1 製剤を活用したコロナ禍での血糖管理. Trulicity Online Insight Meeting, 大阪, 2022.6.25
23. 岩倉敏夫: GLP-1 製剤を活用したコロナ禍での在宅血糖管理. ジレンマに向き合う糖尿病診療セミナー in 春日井, 春日井, 2022.7.7
24. 岩倉敏夫: 今、そこにある危機 ~重症低血糖を回避するためにすべきこと~. Hypoglycemia Online Seminar 重症低血糖を「防ぐ」から「備える」, 和歌山, 2022.7.13
25. 岩倉敏夫: GLP-1 製剤を活用したコロナ禍での在宅血糖管理. ジレンマに向き合う糖尿病診療セミナー in 北勢, 三重, 2022.7.22

26. 岩倉敏夫：コロナ禍における GLP-1 製剤の有効活用～ファーストインジェクションとしての魅力～. Diabetes Update Seminar, 神戸, 2022.7.28
27. 岩倉敏夫：コロナ禍において期待する GLP-1 受容体作動薬 +SMBG の有効活用. Incretin Online Forum, 京都, WEB 開催, 2022.8.4
28. 岩倉敏夫：今、求められる低血糖に対するリスクマネジメント. Diabetes Online Seminar ～平時にこそ考える「もしもの備え」～, 姫路, 2022.8.18
29. 岩倉敏夫：適応拡大による isCGM の有効活用と課題. Kobe Diabetes Advisory Forum ～最新の機器とインスリンを活かす～, Web 開催, 2022.8.30
30. 藤本寛太, 栗原 崇, 籀谷雄二, 大久保万理江, 岩倉敏夫, 松岡直樹：甲状腺の炎症の 1 例. 第 115 回神戸甲状腺研究会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.9.17
31. 阿部りこ, 増本憲生, 吉田千恵美, 入江 慶, 池末裕明, 橋田 亨, 東別府直紀, 松岡直樹, 室井延之：周術期支援センターにおける SGLT 2 阻害薬の薬学的管理. 第 10 回日本くすりと糖尿病学会学術集会, WEB 開催, 2022.9.17
32. 岩倉敏夫：コロナ禍において期待する GLP-1 受容体作動薬 +SMBG の有効活用. ジレンマに向き合う糖尿病診療セミナー in 加古川, 加古川, 2022.10.1
33. 岩倉敏夫：糖尿病治療に伴う重症低血糖の問題と対策. 第 37 回日本糖尿病合併症学会, 第 28 回日本糖尿病眼学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.10.21
34. 岩倉敏夫：コロナ禍において期待する GLP-1 受容体作動薬 +SMBG の有効活用. True Simplicity Seminar in 山城～GLP-1 の適正使用と病診連携を考える～, 京都, 2022.10.21
35. 大久保万理江, 籀谷雄二, 藤島雄幸, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹：甲状腺クリーゼを発症した精神疾患合併バセドウ病の 1 例. 第 65 回日本甲状腺学会学術集会, 大阪, 2022.11.2
36. 栗原 崇, 籀谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹：遅発性に発症した irAE による甲状腺機能障害の 1 例. 第 32 回臨床内分泌代謝 Update, 東京, 2022.11.11
37. 岩倉敏夫：コロナ禍において期待する GLP-1 受容体作動薬 +SMBG の有効活用. 第 69 回川崎糖尿病懇話会, オンライン開催, 2022.11.17
38. 藤本寛太：内分泌疾患でよく出会う薬物治療. 医薬連携セミナー in ポートアイランド, 神戸, 2022.11.28
39. 籀谷雄二：内分泌 irAE の診断治療のポイント. 胃癌 WEB レクチャー +irAE (内分泌) 対策セミナー, 姫路, 2022.12.13
40. 藤本寛太, 栗原 崇, 大久保万理江, 籀谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹：甲状腺の炎症の 1 例. 第 44 回京都甲状腺研究会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.1.21
41. 籀谷雄二, 栗原 崇, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹：遅発性に発症した免疫チェックポイント阻害薬関連甲状腺機能異常症の 1 例. 第 116 回神戸甲状腺研究会, 神戸, ハイブリッド開催, 2023.2.11
42. 栗原 崇, 岩倉敏夫, 大久保万理江, 藤本寛太, 籀谷雄二, 松岡直樹：手術が奏功した、胸膜孤立性線維性腫瘍に伴う non-islet cell tumor hypoglycemia (NICTH) の 1 例. 第 16 回糖尿病臨床フォーラム, 大阪, 2023.2.25
43. 阿部りこ, 増本憲生, 吉田千恵美, 池末裕明, 橋田 亨, 東別府直紀, 松岡直樹, 室井延之：周術期支援センターにおける SGLT2 阻害薬の薬学的管理. 第 12 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 吹田, 2023.3.5
44. 松岡直樹：ツイミーグの使用経験. DUAL Seminar in 神戸, 神戸, 2023.3.9
45. 松岡直樹：最近の糖尿病治療薬. Non-Communicable Disease Conference, 神戸, 2023.3.16
46. 松岡直樹：最近の糖尿病薬. 糖尿病医薬連携セミナー in ポートアイランド, 神戸, 2023.3.17
47. 栗原 崇, 籀谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 櫻井靖久, 川本未知：筋萎縮の精査中に診断された骨 Paget 病の 1 例. 第 101 回京都内分泌同好会, オンライン開催, 2023. 3.18

VIII. 1.3 腎臓内科

1. 吉本明弘：CKD 診療における電解質管理. 日常診療における高カリウム血症治療 up-to date, 神戸, 2022.4.13
2. 吉本明弘：臓器保護を考慮した血圧管理. 世界高血圧デーに考える, 神戸, 2022.5.17
3. 吉本明弘：DKD 治療の新たな展開. 第 13 回 Kobe Nephrology Forum, 神戸, 2022.5.31
4. 吉本明弘：腎から全身を診る～CKD 診療における新たな治療薬について～. かかりつけ医のためのトータルケアセミナー, 松山, 2022.6.14

5. 吉本明弘：CKD 診療における高血圧治療の New Foundation ～当院の新たな取り組み～. 腎疾患 Update WEB セミナー, 神戸, 2022.6.23
6. 吉本明弘：腎保護から見た尿酸治療のあり方. 腎臓と尿酸治療 WEB フォーラム in KANSAI, 大阪, 2022.6.30
7. 大崎啓介, 谷口美咲, 首藤 風, 田路佳範, 吉本明弘：移植腎の血液型に適合しない血漿製剤投与により抗体関連型拒絶反応をきたした一症例. 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2022.7.2
8. 並木雅嵩：高度遷延性黄疸に伴う Bile cast nephropathy により腎障害をきたした一例. 第 25 回兵庫県腎疾患治療懇話会, 神戸, 2022.7.7
9. 吉本明弘：CKD 診療における腎性貧血治療の展望. 腎性貧血 New Frontier in 神戸, 神戸, 2022.8.25
10. 吉本明弘：CKD 診療における高尿酸血症治療の意義. 心腎連関と高尿酸血症を考える, 神戸, 2022.9.28
11. 吉本明弘：腎生検にて診断した女性ファブリー病の 1 例. Fabry Expert Meeting 2022, 大阪, 2022.10.7
12. 吉本明弘：透析診療における CKD-MBD 管理について. 透析医療スキルアップ WEB セミナー, 神戸, 2022.10.18
13. 吉本明弘：慢性腎臓病診療における新たな治療戦略～腎性貧血管理の重要性を含めて～. 第 16 回静岡腎疾患病診連携の会, 静岡, 2022.11.1
14. 福田結以, 並木雅嵩, 谷口美咲, 高田 風, 大崎啓介, 田路佳範, 原 重雄, 吉本明弘：COVID-19 ワクチン接種を契機に IgA 腎症が再発した 1 例. 第 52 回日本腎臓学会西部学術大会, 熊本, 2022.11.19
15. 高田 風：肝硬変、臍癌による大量腹水を伴う終末期患者に腹膜透析を導入し自宅退院を成し得た一例. 第 28 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 岡山, 2022.11.27
16. 吉本明弘：腎臓内科専門医への紹介について. 神戸市中央区 CKD 病診連携の会, 神戸, 2022.12.21
17. 吉本明弘：CKD 診療における新たな治療戦略～ CARS の重要性を考慮して～. 心腎貧血連関ネットワーク, 神戸, 2023.1.26
18. 吉本明弘：CKD 診療における貧血治療を考える～新たな治療戦略と鉄管理について～, CKD セミナー, 加古川, 2023.3.9
19. 吉本明弘：糖尿病性腎臓病 (DKD) の管理と治療を考える. Diabetes Seminar, 神戸, 2023.3.14
20. 福田結以：スズメバチ刺傷による多臓器不全に対し急性血液浄化療法を施行し救命し得た 1 例. 第 67 回兵庫県腎臓研究会, 神戸, 2023.3.25

VIII. 1.4 脳神経内科

1. 小泉直史, 前川嵩太, 石井淳子, 竹中友洋, 下山佳織, 藤原 悟, 高杉純司, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫, 川本未知：COVID-19 関連脳症の高次脳機能障害と脳血流の関連. 第 63 回日本神経学会学術大会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.18
2. 太田和馬, 藤原 悟, 竹中友洋, 比谷里美, 下山佳織, 片上隆史, 乾 涼磨, 小泉直史, 木村正夢嶺, 前川嵩太, 石井淳子, 高杉純司, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫, 川本未知：脳炎・髄膜炎の急性期診療における多項目 PCR パネルの有用性. 第 63 回日本神経学会学術大会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.18
3. Ohara N, Todo K, Imamura H, Sakai N, Yamagami H, Uchida K, Yoshimur S, Morimoto T, Mochizuki H：Impact of CHA2DS2-VASc score on Long-term Outcomes after Large Vessel Occlusion in Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation. 第 63 回日本神経学会学術大会, 東京, ハイブリッド, 開催, 2022.5.19
4. Kawamoto M：Urgent needs of Neuro-ICU and Dedicated Neurocritical Care Team in Japan. 第 63 回日本神経学会学術大会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.19
5. Ishii J, Kimura M, Yoshimura H, Fujiwara S, Ota K, Takenaka T, Koizumi N, Shimoyama K, Hiya S, Yamane T, Katakami T, Inui R, Maekawa K, Takasugi J, Ohara N, Kohara N, Kawamoto M：Clinical, laboratory and therapeutic features of 6 patients with anti-MAG neuropathy. 第 63 回日本神経学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.20
6. 吉村 元：神経救急における脳波判読の実際. 第 63 回日本神経学会学術大会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.20
7. 藤原 悟, 尾原信行, 川本未知, 坂井信幸, 太田剛史：緊急血栓回収治療時代に理想的な病院間連携に向けて. 第 5 回 Kobe Stroke Joint Meeting, 神戸, 2022.6.10

8. 尾原信行：脳卒中予防に大切なくすりの使い方。多職種で考える患者さんのトータルケア～知っておきたいリハビリ患者さんの内服薬～，WEB 開催，2022.6.14
9. 竹中友洋，前川嵩太，岡 良祐，吉田匡伸，小泉直史，太田和馬，下山佳織，櫻井靖久，荒木 健，石井淳子，藤原 悟，高杉純司，尾原信行，吉村 元，幸原伸夫，川本未知：脳生検が診断と治療に有用であった primary central nervous system (CNS) eosinophilic vasculitis の一症例。第 62 回亀山正邦記念神経懇話会 (KSK)，WEB 開催，2022.6.18
10. 尾原信行：最新の脳卒中治療～超急性期から慢性期まで～。サエラ薬局学術講演，WEB 開催，2022.7.2
11. 尾原信行，前川嵩太，藤原 悟，高杉純司，小泉直史，朝倉健登，高野裕樹，春原 匡，福光 龍，後藤正憲，小柳正臣，今村博敏，太田剛史，川本未知，坂井信幸：頸部直接穿刺により逆行性に留置したステントが大動脈内に滑落した左総頸動脈起始部狭窄の一例。第 62 回近畿脳血管内手術法ワークショップ，田辺，2022.7.15
12. 尾原信行：Simple is Fast 私たちの AIS 治療戦略。脳血管外科フォーラム 2022summer (第 24 回脳血管外科ビデオカンファレンス・第 35 回脳血管外科治療セミナー)，吹田，ハイブリッド開催，2022.7.23
13. 田代隼基，永田一真，貴志亮太，世利佳澁，遠藤 慧，白川千種，嶋田有里，島 佑介，平林亮介，佐藤悠城，立川 良，中川 淳，清水祐里，原 重雄，石井淳子，富井啓介：抗 NMDA 受容体脳炎を伴う限局型肺小細胞癌に集学的治療が奏功した一例。第 99 回日本呼吸器学会近畿地方会，第 129 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿地方会，大阪，ハイブリッド開催，2022.7.23
14. 太田和馬，石井淳子，前川嵩太，藤原 悟，高杉純司，吉村 元，尾原信行，幸原伸夫，川本未知：抗 AQP4 抗体陽性の NMOSD として経過観察中に痙攣発作を発症し、MOGAD と判明した一例。第 122 回日本神経学会近畿地方会，豊中，2022.7.30
15. 竹中友洋，前川嵩太，岡 良祐，吉田匡伸，小泉直史，下山佳織，櫻井靖久，荒木 健，藤原 悟，石井淳子，高杉純司，尾原信行，吉村 元，幸原伸夫，川本未知：脳生検が診断と治療に有用であった Primary CNS eosinophilic vasculitis の一症例。日本神経学会第 122 回近畿地方会，豊中，2022.7.30
16. 尾原信行：Simple is Fast、神戸流の時短と術者育成の考え方。第 3 回日本脳神経内科血管治療研究会学術集会 (JSVIN2022)，東京，ハイブリッド開催，2022.8.7
17. 尾原信行：潜在性脳梗塞と ICM の活用。Monthly LINQ seminar，WEB 開催，2022.8.10
18. Ohara N, Imamura H, Maekawa K, Fujiwara S, Takasugi J, Fukumitsu R, Goto M, Koyanagi M, Ota T, Kawamoto M, Sakai N : Stenting for Late Vein Graft Failure in Carotid Artery : A Case Report. 16th Congress of World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (WFITN2022)，京都，ハイブリッド開催，2022.8.20
19. Fujiwara S, Matsuoka Y, Masamune Kimura M, Maekawa K, Takasugi J, Sunohara T, Fukumitsu R, Ohara N, Goto M, Koyanagi M, Kawamoto M, Imamura H, Ota T, Sakai N : Comorbidity Burden and Clinical Outcomes after Mechanical Thrombectomy for Large Vessel Occlusion. 16th Congress of World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (WFITN2022)，京都，ハイブリッド開催，2022.8.22
20. 尾原信行：はじめての抗凝固薬。第 1 回若手医師への脳卒中レクチャー，WEB 開催，2022.9.2
21. Yoshimura H, Togo M, Kusunoki S, Kawamoto M : Electroencephalographic findings in Bickerstaff's brainstem encephalitis: A possible reflection of the dysfunction of the ascending reticular activating system. ICCN2022, Geneva, Switzerland, Hybrid, 2022.9.8
22. 吉村 元：てんかん医が知っておくべき Critical Care EEG ～てんかんモニタリングとは似て非なるもの？～。第 55 回日本てんかん学会学術集会，仙台，ハイブリッド開催，2022.9.20
23. 尾原信行，太田剛史，坂井信幸：神戸市内における脳卒中の発生状況と急性期治療の現状。第 16 回中央市民病院地域連携セミナー，神戸，2022.9.22
24. Okada N, Nagai Y, Kubo T, Maruoka H, Ishii J, Yoshioka S, Yonetani N, Ishikawa T : Tisagenlecleucel CAR T-cell therapy in secondary CNS lymphoma: an institutional experience. 第 84 回日本血液内科学会学術集会，福岡，ハイブリッド開催，2022.10.16
25. 藤原 悟：神経眼科疾患の最近の話題 - 脳神経内科の立場から -。眼科臨床懇話会，Web 開催，2022.10.20
26. 山根俊之，石井淳子，甲 貴文，田代隼基，永田一真，原 重雄，太田和馬，前川嵩太，川本未知：腫瘍切除により顕著な症状改善を認めた小細胞肺癌合併抗 NMDA 受容体脳炎の 1 例。第 34 回日本神経免疫学会学術集会，長崎，ハイブリッド開催，2022.10.20

27. 藤原 悟, 松岡由典, 荒木 健, 前川嵩太, 高杉純司, 尾原信行, 川本未知, 坂井信幸, 太田剛史: 患者背景から考える治療適応: Comorbidity burden と緊急再開通治療後の転帰の関連. 第 38 回日本脳神経血管内治療学会 (JSNET2022), 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.10
28. 高杉純司, 前川嵩太, 尾原信行, 藤原 悟, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 川本未知, 坂井信幸, 太田剛史: 閉塞部断端性状が機械的血栓回収療法の治療手技に及ぼす影響. 第 38 回日本脳神経血管内治療学会 (JSNET2022), 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.10-12
29. 藤原 悟: 急性期脳卒中診療における画像診断. 第 11 回救急撮影オープンカンファレンス, WEB 開催, 2022.11.17
30. 川本未知: COVID-19 の神経障害～高次脳機能障害と画像所見～. 神経疾患セミナー, 神戸, 2022.11.17
31. Yoshimura H: What's New in Status Epilepticus. 14th Asian & Oceanian Epilepsy Congress (第 14 回アジア・オセアニアてんかん学会議), WEB 開催, 2022.11.19
32. 幸原伸夫: 症候から考える神経伝導検査へのアプローチ. 第 52 回日本臨床神経生理学会, 第 59 回日本臨床神経生理学会技術講習会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.24
33. 吉村 元: 教育講演 16 Critical Care EEG. 第 52 回日本臨床神経生理学会, 第 59 回日本臨床神経生理学会技術講習会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.25
34. 吉村 元: 症例から学ぶ, 成人非けいれん性てんかん重積状態の治療戦略. 第 52 回日本臨床神経生理学会, 第 59 回日本臨床神経生理学会技術講習会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.26
35. 高山昌和, 原 重雄, 永田一真, 石井淳子, 清水祐里, 山根俊之, 田代準基, 齊藤正男, 甲 貴文, 鉄本啓介, 浜川博司, 高橋 豊: 小細胞肺癌に抗 NMDA 受容体抗体脳炎を合併し腫瘍切除した一例. 第 63 回日本肺癌学会総会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.1
36. 川本未知: 明日から使えるパーキンソン病治療の実際. 令和 4 年度脳神経内科研修セミナー, WEB 開催, 2022.12.1
37. 岡 良祐, 吉村 元, 荒木 健, 吉田匡伸, 竹中友洋, 小泉直史, 下山佳織, 櫻井靖久, 藤原 悟, 前川嵩太, 高杉純司, 石井淳子, 尾原信行, 幸原伸夫, 山口貴子, 原 重雄, 川本未知: 潰瘍性大腸炎に合併した CMV 腸炎を契機にステロイド反応性脳炎を生じた若年女性. 第 63 回亀山正邦記念神経懇話会 (KSK), WEB 開催, 2022.12.4
38. 川本未知: 新時代の片頭痛治療. 令和 4 年第 2 回兵庫地区薬剤師会研修会, 神戸, 2022.12.10
39. 岡 良祐, 吉村 元, 荒木 健, 前川嵩太, 藤原 悟, 石井淳子, 高杉純司, 尾原信行, 川本未知, 幸原伸夫: 潰瘍性大腸炎に合併した CMV 腸炎を契機にステロイド反応性脳炎を生じた若年女性. 日本神経学会第 123 回近畿地方会, 神戸, 2022.12.17
40. 藤原 悟: 急性主幹動脈閉塞症の最近の話題 2022. Medixpost 講演会, WEB 開催, 2022.12.26
41. Maekawa K, Ohara N, Takasugi J, Nakazawa S, Kawamoto M, Ohta T, Sakai N: Relationship between Three-Dimensional Arterial Tortuosity and Difficulty of Guide Catheter Access during Endovascular Reperfusion Therapy. ICS2023 (国際脳卒中学会), Dallas, USA, hybrid, 2023.2.8
42. 尾原信行: Multimorbidity 時代に考える血栓回収療法の適応と限界. オンデキサ TV シンポジウム, WEB 開催, 2023.2.10
43. 竹中友洋, 高杉純司, 尾原信行, 岡 良祐, 吉田匡伸, 櫻井靖久, 下山佳織, 小泉直史, 荒木 健, 藤原 悟, 前川嵩太, 石井淳子, 吉村 元, 川本未知: 心臓乳頭状弾性線維腫が見つければすぐに手術すべきか? 当院における連続例の検討. 第 45 回 NJM, 大阪, ハイブリッド開催, 2023.3.3
44. 吉村 元: 神経救急・神経集中治療における脳波判読の実際: 脳神経内科から集中治療科へのメッセージ. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.3.4
45. 吉田匡伸, 藤原 悟, 小泉直史, 岡 良祐, 竹中友洋, 櫻井靖久, 下山佳織, 荒木 健, 前川嵩太, 石井淳子, 高杉純司, 吉村 元, 尾原信行, 幸原伸夫, 立川 良, 原 重雄, 大村浩一郎, 川本未知: 関節症状を伴わない抗 CCP 抗体陽性器質性肺炎_x000B_治療中に発症したリウマチ性髄膜炎の一例. 日本神経学会 第 124 回近畿地方会, 豊中, ハイブリッド開催, 2023.3.5
46. 櫻井靖久, 藤原 悟, 小泉直史, 岡 良祐, 吉田匡伸, 竹中友洋, 下山佳織, 荒木 健, 前川嵩太, 石井淳子, 高杉純司, 吉村 元, 尾原信行, 幸原伸夫, 川本未知: 一側上肢の疼痛出現後に進行性の筋萎縮を来した一例. 第 85 回兵庫神経内科研究会, 神戸, ハイブリッド開催, 2023.3.10

47. 松崎光博, 藤原 悟, 福光 龍, 坂谷朋子, 平野真由香, 横田 聡, 有吉孝一, 太田剛史, 川本未知, 栗本康夫: 当院における急性期網膜中心動脈閉塞症に対する静注血栓溶解療法への取り組み. 第 41 回神戸市立医療センター中央市民病院眼科・神戸アイセンター病院オープンカンファレンス, 神戸, 2023.3.11
48. 前川嵩太, 尾原信行, 荒木 健, 藤原 悟, 高杉純司, 石井淳子, 吉村 元, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 坂井信幸, 川本未知, 太田剛史: 虚血コアの過小評価 (Perfusion Scotoma) の検討. STROKE2023, 横浜, ハイブリット開催, 2023.3.16
49. 小泉直史, 高杉純司, 尾原信行, 岡 秀樹, 山下大祐, 竹中友洋, 下山佳織, 藤原 悟, 前川嵩太, 石井淳子, 吉村 元, 幸原伸夫, 川本未知: FDG-PETCT が有用であった炎症反応正常の巨細胞性動脈炎による脳梗塞の一例. STROKE2023, 横浜, ハイブリット開催 2023.3.16
50. 尾原信行, 岡 良祐, 吉田匡伸, 竹中友洋, 下山佳織, 櫻井靖久, 小泉直史, 荒木 健, 藤原 悟, 前川嵩太, 石井淳子, 高杉純司, 春原 匡, 福光 龍, 吉村 元, 後藤正憲, 小柳正臣, 川本未知, 坂井信幸, 太田剛史: 都市型脳卒中ハイボリュームセンターに求められる役割 (コロナ禍の現状も含めて). STROKE2023, 横浜, ハイブリット開催, 2023.3.16
51. Hata A, Sato Y, Fujiwara S, Kida Y, Masuda T, Amimoto H, Matsumoto H, Miyoshi K, Otsuka K, Tomii K: A multicenter prospective observational study of pre-existing autoantibodies in patients with small-cell lung cancer treated with ICI. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡, ハイブリット開催, 2023.3.16
52. 竹中友洋, 高杉純司, 尾原信行, 荒木 健, 前川嵩太, 藤原 悟, 岡田大司, 豊田俊彬, 川本未知: プレインハートチームで行う潜因性脳梗塞の診断. STROKE2023, 横浜, ハイブリット開催, 2023.3.17
53. 尾原信行, 藤原 悟, 太田剛史, 坂井信幸: 10 年のエビデンスに学ぶ、これからの AIS 治療 ~ Japan Trevo Registry サブ解析 ~. STROKE2023, 横浜, ハイブリット開催, 2023.3.17
54. 尾原信行, 太田剛史, 足立秀光, 原 淑恵, 細田弘吉, 木村英仁, 桑山一行, 溝脇 卓, 近藤 威, 本岡康彦, 中嶋千也, 篠田成英, 高本 剛, 上野泰, 山浦生也, 柳原千枝, 吉田泰久, 今村博敏, 川本未知, 坂井信幸: 都市部での急性期ネットワーク構築の挑戦 - コロナ禍での挑戦も含めて -. STROKE2023, 横浜, ハイブリット開催, 2023.3.18
55. 太田和馬, 前川嵩太, 尾原信行, 藤原 悟, 高杉純司, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 川本未知, 太田剛史, 坂井信幸: 発作性交感神経過活動 (PSH) は脳出血の死亡に関連する. STROKE2023, 横浜, ハイブリット開催, 2023.3.17
56. 高杉純司, 前川嵩太, 原 重雄, 尾原信行, 藤原 悟, 荒木 健, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 川本未知, 坂井信幸, 太田剛史: 閉塞血管の断端が整った所見は血小板/フィブリン優位な血栓及び Stent Retriever 治療抵抗性を予測しうる. STROKE2023, 横浜, ハイブリット開催, 2023.3.18
57. 吉田匡伸, 前川嵩太, 尾原信行, 高杉純司, 岡 良祐, 竹中友洋, 小泉直史, 下山佳織, 櫻井靖久, 荒木 健, 藤原 悟, 石井淳子, 吉村 元, 幸原伸夫, 坂井信幸, 太田剛史, 川本未知: 穿通枝脳梗塞の rt-PA 静注療法後症状増悪の mSVD スコアによる予測. STROKE2023, 横浜, ハイブリット開催, 2023.3.17
58. 前川嵩太, 尾原信行, 荒木 健, 藤原 悟, 高杉純司, 石井淳子, 吉村 元, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 坂井信幸, 川本未知, 太田剛史: 機械的脳血栓回収術患者に対する早期栄養療法は嚥下機能の改善に寄与する. STROKE2023, 横浜, ハイブリット開催, 2023.3.18
59. 藤原 悟, 松岡由典, 吉田匡伸, 岡 良祐, 小泉直史, 下山佳織, 荒木 健, 前川嵩太, 高杉純司, 石井淳子, 吉村 元, 尾原信行, 川本未知, 坂井信幸, 太田剛史: マルチモビディティ時代に考える血栓回収療法の適応と限界. STROKE2023, 横浜, ハイブリット開催, 2023.3.18

VIII. 1.5 消化器内科

1. 森田周子: 内視鏡による外科的治療. 2022 年度公益社団法人日本臨床工学技士会主催内視鏡関連指定講習会, Web 開催, 2022.4.4
2. 今村大智, 井上聡子, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 小林拓哉, 竜野稜子, 上田智也, 下山雅之, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: IgA 血管炎 174 例の臨床像. 第 119 回日本内科学会・講演会, 京都, ハイブリット開催, 2022.4.16
3. 丹家元祥: 当院における EPBD/EPLBD による総胆管結石治療の検討. 第 108 回日本消化器病学会総会, 東京, ハイブリット開催, 2022.4.21

4. 秋山慎介, 丹家元祥, 和田将弥, 猪熊哲朗: 膵癌術前の悪性胆道狭窄に対する内視鏡的胆道ドレナージ治療戦略. 第 108 回日本消化器病学会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.4.23
5. 井上聡子: クロウン病に対する薬物治療の考え方. 第 12 回北神 IBD カンファレンス, 三田, 2022.5.25
6. 藪内洋平, 細谷和也, 森田周子, 猪熊哲朗: 当院における D-LECS の導入: 安全で確実な ESD から縫縮まで. 第 59 回兵庫県内視鏡治療談話会, 神戸, Web 開催, 2022.6.1
7. 田中晃輔, 藪内洋平, 細谷和也, 森田周子, 猪熊哲朗: Rokitansky 憩室内に存在する食道表在癌に対する ESD における工夫. 第 108 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.11
8. 藪内洋平, 細谷和也, 森田周子, 猪熊哲朗: 表在性非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍に対する D-LECS: 安全で確実な ESD から縫縮まで. 第 108 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.11
9. 丹家元祥, 秋山慎介, 和田将弥, 猪熊哲朗, 原 重雄: 当院における腫瘍を伴わない膵管狭窄に対する膵液連続細胞診の成績. 第 108 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.11
10. 森久芳樹, 井上聡子, 田中晃輔, 山本健太, 安藤徳晃, 長尾宗一郎, 上田智也, 唐渡修一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 原 重雄: 成人発症で特徴的な消化管病変を呈した IgA 血管炎の一例. 第 108 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.11
11. 長尾宗一郎, 細谷和也, 藪内洋平, 森田周子, 猪熊哲朗: 市中病院における JNET 分類の有用性と今後の課題について. 第 108 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.11
12. 押川大介, 井上聡子, 森久芳樹, 田中晃輔, 竜野稜子, 安藤徳晃, 長尾宗一郎, 唐渡修一郎, 上田智也, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 清水祐里, 山下大祐, 原 重雄: クロウン病に合併した十二指腸副乳頭部神経内分泌腫瘍の一例. 第 108 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.11
13. 藤尾行恵, 秋山慎介, 押川大介, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 竜野稜子, 長尾宗一郎, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 十二指腸水平部の憩室出血に対して経口的ダブルバルーン内視鏡で止血し得た 1 例. 第 108 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.11
14. 下川岳人, 細谷和也, 森久芳樹, 田中晃輔, 安藤徳晃, 長尾宗一郎, 唐渡修一郎, 上田智也, 秋山慎介, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 単 4 乾電池を多数誤飲し、内視鏡的に摘出し得た 1 例. 第 108 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.11
15. 鄭 浩柄: 肝炎診療の現状と課題. 肝炎友の会兵庫支部講演会, 神戸, 2022.7.3
16. 藪内洋平: 大腸癌診療における内視鏡の役割. 慢性便秘治療フォーラム in KOBE OCEANS VI, 神戸, 2022.7.7
17. 田中晃輔, 藪内洋平, 藤尾行恵, 押川大介, 勝山苑香, 曾根明日香, 塚本和之, 森久芳樹, 小川健仁, 竜野稜子, 南條俊也, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: Rokitansky 憩室内に存在する食道表在癌に対し ESD を施行した一例. 第 43 回京大消化器内科関連病院症例検討会, Web 開催, 2022.7.30
18. 和田将弥: 当院における NEN 治療の現状 -PRRT の導入から初期経験. Hyogo NET Work Conference 2022, WEB 開催, 2022.10.6
19. 竜野稜子, 和田将弥, 丹家元祥, 猪熊哲朗: 当院における小型膵神経内分泌腫瘍に対する EUS-FNA の診断能. 日本消化器病学会近畿支部第 117 回例会, 大阪, 2022.10.8
20. 南條俊也, 井上聡子, 押川大介, 藤尾行恵, 勝山苑香, 曾根明日香, 塚本和之, 竜野稜子, 小川健仁, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 山下大祐, 猪熊哲朗: 小腸閉塞を発症した小腸 MALT リンパ腫の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 117 回例会, 大阪, 2022.10.8
21. 押川大介, 井上聡子, 藤尾行恵, 塚本和之, 曾根明日香, 勝山苑香, 南條俊也, 竜野稜子, 小川健仁, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 山下大祐, 原 重雄, 猪熊哲朗: 成人腸重積 37 例の検討. 日本消化器病学会近畿支部第 117 回例会, 大阪, 2022.10.8
22. 塚本和之, 鄭 浩柄, 押川大介, 藤尾行恵, 曾根明日香, 勝山苑香, 南條俊也, 小川健仁, 竜野稜子, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 猪熊哲朗: フェノフィブラート不耐の原発性胆汁性胆管炎に対してペマフィブラートが奏功した 2 例. 日本消化器病学会近畿支部第 117 回例会, 大阪, 2022.10.8

23. 下川岳人, 鄭 浩柄, 丹家元祥, 藤尾行恵, 押川大介, 塚本和之, 曾根明日香, 勝山苑香, 南條俊也, 小川健仁, 竜野稜子, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 猪熊哲朗: 巨大肝細胞癌に対してTAE後レンバチニブ投与中に腫瘍内出血を合併した一例. 日本消化器病学会近畿支部第117回例会, 大阪, 2022.10.8
24. 小川健仁, 藪内洋平, 押川大介, 藤尾行恵, 勝山苑香, 曾根明日香, 塚本和之, 竜野稜子, 南條俊也, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: CTで食道の浮腫性壁肥厚を契機に指摘された急性壊死性食道炎の2例. 日本消化器病学会近畿支部第117回例会, 大阪, 2022.10.8
25. 藤尾行恵, 森田周子, 押川大介, 勝山苑香, 曾根明日香, 塚本和之, 竜野稜子, 小川健仁, 南條俊也, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 食道癌に対するNivolumab投与により下垂体炎をきたした1例. 日本消化器病学会近畿支部第117回例会, 大阪, 2022.10.8
26. 曾根明日香, 秋山慎介, 押川大介, 藤尾行恵, 勝山苑香, 塚本和之, 小川健仁, 竜野稜子, 南條俊也, 長尾宗一郎, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 原 重雄: 免疫チェックポイント阻害薬投与中に発症したirAE (immune-related adverse event) 胆管炎の1例. 日本消化器病学会近畿支部第117回例会, 大阪, 2022.10.8
27. 勝山苑香, 丹家元祥, 藤尾行恵, 押川大介, 塚本和之, 曾根明日香, 南條俊也, 小川健仁, 竜野稜子, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 喜多亮介, 原 重雄: 腹痛を契機に発見され, 外科的切除により診断された膵MiNENの一例. 日本消化器病学会近畿支部第117回例会, 大阪, 2022.10.8
28. 森田周子: 拡大内視鏡画像の検討および病理対比について その1. 第3回奈良拡大内視鏡研究会, 奈良, 2022.10.22
29. 秋山慎介, 丹家元祥, 和田将弥, 猪熊哲朗: 切除可能膵体尾部癌に対する術前EUS-FNABの必要性と予後に関する検討. JDDW2022, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.28
30. 丹家元祥, 秋山慎介, 和田将弥, 猪熊哲朗, 原 重雄: 当院の造影結節を有する膵管内乳頭粘液性腫瘍に対する膵液連続細胞診の成績. JDDW2022, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.28
31. 山本健太, 丹家元祥, 秋山慎介, 和田将弥, 猪熊哲朗: 当院における悪性胆道閉塞に対するドレナージ治療の現状. JDDW2022, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.29
32. 長尾宗一郎, 細谷和也, 藪内洋平, 森田周子, 猪熊哲朗: 高齢者の大腸憩室出血についての検討. 第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.5
33. 藤尾行恵, 井上聡子, 押川大介, 勝山苑香, 曾根明日香, 塚本和之, 小川健仁, 竜野稜子, 南條俊也, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 西久保雅司, 山口貴子, 原 重雄: 血便を契機に診断し得たメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の1例. 第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.5
34. 井上聡子, 細谷和也, 猪熊哲朗: クロウン病の腸管狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術の効果と展望. 第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.5
35. 細谷和也, 藪内洋平, 森田周子, 井上聡子, 猪熊哲朗: Japan Endoscopy Databaseを活用した大腸内視鏡 Quality indicatorの評価と今後の課題. 第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.5
36. 押川大介, 丹家元祥, 藤尾行恵, 勝山苑香, 曾根明日香, 塚本和之, 小川健仁, 竜野稜子, 南條俊也, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 潰瘍性大腸炎増悪による血便との鑑別を要した二次性大動脈十二指腸瘻の一例. 第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.5
37. 小川健仁, 秋山慎介, 丹家元祥, 和田将弥, 猪熊哲朗: 遠位胆道癌による胆管狭窄に対する術前内視鏡的ドレナージの検討. 第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.5
38. 秋山慎介, 丹家元祥, 和田将弥, 猪熊哲朗: 膵周囲液体貯留に対する内視鏡的step-up approachの現状と課題. 第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.5
39. 南條俊也, 丹家元祥, 押川大介, 藤尾行恵, 勝山苑香, 曾根明日香, 塚本和之, 小川健仁, 竜野稜子, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 当院における悪性胆道狭窄に対して胆管金属ステント留置後に胆嚢炎を発症した症例の検討. 第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.5

40. 曾根明日香, 森田周子, 押川大介, 藤尾行恵, 勝山苑香, 塚本和之, 小川健仁, 竜野稜子, 南條俊也, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 早期食道癌への内視鏡的治療時にオーバーチューブによる食道穿孔を来した1例. 第109回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.5
41. 鄭 浩柄: 当院における肝性脳症の診断・治療～改訂ガイドラインを踏まえた治療戦略～. 第2回兵庫県肝性脳症研究会, 神戸, Web開催, 2022.11.12
42. 鄭 浩柄: 肝硬変合併症の診断・治療について. 第5回神戸消化器懇話会, 神戸, 2022.11.17
43. 鄭 浩柄: FIB-4 高値を呈した糖尿病患者に関する検討. 神戸芝蘭消化器セミナー, 神戸, 2022.11.24
44. 伊藤雅弘, 立川 良, 上田亮太, 田代隼基, 塚本信哉, 豊田裕士, 遠藤 慧, 李 正道, 島 佑介, 金澤史朗, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 鄭 浩柄, 富井啓介: 両肺に多発浸潤影を呈した_x000B_肝放線菌症疑いの1例. 日本肺癌学会近畿地方会, 大阪, 2022.12.17
45. 長尾宗一郎, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 市中病院での肝細胞癌に対するアテゾリズマブ・ベマシズマブ併用療法の成績について. 日本消化器病学会近畿支部第118回例会, 京都, 2023.1.21
46. 井上聡子, 猪熊哲朗: 潰瘍性大腸炎に対するベドリズマブの寛解維持効果. 日本消化器病学会近畿支部第118回例会, 第71回教育講演会, 第24回専門医セミナー, 京都, 2023.1.21
47. 曾根明日香, 丹家元祥, 秋山慎介, 和田将弥, 猪熊哲朗: 当院における胆管癌による胆道狭窄に対する経乳頭の病理診断能の現状. 日本消化器病学会近畿支部第118回例会, 第71回教育講演会, 第24回専門医セミナー, 京都, 2023.1.21
48. 塚本和之, 藪内洋平, 藤尾行恵, 押川大介, 曾根明日香, 勝山苑香, 南條俊也, 小川健仁, 竜野稜子, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 高橋加奈, 原 重雄: 出血性ショックを呈したアメーバ性大腸炎の一例. 日本消化器病学会近畿支部第118回例会, 第71回教育講演会, 第24回専門医セミナー, 京都, 2023.1.21
49. 竜野稜子, 井上聡子, 藤尾行恵, 押川大介, 曾根明日香, 塚本和之, 南條俊也, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 山下大祐: メッケル憩室の術前診断についての検討～当院の20例の経験から～. 日本消化器病学会近畿支部第118回例会, 第71回教育講演会, 第24回専門医セミナー, 京都, 2023.1.21
50. 有野寛人, 和田将弥, 藤尾行恵, 押川大介, 塚本和之, 曾根明日香, 勝山苑香, 南條俊也, 小川健仁, 竜野稜子, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 正中弓状韌帯症候群を背景に異時性に膵十二指腸動脈瘤破裂をきたした一例. 日本消化器病学会近畿支部第118回例会, 第71回教育講演会, 第24回専門医セミナー, 京都, 2023.1.21
51. 藤尾行恵, 秋山慎介, 押川大介, 塚本和之, 曾根明日香, 勝山苑香, 南條俊也, 小川健仁, 竜野稜子, 長尾宗一郎, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 術前経皮的胆道ドレナージにより播種再発を来したと考えられる肝内胆管癌の一例. 日本消化器病学会近畿支部第118回例会, 第71回教育講演会, 第24回専門医セミナー, 京都, 2023.1.21
52. 南條俊也, 丹家元祥, 和田将弥, 押川大介, 藤尾行恵, 勝山苑香, 曾根明日香, 塚本和之, 小川健仁, 竜野稜子, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 藪内洋平, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: 悪性肝門部胆管閉塞に対してEUS下右肝管ドレナージ術を行った1例. 日本消化器病学会近畿支部第118回例会, 第71回教育講演会, 第24回専門医セミナー, 京都, 2023.1.21
53. 曾根明日香: 免疫チェックポイント阻害薬投与中に発症したirAE胆管炎の1例. 第7回京大消化器内科学術集会・同門会, Web開催, 2023.1.28
54. 井上聡子: 境界不明瞭なlow grade dysplasiaを伴う潰瘍性大腸炎の一例. 第4回兵庫IBDとことんセミナー, 神戸, Web開催, 2023.2.10
55. 森田周子: 表在型食道癌治療について. 食道癌治療セミナー, Web開催, 2023.2.14
56. 鄭 浩柄: フォンタン関連肝疾患(FALD)について. 第3回超音波WEBカンファレンス, Web開催, 2023.2.16
57. 井上聡子: 潰瘍性大腸炎の治療. 兵庫県保険医協会・薬科部研究会, 神戸, Web開催, 2023.2.18
58. 長尾宗一郎, 細谷和也, 藪内洋平, 森田周子, 猪熊哲朗: 後出血ハイリスク患者における胃ESD後粘膜欠損の予防的縫縮術について. 第95回日本胃癌学会総会, 札幌, 2023.2.24

59. 細谷和也, 藪内洋平, 森田周子, 猪熊哲朗: 胃 ESD 後サーベイランス発見胃癌の検討. 第 95 回日本胃癌学会総会, 札幌, 2023.2.25
60. 井上聡子: 潰瘍性大腸炎のいま. 第 3 回北播磨 IBD セミナー, 小野, 2023.3.9

VIII. 1.6 呼吸器内科

1. 富井啓介: COVID-19 診療における現場の疑問点を考える / 患者からの感染防御から患者への感染防御へ. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.22
2. 立川 良: 非がん性呼吸器疾患の緩和ケア. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.22
3. 平林亮介, 貴志亮太, 田代隼基, 岩林正明, 遠藤 慧, 世利佳滉, 島 佑介, 嶋田有里, 白川千種, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 長谷川耕平, 黒田浩一, 瀬尾龍太郎, 富井啓介: COVID-19 感染の流行期 (波) における HFNC の変遷. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.23
4. 永田一真: 在宅呼吸療法について医師が CE に求めること. 第 32 回日本臨床工学会, 2022 年度公益社団法人日本臨床工学技士会総会つくば, ハイブリッド開催, 2022.5.15
5. 甲 貴文, 瀬尾龍太郎, 山下大祐, 原 重雄, 富井啓介, 高山昌和, 鉄本啓介, 齊藤正男, 浜川博司, 高橋豊: 重症 COVID-19 症例における圧傷害 (barotrauma) の臨床的意義. 第 39 回日本呼吸器外科学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.20
6. 甲 貴文, 川端智也, 池田美香, 嶋田有里, 平林亮介, 清水祐里, 原 重雄, 齊藤正男, 浜川博司, 高橋 豊: 肺非結核性抗酸菌症 (Mycobacterium intracellulare) に伴う続発性気胸・胸膜炎・皮下膿瘍の 1 例. 第 39 回日本呼吸器外科学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.24-6.14
7. Sato Y, Masuda T, Miura S, Tachihara M, Hosokawa S, Nakamura A, Miyawaki T, Yoshimine K, Mori M, Shiraishi H, Hamai K, Haratani K, Maeda S, Tabata E, Kitagawa C, Tanizaki J, Imai T, Yamamoto N, Nakagawa K, Hattori N: The significance of micro-EGFR T790M mutations on EGFR-TKI efficacy in patients with NSCLC-WJOG13119L study 2022 ASCO, オンライン開催, 2022.6.3-6
8. 佐藤悠城, 遠藤 慧, 中川 淳, 富井啓介, 入江 慶, 比谷里美, 藤原 悟: Alectinib, Brigatinib 治療後の脳転移に Lorlatinib が奏効した ALK 陽性肺癌の一例. 第 116 回日本肺癌学会関西支部学術集会, 豊中, ハイブリッド開催, 2022.6.25
9. 富井啓介: HFNC は緩和ケアに適しているのか? 第 27 回日本緩和医療学会学術大会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.7.2
10. 川端智也, 池田美香, 松添晴加, 岡 俊吾, 大濱大瑛, 片岡和哉, 甲 貴文, 濱川博司, 嶋田有里, 中川淳: COVID-19 に続発した人工呼吸器関連肺炎に起因する急性膿胸に対し局所陰圧閉鎖療法が有効であった一例. 第 14 回日本創傷外科学会総会・学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.7.15
11. 田代隼基, 永田一真, 貴志亮太, 世利佳滉, 遠藤 慧, 白川千種, 嶋田有里, 島 佑介, 平林亮介, 佐藤悠城, 立川 良, 清水祐里, 原 重雄, 石井淳子, 富井啓介: 抗 NMDA 受容体脳炎を伴う限局型肺小細胞がん に集学的治療が奏功した一例. 第 99 回日本呼吸器学会近畿地方会, 第 129 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿地方会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.7.23
12. 島 佑介, 中川 淳, 貴志亮太, 田代隼基, 岩林正明, 世利佳滉, 遠藤 慧, 嶋田有里, 白川千種, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 立川 良, 富井啓介: 造影効果を伴う下垂体柄の腫大と内分泌異常の精査中に肺腺癌が診断された一例. 第 129 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会, 第 99 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.7.23
13. 遠藤 慧, 中川 淳, 岩林正明, 白川千種, 嶋田有里, 島 佑介, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 立川 良, 富井啓介, 西野彰悟, 原 重雄: TBLB により診断された AFOP の一例. 第 129 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会, 第 99 回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.7.23
14. 永田一真: 多職種チームで見る高流量鼻カニュラ酸素療法 (HFNC). 第 6 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会, Web 開催, 2022.7.30
15. Sato Y, Sumikawa H, Shibaki R, Morimoto T, Sakata Y, Motohiro O, Suzuki H, Matsumoto H, Kijima T, Hashimoto K, Kobe H, Hino A, Inaba M, Tsukita Y, Ikeda H, Arai D, Maruyama H, Sakata S, Fujimoto D, Osi-FACT ILD investigators: Drug-related pneumonitis induced by osimertinib as first-line treatment for EGFR-positive non-small cell lung cancer in real-world settings. ESMO 2022, Paris, France, hybrid, 2022.9.12

16. Sato Y, Fujiwara S, Hata A, Kida Y, Masuda T, Amimoto H, Matsumoto H, Miyoshi K, Otsuka K, Tomii K : A multicenter prospective observational study of pre-existing autoantibodies in patients with small-cell lung cancer treated with ICI. ESMO 2022, Paris, France, hybrid, 2022.9.12
17. 立川 良：間質性肺疾患の緩和ケア概論. 第2回日本びまん性肺疾患研究会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.2
18. 金澤史朗, 佐藤悠城, 上田亮太, 伊藤雅弘, 田代隼基, 塚本信哉, 豊田裕士, 遠藤 慧, 李 正道, 島 佑介, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 原 重雄, 富井啓介：EGFR-TKI 投与中に間質影の慢性進行を認めた非小細胞肺癌症例の検討. 日本呼吸器学会, 東京, 2022.10.2
19. 金澤史朗, 佐藤悠城, 上田亮太, 伊藤雅弘, 田代隼基, 塚本信哉, 豊田裕士, 遠藤 慧, 李 正道, 島 佑介, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 原 重雄, 富井啓介：EGFR-TKI 投与中に間質影の慢性進行を認めた非小細胞肺癌症例の検討. 日本呼吸器学会, 東京, 2022.10.2
20. 山根俊之, 石井淳子, 甲 貴文, 田代隼基, 永田一真, 原 重雄, 太田和馬, 前川嵩太, 川本未知：腫瘍切除により顕著な症状改善を認めた小細胞肺癌合併抗 NMDA 受容体脳炎の1例. 第34回日本神経免疫学会学術集会, 長崎, ハイブリッド開催, 2022.10.20
21. 富井啓介：“最後の砦”が最初に転けてから シンポジウム新型コロナウイルス感染症治療の変遷. 第92回日本感染症学会西日本地方会, 第65回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 第70回日本化学療法学会西日本支部総会, 長崎, ハイブリッド開催, 2022.11.3
22. 立川 良：【症例1】COVID-19 とリハビリテーション連携～COVID-19 がもたらした地域の変革～ 医師の立場から. 第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 千葉, ハイブリッド開催, 2022.11.11
23. 永田一真：在宅ハイフセラピーの適応とその効果. 第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 千葉, ハイブリッド開催, 2022.11.12
24. 立川 良：非がん性呼吸器疾患の緩和ケア 2021 の概要. 第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 千葉, ハイブリッド開催, 2022.11.12
25. 富井啓介：間質性肺疾患のトータルマネージメント. 第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 千葉, ハイブリッド開催, 2022.11.12
26. 高山昌和, 原 重雄, 永田一真, 石井淳子, 清水祐里, 山根俊之, 田代隼基, 齊藤正男, 甲 貴文, 鉄本啓介, 浜川博司, 高橋 豊：小細胞肺癌に抗 NMDA 受容体脳炎を合併し腫瘍切除した一例. 第63回日本肺癌学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.1
27. 齋藤良太, 原田英幸, 秦 明登, 金野正裕, 豆鞆伸昭, 中松清志, 林 秀敏, 山本貴也, 馬屋原博, 小久保雅樹, 佐藤悠城, 吉村健一, 西村恭昌, 山本信之, 中川和彦：局所進行非小細胞肺癌に対するIMRTを用いたCRT後のDurvalumab投与：WJOG12019L. 第63回日本肺癌学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.1
28. 佐藤悠城, 澄川裕充, 柴木亮太, 森本 剛, 坂田能彦, 大矢由子, 田宮基裕, 鈴木秀和, 松本啓孝, 木島貴志, 橋本和樹, 神戸寛史, 日野 葵, 稲葉 恵, 突田容子, 池田英樹, 荒井大輔, 丸山広高, 原 聡志, 津村真介, 坂田晋也, 藤本大智：EGFR 陽性非小細胞肺癌に対する初回治療 Osimertinib の多施設実態調査に付随する薬剤性肺障害の検討. 第63回日本肺癌学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.2
29. 富井啓介：ハイフローセラピー (HFNC) の現状と今後の期待. 第100回日本呼吸器学会近畿地方会, 第130回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 合同学会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.12.17
30. 田代隼基, 立川 良, 上田亮太, 伊藤雅弘, 高橋祥太, 塚本信哉, 豊田裕士, 遠藤 慧, 金澤史朗, 島 佑介, 白川千種, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介, 嶋田有里, 滋野 稜：肝肺症候群を背景とした肺高血圧症に対してマシテンタン内服により急性呼吸不全をきたした一例. 第100回日本呼吸器学会近畿地方会, 第130回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 合同学会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.12.17
31. 伊藤雅弘, 立川 良, 上田亮太, 田代隼基, 塚本信哉, 豊田裕士, 遠藤 慧, 李 正道, 島 佑介, 金澤史朗, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 鄭 浩柄, 富井啓介：両肺に多発浸潤影を呈した_x000B_肝放線菌症疑いの1例. 日本肺癌学会近畿地方会, 大阪, 2022.12.17
32. 上田亮太, 島 佑介, 白川千種, 永田一真, 伊藤雅弘, 田代隼基, 塚本信哉, 豊田裕士, 遠藤 慧, 李 正道, 金澤史朗, 平林亮介, 佐藤悠城, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介：抗MDA-5抗体陽性皮膚筋炎に合併した難治性間質性肺炎に対して血漿交換が有効であった2例. 第100回日本呼吸器学会近畿地方会, 第130回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 合同学会, 大阪, 2022.12.17

33. 伊藤雅弘, 佐藤悠城, 島 佑介, 高橋祥太, 田代隼基, 豊田裕士, 李 正道, 白川千種, 金澤史朗, 平林亮介, 永田一真, 立川 良, 中川 淳, 富井啓介, 吉本明弘: Afatinib による薬剤性腎障害の 1 例. 第 117 回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2023.2.18
34. 吉田匡伸, 藤原 悟, 小泉直史, 岡 良祐, 竹中友洋, 櫻井靖久, 下山佳織, 荒木 健, 前川嵩太, 石井淳子, 高杉純司, 吉村 元, 尾原信行, 幸原伸夫, 立川 良, 原 重雄, 大村浩一郎, 川本未知: 関節症状を伴わない抗 CCP 抗体陽性器質化肺炎治療中に発症したリウマチ性髄膜炎の一例. 日本神経学会第 124 回近畿地方会, 豊中, ハイブリット開催, 2023.3.5
35. Hata A, Sato Y, Fujiwara S, Kida Y, Masuda T, Amimoto H, Matsumoto H, Miyoshi K, Otsuka K, Tomii K: A multicenter prospective observational study of pre-existing autoantibodies in patients with small-cell lung cancer treated with ICI. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡, ハイブリット開催, 2023.3.16

VIII. 1.7 血液内科

1. 永井雄也: 濾胞性リンパ腫における EZH2 変異の意義. 第 9 回京都血液フォーラム, 京都, 2022.4.23
2. 柳田正光, 小沼貴晶, 山崎 聡, 原田介斗, 岩崎 惇, 小林彩香, 西島暁彦, 田中正嗣, 内田直之, 中前博久, 福田隆浩, 鬼塚真仁, 小澤幸泰, 澤 正史, 片山雄太, 吉岡 聡, 木村貴文, 一戸辰夫, 熱田由子, 諫田淳也, 矢野真吾: 急性骨髄性白血病に対する代替ドナーからの同種造血幹細胞移植. 第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.13
3. 南谷泰仁, 磯部優理, 加藤せい子, 小沼貴晶, 兼村信宏, 笠原千嗣, 平本展大, 千葉 滋, 高橋 聡, 小川誠司: NGS を用いた移植後キメラリズムの評価. 第 44 回日本造血免疫細胞療法学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.13
4. 黒澤修兵, 下村良充, 糸永英弘, 名島悠峰, 小林 武, 小澤幸泰, 神田善伸, 賀古真一, 河北敏郎, 松岡賢市, 丸山ゆみ子, 太田秀一, 中澤英之, 今田和典, 木村貴文, 諫田淳也, 福田隆浩, 熱田由子, 石山謙: 骨髄異形成症候群に対する同種移植における FLU/BU4 と FLU/BU2 の比較. 第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.13
5. 水野昌平, 高見昭良, 河村浩二, 下村良充, 新井康之, 小沼貴晶, 小澤幸泰, 澤 正史, 太田秀一, 高橋 聡, 安齋尚之, 吉岡 聡, 鬼塚真仁, 中前博久, 田中正嗣, 村田 誠, 木村貴文, 諫田淳也, 福田隆浩, 熱田由子, 柳田正光: 寛解期 AML における Flu/Bu4/Mel と全身放射線照射を用いた臍帯血骨髄破壊の前処置の比較. 第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.13
6. 和田典也, 諫田淳也, 吉岡 聡, 石川隆之, 赤坂尚司, 上田恭典, 平田大二, 新井康之, 野吾和宏, 安齋尚之, 渡邊光正, 池田宇次, 米澤昭仁, 今田和典, 伊藤 満, 北野俊行, 竹岡友晴, 菱澤方勝, 直川匡晴, 有馬靖佳, 浅越康助, 近藤忠一, 高折晃史: 臍帯血移植と移植後シクロホスファミドを用いた HLA 半合致血縁からの移植成績の比較. 第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.13
7. 今橋伸彦, 寺倉精太郎, 近藤英生, 加藤光次, 金 成元, 篠原明仁, 渡邊瑞希, 福田隆浩, 内田直之, 小林光, 石川 淳, 片岡圭亮, 荒 隆英, 池田宇次, 松岡賢市, 吉田周郎, 近藤忠一, 木村貴文, 鬼塚真仁, 一戸辰夫, 熱田由子, 諫田淳也: 成熟リンパ系腫瘍に対する、強度減弱前処置を用いた同種造血幹細胞移植におけるドナーの比較. 第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.13
8. 和田典也, 近藤忠一, 山本隆介, 山際岳朗, 新井康之, 水本智咲, 諫田淳也, 北脇年雄, 山下浩平, 高折晃史: GVHD 予防として MMF を追加した HLA1 座不適合非血縁骨髄移植と臍帯血移植の移植成績の比較. 第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.13
9. 栗山幸大, 藤 重夫, 沖中敬二, 大島久美, 近藤忠一, 福島健太郎, 土岐典子, 後藤守孝, 田中正嗣, 中澤英之, 小澤幸泰, 今村 豊, 坂本 光, 一戸辰夫, 福田隆浩, 熱田由子, 緒方正男: 本邦における同種造血幹細胞移植後 mucor 感染症. 第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.13
10. 池脇礼子, 吉川友加里, 岡田直樹, 下村良充, 平本展大, 吉岡 聡, 石川隆之: COVID-19 パンデミック下の海外在住外国人血縁ドナーコーディネートの経験. 第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.14
11. 梅本由香里, 日野雅之, 幕内陽介, 岡村浩史, 萩山恵子, 折原勝巳, 中尾隆文, 岡田昌也, 魚嶋伸彦, 伊藤満, 薬師神公和, 西川彰則, 石川 淳, 水野石一, 石川隆之, 福田隆浩: WEB を用いた事前入力によるコーディネート期間短縮. 第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.14

12. 城 友泰, 岡田和也, 小尾夏野, 足立壯一, 新井康之, 諫田淳也, 近藤忠一, 高折晃史, 上田恭典, 長尾美紀: 同種末梢血幹細胞採取における収量予測モデルの開発. 第 70 回日本輸血・細胞治療学会学術総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2022.5.29
13. 鈴木優太, 平本展大, 石川隆之, 丸岡隼人, 大野 彩, 上田恭典, 高原里枝, 河内佳子: Rare type であることが診断後に判明した AML with inv (16) (p13.1;q22) の一例. 第 113 回近畿血液学地方会, Web 開催, 2022.6.4
14. 永井雄也: Dasatinib 加療中に肺動脈性肺高血圧症を合併した症例. BMS Leukemia Web Seminar, 神戸, 2022.6.9
15. 近藤忠一: 京大病院での造血幹細胞移植時の真菌感染管理. 第 22 回造血幹細胞移植チーム医療ミーティング京都, 2022.6.11
16. 山本隆介: 高リスク多発性骨髄腫の自家移植後再発をきたした一例. Myeloma Round Table meeting 2022 Summer, 神戸, 2022.6.13
17. 西久保雅司, 光行智司, 山本隆介, 平本展大, 米谷 昇, 近藤忠一, 石川隆之, 原 重雄: Ph-like ALL に対して uPBSCT 後に多発皮質下白質・脳幹病変を認めた 28 歳男性の 1 例. 第 11 回 KSCTG 研究会, Web 開催, 2022.8.6
18. 下村良充: 若手のための臨床研究講座. Next Generation Online Workshop in 2022, 札幌, 2022.9.2
19. 西久保雅司: 極論で語る血液内科. 一般社団法人西日本臨床医学研修機構合水塾ショートレクチャー数珠つなぎ, Web 開催, 2022.9.10
20. 近藤忠一: デイスカッション 移植非適応 Frail 症例. Multiple Myeloma Web Seminar, Web 開催, 2022.9.12
21. 近藤忠一: デイスカッション 症例提示 2 移植非適応 再発・難治症例 高齢者 Frail 症例. 多発性骨髄腫フォーラム in 兵庫, Web 開催, 2022.9.28
22. 永井雄也: 当院におけるキムリア診療のマネージメント 一治療施設の立場から. Novartis Hematology Web Seminar in KOBE, Web 開催, 2022.10.5
23. 和田典也, 上條公守, 下村良充, 山下大祐, 原 重雄, 石川隆之: PD-1 expression on tumor-infiltrating nonmalignant cells is a prognostic factor for R/R DLBCL. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.14
24. 山際岳朗, 米澤 淳, 諫田淳也, 川上智也, 糸原光太郎, 谷口理沙, 阪本貴士, 水本智咲, 近藤忠一, 渡邊光正, 提 康彦, 平田大二, 藤原慎一郎, 高折晃史, 寺田智祐: Correlation analysis between blood concentration and AUC of venetoclax. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.14
25. 光行智司, 平本展大, 大野 彩, 西久保雅司, 下村良充, 山本隆介, 永井雄也, 丸岡隼人, 南谷泰仁, 小川誠司, 石川隆之: The allelic ratio calculated by cDNA can stratify the risk subgroups of ELN-2017 among FLT3-ITD AML, 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.14
26. 奥田瑠璃花, 越智陽太郎, 蝶名林和久, 平本展大, 眞田 昌, 半田 寛, 笠原千嗣, 佐藤信也, 兼村信宏, 北野俊行, 渡邊瑞希, 白石友一, 渡邊光正, 臼杵憲祐, 今宿晋作, 千葉 滋, 瀬崎伸夫, 宮崎恭司, 吉田善紀, 石川隆之, 大屋敷一馬, 熱田由子, 塩澤祐介, 宮野 悟, 牧島秀樹, 南谷泰人, 小川誠司: der (1;7) (q10;p10) as a distinct subtype in myelodysplastic syndromes, 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.14
27. 森島聡子, 椎名 隆, 森島泰雄, 東 史啓, 友利昌平, 土岐典子, 小澤幸泰, 福田隆浩, 田中正嗣, 衛藤徹也, 河北敏郎, 荒隆英, 平本展大, 内田直之, 神田善伸, 諫田淳也, 鬼塚真仁, 一戸辰夫, 熱田由子, 村田誠: The impact of HLA expression level on transplant outcomes in HLA-matched UR-SCT. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.14
28. 白鳥聡一, 土岐典子, 豊崎誠子, 大隅朋生, 岡田昌也, 河北敏郎, 澤 正史, 石川隆之, 上田恭典, 三浦 南, 吉成 望, 藤川 瑩: Ibrutinib in Japanese steroid-dependent/refractory cGVHD patients; Final analysis of single-arm study. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.14
29. 山下大祐, 平本展大, 金尾昌太郎, 鈴木栄治, 石川隆之, 原 重雄: Follicular lymphoma accompanying synchronous primary invasive breast carcinoma. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, 2022.10.14
30. 前田智也, 松田 晃, 諫田淳也, 川端 浩, 石川隆之, 通山 薫, 北中 明, 荒関かやの, 新保 敬, 波多智子, 鈴木隆浩, 茅野秀一, 臼杵憲祐, 新堂真紀, 有馬靖佳, 直川匡晴, 太田晶子, 千葉 滋, 宮崎泰司, 中尾眞二, 小澤敬也, 荒井俊也, 黒川峰夫, 高折晃史, 三谷絹子: Characteristic and prognostic impact of erythroid dysplasia in aplastic anemia: a prospective cohort. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.15

31. 宮田吉晴, 秋山大宗, 前川貴則, 倉島佳歩, 福岡知也, 佐藤伊都子, 渡部まりか, 齊藤泰之, 平川結梨, 佐伯美紀, 松本咲耶, 北尾章人, 薬師神公和, 川口晃司, 上月瑠子, 永井雄也, 水野石一, 村山 徹, 下山 学, 垣内誠司, 石川隆之, 南 博信, 山田和宏, 松岡 広 : Immuno-flowFISH in del (17p) detection: a new chromosome analysis method for multiple myeloma. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.15
32. 下村良充, 小向 翔, 北村哲久, 祖父江友孝, 黒澤修兵, 土岐典子, 片山雄太, 小澤幸泰, 松岡賢市, 賀古真一, 澤 正史, 神田善伸, 中前博久, 中澤英之, 上田恭典, 諫田淳也, 福田隆浩, 熱田由子, 石山 謙 : Identifying the optimal conditioning intensity of HSCT in patients with MDS. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.15
33. 大嶋慎一郎, 新井康之, 近藤忠一, 内田直之, 鬼塚真仁, 宮腰重三郎, 田中正嗣, 高橋 聡, 衛藤徹也, 木村貴文, 一戸辰夫, 熱田由子, 柳田正光 : Umbilical cord blood transplantation: RIC vs MAC for adult AML patients. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.15
34. 戸田有亮, 新井康之, 近藤忠一, 原田介斗, 土岐典子, 福田隆浩, 片山雄太, 小澤幸泰, 田中正嗣, 池亀和博, 栗山拓郎, 内田直之, 日野雅之, 一戸辰夫, 熱田由子, 柳田正光 : Impact of CD34+ cell dose on outcomes after allogeneic PBSCT in adult AML patients. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.15
35. 太田秀一, 伊豆津宏二, 三嶋裕子, 臼杵憲祐, 遠西大輔, 山本一仁, 福原規子, 吉岡 聡 : Japanese phase 1b study of an oral PI3K-delta/gamma inhibitor duvelisib in patients with r/r CLL/SLL. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.15
36. 中川大志, 下村良充, 久保茂世, 光行智司, 西久保雅司, 鈴木優太, 岡田直樹, 上條公守, 山本隆介, 永井雄也, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 石川隆之 : Letemovir in HLA-haploidentical hematopoietic transplantation with posttransplant cyclophosphamide. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.15
37. 岡田直樹, 永井雄也, 久保茂世, 丸岡隼人, 石井淳子, 吉岡 聡, 米谷 昇, 石川隆之 : Tisagenlecleucel CAR T-cell therapy in secondary CNS lymphoma: an institutional experience. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.16
38. 西久保雅司, 下村良充, 丸岡隼人, 奈須聖子, 西岡知美, 崎園賢治, 光行智司, 久保茂世, 岡田直樹, 中川大志, 上條公守, 井本寛東, 山本隆介, 永井雄也, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 宮越千智, 土井朝子, 石川隆之 : Humoral response and safety of mRNA COVID-19 vaccines in patients treated with anti-CD20 antibodies. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.16
39. 城 友泰, 新井康之, 近藤忠一, 原田介斗, 大嶋慎一郎, 内田直之, 土岐典子, 福田隆浩, 田中正嗣, 小澤幸泰, 衛藤徹也, 池亀和博, 鬼塚真仁, 一戸辰夫, 熱田由子, 柳田正光 : Development of a transplant-specific prognostic scoring system for poor cytogenetic risk AML. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.16
40. 清水拓也, 新井康之, 近藤忠一, 土岐典子, 福田隆浩, 小澤幸泰, 衛藤徹也, 神田善伸, 高橋 聡, 河北敏郎, 鬼塚真仁, 熱田由子, 柳田正光 : FLUBU4 compared with conventional MAC improved overall survival in acute myeloid leukemia patients. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.16
41. 近藤忠一 : 悪性リンパ腫に対する造血幹細胞移植. Hematology symposium in KOBE, 神戸, 2022.10.20
42. 近藤忠一 : 造血幹細胞移植の合併症と管理 : 現状と課題. 第 3 回京都 腎と血液セミナー, 京都, 2022.10.27
43. 永井雄也 : 癌治療で期待される遺伝子改変 NK 細胞. 神戸血液 Conference, 神戸, 2022.11.04
44. 近藤忠一 : ブスルファンを含む前処置を用いた同種造血幹細胞移植. 第 7 回 Otsuka 造血細胞移植関連 Web セミナー, Web 開催, 2022.11.07
45. 近藤忠一 : 薬物相互作用を踏まえた、血液悪性腫瘍治療における真菌感染症管理. 茨城血液感染症セミナー, 水戸, 2022.11.17
46. 永井雄也 : 再発・難治性 DLBCL に対する CAR-T 治療の経験. Hematology Conference in Kobe, 神戸, 2022.11.18
47. 久保茂世, 新田彩巴, 仲 亮祐, 下村良充, 永井雄也, 近藤忠一, 石川隆之 : 当院の CAR-T 治療関連合併症のマネジメント. 第 117 回近畿血液学地方会, 神戸, 2022.11.26
48. 西久保雅司, 平本展大, 山本隆介, 米谷 昇, 永井雄也, 近藤忠一, 石川隆之, 長野 徹, 山下大祐 : 診断から 5 年後に B 症状を伴う全身病変を認めた原発性皮膚未分化大細胞型リンパ腫の 1 例. 第 117 回近畿血液学地方会, 神戸, 2022.11.26

49. 光行智司, 平本展大, 下村良充, 山本隆介, 永井雄也, 米谷 昇, 近藤忠一, 石川隆之, 南谷泰仁, 森 拓人, 小川誠司: NPM1 変異を有する急性骨髄性白血病 (AML) の同種移植後に発症した治療に関連した骨髄腫瘍 (t-MN). 第 117 回近畿血液学地方会, 神戸, 2022.11.26
50. 永井雄也: BR リトリート後の再発に R2 を導入した濾胞性リンパ腫の一例. BMS Clinical Hematology Conference, Web 開催, 2022.12.8
51. 西久保雅司, 下村良充, 丸岡隼人, 奈須聖子, 西岡知美, 崎園賢治, 光行智司, 久保茂世, 岡田直樹, 中川大志, 上條公守, 井本寛東, 山本隆介, 永井雄也, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 宮越千智, 土井朝子, 石川隆之: 同種移植後患者における mRNA COVID-19 ワクチン接種後の液性免疫反応及び GVHD 増悪を含めた安全性に関する検討. 血液内科の未来を語る会, Web 開催, 2022.12.12
52. Kubo T, Shimomura Y, Maruoka H, Nagai Y, Kondo T, Ishikawa T: Risk Stratification of Diffuse Large B-Cell Lymphoma Based on Cell Surface Markers Using Flow Cytometry. 64TH ASH ANNUAL MEETING AND EXPOSITION, New Orleans, USA, virtual, 2022.12.10
53. Nishikubo M, Shimomura Y, Yamamoto R, Maruoka H, Nasu S, Nishioka T, Sakizono K, Mitsuyuki S, Kubo T, Okada N, Nakagawa D, Kamiyo K, Imoto H, Nagai Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Kondo T, Ishikawa T: Booster Dose of mRNA-Based COVID-19 Vaccine Induces a Humoral and Cellular Response in Patients Recently Treated with Anti-CD20 Monoclonal Antibodies. 64TH ASH ANNUAL MEETING AND EXPOSITION, New Orleans, USA, virtual, 2022.12.11
54. Ishikawa T, Takeuchi M, Shimada K, Kubo K, Kondo T, Fujimoto K, Fujisaki T, Nagafuji K, Sakai R, Kurahashi S, Jo T, Sunami K, Kasahara S, Nakazato T, Guo H, Novotny W, Tankersley C, Takai M, Yao H, Zhong J, Zhu H, Izutsu K: Efficacy and Safety of Zanubrutinib in Japanese Patients with Mature B-Cell Malignancies. 64TH ASH ANNUAL MEETING AND EXPOSITION, New Orleans, USA, virtual, 2022.12.11
55. Okuda R, Ochi Y, Chonabayashi K, Hiramoto N, Sanada M, Handa H, Kasahara S, Sato S, Kanemura N, Kitano T, Watanabe M, Kern W, Creignou M, Shiraishi Y, Watanabe M, Usuki K, Imashuku S, Hellström-Lindberg E, Haferlach T, Chiba S, Sezaki N, Shih LY, Miyazaki Y, Yoshida Y, Ishikawa T, Ohyashiki K, Atsuta Y, Shiozawa Y, Miyano S, Makishima H, Nannya Y, Ogawa S: Molecular Landscape of Myeloid Neoplasms with der(1;7)(q10;p10). 64TH ASH ANNUAL MEETING AND EXPOSITION, New Orleans, USA, virtual, 2022.12.11
56. Makishima H, Saiki R, Nannya Y, Korotev SC, Gurnari C, Takeda J, Momozawa Y, Best S, Krishnamurthy P, Yoshizato T, Atsuta Y, Shiozawa Y, Iijima-Yamashita Y, Yoshida K, Shiraishi Y, Nagata Y, Kakiuchi N, Onizuka M, Chiba K, Tanaka H, Kon A, Ochi Y, Nakagawa MM, Okuda R, Mori T, Yoda A, Itonaga H, Miyazaki Y, Sanada M, Ishikawa T, Chiba S, Tsurumi H, Kasahara S, Müller-Tidow C, Takaori-Kondo A, Ohyashiki K, Kiguchi T, Matsuda F, Jansen JH, Polprasert C, Blombery P, Kamatani Y, Miyano S, Malcovati L, Haferlach T, Kubo M, Cazzola M, Kulasekararaj A, Godley LA, Maciejewski JP, Ogawa S: Germline Risks and Clinical Impacts of DDX41 Mutations in Myeloid Malignancies. 64TH ASH ANNUAL MEETING AND EXPOSITION, New Orleans, USA, virtual, 2022.12.11
57. Kamiyo K, Shimomura Y, Kim SW, Ara T, Ishikawa J, Eto T, Hiramoto N, Mizuno I, Kusumoto S, Ueda Y, Matsuoka K, Onizuka M, Fukuda T, Atsuta Y, Kondo E: Reduced-Intensity Conditioning with Fludarabine/Busulfan Versus Fludarabine/Low-Dose Melphalan in Patients with Non-Hodgkin Lymphoma Undergoing Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation. 64TH ASH ANNUAL MEETING AND EXPOSITION, New Orleans, USA, virtual, 2022.12.11
58. 西久保雅司, 下村良充, 丸岡隼人, 奈須聖子, 西岡知美, 崎園賢治, 光行智司, 久保茂世, 岡田直樹, 中川大志, 上條公守, 井本寛東, 山本隆介, 永井雄也, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 近藤忠一, 宮越千智, 土井朝子, 石川隆之: 抗 CD20 抗体投与歴のある血液疾患患者における mRNA COVID-19 ワクチン 3 回目接種後の液性・細胞性免疫反応に関する検討. 神戸 FL フォーラム, 神戸, 2022.12.16
59. 西久保雅司, 下村良光, 丸岡隼人, 奈須聖子, 西岡知美, 崎園賢治, 天ヶ瀬寛記, 仲 亮祐, 久保茂世, 光行智司, 山本昌平, 新田彩巴, 岡田直樹, 中川大志, 上條公守, 井本寛東, 山本隆介, 永井雄也, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 近藤忠一, 石川隆之: 同種移植後患者における mRNA COVID-19 ワクチン 2 回接種後の液性免疫反応に関する観察研究. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2023.2.10

60. 中園紘子, 永井雄也, 新田彩巴, 下村良充, 米谷 昇, 釜江直也, 原園 裕, 坂地一朗, 石川隆之: 寒冷凝集素症を伴う DLBCL に対し CAR-T 療法を目的にリンパ球採取を施行した一例. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, ハイブリッド開催, 名古屋, 2023.2.11
61. 黒澤修兵, 下村良充, 糸永英弘, 片山雄太, 鬼塚真仁, 田中正嗣, 小林 光, 小澤幸泰, 澤 正史, 諫田淳也, 土岐典子, 藤澤 信, 内田直之, 福田隆浩, 熱田由子, 石山 謙: 骨髄異形成症候群に対する Fludarabine と Melphalan を用いた前処置における Melphalan の総投与量の比較. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2023.2.11
62. 城 友泰, 新井康之, 吉原 哲, 小島 稔, 池本純子, 上村知恵, 岩木啓太, 米谷 昇, 藤原慎一郎, 李 政樹, 加畑 馨, 長村登紀子, 藤原実名美, 田野崎隆二: CAR-T 細胞製造失敗のリスク因子の解析. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2023.2.11
63. 大西 康, 森 毅彦, 山崎宏人, 平本展大, 材木義隆, 金谷 穰, 末永孝生, 鬼塚真仁, 青墳信之, 内田直之, 小野寺晃一, 諫田淳也, 中前博久, 山本隆介, 衛藤徹也, 木村貴文, 一戸辰夫, 熱田由子: 再生不良性貧血に対する臍帯血移植と PTCY を用いたハプロ移植の比較. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2023.2.12
64. 山本隆介, 平本展大, 藤本亜弓, 山崎宏人, 森 毅彦, 内田直之, 土岐典子, 加藤 淳, 小澤幸泰, 太田秀一, 鬼塚真仁, 衛藤徹也, 神田善伸, 福田隆浩, 熱田由子, 大西 康: 再生不良性貧血における移植後リンパ増殖性疾患の発症リスク因子の検討. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2023.2.12
65. 森田真梨, 進藤岳郎, 家村知樹, 新井康之, 諫田淳也, 上田恭典, 安齋尚之, 石川隆之, 米澤昭仁, 今田和典, 伊藤 満, 岡本吉央, 池田宇次, 小谷慎一, 野吾和宏, 渡邊光正, 直川匡晴, 竹岡友晴, 有馬靖佳, 菱澤方勝, 山下浩平, 近藤忠一, 高折晃史: HLA-DRB1 におけるエピトープミスマッチは臍帯血移植において再発低下と関連する. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2023.2.12
66. 山下花南恵, 平島正樹, 吉田昌弘, 丸岡隼人, 中園紘子, 米谷 昇, 石川隆之, 室井延之: CAR-T 細胞療法を支えるチーム医療における薬剤師の役割. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 名古屋, 2023.2.12
67. 中川大志, 永井雄也, 久保茂世, 光行智司, 西久保雅司, 岡田直樹, 上條公守, 下村良充, 山本隆介, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 石川隆之: FLU/BU4/MEL の前処置を用いた臍帯血移植後に急性左心不全を発症した一例. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 名古屋, 2023.2.12
68. 西久保雅司: COVID-19 update - 担がん患者さんにおけるワクチン・罹患時の重症化予防薬と治療薬を中心に -. 兵庫県病院薬剤師会, Zoom 開催, 2023.2.16
69. 西久保雅司, 下村良充, 丸岡隼人, 奈須聖子, 西岡知美, 崎園賢治, 光行智司, 久保茂世, 岡田直樹, 中川大志, 上條公守, 井本寛東, 山本隆介, 永井雄也, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 宮越千智, 土井朝子, 石川隆之: 抗 CD20 抗体投与歴のある血液疾患患者における mRNA COVID19 ワクチン投与後の免疫反応に関する検討. 臨床疫学スキルアップセミナー第 17 回関連病院若手勉強会, Web 開催, 2023.3.8
70. 西久保雅司: Isatuximab を長期に使用できている 3 例. HYOGO MM Interactive Web Meeting, Web 開催, 2023.3.24

VIII. 1.8 腫瘍内科

1. Kagawa Y, Kotani D, Bando H, Takahashi N, Hamagushi T, Kanazawa A, Kato T, Ando K, Satake H, Shinozaki E, Sunakawa Y, Takashima A, Yamazaki K, Yuki S, Nakajima H, Nakamura Y, Wakabayashi M, Taniguchi H, Ohta T, Yoshino T: Plasma RAS dynamics and anti-EGFR rechallenge efficacy in patients with RAS/BRAF wild-type metastatic colorectal cancer: REMARRY and PURSUIT trials. ASCO 2022, Chicago, USA, ハイブリッド開催, 2022.6.3-7, (DOI:10.1200/JCO.2022.40.16_suppl.3518)
2. Yuki S, Sunakawa Y, Yamazaki K, Shirasu H, Taniguchi H, Masuishi T, Shiozawa M, Bando H, Nishina T, Yasui H, Ohta T, Takahashi N, Denda T, Esaki T, Kawakami H, Satake H, Takashima A, Abe Y, Nomura S, Yoshino T: Analysis of plasma angiogenesis factors on the efficacy of 1st-line (1L) chemotherapy (chemo) combined with biologics in RAS wild-type metastatic colorectal cancer (mCRC); Results from GI-SCREEN CRC Ukit study. ASCO 2022, Chicago, USA, ハイブリッド開催, 2022.6.3-7

3. Masuishi T, Bando H, Satake H, Kotani D, Hamaguchi T, Shiozawa M, Ikumoto T, Kagawa Y, Yasui H, Moriwaki T, Kawakami H, Boku S, Oki E, Komatsu Y, Taniguchi H, Muro K, Kotaka M, Yamazaki K, Misumi T, Yoshino T, Kato T, Tsuji A : A multicenter randomized phase II study comparing CAPOXIRI plus bevacizumab and FOLFOXIRI plus bevacizumab as the first-line treatment for metastatic colorectal cancer: A safety analysis of the QUATTRO-II study. ESMO GI 2022, Barcelona, Spain, ハイブリッド開催, 2022.6.29-7.2, (DOI:https://doi.org/10.1016/j.annonc.2022.04.170)
4. Tamagawa H, Sugimoto N, Watanabe T, Satake H, Kataoka K, Kamei K, Kobayashi M, Munakata K, Fukunaga M, Kotaka M, Satoh T, Kanazawa A, Kurata T, Tomita N : A phase II study of resection followed capecitabine plus oxaliplatin for liver metastasis of colorectal cancer (REX study) : Final analysis. ESMO GI2022, Barcelona, Spain, ハイブリッド開催, 2022.6.29-7.2, (DOI:https://doi.org/10.1016/j.annonc.2022.04.168)
5. Okita Y, Tsuji A, Watanabe T, Satake H, Goto M, Yasui H, Nakamura M, Sagawa T, Kataoka K, Shiozawa M, Sunakawa Y, Ota H, Kotaka M, Miwa K, Kobayashi Y, Okuyama H, Kochi M, Masuishi T, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M : Efficacy of 2nd-line ramucirumab (RAM) plus FOLFIRI for RAS wild-type metastatic colorectal cancer (mCRC) by prior regimen: Subgroup analysis of the JACCRO CC-16. ESMO GI2022. Barcelona, Spain, ハイブリッド開催, 2022.6.29-7.2, (DOI:https://doi.org/10.1016/j.annonc.2022.04.197)
6. Kagawa Y, Kotani D, Bando H, Takahashi N, Horita Y, Kanazawa A, Kato T, Ando K, Satake H, Shinozaki E, Sunakawa Y, Takashima A, Yamazaki K, Yuki S, Nakajima H, Nakamura Y, Wakabayashi M, Taniguchi H, Ohta T, Yoshino T : Plasma RAS dynamics and efficacy of anti-EGFR rechallenge in patients with RAS/BRAF wild-type metastatic colorectal cancer: REMARRY and PURSUIT trials. ESMO GI2022, Barcelona, Spain, ハイブリッド開催, 2022.6.29-7.2, (DOI:https://doi.org/10.1016/j.annonc.2022.04.091)
7. 浦川優作 : Dilemmas in genetic counseling, 第 46 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.7.2
8. 浦川優作, 二川摩周, 植野さやか, 加藤英美乃, 十川麗美, 山本英喜, 平沢 晃 : Rethinking the optimal age to consider RRSO in HBOC. 第 81 回日本癌学会学術総会, 横浜, 2022.10.1
9. 松本俊彦, 山村彰吾, 永井宏樹, 安井久晃 : 悪液質合併消化器がんに対するアナモレリンの有効性に関する後方視的観察研究. 第 60 回日本癌治療学会学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.10.22
10. Takaori K, Nagai H, Yamamura S, Nakasya A, Yasui H, Yamashita D : Drastic response to cetuximab in metastatic eccrine porocarcinoma with EGFR amplification. ESMO ASIA CONGRESS 2022, Singapore, ハイブリッド開催, 2022.12.2
11. 浦川優作, 吉田晶子, 河合加奈子, 稲葉 慧, 横田 聡, 平見恭彦, 高橋政代, 栗本康夫, 前田亜希子 : Clinical utility of comprehensive genetic diagnosis in hereditary retinal dystrophy. 日本人類遺伝学会第 67 回大会, 横浜, 2022.12.16
12. Sunakawa Y, Shiozawa M, Watanabe T, Ota H, Yasui H, Yabuno T, Tei M, Kochi M, Manaka D, Ohori H, Yamaguchi T, Sagawa T, Kotaka M, Kubota Y, Sekikawa T, Nakamura M, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M, Tsuji A : Modified (m) -FOLFOXIRI plus cetuximab versus m-FOLFOXIRI plus bevacizumab as initial treatment of patients with unresectable RAS and BRAF wild-type metastatic colorectal cancer: Survival analysis of the phase II randomized DEEPER trial by JACCRO. ASCO GI 2023, San Francisco, USA, ハイブリッド開催, 2023.1.19-21
13. 安井久晃 : irAE マネジメントにおけるタスクシフト/シェア ~主治医の目線で~. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023 (JASPO 2023), 名古屋, ハイブリッド開催, 2023.3.5
14. Shoji H, Kito Y, Yamazaki K, Yamada T, Tsushima T, Mitani S, Shiraishi K, Yasui H, Hara H, Shimozaki K, Esaki T, Shimokawa H, Tsuzuki T, Kajiura S, Masuishi T, Baba E, Yoshimura K, Kawakami H, Hironaka S, Muro K : WJOG9216G (RECAST) : FOLFIRI or FOLFOXIRI in combination with ramucirumab for untreated metastatic colorectal cancer : WJOG9216G (RECAST) 切除不能大腸がん一次治療例に対する FOLFIRI + ラムシルマブと FOLFOXIRI + ラムシルマブのランダム化第 II 相試験. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2023.3.16
15. Sunakawa Y, Yasui H, Matsuura M, Mine T, Yuasa Y, Watanabe T, Kinjo T, Okita Y, Okuyama H, Yuk S, Miyakawa K, Kobara A, Ichikawa W, Fujii M, Tsuji A : RAS status in ctDNA and efficacy of FOLFIRI plus ramucirumab in 2nd-line therapy for RAS wild-type mCRC: JACCRO CC-16AR: RAS 野生型切除不能進行再発大腸癌に対する血中 RAS 変異と 2 次治療 FOLFIRI+ramucirumab 療法の効果 : JACCRO CC-16AR, 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2023.3.16

16. Matsumoto T, Ikoma T, Doi K, Yasuda T, Boku S, Nakasya A, Shibata N, Tsuduki T, Shimada T, Tsumura T, Yasui H, Takatani M, Satake H : Prior nivolumab may enhance trastuzumab deruxtecan efficacy for HER2 positive gastric cancer: real world analysis : HER2 陽性胃がんにおけるトラスツズマブデルクステカンの効果と nivolumab 投与歴の相関の検討. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2023.3.17
17. Boku S, Sakai S, Sawada KH, Horasawa S, Yoshikawa A, Nakamura Y, Fujisawa T, Yamashita R, Komatsu Y, Nishina T, Shiozawa M, Nishida N, Yoshida K, Yamazaki K, Goto M, Yasui H, Takahashi N, Kadowaki S, Denda T, Yoshino T : Metabolic interaction between gut microbiome and PIK3CA-mutated colorectal cancer: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN : PIK3CA 変異大腸癌における腸内細菌の解析 SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN 付随研究, 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2023.3.17

VII. 1.9 膠原病・リウマチ内科

1. 岡 秀樹, 住友秀次, 志水隼人, 金森真紀, 西岡弘晶, 大村浩一郎 : 治療抵抗性成人発症 IgA 血管炎の腹部症状に血漿交換が有用であった 1 例. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.25
2. 梅本大地, 藤田将平, 住友秀次, 岡 秀樹, 志水隼人, 金森真紀, 西岡弘晶, 大村浩一郎 : 抗 MDA-5 抗体価異常高値, フェリチンほぼ正常の皮膚筋炎 4 症例の臨床経過. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.26
3. 住友秀次, 志水隼人, 岡 秀樹, 金森真紀, 西岡弘晶, 大村浩一郎 : 全身性エリテマトーデスにおける, 再燃に関与する因子の解析と, ステロイド漸減中止の検討. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.27
4. 志水隼人, 岡 秀樹, 住友秀次, 金森真紀, 宮越千智, 吉本明弘, 西岡弘晶, 大村浩一郎 : 増殖性ループス腎炎患者におけるステロイド早期減量と臨床的アウトカムについての検討. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.27
5. 大村浩一郎 : 全身性エリテマトーデスの病態と最新治療 ~I 型インターフェロンの SLE における役割~, 第 31 回日本リウマチ学会 近畿支部学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.9.3
6. 岡 秀樹, 住友秀次, 志水隼人, 金森真紀, 西岡弘晶, 大村浩一郎 : 全身性エリテマトーデスの DORIS 寛解, LLDAS の達成・非達成因子の検討. 第 31 回日本リウマチ学会 近畿支部学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.9.4
7. 岡 秀樹, 住友秀次, 志水隼人, 金森真紀, 西岡弘晶, 大村浩一郎 : 手指黒色壊死で発症し, 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症との鑑別に難渋した特発性好酸球増多症候群の 1 例. 第 37 回日本臨床リウマチ学会, 札幌, 2022.10.29
8. 住友秀次, 岡 秀樹, 志水隼人, 岩崎 毅, 金森真紀, 西岡弘晶, 大村浩一郎 : 全身性エリテマトーデス患者末梢血サンプルの解析. 第 9 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス, 熊本, 2022.11.18

VIII. 1.10 緩和ケア内科

1. 西本哲郎 : 血液疾患の最新の治療薬と緩和ケア. 第 27 回日本緩和医療学会学術大会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.7.1
2. 西本哲郎 : 急性期病院で行う緩和ケアと地域連携の重要性 ~守り続けることと変えていくことと, そして関本 剛先生との歩みを振り返る~. 兵庫在宅ケア連合会講演会 2022, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.7.16
3. 西本哲郎 : 急性期病院で行う緩和ケアと地域連携の重要性. 日本ホスピス・在宅ケア研究会総会, Web 開催, 2022.7.31
4. 西本哲郎 : 当院における緩和ケア. 緩和ケア・不眠マネジメントセミナー, Web 開催, 2022.8.31
5. 高橋毅史, 三好祐輔, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一 : 救急医の活躍の場を広げるための取り組み. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-21
6. 三好祐輔 : 人工呼吸療法×緩和ケア ~患者さんが幸せになるためのヒント~. 第 20 回人工呼吸器安全管理セミナー, Web 開催, 2023.1.29

VIII. 1. 11 精神・神経科

1. Otani K, Miura A, Miyai H, Fukushima H, Matsuishi K : Comparison of COVID-19 Delirium and Non-COVID-19 Derilium. 33th CINP, Taipei, Taiwan, hybrid, 2022.6.9-12
2. 大谷恭平, 三浦敦美, 宮井宏之, 福島春子, 川村修司, 町田 遥, 鶴谷 茂, 高橋年道, 松石邦隆 : 神戸市立医療センター中央市民病院における COVID-19 せん妄患者の調査 - 単施設症例集積研究 -. 第 118 回日本精神神経学会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.6.18
3. 大谷恭平 : COVID-19 せん妄と医療安全. 第 24 回日本医療マネジメント学会学術総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.7.8
4. Otani K, Yoshikawa R, Naitou A, Fukushima H, Matsuishi K : Follow-up of patients with COVID-19 encephalopathy intervened by a liaison team for delirium during hospitalization. 21th WPA, Bangkok, Thailand, hybrid, 2022.8.3-6
5. 大谷恭平 : コロナ禍における神戸市立医療センター中央市民病院に救急搬送された自殺企図患者 COVID-19 感染後自殺企図患者を中心に. 第 46 回日本自殺予防学会総会, 熊本, ハイブリッド開催, 2022.9.10
6. 大谷恭平 : COVID-19 せん妄の特徴と病態生理～従来のせん妄との比較～. BPCNP/PPP4 学会合同年会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.11.4
7. 大谷恭平, 吉川遼平, 内藤敦美, 福島春子, 松石邦隆 : 急性期病院における COVID-19 関連認知機能障害. 第 41 回日本認知症学会集会, 第 37 回日本老年精神医学会 合同開催, 東京, ハイブリッド開催, 2022.11.25

VIII. 1. 12 小児科・新生児科

1. 林 賢, 山川 勝, 山根徹也, 木村 碧, 中田 悠, 佐伯 玲, 伊藤 環, 青田千恵, 山本 茜, 宮越千智, 菅原勝美, 岡藤郁夫, 鶴田 悟 : 若年者植え込み型除細動器 (ICD) 症例の臨床像. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 郡山, ハイブリッド開催, 2022.4.15
2. 山根徹也, 山本 茜, 木村 碧, 中田 悠, 林 賢, 青田千恵, 宮越千智, 菅原勝美, 岡藤郁夫, 鶴田 悟 : 慢性甲状腺炎に自己免疫性肝炎の合併が疑われる 21trisomy 男児の 1 例. 第 286 回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.5.7
3. 木村 碧, 菅原勝美, 朝貝芳貴, 二宮 涼, 山本 茜, 鶴田 悟 : COVID-19 陽性母体から出生した児の管理～当院と兵庫県における管理の実際～. 第 286 回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.5.7
4. 岡藤郁夫 : アレルギー専門家によるわかりやすいエビデン講演会. 一般社団法人 LFA Japan, web 開催, 2022.5.22
5. 山本 茜, 簗谷雄二, 藤島雄幸, 大久保万里江, 藤本寛太, 松岡直樹 : 自然妊娠で分娩に至った 45,X/47,XXX モザイク型ターナー症候群の一例. 第 95 回日本内分泌学会学術総会, 別府, ハイブリッド開催, 2022.6.3
6. 岡藤郁夫 : 酵素補充療法承認前に乳児期早期死亡となった Wolman 病の兄妹例. 第 58 回日本小児放射線学会学術集会, 浦安, 2022.6.4
7. 岡藤郁夫 : アトピー性皮膚炎. 2022 年度小児アレルギー疾患基礎講習会, web 開催, 2022.6.10-8.31
8. 岡藤郁夫 : 子どもの発達を考慮した舌下免疫療法導入維持のコツ. アシテア WEB カンファレンス, web 開催, 2022.6.15
9. 岡藤郁夫 : 小児喘息を中心とした Mepolizumab の最新情報. Pediatric Severe Asthma Biologics Meeting, web 開催, 2022.6.23
10. 岡藤郁夫 : アレルギー疾患の発症予防戦略 環境アレルゲン免疫療法. 第 38 回日本小児臨床アレルギー学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.7.2
11. 岡藤郁夫 : アトピー性皮膚炎は皮膚の病気です～今こそスキンケア指導を通して私達の手の温もりを伝えてみませんか?～. 第 38 回日本小児臨床アレルギー学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.7.3
12. 岡藤郁夫 : アレルギー対応について. 神戸市こども家庭局, 神戸, 2022.7.7
13. 原 柚香, 新居育世, 山下裕加, 児玉菜津子, 田邊裕章, 朝田裕貴, 菅 彩子, 松村寿子, 岩見裕子, 原田明佳, 田中裕子, 市場博幸 : 嚢胞性脳室周囲白質軟化症と診断された兄弟例. 第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 2022.7.11

14. 山下裕加, 新居育世, 児玉菜津子, 田邊裕章, 朝田裕貴, 菅 彩子, 松村寿子, 岩見裕子, 原田明佳, 田中裕子, 市場博幸: 当院における SGA で出生した極低出生体重児の 3 歳, 就学前の神経発達予後についての検討. 第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 2022.7.11
15. 岡藤郁夫: アレルギー対応について. 神戸市こども家庭局, 神戸, 2022.7.13
16. 岡藤郁夫: 小児アレルギー疾患治療のパラダイムシフト ～生物学的製剤をどう使うか～. 第 33 回四国小児アレルギー研究会, 高松 2022.7.16
17. 岡藤郁夫: 小児期年代別のアレルギー免疫療法導入維持のコツ. 第 17 回広島気道アレルギー研究会, 広島, 2022.10.20
18. 木村 碧, 岡藤郁夫, 池田菜穂, 木原崇志, 中田 悠, 林 賢, 青田千恵, 宮越千智, 鶴田 悟: 毎月の定期教育入院における多職種での介入コントロール良好となったアトピー性皮膚炎の中学生女児例. 第 59 回日本小児アレルギー学会学術大会, APAPARI2022 合同開催, 宜野湾, ハイブリッド開催, 2022.11.12
19. 岡藤郁夫: 皮膚テストの手引きをダウンロードして日常診療に風穴を開けてみませんか? 第 59 回日本小児アレルギー学会学術大会, APAPARI2022 合同開催, 宜野湾, ハイブリッド開催, 2022.11.13
20. 林 賢, 岡藤郁夫, 李 崇至, 鶴田 悟: 発達障害併存のアレルギー性鼻炎に対して皮下免疫療法 (SCIT) を導入した一例. 第 59 回日本小児アレルギー学会学術大会, APAPARI2022 合同開催, 宜野湾, ハイブリッド開催, 2022.11.13
21. 木村 碧, 水野真介, 吉田美苗, 豊島由佳, 笠井正志: 先天性肺気道奇形を背景に MRSA による肺化膿症と膿胸に至った一例. 第 288 回日本小児科学会兵庫県地方会, WEB 開催, 2023.2.4

VIII. 1.13 皮膚科

1. 塩入桃子, 那須 愛, 北尾陸将, 望月亮佐, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹, 原 重雄: Pleomorphic Lipoma/Fibroma の 1 例. 日本皮膚科学会第 491 回大阪地方会 和歌山共同開催, WEB 開催, 2022.5.21
2. 望月亮佐, 塩入桃子, 長尾 愛, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹: 電撃性紫斑を伴った *Aeromonas hydrophila* 感染症による壊死性筋膜炎の 1 例. 第 121 回日本皮膚科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.2-3
3. 田井志正, 塩入桃子, 長尾 愛, 望月亮佐, 中村文香, 小倉香奈子, 長野 徹: ステロイドパルス療法を契機に自己免疫性肝炎を発症したびまん性脱毛の 1 例. 第 121 回日本皮膚科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.2-3
4. 長野 徹, 塩入桃子, 那須 愛, 望月亮佐, 田井志正, 小倉香奈子, 小坂博志: BRAF/MEK 阻害薬が内服困難となり簡易懸濁法による投与を試みた原発不明悪性黒色腫の 1 例. 第 38 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 弘前, ハイブリッド開催, 2022.6.24
5. 北尾陸将, 塩入桃子, 那須 愛, 望月亮佐, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹: リツキシマブ投与によりプレドニゾン早期減量に成功した水疱性類天疱瘡の 1 例. 第 115 回近畿皮膚科集談会, 第 492 回日本皮膚科学会大阪地方会, 第 476 回日本皮膚科学会京滋地方会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.7.10
6. 塩入桃子: 抗全長 BP180 抗体陽性水疱性類天疱瘡に合併した穿孔性皮膚症. 第 6 回神戸皮膚炎症疾患研究会, 神戸, 2022.7.14
7. 長野 徹: アトピー性皮膚炎 up to date ーどうする? アトピー性皮膚炎ー. 奈良県皮膚科懇話会, 奈良, 2022.9.10
8. 田井志正, 塩入桃子, 長尾 愛, 北尾陸将, 小倉香奈子, 長野 徹: Circumscribed Palmar Hypokeratosis の 1 例. 日本皮膚科学会第 493 回大阪地方会, WEB 開催, 2022.9.24
9. 長野 徹: 皮膚疾患最近の知見 (帯状疱疹・アトピー性皮膚炎と関連して). 第 7 回東神戸 Total Care Seminar, 神戸, 2022.9.29
10. 小倉香奈子: アトピー性皮膚炎 小児 VS 成人 さまざまな治療について考える. 播磨小児アレルギーセミナー, 加古川, 2022.10.13
11. 小倉香奈子: アトピー性皮膚炎治療の最前線 スキンケアとプロアクティブ療法の工夫. 第 8 回日本アレルギー学会近畿地方会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.10.23
12. 塩入桃子, 長尾 愛, 北尾陸将, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹: 免疫抑制剤内服歴のない EBVMCU の 1 例. 第 73 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 富山, ハイブリッド開催, 2022.10.29
13. 北尾陸将, 塩入桃子, 長尾 愛, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹: 骨髄性プロトポルフィリン症を疑った成人女性の 1 例, 第 73 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 富山, ハイブリッド開催, 2022.10.30

14. 塩入桃子, 藤井洋介, 北尾陸将, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹, 蓮池俊和, 高橋加奈, 原 重雄: 免疫抑制状態を背景に発症した *M.chelonae* による皮膚非結核性抗酸菌症の 1 例. 日本皮膚科学会第 494 回大阪地方会, WEB 開催, 2022.12.10
15. 藤井洋介, 塩入桃子, 那須 愛, 北尾陸将, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹: エンホルツマブパドチンによる蕁疹の 1 例. 第 52 回日本皮膚免疫アレルギー学会総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2022.12.16-18
16. 長野 徹: 乾癬で悩む, 乾癬でなくても悩む?—地域連携の重要性も含めて—. 播磨皮膚疾患連携セミナー, 加古川, 2022.12.22
17. 北尾陸将, 塩入桃子, 長尾 愛, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹: 免疫抑制患者に生じた多発カンジダ性皮下膿瘍の 1 例. 日本皮膚科学会第 495 回大阪地方会, WEB 開催, 2023.2.4
18. 北尾陸将: 専攻医が考えるアトピー性皮膚炎の治療. アトピー性皮膚炎治療を考える会 in EAST HYOGO, 神戸, ハイブリッド開催, 2023.3.9
19. 藤井洋介, 塩入桃子, 那須 愛, 北尾陸将, 田井志正, 小倉香奈子, 長野 徹, 上田雅章, 合田由香利: 乳児に生じた角化型疥癬の 1 例. 日本皮膚科学会第 496 回大阪地方会, WEB 開催, 2023.3.11

VIII. 1. 14 外科・移植外科

1. 橋田裕毅, 小山達也, 松島俊樹, 中尾 海, 松田正太郎, 岩城謙太郎, 北村好史, 大嶋野歩, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡: 腹腔鏡下直腸切除術の DST 再建における補強縫合による縫合不全防止. 第 122 回日本外科学会, 熊本, ハイブリッド開催, 2022.4.14
2. 岩城謙太郎, 貝原 聡, 中尾 海, 松田正太郎, 鷺見季彦, 花畑祐輔, 喜多亮介, 大嶋野歩, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣: 大腸癌肝転移切除後早期再発の危険因子と予後規定因子～再肝切除の有効性～. 第 122 回日本外科学会定期学術集会, 熊本, ハイブリッド開催, 2022.4.14
3. 近藤正人, 中野辰哉, 中尾 海, 松田正太郎, 岩城謙太郎, 小林裕之, 貝原 聡: 一般市中病院におけるロボット胃切除術導入後の成績と経過. 第 122 回日本外科学会定期学術集会, 熊本, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
4. 松田正太郎, 貝原 聡, 岩城謙太郎, 岡祥次朗, 中尾 海, 中野辰哉, 鷺見季彦, 河原林卓馬, 喜多亮介, 大嶋野歩, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅: 黄色肉芽腫性胆嚢炎と胆嚢癌の鑑別としての術前因子の検討. 第 122 回日本外科学会定期学術集会, 熊本, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
5. 北村好史, 岩城謙太郎, 瓜生原健嗣, 貝原 聡: 肝門部領域胆管癌における術前 3Dfusion 画像の有用性. 第 49 回近畿肝臓外科研究会, 大阪, 2022.5.28
6. Iwaki K, Kitamura K, Uryuhara K, Kaihara S: The optimal surgery and preoperative diagnosis for invasive intraductal papillary mucinous carcinoma and high grade dysplasia, 第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 松山, 2022.6.10-11
7. Kitamura K, Kaihara S, Iwaki K, Uryuhara K: Laparoscopic S8 anatomical hepatectomy along the intersegmental vein using intraoperative ultrasound and 3D simulation. 第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 松山, 2022.6.10-11
8. 橋田裕毅: 大腸癌に対する低侵襲手術を中心とした治療戦略とチーム医療. 第 44 回日本癌局所療法研究会, 豊中, ハイブリッド開催, 2022.7.1
9. 橋田裕毅, 中野辰哉, 中尾 海, 松田正太郎, 岩城謙太郎, 小林裕之, 貝原 聡: 腹腔鏡下直腸切除術の DST 再建における補強縫合による縫合不全防止効果. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.7.20-22
10. 近藤正人, 中尾 海, 松田正太郎, 岩城謙太郎, 大嶋野歩, 北村好史, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 小林裕之, 貝原 聡: 一般市中病院における専攻医の腹腔鏡手術におけるモチベーションと指導のあり方. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.7.20-22
11. Iwaki K, Kaihara S, Nakao K, Matsuda S, Kawarabayashi T, Sinkura A, Kita R, Kitamura K, Osima N, Kondo M, Hashida H, Kobayashi H, Uryuhara K: Contact with Glissonian pedicle as one of the factors for borderline resectable of colorectal liver metastasis, 第 77 回日本消化器外科学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.7.20-22
12. 松田正太郎, 橋田裕毅, 中尾 海, 河原林卓馬, 岩城謙太郎, 喜多亮介, 北村好史, 大嶋野歩, 近藤正人, 貝原 聡: 脾弯曲結腸癌に対する内側アプローチを中心とした 4 方向からの腹腔鏡下脾弯曲結腸切除. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 横浜, 2022.7.20-22

13. 近藤正人：当院における十二指腸 LECS の手技. 第 35 回近畿内視鏡外科研究会, 西宮, 2022.9.17
14. 橋田裕毅, 中尾 海, 松田正太郎, 岩城謙太郎, 大嶋野歩, 北村好史, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 小林裕之, 貝原 聡：妊娠中の急性虫垂炎に対する腹腔鏡下虫垂切除術. 第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会, 幕張, 2022.10.14-15
15. Iwaki K, Kaihara S : Pancreaticoduodenectomy and SMA-CHA anastomosis for pancreatic cancer with celiac artery stenosis due to median arcuate ligament syndrome. ACS 2022, San Diego, USA, virtual, 2022.10.16-20
16. Iwaki K, Kaihara S, Oshima N : Appropriate resection for colorectal liver metastasis focusing on intrahepatic vessels; Should we preserve or resect the vessels? ACS 2022, San Diego, USA, virtual, 2022.10.16-20
17. 近藤正人, 中尾 海, 岩城謙太郎, 小林裕之, 貝原 聡：ロボット支援下胃癌手術における適応拡大と再建方法の工夫. 第 52 回胃外科・術後障害研究会, 沼津, 2022.11.19
18. 近藤正人, 小山達也, 中尾 海, 松田正太郎, 岩城謙太郎, 鳥口 寛, 大嶋野歩, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 北村好史：ロボット胃切除における完全腔内再建の工夫と成績. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, アジアロボット・内視鏡外科学会 (ACRLS 2022), Asian-Pacific Congress of Robotic Laparoscopic Surgery 2022, 名古屋, 2022.12.8
19. 北村好史, 小山達也, 中尾 海, 岩城謙太郎, 鳥口 寛, 大嶋野歩, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡：術前 3D シミュレーションと術中エコーを駆使した腹腔鏡下肝 S8 亜区域切除術. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, アジアロボット・内視鏡外科学会 (ACRLS 2022), Asian-Pacific Congress of Robotic Laparoscopic Surgery 2022, 名古屋, 2022.12.8
20. Hashida H, Oshima N, Kondo M, Kobayashi H, Kaihara S : Standardization of Robotic-Assisted Surgery for Rectal Cancer. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, アジアロボット・内視鏡外科学会 (ACRLS 2022), Asian-Pacific Congress of Robotic Laparoscopic Surgery 2022, 名古屋, 2022.12.8-10
21. 中尾 海, 近藤正人, 小山達也, 松田正太郎, 金田優也, 萱野真史, 岩城謙太郎, 鳥口 寛, 大嶋野歩, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡：腹腔鏡内視鏡合同手術 (LDCS) の治療成績および十二指腸病変への適応拡大と展望. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, アジアロボット・内視鏡外科学会 (ACRLS 2022), Asian-Pacific Congress of Robotic Laparoscopic Surgery 2022, 名古屋, 2022.12.9
22. 橋田裕毅, 大嶋野歩, 小山達也, 中尾 海, 松田正太郎, 岩城謙太郎, 鳥口 寛, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡：地方市中病院におけるロボット支援下直腸切除術の導入と術者教育. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, アジアロボット・内視鏡外科学会 (ACRLS 2022), Asian-Pacific Congress of Robotic Laparoscopic Surgery 2022, 名古屋, 2022.12.9
23. 岩城謙太郎, 北村好史, 小山達也, 中尾 海, 松田正太郎, 鳥口 寛, 大嶋野歩, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡：腹腔鏡下肝左葉切除の難易度の考察～腫瘍の大きさや位置に注目して～. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, アジアロボット・内視鏡外科学会 (ACRLS 2022), Asian-Pacific Congress of Robotic Laparoscopic Surgery 2022, 名古屋, 2022.12.10
24. 小林裕之, 大嶋野歩, 近藤正人, 小山達也, 中尾 海, 松田正太郎, 岩城謙太郎, 金田優也, 萱野真史, 貝原 聡：当院における食道癌に対する胸腔鏡下手術と縦隔鏡下手術の現状. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, アジアロボット・内視鏡外科学会 (ACRLS 2022), Asian-Pacific Congress of Robotic Laparoscopic Surgery 2022, 名古屋, 2022.12.10
25. 近藤正人, 小山達也, 中尾 海, 岩城謙太郎, 大嶋野歩, 鳥口 寛, 北村好史, 小林裕之, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 貝原 聡：ロボット支援下噴門側胃切除および胃全摘術における肝外側区域展開の工夫. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会, 名古屋, 2023.2.2
26. 近藤正人, 小山達也, 中尾 海, 貝原 聡：胃がん手術における手術適応と専攻医指導法. 第 95 回日本胃癌学会総会, 札幌, 2023.2.24

VIII. 1. 15 乳腺外科

1. 大山友梨, 鈴木栄治, 武部沙也香, 常盤麻里子：当院における CDK4/6 阻害薬の治療成績についての検討. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.6.30
2. 御勢文子, 大段仁奈, 常盤麻里子, 木川雄一郎, 鈴木栄治, 加藤大典：当院における BRCA 遺伝子検査の現状. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.6.30-8.31

VIII. 1. 16 心臓血管外科

1. 吉田一史, 鎌田賢昇, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 坪田秀樹, 小山忠明: 広範囲胸腹部大動脈瘤に対する hybrid 治療戦略の検討. 第 50 回日本血管外科学会学術総会, 北九州, 2022.5.26
2. 鎌田賢昇, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 吉田一史, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 坪田秀樹, 小山忠明: NF1 に合併した腹腔動脈瘤に対し, 一次的に静脈グラフトを用いての外科的血行再建に続いて動脈瘤コイル塞栓術を施行した一例. 第 50 回日本血管外科学会学術総会, 北九州, 2022.5.26
3. 吉田壮志, 鎌田賢昇, 堀 祥昌, 吉田一史, 中村 健, 松田靖弘, 石上雅之助, 坪田秀樹, 小山忠明: 慢性 B 型大動脈解離治療後の早期リモデリングの検討. 第 50 回日本血管外科学会学術総会, 北九州, 2022.5.27
4. 吉田壮志, 鎌田賢昇, 堀 祥昌, 吉田一史, 中村 健, 松田靖弘, 石上雅之助, 坪田秀樹, 小山忠明: 右房に強固に癒着した心膜滑膜肉腫の完全切除を行った 1 例. 第 65 回関西胸部外科学会学術集会, 浜松, 2022.6.17
5. 吉田一史, 二木大輝, 鎌田賢昇, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 中村 健, 松田靖弘, 坪田秀樹, 小山忠明: 機能的重症三尖弁閉鎖不全症に対する Flexible band による弁輪縫縮の遠隔成績. 第 75 回日本胸部外科学会定期学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.10.6
6. 坪田秀樹: 冠動脈三枝病変における右内胸動脈グラフトと橈骨動脈グラフトの遠隔成績: CREDO-Kyoto registry より. 第 75 回日本胸部外科学会定期学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.10.6
7. 鎌田賢昇, 吉田一史, 二木大輝, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 中村 健, 松田靖弘, 坪田秀樹, 小山忠明: PERCEVAL を用いた大動脈弁置換術の周術期および中期遠隔成績. 第 75 回日本胸部外科学会定期学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.10.6
8. 小山忠明, 二木大輝, 鎌田賢昇, 若見達人, 吉田壮志, 吉田一史, 中村 健, 松田靖弘, 坪田秀樹: 生体弁による僧帽弁再人工弁置換術の手術手技と手術成績. 第 75 回日本胸部外科学会定期学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.10.6
9. 吉田一史, 二木大輝, 鎌田賢昇, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 中村 健, 松田靖弘, 坪田秀樹, 小山忠明: 冠動脈バイパス術における内視鏡下大伏在静脈採取術の有用性の検討. 第 25 回冠動脈外科学会学術大会, 第 34 回日本冠疾患学会学術集会, International Coronary Congress2022, 東京, 2022.12.1
10. 中村 健: 当院における MICS-AVR の工夫と初期成績. 第 12 回日本心臓弁膜症学会, 宮崎, 2022.12.16
11. 吉田一史, 二木大輝, 鎌田賢昇, 堀 祥昌, 若見達人, 吉田壮志, 中村 健, 松田靖弘, 坪田秀樹, 小山忠明: 二尖弁大動脈弁狭窄症に対する AVR での上行大動脈早期介入は妥当か? 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会, 旭川, ハイブリッド開催, 2023.3.23
12. 若見達人, 二木大輝, 堀 祥昌, 吉田壮志, 吉田一史, 中村 健, 松田靖弘, 坪田秀樹, 小山忠明: ペースメーカーリード留置後の三尖弁閉鎖不全症に対する外科治療加入症例の検討. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会, 旭川, ハイブリッド開催, 2023.3.24

VIII. 1. 17 呼吸器外科

1. 鉄本啓介, 斎藤正男, 高山昌和, 甲 貴文, 浜川博司, 高橋 豊: 横隔膜交通症に対して鏡視下手術と胸膜癒着術を行い, 早期に腹膜透析を再開することができた 1 症例. 第 122 回日本外科学会定期学術集会, 熊本, ハイブリッド開催, 2022.4.15
2. 高山昌和, 斎藤正男, 甲 貴文, 鉄本啓介, 浜川博司, 高橋 豊: COVID-19 肺炎に続発し手術治療を必要とした気胸の一例. 第 122 回日本外科学会定期学術集会, 熊本, ハイブリッド開催, 2022.4.15
3. 甲 貴文, 瀬尾龍太郎, 山下大祐, 原 重雄, 富井啓介, 高山昌和, 鉄本啓介, 斎藤正男, 浜川博司, 高橋 豊: 重症 COVID-19 症例における圧傷害 (barotrauma) の臨床的意義. 第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.20
4. 甲 貴文, 川端智也, 池田美香, 島田有里, 平林亮介, 清水祐里, 原 重雄, 斎藤正男, 浜川博司, 高橋 豊: 肺非結核性抗酸菌症 (Mycobacterium intracellulare) に伴う続発性気胸・胸膜炎・皮下膿瘍の 1 例. 第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.24-6.14
5. 高山昌和, 斎藤正男, 甲 貴文, 鉄本啓介, 浜川博司, 高橋 豊: 在宅酸素療法使用中に続発性気胸を合併し胸腔鏡下試験開胸を行った一例. 第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.24-6.14

6. 鉄本啓介, 齊藤正男, 高山昌和, 甲 貴文, 浜川博司, 高橋 豊: 食道癌・肺癌術後有癭性膿胸に対して開窓術を行い多職種と連携した周術期管理にて保存的に治癒し得た1症例. 第45回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 岐阜, ハイブリッド開催, 2022.5.27-6.30
7. 川端智也, 池田実香, 松添晴加, 岡 俊吾, 大濱大瑛, 片岡和哉, 甲 貴文, 濱川博司, 嶋田有里, 中川淳: COVID-19に続発した人工呼吸器関連肺炎に起因する急性膿胸に対し局所陰圧閉鎖療法が有効であった一例. 第14回日本創傷外科学会総会・学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.7.15
8. 田代隼基, 永田一真, 貴志亮太, 世利佳況, 遠藤 慧, 白川千種, 嶋田有里, 島 佑介, 平林亮介, 佐藤悠城, 立川 良, 清水祐里, 原 重雄, 石井淳子, 富井啓介: 抗NMDA受容体脳炎を伴う限局型肺小細胞がんが集学的治療が奏功した一例. 第129回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿地方会, 第99回日本呼吸器学会近畿地方会 合同学会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.7.23
9. Saito M, Kobayashi J: Effect of Perioperative Respiratory Muscle Training with gamification for Lung Cancer. 2022 World Conference on Lung Cancer, Vienna, Austria, 2022.8.6
10. 鉄本啓介, 浜川博司, 高山昌和, 栢分秀直, 齊藤正男, 高橋 豊: 手掌多汗症手術におけるリアルタイム体温モニターの有用性. 第75回日本胸部外科学会定期学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.10.6
11. 浜川博司: 肺癌の標準術式としての Uniportal VATS. 第75回日本胸部外科学会定期学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.10.8
12. 高山昌和, 齊藤正男, 高橋加奈, 山下大祐, 鉄本啓介, 栢分秀直, 浜川博司, 高橋 豊: 低血糖発作により発症した巨大孤発性胸膜線維性腫瘍の一例. 中央区医師会学術集談会, 神戸, 2022.10.8
13. 山根俊之, 石井淳子, 甲 貴文, 田代隼基, 永田一真, 原 重雄, 太田和馬, 前川嵩太, 川本未知: 腫瘍切除により顕著な症状改善を認めた小細胞肺癌合併抗NMDA受容体脳炎の1例. 第34回日本神経免疫学会学術集会, 長崎, ハイブリッド開催, 2022.10.20
14. 高山昌和, 原 重雄, 永田一真, 石井淳子, 清水祐里, 山根俊之, 田代隼基, 齊藤正男, 甲 貴文, 鉄本啓介, 浜川博司, 高橋 豊: 小細胞肺癌に抗NMDA受容体脳炎を合併し腫瘍切除した一例. 第63回日本肺癌学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.1
15. 齊藤正男, 高山昌和, 鉄本啓介, 浜川博司, 高橋 豊: 心タンポナーデを契機に発見された心膜滑膜肉腫の1例. 第63回日本肺癌学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.1
16. 鉄本啓介, 浜川博司, 西野彰悟, 原 重雄, 廣野隆則, 高山昌和, 甲 貴文, 齊藤正男, 高橋 豊: 肋骨骨折を契機として急速な増大傾向を示した Chondromyxoid fibroma の1例. 第63回日本肺癌学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.3
17. 足立泰志, 栢分秀直, 鉄本啓介, 齊藤正男, 浜川博司, 高橋 豊: 35年経過後に発見された異物肉芽腫(ガーゼオーマ)の一例. 第51回京都大学呼吸器外科同門会冬季研究会, 京都, 2023.2.11

VIII. 1. 18 脳神経外科

1. 川出智大, 春原 匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 寺西邦匡, 梶浦晋司, 重安将志, 呉 浩一, 春山裕典, 高野裕樹, 福井伸行, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 今村博敏, 坂井信幸: 受傷10年後に、脳梗塞で発症した外傷後椎骨動脈仮性動脈瘤の一例. Neurosurgery Kinki 2022 Spring Meeting (第81回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 第84回近畿脊髄外科研究会 合同開催), WEB開催, 2022.4.2
2. 高野裕樹, 福光 龍, 太田剛史, 小柳正臣, 後藤正憲, 春原 匡, 福井伸行, 春山裕典, 呉 浩一, 梶浦晋司, 重安将志, 寺西邦匡, 堀井 亮, 朝倉健登, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 今村博敏, 坂井千秋, 坂井信幸: 当院におけるV-Pシャント術の合併症回避の工夫ーナビゲーションガイド下脳室穿刺を行った症例の検討ー. 第31回脳神経外科手術と機器学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.4.16
3. 寺西邦匡, 後藤正憲, 太田剛史: 再発性小脳血管芽腫の一例. 第323回荒木千里記念脳外科症例検討研究会, 大阪, 2022.4.19
4. 太田剛史: 当院の脳卒中診療が目指すもの. KCGH STROKE フォーラム 2022, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.22
5. 坂井信幸: 脳動脈瘤に対する血管内治療、来し方行く末. 第1回広島脳血管内手術研究会, WEB開催, 2022.4.26
6. 小柳正臣: 脳血管内治療の基礎～脳動脈瘤コイル塞栓術～. 第42回日本脳神経外科学会コンgres総会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.5.13

7. Sakai N, Ohta T, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Takano H, Haruyama H, Asakura K, Horii R, Teranichi K, Nakajima K, Yamamoto Y, Nishii R, Iwasaki A, Kawade S, Imamura H, Sakai C : Neurointervention in Intracranial Neoplasms Indication and Experience. ASNR/SNR XXII, Toronto, Canada, 2022.5.16
8. 太田剛史：脳領域における抗血小板薬の使い分け。かかりつけ医の抗血小板療法を考える，WEB 開催，2022.6.22
9. 春山裕典，小柳正臣，今村博敏，川出智大，山本健太，岩崎朗奈，椛本悠嗣，西井陸大，山元康弘，朝倉健登，堀井 亮，寺西邦匡，高野裕樹，福井伸行，春原 匡，福光 龍，後藤正憲，坂井千秋，坂井信幸，太田剛史：当施設における Micro-mesh stent CASPER Rx を用いた CAS の成績。第 28 回日本血管内治療学会学術総会，名古屋，ハイブリッド開催，2022.6.24
10. 川出智大，春原 匡，西井陸大，山元康弘，椛本悠嗣，堀井 亮，朝倉健登，寺西邦匡，重安将志，梶浦晋司，呉 浩一，春山裕典，高野裕樹，福井伸行，福光 龍，後藤正憲，小柳正臣，今村博敏，太田剛史，坂井千秋，坂井信幸：受傷 10 年後に、脳梗塞で発症した外傷後椎骨動脈仮性動脈瘤の一例。第 28 回日本血管内治療学会学術総会，名古屋，ハイブリッド開催 2022.6.24-25
11. 坂井信幸，山上 宏，藤本 茂，榎本由貴子，吉村紳一，飯原弘二，松丸祐司，佐藤 徹，石井 暁，今村博敏，太田剛史，尾原信行，坂井千秋：脳血管内治療における抗血栓療法—国内登録研究（JR-NET）報告を中心に。第 31 回日本脳ドック学会総会，神奈川，ハイブリッド開催，2022.6.24
12. 太田剛史：シンプルさを追求したコイル「Avenir（アベニア）」の可能性～当院での使用経験を含めて～。脳血管内治療ブラッシュアップセミナー（BSNET2022），神戸，ハイブリッド開催，2022.7.8
13. 坂井信幸，坂井千秋：脳血管内治療領域の医療機器登録システムの構築と運用。Hearthcare AI Platform Collaboration Innovation Partnership 講演会，WEB 開催，2022.7.14
14. 太田剛史：脳血管障害に伴う周術期のてんかんマネジメント。脳神経外科セミナー in 兵庫，WEB 開催，2022.7.28
15. Goto M, Haruyama H, Takano Y, Fukui N, Sunohara T, Fukumitsu R, Koyanagi M, Imamura H, Sakai N, Ohta T : Clinical outcome of endovascular treatment for medium sized internal carotid artery aneurysm. WFITN2022, 京都, ハイブリッド開催, 2022.8.21
16. Takano Y, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Haruyama H, Teanishi K, Horii R, Asakura K, Nakajima K, Naramoto Y, Yamamoto Y, Nishii R, Iwasaki A, Kawade S, Yamamoto K, Imamura H, Sakai N, Ohta T : A clinical analysis of mechanical thrombectomy for posterior circulation occlusion. WFITN2022, 京都, ハイブリッド開催, 2022.8.21
17. Koyanagi M, Haruyama H, Takano Y, Fukui N, Sunohara T, Fukumitsu R, Goto M, Sakai N, Ohta T : Long-term Outcome of Unruptured Cerebral Arteriovenous Malformations. WFITN2022, 京都, ハイブリッド開催, 2022.8.22
18. Ohta T : Our basic CAS strategy with emphasis on safety. WFITN2022, 京都, ハイブリッド開催, 2022.8.23
19. Sunohara T, Imamura H, Sakai N, Ohta T, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Fukui N, Takano Y, Haruyama H, Go K, Kajiura S, Shigeyasu M, Teranishi K, Asakura K, Horii R, Nakajima K, Naramoto Y, Yamamoto Y, Nishii R, Kawade S, Sakai C : Elongation from the nominal length and longer PED were associated with the late occlusion and the incomplete occlusion. WFITN2022, 京都, ハイブリッド開催, 2022.8.24
20. 福井伸行，春山裕典，高野裕樹，春原 匡，福光 龍，後藤正憲，小柳正臣，尾原信行，坂井信幸，太田剛史：当院におけるがん患者の急性主幹動脈閉塞に対する血管内治療について。第 40 回 The Mt.Fuji Workshop on CVD, 東京，ハイブリッド開催，2022.8.27
21. 岩崎朗奈，福井伸行，重安将志，春原 匡，福光 龍，後藤正憲，小柳正臣，石蔵礼一，原 重雄，坂井信幸，太田剛史：硬膜外腔に存在した chronic encapsulated expanding hematoma の一例。第 82 回 日本脳神経外科学会近畿支部学術集会，Neurosurgery Kinki 2022 Autumn Meeting 合同開催，豊中，ハイブリッド開催，2022.9.3
22. Sakai N, Yoshimoto T, Yamagami H, Toyoda K, Ohara N, Imamura H, Ohta T, Sakai C, Hirano T, Hashimoto Y, Ogasawara K, Miyamoto S, MHLW Science Research Grant 2022-2022, Acute Stroke Research Group : Joint symposium by APSO-KSS-JSS COVID19 and stroke in Asia Lecture 3: COVID19 and stroke in Japan. The 10th Korea-Japan Joint Stroke Conference (第 10 韓日合同脳卒中カンファレンス)，WEB 開催，2022.9.18

23. Sakai N, Imamura H, Fukui N, Sunohara T, Fukumitsu R, Goto M, Koyanagi M, Ohta T, Sakai C : Pulse rider-assited coil embolization *Virtual presentation. 6th Bi-Neurovascular Symposium, Busan, Korea, 2022.9.24
24. 後藤正憲, 川出智大, 山本健太, 岩崎朗奈, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 中嶋広太, 堀井 亮, 寺西邦匡, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 小柳正臣, 今村博敏, 坂井信幸, 太田剛史 : 未破裂脳動脈瘤に対する治療の推移. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.28
25. 福光 龍, 春山裕典, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 後藤正憲, 小柳正臣, 坂井千秋, 坂井信幸, 太田剛史 : Borden type 1 の横・S 状静脈洞部硬膜動静脈瘻の治療成績. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.28-11.30
26. 太田剛史, 春山裕典, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 坂井信幸 : 抗血栓薬内服下に発症した外傷性急性硬膜下血腫の特徴. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.28
27. 高野裕樹, 春山裕典, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 今村博敏, 坂井信幸, 太田剛史 : 内頸動脈 - 眼動脈分岐部動脈瘤に対する FD 留置の治療成績. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.28
28. 川出智大, 春原 匡, 山本健太, 西井陸大, 山元康弘, 椛本悠嗣, 岩崎朗奈, 堀井 亮, 寺西邦匡, 高野裕樹, 福井伸行, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 坂井信幸, 太田剛史 : 鋭的外傷後椎骨動脈仮性動脈瘤の治療に AMPLAZER vascular plug が有用であった 2 例. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.28-11.30
29. 中嶋広太, 後藤正憲, 春山裕典, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 小柳正臣, 今村博敏, 坂井信幸, 太田剛史 : 当院における小型破裂嚢状動脈瘤の治療に関する検討. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.28
30. 小柳正臣, 春山裕典, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 坂井信幸, 太田剛史 : 未破裂脳動静脈奇形の長期治療成績. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.29
31. 春原 匡, 太田剛史, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 福井伸行, 高野裕樹, 寺西邦匡, 堀井 亮, 中嶋広太, 椛本悠嗣, 岩崎朗奈, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸 : Pipeline Embolization Device の臨床経過における動的変化の解析. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.29-11.30
32. 太田剛史 : 新たな選択肢 AXS Vecta アスピレーションカテーテル. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.29
33. 岩崎朗奈, 小柳正臣, 福光 龍, 春山裕典, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 後藤正憲, 尾原信行, 坂井信幸, 太田剛史 : 脳主幹動脈閉塞を伴う軽症虚血性脳卒中に対する機械的血栓回収療法の治療成績についての検討. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.30
34. 寺西邦匡, 春原 匡, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 福井伸行, 高野裕樹, 今村博敏, 坂井信幸, 太田剛史 : くも膜下出血後の髄膜炎は脳血管攣縮と 2 次性水頭症に関与するか. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催. 2022.9.30
35. 椛本悠嗣, 福光 龍, 小柳正臣, 後藤正憲, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 岩崎朗奈, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 山本健太, 坂井千秋, 坂井信幸, 太田剛史 : 破裂解離性椎骨動脈瘤の脳血管内治療の急性期および長期成績. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.30
36. 山元康弘, 小柳正臣, 春山裕典, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 今村博敏, 太田剛史, 坂井信幸 : 内頸動脈瘤に対する母血管閉塞術後の新規動脈瘤の発生. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.30
37. 福井伸行, 春山裕典, 高野裕樹, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 前川嵩太, 藤原 悟, 高杉純司, 尾原信行, 川本未知, 坂井信幸, 太田剛史 : がん患者の急性主幹動脈閉塞に対する血管内治療について. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.30
38. 太田剛史 : EmboVac はこう使え ! Technical Tips. 第 81 回日本脳神経外科学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.30
39. 太田剛史 : 急性期脳卒中治療の最近の進歩. 第 33 回徳島救急医療研究会, 徳島, ハイブリッド開催, 2022.10.7

40. 太田剛史：進化する急性期脳卒中治療～外科治療から消化管出血管理まで～. 第 27 回東播磨脳卒中フォーラム, 明石, 2022.10.20
41. Sakai N, Ohara H, Ohta T, Sakai C, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Fujiwara S, Maekawa K, Takasugi J : Mechanical thrombectomy for MeVO in Japan. 9th International Symposium on Collaterals to the Brain 2022, Los Angeles, USA, 2022.11.6
42. Goto M, Kawade S, Iwasaki A, Tanaka Y, Naramoto Y, Nishii R, Yamamoto Y, Nakajima K, Teranishi K, Takano Y, Fukui N, Sunohara T, Fukumitsu R, Koyanagi M, Imamura H, Sakai N, Ohta T : Clinical outcome of unruptured cerebral aneurysm : 未破裂脳動脈瘤に対する治療成績. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.10
43. 福光 龍, 川出智大, 田中優也, 岩崎朗奈, 西井陸大, 山元康弘, 椛本悠嗣, 中嶋広太, 寺西邦匡, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 後藤正憲, 小柳正臣, 坂井千秋, 坂井信幸, 太田剛史 : Borden 分類 type 1 の横・S 状静脈洞部硬膜動静脈瘻の治療成績. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.10
44. 太田剛史:神戸流 血栓回収～SolitaireTM X の使い方～. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.10-12
45. 山元康弘, 小柳正臣, 春山裕典, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 今村博敏, 太田剛史, 坂井信幸 : 内頸動脈瘤に対する母血管閉塞術後の新規動脈瘤の発生. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.10
46. 福井伸行, 春山裕典, 高野裕樹, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 前川嵩太, 藤原 悟, 高杉純司, 尾原信行, 川本未知, 坂井信幸, 太田剛史 : がん患者の急性主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法について. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.10
47. 川出智大, 春原 匡, 西井陸大, 山元康弘, 椛本悠嗣, 堀井 亮, 朝倉健登, 寺西邦匡, 重安将志, 梶浦晋司, 呉 浩一, 春山裕典, 高野裕樹, 福井伸行, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 今村博敏, 太田剛史, 坂井信幸 : 外傷 10 年後に脳梗塞を発症した椎骨動脈仮性動脈瘤の一例. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.10
48. 中嶋広太, 後藤正憲, 春山裕典, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 小柳正臣, 今村博敏, 坂井信幸, 太田剛史 : 当院における小型破裂嚢状動脈瘤の治療に関する検討. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, ハイブリッド開催, 2022.11.10
49. 太田剛史 : ED coil のこれまでと iED coil のこれからの発展. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.11
50. 寺西邦匡, 春原 匡, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 福井伸行, 高野裕樹, 今村博敏, 坂井信幸, 太田剛史 : くも膜下出血後の髄膜炎は脳血管攣縮に関与するか. 第 38 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.11
51. 春原 匡, 太田剛史, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 福井伸行, 高野裕樹, 寺西邦匡, 堀井 亮, 中嶋広太, 椛本悠嗣, 岩崎朗奈, 山元康弘, 西井陸大, 川出智大, 坂井千秋, 坂井信幸 : Pipeline Embolization Device の臨床経過における動的变化の解析. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.11
52. 西井陸大, 太田剛史, 坂井信幸, 今村博敏, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 寺西邦匡, 堀井 亮, 中嶋広太, 椛本悠嗣, 山元康弘, 岩崎朗奈, 川出智大, 山本健太 : 未破裂紡錘状椎骨動脈瘤に対する血管内治療成績. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.12
53. Koyanagi M, Haruyama H, Takano Y, Fukui N, Sunohara T, Fukumitsu R, Goto M, Sakai N, Ohta T : Long-term follow-up of the unruptured brain arteriovenous malformations : 未破裂脳動静脈奇形の長期治療成績. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.12
54. 太田剛史 : 我々が目指す脳動脈瘤治療のエンドポイント～Optima コイルを使いこなす～. 第 38 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.12

55. Iwasaki A, Koyanagi M, Kawade S, Nishii R, Yamamoto Y, Tanaka Y, Naramoto Y, Nakajima K, Teranishi K, Takano Y, Fukui N, Sunohara T, Fukumitsu R, Goto M, Maekawa K, Fujiwara S, Ohara N, Imamura H, Sakai N, Ohta T : Clinical outcomes of endovascular reperfusion therapy for low NIHSS score patients with large vessel occlusions : 脳主幹動脈閉塞を伴う軽症虚血性脳卒中に対する機械的血栓回収療法の治療成績についての検討. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.12
56. 高野裕樹, 川出智大, 岩崎朗奈, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 寺西邦匡, 中嶋広太, 春山裕典, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 今村博敏, 坂井信幸, 太田剛史 : 内頸動脈 - 眼動脈分岐部動脈瘤における Flow Diverter 留置術の治療成績. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.12
57. 椛本悠嗣, 福光 龍, 小柳正臣, 後藤正憲, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 岩崎朗奈, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 山本健太, 坂井千秋, 坂井信幸, 太田剛史 : 破裂解離性椎骨動脈瘤の脳血管内治療の急性期および長期成績. 第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.12
58. Ohta T : New device/technique of endovascular thrombectomy. 10th European-Japanese Cerebrovascular Congress, Kyoto, 2022.11.15
59. 後藤正憲 : 当院における脳卒中に対する取り組み. 第 11 回救急撮影オープンカンファレンス, 神戸, 2022.11.17
60. 太田剛史 : トラブル・トラブルシューティング. 南関東脳血管内治療症例検討会, 東京, 2022.12.8
61. Sakai N, Ohara H, Ohta T, Sakai C, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Fujiwara S, Maekawa K, Takasugi J : Mechanical thrombectomy for MeVO using small stent retriever. CLOTS 7.0, Madrid, Spain, 2022.12.9
62. 坂井信幸, 今村博敏, 内田和孝, 太田貴裕, 太田剛史, 木村和美, 鈴木健太郎, 早川幹人, 松丸祐司, 山上 宏, 横田裕行, 吉村紳一, 横堀奨司, 小笠原邦昭, 藤本 茂 : 救急活動における LVO スケールの標準化に向けた研究成果. 令和 4 年度全国メディカルコントロール協議会連絡会, 広島, ハイブリッド開催, 2023.1.27
63. 福井伸行, 川出智大, 岩崎朗奈, 田中優也, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 中嶋広太, 寺西邦匡, 高野裕樹, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 前川嵩太, 藤原 悟, 高杉純司, 尾原信行, 坂井信幸, 太田剛史 : 緊急で頸動脈ステント留置術を施行した 1 例. 第 63 回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, 大阪, 2023.1.28
64. 太田剛史 : 急性期虚血性脳卒中の地域別の診療連携～脳血管内治療から学術活動まで～. 倉敷 AIS 研究会, 倉敷, 2023.2.3
65. 太田剛史 : 進化する急性期脳卒中治療～外科治療から抗血栓療法まで～. 第 3 回高知県脳卒中カンファレンス, 高知, 2023.2.9
66. 太田剛史 : クラブセンタンの脳血管攣縮発症抑制効果と投与時に注意すべきこと. SAH SPASM Expert Meeting in Ogaki, 大垣, 2023.2.10
67. 岩崎朗奈, 高野裕樹, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 寺西邦匡, 中嶋広太, 田中優也, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 坂井信幸, 太田剛史 : 治療に難渋した VBA 破裂再発瘤の一例. 第 37 回白馬脳神経外科セミナー, 長野, 2023.2.16
68. 太田剛史, 福光 龍, 坂井信幸, 高野裕樹, 寺西邦匡, 中嶋広太, 山元康弘, 西井陸大, 岩崎朗奈, 田中優也, 川出智大 : 抗血栓薬内服中に発症した高齢者の外傷性急性硬膜下血腫の特徴. 第 46 回日本脳神経外傷学会, 岡山, ハイブリッド開催, 2023.2.24
69. 福光 龍, 川出智大, 田中優也, 岩崎朗奈, 西井陸大, 山元康弘, 椛本悠嗣, 中嶋広太, 寺西邦匡, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 後藤正憲, 小柳正臣, 坂井信幸, 太田剛史 : DOAC 内服中の頭部外傷に対してアンデキサネットアルファ投与を行った 3 例. 第 46 回日本脳神経外傷学会, 岡山, ハイブリッド開催, 2023.2.25
70. 高野裕樹, 福光 龍, 重安将志, 小柳正臣, 後藤正憲, 春原 匡, 福井伸行, 春山裕典, 寺西邦匡, 中嶋広太, 堀井 亮, 朝倉健登, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 岩崎朗奈, 川出智大, 山本健太, 今村博敏, 坂井信幸, 太田剛史 : 外傷性脳出血に外傷性硬膜動静脈瘻を合併し、Hybrid Operating Room にて血管内治療と開頭術を行った一例. 第 46 回日本脳神経外傷学会, 岡山, 2023.2.25

71. 太田剛史：直接作用型経口抗凝固薬の中和剤の臨床的意義 - 臨床経験を踏まえて - . 第 46 回日本脳神経外傷学会, 岡山, ハイブリッド開催, 2023.2.25
72. 太田剛史：脳神経外科医のキャリアビジョン. 久留米脳神経外科セミナー, 久留米, 2023.3.10
73. 太田剛史：破裂脳動脈瘤性クモ膜下出血後の全身管理～特に脳血管攣縮に関して～. 第 143 回日本脳神経外科学会九州支部会, 久留米, ハイブリッド開催, 2023.3.11
74. 太田剛史：急性期虚血性脳卒中に対する脳血管内治療. 第 47 回日本脳神経血管内治療学会東北地方会, 仙台, 2023.3.12
75. 岩崎朗奈, 小柳正臣, 川出智大, 西井陸大, 山元康弘, 田中優也, 椛本悠嗣, 中嶋広太, 寺西邦匡, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 前川嵩太, 藤原 悟, 尾原信行, 今村博敏, 坂井信幸, 太田剛史：脳主幹動脈閉塞を伴う軽症虚血性脳卒中に対する急性期血行再建術の治療成績. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.16
76. 寺西邦匡：くも膜下出血後の髄膜炎は脳血管攣縮に関与するか. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.16
77. 山元康弘, 小柳正臣, 春山裕典, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 今村博敏, 太田剛史, 坂井信幸：巨大および大型内頸動脈瘤に対する母血管閉塞術後の新規脳動脈瘤の発生および合併脳動脈瘤の拡大. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.16
78. 後藤正憲, 川出智大, 田中優也, 岩崎朗奈, 椛本悠嗣, 西井陸大, 山元康弘, 中嶋広太, 寺西邦匡, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 小柳正臣, 今村博敏, 坂井信幸, 太田剛史：未破裂脳動脈瘤に対する治療選択と成績. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.16
79. 太田剛史：頸動脈ステント留置術の基本と応用. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.16
80. 坂井信幸, 石井 暁, 伊藤 靖, 今村博敏, 江面正幸, 大石英則, 杉生憲志, 寺田友昭, 東登志夫, 兵頭明夫, 藤中俊之, 松丸祐司, 松本康史, 宮地 茂, 吉村紳一, 小笠原邦昭, 北川一夫, 小林繁樹, 太田剛史, 坂井千秋：Pipeline Embolization Device 国内初期悉皆登録研究 (FLOWER JAPAN) の結果報告. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.16
81. 坂井信幸, 石井 暁, 伊藤 靖, 今村博敏, 江面正幸, 大石英則, 杉生憲志, 寺田友昭, 東登志夫, 兵頭明夫, 藤中俊之, 松丸祐司, 松本康史, 宮地 茂, 吉村紳一, 小笠原邦昭, 北川一夫, 小林繁樹, 太田剛史, 坂井千秋：Pipeline Embolization Device 国内初期悉皆登録研究 (FLOWER JAPAN) の結果報告. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.16
82. 坂井信幸, 今村博敏, 大村佳大, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 中嶋広太, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 岩崎朗奈, 寺西邦匡, 川出智大, 坂井千秋, 太田剛史, 佐藤 徹：血管内治療の長期成績・QOL- 脳動脈瘤、頸動脈狭窄症. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.16
83. 福光 龍：Borden type 1 の横・S 状静脈洞部硬膜動静脈瘻の治療成績. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.17
84. 椛本悠嗣, 福光 龍, 小柳正臣, 後藤正憲, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 春山裕典, 寺西邦匡, 朝倉健登, 堀井 亮, 岩崎朗奈, 西井陸大, 山元康弘, 川出智大, 山本健太, 坂井千秋, 坂井信幸, 太田剛史：破裂解離性椎骨動脈瘤の脳血管内治療の急性期および長期成績. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.17
85. 福井伸行, 高野裕樹, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 前川嵩太, 藤原 悟, 高杉純司, 尾原信行, 川本未知, 幸原伸夫, 古川 裕, 木原康樹, 小山忠明, 太田剛史, 坂井信幸：循環器脳卒中合同オープンカンファレンスを通じたブレインハートチームの歩み. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.17
86. 中嶋広太, 後藤正憲, 春山裕典, 高野裕樹, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 小柳正臣, 今村博敏, 坂井信幸, 太田剛史：当院における小型破裂囊状動脈瘤の治療に関する検討. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.17
87. 太田剛史：クラゾセンタンの脳血管攣縮発症抑制効果と投与時に注意すべきこと. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.17
88. 坂井信幸, 岩間 亨, 宇野昌明, 小笠原邦昭, 岡田 靖, 木村和美, 黒田 敏, 後藤 励, 塩川芳昭, 高木康志, 富永悌二, 豊田一則, 橋本洋一郎, 松丸祐司, 宮本 享, 吉村紳一, 平野照之, 藤本 茂, 山上 宏, 今村博敏, 尾原信行, 太田剛史, 坂井千秋：脳卒中の急性期診療提供体制の変革に係る実態把握及び有効性等の検証のための研究. STORKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.17

89. 高野裕樹, 川出智大, 岩崎朗奈, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 寺西邦匡, 中嶋広太, 春山裕典, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 今村博敏, 坂井信幸, 太田剛史: 内頸動脈 - 眼動脈分岐部動脈瘤における Flow Diverter 留置術の治療成績. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.18
90. 西井陸大, 福井伸行, 太田剛史, 廣井 崇, 坂井信幸, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 高野裕樹, 寺西邦匡, 中嶋広太, 椛本悠嗣, 山元康弘, 岩崎朗奈, 田中優也, 川出智大, 石藏礼一: クラブセンタンの初期使用経験と投与開始タイミングについて. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.18
91. 川出智大, 春原 匡, 田中優也, 西井陸大, 山元康弘, 岩崎朗奈, 椛本悠嗣, 中嶋広太, 寺西邦匡, 高野裕樹, 福井伸行, 福光 龍, 後藤正憲, 小柳正臣, 太田剛史: 刺創 10 年後に繰り返す脳梗塞で発症した外傷性椎骨動脈仮性動脈瘤の一例. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.18
92. 太田剛史: まずは Single device で〜 SolitairTM X を使った神戸流血栓回収〜. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.18
93. 太田剛史: 脳動脈瘤コイル塞栓術の基本と応用. 脳動脈瘤塞栓術 症例検討会 - 症例から学ぶ脳血管内治療の Tips-, 大阪, ハイブリッド開催, 2023.3.28
94. 太田剛史: 急性期脳卒中治療の最近の話題. 脳卒中後てんかん診療を考える会, WEB 開催, 2023.3.30

VIII. 1. 19 整形外科

1. 太田悟司: 下腿開放骨折における感染低減化に向けた取り組み. 第 34 回兵庫県骨折治療研究会, 神戸, 2022.4.2
2. 長田篤史, 山下伸之輔, 藤田俊史, 太田悟司, 大西英次郎, 安田 義: Masquelet 法を併用した逆行性髄内釘による足関節固定術を行った開放性 pilon 骨折の 1 例. 第 138 回中部日本整形外科学会災害外科学会・学術集会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2022.4.8-9
3. 太田悟司: 外傷分野. 2022 年度京大関連整形外科プログラム専攻医研修会, WEB 開催, 2022.4.10
4. 光澤定己, 日下部賢治, 中尾翔太, 松岡哲也, 池口良輔, 松田秀一: 橈骨遠位端骨折における volar lunate facet fragment 発生のリスク因子に関する検討. 第 65 回日本手外科学会学術集会, 北九州, ハイブリッド開催, 2022.4.14-15
5. 田中 敦, 大西英次郎, 和田晃大, 宮本哲也, 橋村卓実, 藤田俊史: 頸椎前方固定術における術後再挿管の危険因子に関する検討. 第 51 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.22
6. 齋藤遼平, 木村浩明, 三浦寿一, 和田山文一郎: 頸椎後方固定術後 C5 麻痺のリスク因子の検討. 第 51 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.22
7. 橋村卓実, 大西英次郎, 藤田俊史, 田中 敦, 宮本哲也, 和田晃大, 安田 義: LLIF におけるヒト脱灰骨基質と自家骨のケージ内骨癒合の比較検討. 第 51 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.23
8. 大西英次郎, 橋村卓実, 田中 敦, 安田 義: 急速破壊性股関節症の発症及び発症初期に生じる大腿骨頭圧壊に関与する矢状面脊椎骨盤アライメントの危険因子の検討. 第 51 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.23
9. Yasuda T: Association of preoperative muscle composition of the lower extremity with gait function after total knee arthroplasty. The 66th Annual General Assembly and Scientific Meeting of the Japan College of Rheumatology (第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会), 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.26
10. Yasuda T, Yamashita S, Ota S, Onishi E: Possible association of cortical thickness with spontaneous non-traumatic fracture patterns of the humeral shaft. ECTS2022, Helsinki, Finland, WEB 開催, 2022.5.7-10
11. Yasuda T, Ota S, Fujita S, Tsukamoto Y, Yamashita S, Hashimura T, Matsunaga K, Onishi E: Association between sagittal spinopelvic alignment and femoral head destruction in the early stage of rapidly destructive coxopathy. The 95th Annual Meeting of the Japanese Orthopaedic Association (第 95 回日本整形外科学会学術集会), Kobe, Hybrid, 2022.5.22
12. 坂本祐志, 中村伸一郎, 栗山新一, 西谷江平, 森田悠吾, 松田秀一: 人工膝関節再置換術における metal augmentation の最適な傾斜角の検討. The 95th Annual Meeting of the Japanese Orthopaedic Association (第 95 回日本整形外科学会学術総会), Kobe, Hybrid, 2022.5.22
13. 池尻憲紀, 山下伸之輔, 竹内久貴: 距舟関節脱臼に伴う舟状骨骨折の一例. 第 14 回京都大学外傷研究会, WEB 開催, 2022.6.4

14. 塚本義博：指尖切断の治療と疼痛. 第3回整形外科疾患セミナー, WEB開催, 2022.6.7
15. 太田悟司：多職種・地域で支えよう 大腿骨近位部骨折の二次骨折予防—急性期病院から. 神戸市立医療センター中央市民病院第15回地域連携セミナー, 神戸, 2022.6.9
16. 安田 義：変形性関節症に対する人工膝関節置換術後の歩行能力と患肢の術前筋組成との関連. JOSKAS-JOSSM 2022, 札幌, 2022.6.18
17. 大西英次郎：脊椎脊髄疾患の最近の治療と薬物療法. 神戸市北区整形外科セミナー, 神戸, WEB開催, 2022.6.23
18. 山下伸之輔, 光澤定己, 塚本義博, 竹内久貴, 太田悟司, 安田 義：脛骨骨幹部らせん骨折に合併する後果骨折は関節面占拠率の高い後外側斜骨折が多い. 第48回日本骨折治療学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.6.24
19. 太田悟司, 山下伸之輔, 安田 義：妊婦寛骨臼骨折の1例. 第48回日本骨折治療学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.6.25
20. 安田 義：急速破壊型股関節症発症早期の病態. 第7回京整会若手股関節セミナー, 京都, WEB開催, 2022.7.23
21. 長田篤史, 山下伸之輔, 藤田俊史, 太田悟司, 大西英次郎, 安田 義：Masquelet法を併用した逆行性髄内釘による足関節固定術を行った開放性 pilon 骨折の1例. 第9回オープンボーンカンファレンス症例検討会, WEB開催, 2022.8.19
22. Yasuda T, Ota S, Yamashita S, Tsukamoto Y, Onishi E：Association of preoperative variables of ipsilateral hip abductor muscles with gait function after total hip arthroplasty: a retrospective study. The 8th Annual Meeting of ASIA, Bali, Indonesia, Beijing, China, Hybrid, 2022.8.27
23. 安田 義, 太田悟司, 山下伸之輔, 光澤定己, 塚本義博, 竹内久貴, 大西英次郎：脆弱性骨盤輪骨折受傷早期における骨盤後方要素の骨折転位とサルコペニアは逆相関している. 第24回日本骨粗鬆症学会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.9.2-10.31
24. 橋村卓実, 加藤 怜, 田中 敦, 大西英次郎, 安田 義：骨粗鬆症性椎体骨折に対する後方固定術と X-core 2を用いた前方後方固定術との比較. 第24回日本骨粗鬆症学会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.9.2-10.31
25. 大西英次郎：腰椎疾患におけるガイドラインを用いた治療と当院の取り組み. 神戸市垂水区医師会講演会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.9.15
26. 安田 義, 太田悟司, 山下伸之輔, 光澤定己, 塚本義博, 竹内久貴, 大西英次郎：脆弱性骨盤輪骨折発症早期の転位とサルコペニアとの関連性. 第77回日本体力医学会大会, オンライン開催, 2022.9.22
27. 大西英次郎：脊髄障害に対する最近の治療法と中枢性神経障害性疼痛に対する薬物療法. 第4回整形外科疾患セミナー, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.10.4
28. 安田 義, 太田悟司, 山下伸之輔, 光澤定己, 塚本義博, 竹内久貴, 大西英次郎：患側股関節外転筋群の術前因子と人工股関節置換術後歩行機能との関連性. 第74回兵庫県医師会医学会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.10.16
29. 齋藤遼平, 太田悟司, 安田 義：病的骨折と鑑別の難しい骨盤骨脆弱性骨折に対して骨接合を行なった一例. 第10回オープンボーンカンファレンス症例検討会, WEB開催, 2022.12.10
30. 山下伸之輔：腹臥位で初期治療を行った脛骨近位端骨折の1例. OTM Symposium Follow-up small group discussion, WEB開催, 2022.10.20
31. 太田悟司：当院における大腿骨近位部骨折術後患者の二次骨折予防の現状. 患者さんのトータルケアを考える～整形外科疾患の治療継続の重要性～, WEB開催, 2022.12.20
32. 井口哲弘, 東迎高貴, 左右田裕生, 木下恵祐, 貞光隆志, 東 敬信, 船田菜津子, 山下仁司, 葛原 啓, 安田 義, 大谷卓弘, 前野耕一郎：兵庫県の整形外科医における妊娠・授乳関連骨粗鬆症による脊椎骨折の経験と認知度調査. 第30回日本腰痛学会, 盛岡, 2022.10.22
33. 山下伸之輔：骨頭骨折を合併した股関節脱臼骨折の1例. 第35回兵庫県骨折治療研究会, 神戸, 2022.10.22
34. 田中 敦, 藤林俊介, 大槻文悟, 清水孝彬, 村田浩一, 松田秀一：胸椎 OPLL 前方徐圧術後の胸腔内髄液漏の一例. 第2回京都大学 & 琉球大学 & 信州大学脊椎骨粗鬆症 WEBカンファレンス, WEB開催, 2022.10.25
35. 坂本祐志, 大西英次郎, 橋村卓実, 太田悟司, 竹内久貴, 安田 義：腰椎透析性脊椎症に対して行った側方経路腰椎椎体間固定術の治療成績. 第139回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 大阪, 2022.10.28

36. 安田 義：急速破壊型股関節症の発症初期に生じる大腿骨頭破壊と矢状面脊椎骨盤アライメントとの関連. 第 49 回日本股関節学会学術集会, 山形, 2022.10.29
37. 山下伸之輔：大腿骨遠位骨幹部骨折 Infra-isthmal fracture の偽関節症例. 第 10 回轍会症例検討会, 倉敷, 2022.11.19
38. 田中 敦, 藤林俊介, 大槻文悟, 清水孝彬, 村田浩一, 松田秀一：胸椎 OPLL 前方徐圧術後の胸腔内髄液漏の一例. 第 58 回脊椎外科を学ぶ会, WEB 開催, 2022.11.19
39. 和田晃大, 橋村卓実, 大西英次郎, 山根逸郎, 坂本祐志：骨粗鬆症性椎体骨折に対する後方固定術と X-core2 を用いた前方後方固定術との比較. 第 31 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 大阪, 2022.11.25
40. 坂本祐志, 大西英次郎, 橋村卓実, 和田晃大：腰椎透析性脊椎症に対して行った側方経路腰椎椎体間固定術の治療成績. 第 31 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 大阪, 2022.11.25
41. 竹内久貴, 光澤定己, 塚本義博, 池口良輔, 安田 義：Masquelet 法の神経欠損治療への応用 ラット神経欠損モデルにおける induced membrane の有用性に関する検討. 第 49 回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 浜松, 2022.12.1
42. 竹内久貴, 光澤定己, 塚本義博, 池尻憲紀, 安田 義：Press-fit type 人工橈骨頭の治療成績. 第 35 回日本肘関節学会学術集会, 山形, ハイブリッド開催, 2023.2.4
43. 竹原元司, 池尻憲紀, 坂本祐志, 齋藤遼平, 坂上功次, 和田晃大, 加藤 怜, 田中 敦, 光澤定己, 山下伸之輔, 塚本義博, 竹内久貴, 太田悟司, 大西英次郎, 安田 義：ポリオ患者に生じた変形性股関節症に対して人工股関節置換術を行った一例. 第 26 回兵庫股関節研究会, 神戸, 2023.2.4
44. 山下伸之輔：脛骨高原骨折の 1 例 - 初期治療から最終固定を考える -. 第 15 回京都大学外傷研究会, WEB 開催, 2023.2.11
45. 山下伸之輔：Trans-sacral screw 挿入時に上臀動脈損傷を合併した 1 例. Teikyo Trauma Talk, WEB 開催, 2023.2.25
46. 光澤定己：救急外来での整形初期対応. Live Symposium for Resident, Zoom 開催, 2023.2.28
47. 太田悟司：整形外科医として. \外科医による／不眠症診療 Web Seminar, WEB 開催, 2023.2.28
48. 山下伸之輔：骨盤骨折の基礎. 旭化成社内研修講演, 神戸, 2023.3.8
49. 太田悟司：2 次骨折予防を考慮した骨粗鬆症治療. 骨折リエゾンサービスの連携を考える会, 神戸, 2023.3.16
50. 新倉隆宏, 福井友章, 大江啓介, 安田 義, 渡部欣忍, 田島吾郎, 土井田稔, 山本哲司, 川本篤彦, 黒田良祐：自家 CD34 陽性細胞移植による難治性骨折治療 一医師主導治験の報告一. 第 21 回日本再生医療学会総会, WEB 開催, 2022.3.19

VIII. 1. 20 形成外科

1. 川端智也, 池田実香, 松添晴加, 岡 俊吾, 大濱大瑛, 片岡和哉：bFGF を含浸したゼラチン含有人工真皮と陰圧閉鎖療法を併用した難治性潰瘍 7 例. 第 65 回日本形成外科学会総会・学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.4.21
2. 甲 貴文, 川端智也, 池田実香, 島田有里, 平林亮介, 清水祐里, 原 重雄, 齊藤正男, 浜川博司, 高橋 豊：肺非結核性抗酸菌症 (Mycobacterium intracellulare) に伴う続発性気胸・胸膜炎・皮下膿瘍の 1 例. 第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.20
3. 濱本文美, 篠原尚吾, 上田啓史, 山元智子, 安本眞美, 戸部陽太, 池永 直, 道田哲彦, 浜口清海, 山崎博司, 藤原敬三, 内藤 泰, 池田実香, 川端智也：術後気管皮膚瘻孔に対して局所陰圧療法を用いて閉鎖した 1 例. 第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.5.26
4. 川端智也, 池田実香, 松添晴加, 岡 俊吾, 大濱大瑛, 片岡和哉, 甲 貴文, 濱川博司, 嶋田有里, 中川淳：COVID-19 に続発した人工呼吸器関連肺炎に起因する急性膿胸に対し局所陰圧閉鎖療法が有効であった一例. 第 14 回日本創傷外科学会総会・学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.7.15
5. 松添晴加, 池田実香, 武尾 真, 内藤素子, 川端智也, 片岡和哉, 辻 孝, 森本尚樹：ケロイド組織における神経関連タンパクの発現. 第 31 回日本形成外科学会基礎学術集会, 岡山, ハイブリッド開催, 2022.10.14
6. 岡 俊吾, 川端智也, 池田実香, 松添晴加, 大濱大瑛, 片岡和哉, 原 重雄：診断に難渋した類血管腫性線維性組織球腫の 1 例. 第 132 回関西形成外科学会学術集会, 枚方, 2022.11.26

7. 川端智也, 池田実香, 松添晴加, 岡 俊吾, 大濱大瑛, 小柳正臣, 福光 龍, 重安将志, 藤原敬三, 道田哲彦, 濱本文美, 片岡和哉: 体表から頭蓋底に刺入され内頸動脈サイフォン部を圧排した異物を各科合同で安全に抜去できた一例. 第 133 回関西形成外科学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.3.11

VIII. 1. 21 産婦人科

1. 小山瑠梨子: ~子宮筋腫・内膜症編~ 子宮筋腫・子宮内膜症の治療~レルミナという新たな治療選択肢をえて part2. あすか産婦人科セミナー, WEB 開催, 2022.7.7
2. 松林 彩, 谷村昌也, 畑山裕生, 佐藤晋平, 田辺優理子, 荻野敦子: 腎細胞がんの卵巣転移を来した一例. 第 96 回兵庫県産科婦人科学会学術集会, 神戸, 2022.7.17
3. 前田振一郎, 元山貴仁, 吉村佳与子, 谷村昌哉, 佐藤晋平, 畑山裕生, 荻野敦子, 奥立みなみ, 岡本葉留子, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 青木卓哉, 三木通保, 吉岡信也: 卵巣腫瘍に対する腹腔鏡手術と下部尿路損傷: 尿管損傷ヒヤリハットの一例と膀胱損傷を来した一例. 第 62 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.8
4. 吉岡信也: COVID-19 に対する周産期医療最前線での取り組み. 第 63 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.9.9
5. 小山瑠梨子: 安全な TLH を目指して 手技の工夫と統一化を中心に. 婦人科ラパロ手術を語る会 in 兵庫, 神戸, 2022.10.6
6. 吉村佳与子, 元山貴仁, 林 信孝, 谷村昌哉, 畑山裕生, 佐藤晋平, 荻野敦子, 前田振一郎, 奥立みなみ, 岡本葉留子, 川口雄亮, 山添紗恵子, 松林 彩, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院における my choice 診断システム検査後の HBOC に対する遺伝学的対応について. 第 8 回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会, 新潟, ハイブリッド開催, 2022.10.29
7. 元山貴仁, 林 信孝, 吉村佳与子, 谷村昌哉, 大竹紀子, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 松林 彩, 山添紗恵子, 岡本葉留子, 奥立みなみ, 前田振一郎, 荻野敦子, 佐藤晋平, 畑山裕生, 青木卓哉, 三木通保, 吉岡信也: 当院におけるがん遺伝子パネル検査の現状. 第 147 回近畿産科婦人科学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.10.30
8. 谷村昌哉, 小山瑠梨子, 元山貴仁, 吉村佳与子, 畑山裕生, 佐藤晋平, 荻野敦子, 前田振一郎, 奥立みなみ, 山添紗恵子, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 大竹紀子, 青木卓哉, 三木通保, 吉岡信也: 当院でのプロウパス使用経験について. 第 147 回近畿産科婦人科学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.10.30
9. 三木通保, 畑山裕生, 佐藤晋平, 荻野敦子, 前田振一郎, 奥立みなみ, 岡本葉留子, 山添紗恵子, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 青木卓哉, 吉岡信也: ロボットによる 2cm Surgery と Fascia の展開. 第 45 回日本産婦人科手術学会, 金沢, ハイブリッド開催, 2022.11.11
10. 三木通保, 松本 貴: よく分かる TLH 序盤戦その 1 ~膀胱の剥離~. up stream ウェビナー, WEB 開催, 2022.11.19
11. 三木通保, 森 泰輔, 松本 貴, 谷村 悟: 子宮内膜症病巣と岡林直腸側腔. 第 2 回エチコンセミナー「深部子宮内膜症切除への理論と情熱」, WEB 開催, 2022.12.12
12. 林 信孝, 浦川優作, 今村裕子, 吉岡信也: 当院における BRACAnalysis 診断システムの運用に関する取り組み. 日本人類遺伝学会第 67 回大会, 横浜, 2022.12.15
13. 小山瑠梨子: 子宮筋腫・子宮内膜症治療~レルミナ錠をどう使いこなすのか?~. レルミナ錠 40mg WEB 講演会, WEB 開催, 2022.12.22
14. 谷村昌哉, 小山瑠梨子, 元山貴仁, 吉村佳与子, 畑山裕生, 荻野敦子, 前田振一郎, 奥立みなみ, 山添紗恵子, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 大竹紀子, 青木卓哉, 三木通保, 吉岡信也: 経膈分娩後, 左側方血管損傷により心肺停止をきたし, damage control surgery を施行し救命しえた 1 例. 兵庫県温知会, 神戸, 2023.1.15
15. 三木通保, 大木規義, 林 茂徳, 二木ひとみ, 岩橋尚幸, 小谷泰史: TLH よもやま話~技術認定試験・合併症など~. 近畿鏡視下手術 WEB セミナー, WEB 開催, 2023.1.20
16. 小山瑠梨子: 究極の妊孕性温存を目指して~腹腔鏡下手術・帝王切開術を今あらためて考える~. 第 44 回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会, 高知, ハイブリッド開催, 2023.1.22
17. 小山瑠梨子: 子宮筋腫・子宮内膜症の治療~病診連携の実際 レルミナ錠の使い方~. 第 18 回ウィメンズ コネクション, WEB 開催, 2023.2.4
18. 三木通保, 松本 貴: よく分かる TLH 序盤戦その 2 ~側方アプローチ~. up stream ウェビナー, WEB 開催, 2023.2.9

19. 前田振一郎, 林 信孝, 谷村昌哉, 元山貴仁, 吉村佳与子, 畑山裕生, 荻野敦子, 奥立みなみ, 岡本葉留子, 川口雄亮, 山添紗恵子, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 大竹紀子, 青木卓哉, 三木通保, 吉岡信也: 進行卵巣癌 (HRD) への初回維持療法について. Zejula 2nd Anniversary Seminar. WEB 開催, 2023.2.15
20. 谷村昌哉, 小山瑠梨子, 元山貴仁, 吉村佳与子, 畑山裕生, 荻野敦子, 前田振一郎, 奥立みなみ, 山添紗恵子, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 大竹紀子, 青木卓哉, 三木通保, 吉岡信也: 分娩誘発～当院でのジノプロストン腔用剤の使用経験～. 周産期オープンカンファレンス, 神戸, 2023.3.4

VIII. 1. 22 泌尿器科

1. 山崎俊成: 当院でのカボザンチニブの使用経験. 京都腎細胞癌診療 Web セミナー, WEB 開催, 2022.4.15
2. 山崎俊成: 進行性腎細胞癌治療戦略 ～複合免疫療法の役割～. 天理・和歌山泌尿器講演会, WEB 開催, 2022.4.26
3. 川喜田睦司: ロボット支援手術～私のこだわり～. 第 2 回本音で語らう泌尿器科医前立腺癌セミナー, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.28
4. 山崎俊成: 進行性腎細胞癌に対する複合免疫療法の役割とその選択. Kidney Cancer Forum in Hyogo, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.5.19
5. 山崎俊成: 進行性腎細胞癌の 1 次治療におけるカボメティクス/ニボルマブ併用療法の役割. カボメティクス発売 2 周年記念講演会, WEB 開催, 2022.5.26
6. 川喜田睦司: スポンサードレクチャー 膀胱全摘. Webinar Platinum Technique, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.5.27
7. 川喜田睦司: ロボット支援手術を極める. Urofessional symposium in Osaka, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.6.2
8. 山崎俊成: 進行前立腺がんの病態と治療の現況. 日本新薬社内研修会, 神戸, 2022.6.14
9. 川喜田睦司: 前立腺癌の疫学と治療. バイエル薬品社内勉強会, 神戸, 2022.6.23
10. 神戸貴成, 名越晶彦, 藤原 佑, 峯 佑太, 萩本裕樹, 服部悠斗, 阿部陽平, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司, 山下大祐: 後腹膜 PEComa の 1 例. 第 250 回日本泌尿器科学会関西地方会, 神戸, 2022.6.25
11. 山崎俊成: 進行性腎細胞癌に対する一次治療 ～パベンチオ・インライタ併用療法の役割～. Merck & Pfizer GU Oncology Internet Symposium, WEB 開催, 2022.7.7-20
12. 川喜田睦司, 山崎俊成, 堤 尚史, 阿部陽平, 服部悠斗, 萩本裕樹, 峯 佑太, 神戸貴成, 藤原 佑, 名越晶彦, 石川英二: 泌尿器科疾患に対する治療方針, 診療成績について. 第 22 回港島泌尿器科病院診療所交流会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.9.8
13. 堤 尚史, 名越晶彦, 藤原 佑, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 服部悠斗, 阿部陽平, 山崎俊成, 石川英二, 川喜田睦司: 当院における前立腺癌治療の現状. 第 22 回港島泌尿器科病院診療所交流会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.9.8
14. 川喜田睦司: ニュベクオと RAR: 私の選択. 阪神 CRPC 治療セミナー 2022, 尼崎, 2022.9.16
15. 服部悠斗: 当院におけるカバジタキセルの症例. 第 14 回 HOWKS, 神戸, 2022.9.17
16. 萩本裕樹: PDD と NBI の比較. 兵庫・岡山 PDD-TURBT 研究会, 神戸, 2022.9.22
17. 川喜田睦司: イブニングセミナー 3 ロボット支援腎尿管全摘術における da Vinci の可能性. 第 72 回日本泌尿器科学会中部総会, 和歌山, 2022.10.6
18. 藤原 佑, 名越晶彦, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 服部悠斗, 阿部陽平, 堤 尚史, 山崎俊成, 石川英二, 川喜田睦司: 特発性後腹膜線維症に対する治療成績の検討. 第 72 回日本泌尿器科学会中部総会, 和歌山, 2022.10.7
19. 名越晶彦, 藤原 佑, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 服部悠斗, 阿部陽平, 堤 尚史, 山崎俊成, 石川英二, 川喜田睦司: MRI-TRUS 融合画像ガイド下経直腸前立腺評的狙撃生検の有用性. 第 72 回日本泌尿器科学会中部総会, 和歌山, 2022.10.7
20. 服部悠斗: 特別企画 1 ロボット支援手術時代における腹腔鏡手術手技の獲得. 第 72 回日本泌尿器科学会中部総会, 和歌山, 2022.10.7
21. 野島道生, 山田祐介, 長池紋子, 兼松明弘, 山本新吾, 川喜田睦司, 峯 佑太, 原 重雄: 臓器横断的シンポジウム 7 臓器移植後拒絶反応の克服 事例からの教訓～血液型不適合腎移植後における大量出血時の FFP 選択「安全な適合輸血あるいは移植腎保護のため不適合輸血のジレンマ」. 第 58 回日本移植学会総会, 名古屋, 2022.10.15
22. 山崎俊成: mRCC の 1 次治療を考える ～パベンチオ・インライタの役割～. RCC Oncology Symposium in Kurashiki, 倉敷, 2022.10.27

23. 山崎俊成, 川喜田睦司: シンポジウム4 ロボット支援手術のトラブルシューティング 後腹膜アプローチによるロボット支援手術のトラブルシューティング. 第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 神戸, 2022.11.11
24. 萩本裕樹, 名越晶彦, 藤原 佑, 神戸貴成, 峯 佑太, 服部悠斗, 阿部陽平, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司: 膀胱上皮内癌に対するBCG治療後残存腫瘍の検出におけるPDDの有用性の検討. 第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 神戸, 2022.11.11
25. 堤 尚史, 名越晶彦, 藤原 佑, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 服部悠斗, 阿部陽平, 山崎俊成, 川喜田睦司: 当院BipolEP(バイポーラー経尿道的核出術)の有用性についてHoLEPとの比較. 第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 神戸, 2022.11.11
26. 神戸貴成, 名越晶彦, 藤原 佑, 峯 佑太, 萩本裕樹, 服部悠斗, 阿部陽平, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司: 腎周囲/腎洞脂肪浸潤を認めたcT1/pT3aの腎細胞癌の腎部分切除後の治療成績. 第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 神戸, 2022.11.11
27. 阿部陽平, 名越晶彦, 藤原 佑, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 服部悠斗, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司: ロボット支援腎部分切除術(RAPN)後のCKDの有無による腎実質体積の経時的変化の検討. 第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 神戸, 2022.11.11
28. 峯 佑太, 名越晶彦, 藤原 佑, 神戸貴成, 萩本裕樹, 服部悠斗, 阿部陽平, 堤 尚史, 山崎俊成, 川喜田睦司: ロボット支援前立腺全摘除術(RARP)と同時に施行した鼠径ヘルニア修復術の検討. 第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 神戸, 2022.11.11
29. 今尾哲也, 高津拓哉, 姫野正敬, 天野俊康, 川喜田睦司: ロボット支援膀胱全摘除術におけるドレーン留置の必要性に関する検討. 第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 神戸, 2022.11.11
30. 川喜田睦司: 前立腺がん・腎がんなどのロボット手術におけるプロクターとしての取り組み. 第50回大阪泌尿器科手術手技研究会, 大阪, 2022.11.19
31. 山崎俊成: 泌尿器がんー最新の標準治療ー. 第24回日本癌治療学会 アップデート教育コース, WEB開催, 2022.11.19
32. 山崎俊成: IO薬併用一次治療におけるカボザンチニブ/ニボルマブの役割を考える. 第59回福井泌尿器科フォーラム, 福井, 2022.11.24
33. Yamada Y, Nojima M, Hara S, Kawakita M, Mine Y, Kanematsu A, Yamamoto S: Acute Antibody-Mediated Rejection After Massive Plasma Transfusion in ABO Incompatible Kidney Transplant Recipient ¶ Difficult Decisions Regarding Plasma Selection Must Be Made When Massive Hemorrhage Occurs After ABO Incompatible Renal Transplantation. Transplantation Science Symposium Asian Regional Meeting 2022, Kyoto, Hybrid, 2022.11.26
34. 山崎俊成: 進行性腎細胞癌に対する1次治療を考える. Hyogo Kidney Cancer Seminar. WEB開催, 2022.12.2
35. 川喜田睦司: 私のRARC・ICUD. オブジーボ尿路上皮癌術後補助療法エリアWebセミナー, 大阪, 2022.12.9
36. 山崎俊成: 骨転移症例に対するCABO+Nivoの使用経験. RCC Expert Web Seminar, WEB開催, 2023.1.16
37. 川喜田睦司: 泌尿器科手術の変遷. Prostate Cancer Expert Meeting, 神戸, 2023.1.21
38. 山崎俊成: IO薬併用一次治療におけるアベルマブ/アキシチニブの役割〜. Meet the Experts of RCC Webinar in Kansai, WEB開催, 2023.1.30
39. 柴崎 昇: 腎結石合併UPJOに対するロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術+腎盂切石術7症例の経験. 泌尿器科手術研究会, 浜松, 2023.2.4
40. 山崎俊成: IO薬併用一次治療におけるカボザンチニブ/ニボルマブの役割を考える. RCC Seminar in Shizuoka, 静岡, ハイブリッド開催, 2023.2.10
41. 山崎俊成: IO薬併用一次治療におけるカボザンチニブ/ニボルマブの役割を考える. 第12回尾張・三河泌尿器腫瘍研究会, 名古屋, 2023.2.17
42. 名越晶彦, 藤原 佑, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 服部悠斗, 阿部陽平, 柴崎 昇, 山崎俊成, 川喜田睦司: 腎がん術後肺転移を見治療で経過観察した1例. 兵庫・岡山RCC講演会, 神戸, ハイブリッド開催, 2023.3.4
43. 峯 佑太, 名越晶彦, 藤原 佑, 神戸貴成, 萩本裕樹, 服部悠斗, 阿部陽平, 柴崎 昇, 山崎俊成, 川喜田睦司: 前立腺癌の手術治療について. 第23回港島泌尿器科病院診療所交流会, 神戸, ハイブリッド開催, 2023.3.9

44. 川喜田睦司, 山崎俊成, 柴崎 昇, 阿部陽平, 服部悠斗, 萩本裕樹, 峯 佑太, 神戸貴成, 藤原 佑, 名越晶彦, 石川英二: 泌尿器科疾患に対する治療方針, 診療成績について. 第 23 回港島泌尿器科病院診療所交流会, 神戸, ハイブリッド開催, 2023.3.9
45. 川喜田睦司: 前立腺癌の薬物療法. KUAH CRPC カンファレンス, WEB 開催, 2023.3.10
46. Hattori Y, Nagoshi A, Fujiwara T, Kambe T, Mine Y, Hagimoto H, Abe Y, Yamashita D, Tsutsumi N, Arizono S, Shibasaki N, Yamasaki T, Kawakita M: Impact of renal sinus protrusion morphology of tumours on achieving trifecta in robot-assisted partial nephrectomy. The 38th Annual EAU Congress, Milan, Italy, 2023.3.12
47. 柴崎 昇, 名越晶彦, 藤原 佑, 神戸貴成, 峯 佑太, 萩本裕樹, 服部悠斗, 阿部陽平, 山崎俊成, 川喜田睦司: 進行尿路上皮癌へのアベルマブ維持療法. 第 8 回泌尿器科腫瘍 Up to Date, 神戸, ハイブリッド開催, 2023.3.24
48. 川喜田睦司: 前立腺がんなどのロボット手術におけるこれまでの取り組み. AstraZeneca Urological Seminar, 神戸, ハイブリッド開催, 2023.3.25

VIII. 1. 23 耳鼻咽喉科

1. Yamazaki H: EAS in Japan - Current Status & Future. 18th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery (JKJM2022), オンライン開催, 2022.4.8
2. 内藤 泰: きこえと脳のはたらき. きこえの市民公開講座, 神戸, 2022.4.16
3. 藤井直子: 成人の人工内耳-きこえとリハビリテーション-. きこえの市民公開講座, 神戸, 2022.4.16
4. 内藤 泰: 小児人工内耳の適応判断とリハビリテーション. えひめ難聴フォーラム 2022, 愛媛, 2022.4.17
5. 山崎朋子: 第 5 回ゲスト 明日 (あす) のいのちをつなぐ~こころあたたまる救命エピソード~. ラジオ番組 FM 大阪, 大阪, 2022.4.29
6. 山崎博司: 第 6 回ゲスト 明日 (あす) のいのちをつなぐ~こころあたたまる救命エピソード~. ラジオ番組 FM 大阪, 大阪, 2022.5.6
7. 諸頭三郎: 人工内耳小児の幼稚園・保育園・小学校へのインクルージョンについて-よりよい情報補償を得るために-. 第 30 回神戸難聴患者サロン, web 開催, 2022.5.24
8. 金沢佑治, 山本典生, 水野佳世子, 堀 龍介, 岡上雄介, 和田忠彦, 佐藤進一, 吉澤 亮, 木谷芳晴, 松原 彩, 内藤 泰, 山崎博司, 道田哲彦, 吉田尚生, 大森孝一: 難聴の疾患特異的 QOL 尺度 (SSQ) 日本語版の信頼性・妥当性の検討. 第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.5.28
9. 内藤 泰: 難聴と脳のはたらきについて. 兵庫県難聴児親の会学習会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.6.11
10. 山崎朋子: 人工内耳装用児の学校生活と受験~小中高生に向けて~. 第 31 回神戸難聴患者サロン, web 開催, 2022.6.28
11. 前川圭子: 構音障害についての基礎知識. 神戸市通級指導教室研修会, 神戸, 2022.7.4
12. 内藤 泰, 山崎博司, 藤原敬三: 人工内耳小児術後のコミュニケーションモード選択の現況と問題点. 第 84 回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 広島, ハイブリッド開催, 2022.7.8
13. 玉谷輪子: EAS 体外機器のこれまでの進化と片耳から両側装用へ. 第 14 回 EAS・低侵襲人工内耳手術講習会, 広島, 2022.7.9
14. 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 濱口清海, 山崎博司, 道田哲彦, 濱本文美, 安本眞美, 上田啓史, 中村優仁: 慢性鼓膜炎の 6 症例. 第 198 回日耳鼻兵庫県地方部会 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会), 神戸, ハイブリッド開催, 2022.7.10
15. 諸頭三郎: 小児人工内耳 言語聴覚士が行う手術までのサポート. コクレアケアセンター大阪 オープニング イベント講演, 大阪, 2022.7.22
16. 内藤 泰: 超“難聴”時代に備えよ: “聞こえる”人生のために 2 つの鉄則. きょうの健康, NHK E テレ, 2022.8.1
17. 内藤 泰: 超“難聴”時代に備えよ: これが難聴対策のニューノーマル. きょうの健康, NHK E テレ, 2022.8.2
18. 前川圭子: 子どもの発達や聞こえに合わせた発音指導. 令和 4 年度 近畿地区発音・発語指導研究会 夏季研修講座, 神戸, 2022.8.2

19. 内藤 泰：超“難聴”時代に備えよ：続々登場！難聴補助アイテム。きょうの健康，NHK Eテレ，2022.8.3
20. 山崎博司，内藤 泰，諸頭三郎，山崎朋子，玉谷輪子，藤井直子，藤原敬三：内耳・内耳道奇形症例における術中 EABR 結果と術後の人工内耳刺激電荷量との関連。第 67 回日本聴覚医学会総会・学術講演会，山形，2022.10.6
21. 内藤 泰，藤井直子，藤原敬三，山崎博司，玉谷輪子，山崎朋子，諸頭三郎：高度難聴は高齢者の脳の糖代謝を低下させる可能性がある —a preliminary report—。第 67 回日本聴覚医学会総会・学術講演会，山形，2022.10.6
22. 諸頭三郎：私が行っている人工内耳小児への聴覚言語指導の実際。コクレアプロフェッショナルセミナー，山形，2022.10.7
23. Harada N, Maekawa K, Suehiro A, Fujiu-Kurachi M, Omori K : Voice treatment in English for a non-native English speaker with Muscle Tension Dysphonia: A case report. The 16th meeting of the International Association of Phonosurgery, Kyoto, 2022.10.13
24. 濱本文美，山崎博司，内藤 泰，藤原敬三，瀨口清海，道田哲彦，安本眞美，上田啓史：細菌性髄膜炎後の難聴に対して当院で人工内耳植込術を施行した 4 例の検討。第 32 回日本耳科学会総会・学術講演会，横浜，2022.10.21
25. 山崎博司，内藤 泰，藤原敬三，瀨口清海，道田哲彦，濱本文美，安本眞美，上田啓史：内耳・内耳道奇形人工内耳症例における光トポグラフィー (fNIRS) を用いた聴性皮質反応の評価。第 32 回日本耳科学会総会・学術講演会，横浜，2022.10.21
26. 山本典生：領域講習 9 シームレスな加齢性難聴対策—補聴器から人工内耳まで—。第 36 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 秋季大会，大阪，ハイブリッド開催，2022.11.5
27. 山本典生，鹿子島大貴，十名洋介，岡野高之，大森孝一：Ebf3 遺伝子の発生前庭・半規管感覚上皮における発現。第 81 回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会，奈良，2022.11.17
28. 諸頭三郎：インクルーシブ教育における合理的配慮—思春期にある人工内耳生徒への対応も含めて—。令和 4 年度兵庫県聴覚障害児支援力向上事業，姫路，2022.11.18
29. 山崎博司：難聴の原因と人工内耳の適応。第 36 回神戸難聴患者サロン，web 開催，2022.11.22
30. 前川圭子：小児の音声障害の取り扱い 声帯結節に対する音声治療。第 67 回日本音声言語医学会総会・学術講演会，京都，2022.11.24
31. 前川圭子：音声治療の tips & pitfalls -Transfer of voice therapy techniques to "real-life" conversation- resonant voice を用いた訓練。第 67 回日本音声言語医学会総会・学術講演会ポストコンGRESSセミナー，京都，2022.11.26
32. 中村優仁，山崎博司，内藤 泰，藤原敬三，藤井直子，玉谷輪子，山崎朋子，諸頭三郎，篠原尚吾，瀨口清海，道田哲彦，濱本文美，安本眞美，上田啓史：当院における成人両側人工内耳の適応およびその効果について。第 199 回日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会 兵庫県地方部会学術講演会，西宮，ハイブリッド開催，2022.11.27
33. 瀨口清海，山崎博司，道田哲彦，安本眞美，濱本文美，上田啓史，中村優仁：ご紹介頂いた症例呈示、治療方針、経過報告、診療の話題。第 18 回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス，神戸，ハイブリッド開催，2022.12.1
34. 藤原敬三：医療情報について。第 18 回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス，神戸，ハイブリッド開催，2022.12.1
35. 山本典生：難聴の手術治療と新規難聴治療法開発。第 18 回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス，神戸，ハイブリッド開催，2022.12.1
36. 内藤 泰：総合聴覚センターの活動について。第 18 回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス，神戸，ハイブリッド開催，2022.12.1
37. Yamamoto N, Koyasu S, Okano T, Tona Y, Omori K : Detection of Cholesteatoma Location with Readout-segmented Echo-planar Diffusion-weighted Imaging. The 4th World Congress on Endoscopic Ear Surgery Innovations in Ear Surgery and Hearing Therapeutics (EES2022), Kyoto, 2022.12.6
38. Yamazaki H : Conventional approaches to middle ear surgery in young children. The 4th World Congress on Endoscopic Ear Surgery Innovations in Ear Surgery and Hearing Therapeutics (EES2022), Kyoto, 2022.12.8
39. 山本典生：移動式コーンビーム CT を用いた側頭骨外科手術。第 4 回大阪難聴めまいの会，大阪，2023.1.6
40. 内藤 泰：カリキュラム (3) 補聴器の種類と機能 補聴器相談医に必要な人工聴覚器の知識。2022 年度兵庫県地方部会主催「補聴器相談医更新のための講習会」，神戸，2023.1.22

41. 内藤 泰：人工内耳の仕組みと脳の働き．第 37 回神戸難聴患者サロン，web 開催，2023.1.24
42. Kagoshima H, Ohnishi H, Nakagawa T, Omori K, Yamamoto N：Ebf1 Suppresses the Proliferation of the Cochlear Prosensory Domain and Forms the Scala Tympani and Spiral Limbus during the Development of the Inner Ear. ARO 46th Annual MidWinter Meeting 2023, Orlando, Florida, USA, 2023.2.13
43. 内藤 泰：超“難聴”時代に備えよ：明らかになるリスク．きょうの健康NHK Eテレ，2023.2.20
44. 内藤 泰：超“難聴”時代に備えよ：コロナ禍が悪影響？きょうの健康NHK Eテレ，2023.2.21
45. 内藤 泰：超“難聴”時代に備えよ：続々登場！支援アイテム．きょうの健康NHK Eテレ，2023.2.22
46. 諸頭三郎：人工内耳小児のことばの発達—その基本的援助方法—．第 38 回神戸難聴患者サロン，web 開催，2023.2.28

VIII. 1. 24 頭頸部外科

1. 濱本文美，篠原尚吾，上田啓史，山元智子，安本眞美，戸部陽太，池永 直，道田哲彦，瀧口清海，山崎博司，藤原敬三，内藤 泰，池田実香，川端智也：術後気管皮膚瘻孔に対して局所陰圧療法を用いて閉鎖した 1 例．第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会，神戸，ハイブリッド開催，2022.5.26
2. 安本眞美，篠原尚吾，濱本文美，瀧口清海，道田哲彦，池永 直，戸部陽太，上田啓史，山元智子，永井宏樹，出水祐介，藤原佳未：局所進行鼻副鼻腔未分化癌に対して導入化学療法後 CRT を行い、Complete Metabolic Response (CMR) を得た 2 症例．第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会，神戸，ハイブリッド開催，2022.5.26
3. 篠原尚吾：甲状腺手術の基本．第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会，神戸，ハイブリッド開催，2022.5.27
4. 戸部陽太，末廣 篤，前川圭子，篠原尚吾，大森孝一：切除困難と判断された悪性腫瘍による声帯麻痺の臨床経過についての検討．第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会，神戸，ハイブリッド開催，2022.5.27
5. 道田哲彦，篠原尚吾，山元智子，上田啓史，濱本文美，安本眞美，戸部陽太，池永 直，山崎博司，瀧口清海，藤原敬三，内藤 泰：外傷、異物誤嚥を契機とした咽頭・頸部食道穿孔例の検討．第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会，神戸，ハイブリッド開催，2022.5.28
6. 篠原尚吾，上田啓史，山元智子，安本眞美，濱本文美，戸部陽太，池永 直，道田哲彦，山崎博司，瀧口清海，藤原敬三，内藤 泰：手術加療を行った茎状突起過長症 9 例の病態、術式と治療成績．第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会，神戸，ハイブリッド開催，2022.5.28
7. 篠原尚吾，瀧口清海，道田哲彦，池永 直，戸部陽太，濱本文美，安本眞美，上田啓史，山元智子：一度治癒状態に持ち込めた甲状腺未分化癌患者 3 名の予後についての検討．第 46 回日本頭頸部癌学会，奈良，ハイブリッド開催，2022.6.17
8. 安本眞美，篠原尚吾，瀧口清海，道田哲彦，池永 直，戸部陽太，濱本文美，上田啓史，山元智子：鼻内視鏡による multilayer closure 法にて加療し得た特発性髄液鼻漏の一例．第 84 回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会，広島，2022.7.8
9. 濱本文美，篠原尚吾，瀧口清海，上田啓史，山元智子，安本眞美，戸部陽太，池永 直，道田哲彦：甲状腺乳頭癌に対する放射線治療の 45 年後に腕頭動脈に壊死を来し治療に難渋した 1 例．第 84 回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会，広島，2022.7.8
10. 道田哲彦，篠原尚吾，瀧口清海，池永 直，戸部陽太，濱本文美，安本眞美，上田啓史，山元智子：蝶形骨洞原発悪性腫瘍 3 例の検討．第 84 回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会，広島，2022.7.9
11. 上田啓史，中村優仁，山元智子，濱本文美，安本眞美，道田哲彦，瀧口清海，山崎博司，藤原敬三，内藤 泰，篠原尚吾：大量鼻出血を契機に診断した Carotid blowout syndrome に対し複数回の手術加療をした 1 例．第 198 回日耳鼻兵庫県地方部会（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会），神戸，ハイブリッド開催，2022.7.10
12. 篠原尚吾：口腔底癌前方断端再発に対する頭頸部アルミノックス治療（治療予定症例）．兵庫アルミノックスの会，神戸，2022.9.22
13. 篠原尚吾：新型コロナウイルス感染症診療—初期対応・治療・後遺症—（3）後遺症・合併症に対する耳鼻咽喉科医の役割．第 36 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 秋季大会，大阪，ハイブリッド開催，2022.11.5

14. 道田哲彦, 篠原尚吾, 中村優仁, 上田啓史, 濱本文美, 安本眞美, 山崎博司, 瀨口清海, 藤原敬三, 内藤 泰: 当科で手術を行った耳下腺多形腺腫再発例. 第 199 回日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会 兵庫県地方部会学術講演会, 西宮, ハイブリッド開催, 2022.11.27
15. 篠原尚吾: 頭頸部外科 最新のトピックスについて. 第 18 回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.12.1
16. 篠原尚吾, 安本眞美, 道田哲彦, 瀨口清海: 当院における光免疫治療の経験 (準備). 第 41 回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都, 2022.12.3
17. 安本眞美: 当院における光免疫療法の経験 (症例提示). 第 41 回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都, 2022.12.3
18. 篠原尚吾: 英文論文査読者の視点 1. 第 32 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 金沢, 2023.1.19
19. 道田哲彦, 篠原尚吾, 上田啓史, 安本眞美, 濱本文美, 瀨口清海, 大谷宗理, 原 重雄: 耳下腺多形腺腫再発例の検討. 第 32 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 金沢, 2023.1.19
20. 瀨口清海, 篠原尚吾, 道田哲彦, 濱本文美, 安本眞美, 上田啓史, 中村優仁: COVID-19 による頭頸部癌患者の受診動向の変化に関する検討. 第 32 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 金沢, 2023.1.19
21. 安本眞美, 篠原尚吾, 金沢佑治, 瀨口清海, 道田哲彦, 濱本文美, 上田啓史: 頭頸部癌に対する放射線治療後、照射野内に発生した二次癌の検討. 第 32 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 金沢, 2023.1.19
22. 菊地正弘: 鼻副鼻腔・頭蓋底腫瘍に対する内視鏡下経鼻手術～基本手技から頭蓋底手術まで～ (臨床セミナー). 第 24 回神戸耳鼻手術手技研究会, web 開催, 2023.2.8
23. 菊地正弘: 解剖実習についての講義、下垂体・斜台部手術、翼口蓋窩・側頭下窩手術、前頭蓋底手術、上咽頭手術. 第 6 回耳鼻咽喉科臨床解剖実習 (高難度経鼻内視鏡手術), 出雲, 2023.3.4
24. 菊地正弘: 解剖実習. 第 9 回愛媛大学脳外科耳鼻科合同手術手技セミナー, 松山, 2023.3.11
25. 篠原尚吾: 当院における頭頸部アルミノックス治療の経験 (準備と症例). 頭頸部アルミノックス治療講演会, 京都, 2023.3.18
26. 菊地正弘: 実習スペシャリストインストラクター. 京都大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 第 6 回鼻副鼻腔・頭蓋底 CAL 手術手技実習, 京都, 2023.3.18
27. 道田哲彦: 安全、確実な ESS を目指して. ENT Boot Camp in Hyogo, 神戸, ハイブリッド開催, 2023.3.24

VIII. 1. 25 麻酔科

1. 山下 博, 蓮下雄大, 占部大地, 河本 怜, 美馬裕之: デクスメデトミジンの術中先行投与による腹腔鏡下結腸直腸手術の術後鎮痛効果. 日本麻酔科学会第 69 回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.6.16
2. 野住雄策, 東別府直紀, 宮脇郁子, 柚木一馬, 美馬裕之: 心臓大血管手術後症例の嚥下障害は長い入院期間と関連した. 日本麻酔科学会第 69 回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.6.16
3. 東別府直紀, 宮脇郁子, 野住雄策, 柚木一馬, 美馬裕之: 心臓大血管手術後症例の嚥下障害発症は術式と年齢に関連した. 日本麻酔科学会第 69 回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.6.16
4. 宮脇郁子, 美馬裕之: COVID-19 (C-19) 感染下での重症管理部門制限における麻酔回復室 postanesthesia care unit (PACU) の役割. 日本麻酔科学会第 69 回学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.6.16
5. 馬淵彰悟, 松本絢子, 宮脇郁子, 美馬裕之: 肺葉ダブルスリーブ切除術において一過性に肺高血圧が起こりうることを経食道エコーを用いて示した 1 例. 第 68 回日本麻酔科学会関西支部学術集会, WEB 開催, 2022.9.2
6. 松本絢子, 宮脇郁子, 山下 博, 美馬裕之: 気管支喘息合併の再発性多発軟骨炎患者の腹腔鏡下胆嚢摘出術を声門上器具ラリンジアルマスク (LMA) で管理した一例. 第 68 回日本麻酔科学会関西支部学術集会, WEB 開催, 2022.9.2
7. 木村拓哉, 宮脇郁子, 美馬裕之: 頸部迷走神経鞘腫切除術中、腫瘍への直接刺激による咳嗽反射から人工呼吸器での管理が困難であった一症例. 第 68 回日本麻酔科学会関西支部学術集会, WEB 開催, 2022.9.2
8. カイザー柚花, 柚木一馬, 美馬裕之: 脊損妊婦に対する硬膜外無痛分娩の経験. 第 68 回日本麻酔科学会関西支部学術集会, WEB 開催, 2022.9.2
9. 山田勝平, 山崎和夫, 美馬裕之: I 型 von Willebrand 病合併妊娠に対する選択的帝王切開の麻酔経験. 第 68 回日本麻酔科学会関西支部学術集会, WEB 開催, 2022.9.2

10. 磯江康宏, 宮沢嘉英, 砂田大賀, 柚木一馬, 宮脇郁子, 美馬裕之, 心肺停止に至った硬膜外無痛分娩後子宮破裂に対し、蘇生、開腹搬送、Damage Control Surgery (DCS) を行い救命し得た一例. 第 68 回日本麻酔科学会関西支部学術集会, WEB 開催, 2022.9.2
11. 米澤侑汰, 池垣友康, 柚木一馬, 美馬裕之: 硬膜外麻酔後早期発見により良好な経過をたどった硬膜外膿瘍の 1 例. 第 68 回日本麻酔科学会関西支部学術集会, WEB 開催, 2022.9.2
12. 田中崇嗣, 宮脇郁子, 松本絢子, 東別府直紀, 美馬裕之: 多発性硬化症患者の人工膝関節症置換術を全身麻酔と超音波ガイド下神経ブロックで管理した 1 症例. 第 68 回日本麻酔科学会関西支部学術集会, WEB 開催, 2022.9.2
13. 野口義朗, 岡口千夏, 宮脇郁子, 美馬裕之: 腹臥位での椎弓切除術中に洗浄ドレナージ液のポピドンヨードが気管チューブ内へ噴出した一例. 第 68 回日本麻酔科学会関西支部学術集会, WEB 開催, 2022.9.2
14. 野原静華, 宮脇郁子, 美馬裕之: 心房細動に対するカテーテルアブレーション後に胃蠕動遅延を合併した患者の婦人科手術の麻酔経験. 第 68 回日本麻酔科学会関西支部学術集会, WEB 開催, 2022.9.2
15. 柚木一馬, 美馬裕之: 当院におけるレミマゾラムの使用経験. 第 68 回日本麻酔科学会関西支部学術集会, WEB 開催, 2022.9.2
16. 池垣友康, 宮脇郁子, 美馬裕之: 低心機能と慢性偽性腸閉塞性を呈する全身性強皮症患者の足関節抜釘術を脊髄も膜下麻酔で管理した一例. 第 68 回日本麻酔科学会関西支部学術集会, WEB 開催, 2022.9.2
17. 穆 慧麗, 宮脇郁子, 東別府直紀, 美馬裕之: 血液透析カテーテル挿入時、エコーと透視下でガイドワイヤーの位置確認を行ったが心タンポナーデをきたした 1 例. 第 68 回日本麻酔科学会関西支部学術集会, WEB 開催, 2022.9.2
18. 宮沢嘉英, 宮脇郁子, 池垣友康, 美馬裕之: 麻酔導入後に洞停止に至った徐脈頻脈症候群の一例. 日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会, 京都, 2022.9.17
19. 池垣友康, 宮脇郁子, 馬淵彰悟, 宮沢嘉英, 美馬裕之: 経大腿動脈アプローチ経カテーテルの大動脈弁留置術中の脳梗塞に対し V-A ECMO 下に血栓回収を行った一例. 日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会, 京都, 2022.9.17
20. 蓮下雄大, 宮脇郁子, 嶋津義人, 柚木一馬, 美馬裕之: 人工心肺離脱時に気管支攣縮により換気不能となり、その後緊張性気胸を発症した一例. 日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会, 京都, 2022.9.17
21. 野原静華, 宮脇郁子, 馬淵彰悟, 菅野 睦, 美馬裕之: ペースメーカーリード周囲の右房内巨大血栓が疑われ抗凝固療法中に外科的摘出術が行われた悪性腫瘍の一例. 日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会, 京都, 2022.9.17
22. 木村拓哉, 宮脇郁子, 美馬裕之: 大静脈肺静脈短絡 (veno-venous shunt; VVS) による在宅酸素療法中の Fontan 術後成人患者の脊椎手術の麻酔経験, 日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会, 京都, 2022.9.17
23. 柚木一馬, 美馬裕之: 外科的気道確保困難な患者の両側声帯麻痺、窒息に対する緊急気道確保および出血への対応. 日本蘇生学会第 41 回大会, 熊本, 2022.11.4
24. 嶋田博樹, 松岡由典, 宮越千智, 伊藤次郎, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一, 美馬裕之: 維持透析症例における ICU 入室時 SOFA スコアの予後予測能に関する研究. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.3.2
25. 西川貴史, 伊藤次郎, 瀬尾龍太郎, 美馬裕之: 下部消化管穿孔による敗血症性ショックに対するバンコマイシン併用療法の有効性の検討, 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.3.2
26. 伊藤次郎, 大内謙二郎, 瀬尾龍太郎, 浅香葉子, 美馬裕之, 有吉孝一: 重症 COVID-19 症例における ECMO 候補症例の発生頻度: 単施設後方視的観察研究. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.3.2
27. 砂田大賀, 東別府直紀, 美馬裕之: レミマゾラムとデスフルランを麻酔維持で用いた場合の抜管時間の比較—後ろ向き観察研究. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.3.3

VIII. 1. 26 歯科口腔外科

1. 長尾有里香, 梨 正典, 河村隆昇, 松下優希, 尾古怜佳, 甲斐彩華, 前田圭吾, 山本信祐, 谷池直樹, 竹信俊彦: チタン製骨接合材料の長期留置による遅発性感染をきたした 2 例. 第 76 回日本口腔科学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.4.21-5.13
2. 前田圭吾, 梨 正典, 山本信祐, 谷池直樹, 竹信俊彦: mRNA COVID-19 ワクチン接種後に生じた両側口蓋粘膜潰瘍の 1 例. 第 76 回日本口腔科学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.4.21-5.13

3. 竹信俊彦, 谷池直樹, 山本信祐, 前田圭吾: 下顎枝矢状分割術における吸収性骨接合の術後感染ープレート固定と骨間貫通スクリュー固定の比較ー. 第 32 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 新潟, ハイブリッド開催, 2022.6.9-10
4. 前田圭吾, 山本信祐, 谷池直樹, 竹信俊彦: 顎矯正手術後の悪心・嘔吐の予防に対する オンダンセトロンおよびグラニセトロン の有用性の検討. 第 32 回日本顎変形症学会総会・学術大会, 新潟, ハイブリッド開催, 2022.6.9-10
5. 河村隆昇, 谷池直樹, 原 重雄, 松下優希, 尾古怜佳, 甲斐彩華, 前田圭吾, 山本信祐, 竹信俊彦: 上唇に発生した孤立性線維性腫瘍の 1 例. 第 53 回 (公社) 日本口腔外科学会近畿支部学術集会, 第 140 回歯科臨床医リフレッシュセミナー, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.7.2
6. 前田圭吾, 東別府直樹, 伊藤次郎, 小松 寛, 西岡弘晶: COVID-19 による ARDS 患者における嚥下障害の検討. 第 14 回日本臨床栄養代謝学会近畿支部学術集会, WEB 開催, 2022.7.30
7. 堂畑慶之, 安藤久美子, 山本信祐, 原 重雄, 文元方哉, 石川 翔, 吉田篤史, 岡祥次郎, 廣井 崇, 山本有香, 染矢祐子, 光野重芝, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎: ケルビズムの兄弟発症例. 第 58 回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.9.2-4
8. Yamamoto S, Maeda K, Taniike N, Takenobu T: Accuracy of a splint integrated with a reference array and registration fiducial markers for mandibular navigation surgery. 26th Congress of the European Association for Cranio Maxillo Facial Surgery, Madrid, Spain, Hybrid, 2022.9.27-30
9. 山本信祐, 前田圭吾, 谷池直樹, 竹信俊彦: リファレンス・レジストレーションー一体型スプリントを用いた下顎ナビゲーションの精度. 第 67 回公益社団法人 日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, ハイブリッド開催, 2022.11.4-6
10. 前田圭吾, 覺道昌樹, 田中順子, 竹信俊彦, 柏木宏介: COVID-19 と非 COVID-19 による ARDS 患者における嚥下障害の比較検討. 第 67 回公益社団法人 日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, ハイブリッド開催, 2022.11.4-6
11. 河村隆昇, 山本信祐, 長尾有里香, 松下優希, 尾古怜佳, 甲斐彩華, 前田圭吾, 山崎和夫, 竹信俊彦, 谷池直樹: LeFort I 型骨切り術中に気管チューブを損傷した 1 例. 第 34 回 NPO 法人日本口腔科学会近畿地方部会, WEB 開催, 2022.12.10

VIII. 1. 27 病理診断科

1. 山下大祐, 高橋加奈, 山口貴子, 清水祐里, 西野彰悟, 丸岡隼人, 猪熊哲朗, 貝原 聡, 石川隆之, 原 重雄: 小腸 MALT リンパ腫 3 例の臨床病理学的検討. 第 111 回日本病理学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
2. 高橋加奈, 山口貴子, 清水祐里, 西野彰悟, 山下大祐, 荻野敦子, 吉岡信也, 原 重雄: 梅毒未治療妊婦の胎盤の一例. 第 111 回日本病理学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
3. 清水祐里, 高橋加奈, 山口貴子, 西野彰悟, 山下大祐, 比谷里美, 川本未知, 原 重雄: 肉芽腫性血管炎を呈したアミロイドアンギオパチーの 2 例. 第 111 回日本病理学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
4. 山口貴子, 兵頭俊紀, 高橋加奈, 西野彰悟, 清水祐里, 山下大祐, 原 重雄: 微小変化型ネフローゼ症候にみられる IgG dusting の検討. 第 111 回日本病理学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
5. 平社亜沙子, 兵頭俊紀, 佐賀信之, 原 重雄, 伊藤智雄: 軽鎖免疫グロブリン食食組織球の顕著な管内増殖性糸球体腎炎の 1 例. 第 111 回日本病理学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
6. 市川千宙, 山口貴子, 中西亨明, 市川理紗, 原 重雄, 今井幸弘: 繊維状構造物を伴った Fibronectin 腎症の 1 例. 第 111 回日本病理学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
7. 兵頭俊紀, 原 重雄, 後藤俊介, 藤井秀毅, 西 慎一, 野津寛大, 吉川徳茂, 吉本明弘, 伊藤智雄: 尿細管間質性腎炎 55 例の免疫組織化学染色を用いた IgG subclass 検討. 第 111 回日本病理学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
8. 佐賀信之, 兵頭俊紀, 平社亜沙子, 吉本明弘, 西 慎一, 原 重雄, 伊藤智雄: Renal medullary angiitis 4 例の臨床病理学的検討. 第 111 回日本病理学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
9. 龍見重信, 藤井智美, 内山智子, 森田剛平, 伊丹弘恵, 武田麻衣子, 大林千穂: 腭腺癌細胞株を用いた miR-345 とその標的分子の機能解析. 第 111 回日本病理学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16

10. 新田勇治, 武田麻衣子, 伊丹弘恵, 森田剛平, 内山智子, 岡田文美, 寺田智代子, 前防克也, 中峯寛和, 大林千穂: 単一施設におけるホジキンリンパ腫 52 連続症例に関する臨床病理学的検討. 第 111 回日本病理学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
11. 藤井智美, 武田麻衣子, 内山智子, 岡田文美, 新田澄美玲, 杉本勇治, 佐々木翔, 森田剛平, 伊丹弘恵, 大林千穂: FFPE 検体を用いた次世代シーケンス解析による肉腫の融合遺伝子の検出. 第 111 回日本病理学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
12. 内山智子, 武田麻衣子, 藤井智美, 新田勇治, 岡田文美, 杉本澄美玲, 佐々木翔, 森田剛平, 伊丹弘恵, 大林千穂: 自施設における子宮平滑筋肉腫 23 症例の臨床病理学的検討. 第 111 回日本病理学会総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
13. 甲 貴文, 瀬尾龍太郎, 山下大祐, 原 重雄, 富井啓介, 高山昌和, 鉄本啓介, 齊藤正男, 浜川博司, 高橋 豊: 新型コロナウイルス感染下での呼吸器外科診療 重症 COVID-19 症例における圧傷害 (barotrauma) の臨床的意義. 第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.21
14. 甲 貴文, 川端智也, 池田実香, 嶋田有里, 平林亮介, 清水祐里, 原 重雄, 齊藤正男, 浜川博司, 高橋 豊: 肺非結核性抗酸菌症 (Mycobacterium intracellulare) に伴う続発性気胸・胸膜炎・皮下膿瘍の 1 例. 第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.24-6.14
15. 北村博司, 富田茂樹, 白井小百合, 岩崎沙理, 難波倫子, 原 重雄, 日本腎病理協会企画委員会: 病理形態から展望する COVID-19 感染症に関連する腎障害 コロナ関連腎障害の病理像—アンケート調査より. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.6.10
16. 原 重雄: 病理形態から展望する COVID-19 感染症に関連する腎障害 COVID-19 感染症関連腎障害の病理像: overview. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.6.10
17. 原 重雄: IgG4 関連腎臓病の病理組織像. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.6.11
18. 押川大介, 井上聡子, 森久芳樹, 田中晃輔, 竜野稜子, 安藤徳晃, 長尾宗一郎, 唐渡修一郎, 上田智也, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 清水祐里, 山下大祐, 原 重雄: クロウン病に合併した十二指腸副乳頭部神経内分泌腫瘍の一例. 第 108 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.11
19. 成宮利幸, 林 宏樹, 尾形宗士郎, 高橋和男, 小出滋久, 稲熊大城, 長谷川みどり, 湯澤由紀夫, 坪井直毅, 原 重雄: Monoclonal immunoglobulin (MIg) 関連腎臓病の治療介入は十分か? 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 神戸, 2022.6.11
20. 森久芳樹, 井上聡子, 田中晃輔, 山本健太, 安藤徳晃, 長尾宗一郎, 上田智也, 唐渡修一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 原 重雄: 成人発症で特徴的な消化管病変を呈した IgA 血管炎の一例. 第 108 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.11
21. 丹家元祥, 秋山慎介, 和田将弥, 猪熊哲朗, 原 重雄: 当院における腫瘍を伴わない膵管狭窄に対する膵液連続細胞診の成績. 第 108 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.11
22. 岡田 博, 南田貴仁, 栢尾 茂, 伊丹弘恵: 血腫が疑われた心臓原発血管肉腫の一例. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.6.12
23. 堂畑慶之, 安藤久美子, 山本信祐, 原 重雄, 文元方哉, 石川 翔, 吉田篤史, 岡祥次郎, 廣井 崇, 山本有香, 染矢祐子, 光野重芝, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎: ケルビズムの兄弟発症例. 第 58 回日本医学放射線学会秋期臨床大会東京, ハイブリッド開催, 2022.9.2-4
24. 押川大介, 井上聡子, 藤尾行恵, 塚本和之, 曾根明日香, 勝山苑香, 南條俊也, 竜野稜子, 小川健仁, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 山下大祐, 原 重雄, 猪熊哲朗: 成人腸重積 37 例の検討. 第 117 回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.10.8
25. 勝山苑香, 丹家元祥, 藤尾行恵, 押川大介, 塚本和之, 曾根明日香, 南條俊也, 小川健仁, 竜野稜子, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 喜多亮介, 原 重雄: 腹痛を契機に発見され、外科的切除により診断された膵 MiNEN の一例. 第 117 回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.10.8

26. 曾根明日香, 秋山慎介, 押川大介, 藤尾行恵, 勝山苑香, 塚本和之, 小川健仁, 竜野稜子, 南條俊也, 長尾宗一郎, 細谷和也, 丹家元祥, 籾内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 原 重雄: 免疫チェックポイント阻害薬投与中に発症した irAE (immune-related adverse event) 胆管炎の 1 例. 第 117 回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.10.8
27. 野島道生, 川喜田睦司, 峯 佑太, 原 重雄, 山田祐介, 長池紋子, 兼松明弘, 山本新吾: 事例からの教訓～血液型不適合腎移植後における大量出血時の FFP 選択「安全な適合輸血あるいは移植腎保護のため不適合輸血のジレンマ」. 第 58 回日本移植学会総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2022.10.15
28. 丹家元祥, 秋山慎介, 和田将弥, 猪熊哲朗, 原 重雄: 当院の造影結節を有する膵管内乳頭粘液性腫瘍に対する膵液連続細胞診の成績. 第 109 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.5
29. 藤尾行恵, 井上聡子, 押川大介, 塚本和之, 曾根明日香, 勝山苑香, 南條俊也, 小川健仁, 竜野稜子, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 籾内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 西久保雅司, 山口貴子, 原 重雄: 血便を契機に診断し得たメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の 1 例. 第 109 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.5
30. 中山友理香, 尾松雅仁, 井本秀志, 宮川祥治, 玉木明子, 田代章人, 高田明歩, 山下大祐, 伊丹弘恵, 原 重雄: 高度のアミロイド沈着を伴った膵神経内分泌腫瘍の 1 例. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台, ハイブリッド開催, 2022.11.5
31. 玉木明子, 尾松雅仁, 田代章人, 中山友理香, 高田明歩, 井本秀志, 山下大祐, 伊丹弘恵, 原 重雄: 膵 EUS-FNA で経験した肺類基底細胞型扁平上皮癌膵転移の 1 例. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台, ハイブリッド開催, 2022.11.6
32. 高橋加奈, 大谷宗理, 山口貴子, 山下大祐, 伊丹弘恵, 高山昌和, 鉄本啓介, 高橋 豊, 原 重雄: 空胞形成を有し脂腺分化との鑑別が問題となった肺腺癌の一例. 第 68 回日本病理学会秋期特別総会, 盛岡, ハイブリッド開催, 2022.11.17
33. 山口貴子, 大谷宗理, 高橋加奈, 山下大祐, 伊丹弘恵, 服部悠斗, 川喜田睦司, 藤島雄幸, 原 重雄: 低血糖発作がきっかけとなり診断に至った後腹膜脱分化型孤立性線維性腫瘍 (Doeg-Potter 症候群) の一例. 第 68 回日本病理学会秋期特別総会, 盛岡, ハイブリッド開催, 2022.11.17
34. 向江翔太, 河野圭志, 後藤俊介, 藤井秀毅, 兵頭俊紀, 原 重雄, 西 慎一: 糸球体優位に M 蛋白を貪食した組織球を認めたリンパ形質細胞性リンパ腫による crystal-storing histiocytosis の 1 症例. 第 52 回日本腎臓学会西部学術大会, 熊本, 2022.11.18
35. 福田結以, 並木雅嵩, 谷口美咲, 高田 風, 大崎啓介, 田路佳範, 原 重雄, 吉本明弘: COVID-19 ワクチン接種を契機に IgA 腎症が再発した 1 例. 第 52 回日本腎臓学会西部学術大会, 熊本, 2022.11.19
36. 味村泰幸, 岡田志緒子, 小島克仁, 藤川亜里紗, 藤森 明, 原 重雄, 倉賀野隆裕: 急激な経過の TAFRO 症候群に対してステロイドとシクロスポリンの併用で臨床的寛解に至った一例. 第 52 回日本腎臓学会西部学術大会, 熊本, 2022.11.19
37. 中 智孝, 渡邊健太郎, 藤井秀毅, 原 重雄, 西 慎一: 腎膿瘍に血管炎を合併した一例. 第 52 回日本腎臓学会西部学術大会, 熊本, 2022.11.19
38. 岡香奈子, 佐賀信之, 兵頭俊紀, 原 重雄, 大田南欧美, 末光浩太郎, 水井理之, 桑原尚美, 猪阪善隆, 清水 章, 和泉雅章: クリオフィブリノゲン関連腎症の一例. 第 52 回日本腎臓学会西部学術大会, 熊本, 2022.11.19
39. 竹本桃子, 河野圭志, 藤井秀毅, 後藤俊介, 原 重雄, 清水 章, 西 慎一: 質量分析にて Cryofibrinogen 関連糸球体腎炎と診断し自然寛解した 1 例. 第 52 回日本腎臓学会西部学術大会, 熊本, 2022.11.19
40. 赤木瞭太, 山本伸也, 松原 雄, 小西 諒, 前田咲弥子, 田邊 香, 鮫島謙一, 鶴屋和彦, 原 重雄, 辻 隆裕, 柳田素子: 肺癌に対してニボルマブ (NIV) 投与後に膜性腎症 (MN) と診断した 3 症例の検討. 第 52 回日本腎臓学会西部学術大会, 熊本, 2022.11.19
41. 谷 浩樹, 平塩秀磨, 原 重雄: 腎生検を行った, 甲状腺機能低下症に伴う偽性シスタチン C 正常化を呈した一例. 第 52 回日本腎臓学会西部学術大会, 熊本, 2022.11.19
42. 高山昌和, 原 重雄, 永田一真, 石井淳子, 清水祐里, 山根俊之, 田代隼基, 齊藤正男, 甲 貴文, 鉄本啓介, 浜川博司, 高橋 豊: 小細胞癌に抗 NMDA 受容体抗体脳炎を合併し腫瘍切除した一例. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.1

43. 鉄本啓介, 浜川博司, 西野彰悟, 原 重雄, 廣瀬隆則, 高山昌和, 甲 貴文, 齊藤正男, 高橋 豊: 肋骨骨折を契機として急速な増大傾向を示した Chondromyxoid fibroma の 1 例. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.3
44. 龍見重信, 藤井智美, 東 千陽, 鈴木久恵, 竹内真央, 西川 武, 畠山陽子, 武田麻衣子, 伊丹弘恵, 森田剛平, 内山智子, 大林千穂: 細胞診と遺伝子検査 実用化に向けて. 第 47 回日本臨床細胞学会近畿連合会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.12.11
45. 田中晃輔, 細谷和也, 森久芳樹, 竜野稜子, 安藤徳晃, 長尾宗一郎, 唐渡修一郎, 上田智也, 秋山慎介, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 清水祐里, 山下大祐, 原 重雄: 虫垂原発 MALT リンパ腫の一例. 第 118 回日本消化器病学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.1.21
46. 上田智也, 和田将弥, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 山下大祐, 原 重雄: 急性胆管炎を契機に診断に至った膵 Leiomyoma の一例. 第 118 回日本消化器病学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.1.21
47. 長尾宗一郎, 丹家元祥, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 上田智也, 唐渡修一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 清水祐里, 山下大祐, 原 重雄, 猪熊哲朗: 内視鏡的に治療し得た gangliocytic paraganglioma の一例. 第 118 回日本消化器病学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.1.21
48. 唐渡修一郎, 鄭 浩柄, 森久芳樹, 田中晃輔, 安藤徳晃, 長尾宗一郎, 上田智也, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 猪熊哲朗, 原 重雄, 山下大祐: 直接作用型抗ウイルス薬による C 型慢性肝炎治療後に自己免疫性肝炎および原発性硬化性胆管炎を発症した 1 例. 第 118 回日本消化器病学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.1.21
49. 高折克至, 井上聡子, 田中晃輔, 森久芳樹, 安藤徳晃, 竜野稜子, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 秋山慎介, 細谷和也, 丹家元祥, 藪内洋平, 和田将弥, 森田周子, 鄭 浩柄, 有菌茂樹, 山下大祐, 原 重雄, 猪熊哲朗: 特異な形態を示し術前診断が困難であった小腸 GIST の一例. 第 118 回日本消化器病学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.1.21

VIII. 1. 28 放射線診断科

1. 安藤久美子: 小児頭部の救急疾患の画像診断: 感染症と急性脳症を中心に. 第 81 回日本医学放射線学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.14
2. Someya Y, Iima M, Imai H, Nobashi T, Yoshizawa A, Kataoka M, Isoda H, Denis Le Bihan, Nakamoto Y: Time-dependent IVIM and non-Gaussian diffusion parameters in breast cancer and melanoma xenograft models; correlation with histological markers. the Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB & ISMRT 31st Annual Meeting, London, England, UK, Hybrid, 2022.5.7-12
3. Ando S, Ishikura R: Primary cilia and ciliopathy. SNR XXII and ASNR22, NY, USA, Hybrid, 2022.5.14-18
4. 光野重芝: 当直・救急時に役立つ画像診断 - 腹部編 -. 第 15 回臨床学術講演会, オンライン開催, 2022.5.27
5. 堂畑慶之, 安藤久美子, 吉田篤史, 岡祥次郎, 山本有香, 光野重芝, 有菌茂樹, 石蔵礼一, 小林由典: 急性散在性脳脊髄炎後に視神経炎を来した抗抗 MOG 抗体関連脳炎. 第 58 回日本小児放射線学会学術集会, 浦安, 2022.6.3
6. 吉田篤史, 光野重芝, 有菌茂樹, 石川 翔, 岡祥次郎, 藤本順平, 山本有香, 尾上宏治, 渡部正雄, 菅 剛, 金尾昌太郎, 安藤久美子, 山根登茂彦, 石蔵礼一: 術前診断に苦慮した膵 mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm の 1 例. 第 35 回日本腹部放射線学会, 高知, ハイブリッド開催, 2022.6.23-7.25
7. 石川 翔, 有菌茂樹, 吉田篤史, 岡祥次郎, 藤本順平, 山本有香, 光野重芝, 尾上宏治, 渡部正雄, 阪口玲奈, 菅 剛, 金尾昌太郎, 安藤久美子, 山根登茂彦, 阿部陽平, 堤 尚史, 山口貴子, 西野彰悟, 原 重雄, 石蔵礼一: CT で病変を指摘可能であった腎盂アミロイドーシスの 2 例. 第 35 回日本腹部放射線学会, 高知, ハイブリッド開催, 2022.6.23-7.25
8. 岡祥次郎, 光野重芝, 有菌茂樹, 石川 翔, 吉田篤史, 藤本順平, 山本有香, 尾上宏治, 渡部正雄, 菅 剛, 金尾昌太郎, 安藤久美子, 石蔵礼一, 萩本裕樹, 山下大祐, 原 重雄: 術前診断に苦慮した特発性肉芽腫性精巣炎の一例. 第 35 回日本腹部放射線学会, 高知, ハイブリッド開催, 2022.6.23-7.25

9. 光野重芝, 有菌茂樹, 石川 翔, 吉田篤史, 岡祥次郎, 藤本順平, 山本有香, 尾上宏治, 渡部正雄, 阪口怜奈, 菅 剛, 金尾昌太郎, 安藤久美子, 山根登茂彦, 北村好史, 高橋加奈, 原 重雄, 石藏礼一: 網膜内穿破を伴った腓 Intraductal oncocytic papillary neoplasm (IOPN) の1例. 第35回日本腹部放射線学会, 高知, ハイブリッド開催, 2022.6.25
10. 染矢祐子, : 肺動脈性肺高血圧症に対するプロスタサイクリン持続静注療法中に出現した腓腫大の1例. 第35回日本腹部放射線学会, 高知, ハイブリッド開催, 2022.6.25
11. 岡祥次郎, 光野重芝, 堂畑慶之, 文元方哉, 石川 翔, 吉田篤史, 廣井 崇, 山本有香, 染矢祐子, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎, 石藏礼一, 松田正太郎, 大嶋野歩, 小林裕之, 安藤久美子: PTP 誤飲による食道穿孔術後に生じた食道気管支瘻に対し繰り返し塞栓を行い瘻孔閉鎖てきた1例. 第7回日本穿刺ドレナージ研究会, 大阪, 2022.7.16
12. 森田 蓮, 安藤沙耶, 藤田大輔, 石川 翔, 尾上宏治, 安藤久美子, 石藏礼一, 小橋昌司: 深層学習を用いた小児脳 CT 画像からの脳年齢自動推定と Grad-Cam による注目箇所の可視化. 第41回日本医用画像工学会大会, 名古屋, 2022.7.31
13. 金尾昌太郎: 鑑別にとっても役立つ! 特徴的な MRI 信号を呈する疾患【乳腺疾患】. ゲルベジャパン web セミナー, Web 開催, 2022.8.4
14. 有菌茂樹: 鑑別にとっても役立つ! 特徴的な MRI 信号を呈する疾患【腓疾患】. ゲルベジャパン web セミナー, Web 開催, 2022.8.4
15. 文元方哉, 岡祥次郎, 光野重芝, 堂畑慶之, 石川 翔, 吉田篤史, 廣井 崇, 山本有香, 染矢祐子, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎, 安藤久美子, 石藏礼一: 副腎梗塞を契機に発見された本態性血小板増加症の一例. 第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 東京ハイブリッド開催, 2022.9.2-10.31
16. 堂畑慶之, 安藤久美子, 文元方哉, 石川 翔, 吉田篤史, 岡祥次郎, 廣井 崇, 山本有香, 染矢祐子, 光野重芝, 有菌茂樹, 菅 剛, 金尾昌太郎, 山根登茂彦, 石藏礼一, 山本信祐, 原 重雄: ケルビズムの兄弟発症例. 第35回頭頸部放射線研究会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.9.3
17. 安藤久美子: セッションを良く司る座長について考える: のど自慢との比較. JSMRM2022, 第50回日本磁気共鳴学医学会大会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2022.9.9
18. Someya Y, Iima M, Takishima H, Imai H, Nobashi T, Denis Le Bihan, Nakamoto Y: Usefulness of ADC change rate that can reflect N/C ratio of tumor cells. JSMRM2022, 第50回日本磁気共鳴学医学会大会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2022.9.9
19. 安藤久美子: 脳多発進行性病変とその経過. 第22回 MR retroscopy 研究会, WEB 開催, 2022.9.15
20. 岡祥次郎: 瘤内から6本の分枝がみられた右内腸骨動脈瘤の一例. Ruby coil users meeting in september, WEB 開催, 2022.9.15
21. 森田 蓮, 安藤沙耶, 藤田大輔, 石川 翔, 安藤久美子, 石藏礼一, 小橋昌司: 小児脳 CT 画像を用いた脳年齢推定およびモデルの局所的説明性評価. 第45回多値論理フォーラム(会津若松)講演プログラム, 会津若松, 2022.9.18
22. 岡祥次郎: 離脱式コイルの意図的早期離脱の有用性. peripheral web 症例検討会 in 西日本, WEB 開催, 2022.9.22
23. 岡祥次郎: 神戸中央市民流 Cstopper の使い方. 第35回中国四国 IVR 研究会, WEB 開催, 2022.9.30-10.1
24. Morita R, Ando S, Fujita D, Ishikawa S, Onoue K, Ando K, Ishikura R, Kobashi S: Pediatric Brain CT Image Segmentation Methods Effective Age Prediction Models. 2022 World Automation Congress (WAC), San Antonio, USA, Hybrid, 2022.10.11-15
25. Morita R, Ando S, Fujita D, Ishikawa S, Onoue K, Ando K, Ishikura R, Kobashi S: Quantification of Pediatric Brain Development with X-ray CT Images using 3D-CNN. 2022 Joint 12th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 23rd International Symposium on Advanced Intelligent Systems (SCIS&ISIS), Ise-Shima, Hybrid, 2022.11.29-12.2
26. Oka S: A case of percutaneous broken needle removal using endoscopic forceps. the Interventional Radiology Case Conference 2022 (IRCC 2022). Seoul, Korea, 2022.12.
27. 文元方哉, 安藤久美子, 廣井 崇, 堂畑慶之, 石藏礼一, 岩崎朗奈, 福井伸行, 重安将志, 坂井信幸, 太田剛史, 原 重雄: 硬膜外発生の chronic encapsulated expanding hematoma の一例. 第52回日本神経放射線学会, 東京, ハイブリッド開催, 2023.2.17

VIII. 1. 29 放射線治療科

1. 田邊裕朗, 山下智之, 伊藤 望, 山下幹子, 鈴木順一, 奥内 昇, 小久保雅樹: 新しい皮膚マーク保護シールの物理特性の検証. 第 78 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2022.4.14
2. 田邊裕朗, 小山寛之, 馬場健司, 白井優子, 小川敦久, 合田靖司, 今輩倍敏行: 新しい皮膚マーク保護シールの初期経験. 第 78 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2022.4.14
3. 岸 徳子, 松尾幸憲, 新谷 堯, 小倉昌和, 光吉隆真, 荒木則雄, 藤井康太, 奥村節子, 中松清志, 溝脇尚志: 非小細胞肺癌に対し化学放射線療法後 Durvalumab を施行した患者における無増悪生存期間と再発形式. 第 81 回日本医学放射線学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.17
4. Kishi N, Matsuo YS, Shintani T, Ogura M, Mitsuyoshi T, Araki N, Fujii K, Okumura S, Nakamatsu K, Kishi T, Atsuta T, Sakamoto T, Otsu S, Katagiri T, Narabayashi M, Fujishiro S, Iizuka Y, Ozasa H, Mizowaki T: PFS and recurrence patterns after CCRT with durvalumab for stage III and recurrent NSCLC. 40th European Society of Radiation Oncology, Copenhagen, Denmark, Hybrid, 2022.5.6
5. Mamesaya N, Harada H, Hata A, Konno M, Nakamatsu K, Hayashi H, Yamamoto T, Saito R, Mayahara H, Kokubo M, Sato Y, Yoshimura K, Nishimura Y, Yamamoto N, Nakagawa K: Intensity-modulated radiotherapy (IMRT)-adapted chemoradiotherapy (CRT) followed by durvalumab for locally advanced non-small cell lung cancer (NSCLC): a multicenter prospective observational study (WJOG12019L). ESMO2022, Paris, France, Hybrid, 2022.9.9
6. 光吉隆真, 芦田 良, 小野幸果, 今輩倍敏行, 吉村通央, 山内智香子, 溝脇尚志, 小久保雅樹: 乳房温存療法における超寡分割照射法の多機関共同非ランダム化検証的試験: 第 II 相試験. 第 60 回日本癌治療学会学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.10.22
7. 芦田 良, 小川翔士, 徳田和樹, 小久保結未, 岡林 俊, 岩井貴寛, 光吉隆真, 今輩倍敏行, 小久保雅樹: 治療計画装置内スクリプト機能を用いた計画確認作業の省力化の試み. 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会, 広島, 2022.11.10
8. 坂中克行, 藤井康太, 小久保雅樹, 小倉昌和, 板坂 聡, 坂本隆吏, 荒木則雄, 高木雄久, 小坂恭弘, 奥村節子, 山内智香子, 稲生浩之, 阿部寛康, 石川秀樹, 溝脇尚志: 根治不能な食道癌に対する緩和と外部照射の症状緩和と効果を探索する前向き観察研究. 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会, 広島, 2022.11.10
9. 中松清志, 林 秀敏, 原田英幸, 秦 明登, 金野正裕, 豆鞘伸昭, 山本貴也, 斎藤良太, 馬屋原博, 小久保雅樹, 佐藤悠城, 吉村健一, 西村恭昌, 山本信之, 中川和彦: 局所進行非小細胞肺癌に対する IMRT を用いた CRT 後の Durvalumab 投与: WJOG12019L. 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会, 広島, 2022.11.11
10. 江本裕樹, 辻野佳世子, 立原素子, 小久保雅樹, 石原武明, 津藤真司, 池田裕子, 淡河恵津世, 國武直信, 古平 毅, 塩山善之, 中村聡明, 中松清志, 阿南慎平, 三輪弥沙子, 西村恭昌: III 期非小細胞肺癌臨床試験 (WJOG11619L) における放射線治療の品質保証評価. 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会, 広島, 2022.11.11
11. 山下幹子, 田邊裕朗, 末岡正輝, 小久保雅樹, 木村祐利, 橋本健二, 角谷倫之: 深層学習ベース線量分布検証結果予測ソフトウェアの精度評価. 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会, 広島, 2022.11.11
12. 飯塚裕介, 平岡眞寛, 小久保雅樹, 坂本隆吏, 唐澤克之, 室伏景子, 中村光宏, 松尾幸憲, 森田智視, 井口治男, 溝脇尚志: 肝腫瘍に対する動体追尾定位放射線治療の多施設共同第二相試験. 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会, 広島, 2022.11.12
13. 田邊裕朗, 山下幹子, 末岡正輝, 小山寛之, 馬場健司, 白井優子, 里田晃大, 小川敦久, 鈴木順一, 福井達也, 小久保雅樹: Experience of Installed Linear Accelerator using Golden Beam Data. 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会, 広島, 2022.11.12
14. 木藤哲史, 椋本宜学, 中村光宏, 田邊裕朗, 唐澤克之, 小久保雅樹, 坂本隆吏, 飯塚裕介, 吉村通央, 松尾幸憲, 平岡眞寛, 溝脇尚志: 標的の呼吸性移動を補償するための非対称な幾何学的マージンの算定. 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会, 広島, 2022.11.12
15. 齋藤良太, 原田英幸, 秦 明登, 金野正裕, 豆鞘伸昭, 中松清志, 林 秀敏, 山本貴也, 馬屋原博, 小久保雅樹, 佐藤悠城, 吉村健一, 西村恭昌, 山本信之, 中川和彦: 局所進行非小細胞肺癌に対する IMRT を用いた CRT 後の Durvalumab 投与: WJOG12019L. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.1
16. 林 秀敏, 立原素子, 辻野佳世子, 小久保雅樹, 倉田宝保, 菅原俊一, 白石祥理, 東 公一, 駄賀晴子, 山口正史, 古平 毅, 下川元嗣, 山本信之, 中川和彦: 局所進行非小細胞肺癌に対するデュルバルマブ、放射線併用療法の多施設共同第 II 相試験 -WJOG11619L, DOLPHIN. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.1

17. 岩井貴寛, 今輩倍敏行, 平岡伸也, 岸 高宏, 岡林 俊, 芦田 良, 光吉隆真, 松尾幸憲, 石垣 孝, 溝脇尚志, 小久保雅樹:多施設における頭部血管肉腫に対する IMRT の治療成績. 第 54 回京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2023.2.11
18. 小川翔士, 今輩倍敏行, 芦田 良, 光吉隆真, 小久保結未, 徳田和樹, 山下幹子, 田邊裕朗, 中岡ミチル, 小久保雅樹:当院における COVID-19 の放射線治療への影響. 第 54 回京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2023.2.11
19. 小山寛之, 小川敦久, 末岡正輝, 田邊裕朗, 山下幹子, 白井優子, 馬場健司, 中屋 純, 鈴木順一, 野崎隆太, 福井達也, 小久保雅樹:2D-kV image における胸部撮影条件の最適化と被ばく線量評価. 令和 4 年度近畿地域診療放射線技師会学術大会, 大津, ハイブリッド開催, 2023.2.12
20. 末岡正輝, 小山寛之, 田邊裕朗, 山下幹子, 野崎隆太, 鈴木順一, 小川敦久, 馬場健司, 白井優子, 中屋 純, 福井達也, 小久保雅樹:患者固定用シエルの収縮の評価. 神戸市技師会研究発表会 2023, Virtual, 2023.2.24

VIII. 1. 30 救急科

1. 田中淳仁, 許 智栄, 松岡由典, 有吉孝一: Pre-morbid Frailty and Withdrawal of Treatment within 24 hours in Critically-ill Older Adults Triaged to a Tertiary-care Emergency Department. 2022 American Geriatric Society Annual Scientific Meeting, Orland, USA, Hybrid, 2022.5.13
2. 有吉孝一: 座長 ミニオーラル 2 (M2) 「CPA・CPR ②」. 第 25 回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.5.26
3. 水 大介, 松岡由典, 有吉孝一: 重度意識患者の診断と特徴. 第 25 回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.5.26
4. 有吉孝一, 許 智栄, 柳井真知: 漂えど沈まず. 第 124 回近畿救急医学研究会 合同シンポジウム 救急医療のサステナビリティ, 大阪, 2022.7.9
5. 有吉孝一: 座長 教育講演 1 わが国における薬物乱用・依存の最近の動向. 第 44 回日本中毒学会総会・学術集会, WEB 開催, 2022.7.15
6. 田中達也, 佐々木朗, 落合秀信, 有吉孝一: 宮崎県の救急医の次なる step up - ER 診療-. 第 56 回宮崎救急医学会, 宮崎, 2022.8.13
7. 有吉孝一: IV 特別講演 2 つの医療の物語 A Tale of Two Medical Cares. 第 56 回宮崎救急医学会, 宮崎, 2022.8.13
8. 柳原喜美子, 白川和宏, 寺本昇生, 有吉孝一: 溺水により院外心肺停止に至った症例の検討. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
9. 樟 佑樹, 水 大介, 白川和弘, 有吉孝一: S 状結腸捻転の臨床的検討. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
10. 白川和宏, 松岡由典, 高橋 諒, 井上明彦, 有吉孝一: 体外循環式心肺蘇生法 (ECPR) を導入した院外心停止患者 (OHCA) における, 発生場所別に見た予後の比較. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
11. 渡部博明, 白川和宏, 大橋孝太郎, 松岡由典, 有吉孝一: Push Dose Pressors としてのノルエピネフリンの有効性の検討. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
12. 西田晴香, 松岡由典, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: 破傷風の集中治療管理. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
13. 出田健人, 松岡由典, 有吉孝一: 救急診療における Helicobacter cinaedi 感染症の臨床的特徴と治療戦略: 記述的研究. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
14. 出田健人, 松岡由典, 有吉孝一: COVID-19 時代における脳梗塞に対する血管内治療: 前後比較研究. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
15. 栗林真悠, 松岡由典, 有吉孝一: 救急外来における低体温症と甲状腺機能低下症の検討. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
16. 遠藤啓孝, 松岡由典, 井原勇人, 出田健人, 有吉孝一: 救急外来を受診した昏睡症例に対する神経診察: 記述研究. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
17. 坂谷朋子, 松岡由典, 有吉孝一: 救急外来における CT 検査と偶発腫瘍の見逃し: 記述研究. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30

18. 河合嘉一, 許 智栄, 有吉孝一: すべての人に緩和ケアをー ER Rapid Palliative Care Approach ー. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
19. 有吉孝一: 俺たちはまだ本気出してないだけ〜救急専攻医三十年史〜. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
20. 大内謙二郎, 瀬尾龍太郎, 伊藤次郎: 将来にわたって必要とされる人材を育成する. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
21. 高橋毅史, 三好祐輔, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: 救急医の活躍の場を広げるための取り組み. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
22. 有吉孝一, 倉井大輔: 座長 専門医 救急領域講習 2 有事に役立つ平時の感染対策. 第 50 回日本救急医学会・学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.19-11.30
23. 有吉孝一: Meet the Experts! 神戸医療産業都市で働く”達人”のリアル〜医療分野のさまざまな職種を知る〜. 神戸医療産業都市一般公開 2022 セミナー, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.10.29
24. 大野美香, 瀬尾龍太郎: パネルディスカッション 5 聞かせてください、あなたの気持ち 寄り添います、その気持ち. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2023.3.2
25. 西川貴史, 伊藤次郎, 瀬尾龍太郎, 美馬裕之: 下部消化管穿孔による敗血症性ショックに対するバンコマイシン併用療法の有効性の検討. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2023.3.2
26. 伊藤次郎, 大内謙二郎, 瀬尾龍太郎, 浅香葉子, 美馬裕之, 有吉孝一: 重症 COVID-19 における ECMO 候補症例の発生頻度: 単施設後方視的観察研究. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2023.3.2
27. 嶋田博樹, 松岡由典, 宮越千智, 伊藤次郎, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一, 美馬裕之: 維持透析症例における ICU 入室時 SOFA スコアの予後予測脳に関する研究. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2023.3.2
28. 河合嘉一, 松岡由典, 池田 廉, 出田健人, 浅香葉子, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: スズメバチ刺傷による多臓器不全に対して早期血漿交換を行なった一例. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2023.3.3
29. 土田高裕, 伊藤次郎, 白川和宏: 大動脈内バルーンパンピングを使用している患者における至適血圧の検討: 単施設後ろ向き観察研究. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2023.3.3
30. 瀬尾龍太郎: 教育講演 13 人工呼吸管理の基本と最新知見〜おいでやす白熱集中治療教室〜. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.3.3
31. 井原勇人, 松岡由典, 中田達也, 有吉孝一: 一般演題口演 14 局地災害 局地災害にいかにか立ち向かうか〜神戸市内で発生した海上事故に学ぶ〜. 第 28 回日本災害医学会総会・学術集会, 盛岡, 2023.3.9
32. 有吉孝一, 中田正明: 座長 ポスター 2 原子力災害・国際支援・多機関連携. 第 28 回日本災害医学会総会・学術集会, 盛岡, 2023.3.10
33. 有吉孝一, 松岡由典, 寺本昇生, 栗林真悠: 主題関連 10 新型コロナウイルス またの名をウーバーワクチン. 第 28 回日本災害医学会総会・学術集会, 盛岡, 2023.3.10
34. 寺本昇生, 渡部博明, 大橋孝太郎, 有吉孝一, 荒木邦公, 山根光量: 一般演題口演 35 マスギャザリング コロナ VS マラソン. 第 28 回日本災害医学会総会・学術集会, 盛岡, 2023.3.10

VIII. 1. 31 感染症科

1. 黒田浩一: 微生物学総論と最近の話題(新型コロナウイルス感染症). 神戸市看護大学「微生物学」, WEB 開催, 2022.4.11
2. 黒田浩一: COVID-19 治療アップデート「薬物治療の考え方 13.1」を中心に. ケアネットライブ, WEB 開催, 2022.4.13
3. 黒田浩一: 細菌学総論と検体採取方法(痰, 尿, 血液培養). 神戸市看護大学「微生物学」, WEB 開催, 2022.4.18
4. 黒田浩一: 研修医が押さえるべき COVID-19 の診断と治療. 民間医局コネクトセミナー, WEB 開催, 2022.4.20
5. 黒田浩一: 理学療法士に必要な感染対策の基礎知識. 第 1 回感染予防対策研修会(兵庫県理学療法士会), WEB 開催, 2022.4.26
6. 梅本大地, 住友秀次, 岡 秀樹, 志水隼人, 金森真紀, 西岡弘晶, 大村浩一郎: 抗 MDA-5 抗体価異常高値, フェリチンほぼ正常の皮膚筋炎 4 症例の臨床経過. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.26

7. 志水隼人, 岡 秀樹, 住友秀次, 金森真紀, 西岡弘晶, 大村浩一郎: 増殖性ルーブス腎炎患者におけるステロイド早期減量と臨床的アウトカムについての検討. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.27
8. 西岡弘晶: シンポジウム 2 「臨床現場での研修医の働き方改革」. 第 38 回臨床研修研究会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.30
9. 黒田浩一: COVID-19 の感染管理と基本的診療について. EICU/GICU 新人看護師対象講義, 神戸, 2022.5.18
10. 黒田浩一: 肺炎診療入門. 第 39 回藤田プライマリケアスキルズ Web 開催, WEB 開催, 2022.5.21
11. 黒田浩一: ウイルス学各論: RNA ウイルス総論, インフルエンザ. 神戸市看護大学「微生物学」, WEB 開催, 2022.5.30
12. 東別府直紀, 西岡弘晶: Critical Care Nutrition 個別化の時代. 第 37 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 (JSPEN2022), 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.31
13. 伊藤次郎, 土肥麻貴子, 楠田かおり, 藤田和美, 茨木まどか, 室井延之, 西岡弘晶, 東別府直紀: 電子カルテの院内開発システムを利用した TPN サーベイランス体制の導入. 第 37 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 (JSPEN2022), 横浜, ハイブリッド開催, 2022.6.1
14. Shimizu H, Oka H, Sumitomo S, Kanamori M, Miyakoshi C, Yoshimoto A, Nishioka H, Ohmura K: Comparative effectiveness of rapid and conventional glucocorticoid tapering regimens in treating patients with proliferative lupus nephritis in the real world setting. EULAR 2022 European Congress of Rheumatology, Copenhagen, Denmark, Hybrid, 2022.6.1-4
15. 黒田浩一: COVID-19 の治療 アップデート. COVID-19 Web Seminar in Hyogo, WEB 開催, 2022.6.9
16. 黒田浩一: ウイルス学各論: 麻疹, 風疹, 渡航感染症 (HAV, 狂犬病, 日本脳炎, デングなど). 神戸市看護大学「微生物学」, WEB 開催, 2022.6.13
17. 岡 秀樹, 住友秀次, 志水隼人, 金森真紀, 原 重雄, 西岡弘晶, 大村浩一郎: 治療抵抗性成人発症 IgA 血管炎の腹部症状に血漿交換が有用であった 1 例. 第 54 回神戸免疫・膠原病懇話会, 神戸, WEB 開催, 2022.6.18
18. 南井崇宏, 志水隼人, 入江 慶, 西岡弘晶: 血中と髄液中のセフトリアキソン濃度高値との関連を確認できた血液透析患者のセフトリアキソン関連脳症の 1 例. 第 236 回日本内科学会近畿地方会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.6.25
19. 黒田浩一: 感染対策 (総論と各論), 院内感染, 針刺し対応, ICN の役割. 神戸市看護大学「微生物学」, WEB 開催, 2022.7.4
20. 黒田浩一: ワクチン接種 (小児, 渡航前, 成人). 神戸市看護大学「微生物学」, WEB 開催, 2022.7.11
21. 黒田浩一: オミクロン時代の感染対策. リハビリテーション技術部対象講義, 神戸, 2022.7.14
22. 黒田浩一: 微生物学講義の復習. 神戸市看護大学「微生物学」, WEB 開催, 2022.7.25
23. 黒田浩一: 最近の COVID-19 についてのトピックス 第 7 波・BA5・ワクチン 4 回目・治療. 新型インフルエンザ等対策病院連絡会, 神戸, 2022.7.28
24. 土井朝子: 神戸中央病院「SARS-CoV-2 に対する感染対策」講演会, 神戸, 2022.7.28
25. 黒田浩一: 医療従事者の感染対策 / COVID-19 の治療. 救急オープンセミナー, 神戸, 2022.8.31
26. 岡 秀樹, 住友秀次, 志水隼人, 金森真紀, 西岡弘晶, 大村浩一郎: 全身性エリテマトーデスの DORIS 寛解, LLDAS の達成・非達成因子の検討. 第 31 回日本リウマチ学会近畿支部学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.9.4
27. 井尻健太, 前川和輝, 志水隼人, 山下大祐, 西岡弘晶: 播種性 M. avium 感染症の治療中にリンパ節増大を認め, リンパ節生検が治療方針の決定に有用だった 1 例. 第 237 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.9.10
28. 黒田浩一: グラム染色と血液培養. 救急オープンセミナー, 神戸, 2022.9.28
29. 黒田浩一: 新型コロナウイルス感染症の現在—いま分かっているウイルスの特徴と治療法—. 北摂丹波支部会第 34 回総会記念講演, 三田, 2022.10.1
30. 黒田浩一: コロナ時代の感染対策. 兵庫県リハビリ技師会, 神戸, 2022.10.8
31. 黒田浩一: インフルエンザ. 救急オープンセミナー, 神戸, 2022.10.12
32. 土井朝子: 神戸市医師会「外来感染対策向加算講習会」, 神戸, 2022.10.22

33. 岡 秀樹, 住友秀次, 志水隼人, 金森真紀, 原 重雄, 西岡弘晶, 大村浩一郎: 手指黒色壊死で発症し、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症との鑑別に難渋した特発性好酸球増多症候群の1例. 第37回日本臨床リウマチ学会, 札幌, 2022.10.29
34. 黒田浩一: 新型コロナワクチン UpDate ワクチンの有効性と安全性 オミクロン対応ワクチンについて. 兵庫県保険医協会 加古川・高砂支部総会 記念講演, 加古川, 2022.10.29
35. 前川和輝, 西岡弘晶: COVID-19 の経過中に耳下腺炎と舌下腺炎を発症した1例. 第92回日本感染症学会 西日本地方会学術集会, 第65回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 第70回日本化学療法学会西日本支部総会, 長崎, 2022.11.3
36. 黒田浩一: シンポジウム1 新型コロナウイルス感染症診療—初期対応・治療・後遺症— 第一種感染症指定医療機関における感染対策と最新治療 —感染症科医の立場から—. 第36回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.5
37. 黒田浩一: リハビリに必要な感染症の知識と対策 — COVID-19 以外—. 兵庫県理学療法士会 感染対策エキスパート育成研修会, WEB 開催, 2022.11.8
38. 住友秀次, 岡 秀樹, 志水隼人, 岩崎 毅, 金森真紀, 西岡弘晶, 大村浩一郎: 全身性エリテマトーデス患者末梢血サンプルの解析. 第9回JCR ベーシックリサーチカンファレンス, 熊本, 2022.11.18
39. 阪野文哉, 川畑拓也, 渡邊 大, 塩野徳史, 西田明子, 朝来駿一, 澤田暁宏, 西岡弘晶, 荒川創一, 大森亮介, 駒野 淳, 森 治代, 本村和嗣: MSM 向け HIV・性感染症検査キャンペーン (2021 年度実績報告), 第36回日本エイズ学会学術集会・総会, 浜松, 2022.11.18
40. 黒田浩一: 入院が必要な軽症 COVID-19 の治療—治療適応の考え方と抗ウイルス薬の使い分け—. 新型コロナウイルス感染症 WEB セミナー, WEB 開催, 2022.11.24
41. 黒田浩一: COVID-19 基本事項と最近の話題. 1 西 B 病棟看護師対象勉強会, WEB 開催, 2022.12.8
42. 春名孝太郎, 城田祥吾, 西岡弘晶: COVID-19 ワクチン接種後に発症し肩痛を認めなかったリウマチ性多発筋痛症 (PMR) の1例. 第238回日本内科学会近畿地方会, WEB 開催, 2022.12.10
43. 黒田浩一: 神戸市産婦人科医会・神戸市医師会共催「新型コロナウイルス感染症診療指針に係る研修会」, WEB 開催, 2022.12.22
44. 黒田浩一: 令和4年度愛知県病院薬剤師会 感染制御部会「症例検討・感染症セミナー」特別講演, WEB 開催, 2023.1.21
45. 黒田浩一: 新型コロナウイルスの最新情報. 第46回神戸広域脳卒中地域連携協議会, WEB 開催, 2023.2.3
46. 黒田浩一: 感染症基幹施設における細菌検査結果の活かし方. 第34回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.4
47. 黒田浩一: 5類感染症となる COVID-19 への対応—5類への対応・院内感染対策・早期治療の重要性—. 令和4年度第6回神戸市新型インフルエンザ等対策病院連絡会, 神戸, 2023.2.9
48. 坂田尚弥, 金森真紀, 岩下晶穂, 山本 大, 城田祥吾, 西岡弘晶: 川崎病様症状を認めた *Yersinia pseudotuberculosis* 感染症の1例. 第239回日本内科学会近畿地方会大阪, ハイブリッド開催, 2023.3.4
49. 藤井真理, 前川和輝, 藤田将平, 志水隼人, 西岡弘晶: 腰痛が主症状であった顆粒球コロニー刺激因子 (G-CSF) 製剤関連大動脈炎の1例. 第239回日本内科学会近畿地方会, 大阪, ハイブリッド開催, 2023.3.4
50. 山本 大, 平本展大, 黒田浩一: 同種造血幹細胞移植後に発症した脳膿瘍を伴う播種性ノカルジア症の1例. 第239回日本内科学会近畿地方会, 大阪, ハイブリッド開催, 2023.3.4
51. 黒田浩一: COVID-19 5類移行に備える. ケアネットライブ「COVID-19 5類移行に備える」, WEB 開催, 2023.3.20
52. 黒田浩一: 新型コロナ5類感染症になってどう変わる? FitNs. 「感染チャンネル」動画講義, WEB 開催, 2023.3.22

VIII. 1. 32 総合内科

1. 黒田浩一: 微生物学総論と最近の話題 (新型コロナウイルス感染症). 神戸市看護大学「微生物学」, WEB 開催, 2022.4.11
2. 黒田浩一: COVID-19 治療アップデート「薬物治療の考え方 13.1」を中心に. ケアネットライブ, WEB 開催, 2022.4.13

3. 山田智彦, 南井崇宏, 長陽二郎, 藤田将平, 住友秀次, 金森真紀, 大村浩一郎: シクロフォスファミド間欠静注療法中にウイルス性の出血膀胱炎を来した抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎の一例. 第119回日本内科学総会・講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.16
4. 黒田浩一: 細菌学総論と検体採取方法(痰, 尿, 血液培養). 神戸市看護大学「微生物学」, WEB開催, 2022.4.18
5. 黒田浩一: 研修医が押さえるべきCOVID-19の診断と治療. 民間医局コネクトセミナー, WEB開催, 2022.4.20
6. 山本 大: 細菌学各論: GPCとGNR, リケッチア, クラミジア, マイコプラズマ. 神戸市看護大学「微生物学」, WEB開催, 2022.4.25
7. 黒田浩一: 理学療法士に必要な感染対策の基礎知識. 第1回感染予防対策研修会(兵庫県理学療法士会), WEB開催, 2022.4.26
8. 梅本大地, 住友秀次, 岡 秀樹, 志水隼人, 金森真紀, 西岡弘晶, 大村浩一郎: 抗MDA-5抗体価異常高値, フェリチンほぼ正常の皮膚筋炎4症例の臨床経過. 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.26
9. 志水隼人, 岡 秀樹, 住友秀次, 金森真紀, 西岡弘晶, 大村浩一郎: 増殖性ループス腎炎患者におけるステロイド早期減量と臨床的アウトカムについての検討. 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.27
10. 西岡弘晶: シンポジウム2「臨床現場での研修医の働き方改革」. 第38回臨床研修研究会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.4.30
11. 前川和輝: 細菌学各論: 耐性菌(MRSAとESBLを中心に)と結核・NTM. 神戸市看護大学「微生物学」, WEB開催, 2022.5.2
12. 貝田 航: 細菌学各論: 肺炎, 尿路感染症, 蜂窩織炎, STD(梅毒). 神戸市看護大学「微生物学」, WEB開催, 2022.5.9
13. 貝田 航: ウイルス学総論, ウイルス学各論: DNAウイルス総論, ヘルペスウイルス属アデノウイルス属. 神戸市看護大学「微生物学」, WEB開催, 2022.5.16
14. 黒田浩一: COVID-19の感染管理と基本的診療について. EICU/GICU新人看護師対象講義, 神戸, 2022.5.18
15. 黒田浩一: 肺炎診療入門. 第39回藤田プライマリケアスキルズWeb開催, WEB開催, 2022.5.21
16. 前川和輝: ウイルス学各論: パルボウイルス・HPV・B型肝炎. 神戸市看護大学「微生物学」, WEB開催, 2022.5.23
17. 黒田浩一: ウイルス学各論: RNAウイルス総論, インフルエンザ. 神戸市看護大学「微生物学」, WEB開催, 2022.5.30
18. 東別府直紀, 西岡弘晶: Critical Care Nutrition 個別化の時代. 第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会(JSPEN2022), 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.31
19. 伊藤次郎, 土肥麻貴子, 楠田かおり, 藤田和美, 茨木まどか, 室井延之, 西岡弘晶, 東別府直紀: 電子カルテの院内開発システムを利用したTPNサーベイランス体制の導入. 第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会(JSPEN2022), 横浜, ハイブリッド開催, 2022.6.1
20. Shimizu H, Oka H, Sumitomo S, Kanamori M, Miyakoshi C, Yoshimoto A, Nishioka H, Ohmura K: Comparative effectiveness of rapid and conventional glucocorticoid tapering regimens in treating patients with proliferative lupus nephritis in the real world setting. EULAR 2022 European Congress of Rheumatology, Copenhagen, Denmark, Hybrid, 2022.6.1-4
21. 貝田 航: ウイルス学各論: HIV, HCV, ロタウイルス, ノロウイルス, SFTS. 神戸市看護大学「微生物学」, WEB開催, 2022.6.6
22. 黒田浩一: COVID-19の治療 アップデート. COVID-19 Web Seminar in Hyogo, WEB開催, 2022.6.9
23. 黒田浩一: ウイルス学各論: 麻疹, 風疹, 渡航感染症(HAV, 狂犬病, 日本脳炎, デングなど). 神戸市看護大学「微生物学」, WEB開催, 2022.6.13
24. 志水隼人: 当院におけるSLEの治療と取り組み. 神戸SLEカンファレンス, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.6.16
25. 岡 秀樹, 住友秀次, 志水隼人, 金森真紀, 原 重雄, 西岡弘晶, 大村浩一郎: 治療抵抗性成人発症IgA血管炎の腹部症状に血漿交換が有用であった1例. 第54回神戸免疫・膠原病懇話会, 神戸, WEB開催, 2022.6.18
26. 貝田 航: 医療・介護の仕事におけるコミュニケーション. 合水塾, WEB開催, 2022.6.18

27. 山本 大：真菌。神戸市看護大学「微生物学」，WEB 開催，2022.6.20
28. 南井崇宏，志水隼人，入江 慶，西岡弘晶：血中と髄液中のセフトリアキソン濃度高値との関連を確認できた血液透析患者のセフトリアキソン関連脳症の 1 例。第 236 回日本内科学会近畿地方会，神戸，ハイブリッド開催，2022.6.25
29. 山本 大：寄生虫。神戸市看護大学「微生物学」，WEB 開催，2022.6.27
30. 黒田浩一：感染対策（総論と各論），院内感染，針刺し対応，ICN の役割。神戸市看護大学「微生物学」，WEB 開催，2022.7.4
31. 黒田浩一：ワクチン接種（小児、渡航前、成人）。神戸市看護大学「微生物学」，WEB 開催，2022.7.11
32. 黒田浩一：オミクロン時代の感染対策。リハビリテーション技術部対象講義，神戸，2022.7.14
33. 黒田浩一：微生物学講義の復習。神戸市看護大学「微生物学」，WEB 開催，2022.7.25
34. 黒田浩一：最近の COVID-19 についてのトピックス 第 7 波・BA5・ワクチン 4 回目・治療。新型インフルエンザ等対策病院連絡会，神戸，2022.7.28
35. 土井朝子：神戸中央病院「SARS-CoV-2 に対する感染対策」講演会，神戸，2022.7.28
36. 黒田浩一：医療従事者の感染対策 / COVID-19 の治療。救急オープンセミナー，神戸，2022.8.31
37. 梅本大地，金森真紀：24 の前と後。京都 GIM カンファレンス，京都，2022.9.2
38. 岡 秀樹，住友秀次，志水隼人，金森真紀，西岡弘晶，大村浩一郎：全身性エリテマトーデスの DORIS 寛解，LLDAS の達成・非達成因子の検討。第 31 回日本リウマチ学会近畿支部学術集会，神戸，ハイブリッド開催，2022.9.4
39. 井尻健太，前川和輝，志水隼人，山下大祐，西岡弘晶：播種性 M. avium 感染症の治療中にリンパ節増大を認め、リンパ節生検が治療方針の決定に有用だった 1 例。第 237 回日本内科学会近畿地方会，大阪，ハイブリッド開催，2022.9.10
40. 黒田浩一：グラム染色と血液培養。救急オープンセミナー，神戸，2022.9.28
41. 黒田浩一：新型コロナウイルス感染症の現在－いま分かっているウイルスの特徴と治療法－。北摂丹波支部会第 34 回総会記念講演，三田，2022.10.1
42. 黒田浩一：コロナ時代の感染対策。兵庫県リハビリ技師会，神戸，2022.10.8
43. 黒田浩一：インフルエンザ。救急オープンセミナー，神戸，2022.10.12
44. 土井朝子：神戸市医師会「外来感染対策向加算講習会」，神戸，2022.10.22
45. 岡 秀樹，住友秀次，志水隼人，金森真紀，原 重雄，西岡弘晶，大村浩一郎：手指黒色壊死で発症し、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症との鑑別に難渋した特発性好酸球増多症候群の 1 例。第 37 回日本臨床リウマチ学会，札幌，2022.10.29
46. 黒田浩一：新型コロナワクチン UpDate ワクチンの有効性と安全性 オミクロン対応ワクチンについて。兵庫県保険医協会 加古川・高砂支部総会 記念講演，加古川，2022.10.29
47. 貝田 航，KISA2 隊 全国柱合会議，一般社団法人 KISA2 隊，WEB 開催，2022.10.29
48. 前川和輝，西岡弘晶：COVID-19 の経過中に耳下腺炎と舌下腺炎を発症した 1 例。第 92 回日本感染症学会西日本地方会学術集会，第 65 回日本感染症学会中日本地方会学術集会，第 70 回日本化学療法学会西日本支部総会，長崎，2022.11.3
49. 黒田浩一：シンポジウム 1 新型コロナウイルス感染症診療－初期対応・治療・後遺症－ 第一種感染症指定医療機関における感染対策と最新治療－感染症科医の立場から－。第 36 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会，大阪，ハイブリッド開催，2022.11.5
50. 黒田浩一：リハビリに必要な感染症の知識と対策－COVID-19 以外－。兵庫県理学療法士会 感染対策エキスパート育成研修会，WEB 開催，2022.11.8
51. 住友秀次，岡 秀樹，志水隼人，岩崎 毅，金森真紀，西岡弘晶，大村浩一郎：全身性エリテマトーデス患者末梢血サンプルの解析。第 9 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス，熊本，2022.11.18
52. 阪野文哉，川畑拓也，渡邊 大，塩野徳史，西田明子，朝来駿一，澤田暁宏，西岡弘晶，荒川創一，大森亮介，駒野 淳，森 治代，本村和嗣：MSM 向け HIV・性感染症検査キャンペーン（2021 年度実績報告），第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会，浜松，2022.11.18
53. 黒田浩一：入院が必要な軽症 COVID-19 の治療－治療適応の考え方と抗ウイルス薬の使い分け－。新型コロナウイルス感染症 WEB セミナー，WEB 開催，2022.11.24
54. 黒田浩一：COVID-19 基本事項と最近の話題。1 西 B 病棟看護師対象勉強会，WEB 開催，2022.12.8

55. 志水隼人：若手 U15 膠原病の会～ SLE ～，神戸，2022.12.9
56. 春名孝太郎，城田祥吾，西岡弘晶：COVID-19 ワクチン接種後に発症し肩痛を認めなかったリウマチ性多発筋痛症（PMR）の 1 例。第 238 回日本内科学会近畿地方会，WEB 開催，2022.12.10
57. 貝田 航：医学生発掘ピッチコンテスト 2022。合水塾，WEB 開催，2022.12.10
58. 貝田 航：医学生語る 医療への熱意。合水塾，神戸新聞，2022.12.21
59. 黒田浩一：神戸市産婦人科医会・神戸市医師会共催「新型コロナウイルス感染症診療指針に係る研修会」，WEB 開催，2022.12.22
60. 志水隼人：CTD-PAH の治療について。日本新薬株式会社「社内研修会」，神戸，2023.1.19
61. 黒田浩一：令和 4 年度愛知県病院薬剤師会 感染制御部会「症例検討・感染症セミナー」特別講演，WEB 開催，2023.1.21
62. 黒田浩一：新型コロナウイルスの最新情報。第 46 回神戸広域脳卒中地域連携協議会，WEB 開催，2023.2.3
63. 黒田浩一：感染症基幹施設における細菌検査結果の活かし方。第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会，横浜，ハイブリッド開催，2023.2.4
64. 志水隼人：一般演題。リウマチ・膠原病 conferene ～若手スキルアップ塾～，神戸，2023.2.9
65. 黒田浩一：5 類感染症となる COVID-19 への対応－5 類への対応・院内感染対策・早期治療の重要性－。令和 4 年度第 6 回神戸市新型インフルエンザ等対策病院連絡会，神戸，2023.2.9
66. 藤井真理，吉崎亜衣沙：症例検討から学ぶ診断推論戦略 by JUGLER (Vol.6)。第 26 回日本病院総合診療医学会学術総会，宇都宮，ハイブリッド開催，2023.2.18
67. 貝田 航：DGPJ 2023 (Diagnostic Grand Prix Japan 2023) in Utsunomiya。第 26 回日本病院総合診療医学会学術総会，宇都宮，2023.2.19
68. 坂田尚弥，金森真紀，岩下晶穂，山本 大，城田祥吾，西岡弘晶：川崎病様症状を認めた *Yersinia pseudotuberculosis* 感染症の 1 例。第 239 回日本内科学会近畿地方会大阪，ハイブリッド開催，2023.3.4
69. 藤井真理，前川和輝，藤田将平，志水隼人，西岡弘晶：腰痛が主症状であった顆粒球コロニー刺激因子（G-CSF）製剤関連大動脈炎の 1 例。第 239 回日本内科学会近畿地方会，大阪，ハイブリッド開催，2023.3.4
70. 山本 大，平本展大，黒田浩一：同種造血幹細胞移植後に発症した脳膿瘍を伴う播種性ノカルジア症の 1，第 239 回日本内科学会近畿地方会，大阪，ハイブリッド開催，2023.3.4
71. 黒田浩一：COVID-19 5 類移行に備える。ケアネットライブ「COVID-19 5 類移行に備える」，WEB 開催，2023.3.20
72. 黒田浩一：新型コロナ 5 類感染症になってどう変わる？ FitNs。「感染チャンネル」動画講義，WEB 開催，2023.3.22
73. 貝田 航：問診塾，関西若手医師フェデレーション，WEB 開催，2023.3.26

VIII. 1. 33 看護部

1. 池脇礼子，吉川由香里，岡田直樹，下村良充，平本展大，吉岡 聡，石川隆之：COVID-19 パンデミック下の海外在住外国人血縁ドナーコーディネートの経験。第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会総会，横浜，ハイブリッド開催，2022.5.14
2. 中村祐美子：地域医療支援病院の精神科身体合併症病棟における患者の体験世界をとらえた看護。一般財団法人日本精神保健看護学会 第 32 回学術集会・総会，東京，ハイブリッド開催，2022.6.4-5
3. 岡本武士，北村愛子：重症心不全患者のスピリチュアルの概念分析。第 18 回日本クリティカルケア看護学会学術集会，北九州，ハイブリッド開催，2022.6.12
4. 藤村弓子，南場佳子，濱田麻美子：当院での遺伝性乳がん卵巣がん症候群の診療における看護実践。第 30 回日本乳癌学会学術総会，横浜，ハイブリッド開催，2022.6.30
5. 前田淳子，石井利花，藤森瑞穂，岡崎美晴：COVID-19 流行期における透析室の感染対策マネジメント。第 67 回透析医学会学術集会・総会，横浜，2022.7.1
6. 古賀将平：救急外来で子どもの権利を擁護するために 小児看護のスペシャリストが行う看護師への支援。日本小児看護学会第 32 回学術集会，福岡，ハイブリッド開催，2022.7.9-10
7. 丸山浩枝：【シンポジウム 2】 COVID-19 禍の経験からこれからの看護学教育を考える。日本看護学教育学会 第 32 回学術集会，WEB 開催，2022.8.6
8. 佐藤恵美：再雇用制度により業務負担の軽減措置を受けて 勤務を継続している看護師が認識する看護実践の変化。第 26 回日本看護管理学会学術集会，福岡，ハイブリッド開催，2022.8.20

9. 仲村直子：シンポジウム1 死を見据えながら生きることを支えるケア—病みの軌跡における下降期の観点からの学際的アプローチ。第16回日本慢性看護学会学術集会，東京，ハイブリッド開催，2022.8.20
10. 仲村直子：日本サイコカーディオロジー学会・日本心臓病学会ジョイントシンポジウム 看護師が出会う循環器疾患におけるこころの問題と対応の困難さ。第70回日本心臓病学会学術集会，京都，2022.9.23
11. 田中 薫，大坪麻里子：摂食嚥下障害のある脳卒中患者の食事介助における看護師の工夫とスキルについて。第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会，千葉，ハイブリッド開催，2022.9.23-24
12. 丞々弥生：厚生労働科学研究難治性疾患等政策研究事業「びまん性肺疾患に関する調査研究班」，Web開催，2022.10.15
13. 仲村直子：心不全療養指導士向けセミナー3 療養指導法。第26回日本心不全学会学術集会，奈良，ハイブリッド開催，2022.10.23
14. 藤本真菜，松寺千尋，沖 佳祐，臼井優香，竹内志津枝：覚醒下開頭腫瘍摘出術における手術室看護師の役割—術前から術中の関わりを振り返って—。第7回神戸看護学会学術集会，オンデマンド開催，2022.10.22-11.30
15. 梅田節子：シンポジウム2 女性のがんと生活としごと「がんとともに生きる女性を支援する取り組み」。第7回神戸看護学会学術集会，オンデマンド開催，2022.10.22-11.30
16. 木田弘美，金中宏江，米谷久美子：能力評価票を用いた退院支援看護師の育成方法の検討。第60回全国自治体病院学会，那覇，2022.11.10
17. 梅田みゆき，山本 愛，榮口裕美：苦痛緩和が困難だったCOVID-19患者のデスカンファレンスについて（第1報）ハイブリット方式のデスカンファレンスへの取り組み。第60回全国自治体病院学会，那覇，2022.11.11
18. 山本 愛，梅田みゆき，榮口裕美：苦痛緩和が困難だった、COVID-19患者のデスカンファレンスについて（第2報）～デスカンファレンス後の看護師の思い～。第60回全国自治体病院学会，那覇，2022.11.11
19. 里路光太郎：呼吸ケア・リハビリテーション～現在、そして将来の展望～。第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会，千葉，2022.11.11
20. 西中理恵：当院におけるCOVID-19関連の新生児に対する対応の実際と今後の課題。第31回日本新生児看護学会学術集会，横浜，ハイブリッド開催，2022.11.26
21. 植田杏菜，高砂まゆ，内田厚乃，増田陽奈子，田中年恵，沖浦麻矢：急性期病院において生体情報モニターを装着した患者を看取る家族がどのような体験をしているか。第46回日本死の臨床研究会年次大会，津，ハイブリッド開催，2022.11.26-27
22. 金尾身奈子，前田淳子，池田由美，伊藤浩樹，稲岡佳子：患者さんがまだ来ていない！を防ぐ取り組み—手書き書類のシステム化—。第17回医療の質・安全学会学術集会，神戸，2022.11.27
23. 津村可奈子：クラスターゼロの入院・外来心リハ継続について。第8回日本心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会，神戸，2023.2.11
24. 南場佳子，藤村弓子，濱田麻美子：ホルモン療法の効果が持続している再発乳がん患者の体験。第37回日本がん看護学会学術集会，横浜，ハイブリット開催，2023.2.25-26
25. 仲村直子：心不全患者の栄養を症例から考える～模擬カンファレンス～ 症例提示：3. オーラルフレイルの症例。第87回日本循環器学会学術集会，福岡，ハイブリッド開催，2023.3.10
26. 久語祐美子，山中美香，山田奈々：COVID-19妊産婦の対応—第7波を乗り越えて—。令和4年度周産期医療事例検討会，神戸，ハイブリット開催，2023.3.11
27. 瀬戸口雅子，松村佳苗：当院NICUでのCOVID-19関連の新生児に対する対応の現状と今後の課題。令和4年度周産期医療事例検討会，神戸，ハイブリット開催，2023.3.11

VIII. 1. 34 薬剤部

1. 池末裕明：がん薬物療法におけるタスク・シフト / シェア—薬剤師外来とPBPMの実践から見えたもの—。Web Lecture on Task Shifting/Sharing，WEB開催，2022.4.6
2. 山本晴菜：県内の肝炎コーディネーターの取り組みの紹介。播磨地区肝炎医療コーディネーター交流会，姫路，2022.4.8
3. 池末裕明：薬物療法のタスク・シフティングの取り組みと舞台裏～PBPM副作用モニタリングの充実と課題を含めて～。千葉県病院薬剤師会南部支部研修会 南房総臨床薬学セミナー，千葉，WEB開催，2022.4.21
4. 室井延之：薬剤師による働き方改革を進めるために～薬剤師の地域偏在と人材確保対策を考える～。全国自治体病院協議会 第1回薬剤部会オンラインセミナー，WEB開催，2022.5.11

5. 池末裕明：がん薬物療法における薬剤師の役割～これまでと、これから～. Oncology Pharmacist Seminar in Eastern Yamaguchi, 山口, WEB 開催, 2022.5.18
6. 室井延之：特別講演：病院と地域とをつなぐロービジョンケアと薬剤師の役割. 佐賀県薬剤師会 薬剤師生涯学習研修会, 佐賀, 2022.5.21
7. 橋田 亨：シンポジウム：臨床薬剤業務の進展と薬剤師卒後臨床研修. 日本薬剤学会第 37 回学術大会, オンライン開催, 2022.5.28
8. 橋田 亨：薬学教育シンポジウム：薬剤師の職能教育：社会から求められる薬剤師を輩出するためには？ 日本薬剤学会第 37 回学術大会, オンライン開催, 2022.5.28
9. 室井延之：特別講演 地域と病院とをつなぐ薬物療法と薬剤師の役割～進化する薬剤師連携とそれを支える薬剤師の育成～. 令和 4 年度 熊本県病院薬剤師会学術講演会, WEB 開催, 2022.5.28
10. 高瀬友貴：シンポジウム：COVID-19 の治療に貢献する臨床栄養研究からのアプローチ～血中 25- ヒドロキシ D 濃度と COVID-19 重症化の関連～. 第 37 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 (JSPEN2022), 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.31-6.1
11. 山本晴菜, 江口有一郎, 矢田ともみ, 大谷 綾, 中筋幸司, 上野聖子, 平井香恵, 志原拓磨, 高嶋智之, 藤本康弘, 鄭 浩柄, 金 秀基, 多田俊史, 室井延之, 山本宗男, 米澤敦子, 飯島尋子：二次医療圏を単位とした自治体、拠点病院、肝炎医療コーディネーターの配置と活動～肝炎診療ネットワーク構築「Hモデル」の構築の基盤として～. 第 58 回日本肝臓学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.6.2-3
12. 山本晴菜：肝炎医療コーディネーターの活動事例 (兵庫県). 令和 4 年度兵庫県肝炎医療コーディネーター養成研修会, WEB 開催, 2022.6.17
13. 山本晴菜：肝炎医療コーディネーターの活動について. Kowa Web Conference, 神戸, 2022.6.23
14. 薩摩由香里：当院における間質性肺炎サポートチームの活動外用～薬剤師の役割～. 呼吸器疾患セミナー, 熊本, 2022.6.23
15. 池末裕明：薬物療法におけるタスク・シフティングと舞台裏～PBPM の実践と成果を含めて～. CHUGAI Pharmacist Forum 2022, 京都, WEB 開催, 2022.6.23
16. 高瀬友貴, 津川尚子, 杉山峰是, 池末裕明, 江藤正明, 橋田 亨, 富井啓介, 室井延之：血中 25- ヒドロキシビタミン D 濃度と COVID-19 重症化の関連. 日本ビタミン学会第 74 回大会, 福岡, 2022.6.25-26
17. 室井延之：薬剤師がタスク・シフト/シェアを進めるための工夫と医療への貢献. 令和 4 年度 病院診療所薬剤師研修会, WEB 開催, 2022.6.26
18. 池末裕明：チームで取り組む irAE マネジメントとタスクシフト. 2022 年医師・薬剤師・看護師のための JSMO がん免疫薬物療法マネジメントセミナーアドバンストコース, WEB 開催, 2022.6.26
19. 増本憲生, 高瀬友貴, 橋田 亨, 室井延之：ロボット技術と人との融和による新しい調剤システムの構築. 第 24 回日本医療マネジメント学会学術総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.7.8
20. 柴谷直樹, 室井延之：点眼薬アドヒアランス向上のための点眼支援ツールの開発. 第 24 回日本医療マネジメント学会学術総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.7.8
21. 田村 亮：敗血症の薬物治療を臓器系統別評価で学ぶ Lecture ①：腎・血液浄化療法. 第 11 回 JSEPTIC 薬剤師部会セミナー, WEB 開催, 2022.7.10
22. 室井延之：薬剤師がタスク・シフト/シェアを進めるための工夫と医療への貢献. 令和 4 年度病院診療所薬剤師研修会, 広島, 2022.7.16
23. 室井延之：シンポジウム：薬剤師による働き方改革を進めるために～薬剤師の地域偏在と人材確保対策を考える～. 第 5 回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum, オンデマンド開催, 2022.7.16-31
24. 室井延之：シンポジウム：地域と病院とをつなぐ入退院支援業務～地域を支える薬剤師連携～. 第 5 回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum, オンデマンド開催, 2022.7.16-31
25. 池末裕明：専門シンポジウム①がん専門薬剤師部門：試験委員会の立場から～求められる知識とは～. 第 5 回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum, オンデマンド開催, 2022.7.16-31
26. Ikesue H, Yamamoto H, Hirabatake M, Hashida T, Chung H, Inokuma T, Muroi N : Investigation of risk factors for proteinuria in patients with hepatocellular carcinoma receiving lenvatinib monotherapy: A retrospective study. The 10th Asian Association of Schools of Pharmacy Conference, WEB 開催, 2022.7.30
27. 池末裕明：がん免疫療法 (免疫チェックポイント阻害薬) による有害事象と支持療法. 日本臨床腫瘍薬学会 Essential Seminar Neo 2022, オンデマンド開催, 2022.8.10-23

28. 室井延之：地域と病院をつなぐ薬物療法と薬剤師の役割. 第 12 回 老年薬学アップデート, オンライン開催, 2022.8.12
29. 橋田 亨：特別講演 大波をこえて見える薬剤師のミライ. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 52 回学術大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.8.20
30. 室井延之：シンポジウム 6 「実践的な薬剤師の育成に向けた卒後教育（臨床研修）の新展開」地域完結型医療の実現に向けて～進化する薬剤師連携とそれを支える薬剤師の育成～. 第 7 回日本薬学教育学会大会, オンライン開催, 2022.8.20
31. 池末裕明：“タスクシフト/シェア”をとおして取り組む irAE マネジメント. 第 3 回 TEAM 2022, WEB 開催, 2022.8.20
32. 池末裕明：病院薬剤師と薬局薬剤師の連携を考える. 第 8 期 CP 研究会第 4 回, オンライン配信, 2022.8.20
33. 薩摩由香里, 三木博史, 山本晴菜, 藤田和美, 藤井尚子, 木下 恵, 山岡健太, 高瀬友貴, 池末裕明, 橋田 亨, 室井延之：薬剤師レジデント研修への地域連携カリキュラム導入効果の検証. 第 7 回日本薬学教育学会大会, オンライン開催, 2022.8.20
34. 橋田 亨：特別講演 新たな薬剤師の業務展開と卒後研修. 南河内 Directors of Pharmacy Forum, WEB 開催, 2022.8.25
35. 池末裕明：がん薬物療法の ABC ～患者フォローアップと副作用対策のポイント～. 第 33 回宝塚市薬剤師地域連携研究会, 宝塚, Zoom 開催, 2022.8.27
36. 池末裕明：制吐療法のポイントと情報の整理～新規 NK1 受容体拮抗薬の登場～. Hyogo CINV WEB Forum, 兵庫, WEB 開催, 2022.8.28
37. 柴谷直樹：シンポジウム 3 点眼アドヒアランスと緑内障長期管理 点眼薬アドヒアランス向上のための当院薬剤部での取り組み. 第 33 回日本緑内障学会, 横浜, 2022.9.16
38. 奥吉博之, 柴谷直樹, 平野達也, 栗本康夫, 室井延之：継続した点眼アドヒアランス確認のための点眼支援ツールの開発ならびに使用感の調査. 第 33 回日本緑内障学会, 横浜, 2022.9.16
39. 阿部りこ, 増本憲生, 吉田千恵美, 入江 慶, 池末裕明, 橋田 亨, 東別府直紀, 松岡直樹, 室井延之：周術期支援センターにおける SGLT2 阻害薬の薬学的管理. 第 10 回日本くすりと糖尿病学会学術集会, WEB 開催, 2022.9.17-18
40. 義平祥菜, 玉木理衣, 山田留美, 上武千晶, 高原美会子, 表日登美, 熊谷佐代子, 興津美由紀, 室井延之, 橋田 亨：OJT プログラムに基づく評価シートを使用した教育プログラムの導入の評価. 第 22 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議, 新潟, ハイブリッド開催, 2022.9.17-18
41. 池末裕明：シンポジウム 6 外来から入院, そして地域とつなぐ薬物療法と薬剤師の役割. 第 81 回九州山口薬学大会, 熊本, ハイブリッド開催, 2022.9.19
42. 室井延之：特別講演：地域と病院をつなぐ薬剤師の入退院支援業務～進化する薬剤師連携とそれを支える薬剤師の育成～. 第 53 回全国厚生連病院薬剤師長会議学術総会, WEB 開催, 2022.9.22
43. 松本彩子, 山岡健太, 池末裕明, 平島正樹, 橋田 亨, 山崎俊成, 川喜田睦司, 室井延之：腎細胞がん患者における血管新生阻害薬による蛋白尿発現のリスク因子とレニン-アンギオテンシン系降圧薬による低減効果の可能性. 第 32 回日本医療薬学会年会, 高崎, ハイブリッド開催, 2022.9.23
44. 室井宏仁, 入江 慶, 中川 淳, 田村 亮, 江藤正明, 池末裕明, 橋田 亨, 富井啓介, 室井延之：COVID-19 患者におけるレムデシビルおよび主要代謝物 (GS-441524) の薬物動態解析. 第 32 回日本医療薬学会年会, 高崎, ハイブリッド開催, 2022.9.23
45. 山田佳織, 入江 慶, 平島正樹, 池末裕明, 橋田 亨, 川喜田睦司, 室井延之：実臨床における前立腺癌治療薬アパルタミドの皮膚障害の発現状況とリスク因子の探索. 第 32 回日本医療薬学会年会, 高崎, ハイブリッド開催, 2022.9.23
46. Yamaoka K, Fujiwara M, Uchida M, Uesawa Y, Shimizu T, Muroi N : Comprehensive analysis of ixazomib-induced adverse events using the Japanese pharmacovigilance database. 第 32 回日本医療薬学会年会, 高崎, ハイブリッド開催, 2022.9.23
47. Fujiwara M, Uchida M, Uesawa Y, Shimizu T, Ikesue H, Muroi N : A nalysis of adverse events with nintedanib using the Japanese Adverse Event Spontaneous Reporting Database. 第 32 回日本医療薬学会年会, 高崎, ハイブリッド開催, 2022.9.23

48. 池末裕明：シンポジウム 21 院内・地域との連携をとおして共に学ぶ～育成の舞台裏～. 第 32 回日本医療薬学会年会, 高崎, ハイブリッド開催, 2022.9.23
49. 田村 亮, 平野達也, 鎌田理沙, 藤井尚子, 木下 恵, 奥吉博之, 山岡健太, 杉上 裕, 橋田 亨, 室井延之: 病院薬剤師の継続的な人材確保のための採用力強化にむけた取り組み. 第 32 回日本医療薬学会年会, 高崎, ハイブリッド開催, 2022.9.24
50. 室井延之, 岩本卓也: シンポジウム 41 ロボット・IoT 技術による薬剤師業務の安全性と効率化の向上への取り組み: 対人業務の拡充に向けて. 第 32 回日本医療薬学会年会, 高崎, ハイブリッド開催, 2022.9.24
51. 高瀬友貴: シンポジウム 41 ロボットと人との融和による新しい薬剤業務の構築～調剤業務の安全性と効率化を目指して～. 第 32 回日本医療薬学会年会, 高崎, ハイブリッド開催, 2022.9.24
52. 室井延之: シンポジウム 58 地域と病院をつなぐ入退院支援業務～進化する薬剤師連携とそれを支える薬剤師の育成～. 第 32 回日本医療薬学会年会, 高崎, ハイブリッド開催, 2022.9.25
53. 薩摩由香里: シンポジウム 58 地域連携を担う薬剤師の育成を考える～保険薬局研修を取り入れた卒後研修カリキュラムの実践～. 第 32 回日本医療薬学会年会, 高崎, ハイブリッド開催, 2022.9.25
54. 室井延之: 地域医療の充実と薬剤師地域偏在の解消・キャリア形成 薬剤師による働き方改革を進めるために～薬剤師の地域偏在と人材確保対策を考える～. 令和 4 年度第一回国公立大学薬学人材育成ワークショップ, 吹田, ハイブリッド開催, 2022.10.1
55. 田村 亮: 集中治療領域におけるファーマコメトリクスの活用. 日本医療薬学会第 86 回医療薬学公開シンポジウム, WEB 開催, 2022.10.1
56. 増本憲生: 糖尿病薬 (注射剤含む) の種類と使い方, 指導の方法. 糖尿病教育セミナー 2022, 神戸, WEB 開催, 2022.10.10
57. 吉野新太郎: 当院のがん化学療法の流れ. 第 1 回がん治療における薬薬連携セミナー, WEB 開催, 2022.10.11
58. 室井延之: 特別講演: 地域と病院をつなぐ薬物療法と薬剤師の役割～進化する薬剤師連携とそれを支える薬剤師の育成～. 第 8 回島根県病院薬剤師会 地域連携フォーラム, WEB 開催, 2022.10.21
59. 池末裕明: 領域横断的ワークショップ 18 がんチーム医療における薬剤師の関わり ー外来化学療法における診察前面談とタスクシフトー がん薬物療法における薬剤師外来とタスク・シフト. 第 60 回日本癌治療学会学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.10.22
60. 土手賢史, 塩飽英二, 河野えみ子, 眞下恵次, 吉野真樹, 池末裕明, 高橋克之, 高木麻里, 伊藤佳織, 板倉祥嗣, 根來 寛, 渡邊裕之, 山口大介, 宮田仁美, 小林由佳: 大がん患者のラムシルマブ誘発性蛋白尿に及ぼすバシズマブ前治療歴の影響. 第 60 回日本癌治療学会学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.10.22
61. 室井延之: パネルディスカッション コロナでみえた医療の課題～医・歯・薬・看・介～地域と病院をつなぐ薬物療法と薬剤師の役割～. 第 32 回国民の健康会議, 東京, 2022.10.27
62. 池末裕明: 安全ながん薬物療法の実践. 日本病院薬剤師会・日本医療薬学会 令和 4 年度がん専門薬剤師集中教育講座, オンデマンド配信, 2022.11.1-12.23
63. 池末裕明: 安全ながん薬物療法に果たす役割: 病院と地域における連携. 第 61 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 広島, 2022.11.6
64. 池末裕明: 腎細胞癌の薬物療法における安全性向上の取り組み. RCC seminar Update, 津, 2022.11.17
65. 小田稔彦, 興津美由紀, 熊谷佐代子, 室井延之, 荒木賢二, 橋田 亨: 千年カルテプロジェクトを活用した医療機関での治験スクリーニングの有用性に関する実証研究. 第 42 回医療情報学連合大会, 札幌, ハイブリッド開催, 2022.11.19
66. 池末裕明: タスクシフト/シェアをとおして取り組む irAE マネジメント. TEAM 2022 WEB SEMINAR, WEB 開催, 2022.11.22
67. 田村 亮: 救急医療・中毒医療と薬剤師～予防から治療まで～. 第 35 回神戸市中央区薬剤師会学術講演会, 神戸, 2022.11.26
68. 高瀬友貴: 院外処方箋の問い合わせ簡素化プロトコルの活用と薬剤師連携の推進. 第 8 回石川県立中央病院薬薬連携セミナー, WEB 開催, 2022.11.27
69. 池末裕明: チームで支える irAE マネジメントとタスクシフト. 2022 年医師・薬剤師・看護師のための JSMO がん免疫薬物療法マネジメントセミナーアドバンストコース, WEB 開催, 2022.11.27
70. 室井延之: 特別講演 地域完結型医療の実現に向けて～薬剤師がタスク・シフト/シェアを進めるための工夫と医療への貢献～. 大分県病院薬剤師会 11 月例会, WEB 開催, 2022.11.28

71. 山本晴菜：肝炎医療コーディネーターからみた HCV 患者拾い上げについて。神戸医療安全 WEB セミナー，神戸，2022.12.2
72. 池末裕明：シンポジウム 免疫チェックポイント阻害薬の irAE 対策：臨床薬理学的視点とチーム医療アプローチ irAE 対策のためのチーム医療の実践とプロトコールに基づく検査入力支援。JPW 2022 (Japan Basic and Clinical Pharmacology Week 2022)，第 96 回日本薬理学会年会，第 43 回日本臨床薬理学会学術総会 同時期開催，横浜，2022.12.3
73. 池末裕明：irAE の早期発見と対策～PBPM の実践から見えたもの～。Oncology Forum Hiroshima，広島，2022.12.9
74. 吉野新太郎：明日から使える！副作用評価の仕方とトレーシングレポートの書き方。がん化学療法と連携を考える会@ポートアイランド，神戸，WEB 開催，2022.12.9
75. 池末裕明：がん薬物療法の処方と副作用のみかた ABC。第 200 回神戸西ブロック薬学研修会，神戸，WEB 開催，2022.12.17
76. 田村 亮：シンポジウム 集中治療領域における PK/PD を意識した薬学的ケアの実践。近畿薬剤師合同学術大会 2023 (第 25 回近畿薬剤師学術大会，第 44 回日本病院薬剤師会近畿学術大会)，オンライン開催，2023.2.4-5
77. 池末裕明：シンポジウム がん薬物療法における薬剤師外来と PBPM の舞台裏。近畿薬剤師合同学術大会 2023 (第 25 回近畿薬剤師学術大会，第 44 回日本病院薬剤師会近畿学術大会)，オンライン開催，2023.2.4-5
78. 久米 学，小田稔彦，室井延之，橋田 亨：市民病院における臨床研究の適正な実施を確保するための体制構築～臨床研究監査室の設置と課題について～。近畿薬剤師合同学術大会 2023 (第 25 回近畿薬剤師学術大会，第 44 回日本病院薬剤師会近畿学術大会)，オンライン開催，2023.2.4-5
79. 田辺就子，池末裕明，平島正樹，吉野新太郎，山本晴菜，鄭 浩柄，橋田 亨，猪熊哲朗，室井延之：進行肝細胞がんに対するレンバチニブの副作用による中止を回避するための減量休薬が治療に及ぼす影響。近畿薬剤師合同学術大会 2023 (第 25 回近畿薬剤師学術大会，第 44 回日本病院薬剤師会近畿学術大会)，オンライン開催，2023.2.4-5
80. 槇本博雄，矢野育子，小西 聡，柿木博士，岸本修一，志方敏之，濱 宏仁，福井由美子，室井延之：兵庫県下の病院施設における新人薬剤師の卒後研修に関する現状調査。近畿薬剤師合同学術大会 2023 (第 25 回近畿薬剤師学術大会，第 44 回日本病院薬剤師会近畿学術大会)，オンライン開催，2023.2.4-5
81. 橋田 亨，林 昌洋：教育講演 医薬品適正使用の取り組みについて 薬物治療の安全性と価値を高める薬剤師配置の拡大。医療安全教育セミナー (実践編) 2023，オンライン開催，2023.2.11
82. 山下花南恵，平島正樹，吉田昌弘，丸岡隼人，中園紘子，米谷 昇，石川隆之，室井延之：CAR-T 細胞療法を支えるチーム医療における薬剤師の役割。第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会，名古屋，2023.2.12
83. 池末裕明：学会発表・論文 (国内) 投稿に必要なこと。JASPO 臨床研究セミナー 2023，WEB 開催，2023.2.19
84. 田村 亮：ER/ICU に行ってみよう～「救急の現場」への第一歩～。第 3 回兵庫県救急・集中治療薬剤師研究会，WEB 開催，2023.2.25
85. 木下 恵，土肥麻貴子，岩本昌子，久保田絢子，里路光太郎，野崎惇貴，大内謙二郎，室井延之：ICU 退室後患者への薬剤師の介入に関する調査。第 50 回日本集中治療医学会学術集会，京都，ハイブリッド開催，2023.3.4
86. 浅沼玲美，山岡健太，入江 慶，平島正樹，久米 学，室井延之：光免疫療法薬セツキシマブ サロタロカンの調製・投与手順の作成とその評価。第 12 回日本薬剤師レジデントフォーラム，吹田，2023.3.5
87. 阿部礼奈，吉田早希，増田義雄，池末裕明，平島正樹，橋田 亨，室井延之：膵臓がん患者に対する GEM + nab-PTX 療法による好中球減少のリスク因子解析。第 12 回日本薬剤師レジデントフォーラム，吹田，2023.3.5
88. 田中裕大，池末裕明，吉野新太郎，松本千代，平島正樹，橋田 亨，鈴木栄治，室井延之：アベマシクリブ服用乳がん患者に対する薬剤師外来の有用性の検討。第 12 回日本薬剤師レジデントフォーラム，吹田，2023.3.5
89. 槇本彩季，木下 恵，入江 慶，橋田 亨，室井延之：慢性心不全患者へのサクビトリアルバルサルタン導入時における低血圧発現の SGLT2 阻害薬併用の影響。第 12 回日本薬剤師レジデントフォーラム，吹田，2023.3.5

90. 宮崎和子, 入江 慶, 永山浩司, 薩摩由香里, 藤井尚子, 久米 学, 室井延之: バンコマイシン供給停止による抗 MRSA 薬の処方状況への影響と代替薬 LZD の血小板減少症の発現頻度の調査. 第 12 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 吹田, 2023.3.5
91. 阿部りこ, 増本憲生, 吉田千恵美, 池末裕明, 橋田 亨, 東別府直紀, 松岡直樹, 室井延之: 周術期支援センターにおける SGLT2 阻害薬の薬学的管理. 第 12 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 吹田, 2023.3.5
92. 田辺就子, 池末裕明, 平島正樹, 吉野新太郎, 山本晴菜, 鄭 浩柄, 橋田 亨, 猪熊哲朗, 室井延之: 進行肝細胞がん患者におけるレンバチニブの副作用による減量休薬が治療に及ぼす影響. 第 12 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 吹田, 2023.3.5
93. 藤原正規, 池末裕明, 内田まやこ, 植沢芳広, 清水 忠, 室井延之: 日本の有害事象自発報告データベース (JADER) を用いた CDK4/6 阻害剤 (パルボシクリブ・アベマシクリブ) の関与が疑われる有害事象の解析. 第 12 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 吹田, 2023.3.5
94. 室井宏仁, 入江 慶, 中川 淳, 田村 亮, 江藤正明, 池末裕明, 橋田 亨, 富井啓介, 室井延之: 中等症および重症の COVID-19 患者におけるレムデシビルおよび主要代謝物 GS-441524 の母集団薬物動態および曝露量と臨床転帰の関係. 第 12 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 吹田, 2023.3.5
95. 室井延之: 特別講演 地域と病院をつなぐ薬物療法と薬剤師の役割? 病院薬剤師の魅力とやりがい? 全国自治体病院協議会・賛助会 令和 4 年度第 2 回研修会, 東京, ハイブリッド開催, 2023.3.9
96. 吉野新太郎: 乳癌に関わる略語の解説と新様式トレーシングレポートの紹介. 第 2 回がん治療における薬薬連携セミナー, 神戸, WEB 開催, 2023.3.14
97. 久米 学: 医薬品流通問題への取り組みについて. 第 11 回 Hyogo Pharmacy Director Conference, 神戸, WEB 開催, 2023.3.15
98. 久米 学: 臨床研究における品質マネジメントと臨床研究監査室の取り組みについて. 令和 4 年度 第 6 回臨床研究推進センター講演会, WEB 開催, 2023.3.16
99. 平島正樹: エンザルタミド投与中の前立腺癌患者に対する薬剤師と泌尿器科医の共同管理について. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡, 2023.3.16
100. 平島正樹: トレーシングレポートの有用事例報告. 令和 4 年度 薬剤師連携構築研修会, ライブ配信, 2023.3.18
101. 池末裕明: チームで取り組む免疫チェックポイント阻害薬の有害事象対策. KOBE Lung Cancer Seminar, 神戸, WEB 開催, 2023.3.24
102. 池末裕明: 一般シンポジウム S38 がん薬物療法における多職種協働による臨床薬剤業務のアウトカムと薬剤師教育. 日本薬学会第 143 年会, 札幌, ハイブリッド開催, 2023.3.27

VIII. 1. 35 臨床検査技術部

1. 中村葉奈, 岡田大司, 香原美咲, 一柳知宏, 滋野 稜, 村井亮介, 金 基泰, 谷 知子, 古川 裕: 経胸壁心エコー図検査が治療方針決定に有用であったびまん性大細胞性 B 細胞性リンパ腫心臓浸潤の 1 例. 日本心エコー図学会第 33 回学術集会, 米子, ハイブリッド開催, 2022.4.10
2. 丸岡隼人: ランチョンセミナー 27 多発性骨髄腫における測定可能残存病変の検出—マルチパラメトリックフローサイトメトリーの有用性—. 第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.14
3. 大野 彩, 白石祐美, 福田真恵, 姫野真由子, 大山幸永, 丸岡隼人: 多彩な MRD マーカーによる急性骨髄性白血病治療選択へのアプローチ. 第 71 回日本医学検査学会 in 大阪, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.5.21
4. 大山幸永, 白石祐美, 福田真恵, 姫野真由子, 大野 彩, 高田明歩, 丸岡隼人: キメリズム解析における新規 T 細胞分離法の検討と効果. 第 71 回日本医学検査学会 in 大阪, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.5.21
5. 白石祐美, 福田真恵, 姫野真由子, 大野 彩, 大山幸永, 丸岡隼人: 染色体異常が移植後キメリズムに影響を及ぼしたと推定される 2 症例. 第 71 回日本医学検査学会 in 大阪, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.5.21
6. 福田真恵, 高田明歩, 大山幸永, 姫野真由子, 大野 彩, 白石祐美, 丸岡隼人: Digital PCR を用いた悪性リンパ腫の遺伝子変異検出法の確立と導入効果. 第 71 回日本医学検査学会 in 大阪, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.5.21
7. 姫野真由子, 高田明歩, 大山幸永, 大野 彩, 福田真恵, 白石祐美, 丸岡隼人: 院内における EZH 2 遺伝子変異検出法の確立と実際の運用. 第 71 回日本医学検査学会 in 大阪, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.5.21

8. 岡田大司, 小堀敦志, 香原美咲, 長野真弥, 鳥居裕太, 松岡京子, 宮川祥治, 菅沼直生子, 谷 知子, 古川 裕: CHADS2 score 低値の心房細動患者における左心耳血流 HFA-PEFF score の関連. 日本超音波医学会第 95 回学術集会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2022.5.21
9. 宮川祥治, 岡田大司, 宮脇規壽, 菅沼直生子, 松岡京子, 鳥居裕太, 香原美咲, 長野真弥, 谷 知子, 古川 裕: 感染性心内膜炎により右室自由壁に疣腫を認めた心室中隔欠損症の 1 例. 日本超音波医学会第 95 回学術集会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2022.5.22
10. 吉田昌弘: 人生 100 年時代を働き抜け! ~輸血検査技師の「これから」を考える~. 第 70 回日本輸血・細胞治療学会 学術総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2022.5.27
11. 鈴木優太, 平本展大, 石川隆之, 丸岡隼人, 大野 彩, 上田恭典, 高原里枝, 河内佳子: Rare type であることが診断後に判明した AML with inv (16) (p13.1;q22) の一例. 第 113 回近畿血液学会地方会, Web 開催, 2022.6.4
12. 鳥居裕太: 心不全について学ぶ. 大阪府臨床検査技師会 心エコー実技講習会, 大阪, 2022.7.3
13. 奈須聖子: 感染症診療における検査の重要性. 感染症 Virtual Meeting in 兵庫, WEB 開催, 2022.7.28
14. 丸岡隼人: B-ALL における MRD 解析の実際—マルチパラメトリックフローサイトメトリーを中心に—. Hematology Web Symposium, WEB 開催, 2022.9.7
15. 丸岡隼人: 多発性骨髄腫における MRD 検出法の実際—マルチパラメトリックフローサイトメトリーの威力—. BMS Multiple Myeloma Web Seminar, WEB 開催, 2022.9.22
16. 鳥居裕太: 腹部エコー検査に関する検査の進め方から各疾患の診断ポイント. 大阪府臨床検査技師会 腹部エコー実技講習会, オンデマンド配信, 2022.10.5
17. 香原美咲, 鳥居裕太, 岡田大司, 宮川祥治, 菅沼直生子, 川井順一, 谷 知子, 古川 裕: 心筋梗塞後に繰り返す心膜炎を心臓超音波検査にて経過観察し得た一例. 公益社団法人日本超音波医学会第 49 回関西地方会学術集会, 大阪, 2022.10.8
18. 濱野 葵, 中村葉奈, 鳥居裕太, 岡田大司, 大畑淳子, 菅沼直生子, 宮川祥治, 岡田大司, 原 重雄, 谷 知子, 古川 裕: 心膜滑膜肉腫の一例. 公益社団法人日本超音波医学会第 49 回関西地方会学術集会, 大阪, 2022.10.8
19. 鳥居裕太, 岡田大司, 滋野 稔, 岡崎徳良, 長野真弥, 香原美咲, 宮川祥治, 菅沼直生子, 谷 知子, 古川 裕: 心拍変動に伴う僧帽弁逆流の変化を確認できたたこぼ症候群の一例. 公益社団法人日本超音波医学会第 49 回関西地方会学術集会, 大阪, 2022.10.8
20. 岸中日幸, 鳥居裕太, 井川彩加, 中原千裕, 宮川祥治, 菅沼直生子, 岡田大司, 原 重雄, 谷 知子, 古川 裕: 心嚢内悪性リンパ腫の一例. 公益社団法人日本超音波医学会第 49 回関西地方会学術集会, 大阪, 2022.10.8
21. 田谷真佑子, 鳥居裕太, 岡田大司, 簗輪和士, 佐々木一朗, 馬場理江, 岩崎信広, 中村真実子, 矢野由希子, 古川 裕: 担がん患者への直接経口抗凝固薬による深部静脈血栓退縮効果に関する因子の検討. 公益社団法人日本超音波医学会第 49 回関西地方会学術集会, 大阪, 2022.10.8
22. 寺尾祐依, 岩崎信広, 馬場理江, 佐々木一朗, 簗輪和士, 和田将弥, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 原 重雄: 腹腔内穿破を認めた浸潤性膵管内好酸性乳頭腫瘍の一例. 公益社団法人日本超音波医学会第 49 回関西地方会学術集会, 大阪, 2022.10.8
23. 松本泰三, 岩崎信広, 鄭 浩柄, 馬場理江, 佐々木一朗, 簗輪和士, 安藤徳得, 猪熊哲朗, 貝原 聡, 原重雄: 悪性転化の診断に超音波検査が有用であった膵粘液性嚢胞腫瘍の一例. 公益社団法人日本超音波医学会第 49 回関西地方会学術集会, 大阪, 2022.10.8
24. 崎山千尋, 岩崎信広, 馬場理江, 佐々木一朗, 鄭 浩柄, 山下大祐, 原 茂雄: 有茎性発育を呈した腎細胞癌小腸転移の一例. 公益社団法人日本超音波医学会第 49 回関西地方会学術集会, 大阪, 2022.10.8
25. 岩崎信広, 鄭 浩柄, 馬場理江, 佐々木一朗, 山下大祐, 原 茂雄: 小腸浸潤を伴った脱分化型脂肪肉腫の一例. 公益社団法人日本超音波医学会第 49 回関西地方会学術集会, 大阪, 2022.10.8
26. 光行智司, 平本展大, 大野 彩, 西久保雅司, 下村良充, 山本隆介, 永井雄也, 丸岡隼人, 南谷泰仁, 小川誠司, 石川隆之: The allelic ratio calculated by cDNA can stratify the risk subgroups of ELN-2017 among FLT3-ITD AML. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.14
27. 岡田直樹, 永井雄也, 久保茂世, 丸岡隼人, 石井淳子, 吉岡 聡, 米谷 昇, 石川隆之: Tisagenlecleucel CAR T-cell therapy in secondary CNS lymphoma: an institutional experience. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.16

28. 西久保雅司, 下村良充, 丸岡隼人, 奈須聖子, 西岡知美, 崎園賢治, 光行智司, 久保茂世, 岡田直樹, 中川大志, 上條公守, 井本寛東, 山本隆介, 永井雄也, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 宮越千智, 土井朝子, 石川隆之: Humoral response and safety of mRNA COVID-19 vaccines in patients treated with anti-CD20 antibodies. 第 84 回日本血液学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.16
29. 田代章人: 病理標本作製における当院での工夫. 公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 令和 4 年度認定病理検査技師による講習会, WEB 開催, 2022.11.3
30. 中山友理香, 尾松雅仁, 井本秀志, 宮川祥治, 玉木明子, 田代章人, 高田明歩, 山下大祐, 伊丹弘恵, 原 重雄: 高度のアミロイド沈着を伴った膵神経内分泌腫瘍の 1 例. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台, ハイブリッド開催, 2022.11.5
31. 玉木明子, 尾松雅仁, 井本秀志, 田代章人, 中山友理香, 高田明歩, 山下大祐, 伊丹弘恵, 原 重雄: 膵 EUS-FNA で経験した肺類基底細胞型扁平上皮癌膵転移の 1 例. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台, ハイブリッド開催, 2022.11.6
32. 松下隆史: 神経超音波検査で神経切断後の回復過程が観察できた一例. 第 52 回日本臨床神経生理学会学術大会, 第 59 回日本臨床神経生理学会技術講習会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.24
33. 松下隆史, 幸原伸夫, 崎山千尋, 中村真実子, 佐々木一朗: 男女別・年齢別の神経伝導検査の正常異常境界参考値. 第 52 回日本臨床神経生理学会学術大会, 第 59 回日本臨床神経生理学会技術講習会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.25
34. 濱野 葵, 鳥居裕太: 教えて! 赤ペン先生 心エコー検査. ECHO AWAJI CV IMAGING2022, 淡路, WEB 開催, 2022.11.26
35. 鳥居裕太: 褒められる心エコー どやされる心エコー. ECHO AWAJI CV IMAGING2022, 淡路, WEB 開催, 2022.11.26-27
36. 丸岡隼人: AML における遺伝子検査の実際—診断から MRD 評価まで—. ゴスペタシンポジウム, WEB 開催, 2022.11.30
37. 姫野真由子: 血液研修会シニアコース症例検討会, 兵臨技血液検査症例検討会, 兵庫, ハイブリッド開催, 2022.11.30
38. 高田明歩, 白石祐美, 福田真恵, 姫野真由子, 大野 彩, 大山幸永, 丸岡隼人: 悪性リンパ腫におけるスクリーニングパネルを用いたフローサイトメトリーの有用性. 第 61 回日臨技近畿支部医学検査学会, 第 41 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.12.3
39. 高橋光里, 坪井剛史, 浦 修, 前田比奈子, 明石理音, 宮崎あゆみ, 田村克実, 川井順一: ハプトグロビン型判定無し試薬の院内化における基礎検討, 第 61 回日臨技近畿支部医学検査学会, 第 41 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.12.3
40. 白石祐美: シンポジウム VI 血液検査部門・遺伝子検査部門 造血器腫瘍関連検査の未来像～各検査の連携強化～ ③遺伝子検査担当の立場から. 第 61 回日臨技近畿支部医学検査学会, 第 41 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.12.4
41. 濱野 葵, 鳥居裕太, 宮川祥治, 菅沼直生子, 川井順一: Post COVID-19 患者の肺機能検査指標改善に関連する因子についての検討. 第 61 回日臨技近畿支部医学検査学会, 第 41 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.12.4
42. Kubo T, Shimomura Y, Maruoka H, Nagai Y, Kondo T, Ishikawa T: Risk Stratification of Diffuse Large B-Cell Lymphoma Based on Cell Surface Markers Using Flow Cytometry. 64TH ASH ANNUAL MEETING AND EXPOSITION, New Orleans, USA, virtual, 2022.12.10
43. Nishikubo M, Shimomura Y, Yamamoto R, Maruoka H, Nasu S, Nishioka T, Sakizono K, Mitsuyuki S, Kubo T, Okada N, Nakagawa D, Kamiyo K, Imoto H, Nagai Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Kondo T, Ishikawa T: Booster Dose of mRNA-Based COVID-19 Vaccine Induces a Humoral and Cellular Response in Patients Recently Treated with Anti-CD20 Monoclonal Antibodies. 64TH ASH ANNUAL MEETING AND EXPOSITION, New Orleans, USA, virtual, 2022.12.11
44. 西久保雅司, 下村良充, 丸岡隼人, 奈須聖子, 西岡知美, 崎園賢治, 光行智司, 久保茂世, 岡田直樹, 中川大志, 上條公守, 井本寛東, 山本隆介, 永井雄也, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 宮越千智, 土井朝子, 石川隆之: 同種移植後患者における mRNA COVID-19 ワクチン接種後の液性免疫反応及び GVHD 増悪を含めた安全性に関する検討. 血液内科の未来を語る会, Web 開催, 2022.12.12

45. 西久保雅司, 下村良充, 丸岡隼人, 奈須聖子, 西岡知美, 崎園賢治, 光行智司, 久保茂世, 岡田直樹, 中川大志, 上條公守, 井本寛東, 山本隆介, 永井雄也, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 近藤忠一, 宮越千智, 土井朝子, 石川隆之: 抗 CD20 抗体投与歴のある血液疾患患者における mRNA COVID-19 ワクチン 3 回目接種後の液性・細胞性免疫反応に関する検討. 神戸 FL フォーラム, 神戸, 2022.12.16
46. 尾松雅仁: 術中迅速標本作製における工夫～複数施設の標本作製を比較して～. 2022 年度 日臨技近畿支部病理細胞診研修会, WEB 開催, 2022.12.17
47. 田中佑香: 当院における非結核性抗酸菌の検出状況. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.4
48. 牧田実央: Cutibacterium acnes による感染性心内膜炎の 1 例. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.5
49. 西久保雅司, 下村良光, 丸岡隼人, 奈須聖子, 西岡知美, 崎園賢治, 天ヶ瀬寛記, 仲 亮祐, 久保茂世, 光行智司, 山本昌平, 新田彩巴, 岡田直樹, 中川大志, 上條公守, 井本寛東, 山本隆介, 永井雄也, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 近藤忠一, 石川隆之: 同種移植後患者における mRNA COVID-19 ワクチン 2 回接種後の液性免疫反応に関する観察研究. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2023.2.10
50. 山下花南恵, 平島正樹, 吉田昌弘, 丸岡隼人, 中園紘子, 米谷 昇, 石川隆之, 室井延之: CAR-T 細胞療法を支えるチーム医療における薬剤師の役割. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2023.2.12
51. 香原美咲: PTMC の効果をハンドグリップ及びエルゴメータ負荷心エコー図検査で評価した僧帽弁狭窄症の 1 例. The Echo WEB 第 10 回エコーが変わる月 1 回の負荷イイ話サードシーズン 運動負荷心エコーのガッテンとバッテン, Web 開催, 2023.2.21
52. Torii Y, Tani T, Okada T, Kishinaka H, Hamano A, Okazaki A, Kohara M, Ohata J, Matsuoka K, Suganuma N, Miyagawa S, Furukawa Y: Association of Mitral Annular Disjunction and Cardiovascular Events in Barlow's Disease. ACC2023, New Orleans, USA, 2023.3.4
53. 西久保雅司, 下村良充, 丸岡隼人, 奈須聖子, 西岡知美, 崎園賢治, 光行智司, 久保茂世, 岡田直樹, 中川大志, 上條公守, 井本寛東, 山本隆介, 永井雄也, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 宮越千智, 土井朝子, 石川隆之: 抗 CD20 抗体投与歴のある血液疾患患者における mRNA COVID19 ワクチン投与後の免疫反応に関する検討. 臨床疫学スキルアップセミナー 第 17 回関連病院若手勉強会, Web 開催, 2023.3.8
54. 鳥居裕太, 岡田大司, 田谷真佑子, 宮川祥治, 菅沼直生子, 佐々木一朗, 簗輪和士, 谷 知子, 古川 裕: 腓腹筋径を用いた担がん患者における深部静脈血栓退縮効果の検討. 第 87 回日本循環器学会学術集会 (JCS2023), 福岡, ハイブリッド開催, 2023.3.10

VIII. 1. 36 放射線技術部

1. 田邊裕朗, 山下幹子, 山下智之, 伊藤 望, 鈴木順一, 奥内 昇, 小久保雅樹: 新しい皮膚マーク保護シールの物理特性の検証. 第 78 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.14
2. 田邊裕朗, 小山寛之, 馬場健司, 白井優子, 小川敦久, 合田靖司, 今輩倍敏行: 新しい皮膚マーク保護シールの初期経験. 第 78 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.14
3. 名定良祐, 山本滝人, 平光由侑, 安藤久美子, 石蔵礼一: Noise Power Spectrum and Modulation Transfer Function in Deep Learning Based Reconstruction Method. Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB ISMRT 31st Annual Meeting, LONDON, ENGLAND, UK, Hybrid, 2022.5.6
4. 岡田雄基, 大塚 聖, 奥内 昇, 福井達也: 救急 CT 室における新型コロナウイルスに対する必要換気時間算出の新しい解釈. 第 24 回日本医療マネジメント学会学術総会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.7.8
5. 山下幹子, 田邊裕朗, 末岡正輝, 奥内 昇, 福井達也, 小久保雅樹: 深層学習ベース線量分布検証結果予測ソフトウェアの精度評価. 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会, 広島, 2022.11.11
6. 田邊裕朗, 山下幹子, 末岡正輝, 小山寛之, 馬場健司, 白井優子, 里田晃大, 小川敦久, 鈴木順一, 福井達也, 小久保雅樹: 基準ビームデータを用いた放射線治療装置更新の経験. 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会, 広島, 2022.11.12
7. 小川翔士, 今輩倍敏行, 芦田 良, 光吉隆真, 小久保結未, 徳田和樹, 山下幹子, 田邊裕朗, 中岡ミチル, 小久保雅樹: 当院における COVID-19 の放射線治療への影響. 第 54 回京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2023.2.11

8. 小山寛之, 小川敦久, 末岡正輝, 田邊裕朗, 山下幹子, 白井優子, 馬場健司, 中屋 純, 鈴木順一, 野崎隆太, 福井達也, 小久保雅樹: 2D-kV image における胸部撮影条件の最適化と被ばく線量評価. 令和4年度近畿地域診療放射線技師会学術大会, 大津, ハイブリッド開催, 2023.2.12
9. 末岡正輝, 小山寛之, 田邊裕朗, 山下幹子, 野崎隆太, 鈴木順一, 小川敦久, 馬場健司, 白井優子, 中屋 純, 福井達也, 小久保雅樹: 患者固定用シエルの収縮の評価. 2022年度神戸市技師会, WEB開催, 2023.2.24-3.3
10. 木村汐音: アダムキュービッツ撮影における最適な逐次近似再構成法の検討. 2022年度神戸市放射線技師会研究発表会, WEB開催, 2023.2.24-3.3
11. 村田歩美, 山本滝人, 平光由侑, 宇草賢二, 森永由起子, 小林彩友美, 名定良祐: 心筋 T2star 値における基礎的検討. 神戸市技師会研究発表会, WEB開催, 2023.2.24-2023.3.3
12. 泊 祐加, 田中志緒莉, 大黒美鈴: マンモトーム生検結果と読影所見の比較. 神戸市技師会研究発表会, WEB開催, 2023.2.24-3.3
13. 小松冬弥, 山本滝人, 平光由侑, 宇草賢二, 森永由起子, 小林彩友美, 村田歩美, 名定良祐: Philips 社製 3.0T MRI 装置 Ingenia Elition 及び In-bore Experience システムを用いた fMRI におけるタスク呈示法の検討. 神戸市技師会研究発表会, WEB開催, 2023.2.24-3.3
14. 伊勢聖大, 横尾宏之, 岡田雄基: 血管造影装置の線量表示値制度測定に関する基礎的検討. 神戸市技師会研究発表会, WEB開催, 2023.2.24-3.3

VIII. 1. 37 リハビリテーション技術部

1. 北井 豪, 岩田健太郎: キュア神戸の設立目的と心臓疾患がある利用者への支援の在り方を学ぶ. 一般社団法人神戸市ケアマネジャー連絡会総会シンポジウム, 神戸, 2022.6.18
2. 岩田健太郎: 診療報酬改定でさらに広がる早期離床・リハビリテーション「早期離床・リハビリテーションにおけるセラピストの役割」. 第59回日本リハビリテーション医学会学術集会, 横浜, 2022.6.23
3. 岩田健太郎: POST COVID-19 に対するリハビリテーション～急性期から退院後まで～. 山梨県呼吸ケア・リハビリテーション研究会 第22回研修会 ポストコロナ患者のリハビリテーションを学ぼう! オンライン開催, 2022.7.9
4. 岩田健太郎: 超高齢社会における心不全患者のリハビリテーション地域連携について. 京都心不全ネットワーク協議会, 山梨, 2022.7.21
5. 原田惇平: RST と HFNC. 第6回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会, WEB開催, 2022.7.30
6. 山田莞爾, 北井 豪, 岩田健太郎, 西原浩真, 伊藤 翼, 横山璃奈, 稲垣優太, 下雅意崇亨, 本田明広, 高橋哲也, 立川 良, 白川千種, 伊藤次郎, 瀬尾龍太郎, 黒田浩一, 土井朝子, 富井啓介, 幸原伸夫: 人工呼吸を要する重症 COVID-19 患者における ICU-acquired weakness のリスク因子と歩行自立に及ぼす影響. 第44回日本呼吸療法医学会学術集会, 横浜, 2022.8.6-7
7. 岩田健太郎: 超高齢化社会に対応するための組織作りと地域連携Ⅱ. 新潟県理学療法士会中越ブロック研修会(運営編), Zoom開催, 2022.8.20
8. 大塚脩斗, 岩田健太郎, 下雅意崇亨, 前川健一郎, 若田恭介, 野崎惇貴, 滝本龍矢, 大橋啓太, 本田明広, 幸原伸夫: 心疾患患者におけるシームレスなリハビリテーション体制構築に向けた取り組み. 第33回兵庫県理学療法学術大会, 洲本, 2022.8.21
9. 櫻田弘治, 森沢知之, 飯田有輝, 岩田健太郎, 加藤倫卓, 神谷健太郎, 河野裕治, 齊藤正和, 田屋雅信, 舟見 敬成, 高橋哲也: 高齢心不全患者のフレイル実態調査ー日本循環器理学療法学会全国レジストリ中間報告ー. 第6回日本循環器理学療法学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.9.3
10. 山田莞爾, 岩田健太郎, 鄭 浩柄, 横山璃奈, 本田明広, 古川 裕, 幸原伸夫: 肝臓リハビリテーションにより運動耐容能の改善が得られた多発肝細胞癌の1例. 第41回日本臨床運動療法学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.9.4
11. 早川貴行: 急性増悪後の特発性肺繊維症患者に対する作業療法～生きがいの農作業を継続するために～. 第56回日本作業療法学会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.9.17
12. 岩田健太郎: ウィズコロナ時代のリハビリテーション～神戸市立医療センター中央市民病院での取り組み～. 自治体病院協議会, オンライン開催, 2022.9.28
13. 岩田健太郎: 超急性期における理学療法. 秋田県理学療法士会, オンライン開催, 2022.10.1

14. 江口大輔, 井上翔太, 高村大祐, 畠山隼平, 若山将弘, 小野匡祐, 森山英樹: 網羅的 miRNA 発現解析による適度な運動量の指標となる血中 miRNA バイオマーカーの同定. 第 27 回日本基礎理学療法学会学術大会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.10.1-2
15. 李 昌欣, 井上翔太, 畠山隼平, 脇本祥夫, 木村優介, 姜 函林, 高村大祐, 森山英樹: マウスの変形性関節症に対する昇り坂および降り坂トレッドミル運動の効果. 第 27 回日本基礎理学療法学会学術大会, 大阪, 2022.10.1-2
16. 姜 函林, 木村優介, 井上翔太, 李 昌欣, 畠山隼平, 脇本祥夫, 高村大祐, 森山英樹: 異なる強度の運動が認知機能および海馬成体神経新生とシナプス可塑性に与える影響. 第 27 回日本基礎理学療法学会学術大会, 大阪, 2022.10.1-2
17. 巖田光里, 八木優英, 建内宏重, 所 桃花, 市橋則明: Iliocapsularis の作用の検討 -筋伸長による弾性率の変化に着目して-. 第 27 回日本基礎理学療法学会学術大会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.10.1-2
18. 林 美穂, 篠田 琢, 本田明広, 榮 二瑚, 柳田拓也: 重症視神経脊髄炎患者の機能回復を多職種とこまめに情報共有して「している ADL」へと繋げた症例. 第 20 回日本神経理学療法学会学術大会, 大阪, 2022.10.15
19. 原田淳平: HFNC とリハビリテーション. 第 9 回ネーザルハイフロー療法勉強会, 大阪, 2022.11.5
20. 山本暁生, 中本裕之, 山口卓己, 酒井英樹, 金子正博, 大西伸悟, 西馬照明, 澤田 格, 大澤悟志, 石川 朗: 安定期 COPD における 6MWT 中の呼吸数と運動耐容能の関連. 第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2022.11.11
21. 早川貴行, 山田莞爾, 岩前優奈, 若田恭介, 岩田健太郎, 本田明広, 富井啓介, 幸原伸夫: 急性期リハにおける作業療法士の実践. 第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2022.11.11
22. 山田莞爾, 岩田健太郎, 立川 良, 吉村芳弘, 山本暁生, 小野くみ子, 幸原伸夫, 富井啓介, 石川 朗, 北井 豪: 高齢肺炎入院患者の身体フレイルが 6 ヶ月再入院および死亡に及ぼす影響. 第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2022.11.11-12
23. 山田莞爾: 【症例 1】 COVID-19 とリハビリテーション連携～ COVID-19 がもたらした地域の変革～理学療法士の立場から. 第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2022.11.11-12
24. 南本扶美, 崎本史生, 若田恭介, 大塚脩斗, 前川健一郎, 沖山 努: 間質性肺炎の急性増悪後、回復期病棟において自己管理下での身体活動量向上を目指してアプローチした 1 例. 第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2022.11.11-12
25. 田代大祐, 大下紘弥, 松本孝太, 中塚壮佑, 富田 創, 小川真寛: COPD 患者における認知機能障害が作業 (Occupation) へ与える影響. 第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2022.11.11-12
26. 樋口陽美, 森下一樹, 町口 輝, 花田匡利, 石松祐二, 坂本憲穂, 迎 寛, 神津 玲: 間質性肺疾患急性増悪患者の ADL 低下とその関連因子および予後への影響. 第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2022.11.11-12
27. 矢野志帆理, 池内智之, 森 大地, 山口清香, 樋口陽美, 神津 玲, 河野哲也, 一木克之, 津田 徹: COPD 患者の健康寿命に関わる因子の検討. 第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2022.11.11-12
28. 町口 輝, 有藪信一, 俵 祐一, 大曲正樹, 柳田頼英, 樋口陽美, 神津 玲: 間質性肺疾患急性増悪によるフレイルの変化. 第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2022.11.11-12
29. 岩田健太郎: 急性期からの連携. 第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2022.11.12
30. 西原浩真: コロナ禍から学んだ PICS. 第 13 回群馬クリティカルケア研究会, オンライン開催, 2022.11.13
31. 岩田健太郎: 内部障害合併患者に対する急性期病院・在宅リハ一体化プログラム. 第 30 回全道学術研修大会・第 1 回札幌支部学術研修大会, 札幌, ハイブリッド開催, 2022.12.17
32. 大塚脩斗, 前川健一郎, 沖山 努, 岩田健太郎: 心不全ステージ C における実践的な理学療法の展開[第 3 群肺高血圧症を背景とした心不全患者の急性期から回復期リハ病棟における介入]. 第 6 回日本循環器理学療法学会サテライトカンファレンス (症例検討会), WEB 開催, 2023.1.19
33. 大塚脩斗, 前川健一郎, 崎本史生, 沖山 努, 岩田健太郎, 古川 裕, 谷 知子, 東門美代: 右心不全を発症後、回復期リハビリテーション病棟での介入にて ADL 能力が改善した第 3 群肺高血圧症の 1 例. 第 8 回心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会, 神戸, 2023.2.11
34. 前川健一郎, 下雅意崇亨, 金岡 啓, 徳久誠禎, 山下知映, 岩田健太郎, 井澤和夫, 間瀬教史: 回復期リハビリテーション病棟における心臓リハビリテーションの現状と課題～兵庫県アンケート調査より～. 第 8 回心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会, 神戸, 2023.2.11

35. 滝本龍矢, 岩田健太郎, 金島侑司, 大橋啓太, 松林和矢, 秋 在龍, 平松真依子, 野崎惇貴, 村井亮介, 古川 裕: 早期の退院支援介入が入院関連機能障害を生じた急性心不全患者の転帰に及ぼす影響. 第8回日本心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会, 神戸, 2023.2.11
36. 赤井翔子: 誘因なく急速に進行した変形性股関節症患者の緊急人工股関節置換術前後の理学療法. 令和4年度兵庫県理学療法士会神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2023.2.19
37. 朝山尚子: 右脛骨近位端骨折の症例に対する痛みの破局的思考を考慮した理学療法. 令和4年度兵庫県理学療法士会神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2023.2.19
38. 杉本 凌: ヱネイル法術後に経カテーテル大動脈弁置換術を施行し介入の工夫で自宅退院した一例. 令和4年度兵庫県理学療法士会神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2023.2.19
39. 吉原 凌: 被殻出血により座位および立位保持困難な患者がトイレでの排泄を達成した症例. 令和4年度兵庫県理学療法士会神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2023.2.19
40. 上田仁美: 延髄外側梗塞による姿勢定位障害に着目し歩行器歩行自立に至った症例. 令和4年度兵庫県理学療法士会神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2023.2.19
41. 一原朋妙: 視床出血による姿勢定位障害に対し自覚的視性垂直代償がトイレ動作獲得に寄与した症例. 令和4年度兵庫県理学療法士会神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2023.2.19
42. 小野匡祐: 高齢発症の重症ギランバレー症候群を呈した患者が座位保持獲得を目指した症例. 令和4年度兵庫県理学療法士会神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2023.2.19
43. 佐々木勇人: HOPE「歩けるようになりたい」を叶えるために — 脊髄長大病変を呈した一例 —. 令和4年度兵庫県理学療法士会神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2023.2.19
44. 高橋朋弥: 転倒を繰り返す急性期脳卒中患者への転倒予防 — 自己効力感と周囲環境に着目した一例 —. 令和4年度兵庫県理学療法士会神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2023.2.19
45. 所 桃花: ICTによる地域連携で運動療法を継続し運動耐容能と活動性が向上したCOPDの1例. 令和4年度兵庫県理学療法士会神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2023.2.19
46. 岩本浩司: 患者教育により入院期間中の身体活動量改善を認めた間質性肺炎急性増悪の1例. 令和4年度兵庫県理学療法士会神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2023.2.19
47. 久保田絢子, 里路光太郎, 白川千種, 大内謙二郎, 野崎惇貴, 岩本昌子, 木下 恵, 土肥麻貴子: ICU退室後患者のPTSDスクリーニングとしてのIES-6の有効性の検討. 第50回日本集中治療医学会, 京都, 2023.3.3
48. 里路光太郎, 大内謙二郎, 岩本昌子, 木下 恵, 土肥麻貴子, 野崎惇貴: ICU退室後患者の不安・抑うつ, PTSD発症についての実態調査. 第50回日本集中治療学会, 京都, 2023.3.3
49. 野崎惇貴, 岩田健太郎, 久保田絢子, 里路光太郎, 岩本昌子, 木下 恵, 土肥麻貴子, 大内謙二郎: ICU患者の退院時と2ヶ月後の外来受診時のPICSの変化について. 第50回日本集中治療医学会, 京都, 2023.3.4
50. 木下 恵, 土肥麻貴子, 岩本昌子, 久保田絢子, 里路光太郎, 野崎惇貴, 大内謙二郎, 室井延之: ICU退室後患者への薬剤師の介入に関する調査. 第50回日本集中治療医学会, 京都, 2023.3.4
51. 岩田健太郎: 地域における理学療法士の価値「第1部 疾病構造の変化に対応した理学療法の展開—求められる臨床スキルと人材育成—. 第28回千葉県理学療法士会学術大会, 東金, 2023.3.5
52. 岩田健太郎, 北井 豪, 村井亮介, 立川 良, 尾原信行, 谷 知子, 小林成美, 井澤和大, 山根光量, 富井啓介, 古川 裕, 幸原伸夫, 細谷 亮: コロナ禍の中で進める新たな地域連携 ~ CURE-KOBEでの理学療法士の立場から. 第87回日本循環器学会学術集会 (JCS2023), 福岡, 2023.3.10
53. 鷲澤玲央, 岩田健太郎, 滝本龍矢, 稲垣優太, 前川侑宏, 佐藤大地, 生田智也, 高橋朋弥, 佐々木勇人, 幸原伸夫, 椿 淳裕: 心大血管外科手術後患者の心肺運動負荷試験中の脳酸素飽和度の変化. 第21回日本電気生理運動学会大会, 第9回計測自動制御学会電気生理運動学部会研究会, 牧方, 2023.3.12
54. 高村大祐, 岩田健太郎, 幸原伸夫, 森山英樹: 食道癌手術に伴うサルコペニアの新規発症率および関連因子と、骨格筋量低下に関連する因子の検討. 第11回日本がんにリハビリテーション研究会, 名古屋, 2023.3.12
55. 阿部拓郎, 重城健太郎, 前田大智, 岩田健太郎, 小西正紹, 北井 豪, 葛西隆敏, 和田 浩, 百村伸一, 鍵山暢之, 神谷健太郎, 前川恵美, 末永祐哉: Overlap of Frailty and Malnutrition as a Potent Prognosticator in Elderly Patients with Heart Failure -Multicenter Prospective Cohort-. 第87回日本循環器学会学術集会 (JCS2023), 福岡, 2023.3.12
56. 砂山 勉, 末永祐哉, 葛西隆敏, 比企 誠, 神谷健太郎, 斎藤 洋, 斎藤和也, 小笠原由紀, 前川恵美, 小西正紹, 北井 豪, 岩田健太郎, 重城健太郎, 和田 浩, 長松祐史, 小澤哲也, 百村伸一, 鍵山暢之, 伊部達郎, 山崎佐枝子, 岡 和博, 南野 徹: The Pattern of Muscle Mass Wasting in Elderly Patients with HF is Associated with Mortality: Insight from FRAGILE-HF. 第87回日本循環器学会学術集会 (JCS2023), 福岡, 2023.3.12

57. 岩田健太郎：非侵襲的陽圧換気療法とリハビリテーション．第2回NKV Clinical Support Meeting，大阪，2023.3.18
58. 大橋啓太，岩田健太郎，山田莞爾，吉村芳弘，野崎惇貴，山本暁生，小野くみ子，本田明広，北井 豪，吉本明弘，幸原伸夫，石川 朗：緊急入院となった高齢保存期慢性腎臓病患者における全身性炎症と日常生活活動の関連．第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会，さいたま，2023.3.18-19
59. 岩田健太郎：心不全患者への支援と多職種連携について．ながサポクラブ・長田区ケアマネジャー連絡会，神戸，ハイブリッド開催，2023.3.30

VIII. 1. 38 臨床工学技術部

1. 高橋哲哉，中村 聡，越村之貴，池淵拓実，畑 秀治，坂地一朗：在宅ハイフローセラピー導入時の取組み，ネーザルハイフロー療法勉強会，大阪，2022.11.5
2. 山田恭二，吉田一貴，中村悟士，高岡循子，伊藤龍人，坂地一朗，石倉正大，佐々木康弘，小堀敦志，古川裕：肺静脈隔離における生理的なブロックライン検出と有効性の検証．カテーテルアブレーション関連秋季大会2022，新潟，2022.11.25
3. 中園紘子，永井雄也，新田彩巴，下村良充，米谷 昇，釜江直也，原園 裕，坂地一朗，石川隆之：寒冷凝集素症を伴うDLBCLに対し，CAR-T療法を目的にリンパ球採取を施行した一例．第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会，名古屋，ハイブリッド開催，2023.2.11
4. 高岡循子，小堀敦志，佐々木康博，石倉正弘，吉田一貴，中村悟士，山田恭二，伊藤龍人，中尾美紀，大高百々乃，坂地一朗，古川裕：COHERENT mapとLocal Activation Time mapによる肺静脈隔離における生理的ブロックラインの描出能検討．第87回日本循環器学会学術集会（JCS2023），福岡，ハイブリッド開催，2023.3.10

VIII. 1. 39 栄養管理部

1. 杉岡ふみ子，竹中麻理子，岩坂朋子，岩本昌子，伊藤美紀子：入院患者の入院前栄養スクリーニングの有効性の検討．第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会（JSPEN2022），横浜，ハイブリッド開催，2022.5.31
2. 伊藤次郎，土肥麻貴子，楠田かおり，藤田和美，茨木まどか，室井延之，西岡弘晶，東別府直紀：電子カルテの院内開発システムを利用したTPNサーベイランス体制の導入．第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会（JSPEN2022），横浜，ハイブリッド開催，2022.6.1
3. 中林瑞保：ILDチーム医療の実際～包括的ケアを目指して～．呼吸器疾患セミナー，熊本，ハイブリッド開催，2022.6.23
4. 岩本昌子：コロナ禍での病院の給食栄養管理について．令和4年度神戸市特定給食施設種別研修会，WEB開催，2022.7.22
5. 中林瑞保：当院におけるILD患者への栄養介入．間質性肺疾患多職種連携セミナー，大阪，ハイブリッド開催，2022.9.9
6. 久保田絢子，里路光太郎，白川千種，宮越千智，大内謙二郎，野崎惇貴，岩本昌子，木下 恵，土肥麻貴子：ICU退室後患者のPTSDスクリーニングとしてのIES-6の有効性の検討．第50回日本集中治療医学会学術集会，京都，ハイブリッド開催，2023.3.3
7. 里路光太郎，大内謙二郎，岩本昌子，木下 恵，土肥麻貴子，野崎惇貴：ICU退室後患者の不安・抑うつ，PTSD発症についての実態調査．第50回日本集中治療医学会学術集会，京都，ハイブリッド開催，2023.3.3
8. 木下 恵，土肥麻貴子，岩本昌子，久保田絢子，里路光太郎，野崎惇貴，大内謙二郎，室井延之：ICU退室後患者への薬剤師の介入に関する調査．第50回日本集中治療医学会学術集会，京都，ハイブリッド開催，2023.3.4
9. 野崎惇貴，岩田健太郎，久保田絢子，里路光太郎，岩本昌子，木下 恵，土肥麻貴子，大内謙二郎：ICU患者の退院時と2ヶ月後外来受診時のPICSの変化について．第50回日本集中治療医学会学術集会，京都，ハイブリッド開催，2023.3.4

VIII. 1. 40 臨床研究推進センター 研究部門 再生医療研究部

1. 森實飛鳥：多能性幹細胞からのドパミン神経分化誘導とその応用．日本組織培養学会第94回大会，豊中，ハイブリッド開催，2022.7.7
2. 森實飛鳥，高橋 淳：パーキンソン病再生医療における免疫制御．第22回日本再生医療学会総会，京都，2023.3.24

3. Morizane A : Monitoring graft survival and immune response in cell replacement therapy for Parkinson's disease. 17th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases (AD/PDTM2023), Gothenburg, Sweden, ハイブリッド開催, 2023.3.29

VIII. 1. 41 臨床研究推進センター 分子イメージング研究部

1. Ohnishi A, Akamatsu G, Ikari Y, Nishida H, Shimizu K, Matsumoto K, Aita K, Sasaki M, Senda M : Exploratory evaluation of brain accumulation pattern and degree of a novel tau PET tracer [¹⁸F] MK6240 in Japanese patients with mild Alzheimer's disease. The 13th congress of the World Federation of Nuclear Medicine and Biology (WFNMB2022), 京都, Hybrid, 2022.9.7
2. 松本圭一, 清水敬二, 岡田乃栄, 岡田嘉子, 菊澤梨花, 武田こまち, 遠藤啓吾 : 斜めに配置した円筒型ファントムを用いた SPECT 空間分解能測定の妥当性. 第 62 回日本核医学会学術総会, 第 42 回日本核医学技術学会総会学術大会, 京都, 2022.9.9
3. Akamatsu G, Ohnishi A, Ikari Y, Nishida H, Shimizu K, Matsumoto K, Aita K, Sasaki M, Yamane T, Senda M : Japanese activities for standardization of quantitative PET imaging. The 13th congress of the World Federation of Nuclear Medicine and Biology (WFNMB2022), 京都, Hybrid, 2022.9.9
4. Senda M : Value and challenges of harmonization in whole-body FDG-PET. The 13th congress of the World Federation of Nuclear Medicine and Biology (WFNMB2022), 京都, Hybrid, 2022.9.10
5. 山根登茂彦 : PET 検査の実施に必要な設備や規制 - デリバリー PET から O-15 酸素標識ガス PET まで -. 第 52 回日本神経放射線学会, 東京, ハイブリッド開催, 2023.2.17

VIII. 1. 42 臨床研究推進センター 脳血管治療研究部

1. 坂井信幸 : 脳動脈瘤に対する血管内治療の来し方行く末. 山口脳血管内治療研究会, 山口, 2022.4.18
2. Sakai N, Ohta T, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Takano H, Haruyama H, Asakura K, Horii R, Teranichi K, Nakajima K, Yamamoto Y, Nishii R, Iwasaki A, Kawade S, Imamura H, Sakai C : Neurointervention in Intracranial Neoplasms Indication and Experience. ASNR/SNR XXII (invited lecturw), Toronto, Canada, Hybrid, 2022.5.16
3. 坂井信幸 : 循環器病対策基本法に基づく脳卒中対策一兵庫県の取り組み. 兵庫県循環器病対策推進計画講演会, WEB 開催, 2022.5.31
4. 坂井信幸 : 新しい時代のくも膜下出血治療 ピヴラッツの登場を受けて. SAH ネットワーク Meeting in Nadogaya, WEB 開催, 2022.6.20
5. 坂井信幸 : 新しい時代のくも膜下出血治療 ピヴラッツの登場を受けて. ピヴラッツ点滴静注発売記念講演会 in 和歌山, WEB 開催, 2022.6.25
6. 坂井信幸, 山上 宏, 藤本 茂, 榎本由貴子, 吉村紳一, 飯原弘二, 松丸祐司, 佐藤 徹, 石井 暁, 今村博敏, 太田剛史, 尾原信行, 坂井千秋 : 脳血管内治療における抗血栓療法—国内登録研究 (JR-NET) 報告を中心に. 第 31 回日本脳ドック学会総会, 神奈川, ハイブリッド開催, 2022.6.24
7. 坂井信幸, 坂井千秋 : 脳血管内治療領域の医療機器登録システムの構築と運用. Healthcare AI Platform Collaboration Innovation Partnership 講演会, WEB 開催, 2022.7.14
8. 坂井信幸 : CAS (頸動脈ステント留置術) における画像の応用. 第 28 回先端医用画像研究会, 神戸, 2022.7.15
9. 坂井信幸 : 脳血管内治療の過去・現在・未来. 第 3 回日本脳神経内科血管治療研究会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.8.7
10. 坂井信幸 : 新しい時代のくも膜下出血治療 ピヴラッツの登場を受けて. SAH Expert Meeting in Shiga, WEB 開催, 2022.9.9
11. Sakai N, Yoshimoto T, Yamagami H, Toyoda K, Ohara N, Imamura H, Ohta T, Sakai C, Hirano T, Hashimoto Y, Ogasawara K, Miyamoto S, MHLW Science Research Grant 2022-2022, Acute Stroke Research Group : COVID19 and stroke in Japan. The 10th Korea-Japan Joint Stroke Conference (第 10 韓日合同脳卒中カンファレンス), WEB 開催, 2022.9.18

12. Sakai N, Imamura H, Fukui N, Sunohara T, Fukumitsu R, Goto M, Koyanagi M, Ohta T, Sakai C : Pulse rider-assited coil embolization *Virtual presentation. 6th Bi-Neurovascular Symposium, Busan, Korea, WEB 開催, 2022.9.24
13. Sakai N, Ohara H, Ohta T, Sakai C, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Fujiwara S, Maekawa K, Takasugi J : Mechanical thrombectomy for MeVO in Japan. Collaterals2022. Los Angeles, USA, WEB 開催, 2022.11.6
14. 坂井信幸 : 新しい時代のくも膜下出血治療 ピヴラッツの登場を受けて. HOKKAIDO SAH Expert WEB Meeting, 札幌, WEB 開催, 2022.11.8
15. 坂井信幸 : 我が国の頸動脈ステント留置術のこれまでの歩みと今後. 第 38 回日本脳神経血管内治療学会学術集会大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.10
16. Sakai N, Ohara H, Ohta T, Sakai C, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Fujiwara S, Maekawa K, Takasugi J : Mechanical thrombectomy for MeVO using small stent retriever. CLOTS 7.0, Madrid, Spain, 2022.12.9
17. Sakai N, Yoshimura S, Yamagami H, RESCUE-Japan Limit Investigators : RESCUE-Japan LIMIT - RCT showing effectiveness of EVT for large ischemic core. OCIN 2022, Shanghai, China, Hybrid, 2022.12.15
18. 坂井信幸, 今村博敏, 内田和孝, 太田貴裕, 太田剛史, 木村和美, 鈴木健太郎, 早川幹人, 松丸祐司, 山上 宏, 横田裕行, 吉村紳一, 横堀奨司, 小笠原邦昭, 藤本 茂 : 救急活動における LVO スケールの標準化に向けた研究成果. 令和 4 年度第 2 回全国メディカルコントロール協議会連絡会, 広島, ハイブリッド開催, 2023.1.27
19. 坂井信幸, 石井 暁, 伊藤 靖, 今村博敏, 江面正幸, 大石英則, 杉生憲志, 寺田友昭, 東登志夫, 兵頭明夫, 藤中俊之, 松丸祐司, 松本康史, 宮地 茂, 吉村紳一, 小笠原邦昭, 北川一夫, 小林繁樹, 太田剛史, 坂井千秋 : Pipeline Embolization Device 国内初期悉皆登録研究 (FLOWER JAPAN) の結果報告. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.16
20. 坂井信幸, 石井 暁, 伊藤 靖, 今村博敏, 江面正幸, 大石英則, 杉生憲志, 寺田友昭, 東登志夫, 兵頭明夫, 藤中俊之, 松丸祐司, 松本康史, 宮地 茂, 吉村紳一, 小笠原邦昭, 北川一夫, 小林繁樹, 太田剛史, 坂井千秋 : PIPELINETM Flex の国内登録研究 FLOWER Japan Registry1,000 例の結果, STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.16
21. 坂井信幸, 宮地 茂, 松丸祐司, 吉村紳一, 石井 暁 : 脳血管内治療の技術認定医・指導医制度の現状と今後. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.16
22. 坂井信幸, 今村博敏, 大村佳大, 小柳正臣, 後藤正憲, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 高野裕樹, 中嶋広太, 椛本悠嗣, 山元康弘, 西井陸大, 岩崎朗奈, 寺西邦匡, 川出智大, 坂井千秋, 太田剛史, 佐藤 徹 : 脳血管内治療の長期成績・QOL—脳動脈瘤・頸動脈狭窄症. STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.16
23. 尾原信行, 高杉純司, 藤原 悟, 前川嵩太, 太田剛史 : 都市型脳卒中ハイボリュームセンターに求められる役割 (コロナ禍の現状も含めて). STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.16
24. 坂井信幸, 岩間 亨, 宇野昌明, 小笠原邦昭, 岡田 靖, 木村和美, 黒田 敏, 後藤 励, 塩川芳昭, 高木康志, 富永悌二, 豊田一則, 橋本洋一郎, 松丸祐司, 宮本 享, 吉村紳一, 平野照之, 藤本 茂, 山上 宏, 今村博敏, 尾原信行, 太田剛史, 坂井千秋 : STROKE2023, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.3.18

VIII. 1. 43 臨床研究推進センター 管理支援部門 管理支援室

1. 興津美由紀 : PhRMA/EFPIA Japan 共催セミナー 2 それって、Critical (重要) ?? ~今求められる Quality と RBM の意味について、共に考えよう~. 第 22 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議, 新潟, ハイブリッド開催, 2022.9.17
2. 義平祥菜, 玉木理衣, 山田留美, 上武千晶, 高原美会子, 表日登美, 熊谷佐代子, 興津美由紀, 室井延之, 橋田 亨 : OJT プログラムに基づく評価シートを使用した教育プログラムの導入の評価. 第 22 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議, 新潟, ハイブリッド開催, 2022.9.17-18
3. 小田稔彦, 興津美由紀, 熊谷佐代子, 室井延之, 荒木賢二, 橋田 亨 : 千年カルテプロジェクトを活用した医療機関での治験スクリーニングの有用性に関する実証研究. 第 42 回医療情報学連合大会, 札幌, ハイブリッド開催, 2022.11.19

Ⅷ. 2 西市民病院

Ⅷ. 2.1 消化器内科

1. 山田 聡, 星 充, 高田真理子, 住友靖彦, 山下幸政:寛解期潰瘍性大腸炎における再燃予測因子の検討. 第 109 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.11.5
2. 山田 聡, 星 充, 高田真理子, 山下幸政:炎症性腸疾患治療 up to date 寛解期潰瘍性大腸炎における再燃予測因子の検討. 第 118 回日本消化器病学会近畿支部例会, 第 71 回教育講演会, 第 24 回専門医セミナー, 京都, 2023.1.21

Ⅷ. 2.2 呼吸器内科

1. 金子正博:内科救急セミナー 内科救急のポイント:急性呼吸不全. 第 119 回日本内科学会講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.15-17
2. 富岡洋海, 横田 真, 橋本梨花, 網本久敬, 金子正博, 藤井 宏:ニンテグニブ投与中の線維化性間質性肺炎患者における体重変化. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.22-24
3. 李 正道, 岩林正明, 横田 真, 橋本梨花, 網本久敬, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海:COVID-19 流行期における非 COVID-19 肺炎入院症例の検討. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.22-24
4. 中西智子, 半田知宏, 鎌谷洋一郎, 長崎正朗, 谷澤公伸, 村瀬裕子, 田口善夫, 橋本成修, 富井啓介, 富岡洋海, 佐藤陽子, 宇山倫弘, 北 英夫, 荒井直樹, 有田真知子, 土谷美知子, 河村哲治, 江村正仁, 陳 和夫, 伊達洋至, 平井豊博, 松田文彦:線維化性間質性肺疾患における遺伝的背景の人種及び疾患横断的検討. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.22-24
5. 藤澤朋幸, 秋山訓通, 宮下光令, 森 雅紀, 森田達也, 松田能宣, 小谷内敬史, 萩本 聡, 立川 良, 富井啓介, 近藤康博, 富岡洋海, 井上義一, 須田隆文:間質性肺疾患における緩和ケアの現状と課題 - 全国呼吸器専門医アンケート調査 -. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.22-24
6. 秋山訓通, 藤澤朋幸, 宮下光令, 森 雅紀, 森田達也, 松田能宣, 小谷内敬史, 萩本 聡, 立川 良, 富井啓介, 近藤康博, 富岡洋海, 井上義一, 須田隆文:特発性肺線維症急性増悪患者の呼吸困難に対するケアと終末期意思決定に関する全国呼吸器専門医アンケート調査. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.22-24
7. 林 康之, 伊藤功朗, 小嶋 徹, 富井啓介, 中川 淳, 大塚浩二郎, 杉田孝和, 福井基成, 井上大生, 長谷川吉則, 安井浩明, 藤田浩平, 石田 直, 伊藤明広, 北 英夫, 加持雄介, 土谷美知子, 富岡洋海, 西村尚志, 平林正孝, 遠藤和夫, 江村正仁, 山本舜悟, 塚尾仁一, 平井豊博:クラスター解析による新型コロナウイルス患者の分類. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.22-24
8. 大井一成, 伊藤功朗, 富井啓介, 江村正仁, 遠藤和夫, 杉田孝和, 長谷川吉則, 高橋憲一, 北 英夫, 小嶋徹, 土谷美知子, 山田 孝, 福井基成, 富岡洋海, 藤田浩平, 中治仁志, 赤井雅也, 西村尚志, 大塚浩二郎, 安井浩明, 石田 直, 加持雄介, 寺田 悟, 瀨尾信叔, 平井豊博:レムデシビル/ステロイド療法の本邦の新型コロナ肺炎に対する有効性の検討. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.22-24
9. 富岡洋海:過敏性肺炎診療指針 2022:治療に関するエビデンスと課題. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.22
10. 富岡洋海:特発性間質性肺炎 診断と治療の手引きの改訂のポイント. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.4.24
11. 藤井 宏:肺 MAC 症に対する吸入リボソーム化アミカシン (アリケイス®吸入液 590mg) の使用経験. 肺 MAC 症セミナー in 神戸 - 増加する肺 MAC 症診療について考える -, 神戸, WEB 開催, 2022.5.14
12. 富岡洋海:慢性線維化性間質性肺炎と肺気腫について. 近畿間質性肺疾患フォーラム, 大阪, WEB 開催, 2022.5.27
13. 富岡洋海:実地診療における間質性肺炎診療のポイント:特発性肺線維症 (IPF) からコロナまで. 灘区医師会生涯教育講演会, 神戸, 2022.5.17
14. 富岡洋海:ILD の病態生理と治療:特発性肺線維症 (IPF) を中心に. 兵庫 COPD・ILD・呼吸リハビリテーション講習会, WEB 開催, 2022.6.11

15. 壺井和幸, 安部武生, 田村誠朗, 松尾健二郎, 藤井 宏, 富岡洋海: 急性ループ肺炎および血球貪食症候群の合併が疑われた全身性エリテマトーデスの1例. 日本内科学会第236回近畿地方会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.6.25
16. 瀧口純司, 藤井 宏, 富岡洋海, 藤山理世, 楠 信也, 有川健太郎, 岩本朋忠: 当院における外国生まれ結核患者の検討. 第97回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会, 旭川, 2022.7.1
17. 藤井 宏, 瀧口純司, 金子正博, 富岡洋海: コロナ禍における結核診療への影響について 当院の症例の検討から. 第97回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会, 旭川, 2022.7.1
18. 嘉祥敬宇, 富岡洋海, 横田 真, 橋本梨花, 網本久敬, 瀧口純司, 金子正博, 藤井 宏, 壺井和幸, 濱崎健弥: COVID-19罹患を契機に診断された臨床的無筋症性皮膚筋炎(CADM)の1例. 第129回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会, 第99回日本呼吸器学会近畿地方会合同学会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.7.23
19. 橋本梨花, 岩林正明, 李 正道, 横田 真, 網本久敬, 田畑論子, 渡邊周平, 山田 聡, 瀧口純司, 薬師神公和, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海: びまん性肺胞隔壁型の肺病変を呈した原発性全身性アミロイドーシスの一例. 第129回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会, 第99回日本呼吸器学会近畿地方会合同学会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.7.23
20. 岩林正明, 富岡洋海, 李 正道, 横田 真, 橋本梨花, 網本久敬, 瀧口純司, 金子正博, 藤井 宏, 八木田隼啓, 中村維文, 勝山栄治, 河端美則: 皮疹を伴い、健診で発見されたびまん性肺疾患の1例. 第158回びまん性肺疾患研究会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.8.27
21. 富岡洋海, 河端美則: 線維性過敏性肺炎と膠原病(関節リウマチ)合併の1例. 第13回大阪呼吸器疾患シンポジウム, 大阪, WEB開催, 2022.8.28
22. 瀧口純司: 西市民病院で経験した外国出生患者について. 神戸市結核対策研修会, 神戸, 2022.9.3
23. R, Okuda T, Ogura N, Ishikawa T, Suda N, Arai T, Takihara M, Hamaguchi Y, Kondoh M, Toyoshima K, Tomii M, Abe M, Kato M, Kagajo Y, Shimizu H, Tomioka K, Kawamura K, Honda Y, Nishioka M, Tanigawa H, Chiba S, Izumi K, Tobino H, Yamauchi T, Kawamura M, Inomata K, Usui H, Ohkubo H, Matsushima Y, Oyamada T, Jokoh T, Arai T, Iwasawa F, Sakai S, Morita N, Ichihara T, Nukiwa K, Kobayashi, JIPS RegistryMembers: Nationwide prospective registry of idiopathic interstitial pneumonias with central multidisciplinary diagnosis in Japan (JIPS Registry): Analysis of disease progression. ERS InternationalCongress2022, Barcelona, Spain, Hybrid, 2022.9.4-6
24. 富岡洋海: IPF診断と抗線維化薬治療におけるInformed Consentのポイント. オフェブILD Web Academy, WEB開催, 2022.9.20
25. 金子正博: 喘息診療における薬剤選択. エナジア発売2周年記念講演会 日常生活に役立つ喘息治療, 2022.10.6
26. 富岡洋海, 岩林正明, 李 正道, 横田 真, 橋本梨花, 網本久敬, 瀧口純司, 金子正博, 藤井 宏: 当院サルコイドーシス患者におけるSmall Fiber Neuropathy Screening List (SFNSL)評価. 第42回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会 (JSSOG2022), 長野, ハイブリッド開催, 2022.10.8
27. 橋本梨花: 生物学的製剤を導入した難治性喘息3例の検討〜アルゴリズムをふまえて〜. 神宝喘息セミナー, WEB開催, 2022.10.12
28. 横田 真: IgG4高値を呈した中皮腫の一例. 第11回神戸呼吸器科若手医師勉強会, 2022.10.14
29. 富岡洋海: 間質性肺炎/肺線維症の治療. 第10回間質性肺炎/肺線維症勉強会, WEB開催, 2022.10.15
30. 富岡洋海: 特発性肺線維症(IPF)診療における担当医師の疾患理解及びコミュニケーションに対する意識調査. SSc Scientific Exchange Meeting, WEB開催, 2022.10.16
31. 富岡洋海: 過敏性肺炎診療指針2022. WEB講演会過敏性肺炎診療指針2022, 大阪, 2022.10.19
32. 竹内ひかる, 横田 真, 橋本梨花, 網本久敬, 瀧口純司, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海: Streptococcus anginosus groupによる胸膜炎/膿胸症例の検討. 第92回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 第65回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 第70回日本化学療法学会西日本支部総会 合同学会, 長崎, 2022.11.4
33. 前田拓哉, 瀧口純司, 藤井 宏, 富岡洋海, 濱崎健弥: 最近、当院で経験した関節リウマチに合併した粟粒結核の2例. 第92回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 第65回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 第70回日本化学療法学会西日本支部総会, 長崎, 2022.11.4
34. 藤井 宏, 瀧口純司, 富岡洋海: 薬物相互作用が問題となった肺MAC症・慢性進行性肺アスペルギルス症(CPPA)併存の1症例. 第92回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 第65回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 第70回日本化学療法学会西日本支部総会, 長崎, 2022.11.4

35. 藤井 宏：睡眠時無呼吸症候群について とくに脳卒中への治療介入の可能性の観点から．第 19 回脳神経カンファレンス，神戸，2022.11.15
36. 金子正博：最新の重症喘息治療について，神戸中央喘息セミナー，神戸，2022.11.17
37. 富岡洋海：過敏性肺炎診療指針 2022. Seaside Interstitial Lung Disease Seminar，神戸，2022.12.2
38. 網本久敬，岩林正明，横田 真，橋本梨花，瀧口純司，金子正博，藤井 宏，富岡洋海，三瀬昌宏：乳腺結核の一例．第 100 回日本呼吸器学会近畿地方会，第 130 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会合同学会，大阪，2022.12.17
39. 森本健太郎，瀧口純司，岩林正明，横田 真，橋本梨花，網本久敬，金子正博，藤井 宏，富岡洋海：右乳癌放射線治療後に照射野外放射線肺臓炎をきたした 1 例．第 100 回日本呼吸器学会近畿地方会，第 130 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 合同学会，大阪，2022.12.17
40. 富岡洋海：サルコイドーシスの診断と治療～サルコイドーシスとのお付き合い～．サルコイドーシス医療講演会・交流会，和歌山，2022.12.18
41. 金子正博：最新の重症喘息治療について．医療センター喘息講演会，2022.12.22
42. 浅田友啓，富岡洋海，岩林正明，横田 真，橋本梨花，網本久敬，瀧口純司，金子正博，藤井 宏，上原栄理子，勝山栄治，河端美則：亜急性の経過で進行する呼吸困難で受診したびまん性肺疾患の 1 例．第 159 回びまん性肺疾患研究会，大阪，ハイブリッド開催，2023.2.25
43. 山下修司，富岡洋海，徳重康介，岩林正明，横田 真，橋本梨花，網本久敬，瀧口純司，金子正博，藤井 宏，松井優悟，竹尾正彦，勝山栄治：著明な胸膜病変を認めたサルコイドーシスの 1 例．第 19 回近畿サルコイドーシス／肉芽腫性疾患研究会，大阪，ハイブリッド開催，2023.2.25

VIII. 2.3 リウマチ・膠原病内科

1. 壺井和幸，安部武生，田村誠朗，松尾健二郎，藤井 宏，富岡洋海：急性ループス肺炎および血球貪食症候群の合併が疑われた全身性エリテマトーデスの 1 例．日本内科学会第 236 回近畿地方会，神戸，ハイブリッド開催，2022.6.25
2. 壺井和幸，岩谷真季，安部武生，田村誠朗，北野将康，松井 聖，小西弘起：当院における関節リウマチ 37 例に対するフィルゴチニブの有効性と安全性の検討．第 31 回日本リウマチ学会 近畿支部学術集会，神戸，ハイブリッド開催，2022.9.3-4
3. 高木悠芽，岩谷真季，壺井和幸，梅本大地，浅田友啓，浜崎健弥，王 康治，小西弘起：成人発症スチル病の再燃時に感染性心内膜炎の併発が判明した 1 例．日本内科学会第 237 回近畿地方会，豊中，ハイブリッド開催，2022.9.10
4. 杉村竜太郎，壺井和幸，小西弘起，浜崎健弥，王 康治，佐伯美紀，渡部まりか，松本咲耶，北尾章人，薬師神公和：成人発症スチル病の経過中に急性骨髄性白血病を発症した 1 例．日本内科学会 238 回近畿地方会，WEB 開催，2022.12.10

VIII. 2.4 循環器内科

1. 嘉祥敬字，田畑諭子，高橋明広，永野雄一郎：サクビトリルバルサルタン（ARNI）と少量アミオダロンが有効だった心不全の 1 例．日本内科学会第 236 回近畿地方会，神戸，ハイブリッド開催，2022.6.25

VIII. 2.5 腎臓内科

1. 隈元宣行，渡邊周平，泉 昂佑，川勝拓也，平井俊行，原 明子，瀧口梨愛，西 慎一：敗血症性ショックに伴う急性腎障害と腹部大動脈石灰化指数の関連についての検討．第 65 回日本腎臓学会学術総会，神戸，2022.6.12
2. 安達尚吾，渡邊周平，西願まどか，隈元宣行，原 明子，瀧口梨愛：Mycobacterium fortuitum による腹膜透析カテーテル感染症を来した一例．第 52 回日本腎臓学会西部学術大会，熊本，2022.11.18

VIII. 2.6 糖尿病・内分泌内科

1. 中村武寛：小規模事業所への出張糖尿病検査による糖尿病重症化予防の試み．第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会，神戸，2022.5.12

2. 中村武寛：コロナ禍で「くすり」にできることは？～今こそ一緒に糖尿病治療薬を再考する～. Pharmacy Web Seminar in 長田・兵庫, 神戸, 2022.5.24
3. 中村武寛：生活習慣病を予防する方法とは？～元気で機嫌よく長生きするために～. 南須磨公民館春季講座, 神戸, 2022.6.14
4. 中村武寛：地域で2型糖尿病患者さんを「みつける」「つなげる」「つづける」には？第12回明日から役立つ糖尿病勉強会, 神戸, 2022.6.15
5. 中村武寛, 川口麻衣, 巽 弥生, 岩路かをり, 高原衣里子：“生きづらさ”とセルフケア支援—多職種による協働の実践—. 第27回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.9.17
6. 中村武寛：これから本当に必要とされる多職種連携とは～中規模急性期病院における糖尿病チームの取り組み～. 第164回糖尿病教育学習研究会（トップセミナー）・第203回IIDES糖尿病研究会, 第138回CDE兵庫県連合会研究会 合同研究会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.9.24
7. 中村武寛：知っ得！納得！！糖尿病！！第7回リフレッシュセミナー, 神戸, 2022.10.14
8. 中村武寛：糖尿病合併症から地域の「幸せ」を守る3つのポイント. 第6回兵庫県中央縦断マルチケアフォーラム, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.10.15
9. 中村武寛：女性の生涯の身体的な変化と糖尿病. 第7回神戸看護学会学術集会, オンデマンド開催, 2022.10.22
10. 中村武寛：医療者が伝えた生活習慣病のホント～元気で機嫌よく長生きするために～. 健保連兵庫連合会健康づくり支援セミナー, 神戸, 2022.11.26
11. 中村武寛：2型糖尿病の薬物療法のアルゴリズム～どのように臨床現場で活用するか～. 第13回明日から役立つ糖尿病勉強会, 神戸, 2022.11.30
12. 中村武寛：高血圧症により奪われる幸せを守るには？～病院と診療所で協働できること～. Diabetes Update in Kobe, 神戸, 2022.12.6
13. 中村武寛：栄養相談と専門医による糖尿病薬物療法の提案を一度の紹介受診で実施するワнтаイム糖尿病連携の試み. 第26回日本病態栄養学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.1.13

VIII. 2.7 脳神経内科

1. 岡田英嗣, 木原武士, 岩路かをり, 杉原陽子, 山本さかえ, 谷口 恵, 菅生教文：重複記憶錯誤をきたしたレビー小体病と考えられた2例. 第41回日本認知症学会学術集会, 第37回日本老年精神医学会 合同開催, 東京, ハイブリッド開催, 2022.11.26

VIII. 2.8 総合内科

1. 浜崎健弥：COVID-19罹患後に発症し約半年後に改善した下垂体性副腎不全の一例. 第92回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 第65回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 第70回日本化学療法学会西日本支部総会, 長崎, 2022.11.4
2. 渡辺啓太, 梅本大地, 浜崎健弥, 王 康治, 小西弘起：COVID-19に伴う溶血発作を契機に診断された発作性夜間ヘモグロビン尿症の1例. 第238回日本内科学会近畿地方会, Web開催, 2022.12.10

VIII. 2.9 小児科

1. 飯尾享平, 夏木 茜, 中尾聡宏, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 山口善道, 平海良美, 松原康策, 宮越千智, 太田國隆, 山岡利佳, 江口純治, 松村 治, 奥谷貴弘, 上田育代, 西山将広：COVID-19蔓延前後の川崎病の発生頻度：神戸市 population-based study, 2016-2020. 第125回日本小児科学会学術集会, 郡山, ハイブリッド開催, 2022.4.17
2. 畑中ともえ, 中田穂高, 二階堂有希, 佐藤 萌, 平尾愛美, 大石江美, 足立 茜, 山口陽恵, 田中由起子, 宮田知里, 鶴亀美幸, 後藤たみ：新生児のスキンケア指導のあり方. 第69回日本小児保健協会学術集会, 津, ハイブリッド開催, 2022.6.17-30
3. 野間智子, 田中由起子：コロナ禍における新たな食育教材の可能性. 第38回日本小児臨床アレルギー学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.7.3
4. 田中由起子, 吉野翔子, 宮田知里, 渡木綾子, 赤沢尚美, 野間智子：神戸市内の保育所における「食育」のアンケート調査. 第38回日本小児臨床アレルギー学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.7.3

5. 吉野翔子, 田中由起子, 森川 悟, 光田好寛, 安島英裕, 江口純治: 当院における乳児期の食物経口負荷試験の検討. 2022 JSPACI-APAPARI Joint Congress, 第 59 回日本小児アレルギー学会学術大会 APAPARI2022 合同開催, 宜野湾, ハイブリッド開催, 2022.11.12
6. 田中由起子, 吉野翔子, 渡木綾子, 赤沢尚美, 山口陽恵: 保育所における食物アレルギー対応災害備蓄の必要性～アンケート調査より～. 2022 JSPACI-APAPARI Joint Congress, 第 59 回日本小児アレルギー学会学術大会 APAPARI2022 合同開催, 宜野湾, ハイブリッド開催, 2022.11.12

VIII. 2. 10 外科 (消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科・血管外科)

1. 姚 思遠: 男性外科医の育児休暇が持つ無限の可能性—男女の価値観を共有できる理想の職場環境作りへの提言—. 第 122 回日本外科学会定期学術集会, 熊本, ハイブリッド開催, 2022.4.14
2. 村上哲平: 大腸憩室炎による S 状結腸膀胱瘻に腹腔鏡下手術を施行した 7 例の検討—当院での診断と治療方針—. 第 122 回日本外科学会定期学術集会, 熊本, ハイブリッド開催, 2022.4.14-16
3. 松井優悟: 外科医も COVID-19 患者の主治医となるシステムの構築—医療従事者の burnout を防ぐ地域中核病院の取り組み—. 第 122 回日本外科学会定期学術集会, 熊本, ハイブリッド開催, 2022.4.15
4. 谷野敬輔: 胃空腸吻合部の空腸癌による悪性狭窄に対して腹腔鏡下十二指腸 - 空腸吻合術を施行し空腸空腸吻合も要した一例. 第 122 回日本外科学会定期学術集会, 熊本, ハイブリッド開催, 2022.4.15
5. 本間周作: 巨大鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下手術—術後数時間で再発した症例から学ぶ—. 第 20 回日本ヘルニア学会学術集会, 第 16 回日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究集会, 横浜, 2022.6.3
6. Nakajima S: Laparoscopic distal pancreatectomy for post upper gastrointestinal surgery. 第 34 回日本肝胆膵外科学会, 松山, 2022.6.10
7. 村上哲平: 集学的治療の一環として悪性狭窄に腹腔鏡下十二指腸空腸吻合術を施行した 3 症例の経験. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 横浜, 2022.7.20-22
8. 口分田堯: 腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した脾血管肉腫の一例. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 横浜, 2022.7.20-22
9. 本間周作: 当科における若手外科医の技術認定医取得に向けた取り組み—みんなでレベルアップ—. 第 35 回近畿内視鏡外科研究会, 西宮, 2022.9.17
10. 松井優悟: 急性胆嚢炎の高齢者患者における早期手術の安全性. 第 64 回日本消化器病学会大会, 第 104 回日本消化器内視鏡学会総会, 第 26 回日本肝臓学会大会, 第 20 回日本消化器外科学会大会, 第 60 回日本消化器がん検診学会大会 (JDDW2022), 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.27-30
11. 村上哲平: 悪性狭窄に対して腹腔鏡下十二指腸空腸吻合術を施行した 4 例の経験. 第 64 回日本消化器病学会大会, 第 104 回日本消化器内視鏡学会総会, 第 26 回日本肝臓学会大会, 第 20 回日本消化器外科学会大会, 第 60 回日本消化器がん検診学会大会 (JDDW2022), 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.27-30
12. 村上哲平: 中規模病院における安全なロボット支援下直腸切除術の導入. 第 84 回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2022.11.24
13. 本間周作: Lap IPOM から eTEP へ—当科における腹壁ヘルニアに対する治療戦略—. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, アジアロボット・内視鏡外科学会 (ACRLS 2022), Asian-Pacific Congress of Robotic Laparoscopic Surgery 2022, 名古屋, 2022.12.9
14. 谷野敬輔: セルフグリップメッシュを用いて後腹膜鏡下に修復した左上腰ヘルニアの 1 例. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, アジアロボット・内視鏡外科学会 (ACRLS 2022), Asian-Pacific Congress of Robotic Laparoscopic Surgery 2022, 名古屋, 2022.12.9
15. 松井優悟: A simplified risk stratification in early cholecystectomy for acute cholecystitis based on age: A single-center retrospective study from an institution with no mortality. SAGES2023, Montréal, Canada, 2023.3.29-4.1
16. 本間周作: Safety and feasibility of transabdominal preperitoneal inguinal hernia repair in very elderly patients. SAGES2023, Montréal, Canada, 2023.3.29-4.1
17. 石川佳奈: Risk factors for postoperative abscess formation in patients with upper gastrointestinal perforation. SAGES2023, Montréal, Canada, 2023.3.29-4.1
18. 竹尾正彦, 大越祐介: Right top pulmonary vein を伴った右下葉肺癌に対しロボット支援胸腔鏡下肺切除を行った 1 例. 第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.20

19. 三瀬昌宏, 多山 葵, 松井優悟, 福嶋浩一, 野村洋道, 久保嘉靖, 勝山栄治: 多発乳癌か、乳癌腋窩部転移あるいは副乳癌と乳癌の重複例なのか鑑別困難だった左腋窩腫瘍の1例. 第30回日本乳癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.6.30-8.31
20. 多山 葵, 三瀬昌宏, 野村洋道, 福嶋浩一, 奥野昌宏, 勝山栄治: 乳癌術後皮膚転移に対してアバマシクリブが著効し切除可能であった一例. 第30回日本乳癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.6.30-8.31

VIII. 2. 11 整形外科

1. 橋村卓実, 大西英次郎, 田中 敦, 宮本哲也, 和田晃大, 安田 義: LLIFにおけるヒト脱灰骨基質と自家腸骨のケージ内骨癒合の比較検討. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.23
2. 橋村卓実, 露口和陽, 塚本義博, 藤田俊史, 藤尾圭司: 母指CM関節症に対するsuture-button suspensionplasty術後に抜釘を行った9例の検討. 第14回日本手関節ワークショップ, 大阪, 2022.8.27
3. 山根逸郎: 腰椎外側部神経障害の診断と治療. Re:Connect in the Area Pain Live Symposium, 神戸, オンライン開催, 2022.9.1
4. 橋村卓実, 西口 滋, 大西英次郎, 加藤 怜, 田中 敦, 和田晃大, 安田 義: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する後方固定術とX-core2を用いた前方後方固定術との比較. 第24回日本骨粗鬆症学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.9.2-4
5. 相江直哉, 山根逸郎, 藤原弘之, 布施謙三, 西口 滋: 外傷性母指CM関節脱臼の一例, 大阪, 第139回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 大阪, 2022.10.29
6. 橋村卓実, 大西英次郎, 山根逸郎, 田中 敦, 和田晃大, 坂本祐志, 安田 義: CT Smart MARシステムを用いたLLIFにおけるヒト脱灰骨基質と自家骨のケージ内骨癒合の比較. 第31回日本脊椎インストゥルメンテーション学会学術集会, 大阪, 2022.11.25
7. 山根逸郎, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 橋村卓実, 久保田雅哉: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する後方手術の手術成績. 第96回西日本脊椎研究会, 福岡, 2022.12.2
8. 西口 滋, 相江直哉, 藤田 暁, 山根逸郎, 藤原弘之, 布施謙三: 骨折と骨粗しょう症一骨折しないようにするには一. 神戸市立医療センター西市民病院 市民公開講座, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.10.8
9. 西口 滋: 当院における骨脆弱性骨折と骨粗鬆症治療. 兵庫区医師会学術講演会 (2月度), 神戸, ハイブリッド開催, 2023.2.17

VIII. 2. 12 脳神経外科

1. 足立秀光, 菅生教文: 当院脳神経救急に対する神戸市立医療センター中央市民病院との連携. 第5回 Kobe Stroke Joint Meeting, 神戸, 2022.6.10
2. Adachi H, Sakai N, Imamura H, Koyanagi M, Goto M, Fukumitsu R, Sunohara T, Fukui N, Takano Y, Haruyama H, Maekawa K, Fujiwara S, Takasugi J, Ohara N, Sakai C, Sugo N, Ohta T: Result of PTA at ATBI based acute intracerebral large vessel occlusion in anterior circulation. WFITN2022 (16th Congress of World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology), Kyoto, Hybrid, 2022.8.21-25

VIII. 2. 13 泌尿器科

1. 三田淑恵, 植松 陸, 吉井貴彦, 亭島 淳, 中村一郎, 八尾昭久: 集学的治療にて対応した膀胱小細胞癌の一例. 第250回日本泌尿器科学会関西地方会, 神戸, 2022.6.25
2. 植松 陸, 戸邊泰将, 宮崎 彰, 結縁敬治, 山下真寿男: 膀胱転移を契機として診断された腎細胞癌の1例. 第250回日本泌尿器科学会関西地方会, 神戸, 2022.6.25
3. 亭島 淳: これからの腎癌術後補助療法を考える一病期 T2-3 腎癌に対する術後補助療法の意義. 第52回腎癌研究会, 福岡, 2022.7.9
4. 三田淑恵, 亭島 淳, 植松 陸, 吉井貴彦, 中村一郎: 転移性尿路上皮癌に対するエンホルツマブ ベドチンの初期使用経験. 第72回日本泌尿器科学会中部総会, 和歌山, 2022.10.7
5. 植松 陸, 亭島 淳, 三田淑恵, 吉井貴彦, 中村一郎: 去勢抵抗性前立腺癌に対するカバジタキセルの治療成績. 第74回西日本泌尿器科学会総会, 北九州, 2022.11.4

6. 亭島 淳, 植松 陸, 三田淑恵, 吉井貴彦, 中村一郎: 腎盂尿管癌に対するロボット支援腎尿管全摘除術の導入と初期経験. 第36回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 神戸, 2022.11.12
7. 峠 拓哉, 植松 陸, 三田淑恵, 吉井貴彦, 亭島 淳, 中村一郎: 後腹膜原発孤立性線維性腫瘍の1例. 第252回泌尿器科学会関西地方会, 高槻, 2023.2.18

VIII. 2. 14 産婦人科

1. 森島秀司, 杉野祥代, 田邊昌平, 市田耕太郎, 新谷 潔: 妊娠中の腹腔鏡下卵巣腫瘍手術のアプローチ法の工夫 ラッププロテクターを用いた臍部単孔式手術. 第62回日本産婦人科内視鏡学会学術講演会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.8
2. 杉野祥代, 田邊昌平, 市田耕太郎, 新谷 潔, 森島秀司: 右卵巣腫瘍茎捻転に対する腹腔鏡下右付属器切除後に隣臓癌の卵巣転移と判明し、その後左卵巣に再発した1例. 第62回日本産婦人科内視鏡学会学術講演会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.8-10
3. 森島秀司, 杉野祥代, 田邊昌平, 市田耕太郎, 新谷 潔: 再発が疑われる BRCA 陽性卵巣癌に審査腹腔鏡を施行し、その後の治療方針決定の一助とした一例. 第62回日本産婦人科内視鏡学会学術講演会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.8-10

VIII. 2. 15 歯科口腔外科

1. 高原頌子, 西田哲也, 河合峰雄: 歯科恐怖症、感染性心内膜炎リスク群患者における静脈内鎮静下歯科治療. 第31回日本有病者歯科医療学会学術大会, 宜野湾, ハイブリッド開催, 2022.4.30-5.1
2. 西田哲也: 病院歯科をどう活用するか ―超高齢化社会の中の歯科口腔外科―. 岡山大学歯学部同窓会 兵庫県支部 令和4年度第1回学術講演会, 神戸, 2022.5.29
3. 西田哲也: 「歯初診」施設基準に係る研修会. 兵庫県保険医協会歯科部会, 神戸, 2022.6.26
4. 高原頌子, 中本杏奈, 西田哲也: 嚥下障害を伴う統合失調症患者の全身麻酔下歯科治療経験. 第50回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 東京, 2022.10.28
5. 高島大輔, 高原頌子, 西田哲也: 高齢未手術口蓋裂患者への可撤式補綴装置を用いた口腔機能改善アプローチ. 第32回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 長野, 2023.3.19

VIII. 2. 16 放射線科

1. 大木晴香, 奥野晃章: LOGOSSWITCH を用いた肝動脈化学療法 (TACE) の治療成績の検討. 第58回日本放射線学会秋季臨床大会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.9.2-10.31

VIII. 2. 17 認知症疾患医療部

1. 岡田英嗣, 木原武士, 岩蔭かをり, 杉原陽子, 山本さかえ, 谷口 恵, 菅生教文: 重複記憶錯誤をきたしたレビー小体病と考えられた2例. 第41回日本認知症学会学術集会, 第37回日本老年精神医学会 合同開催, 東京, ハイブリッド開催, 2022.11.26

VIII. 2. 18 看護部

1. 俣木陽子: COVID-19 の院内クラスターの終息に向けた取り組み. 第10回日本感染管理ネットワーク学会学術集会, 奈良, ハイブリッド開催, 2022.5.20
2. 吉田ひろみ, 武井尚子, 白井愛子, 中村一郎, 八尾昭久, 田代裕己, 三田淑恵, 坂田宏行, 藤崎遼也, 田口真衣: A 病院における排尿ケアチーム活動の実際と今後の課題. 第35回日本老年泌尿器科学会, 甲府, ハイブリッド開催, 2022.6.10
3. 吉本早由利, 江川幸二: 院内迅速対応システムの導入・運営における看護師の工夫. 第18回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 北九州, ハイブリッド開催, 2022.6.11
4. 山本和代, 斎藤美智子, 別府清香: 臨床現場へソフトランディングするための新人集合研修～ピアサポート形成の効果～. 第26回日本看護管理学会学術集会, 福岡, 2022.8.19
5. 大路貴子, 後藤たみ, 別府清香: コロナ禍における発熱外来の運用での看護管理者の役割. 第26回日本看護管理学会学術集会, 福岡, 2022.8.19

6. 金山有紀子, 上加世田香里, 上田めぐみ, 足立 茜, 山口陽恵, 田邊昌平: 家族性地中海熱を合併した若年妊婦への支援. 第 63 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 神戸, 2022.9.9
7. 平尾愛美, 畑中ともえ, 山口陽恵: 糖尿病合併妊婦への食習慣の改善に対する支援. 第 7 回神戸看護学会学術集会, オンデマンド開催, 2022.10.22-11.30
8. 斎藤美智子, 山本和代, 別府清香: コロナ禍における新人看護師教育の考察と課題 (第 2 報). 第 53 回 (2022 年度) 日本看護学会学術集会, 千葉, 2022.11.8
9. 後藤たみ: がん診療連携拠点病院に通院中のがん患者に対する在宅療養移行支援における課題. 第 37 回日本がん看護学会学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.25
10. 青木和恵, 糸川紅子, 丸尾 郁, 水島史乃, 櫻井和江, 佐藤明子, 武井尚子, 田中悠美, 佐藤 文: WOCN が目指すストーマ保持者のセルフケア支援のエンドポイント. 第 40 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術総会, 東京, 2023.2.25
11. 糸川紅子, 佐藤 文, 丸尾 郁, 水島史乃, 櫻井和江, 佐藤明子, 武井尚子, 田中悠美, 青木和恵: ストーマ保有者のセルフケア支援における一般看護師と WOCN の連携・協働. 第 40 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術総会, 東京, 2023.2.25

VIII. 2. 19 薬剤部

1. 石田洋史, 奥野昌宏, 中浴伸二, 田中詳二: 西市民病院での COVID-19 の治療におけるカシリビマブ/イムデビマブ【ロナプリーブ[®]】やソトロビマブ【ゼビュディ】の使用状況. 第 32 回日本医療薬学会年会, 高崎, ハイブリッド開催, 2022.9.25
2. 宇都早希, 嶋本 藍, 山内 円, 中浴伸二, 田中詳二: 投与中止後のリファンピシンがポリコナゾールの薬物動態に影響を与えた一症例. 近畿薬剤師合同学術大会 2023, Web 開催, 2023.2.4-5
3. 臼井理央, 野村洋道, 中浴伸二, 田中詳二: エンホルツマブベドチンによる有害事象調査. 近畿薬剤師合同学術大会 2023, Web 開催, 2023.2.4-5
4. 富山正也, 福嶋浩一, 野村洋道, 中浴伸二, 田中詳二: 血液透析中の進行乳がん術後再発患者にアベマシクリブ (ベージニオ[®]) を導入した一例. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023 (JASPO 2023), 名古屋, ハイブリッド開催, 2023.3.4
5. 石田洋史, 野村洋道, 中浴伸二, 田中詳二: メサラジン顆粒経管投与時の市販とろみ調整食品使用の有用性. 第 12 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 吹田, 2023.3.5

VIII. 2. 20 臨床検査技術部

1. 井上友佳里, 吉田澄子, 岡村俊佑, 弘田大智, 中 彩乃, 山下展弘, 勝山栄治: 臨床的に大腸癌の転移を疑ったが細胞診で 17 年前の甲状腺乳頭癌の転移と診断しえた 1 例. 第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 東京, ハイブリッド開催, 2022.6.11
2. 弘田大智, 吉田澄子, 村井志織, 岡村俊佑, 井上友佳里, 中 彩乃, 山下展弘, 勝山栄治: 肺原発 clear cell tumor の一例. 第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 東京, ハイブリッド開催, 2022.6.12
3. 續木恵子, 釜谷博行, 井上友佳里, 内田浩也, 山下展弘: 試薬在庫管理システムを導入して. 第 61 回日臨技近畿支部医学検査学会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.12.3
4. 北川宏樹, 大政麻衣, 足立安奈, 田中真生, 青野真帆, 松之舎教子: 偶発的に発見された副腎神経節細胞腫の一例. 第 61 回日臨技近畿支部医学検査学会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.12.4
5. 村井志織: スライドカンファレンス 症例 2. 液状検体 (胸水). 第 47 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会, 京都, WEB 開催, 2022.12.11
6. 中 彩乃: ワークショップ (バーチャルスライド (WSI) を用いた実習). 令和 4 年度 (2022 年度) 第 2 回兵庫県臨床細胞学会・兵庫県細胞検査士会合同研修会, 西宮, WEB 開催, 2023.1.28

VIII. 2. 21 リハビリテーション技術部

1. 東山鈴佳, 三栖翔吾, 酒井英樹, 藤川 孝, 大竹康平, 金子正博: 入院時に低栄養である慢性閉塞性肺疾患患者はリハビリテーションによる機能改善を認めるか. 第 33 回兵庫県理学療法学術大会, 洲本, 2022.8.21
2. 小池明希歩: 特発性肺繊維症患者の理学療法を担当して—入院期間中の効果について—. 第 33 回兵庫県理学療法学術大会, 洲本, 2022.8.21

3. 藤川 孝, 水野良祐: 消化器がん患者の予定手術における術前リハビリテーションの算定要因—観察的横断研究—. 第 30 回日本がんチーム医療研究会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.9.17
4. 田口真衣: 在宅酸素療法導入後、復職を目指した症例～在宅酸素療法使用者の復職と現状～. 第 56 回日本作業療法学会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.9.17
5. 三浦香緒里: 縦隔気腫を合併した IPF 患者に対して呼吸リハビリテーションと退院調整を行った症例. 兵庫県理学療法士会主催研修会・症例検討会, 2022.10.15
6. 大竹康平, 三栖翔吾, 山本暁生, 山口卓巳, 永谷智里, 石川 朗, 富岡洋海: 間質性肺疾患における 6 分間歩行試験を用いた特徴の分類. 第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 千葉, 2022.11.12
7. 岡田英嗣: 重複記憶錯誤をきたしたレビー小体病と考えられた 2 例. 第 41 回日本認知症学会学術集会, 第 37 回日本老年精神医学会 合同開催, 東京, ハイブリッド開催, 2022.11.26
8. 土平実玖: 最重症 IPF 患者に対し自宅での食事準備を見据えた介入を行い遂行満足度が向上した一例. 2022 年度神戸ブロック現職者共通研修 事例報告・事例検討, WEB 開催, 2023.2.5

VIII. 2. 22 臨床工学室

1. 志賀智史, 豊岡大征, 林 博英, 吉田友美, 河合憲信, 木下茉優, 井上和久: フットポンプの中央管理運用開始について. 第 60 回全国自治体病院学会, 那覇, 2022.11.11

VIII. 2. 23 栄養管理室

1. 尾鼻俊弥: 当院が乳清たんぱく含有飲料を重宝している理由について. 乳清たんぱく含有飲料活用 Webinar, 神戸, 2022.5.27
2. 尾鼻俊弥, 赤沢尚美, 巽 弥生, 金子正博: 当院周術期サポートチームによる介入効果の検討 (第一報). 第 37 回日本臨床栄養代謝学会 (JSPEN2022), 横浜, ハイブリッド開催, 2022.6.1
3. 川口麻衣, 中村武寛, 巽 弥生, 岩薮かをり, 高原衣里子: “生きづらさ” とセルフケア支援 - 多職種による協働的实践 -. 第 27 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.9.17
4. 赤沢尚美: 小児アレルギーチームにおける管理栄養士の取り組みと栄養指導の実際. 第 19 回近畿小児アレルギーケア研究会, WEB 開催, 2022.10.1
5. 島村康弘: 当院の周術期栄養管理加算算定の現状. 第 24 回兵庫 NST 研究会, WEB 開催, 2022.11.19
6. 赤沢尚美: 食物アレルギーの基礎知識と食事療法～食品表示の見方とアレルギーの対応食について～. 明石給食施設協議会部会別研修会, WEB 開催, 2023.2.20

VIII. 3 西神戸医療センター

VIII. 3.1 総合内科

1. 宮川一也：ウェアラブルデバイスを用いた深部体温、経皮的酸素飽和度測定による新型コロナウイルス感染症の重症化予測。第96回日本感染症学会総会・学術講演会，WEB開催，2022.4.22-23
2. Miyagawa K, Matsumoto S, Sasaki M, Osaki T, Furukubo M, Tsuchimoto H, Suzuki K：Measurement of core body temperature and blood oxygen saturation using wearable sensors predicts the deterioration of COVID-19. 32nd European Congress of Clinical Microbiology and Infectious Diseases, Lisbon, Portugal, 2022.4.23-26
3. 尾下寿彦：0から始めよう！M & Mカンファレンス！ACP（米国内科学会）日本支部年次総会・講演会，WEB開催，2022.6.25
4. 尾下寿彦：M & Mカンファレンスを開催してみよう！第25回日本病院総合診療医学会学術総会，WEB開催，2022.8.19
5. Miyagawa K, Matsumoto S, Sasaki M, Osaki T, Furukubo M, Tsuchimoto H, Suzuki K：Machine Learning-Based Prediction Model of COVID-19 Deterioration Using Wearable Core Temperature and Oxygen Saturation Sensor Data. American Heart Association Scientific Session 2022, Chicago, USA, Hybrid, 2022.11.5-7

VIII. 3.2 脳神経内科

1. 成宮悠爾，赤堀元樹，石尾ゆきこ，柳原千枝，小嶋康隆，山本和代，池垣俊吉：難聴で発症し顔面神経麻痺を来した梅毒性髄膜炎の1例。第122回日本神経学会近畿地方会，大阪，ハイブリッド開催，2022.7.30
2. 高田康平，比谷里美，赤堀元樹，石尾ゆきこ，柳原千枝：ペニシリンG投与後にJarisch-Herxheimer Reaction (JHR)によって顕在化した梅毒性脊髄炎の1例。第123回日本神経学会近畿地方会，神戸，ハイブリッド開催，2022.12.17
3. 内山 梓，比谷里美，赤堀元樹，石尾ゆきこ，柳原千枝：硬膜下血腫と皮質下血腫を伴い痙攣後脳症が遷延した重症ウイルス性肺炎後の急性出血性白質脳炎の1例。第124回日本神経学会近畿地方会，豊中，ハイブリッド開催，2023.3.5

VIII. 3.3 糖尿病・内分泌内科

1. 三谷莉永，孫 徹，藤原雄太，辻 和雄：医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2022京都 SGLT2阻害薬誘発性ケトアシドーシスに低体温症を合併した1例。第119回日本内科学会総会，京都，2022.4.16
2. 孫 徹，大城碩輝，藤原雄太，奥野敏隆，辻 和雄：非免疫チェックポイント阻害薬による乳癌化学療法中に発症した劇症1型糖尿病の1例。第65回日本糖尿病学会年次学術集会，神戸，ハイブリッド開催，2022.5.13
3. 清岡 愛，藤原雄太，孫 徹，辻 和雄：アミオダロン治療後にバセドウ病による甲状腺中毒症を発症した1例。第236回日本内科学会近畿地方会，神戸，ハイブリッド開催，2022.6.25
4. 仲田文雄，孫 徹，藤原雄太，清岡 愛，辻 和雄：急性1型糖尿病とバセドウ病を同時期に診断された多腺性自己免疫症候群3型の1例。第59回日本糖尿病学会近畿地方会，神戸 2022.11.5
5. 藤原雄太，花宮祥太，孫 徹，辻 和雄：抗PD-L1抗体にて甲状腺機能低下と副腎不全を時間差で生じた1例。第32回臨床内分泌代謝 Update，東京，ハイブリッド開催，2022.11.11-12

VIII. 3.4 腎臓内科

1. 小野祐子，益澤尚子，垣田浩子，橋口明典，湯村和子，清水 章：TAFRO症候群とPOEMS症候群の腎糸球体病変における免疫組織学的検討。第65回日本腎臓学会学術総会，神戸，ハイブリッド開催，2022.6.12
2. 三谷莉永，中田庸介，中井雅史，垣田浩子，鳥越和雄：ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）に対してアルガトロバンとナファモスタットを併用した1症例。第67回日本透析医学会学術集会・総会，横浜，ハイブリッド開催，2022.7.1
3. 林田珠奈，中田庸介，藤田京花，垣田浩子：肺扁平上皮癌に合併したIgA沈着抗糸球体基底膜抗体腎炎の1例。第52回日本腎臓学会西部学術大会，熊本，ハイブリッド開催，2022.11.18
4. 藤田京花，倉橋聡司，小川雅子，谷垣克哉，平島尚子，戸田尚宏，武曾恵理，古宮俊幸：COVID-19ワクチンの接種後にFanconi症候群・尿管間質性腎炎を来した1例。第52回日本腎臓学会西部学術大会，熊本，ハイブリッド開催，2022.11.19

Ⅷ. 3.5 免疫血液内科

1. 末木佑季, 井本寛東, 橋本朗子, 山本和代, 新里偉咲: 急性前骨髄球性白血病に甲状腺クリーゼを併発した1例. 日本内科学会第239回近畿地方会, 大阪, ハイブリッド開催, 2023.3.4

Ⅷ. 3.6 循環器内科

1. 久保萌加, 鈴木雅貴, 吉開友羽子, 齊藤克寛, 土岐啓己, 大末剛史, 江尻純哉, 永澤浩志: リバーロキサバンによって治療し得たアンチトロンビン欠乏症による深部静脈欠損症および肺血栓塞栓症の一例. 第238回日本内科学会近畿地方会, Web開催, 2022.12.10
2. 吉山史子, 鈴木雅貴, 松岡 佑, 藤原雄太, 吉開友羽子, 齊藤克寛, 土岐啓己, 大末剛史, 江尻純哉, 永澤浩志: 肺腺癌に対してペムブロリズマブ投与後に生じた心タンポナーデ、破壊性甲状腺炎の1例. 第239回日本内科学会近畿地方会, 大阪, ハイブリッド開催, 2023.3.4

Ⅷ. 3.7 消化器内科

1. 尾下真実, 伊藤 凌, 高田 裕, 勝山苑香, 隅田悠太, 竜野稜子, 原 拓史, 池田結香, 井上元気, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: COVID-19治療に伴い発症した単純ヘルペス肝炎による急性肝不全の一例. 第108回日本消化器病学会総会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.4.22
2. 小林拓哉, 高田 裕, 尾下真実, 勝山苑香, 隅田悠太, 山本健太, 池田結香, 伊藤 凌, 井上元気, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 閉塞性黄疸を伴う切除不能膵癌における胆道ドレナージ法の検討. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, ENDO2022, 京都, 2022.5.13
3. 三谷莉永, 高田 裕, 尾下真実, 勝山苑香, 隅田悠太, 竜野稜子, 原 拓史, 池田結香, 伊藤 凌, 井上元気, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 中村公治郎: 経口胆道鏡 (SpyGlass™ DS) が診断に有用であった胆管内乳頭腫瘍 (IPNB) の1例. 第108回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.11
4. 尾下真実, 高田 裕, 池谷桃子, 今村 敦, 池田結香, 井上元気, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: COVID-19治療に伴い発症した単純ヘルペス肝炎による急性肝不全の一例. 京都大学消化器内科症例検討会, WEB開催, 2022.7.1
5. 高田 裕: 当院におけるC型肝炎治療～院内・病診連携の観点から～. 神戸WEST肝疾患セミナー, 神戸, 2022.7.13
6. 池谷桃子, 高田 裕, 三谷莉永, 大島章裕, 今村 敦, 山本健太, 小林拓哉, 池田結香, 井上元気, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: COVID-19 mRNAワクチンが契機と考えられたCollagenous Colitisの1例. 第37回稀な腸疾患の内視鏡像を勉強する会, Web開催, 2022.8.6
7. 高田 裕: 座長 UC を正しく理解するための診断・病態・治療のABC. 神戸西部IBD Young Seminar, 神戸, 2022.8.18
8. 三谷莉永: 当院における潰瘍性大腸炎の難渋症例の検討. 神戸西部IBD Young Seminar, 神戸, 2022.8.18
9. 高田 裕: 当院における肝性脳症の診断・治療～改訂ガイドラインを踏まえた治療戦略～. 肝性脳症治療UpToDate2022, Web開催, 2022.9.10
10. 井谷智尚, 三谷莉永, 大島章裕, 池谷桃子, 今村 敦, 小林拓哉, 山本健太, 池田結香, 井上元気, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人: 症状に合わせた「それぞれのPTEGドレナージ」ー減圧用カテーテルの選択について考えるー. 第20回日本PTEG研究会学術集会, Web開催, 2022.9.11
11. 今村 敦, 林 幹人, 三谷莉永, 大島章裕, 池谷桃子, 山本健太, 小林拓哉, 池田結香, 井上元気, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 井谷智尚: 当院で経験したメッケル憩室に起因した急性腹症の3例. 日本消化器病学会近畿支部第117回例会, 大阪, 2022.10.8
12. 池谷桃子, 高田 裕, 三谷莉永, 大島章裕, 今村 敦, 山本健太, 小林拓哉, 池田結香, 井上元気, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: COVID-19 mRNAワクチンが契機と考えられたCollagenous Colitisの1例. 日本消化器病学会近畿支部第117回例会, 大阪, 2022.10.8
13. 勝山苑香, 高田 裕, 尾下真実, 隅田悠太, 竜野稜子, 原 拓史, 池田結香, 伊藤 凌, 井上元気, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 潰瘍性大腸炎における血清LRG測定の有用性の検討. JDDW 2022. 福岡, ハイブリッド開催, 2022.10.28

14. 高田 裕：近年における潰瘍性大腸炎治療の変化について．東はりま・北はりま潰瘍性大腸炎治療 Web フォーラム，Web 開催，2022.11.1
15. 高田 裕，井谷智尚：Spiral 法による観察が S 状結腸腺腫の発見に有用である．第 109 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会，京都，ハイブリッド開催，2022.11.5
16. 高田 裕：座長 めざせ快便～排便コントロールは究極の NBM～．慢性便秘症治療 Web 講演会，Web 開催，2022.12.15
17. 高田 裕：クローン病におけるベドリズマブの投与対象症例と寛解導入または維持の工夫．Crohn's disease Expert Meeting，Web 開催，2023.1.24
18. 池谷桃子，高田 裕，三谷莉永，大島章裕，今村 敦，山本健太，小林拓哉，池田結香，井上元気，安達神奈，島田友香里，林 幹人，井谷智尚：当院における Fitz-Hugh-Curtis 症候群 6 例の検討．第 59 回日本腹部救急医学会総会，宜野湾，2023.3.9

VIII. 3.8 呼吸器内科

1. 上領 博：当院における気管支喘息の治療方針～Bio 製剤導入の工夫～．西神戸呼吸器疾患病診連携の会，神戸，2022.4.26
2. 上領 博，多田公英：当院の喘息治療について．医療センター喘息講演会，神戸，2022.12.22
3. 上領 博，瀨崎直子，三輪菜々子，瀬瀬力也，多田公英：当院における COVID-19 禍の結核病床入院患者への影響．第 97 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会，旭川，2022.7.1
4. 益田隆広，増田佳純，松岡 佑，瀨崎直子，三輪菜々子，木田陽子，瀬瀬力也，上領 博，桜井稔泰，多田公英：イマチニブが原因と考えられた閉塞性細気管支炎の一例．第 129 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会，第 99 回日本呼吸器学会近畿地方会，大阪，ハイブリッド開催，2022.7.23
5. 松岡 佑，木田陽子，徳重康介，益田隆広，瀨崎直子，三輪菜々子，瀬瀬力也，上領 博，桜井稔泰，多田公英，足立泰志，中西崇雄，本山秀樹，大政 貢：原発性悪性心膜中皮腫の 1 例．第 129 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会，第 99 回日本呼吸器学会近畿地方会，大阪，ハイブリッド開催，2022.7.23

VIII. 3.9 緩和ケア内科

1. 安藤俊弘，正井志穂，中村真理，藤原 歩，長尾幸恵：新型コロナ肺炎での死亡例に対し苦痛緩和に使用した薬剤の検討．第 27 回日本緩和医療学会学術大会，神戸，ハイブリッド開催，2022.7.1-2
2. 正井志穂，安藤俊弘，中村真理，長尾幸恵，長尾綾子：つらさのスクリーニングにおける緩和ケアチーム介入希望の有無による苦痛や気がかりの違いの検討．第 35 回日本サイコオンコロジー学会総会，東京，2022.10.14

VIII. 3.10 精神・神経科

1. 川添文子：急性期総合病院における心理的支援の工夫～リハビリ拒否についてリハビリ専門職と考えたことから～．日本心理臨床学会第 41 回大会，Web 開催，2022.9.2-25

VIII. 3.11 小児科

1. 飯尾享平，中尾聡宏，金 伽耶，内藤昭嘉，川崎 悠，磯目賢一，堀 雅之，岩田あや，山口善道，平海良美，松原康策，宮越千智，太田國隆，山岡利佳，江口純治，松村 治，奥谷貴弘，上田育代，西山将広：COVID-19 蔓延前後の川崎病の発生頻度：神戸市 population-based study, 2016-2020. 第 125 回小児科学会学術集会，郡山，ハイブリッド開催，2022.4.15-17
2. 和田尚一郎，川崎 悠，飯尾享平，中尾聡宏，内藤昭嘉，磯目賢一，堀 雅之，岩田あや，山口善道，平海良美，松原康策：重度の小球性低色素性貧血を呈したが，呼吸器症状を伴わない特発性肺へモジデローススの一例．第 286 回日本小児科学会兵庫県地方会，神戸，ハイブリッド開催，2022.5.7
3. 松原康策，芝田明和，甲斐昌彦，片山義規，丸山朋子：早発型・遅発型 B 群レンサ球菌感染症 —2016-2020 年全国調査報告—．第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会，横浜，ハイブリッド開催，2022.7.12
4. 松原康策，岩田あや，川崎 悠，本田吉孝，八角高裕：4 徴候のうち 2 徴候しか呈さなかった不完全型 WHIM 症候群の 1 例：骨髓好中球の特徴的な形態異常の診断学的有用性．第 11 回関西免疫不全症研究会，大阪，2022.8.27

5. 飯尾享平：多彩な心室補充調律を示した完全房室ブロックの12歳女児例。2022年西日本小児循環器研究会，WEB開催，2022.8.27
6. 和田尚一郎，川崎 悠，飯尾享平，内藤昭嘉，磯目賢一，堀 雅之，岩田あや，山口善道，平海良美，松原康策：重度の小球性低色素性貧血を呈したが，呼吸器症状を伴わない特発性肺ヘモジデロシスの報告。第3回京都小児臨床懇話会，京都，2022.9.4
7. 平海良美：小児の不整脈：徐脈性疾患と頻脈性疾患。第9回神戸西地域小児疾患研究会，神戸，WEB開催，2022.9.10
8. 川崎 悠，和田尚一郎，飯尾享平，金 伽耶，内藤昭嘉，堀 雅之，磯目賢一，岩田あや，山口善道，平海良美，松原康策：可逆性後頭葉白質脳症を合併した難治性周期性嘔吐症女児例。第287回日本小児科学会兵庫県地方会，姫路，ハイブリッド開催，2022.9.17
9. 松原康策：小児期侵襲性GBS感染症：2016-2020年全国調査結果とワクチン開発状況。第92回日本感染症学会西日本地方会学術集会，第65回日本感染症学会中日本地方会学術集会，第70回日本化学療法学会西日本支部総会，長崎，2022.11.3
10. 松原康策，芝田明和，松波邦洋，宮入 烈，笠井正志，甲斐昌彦，片山義規，丸山朋子：侵襲性B群レンサ球菌感染症の再発例の臨床的・細菌学的特徴—2016-2020年全国調査報告—。第54回小児感染症学会総会・学術集会，福岡，2022.11.5
11. 芝田明和，松原康策，松波邦洋，宮入 烈，笠井正志，甲斐昌彦，片山義規，丸山朋子：1歳未満発症の侵襲性B群レンサ球菌感染症の疫学—2016-2020年全国調査報告—。第54回小児感染症学会総会・学術集会，福岡，2022.11.5
12. 松原康策：小児期B群レンサ球菌感染症—最新の疫学とワクチン開発状況—。第31回京都小児科医会感染症研究会，京都，2022.11.19
13. 芝田明和，松原康策，松波邦洋，甲斐昌彦，片山義規，丸山朋子：侵襲性B群溶血性レンサ球菌感染症における早産児のリスク：2016-2020年全国調査を基に。第66回日本新生児成育医学会・学術集会，横浜，2022.11.25
14. Imaizumi M, Kitazawa J, Nakadate H, Matsubara K, Takahashi Y, Sasahara Y, Oka T, Maeda N, Ishiguro A : Age-dependent prognostic significance of age and preceding infection in childhood ITP. 第64回日本小児血液・がん学会，第20回日本小児がん看護学会学術集会，第27回がんの子どもを守る会公開シンポジウム，東京，2022.11.25
15. 金 伽耶，堀 雅之，砂川智紀，和田尚一郎，飯尾享平，内藤昭嘉，川崎 悠，磯目賢一，岩田あや，山口善道，平海良美，松原康策：当科のエピペン[®]処方例からみたクルミアレルギーの増加。第288回日本小児科学会兵庫県地方会，WEB開催，2023.2.4
16. 和田尚一郎，平海良美，砂川智紀，飯尾享平，金 伽耶，内藤昭嘉，川崎 悠，磯目賢一，堀 雅之，岩田あや，山口善道，松原康策：当院で経験したMultisystem Inflammatory Syndrome in Children (MIS-C)の3例。第47回近畿川崎病研究会，WEB開催，2023.3.4
17. 飯尾享平，磯目賢一，内藤昭嘉，川崎 悠，堀 雅之，岩田あや，山口善道，平海良美，松原康策：初診時には認めなかった多発肝膿瘍が診断契機となった猫ひっかき病の一例。第36回近畿小児科学会，大阪，2023.3.5

VIII. 3. 12 外科・消化器外科

1. 伊丹 淳，松浦正徒，山本高正，塩田哲也，原田樹幸，金田優也，橘 奎吾，河野和馬，中村公治郎，岩崎純治，畑 俊行，京極高久：当科におけるロボット支援腹腔鏡下胃全摘術の初期成績。第122回日本外科学会定期学術集会，熊本，ハイブリッド開催，2022.4.14
2. Harada S, Iwasaki J, Nakamura K, Hata T, Kyogoku T : Intraoperative biliary complications of laparoscopic cholecystectomy for acute cholecystitis; A single center results. 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会，松山，2022.6.10
3. Hata T, Nakamura K, Kaneda Y, Tachibana K, Harada S, Iwasaki J, Kyogoku T : Surgical outcomes for intrahepatic cholangiocarcinoma: a single center experience. 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会，松山，2022.6.10
4. Iwasaki J, Tachibana K, Harada S, Nakamura K, Hata T, Kyogoku T : Surgical Outcome of Incidental Gallbladder Cancer after Cholecystectomy; Single Center Results. 第34回日本肝胆膵外科学会学術集会，松山，2022.6.10

5. Nakamura K, Harada S, Iwasaki J, Hata T, Kyogoku T : Peri-Common Bile Duct Neuroma in the Surgical Specimen of Pancreaticoduodenectomy for Pancreas. 第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 松山, 2022.6.10
6. Tachibana K, Iwasaki J, Harada S, Nakamura K, Hata T, Kyogoku T : Two Cases Of Gallbladder Metastasis From Renal Cell Carcinoma. 第 34 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 松山, 2022.6.10
7. 伊丹 淳, 山本高正, 原田樹幸, 松浦正徒, 塩田哲也, 金田優也, 橘 奎吾, 京極高久 : 当科におけるロボット支援胸腔鏡下食道切除術の導入. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.7.20
8. 塩田哲也, 京極高久, 伊丹 淳, 畑 俊行, 岩崎純治, 中村公治郎, 松浦正徒, 山本高正, 原田樹幸, 河野和馬 : 当院における中心静脈に関する合併症の比較検討. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.7.20
9. 岩崎純治, 原田樹幸, 山本高正, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 畑 俊行, 伊丹 淳, 京極高久 : 当院で経験した偶発胆嚢癌 Incidental Gallbladder Cancer (IGC) 症例の検討. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.7.20
10. 橘 奎伍, 岩崎純治, 伊丹 淳 : 腎癌胆嚢転移の 2 例. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.7.20
11. 伊丹 淳, 山本高正, 原田樹幸, 松浦正徒, 塩田哲也, 吉野健史, 中村公治郎, 土佐明誠, 河野和馬, 松田正太郎, 畑 俊行 : 当科におけるロボット支援胸腔鏡下食道切除術の手術手技について. 第 35 回近畿内視鏡外科学研究会, 西宮, 2022.9.17
12. 伊丹 淳 : 当科におけるロボット支援胸腔鏡下食道切除術の手術手技と今後の課題. 第 76 回日本食道学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.9.24
13. 畑 俊行, 中村公治郎, 吉野健史, 京極高久 : 当院における肝内胆管癌手術症例の予後検討. 第 58 回日本胆道学会学術集会, 横浜, 2022.10.13
14. 松浦正徒, 土佐明誠, 河野和馬, 松田正太郎, 原田樹幸, 吉野健史, 山本高正, 中村公治郎, 塩田哲也, 畑 俊行, 伊丹 淳, 京極高久 : エンコラフェニブ、ビメチニブ、セツキシマブ療法中に発症した薬剤性間質性肺炎の 1 例. 第 84 回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2022.11.25
15. 河野和馬, 畑 俊行, 土佐明誠, 松田正太郎, 原田樹幸, 吉野健史, 山本高正, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久 : 術前診断に苦慮した Seromucinous borderline tumor の一例. 第 84 回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2022.11.26
16. 土佐明誠, 松浦正徒, 河野和馬, 松田正太郎, 原田樹幸, 吉野健史, 山本高正, 中村公治郎, 塩田哲也, 畑 俊行, 伊丹 淳, 京極高久 : 当院における胃胎児消化管類似癌の 7 症例の検討. 第 84 回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2022.11.26
17. Nakamura K, Kageyama S, Hirano H, Kadono K, Ito T, Kojima H, Dery K, Kupiec-Weglinski J : Graft HuR Expression Is Associated with HO-1 Level, Local Inflammation and Recipient Outcome in Liver Transplantation. TSS Asian Regional Meeting 2022, Kyoto, 2022.11.26
18. 伊丹 淳, 松浦正徒, 河野和馬, 土佐明誠, 松田正太郎, 原田樹幸, 吉野健史, 山本高正, 中村公治郎, 塩田哲也, 畑 俊行, 京極高久 : デルタ吻合後の残胃癌に対して腹腔鏡下残胃全摘術を施行した 1 例. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, アジアロボット・内視鏡外科学会 (ACRLS 2022), Asian-Pacific Congress of Robotic Laparoscopic Surgery 2022, 名古屋, 2022.12.8
19. 伊丹 淳, 松浦正徒, 塩田哲也, 吉野健史, 山本高正, 原田樹幸, 河野和馬, 土佐明誠, 中村公治郎, 畑 俊行, 京極高久 : 食道・胃・直腸の 3 領域に対するロボット支援手術を経験して. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会, 名古屋, 2023.2.2
20. 伊丹 淳, 松田正太郎, 山本高正, 松浦正徒, 塩田哲也, 土佐明誠, 河野和馬, 原田樹幸, 吉野健史, 中村公治郎, 畑 俊行, 京極高久 : 腹腔鏡下胃全摘術の再建を腹臥位胸腔鏡下に胸腔内吻合した 1 例の検証. 第 95 回日本胃癌学会総会, 札幌, 2023.2.24
21. 松浦正徒, 伊丹 淳, 土佐明誠, 河野和馬, 松田正太郎, 原田樹幸, 吉野健史, 山本高正, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 畑 俊行, 京極高久 : 当院におけるロボット支援胃切除術における短期・長期成績の検討. 第 95 回日本胃癌学会総会, 札幌, 2023.2.24
22. 土佐明誠, 中村公治郎, 河野和馬, 松田正太郎, 原田樹幸, 吉野健史, 山本高正, 松浦正徒, 塩田哲也, 畑 俊行, 伊丹 淳, 京極高久 : 十二指腸憩室で形成された腸石落下による腸閉塞の 1 例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 宜野湾, 2023.3.9

VIII. 3. 13 乳腺外科

1. 奥野敏隆：乳房超音波フローイメージングの歩み. 日本超音波医学会第95回学術集会, 名古屋, 2022.5.20
2. 奥野敏隆：乳房超音波フローイメージングを診断に活かすコツ. 日本超音波医学会第95回学術集会, 名古屋, 2022.5.20
3. 奥野敏隆：地域中核病院における乳房 point of care 超音波の現状と課題. 日本超音波医学会第95回学術集会, 名古屋, 2022.5.21
4. 林 雪, 奥野敏隆：当院3年間遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC) 診療状況概要. 第30回日本乳癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.7.1
5. 奥野敏隆, 林 雪：診断カテゴリーとその推奨マネージメントに基づく乳癌検診精密検査の検討. 第30回日本乳癌学会学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.7.2
6. 奥野敏隆：乳腺診療における Point of care ultrasound (POCUS). 日本超音波医学会第49回関西地方会学術集会, 大阪, 2022.10.8
7. 奥野敏隆, 渡辺隆紀, 山口拓洋, 今野佐智代, 高木理恵, 広利浩一, 森田孝子, 白井秀明, 渡邊良二, 坂佳奈子：乳房非腫瘍性病変の超音波診断におけるカラードプラ法判定基準作成及びその有用性に関する多施設共同研究 (JABTS BC-07). 第49回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 米子, ハイブリッド開催, 2022.10.9

VIII. 3. 14 整形外科

1. 山口 晶：内側半月板後根断裂. 第4回整形外科疾患セミナー, WEB開催, 2022.10.4
2. 吉田圭二, 川井康嗣, 阿部光伸, 宮本哲也：両膝関節へのPRP療法を受けた後に樹枝状脂肪腫を発症した1例. 第139回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 大阪, 2022.10.29
3. 吉田圭二, 川井康嗣, 阿部光伸, 山口 晶, 宮本哲也, 古庄裕也：Naviswissの使用経験. 第26回兵庫股関節研究会, 神戸, 2023.2.4
4. 吉田圭二：当院の骨粗鬆症治療. 神戸市西区歯科医師会定例会, WEB開催, 2023.3.11

VIII. 3. 15 脳神経外科

1. 榎波はる霞, 西原賢在, 蘆田典明, 石原美佐, 細田弘吉：診断に苦慮した左側頭葉内側腫瘍の一例. 第81回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 第84回近畿脊髄外科研究会, WEB開催, 2022.4.2
2. 蘆田典明：3Dコイル導入後の脳動脈瘤塞栓術. - Target first 術者の雑感 - 3Dの会, 神戸, 2022.4.12
3. 蘆田典明：ガイドワイヤーの選択、私のやりかた. 第5回神戸IVRレベルアップミーティング, 神戸, 2022.5.27
4. 嶋崎智哉, 西原賢在, 蘆田典明, 細田弘吉：前頭葉ヘルニアにより拍動性眼球突出を呈した蝶形骨欠損を伴う神経線維腫症1型の一例. 第82回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 豊中, ハイブリッド開催, 2022.9.3
5. 西原賢在：当院における脳腫瘍関連てんかん診療. 今考えるてんかん診療講演, 神戸, 2022.9.14
6. 細田弘吉, 中井友昭, 今堀太一郎, 山本祐輔, 田中 潤, 松尾和哉, 甲田将章, 藤田敦史, 田中一寛, 篠山隆司, 甲村英二：小胞体ストレスは頸動脈狭窄症における頸動脈プラーク不安定性に寄与している. 日本脳神経外科学会第81回学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.30
7. 山下俊輔, 甲田将章, 田中 潤, 細田弘吉, 木村英仁, 藤田敦史, 篠山隆司：内頸動脈狭窄症での術後DWI高信号におけるAcom血流の重要性. 日本脳神経外科学会第81回学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.30
8. 西原賢在, 新田 輝, 榎波はる霞, 嶋崎智哉, 蘆田典明, 武田直也, 細田弘吉, 篠山隆司：ニューロナビゲーションシステムの機能不全の検討. 日本脳神経外科学会第81回学術総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.9.30

VIII. 3. 16 呼吸器外科

1. 中西崇雄, 足立泰志, 本山秀樹, 大政 貢：肺癌術後再発におけるCEA測定の有用性についての検討. 第39回日本呼吸器外科学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.24-6.14
2. 中西崇雄, 足立泰志, 本山秀樹, 大政 貢：肺癌術後再発同定様式による生存率の比較. 第39回日本呼吸器外科学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.24-6.14

3. 本山秀樹, 足立泰志, 中西崇雄, 大政 貢: 単孔式胸腔鏡手術の安全性向上の工夫と 100 例の周術期成績. 第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.24-6.14
4. 足立泰志, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 腎細胞癌肺転移術後の治療成績の検討. 第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.5.24-6.14
5. 本山秀樹, 足立泰志, 中西崇雄, 大政 貢: 単孔式複雑区域切除 ～安全な導入と困難症例への対応～. 近畿胸腔鏡研究会, 兵庫, 2022.7.30
6. Omasa M, Okumura M: Postoperative radiation therapy (PORT) in TNM stage II and III Thymoma NO! 12th International Thymic Malignancy Interest Group Annual Meeting (ITMIG2022), Warsaw, Poland, virtual, 2022.10.2
7. 足立泰志, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: Surgical outcome of pneumothorax with interstitial pneumonia in our hospital. 第 75 回日本胸部外科学会学術集会, 横浜, 2022.10.6
8. 本山秀樹, 足立泰志, 中西崇雄, 大政 貢: 単孔式複雑区域切除におけるアプローチ肋間と区域間切離の工夫. 単孔式胸腔鏡手術研究会 JUVIG2022 第 4 回例会, 横浜, 2022.10.6
9. Nakanishi T, Adachi T, Motoyama H, Omasa M: Postoperative Pleuroparenchymal Fibroelastosis (PPFE) like Ipsilateral Upper Lung Field Pulmonary Fibrosis, Differentiation from the Lung Cancer Recurrence. IASLC 2022 Asia Conference on Lung Cancer, Nara, Japan, Hybrid, 2022.10.27
10. 本山秀樹, 足立泰志, 中西崇雄, 大政 貢: 術後気道トラブルに対する修復手術. 2022 Kyoto Thoracic Surgical Conference, WEB 開催, 2022.10.29
11. 中西崇雄, 足立泰志, 本山秀樹, 大政 貢: 肺がんに対する手術～小さな負担で治療を目指す～. 第 25 回がん市民フォーラム in Kobe, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.11.26
12. 足立泰志, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 胸腺腫術後再発因子と腫瘍無増悪期間に影響する因子の検討. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.1
13. 中西崇雄, 足立泰志, 本山秀樹, 大政 貢: 肺癌術後の胸膜肺実質線維弾性線維症 (PPFE), その頻度と特徴. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.2
14. 本山秀樹, 足立泰志, 中西崇雄, 大政 貢: 単孔式胸腔鏡下左 S1+2 区域切除におけるアプローチ選択. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.12.2
15. 中西崇雄, 高山昌和, 本山秀樹, 大政 貢: タイプ B3 胸腺種術後の胸腺癌転化に対してレンバチニブが有効であった 1 例. 特定非営利活動法人 日本胸腺研究会第 14 回通常総会, WEB 開催, 2023.2.4

VIII. 3. 17 皮膚科

1. 川上大輔, 岡 優実, 上田沙紀, 鷺尾 健, 高橋由加利: デュピルマブが奏功した痒疹型アトピー性皮膚炎の 1 例. 第 491 回日本皮膚科学会大阪地方会, Web 開催, 2022.5.21
2. 岡 優実, 飯田裕里佳, 竹内千尋, 鷺尾 健, 池町真実, 竹川啓史, 山本 剛, 酒井大輔: 右大腿に結節性病変を認めたブルーリ潰瘍の 1 例. 第 121 回皮膚科学会総会, ハイブリッド開催, 2022.6.2-4
3. 鷺尾 健: 身近に潜む食物アレルギーの最新情報 ワクチン・医薬品添加物と食物アレルギー. 第 121 回日本皮膚科学会総会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.6.4
4. 上田沙紀, 川上大輔, 岡 優実, 鷺尾 健, 川上尚弘: Bullous lichen planus の 1 例. 第 115 回近畿皮膚科集談会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.7.10
5. 川上大輔, 岡 優実, 上田沙紀, 鷺尾 健, 甲藤麻衣, 立石千晴, 鶴田大輔: 気管切開を必要とした粘膜類天疱瘡の 1 例. 第 493 回日本皮膚科学会大阪地方会, Web 開催, 2022.9.24
6. Imamura S, Fukumoto T, Oda Y, Washio K, Mizuno M, Kubo A, Fukunaga A: Steady-State Activation and Suppressed Responsiveness of Basophils from Patients with Atopic Dermatitis. 51st Annual ESDR Meeting, Amsterdam, Oranda, virtual, 2022.9.28-10.1
7. 鷺尾 健, 岡 優実, 飯田裕里佳, 竹内千尋, 田中淳仁, 山本高正, 松浦正徒: 絞扼性イレウスで救急搬送された遺伝性血管性浮腫の 1 例. 第 71 回日本アレルギー学会学術大会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.7-9
8. 岡 優実, 飯田裕里佳, 竹内千尋, 鷺尾 健, 小熊 孝, 池町真実, 竹川啓史, 山本 剛: マクロライド耐性を示し治療に難渋した Mycobacterium abscessus 感染症の 1 例. 第 73 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 富山, ハイブリッド開催, 2022.10.29

9. 上田沙紀, 川上大輔, 岡 優実, 鷺尾 健, 小嶋康隆, 勝寫浩紀, 大西 輝: 難治性副鼻腔炎が初発症状であった多中心性細網組織球症の1例. 第86回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.11.20
10. 鷺尾 健, 川上大輔, 岡 優実, 上田沙紀, 熊谷 淳: 難治性手湿疹はパッチテストの良い適応である. 日本皮膚科学会第494回大阪地方会, Web開催, 2022.12.10
11. 鷺尾 健: 血管性浮腫の病態と治療 UPDATE. 第52回皮膚免疫アレルギー学会学術大会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2022.12.17
12. 上田沙紀, 川上大輔, 岡 優実, 鷺尾 健, 松浦 肇, 石原美佐, 勝寫浩紀: Mixed tumor of the skin の1例. 日本皮膚科学会第495回大阪地方会, Web開催, 2023.2.4
13. 川上大輔, 岡 優実, 上田沙紀, 鷺尾 健, 石原美佐, 勝寫浩紀, 藤原 進, 久保亮治: リンパ腫様丘疹症の1例. 日本皮膚科学会第496回大阪地方会, Web開催, 2023.3.11

VIII. 3. 18 泌尿器科

1. 清水洋祐: 各施設のBRCA検査の取り組みと工夫. Prostate Cancer Seminar ~ mCRPC 個別化治療戦略~, 神戸, 2022.4.12
2. 宇都宮紀明: 当院におけるsecondTURの臨床的検討. 第9回KULPセミナー, 神戸, 2022.6.7
3. 清水洋祐: ワークショップ「前立腺癌の薬物療法について」MOCRPC. 第83回兵庫県泌尿器科医会総会学術講演会, 神戸, 2022.6.18
4. 宇都宮紀明, 大城碩輝, 中保良太, 清水洋祐, 金丸聰淳: 集学的治療にてニボルマブ長期投与できた腎癌多発転移の1例. 第74回西日本泌尿器科学会総会, 北九州, 2022.11.5
5. 中保良太, 大城碩輝, 宇都宮紀明, 清水洋祐, 金丸聰淳: 急激な経過をたどった腎血管肉腫の一例. 第74回西日本泌尿器科学会総会, 北九州, 2022.11.5
6. 金丸聰淳, 大城碩輝, 中保良太, 宇都宮紀明, 清水洋祐, 鷺尾 健: 初診時に診断されず、治療開始までに時間を要した第1期梅毒の2例. 日本性感染症学会第35回学術大会, 北九州, ハイブリッド開催, 2022.12.3
7. 大城碩輝, 中保良太, 宇都宮紀明, 清水洋祐, 金丸聰淳: アルドステロン産生副腎皮質癌の1例. 兵庫岡山RCC講演会, 神戸, 2023.3.4
8. 金丸聰淳: 当院における前立腺癌の手術を振り返って. KUAH CRPCカンファレンス, 大阪, WEB開催, 2023.3.10

VIII. 3. 19 産婦人科

1. 森上聡子, 夏山貴博, 小菊 愛, 登村信之, 近田恵里, 佐原裕美子, 平海良美, 登尾 薫: 妊娠中期の胎児スクリーニング検査で右室低形成、心臓腫瘍が疑われた1症例. 日本超音波医学会第95回学術集会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2022.5.22
2. 清瀬ますみ, 夏山貴博, 小菊 愛, 登村信之, 森上聡子, 近田恵里, 佐原裕美子: Pompe病合併妊娠の1例. 第147回近畿産科婦人科学会学術集会, 京都, 2022.10.30
3. 夏山貴博, 佐原裕美子, 鈴木裕紀子, 松井 萌, 小菊 愛, 森上聡子, 近田恵里: 腹腔鏡で診断可能であった感染を伴った卵管癌の一例. 第96回兵庫県産科婦人科学会, 神戸, 2022.7.16-17
4. 鈴木裕紀子, 森上聡子, 夏山貴博, 小菊 愛, 近田恵里, 佐原裕美子: 当院で経験した卵管上皮由来のWolff管腫瘍の1例. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 福岡 2022.8.5-7
5. 森上聡子, 夏山貴博, 小菊 愛, 近田恵里, 佐原裕美子: 分娩誘発にPGE2膈座剤(プロウパス)を使用した15症例の検討. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 福岡, 2022.8.5-7
6. 夏山貴博, 佐原裕美子, 鈴木裕紀子, 松井 萌, 小菊 愛, 森上聡子, 近田恵里: 当院で経験した卵巣嚢腫合併妊娠手術症例の検討. 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 横浜, 2022.9.8-10
7. 夏山貴博, 佐原裕美子, 松井 萌, 小菊 愛, 森上聡子, 近田恵里: 後腹膜に発生したaggressive angiofibromaの一例. 第37回日本女性医学学会学術集会, 米子, ハイブリッド開催, 2022.11.12-13

VIII. 3. 20 眼科

1. 永井遼司, 山本昭成, 吉田章子, 三河章子: Nivolumab 開始後に免疫関連有害事象として Vogt- 小柳 - 原田病様ぶどう膜炎を来した 1 例. フォーサム 2022 せとうち・第 55 回日本眼炎症学会, 広島, ハイブリッド開催, 2022.7.8-9
2. 堤野晃宏, 永井遼司, 吉田章子, 三河章子: 前眼部 OCT で経過を追うことができた白内障術後に生じた悪性緑内障の 1 例. 第 76 回日本臨床眼科学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.13-16
3. 三河章子: 白内障手術 最近のトピックス. 第 87 回神戸西地域合同カンファレンス, 神戸, 2022.11.10
4. 永井遼司, 堤野晃宏, 吉田章子, 山本昭成, 三河章子: 当院における眼科救急診療の実践. 第 73 回京大眼科同窓会学会 (令和 4 年度), WEB 開催, 2022.11.20
5. 堤野晃宏, 永井遼司, 吉田章子, 三河章子: 前眼部 OCT で経過を追うことができた白内障術後に生じた悪性緑内障の一例. 第 41 回神戸市立医療センター中央市民病院眼科 神戸アイセンター病院 オープンカンファレンス, 神戸, 2023.3.11

VIII. 3. 21 耳鼻いんこう科

1. 藤井大智, 雲井一夫: 副甲状腺嚢胞の 2 例. 第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会学術講演会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.5.28
2. 武田紘子, 小嶋康隆, 原真貴子, 藤井大智, 甲藤麻衣, 雲井一夫: 妊娠を契機に診断され妊娠中期に手術を施行した原発性副甲状腺機能亢進症の 1 例. 第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会学術講演会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.5.28
3. 小嶋康隆: 外耳道後壁硬性再建後の含気化. 第 23 回神戸耳鼻手術手技研究会, 神戸, 2022.8.24
4. 小嶋康隆: 歯科・耳鼻咽喉科の連携. 神戸市西区歯科医師会医科歯科連携講演会, Web 開催, 2022.12.17
5. 井上数喜, 小嶋康隆: 下鼻甲介手術時の動脈性出血. 第 24 回神戸耳鼻手術研究会, 神戸, 2023.2.8

VIII. 3. 22 形成外科

1. 小熊 孝, 平位恵梨, 土屋篤司: 下眼瞼睫毛内反における下眼瞼牽引筋腱膜切離を付加した Hotz 変法について. 第 65 回日本形成外科学会学術集会, 大阪, 2022.4.22
2. 小熊 孝, 平位恵梨, 芳村理紗, 土屋篤司: Progressive tension suture technique を用いた腹部皮弁採取部の閉創. 第 47 回兵庫形成外科医会研究会, 神戸, 2022.5.14
3. 芳村理紗, 小熊 孝, 平位恵梨, 土屋篤司: 指神経に生じた有痛性神経腫に対する神経再生誘導チューブの使用経験. 第 47 回兵庫形成外科医会研究会, 神戸, 2022.5.14
4. 芳村理紗, 小熊 孝, 平位恵梨, 土屋篤司: 指神経に生じた外傷性神経腫に対する神経再生誘導チューブの使用経験. 第 131 回関西形成外科学会, 枚方, 2022.7.10
5. 土屋篤司, 小熊 孝, 平位恵梨, 芳村理紗: 難治性腹部漿液腫の 1 例—Progressive tension suture technique によるドレーンを留置しない腹壁形成術—. 第 14 回日本創傷外科学会総会・学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.7.15
6. 平位恵梨, 小熊 孝, 土屋篤司, 近藤千紗: 組織拡張器を用いて intra-operative expansion を行った頭皮形成例の検討. 第 14 回日本創傷外科学会総会・学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.7.15
7. 小熊 孝, 平位恵梨, 芳村理紗: 原著から読み解く Hotz 法. 第 36 回神戸形成外科集談会, 神戸, 2022.12.11
8. 小熊 孝: 睫毛内反症手術—Hotz 法と Hotz 以外の方法—. 第 14 回兵庫形成外科集談会, 西宮, 2023.1.21
9. 芳村理紗, 小熊 孝, 平位恵梨, 石原美佐, 勝瀨浩紀: Progressive tension suture technique を用いて背部肉腫切除後の閉創を行った 1 例. 第 133 回関西形成外科学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.3.11
10. 草壁 優, 小熊 孝, 芳村理紗, 平位恵梨: 移植骨の露出に対して PAT を用いた母指挫滅創の 1 例. 第 133 回関西形成外科学会学術集会, 京都, ハイブリッド開催, 2023.3.11

VIII. 3. 23 放射線診断科

1. Maruyama M, Okamura K, Tanaka K, Ando S, Nakamura M, Kawabata Y, Tajima Y, Kitagaki H: The Increasing Rate of Future Liver Remnant Function in Modified Associating Liver Partition and Portal Vein Ligation/Embolization for Staged Hepatectomy. 第 81 回日本医学放射線学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.15

2. Yoshida R, Maruyama M, Gobara A, Takashi K, Ishikura Y, Kitagaki H : Imaging Findings of Metastatic Gastric Tumor, Especially for Needle Tract Seeding Following Endoscopic Ultrasound-Guided Fine Needle Aspiration for Pancreatic Cancer. 第 81 回日本医学放射線学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.17
3. Katsube T, Gobara A, Asou H, Yoshikane T, Kambara M, Obara M, Kuroda H, Yoshizako T, Akiyama Y, Kitagaki H : Perfusion Imaging of Meningioma using Super-Selective pCASL: Comparison with Angiography. 第 81 回日本医学放射線学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.17
4. 北垣 一 : 認知症の画像診断. 第 86 回神戸西地域合同カンファレンス, 神戸, 2022.6.16
5. 富松浩隆, 田原潤子, 河野泰秀, 北村ゆり, 工藤剛史, 谷龍一郎, 中村公治郎, 桑田陽一郎, 北垣 一 : Curved needle 穿刺によるドレナージが奏功した術後腹部膿瘍の 1 例. 第 7 回日本穿刺ドレナージ研究会, 大阪, 2022.7.16
6. 丸山光也, 中村 恩, 石倉ゆか, 荒木久寿, 吉田理佳, 安藤慎司, 吉廻 毅, 北垣 一 : IVUS proceeding, IVUS guided parallel single wire technique (Detach and Go) が有用であった 2 症例. 日本血管外科学会中国四国地方会第 52 回総会, 出雲, 2022.7.30
7. Kuroda H, Yamamoto N, Kamimura T, Maruyama M, Yoshizako T, Kitagaki H, Fukuda M, Yada N, Kataoka Y, Hyakudomi M, Itakura M : A case of breast cancer — Cabergoline suppressed lactation related FDG uptake —. 第 62 回日本核医学会学術総会, 京都, 2022.9.9
8. 北垣 一 : 島根から神戸に. 第 1 回フェニックスイメージングカンファレンス, 宮崎, 2022.10.21
9. 富松浩隆, 田原潤子, 河野泰秀, 北村ゆり, 工藤剛史, 桑田陽一郎, 北垣 一, 谷口尚範 : 強い癒着により外科的手術が困難であった巨大腹腔内粘性性腫瘍に対して, 経皮的ドレナージを繰り返すことにより長期間症状緩和が得られた 1 例. 第 11 回緩和 IVR 研究会, 神戸, 2022.10.29

VIII. 3. 24 歯科口腔外科

1. 岩城 太 : 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の予防と治療の考え方〜よりよい医科・歯科連携の構築を目指して〜. 神戸市西区骨粗鬆症連携 WEB セミナー, 神戸, 2022.6.9
2. 中村純也, 芝辻豪士, 高橋潤平, 西尾英莉, 足立了平, 福田治久 : レセプトデータを用いた抜歯後出血の分析 — LIFE Study —. 一般社団法人第 33 回日本老年歯科医学会, オンデマンド配信, 2022.6.11-12
3. 岩城 太 : 病院紹介と連携方法. 神戸市垂水区歯科医師会学術講演会, 神戸, 2022.7.30
4. 岩城 太, 平井雄三 : がん薬物療法中の抜歯. 西神戸周術期口腔機能管理カンファレンス, 神戸, Web 開催, 2022.9.8
5. 平井雄三, 岩城 太 : 周術期口腔機能管理の際に診断された口腔癌の 2 例. 西神戸周術期口腔機能管理カンファレンス, 神戸, Web 開催, 2022.9.8
6. 平井雄三, 岩城 太, 芝辻豪士 : 口腔扁平上皮癌 Stage I , II の長期観察例における検討. 第 67 回日本口腔外科学会学術集会, 千葉, ハイブリッド開催, 2022.11.4-6
7. 芝辻豪士, 岩城 太, 平井雄三 : 小唾液腺腫瘍の臨床的検討. 第 67 回日本口腔外科学会学術集会, 千葉ハイブリッド開催, 2022.11.4-6
8. 高原頌子, 内橋康行, 高橋潤平, 大郷里奈, 松田佳子 : PFAPA 症候群を伴う自閉症児に対する全身麻酔下歯科治療の経験. 第 35 回東日本歯科麻酔学会, 郡山, Web 開催, 2022.11.26
9. 平井雄三, 岩城 太 : 敗血症性肺塞栓症と眼窩内膿瘍を併発した歯性感染症によるガス壊疽の 1 例. 第 34 回 NPO 法人日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, Web 開催, 2022.12.10
10. 高橋潤平, 芝辻豪士, 内橋康行, 足立了平 : 下唇に発生した血管脂肪腫の 1 例. 第 34 回 NPO 法人日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, Web 開催, 2022.12.10
11. 岩城 太 : 日常歯科診療に役立つ口腔外科疾患の診かた. 大阪市東成区歯科医師会学術講演会, 大阪, 2023.2.9
12. 高橋潤平 : 嚥下スクリーニングテストの有効性についての検討. ときわ病院歯科口腔外科オープンカンファレンス, 神戸, Web 開催, 2023.3.2
13. 岩城 太 : 日常歯科診療に役立つ口腔粘膜疾患・顎骨内病変の診かた. 西神戸歯科口腔外科オープンカンファレンス, 神戸, Web 開催, 2023.3.30

VIII. 3. 25 看護部

1. 澤田朱里, 櫻井三希子, 山本聡子, 土井内麻衣子, 杉 亜耶, 海老名葵, 笥 哲也, 宇都宮紀明, 清水洋祐, 金丸總淳: 排尿自立支援加算対象外患者における排尿ケアチームの関わり. 第 35 回日本老年泌尿器科学会, 甲府, ハイブリッド開催, 2022.6.10
2. 材井大晃, 櫻井三希子, 澤田朱里, 土井内麻衣子, 杉 亜耶, 海老名葵, 笥 哲也, 宇都宮紀明, 清水洋祐, 金丸聰淳: 排尿ケアチーム活動の実態調査. 第 35 回日本老年泌尿器科学会, 甲府, ハイブリッド開催, 2022.6.10
3. 新井まゆ子: 株式会社モレエンコーポレーション共催セミナー 3 在宅における感染対策. 第 9 回日本 CNS 学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.7.9
4. 正井志穂, 中村真理, 長尾幸恵, 長尾綾子, 安藤俊弘: つらさのスクリーニングにおける緩和ケアチーム介入希望の有無による苦痛や気掛りの違いの検討. 第 35 回日本サイコオンコロジー学会総会, 東京, 2022.10.14-15
5. 中村真理, 正井志穂, 長尾幸恵, 長尾綾子, 安藤俊弘: がん看護外来におけるアドバンス・ケア・プランニングの実践. 第 35 回日本サイコオンコロジー学会総会, 東京, 2022.10.14-15
6. 瀧澤紘輝: トリアージ委員会交流集会 13 どこでも活かせる緊急度判定. 第 24 回日本救急看護学会学術集会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.15
7. 竹内美里, 田中亜希子, 田中優衣: 手術室新人看護師が抱く困難に対してペア制度がもたらす影響. 第 7 回神戸看護学会学術集会, オンデマンド開催, 2022.10.22-11.30
8. 和田恭子, 山下亜沙子, 井上深雪, 藤原桜和子, 藤井多恵子, 幸田 綾, 満尾若菜, 駒井江里: 産後 1 ヶ月での育児困難感の背景と支援の在り方についての検討ーエンジンバラ産後うつ病質問紙票を用いてー. 第 7 回神戸看護学会学術集会, オンデマンド開催, 2022.10.22-11.30
9. 西澤年美, 高山桃香, 烏賊真理子, 森本景子: 急性期病院 A 病棟における病棟ダイケア継続の要因. 第 7 回神戸看護学会学術集会, オンデマンド開催, 2022.10.22-11.30
10. 材木優花: 帝王切開術を受ける患者への看護師の関わり～耳の聞こえない状況での意識下手術～. 第 7 回神戸看護学会学術集会, オンデマンド開催, 2022.10.22-11.30
11. 加古朱音: 高齢慢性疾患患者と家族への看護ー患者と家族が同じ生活を思い描き退院できるようにー. 第 7 回神戸看護学会学術集会, オンデマンド開催, 2022.10.22-11.30
12. 駒井江里, 山下亜沙子: 交流集会 周産期メンタルヘルスケアー連携と協働ー. 第 7 回神戸看護学会学術集会, オンデマンド開催, 2022.10.22-11.30
13. 津川 紀, 林 千冬: 中堅看護師が組織的役割を通して自己の成長を感じた経験. 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 広島, ハイブリッド開催, 2022.12.4
14. 正井志穂, 長尾幸恵, 中村真理, 長尾綾子, 安藤俊弘: A 病院緩和ケアチーム介入内容の現状と変化. 第 37 回日本がん看護学会総会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.26

VIII. 3. 26 薬剤部

1. 油屋 恵, 島村康弘, 中浴伸二, 井谷智尚, 京極高久: アナモレリン投与終了後も食欲を維持し化学療法を完遂できた 1 例. 第 37 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 (JSPEN2022), 横浜, ハイブリッド開催, 2022.5.31-6.1
2. 森 良江, 前万紀子, 堀 勇太, 磯部佳歩, 中浴伸二, 森本茂文: フォーミュラリ浸透のための段階的アプローチ. 第 32 回日本医療薬学会年会, 高崎, 2022.9.23
3. 森本茂文: 最近の病院薬剤部の職能～見える化を意識して. 兵庫県病院薬剤師会西播支部学術講演会, WEB 開催, 2022.10.26
4. 森 良江, 前万紀子, 磯部佳歩, 奥野昌宏, 森本茂文: 病棟薬剤師による処方提案での院内フォーミュラリの活用. 第 1 回日本フォーミュラリ学会学術総会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.30
5. 前万紀子, 森 良江, 森本茂文: 薬剤師レジデントを中心としたフォーミュラリ作成のプロセス. 第 1 回日本フォーミュラリ学会学術総会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.30
6. 中西真也: 癌種別講義①頭頸部がん・食道がん. 令和 4 年度第 3 回薬剤師連携推進研修会, WEB 開催, 2023.2.12
7. 磯部佳歩, 西村 亮, 山内章嗣, 原田卓弥, 山崎彬史, 中西真也, 奥野昌宏, 森本茂文: 院外処方箋疑義照会等簡素化プロトコール導入による疑義照会に係る業務負担の軽減効果. 第 12 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 吹田, 2023.3.5

VIII. 3. 27 臨床検査技術部

1. 池町真実, 宮川一也: RNA シークエンス解析を用いた COVID-19 重症化に関する分子生物学的経路の探索. 第 96 回日本感染症学会総会・学術講演会, web 開催, 2022.4.22-23
2. Ikemachi M, Miyagawa K: RNA Sequencing Analysis Reveals a Novel Pathway Associated with COVID-19 Deterioration. 32nd European Congress of Clinical Microbiology and Infectious Diseases, Lisbon, Portugal, Hybrid, 2022.4.23-26
3. 登尾 薫, 濱野 葵, 岸田あおい, 真鍋美香, 朽尾人司, 林 幹人, 井谷智尚, 塩田哲也, 勝瀨浩紀, 石原美佐: 超音波検査が有用であった原発性小腸癌の 2 例. 第 95 回日本超音波医学会学術集会, 名古屋, ハイブリッド開催, 2022.5.20
4. 登尾 薫: 胎児心臓スクリーニング. 第 16 回近畿胎児心臓病研究会, web 開催, 2022.6.5
5. 二村絢子, 池町真実, 大戸美穂, 池成拓哉, 竹川啓史, 山本 剛: COVID-19 流行前後における *Streptococcus pyogenes* の検出状況. 第 61 回日臨技近畿支部医学検査学会, 第 41 回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.12.4
6. 登尾 薫, 山口善道, 岸田あおい, 戸田進也, 真鍋美香, 朽尾人司, 仲田文雄, 和田尚一郎, 飯尾享平, 松原康策: 超音波検査技師から POCUS を行う医療従事者へ伝えたいこと～小児領域の超音波検査の Tips ～. 第 14 回日本ポイントオブケア超音波学会学術集会, WEB 開催, 2023.1.7
7. 池成拓哉, 池町真実, 大戸美穂, 二村絢子, 竹川啓史, 山本 剛: 血液培養から *Kingella kingae* が分離された成人菌血症の 1 症例. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.3
8. 山本 剛, 福元達也, 池町真実, 岩崎澄央, 北川真喜, 小池祐史, 佐々木雅一, 鈴木まりな, 永田邦昭, 中西幸音, 星 紫織, 楨村浩一, 松尾裕央, 武藤沙起里, 鷺尾洋平: 微生物検査の写真を上手に撮影するコツ教えます. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.3-5
9. 山本 剛, 大瀧博文, 大沼健一郎, 河合示枝古, 北川大輔, 松尾裕央: 地区別対抗クイズ 微生物・感染症学王はこの地区だ. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.3
10. 池町真実, 山本 剛: グラム染色はいつ染めるか?～グラム染色のタイミングと医師が求めることを紐解く～. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.4
11. 大戸美穂, 池町真実, 池成拓哉, 二村絢子, 竹川啓史, 山本 剛: 全自動血液培養装置 VIRTUO 導入による time to detection (TTD) 短縮効果の検討. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.5
12. 山本 剛, 池町真実: 非結核性抗酸菌検査におけるモヤモヤを解決! 曖昧さを明らかにしよう 前処理はいつも必要か? 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.5
13. 池町真実: PCR 法を用いた MRSA 菌血症の迅速診断と抗菌薬適正使用への効果. 第 9 回 GC 研究会, web 開催, 2023.3.11

VIII. 3. 28 放射線技術部

1. 伊藤崇晃, 田村 命, 門前 一, 吉田一貴, 岩佐順平, 宮本里奈, 合田靖司, 浜田 誠: FFF を用いた単一アイソセントラ多発脳転移定位放射線治療における軸外距離が治療計画に与える影響. 第 124 回日本医学物理学会学術集会, 長崎, ハイブリッド開催, 2022.9.16
2. 竹本幸志, 高須賀健, 吉田拓也, 宇草賢二, 小川敦久, 奥内 昇, 浜田 誠, 福井達也: レジデントに対する診療放射線技師教育の実施報告. 第 38 回日本診療放射線技師学術大会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.9.16
3. 藤本孝弘, 山之内真也, 三船祐輔: 新興感染症対策を考慮した救急外来 CT 室増設の設計と運用. 第 38 回日本診療放射線技師学術大会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.9.17
4. 藤本孝弘: MRI のコントラスト～緩和・シーケンス・パラメータを考える～. 第 38 回日本診療放射線技師学術大会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.9.18
5. 森 克人, 村上智裕, 布垣和也, 浜田 誠: 新血管造影装置導入における最適な透視及び撮影条件の検討. 第 66 回近畿支部学術大会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.11.19
6. Ito T, Tamura M, Kubo K, Yanagi Y, Sakai Y, Monzen H: Impact of Off-set Distance on Treatment Planning of Single-isocentric SRS for Multiple Brain Metastases with FFF Beam. 22nd Asia-Oceania Congress on Medical Physics (AOCMP2022), Taipei, Taiwan, 2022.12.11
7. 伊田雄貴: 当院の新ガンマカメラ装置について. 令和 4 年度神戸市技師会研究発表会, WEB 開催, 2023.2.24-3.3

8. 村上智裕, 森 克人, 中島正量, 布垣和也: 装置更新に伴う最適な透視および撮影条件の検討と放射線皮膚障害防止への取り組み. 令和4年度神戸市技師会研究発表会, WEB 開催, 2023.2.24-3.3
9. 岩佐順平, 吉田一貴, 伊藤崇晃, 神尾里奈, 矢田真梨奈, 富田恵美: Deep Learning Reconstruction による放射線治療計画への影響の有無. 第36回高精度放射線外部照射部会学術大会, 第7回高橋信次記念シンポジウム, 柏, ハイブリッド開催, 2023.3.4

VIII. 3. 29 リハビリテーション技術部

1. 井上慎一: 脳腫瘍患者への上肢アプローチ～頭頂葉障害症状における上肢スキーマを向上させるための一工夫～. 第34回活動分析研究大会, Zoom 開催, 2022.5.22
2. 井上慎一, 内田智子, 西尾優也, 廣野茉衣, 西原賢在: エネルギー節約手技に基づき作業療法を行った肺腺癌の一事例. 第7回日本がんサポーターブケア学会学術集会, 下関, ハイブリッド開催, 2022.6.18
3. 中野 元, 垣内優芳, 小野くみ子, 中田庸介: 維持血液透析患者へのレジスタンストレーニングによる Phase Angle の改善効果: 症例報告. 第8回日本糖尿病理学療法学会学術大会, WEB 開催, 2022.9.3
4. 井上慎一, 内田智子, 笥 哲也, 西原賢在: 家事と仕事復帰時期の調整を行った, 膀胱がん周術期の一症例. 第56回日本作業療法学会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.9.16
5. 西尾優也, 井上慎一, 内田智子: コントロール感に着目して介入した進行がんの一症例. 第56回日本作業療法学会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.9.16
6. 田口真衣, 山口卓巳, 井上慎一, 小林正樹, 内田智子: 在宅酸素療法導入後, 復職を目指した症例～在宅酸素療法使用者の復職と現状～. 第56回日本作業療法学会, 京都, ハイブリッド開催, 2022.9.17
7. 垣内優芳, 中村公治郎, 海老名葵, 笥 哲也, 畑 俊行: 入院前リスク評価に基づいて, 肝胆膵悪性疾患患者の周術期を多職種で支える取り組み. 第60回日本癌治療学会学術集会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.10.22
8. 白井裕美子, 吉田春の: 急性散在性脳脊髄炎により高次脳機能障害を呈した1症例. 第4回神戸ブチ学術大会, 神戸, ハイブリッド開催, 2023.3.21

VIII. 3. 30 臨床工学室

1. 田中雄己, 畑 秀治, 石松一真, 廣瀬 稔: 医療従事者の生体情報モニタアラーム設定への認識に関する調査研究. 第17回医療の質・安全学会学術集会, 神戸, 2022.11.27

VIII. 3. 31 感染防止対策室

1. 池町真実, 宮川一也: RNA シークエンス解析を用いた COVID-19 重症化に関する分子生物学的経路の探索. 第96回日本感染症学会総会・学術講演会, web 開催, 2022.4.22-23
2. 宮川一也: ウェアラブルデバイスを用いた深部体温、経皮的酸素飽和度測定による新型コロナウイルス感染症の重症化予測. 第96回日本感染症学会総会・学術講演会, web 開催, 2022.4.22-23
3. Ikemachi M, Miyagawa K: RNA Sequencing Analysis Reveals a Novel Pathway Associated with COVID-19 Deterioration. 32nd European Congress of Clinical Microbiology and Infectious Diseases, Lisbon, Portugal, Hybrid, 2022.4.23-26
4. Miyagawa K, Matsumoto S, Sasaki M, Osaki T, Furukubo M, Tsuchimoto H, Suzuki K: Measurement of core body temperature and blood oxygen saturation using wearable sensors predicts the deterioration of COVID-19. 32nd European Congress of Clinical Microbiology and Infectious Diseases (ECCMID2022), Lisbon, Portugal, Hybrid, 2022.4.23-26
5. 新井まゆ子: 深めよう SSI サーベイランス. 第10回日本感染管理ネットワーク学術集会, 奈良, ハイブリッド開催, 2022.5.21
6. 新井まゆ子: 在宅における感染対策～COVID-19をふまえて. 第9回CNS看護学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.7.9
7. Miyagawa K, Matsumoto S, Sasaki M, Osaki T, Furukubo M, Tsuchimoto H, Suzuki K: Machine Learning-Based Prediction Model of COVID-19 Deterioration Using Wearable Core Temperature and Oxygen Saturation Sensor Data. American Heart Association Scientific Session 2022 (AHA2022), Chicago, USA, 2022.11.5-7

8. 二村 絢子, 池町 真実, 大戸 美穂, 池成 拓哉, 竹川 啓史, 山本 剛: COVID-19 流行前後における *Streptococcus pyogenes* の検出状況. 第 61 回日臨技近畿支部医学検査学会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.12.4
9. 池成 拓哉, 池町 真実, 大戸 美穂, 二村 絢子, 竹川 啓史, 山本 剛: 血液培養から *Kingella kingae* が分離された成人菌血症の 1 症例. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.3
10. 山本 剛, 福元 達也, 池町 真実, 岩崎 澄央, 北川 真喜, 小池 祐史, 佐々木 雅一, 鈴木 まりな, 永田 邦昭, 中西 幸音, 星 紫織, 槇村 浩一, 松尾 裕央, 武藤 沙起里, 鷺尾 洋平: 微生物検査の写真を上手に撮影するコツ教えます. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.3-5
11. 池町 真実, 山本 剛: グラム染色はいつ染めるか? ~ グラム染色のタイミングと医師が求めることを紐解く ~. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.4
12. 大戸 美穂, 池町 真実, 池成 拓哉, 二村 絢子, 竹川 啓史, 山本 剛: 全自動血液培養装置 VIRTUO 導入による time to detection (TTD) 短縮効果の検討. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.5
13. 山本 剛, 池町 真実: 非結核性抗酸菌検査におけるモヤモヤを解決! 曖昧さを明らかにしよう 前処理はいつも必要か? 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 横浜, ハイブリッド開催, 2023.2.5
14. 和田 尚一郎, 平海 良美, 砂川 智紀, 飯尾 享平, 金 伽耶, 内藤 昭嘉, 川崎 悠, 磯目 賢一, 堀 雅之, 岩田 あや, 山口 善道, 松原 康策: 当院で経験した Multisystem Inflammatory Syndrome in Children (MIS-C) の 3 例. 第 47 回近畿川崎病研究会, WEB 開催, 2023.3.4
15. 飯尾 享平, 磯目 賢一, 内藤 昭嘉, 川崎 悠, 堀 雅之, 岩田 あや, 山口 善道, 平海 良美, 松原 康策: 初診時には認めなかった多発肝膿瘍が診断契機となった猫ひっかき病の一例. 第 36 回近畿小児科学会, 大阪, 2023.3.5

VIII. 3. 32 医事課

1. 山口 健司, 中島 健, 西井 皓一: 経営企画部門の構築とその役割について. 第 48 回日本診療情報管理学会学術大会, WEB 開催, 2022.10.14-11.13

VIII. 4 神戸アイセンター病院

VIII. 4.1 診療部

1. 宇山紘史：MHC 適合 / 非適合における iPS 細胞由来網膜移植の免疫特性と機能解析. 第 25 回眼科分子生物学研究会, 横浜, ハイブリッド開催, 2022.4.10
2. 林田真由香, 松崎光博, 万代道子, 酒井大輝, 山本庄吾, 北畑将平, 前田忠郎, 平見恭彦, 戸谷皇太, 杉山聡, 山成正宏, 栗本康夫：偏光感受型光干渉断層計による Pachychoroid neovascularopathy の観察 polarization-sensitive OCT imaging of pachychoroid neovascularopathy. 第 126 回日本眼科学会総会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.4.14
3. 栗本康夫, 平見恭彦, 横田 聡, 宇山紘史, 藤原雅史, 山本 翠, 前田忠郎, 前田亜希子, 杉田 直, 万代道子, 高橋政代：網膜色素変性に対する iPS 細胞由来神経網膜シートの網膜下移植手術 iPS cell-derived neural retinal sheet transplantation for retinitis pigmentosa. 第 126 回日本眼科学会総会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.4.15
4. 梶田敬介, 西田光宏, 田中佑治, 田中 陽, 天谷 諭, 田中信之, 宇山紘史, 横田 聡, 三浦央子, 栗本康夫, 高橋政代, 万代道子：ヒト iPS 細胞由来 RPE 細胞紐状凝集塊移植の試み Trial of transplantation of human iPS cell-derived RPE strips. 第 126 回日本眼科学会総会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.4.15
5. 北畑将平, 横田 聡, 前田忠郎, 前田亜希子, 平見恭彦, 栗本康夫, 門之園一明, 高橋政代：USH2A 遺伝子変異関連の網膜色素変性症における変異型の影響 Effect of variant type on USH2A mutation-related retinitis pigmentosa. 第 126 回日本眼科学会総会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.4.15
6. 杉田 直, 西田明弘, 高橋政代, 栗本康夫, 白井嘉彦, 渡邊日出海, 北市伸義：サイトメガロウイルス網膜炎様壊死性網膜炎を伴うアデノウイルス関連ぶどう膜炎の 1 例 A case of human adenovirus-associated uveitis like a CMV retinitis. 第 126 回日本眼科学会総会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.4.15
7. 万代道子, 山崎 優, Tu HY, 松山 武, 堀内茉莉, 橋口朋代, 庄 隼生, 桑原 篤, 岸野晶祥, 木村 徹, 高橋政代：遺伝子改変による双極細胞欠損型次世代型ヒト ES 細胞由来網膜組織の移植後解析 Analysis of genetically modified hES cell-derived retina after transplantation. 第 126 回日本眼科学会総会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.4.15
8. 平見恭彦：深い網膜裂孔について. 第 57 回 RETINA の会, WEB 開催, 2022.4.16
9. 平見恭彦, 杉田 直, 万代道子, 高木誠二, 前田忠郎, 松崎光博, 藤原雅史, 坂口裕和, 原千佳子, 丸山和一, 西田幸二, 栗本康夫, 高橋政代：加齢黄斑変性に対する HLA 適合同種 iPS 細胞由来網膜色素上皮移植の 4 年経過 4-year follow up of allogenic iPSC-derived RPE cell transplantation for AMD. 第 126 回日本眼科学会総会, 大阪, ハイブリッド開催, 2022.4.17
10. Hirami Y：Regenerative surgery for retina. FUJIRETINA, Tokyo, ハイブリッド開催, 2022.4.24
11. 高橋政代：研究と企業との関わりを考える. JRVS 主催 Leadership Development Program (LDP), 東京, 2022.4.30
12. Takahashi M：Retinal Degeneration. Stem Cells and Their Promise for Regenerative Medicine, WEB 開催, 2022.5.5
13. Mandai M：Retinal regeneration therapy using retinal organoids. A*STAR Advances in Cell and Gene Therapy (A*CGT) Symposium, Singapore, ハイブリッド開催, 2022.5.11
14. 前田忠郎, 前田亜希子, 平見恭彦, 横田 聡, 山本 翠, 仲泊 聡, 万代道子, 栗本康夫, 高橋政代：網膜変性に対する新しい治療に向けた網膜外層及び内層の残存機能評価の試み. 第 23 回日本ロービジョン学会学術総会, 鹿児島, 2022.5.20
15. 田保和也, 黄 丹, 間宮紀子, 山本 翠, 横田 聡, 仲泊 聡, 平見恭彦, 栗本康夫：ロービジョン外来受診後のフォローの必要性に関する研究. 第 23 回日本ロービジョン学会学術総会, 鹿児島, 2022.5.21
16. 高橋政代：治らない病気の治療を作る～再生医療. 眼科 ONLINE SESSION FOR NEXT GENERATION 2022, WEB 開催, 2022.5.21
17. 平見恭彦：網膜再生医療の今. 徳島県網膜色素変性協会 (JRPS 徳島) 2022 年度第 18 回定期総会並びに医療講演会, 徳島, 2022.5.22
18. 高橋政代：再生医療とサステナブルメディスン. 第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.5.26
19. 栗本康夫：原発閉塞隅角病の治療戦略 update ～ガイドライン改定を受けて～. 第 21 回奈良県眼科万葉フォーラム, 橿原, ハイブリッド開催, 2022.5.28

20. 平見恭彦：網膜再生医療の今. 網膜色素変性症・医療講演会 この目に確かな治療法を！ 網膜色素変性症の最先端研究（大阪府網膜色素変性協会・JRPS 大阪），大阪，2022.6.5
21. 平野真由香：黄斑外来報告. 第 11 回神戸アイセンター病院眼科臨床懇話会，WEB 開催，2022.6.9
22. 平見恭彦：加齢黄斑変性に対する iPS 細胞由来 RPE 移植. 第 11 回神戸アイセンター病院眼科臨床懇話会，WEB 開催，2022.6.9
23. 平見恭彦：加齢黄斑変性に対する iPS 細胞由来 RPE 細胞移植. アイリーア発売 10 周年記念講演会 in 兵庫，WEB 開催，2022.6.15
24. 細目一貴，松崎光博，鷲尾隆太，友成早紀，丸尾 雅，楠木重範，栗本康夫：小児科での Spot Vision Screener を用いた視覚スクリーニングと眼科での屈折検査の比較. 第 78 回日本弱視斜視学会総会，宇都宮，2022.6.17
25. 前田亜希子：網膜変性疾患における個別化医療の現状と近未来. 『網膜色素変性症』医療講演・相談会・交流会，京都，2022.6.19
26. 友成早紀，酒井大輝，岩井裕香子，平見恭彦，栗本康夫：術中波面収差解析装置（ORATMsystem）による白内障術後乱視予測精度の検討. 第 37 回 JSCRS 学術総会，京都，2022.6.24
27. 栗本康夫：原発閉塞隅角病の治療戦略 update ～ガイドライン改定を受けて～. 第 192 回大分眼科集談会，大分，2022.6.25
28. 平見恭彦：網膜再生医療の今. 兵庫県網膜色素変性症協会 第 19 回定期総会、ミニコンサート・医療講演会，神戸，2022.6.26
29. 平見恭彦：神戸アイセンターでの再生医療開発. 第 25 回 OPEN INNOVATION café，神戸，ハイブリッド開催，2022.6.29
30. 万代道子：ES/iPS 細胞由来網膜組織 / 細胞を用いた網膜再生医療. 都医学研セミナー，神戸，ハイブリッド開催，2022.6.29
31. 万代道子：iPS 網膜を用いた網膜神経節細胞の治療研究. 都医学研プロジェクトセミナー，WEB 開催，2022.6.29
32. 渡部りさ子，堤 亮太，松本佳保里，福岡秀記，伊藤晋一郎，栗本康夫，外園千恵：診断に約 3 年間に要した本邦で発症した両眼のマイクロスポリディア角膜炎. 第 58 回日本眼感染症学会，広島，2022.7.9
33. 万代道子：Regenerative therapy using ESC/iPSC-derived retinas for retinal degeneration. 第 28 回日本遺伝子細胞治療学会学術集会，福岡，ハイブリッド開催，2022.7.14
34. 横田 聡：網膜色素変性症. 令和 4 年度西宮市難病事業 難病・小児慢性特定疾病の難病医療相談会①，西宮，2022.7.31
35. 栗本康夫：原発閉塞隅角緑内障の治療方針. 眼科臨床実践講座 2022，東京，2022.8.20
36. 前田亜希子：網膜再生医療の今とこれからー若い世代へのメッセージ. JRPS ユースの会，WEB 開催，2022.8.27
37. 高橋政代：再生医療のカテゴリズドメディスン. Japan Macula Club 第 22 回学術講演会，蒲郡，2022.8.28
38. Mandai M：iPS transplantation. The 22nd Euretina Congress, Hamburg, Germany, 2022.9.3
39. Takahashi M, Masuda T：Retinal cell therapy using iPS cells - Retinal organoid transplantation. EMBO-Japan Virtual Lecture Event, WEB 開催，2022.9.14
40. 吉水 聡：The risk assessment of acute primary angle closure in primary angle closure suspect PACS の APAC 発症リスク. 第 33 回日本緑内障学会，横浜，2022.9.16
41. 越智博隆，吉水 聡，宮崎稚子，松崎光博，山本庄吾，宇山紘史，横田 聡，藤原雅史，広瀬文隆，栗本康夫：Longitudinal changes in dark room prone position test in eyes with primary angle closure disease 原発閉塞隅角病に対する暗室うつむき負荷試験結果の経年推移の検討. 第 33 回日本緑内障学会，横浜，2022.9.16
42. 奥吉博之，柴谷直樹，平野達也，栗本康夫，室井延之：Development of eye drop support tool for confirmation of adherence and investigation of usability 継続した点眼アドヒアランス確認のための点眼支援ツールの開発ならびに使用感の調査. 第 33 回日本緑内障学会，横浜，2022.9.16
43. 宮崎稚子，藤原雅史，越智博隆，松崎光博，山本庄吾，吉水 聡，宇山紘史，横田 聡，広瀬文隆，栗本康夫：Clinical results of the microhook ab interno trabeculotomy for uveitic glaucoma ぶどう膜炎続発緑内障に対するマイクロフック線維柱帯切開術の術後成績とステロイドテノン嚢下注射の影響. 第 33 回日本緑内障学会，横浜，2022.9.17

44. 酒井大輝, 山本庄吾, 吉水 聡, 広瀬文隆, 藤原雅史, 栗本康夫: Ten-year outcomes of cataract surgery in patients with primary angle-closure disease 原発閉塞隅角病に対する水晶体再建術後 10 年の長期成績. 第 33 回日本緑内障学会, 横浜, 2022.9.17
45. 横田 聡, 越智博隆, 宮崎稚子, 松崎光博, 吉水 聡, 山本庄吾, 宇山紘史, 伊藤晋一郎, 藤原雅史, 平見恭彦, 栗本康夫: Does the site of filtration influence the outcomes of trabeculectomy? 線維柱帯切除術の強膜弁作成位置による手術成績の差はあるか. 第 33 回日本緑内障学会, 横浜, 2022.9.17
46. 高橋政代: 高度医療のオンライン診療, 第 33 回日本緑内障学会, 横浜, 2022.9.17
47. 横田 聡: ロービジョンケアの連携 (各論). 令和 4 年度視覚障害者用補装具適合判定医師研修会 (第 1 回), WEB 開催, 2022.9.23
48. 前田亜希子: 遺伝性網膜疾患における遺伝子診断の現状と展望. 第 24 回兵庫県眼科フォーラム, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.9.24
49. 山本庄吾: 初めての涙道内視鏡操作. 第 4 回兵庫県涙道液研究会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.10.1
50. Kurimoto Y: Regenerative medicine of the retina using iPS cells. 第 76 回日本臨床眼科学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.13
51. 栗本康夫: 原発閉塞隅角病の治療戦略—病態生理の理解から治療の Q & A まで—. 第 76 回日本臨床眼科学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.13
52. 吉水 聡: 原発閉塞隅角病の治療戦略—病態生理の理解から治療の Q & A まで—. 第 76 回日本臨床眼科学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.13
53. 杉田 直, 伊藤晋一郎, 栗本康夫: 難治性ぶどう膜炎・強膜炎のメトトレキサート 硝子体注射療法の評価. 第 76 回日本臨床眼科学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.14
54. 前田亜希子: 実臨床下での遺伝性網膜疾患における遺伝学的検査. 第 76 回日本臨床眼科学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.14
55. 平見恭彦, 万代道子, 横田 聡, 宇山紘史, 藤原雅史, 山本 翠, 杉田 直, 前田忠郎, 前田亜希子, 高橋政代, 栗本康夫: 網膜色素変性に対する同種 iPS 細胞由来神経網膜シート移植の 1 年経過. 第 76 回日本臨床眼科学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.15
56. 伊藤晋一郎, 杉田 直, 中村隆宏, 外園千恵, 栗本康夫: DSAEK 眼における非典型的なサイトメガロウイルス前部ぶどう膜炎の 2 例. 第 76 回日本臨床眼科学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.16
57. 近藤寛之, 近藤峰生, 林 孝彰, 高橋政代, 堀田喜裕: 網膜硝子体ジストロフィ診療カンファレンス 2022 ~ 初級者にマスターしてほしい 10 の症例. 第 76 回日本臨床眼科学会, 東京, ハイブリッド開催, 2022.10.16
58. 松崎光博: 神経眼科疾患の最近の話題 - 神経眼科外来報告 -. 第 12 回神戸アイセンター病院眼科臨床懇話会, WEB 開催, 2022.10.20
59. 万代道子: iPS 細胞由来網膜組織を用いた視機能再建. 第 42 回日本眼薬理学会, 奈良, 2022.10.29
60. 吉田晶子, 前田亜希子: 遺伝性網膜疾患の遺伝カウンセリング. 第 42 回日本眼薬理学会, 奈良, 2022.10.29
61. 藤原雅史: 緑内障手術の選択基準ロトミー or レクトミー? 第 19 回兵庫県眼科オープンカンファレンス, WEB 開催, 2022.10.29
62. 平見恭彦, 万代道子, 横田 聡, 宇山紘史, 藤原雅史, 山本 翠, 杉田 直, 前田忠郎, 前田忠郎, 井桁正亮, 大門貴志, 高橋政代, 栗本康夫: 網膜色素変性に対する同種 iPS 細胞由来神経網膜シート移植の 1 年経過. 第 4 回兵庫県眼科医会・2 大学合同オープンカンファレンス, 神戸, 2022.11.5
63. Mandai M: Clinical application of iPS cell derived retinas for retinitis pigmentosa. Joint scientific seminar 2022 "Vision restoration: emerging therapeutic approaches", 神戸, 2022.11.7
64. Sakai D: Genotype and phenotype characteristics of RHO-associated retinitis pigmentosa in the Japanese population. Joint scientific seminar 2022 "Vision restoration: emerging therapeutic approaches", 神戸, 2022.11.7
65. Miyazaki W: Clinical results of the microhook ab interno trabeculotomy for uveitic glaucoma with or without oral prednisolone. Joint scientific seminar 2022 "Vision restoration: emerging therapeutic approaches", 神戸, 2022.11.7
66. Ochi H: Spatial correspondence between visual field defect and retrobulbar optic nerve lesions in initial optic neuritis patients with a horizontal hemifield defect. Joint scientific seminar 2022 "Vision restoration: emerging therapeutic approaches", 神戸, 2022.11.7

67. Yamamoto M : Detailed evaluation of chromatic pupillometry and full-field stimulus testing to assess ultra-low vision function in retinitis pigmentosa. Joint scientific seminar 2022 "Vision restoration: emerging therapeutic approaches", 神戸, 2022.11.7
68. Yokota S : Visual acuity affects the Performance of blind tennis. Joint scientific seminar 2022 "Vision restoration: emerging therapeutic approaches", 神戸, 2022.11.7
69. Mandai M : Clinical application of iPS cell derived retinas for retinitis pigmentosa. Third French-Japanese Conference "Innovation in Ophthalmology", 東京, 2022.11.9
70. Takahashi M : Sustainable Regenerative Medicine. Third French-Japanese Conference "Innovation in Ophthalmology", 東京, 2022.11.9
71. 越智博隆, 栗本拓治, 山上朋子, 三木淳司, 河合愛実, 松崎光博, 植木智司, 木村亜紀子, 前久保和行, 中馬秀樹, 中村 誠 : 水平経線を保つ視野欠損を呈する視神経炎における病変の局在と視野との関連. 第 60 回日本神経眼科学会総会, 倉敷, ハイブリッド開催, 2022.11.12
72. 伊藤晋一郎 : 膠原病関連の眼疾患について. 膠原病領域 眼疾患医療連携懇話会, 神戸, ハイブリッド開催, 2022.11.17
73. Kurimoto Y : Stem Cell-Derived Retinal Cell Transplantation The 15th Asia-Pacific Vitreo-retina Society (APVRS), Taipei, Hybrid, 2022.11.18
74. Sakai D, Yokota S, Hirami Y, Takahashi M, Kurimoto Y, Maeda A : Genotype and Phenotype Characteristics of Rhodopsin-associated Retinitis Pigmentosa in the Japanese Population. The 15th Asia-Pacific Vitreo-retina Society (APVRS), Taipei, Hybrid, 2022.11.18
75. 万代道子 : iPS 細胞由来網膜組織を用いた視機能再建. 第 67 回 岡山大学同門会, WEB 開催, 2022.11.19
76. 万代道子 : 視機能再建への挑戦. 第 73 回京大眼科同窓会学会, WEB 開催, 2022.11.20
77. 宮崎稚子, 藤原雅史, 山本庄吾, 越智博隆, 松崎光博, 山本庄吾, 吉水 聡, 横田 聡, 宇山紘史, 広瀬文隆, 栗本康夫 : ぶどう膜炎続発緑内障に対するマイクロフック線維柱帯切開術の術後成績と術後のプレドニゾン錠内服の影響. 第 73 回京大眼科同窓会学会, WEB 開催, 2022.11.20
78. 藤原雅史 : 緑内障治療継続へのアプローチ 勤務医の立場から. 第 38 回 視機能看護学会ランチョンセミナー 人生 100 年時代における緑内障治療継続に向けたアプローチ, WEB 開催, 2022.11.26
79. 高橋政代 : 持続可能な網膜再生医療. 第 95 回香川大学眼科研究会, 高松, ハイブリッド開催, 2022.11.26
80. Sakai D, Matsuzaki M, Yokota S, Hirami Y, Takahashi M, Kurimoto Y, Maeda A : Genotype-phenotype characteristics of Japanese RHO-associated retinitis pigmentosa. 第 61 回日本網膜硝子体学会総会, 大阪, 2022.12.2
81. 栗本康夫 : iPS 細胞が切り拓く眼の再生医療. 神戸アイセンター開設 5 周年記念講演会, 神戸, 2022.12.4
82. 高橋政代 : アイセンター構想/今後の展開. 神戸アイセンター開設 5 周年記念講演会, 神戸, 2022.12.4
83. 藤原雅史 : 点眼加療の次のステップとしての線維柱帯切開術眼内法の可能性と注意点. アイラミド発売 2 周年 WEB セミナー in 兵庫, WEB 開催, 2022.12.10
84. 横田 聡 : ロービジョンケア～難治性疾患だからこそ～. NMOSD Seminar in Fukuoka, WEB 開催, 2022.12.19
85. 山本庄吾 : 当院における涙道治療 . BAYSIDE EYE SEMINAR, WEB 開催, 2022.12.22
86. 平野真由香 : 黄斑疾患に対する抗 VEGF 薬加療. BAYSIDE EYE SEMINAR, WEB 開催, 2022.12.22
87. 宮崎稚子 : 緑内障 関連. Kobe Ophthalmic Resident Salon16, WEB 開催, 2023.1.13
88. 横田 聡 : ロービジョンケアの連携 (各論). 令和 4 年度視覚障害者用補装具適合判定医師研修会 (第 2 回), WEB 開催, 2023.1.21
89. 藤原雅史 : 隅角癒着解離術. 第 46 回日本眼科手術学会学術総会, 東京, 2023.1.27
90. 平見恭彦 : マスデータによる眼科手術解析の歴史. 第 46 回日本眼科手術学会学術総会, 東京, 2023.1.29
91. 万代道子 : iPS 細胞を用いた視機能再建. 第 452 回大阪眼科集談会, 大阪, 2023.2.4
92. 万代道子 : iPS 細胞由来網膜組織を使った網膜再生医療. 第 30 回兵庫県黄斑疾患研究会, 神戸, 2023.2.11
93. 伊藤晋一郎 : 流行性角結膜炎の臨床 Update と感染拡大予防. 令和 4 年度 第 2 回院内感染対策研修会, 神戸, 2023.2.15
94. Yokota S : Visual Acuity affects Performance of Blind Tennis. APAO2023 (The 38th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress), Kuala Lumpur, Malaysia, 2023.2.23

95. Yokota S, Fujihara M, Hiramami Y, Kurimoto Y, Yamamoto S, Yoshimizu S : Is There a Difference in Surgical Outcome Based on Location of Scleral Flap for Trabeculectomy? APAO2023 (The 38th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress), Kuala Lumpur, Malaysia, 2023.2.23
96. Kurimoto Y : Seven-Year Clinical Course of Autologous Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Retinal Pigment Epithelial Cell Sheet Transplantation for Age-Related Macular Degeneration. APAO2023 (The 38th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress), Kuala Lumpur, Malaysia, 2023.2.25
97. Sakai D, Fujihara M, Hirose F, Kurimoto Y, Yamamoto S, Yoshimizu S : Ten-Year Outcomes of Cataract Surgery for Glaucoma Management in Patients with Primary Angle-Closure Disease. APAO2023 (The 38th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress), Kuala Lumpur, Malaysia, 2023.2.25
98. Miyazaki W, Fujihara M, Kurimoto Y, Yokota S, Yoshimizu S : Clinical Results of the Microhook Ab Interno Trabeculectomy for Uveitic Glaucoma With or Without Oral Prednisolone. APAO2023 (The 38th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress), Kuala Lumpur, Malaysia, 2023.2.25
99. Ochi H, Fujihara M, Hirose F, Kurimoto Y, Yoshimizu S : Longitudinal Changes in Dark Room Prone Position Test in Eyes with Primary Angle Closure Disease. APAO2023 (The 38th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress), Kuala Lumpur, Malaysia, 2023.2.25
100. Kurimoto Y : Retinal Regenerative Medicine Using iPS Cell. APAO2023 (The 38th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress), Kuala Lumpur, Malaysia, 2023.2.26
101. 平見恭彦 : 眼の病気の患者さんの見え方について. システム視覚科学研究センターシンポジウム・視野欠損の実際, 草津, ハイブリッド開催, 2023.2.27
102. 宮崎稚子, 藤原雅史, 越智博隆, 松崎光博, 山本庄吾, 吉水 聡, 横田 聡, 宇山紘史, 広瀬文隆, 栗本康夫 : ぶどう膜炎続発緑内障に対するマイクロフック線維柱帯切開術の術後成績と術後のプレドニゾロン錠内服の効果. 第41回神戸市立医療センター中央市民病院眼科・神戸アイセンター病院オープンカンファレンス, 神戸, 2023.3.11
103. 横田 聡, 宮崎稚子, 寒 重之, 仲泊 聡, 高橋政代, 栗本康夫 : 遺伝性網膜ジストロフィ患者の視野とドライビングシミュレーターの事故場面. 第41回神戸市立医療センター中央市民病院眼科・神戸アイセンター病院オープンカンファレンス, 神戸, 2023.3.11
104. 松崎光博, 藤原 悟, 福光 龍, 坂谷朋子, 平野真由香, 横田 聡, 有吉孝一, 太田剛史, 川本未知, 栗本康夫 : 当院における急性期網膜中心動脈閉塞症に対する静注血栓溶解療法の取り組み. 第41回神戸市立医療センター中央市民病院眼科・神戸アイセンター病院オープンカンファレンス, 神戸, 2023.3.11
105. Maeda T, Maeda A, Yokota S, Hiramami Y, Takahashi M, Kurimoto Y : Assessment of visual function for retinal categorized medicine. ISCEV2023, Kyoto, 2023.3.15
106. Maeda A, Maeda T, Yokota S, Hirai Y, Takahashi M, Kurimoto Y : Electrically evoked phosphenes in a patient with EYS (p.Gly843Glu) -associated retinitis pigmentosa. ISCEV2023, Kyoto, 2023.3.16
107. Takahashi M : Retinal Cell Therapy - now and future. The 60th Annual Symposium of the International Society for Clinical Electrophysiology of Vision, Kyoto, 2023.3.16
108. 高橋政代 : 網膜疾患と再生医療. 日本眼科医会 90 周年記念事業「目の健康講座」, 神戸, 2023.3.19
109. 前田亜希子 : 網脈絡膜変性疾患における遺伝子カウンセリング. 第17回JRPS網脈絡膜変性フォーラム, 京都, 2023.3.19
110. 平見恭彦 : iPS 細胞由来網膜組織を用いた治療開発 Research and development for the treatment using induced pluripotent stem cell (iPSC) derived retinal organoid. 第22回日本再生医療学会総会, 京都, 2023.3.23
111. 杉田 直 : 網膜再生医療移植における免疫制御 Immune control in retinal regenerative medicine transplantation. 第22回日本再生医療学会総会, 京都, 2023.3.24
112. 栗本康夫 : 世界初の iPS 細胞治療・加齢黄斑変性に対する自家 iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞シート移植後 7 年の経過. 第22回日本再生医療学会総会, 京都, 2023.3.24
113. 岩間康哲 : ES/iPS 細胞由来網膜前駆細胞をラベルフリーソートして作成した移植用網膜組織の評価. 第22回日本再生医療学会総会, 京都, 2023.3.24
114. 寺田基剛 : 汎用ヒト型ロボット「まほろ」を用いた細胞加工における清浄度管理区域環境モニタリング. 第22回日本再生医療学会総会, 京都, 2023.3.25

115. Mandai M, Hirami Y, Sugita S, Maeda T, Maeda A, Yamamoto M, Uyama H, Yokota S, Igeta M, Daimon T, Fujita K, Takahashi M, Kurimoto Y: A safety study using induced pluripotent stem cell derived retinal organoid sheets for patients with end-stage retinitis pigmentosa. FUJIRETINA, Tokyo, 2023.3.25

VIII. 4.2 看護部

1. 山田深雪, 岡崎代司子, 山本若葉, 鈴木佳津子, 早川悦子: 眼科専門病院での病棟・外来・手術室ローテーション勤務における業務改善への取り組み. 第60回全国自治体病院学会, 那覇, 2022.11.11
2. 岡崎代司子, 増井淳子, 早川悦子: 眼科専門病院における点眼表作成の業務プロセス可視化とワークフローを活用したインシデントの分析. 第60回全国自治体病院学会, 那覇, 2022.11.11
3. 早川悦子, 鈴木佳津子, 小林純子, 山田千佳子: 患者サービス向上を目指した取り組み～入院患者満足度調査の分析～. 第60回全国自治体病院学会, 那覇, 2022.11.11
4. 岡崎代司子: 回復期病棟の看護師が急性期病棟での勤務経験を持つ中途採用者からうけた影響ーダイバーシティマネジメントの観点からー. 第26回日本看護管理学会学術集会, 福岡, ハイブリッド開催, 2022.8.19-20

VIII. 4.3 薬剤部

1. 柴谷直樹, 室井延之: 点眼薬アドヒアランス向上のための点眼支援ツールの開発. 第24回日本医療マネジメント学会学術総会, 神戸, 2022.7.8
2. 室井延之: 地域と病院をつなぐ薬物療法と薬剤師の役割～ロービジョン患者の服薬・点眼支援～. 第12回老年薬学アップデート, WEB開催, 2022.8.12
3. 柴谷直樹: 点眼薬アドヒアランス向上のための当院薬剤部での取り組み. 第33回日本緑内障学会, 横浜, 2022.9.16
4. 奥吉博之, 柴谷直樹, 平野達也, 栗本康夫, 室井延之: 継続した点眼アドヒアランス確認のための点眼支援ツールの開発ならびに使用感の調査. 第33回日本緑内障学会, 横浜, 2022.9.16
5. 柴谷直樹: 点眼治療における薬剤師連携と神戸アイセンター病院での新たな取り組み, ファーマシーセミナーアドバンス, WEB開催, 2022.12.8

編集後記

正月休みにのんびり編集後記を書こうと算段していたところ、2024年は元日早々、惨事が続き、昇龍の年どころか、波乱の幕開けとなりました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り致します。

2023年は新型コロナウイルス感染症の猛威で明けましたが、5月には5類に移行され、ゆるりとポストコロナに舵を切った1年かと思います。

一方、スポーツ面では野球がホットな話題を集め、WBC優勝に始まって阪神のAREからの日本一、大谷の超ド級の移籍がありました。サッカーではヴィッセルのJ1初制覇と神戸にとってはめでたい一年でした。

さて、令和5年度の第62巻神戸市立病院紀要は、アイセンターの栗本康夫院長による「原発閉塞隅角病」の総説、西市民杉原陽子看護師による「ケースレポートからみえるA病院の看護の特徴」の原著、中央市民腎臓内科高田風医師による「当院における終末期医療としての腹膜透析」の実践報告を掲載しており、新型コロナに関するものはなく、紀要の方もポストコロ

ナに舵を切った感がします。

栗本院長の総説は中途失明原因の第一位である緑内障について解説されたもので、失明を防ぐ上で医療者として認識しておくべきことを痛感した内容です。杉原看護師・高田医師の論文は高齢、認知症、終末期などの様々な理由から必ずしも教科書的な医療を行えない状況でも患者さんにとって最善の医療を施すにはいかに考えるべきかを教えてくれる内容です。

紀要に掲載される論文は必ずしも自分の専門分野と離れた内容となり、敬遠される方もいるかもしれません。しかし、自分の領域を離れたところからの視点は何かのヒントになってブレイクスルーに繋がる可能性もあり、是非、ご一読ください。

最後に今年度は投稿が少なかったのですが、次年度は医師をはじめ、多くの職種からの投稿をお待ちしております。

神戸市立医療センター中央市民病院
副院長兼呼吸器外科部長 高橋 豊

神戸市立病院紀要投稿規程

1. 神戸市立病院紀要は、地方独立行政法人神戸市民病院機構に勤務する医療従事者の研究論文等を掲載し、学会報告、その他の学術活動（前年度における業績）を広く記録し、年1回の発刊とする。
2. 投稿者は、地方独立行政法人神戸市民病院機構に勤務する医療従事者に限る（共著はさしつかえない）。編集委員会で依頼した原稿は、この限りでない。
3. 投稿論文等の内容は、他誌に未発表であり、現在投稿中ではないこと。
4. 原稿の採否は、編集委員会が決定する。また、原稿の体裁、長さ、文体などについて著者に変更を求めることがある。なお、掲載済の原稿は返却しない。
5. 原稿の種類および原稿枚数

- (1) 論文（総説）……………字数制限なし
 (原著)……………10000字以内
 (英文の場合は5000語以内)
 (症例報告)……………4000字以内
 (英文の場合は2000語以内)
 (医療研究報告)……………8000字以内
 (英文の場合は4000語以内)
 ※いずれも要旨を含み、図、表、文献は含まない。
- (2) 実践報告……………8000字以内
 (英文の場合は4000語以内)
 ※いずれも要旨を含み、図、表、文献は含まない。
- (3) 医学振興事業等研究費補助による業績報告
 ………………10000字以内
 (英文の場合は5000語以内)
- (4) 学会報告・論文発表（業績リスト）
 ………………診療科ごとに提出
- (5) C P C 報告……………1 症例 2600 字以内
 (所定の様式を使用)

6. 執筆要領は、次による。
 A. 論文（総説、原著、症例報告、医療研究報告）・実践報告
 (1) 執筆様式は次の通りとする。
 ※総説・原著・症例報告は下記①から⑥の順での執筆とする。
 医療研究報告は①②⑤⑥の順（③の英文表題、④の英文 Abstract は不要）での執筆とする。
 実践報告は医療研究報告に準じる。

①論文表題（和文）
 執筆者所属・氏名（和文）
 ②要 旨（400字以内）（和文）
 キーワード（5コ以内）
 ③論文表題（英文）文頭のみ大文字の表記とする。
 執筆者所属・氏名（英文）
 ※英文氏名は、名を先、姓を後（フルネーム）とする。
 ④ Abstract（200語以内）（英文）
 Key words（5コ以内）（小文字）（英文）
 ⑤本 論
 はじめに（見出し番号は付けない）
 …………… } 大見出し番号 I II III～を用いる。
 …………… } 中 " 1 2 3～ "
 …………… } 小 " (1)(2)(3)～ "
 おわりに（必ずしも必要ない。見出し番号は付けない）
 ⑥文 献

- (2) 原稿は、A 4判用紙に34字×25行で、上下左右に約3cmの余白をとり、12ポイント以上で印字すること。数字は半角文字を用いること。
 英文原稿も用紙はA 4判を用い、上下左右に約3cmの余白をとること。字の大きさは12ポイントを原則として、ふさわしいピッチで、行間はダブルスペースとすること。
 また、本文についてはプリントアウトしたものと同一原稿のデータを提出すること。データの形式は、本文はWordとする。
 原稿中所定の用紙のほか、タイプ用紙、方眼紙、図表は、すべてA 4判を使用し、写真は、手札型のものをA 4判用紙に添付する。
- (3) 英文抄録は、表題、著者名、所属及び本文で構成する。本文の行間はダブルスペースとする。

- (4) 表現法については、下記の点に留意する。
 - 1) 本文の中で文献を引用する際には、引用番号は本文の引用順とし、「三輪ら¹⁻³⁾」のように右肩に番号をふる。
 - 2) 略語はできるだけ使わない。止むを得ず使う時は、初出時に正式名を記した後に（ ）内に記入する。
- (5) 図、表については、下記の点に留意する。
 - 1) 図は説明文を別紙に書くこととする。
 - 2) 図、表は説明も含め、英語とするのが望ましい。ただし、図、表が日本語の場合は説明も日本語とする。
 - 3) 挿入箇所を本文の欄外に指定する。
 - 4) 写真は白黒を原則とする。カラー写真は、編集委員会の承認したものに限る。提出方法は、Excel、Word等のデータも提出すること。
 - 5) 電子顕微鏡写真にはスケールを入れる。
- (6) 専門用語以外は、当用漢字、新かなづかいを用い、横書とする。
- (7) 文献の記載方法は次の書式による（Index Medicus、医学中央雑誌に従う）。なお、文献数については、総説は上限なし、原著及び医療研究報告は概ね30、症例報告・実践報告は概ね15までとする。
 - 1) 雑誌の場合
 著者名：表題、雑誌名 巻：初頁－終頁、発行年
 - 2) 単行本の場合
 著者名：書名、版数、発行社名、発行地名、発行年
 - 3) 分担執筆による単行本の中の分担部分の引用の場合
 著者名：分担執筆部分の表題、書名、編集者名、版数、発行社名、発行地名、初頁－終頁、発行年
 - 4) 雑誌名は、その雑誌指定の略名がある場合はそれを用い、ない場合は Index Medicus あるいは「日本医学図書館協会編、日本医学雑誌名表」にあるものを用いること。
 - 5) 発行年は西暦を用いること。
 - 6) ページは通巻ページを用いること。
 - 7) 著者名は、3名までは全員を記載する。4名以上の場合は最初の3名を記載し、「他」あるいは外国語文献の場合は「et al」を付する。
 - 8) 実例
 - 1) Beltramin AU, Hertzig ME : Sleep and bed-time behavior in preschool-aged children. Pediatrics 71 : 153-158, 1983
 - 2) 鈴木義之：細胞生物学からみた遺伝性酵素欠損症の病態. 日児誌 88 : 405-408, 1984
 - 3) Cohen MM : The child with multiple birth defects. Raven press, New York, 1982
 - 4) 松永 英：日本における遺伝性疾患の頻度. 遺伝相談, 日暮 眞 編, 小児科 Mook32, 金原出版, 東京, 1-11, 1984
 - 5) Dorken B, Moller P, Pezzuto A, et al : CDw75. Lymphocyte typing IV:white cell differentiation antigens. In: Knapp W, Dorken B, Gilks WR, et al. eds, Oxford University Press, New York, 109-110, 1989
- (8) 執筆者は、原稿を各施設の庶務（総務）係へ提出すること
- B. 医学振興事業等研究費補助による業績報告
 - (1) 執筆要領は、論文（6. A参照）の執筆要領に準ずる。
 - (2) 別冊は作成しない。
- C. 学会報告・論文発表（業績リスト）
 - (1) 以下の必要記入事項があれば提出様式は自由であるが、Word形式で提出すること。診療科ごとに提出する。
 ≪論文発表≫
 - ①雑誌の場合
 著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：表題、雑誌名巻：初頁－終頁、発行年、DOI（web発表の場合）
 - ②単行本（分担執筆）の場合
 著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：分担執筆部分の表題、書名、編集者名、版数、発行社名、発行地名、初頁－終頁、発行年、DOI（web発表の場合）

神戸市立病院紀要投稿規程

③単行本（単独での執筆）の場合

著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：書名、版数、発行社名、発行地名、発行年、DOI（web 発表の場合）

《学会報告》

発表者全員（筆頭演者から順番に記載）：表題、学会名、開催場所、発表年月日（※西暦で日にちまで記載）、DOI（web 発表の場合）

- (2) 学会報告等で発表した学会での研究発表、症例報告、講演などは漏れなく投稿する。
- D. CPC 報告
- (1) 必ず所定の様式を使用する。
（所定の様式は各施設の庶務（総務係）へ請求する）
- (2) 図表を含めて 2600 字以内、原本とデータを提出する。
- E. その他
- (1) 初校は、著者校正とする。
- (2) 別冊は、20 部まで無料とする。これを超える場合とカラー図版の実費は原則として著者が負担するものとする。
- (3) 本誌に掲載された論文などの著作権は地方独立行政法人 神戸市民病院機構に属する。

附則

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

神戸市立病院紀要編集委員

中央市民病院	副院長	高橋 豊 (委員長)
	副院長	石川 隆之 (血液内科)
	第2診療部長	篠原 尚吾 (頭頸部外科)
	循環器内科部長	古川 裕
西市民病院	副院長	富岡 洋海 (呼吸器内科)
	消化器外科医長	中嶋 早苗
西神戸医療センター	小児科部長	松原 康策
	皮膚科部長代行	鷺尾 健
神戸アイセンター病院	副院長	平見 恭彦
神戸市看護大学	療養生活看護学領域 小児看護学分野教授	二宮 啓子

(令和5年12月現在)

神戸市立病院紀要 第62巻

令和6年3月8日発行

編 集 神戸市立病院紀要編集委員会

発 行 神戸市中央区港島南町2丁目2番地

神戸市立医療センター中央市民病院南館3階

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印 刷 地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印刷所 イワサキ出版印刷有限公司

